都市計画道路博多駅築港線関係

埋蔵文化財調査報告Ⅴ

博　多

福岡市埋蔵文化財調査報告書第221集

1990

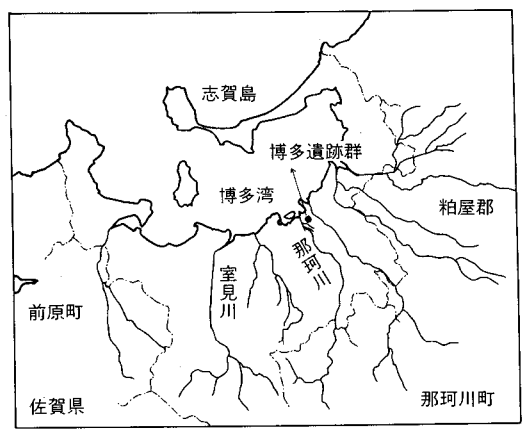
福岡市教育委員会

都市計画道路博多駅築港線関係

埋蔵文化財調査報告Ⅴ

博　多

福岡市埋蔵文化財調査報告書第221集



調査番号 8653

遺跡略号 HKT-R-5

1990

福岡市教育委員会

序

昭和57年度から実施してきました博多駅築港線の埋蔵文化財の調査は61年度で終了しました。道路整備も昨年度で整備を終え、その一環として博多駅からサンパレスまでの歩道を活用し、「歴史の散歩道」の整備が行なわれ、博多遺跡群や鴻臚館から出土した輸入陶磁器をレプリカや写真を用いて、古代～中世の博多の歴史を知ることができます。

博多は古代から中世にかけての対外貿易の一大拠点として栄え、世界に開かれた国際都市であり、特異な発展をとげてきました。このことは博多遺跡から出土する多種多様な輸入陶磁器が如実にあらわしています。

今回の調査では、11～12世紀の遺構を中心に明代の染付も出土し、中世博多の繁栄を偲ぶことができます。本書はこれらの発掘調査の成果を収録したものです。本書が市民をはじめ多くの方々の文化財に対する理解を深めるため、さらに学術研究に活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に際して御協力いただいた関係者の方々をはじめ、発掘調査から整理報告に至るまで多くの皆様のご理解とご協力を得ました。心から感謝の意を表する次第であります。

平成2年3月31日

福岡市教育委員会

教育長　佐藤善郎

例　言

1．本書は福岡市博多区上呉服町における都市計画道路博多駅築港線の拡幅工事に伴い、福岡市教育委員会が土木局の委託を受け、昭和61年度に実施した5次調査の報告書である。

2．本書に使用した遺構実測図は調査担当者の他に山口満、池田光男があたり、製図は濱石正子があたった。

3．遺物の実測と製図は担当者の他に池田光男、入江のり子、濱石正子、藤尾純江、撫養久美子が行なった。付論については主に森本朝子氏の実測である。

4．本書に使用した写真は遺構、遺物とも松村が行なった。

5．本書に使用した遺構略号は土壙－SD、井戸－SE、溝－SM、ピット－SP、不明遺構－SXである。また使用した方位は磁北である。

6．遺構番号は１次調査からの通し番号とした。

7．本報告書に係わる遺物及び記録類は福岡市埋蔵文化財センターにおいて保管、管理する予定であるので活用されたい。

8．本書の執筆、編集は松村が行なった。なお１～３次の調査概要については各調査担当者にお願いし、さらに付論については3次調査で出土した輸入陶磁の中で、14世紀以後の染付類について森本朝子氏にお願いした。

本 文 目 次

第１章　はじめに …… 1
1. 調査に至るまで …… 1
2. 発掘調査の組織と構成 …… 2
3. 位置と環境 …… 2
第２章　発掘調査の概要
1. 発掘調査の経過 …… 5
2. 1～5次調査の概要 …… 6
第３章　調査の記録
1. Ⅰ面の調査
1) 土壙の調査 …… 14
2) 井戸の調査 …… 31
3) ピットの調査 …… 36
4) 包含層出土遺物 …… 38
2. Ⅱ面の調査
1) 土壙の調査 …… 44
2) 井戸の調査 …… 62
3) 溝の調査 …… 73
4) ピットの調査 …… 74
5) 包含層出土遺物 …… 75
3. Ⅲ面の調査
1) 土壙の調査 …… 83
2) 井戸の調査 …… 99
3) ピット出土遺物 …… 101
4) 包含層出土遺物 …… 104
4. Ⅳ面の調査
1) 土壙の調査 …… 115
2) 井戸の調査 …… 127
3) ピット出土遺物 …… 127
4) 包含層出土遺物 …… 128
5. Ⅴ面の調査
1) 土壙の調査 …… 138
2) 井戸の調査 …… 153
3) ピット出土遺物 …… 157
4) 包含層出土遺物 …… 157
6. Ⅵ・Ⅶ面の調査
1) 土壙の調査 …… 161
2) 井戸の調査 …… 164
3) ピット出土遺物 …… 167
4) Ⅶ面土壙の調査 …… 170
まとめ …… 201
14世紀以降の輸入陶磁器 …… 203

挿図目次

Fig. 1 歴史の散歩道…… 1
Fig. 2 遺跡位置図(縮尺：1／25,000)…… 3
Fig. 3 第5次調査地点地形測量図(縮尺：1／5,000)…… 4
Fig. 4 博多遺跡群地形図…… 5
Fig. 5 調査区全体図及び区割図(縮尺：1／600)…… 5
Fig. 6 683号土壙(2次調査)…… 7
Fig. 7 877号土壙(3次調査)…… 7
Fig. 8 698号土壙(3次調査)…… 7
Fig. 9 SX34(4次調査)…… 8
Fig. 10 SX36(4次調査)…… 8
Fig. 11 1056号土壙(4次調査)…… 8
Fig. 12 Ⅰ・Ⅱ面遺構全体図(縮尺：1／100)(折り込み)…… 9・10
Fig. 13 西壁及び北壁土層実測図(折り込み)……11・12
Fig. 14 1112・1113・1116・1119～1121号土壙実測図(縮尺：1／30)……15
Fig. 15 Ⅰ面土壙出土遺物実測図(1)……16
Fig. 16 1123号土壙実測図(縮尺：1／20)……17
Fig. 17 1123号土壙出土遺物実測図……18
Fig. 18 1123B号土壙実測図(縮尺：1／20)……19
Fig. 19 1123B号土壙出土遺物実測図(1)……20
Fig. 20 1123B号土壙出土遺物実測図(2)……21
Fig. 21 1125・1126・1128・1130・1132・1134号土壙実測図(縮尺：1／30)……22
Fig. 22 Ⅰ面土壙出土遺物実測図(2)……23
Fig. 23 1137号土壙実測図(縮尺：1／40)……25
Fig. 24 1137号土壙出土遺物実測図(1)……26
Fig. 25 1137号土壙出土遺物実測図(2)……27
Fig. 26 1120・1138号土壙実測図(縮尺：1／60)……28
Fig. 27 1139・1140号土壙実測図(縮尺：1／30)……29
Fig. 28 1138～1140号土壙出土遺物実測図……30

Fig. 29　154・163・168号井戸実測図(縮尺：1／60)……32
Fig. 30　Ⅰ面井戸出土遺物実測図(1)……33
Fig. 31　Ⅰ面井戸出土遺物実測図(2)……34
Fig. 32　Ⅰ面井戸出土遺物実測図(3)……35
Fig. 33　Ⅰ面ピット出土遺物実測図……36
Fig. 34　Ⅰ面包含層出土遺物実測図(1)……37
Fig. 35　Ⅰ面包含層出土遺物実測図(2)……39
Fig. 36　Ⅰ面包含層出土遺物実測図(3)……40
Fig. 37　Ⅰ面包含層出土遺物実測図(4)……41
Fig. 38　1143・1144・1162号土壙，19号溝実測図(縮尺：1／30)……43
Fig. 39　1151・1154・1155号土壙実測図(縮尺：1／30)……44
Fig. 40　1144・1151・1153～1155号土壙出土遺物実測図……45
Fig. 41　1153・1158・1174・1177号土壙実測図(縮尺：1／30)……46
Fig. 42　1160・1163・1170号土壙実測図(縮尺：1／30)……47
Fig. 43　1158～1160・1162・1163・1169号土壙出土遺物実測図……48
Fig. 44　1169号土壙実測図(縮尺：1／20)……49
Fig. 45　1156・1173・1175号土壙実測図(縮尺：1／30)……51
Fig. 46　1173～1175・1177～1179号土壙出土遺物実測図……53
Fig. 47　1182号土壙出土遺物実測図(1)……54
Fig. 48　1182号土壙出土遺物実測図(2)……55
Fig. 49　1182号土壙出土遺物実測図(3)……56
Fig. 50　1182号土壙出土遺物実測図(4)……57
Fig. 51　1300号土壙出土遺物実測図……59
Fig. 52　161・166・170・172・176号井戸実測図(縮尺：1／60)……60
Fig. 53　1179・1182・1300号土壙実測図(縮尺：1／30)……62
Fig. 54　169号井戸実測図(縮尺：1／40)……63
Fig. 55　169号井戸出土遺物実測図……64
Fig. 56　171号井戸実測図(縮尺：1／40)……65
Fig. 57　170～172号井戸出土遺物実測図……67
Fig. 58　175号井戸実測図(縮尺：1／60)……68

Fig. 59 175号井戸出土遺物実測図(1) …… 70
Fig. 60 175号井戸出土遺物実測図(2) …… 71
Fig. 61 175・176号井戸出土遺物実測図 …… 72
Fig. 62 19・20号溝出土遺物実測図 …… 73
Fig. 63 II面ピット出土遺物実測図 …… 74
Fig. 64 II面包含層出土遺物実測図(1) …… 76
Fig. 65 II面包含層出土遺物実測図(2) …… 77
Fig. 66 II面包含層出土遺物実測図(3) …… 78
Fig. 67 II面包含層出土遺物実測図(4) …… 79
Fig. 68 II面包含層出土遺物実測図(5) …… 80
Fig. 69 II面包含層出土遺物実測図(6) …… 81
Fig. 70 III, IV面遺構全体図(縮尺：1／100)(折り込み) …… 85・86
Fig. 71 III面土壙実測図(縮尺：1／30) …… 87
Fig. 72 1184・1186号土壙出土遺物実測図 …… 88
Fig. 73 1196・1198・1199・1211・1244号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 89
Fig. 74 III面土壙出土遺物実測図(1) …… 90
Fig. 75 1200～1203・1209号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 92
Fig. 76 III面土壙出土遺物実測図(2) …… 94
Fig. 77 1208・1214 ～ 1216・1220号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 96
Fig. 78 1216・1220号土壙出土遺物実測図 …… 97
Fig. 79 177・178号井戸実測図(縮尺：1／40) …… 100
Fig. 80 177・178号井戸出土遺物実測図 …… 101
Fig. 81 III面ピット出土遺物実測図(1) …… 102
Fig. 82 III面ピット出土遺物実測図(2) …… 103
Fig. 83 III面包含層出土遺物実測図(1) …… 105
Fig. 84 III面包含層出土遺物実測図(2) …… 106
Fig. 85 III面包含層出土遺物実測図(3) …… 107
Fig. 86 III面包含層出土遺物実測図(4) …… 109
Fig. 87 III面包含層出土遺物実測図(5) …… 111
Fig. 88 III面包含層出土遺物実測図(6) …… 112

Fig. 89 Ⅲ面包含層出土遺物実測図(7) …… 113
Fig. 90 1221・1223～1225・1248号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 114
Fig. 91 1221・1223号土壙出土遺物実測図 …… 116
Fig. 92 1227・1229号土壙実測図(縮尺：1／20・1／30) …… 117
Fig. 93 1224・1227号土壙出土遺物実測図 …… 118
Fig. 94 1234・1236～1238・1240・1242・1246号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 119
Fig. 95 Ⅳ面土壙出土遺物実測図 …… 121
Fig. 96 1243・1244号土壙実測図(縮尺：1／20・1／30) …… 122
Fig. 97 1243号土壙出土遺物実測図 …… 123
Fig. 98 1243・1244号土壙出土遺物実測図 …… 124
Fig. 99 1248号土壙出土遺物実測図 …… 125
Fig. 100 179号井戸出土遺物実測図 …… 126
Fig. 101 Ⅳ面ピット出土遺物実測図 …… 128
Fig. 102 Ⅳ面包含層出土遺物実測図(1) …… 129
Fig. 103 Ⅳ面包含層出土遺物実測図(2) …… 131
Fig. 104 Ⅳ面包含層出土遺物実測図(3) …… 132
Fig. 105 Ⅳ面包含層出土遺物実測図(4) …… 133
Fig. 106 Ⅴ～Ⅶ面遺構全体図(縮尺：1／100)(折り込み) …… 135・136
Fig. 107 1251・1255～1257号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 137
Fig. 108 1251・1255号土壙出土遺物実測図 …… 138
Fig. 109 1256号土壙出土遺物実測図(1) …… 139
Fig. 110 1256号土壙出土遺物実測図(2) …… 140
Fig. 111 1256号土壙出土遺物実測図(3) …… 141
Fig. 112 1259号土壙実測図(縮尺：1／20) …… 143
Fig. 113 1259号土壙出土遺物実測図 …… 144
Fig. 114 1261・1262号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 145
Fig. 115 1261号土壙出土遺物実測図 …… 146
Fig. 116 1262号土壙出土遺物実測図 …… 147
Fig. 117 1262～1265号土壙出土遺物実測図 …… 148
Fig. 118 1265～1267・1269・1275・1276号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 149

Fig. 119 1301号土壙実測図(縮尺：1／30)……150
Fig. 120 1267・1276・1301号土壙出土遺物実測図……151
Fig. 121 180・181号井戸実測図(縮尺：1／40)……153
Fig. 122 180号井戸出土遺物実測図……155
Fig. 123 180・181号井戸出土遺物実測図……156
Fig. 124 V面ピット出土遺物実測図……157
Fig. 125 V面包含層出土遺物実測図(1)……159
Fig. 126 V面包含層出土遺物実測図(2)……160
Fig. 127 1284・1285・1289号土壙実測図(縮尺：1／30)……161
Fig. 128 VI面土壙出土遺物実測図……162
Fig. 129 183～186号井戸実測図(縮尺：1／40)……163
Fig. 130 183・184号井戸出土遺物実測図……165
Fig. 131 184～186号井戸出土遺物実測図……166
Fig. 132 VI面ピット出土遺物実測図(1)……168
Fig. 133 VI面ピット出土遺物実測図(2)……169
Fig. 134 1299号土壙(縮尺：1／30)及び出土遺物実測図……171

表目次

Tab. 1 出土銅銭一覧表……172
Tab. 2 出土遺物分類表……173～198
Tab. 3 輸入陶磁器数量表……199
Tab. 4 国産品数量表……200

図版目次

PL. 1 (1) Ⅰ面全景
(2) 西壁土層
PL. 2 (1) 1123号土壙(西より)
(2) 1123B号土壙(西より)
PL. 3 (1) 1137号土壙(南より)
(2) 1138号土壙(東より)
PL. 4 (1) Ⅱ面全景
(2) 1153号土壙(東より)
PL. 5 (1) 1156号土壙(東より)
(2) 1162号土壙(東より)
PL. 6 (1) 1163号土壙(北より)
(2) 1169号土壙(南より)
PL. 7 (1) 1175号土壙(北より)
(2) 1182号土壙(南より)
PL. 8 (1) 1182号土壙(西より)
(2) 169号井戸
PL. 9 (1) 20号溝(西より)
(2) 175号井戸(南より)
PL. 10 (1) Ⅲ面全景
(2) 1184号土壙
PL. 11 (1) 1186号土壙
(2) 1192号土壙(東より)
PL. 12 (1) 1191号土壙・4051・4052号ピット
(2) 左－177号井戸・右－178号井戸(北より)
PL. 13 (1) Ⅳ面全景
(2) 1121号土壙(東より)
PL. 14 (1) 1127号土壙(北より)
(2) 1229号土壙

PL. 15 (1) 1243号土壙(北より)
(2) 1243号土壙遺物出土状況
PL. 16 (1) 1220号土壙遺物出土状況(南より)
(2) 4047号ピット(北より)
PL. 17 (1) Ⅴ面全景
(2) 1262号土壙(南より)
PL. 18 (1) 1259号土壙(東より)
(2) 1259号土壙土器出土状況
PL. 19 (1) Ⅵ面全景(南より)
(2) 1288号土壙(北より)
PL. 20 (1) 184号井戸(西より)
(2) 185号井戸(東より)
PL. 21 (1) 1299号土壙
(2) 1299号土壙土器出土状況
PL. 22 1120・1121・1123・1123B号土壙出土遺物
PL. 23 1123B・1130・1134・1137号土壙出土遺物
PL. 24 1137号土壙出土遺物
PL. 25 1137・1139・1140号土壙，154・156・160・161号井戸出土遺物
PL. 26 163・166～168号井戸，3762・3779号ピット，Ⅰ面包含層出土遺物
PL. 27 Ⅰ面包含層出土遺物
PL. 28 Ⅰ面包含層，1144・1151・1153・1154号土壙出土遺物
PL. 29 1158・1160・1162・1163・1169・1170・1173・1175・1177～1179・1182号土壙出土遺物
PL. 30 1182号土壙出土遺物
PL. 31 1182号土壙，169・171・172・175号井戸出土遺物
PL. 32 175号井戸，3797・3905号ピット，Ⅱ面包含層出土遺物
PL. 33 Ⅱ面包含層出土遺物
PL. 34 Ⅱ面包含層出土遺物
PL. 35 Ⅱ面包含層出土遺物
PL. 36 1184・1186・1188・1192・1199号土壙出土遺物

PL. 37　1194・1198・1201・1203・1208・1209・1214～1216・1220号土壙出土遺物
PL. 38　177・178号井戸，3986・4025・4038・4046・4050・4051号ピット出土遺物
PL. 39　4055・4056・4064号ピット，Ⅲ面包含層出土遺物
PL. 40　Ⅲ面包含層出土遺物
PL. 41　Ⅲ面包含層出土遺物
PL. 42　Ⅲ面包含層出土遺物，1221・1223号土壙出土遺物
PL. 43　1224・1227号土壙出土遺物
PL. 44　1227・1229・1234・1236・1240・1242・1243号土壙出土遺物
PL. 45　1243号土壙出土遺物
PL. 46　1143・1148号土壙，179号井戸，4158・4191・4259号ピット出土遺物
PL. 47　Ⅳ面包含層出土遺物
PL. 48　Ⅳ面包含層出土遺物，1251・1255・1256号土壙出土遺物
PL. 49　1256・1259号土壙出土遺物
PL. 50　1256・1259号土壙出土遺物
PL. 51　1259・1261・1262号土壙出土遺物
PL. 52　1262・1264・1265・1301号土壙出土遺物
PL. 53　1301号土壙，180号井戸出土遺物
PL. 54　180・181号井戸，4297・4390号ピット，Ⅴ面包含層出土遺物
PL. 55　Ⅴ面包含層，183～185号井戸，1285号土壙出土遺物
PL. 56　185・186号井戸，4549・4729号ピット出土遺物
PL. 57　184号井戸，4549号ピット，1299号土壙出土遺物
PL. 58　各遺構出土銅銭
PL. 59　ピット，Ⅰ・Ⅱ面包含層出土銅銭
PL. 60　Ⅱ～Ⅳ面包含層出土銅銭
　　ガラス製品
　　ガラス製品

第１章　はじめに

1．調査に至るまで

都市計画道路博多駅・築港線は通称大博通りと呼ばれ、博多駅と博多湾築港と結ぶ道路でいわば福岡市の表玄関にあたる。東アジアの拠点都市をめざす福岡市でも都心部での車の混雑が著しく、都市としての機能低下が懸念され、その解消に向けて都市高速道路、福岡市外環状道路等の施策がとられている。その一環として、上述の大博通りの道路拡幅工事が計画され、事前に埋蔵文化財の発掘調査を行った。

当該地は都市高速道路（地下鉄）建設に伴う調査で、中世博多を現在によみがえらせた博多遺跡群にあたる。地下鉄の調査以前には、これほどの遺構、遺物が遺存しているとは考えられず、特に中国からの輸入陶磁器の量、質ともに想像を絶するものであった。

博多駅・築港線の調査は用地取得がなされた部分から順次、年度毎に調査を実施しており、今回の調査が5次調査で最終年度である。1次調査時には原局との意志疎通を欠いたが、二年度からは相互理解のもとに調査を行った。5次調査は、1986年9月1日から翌年2月10日まで実施した。

なお調査後、大博通りの拡幅工事、東側の歩道には、博多遺跡群などから出土した陶磁器を写真やレプリカで展示し博多遺跡群の概要を知ることができる歴史の散歩道が設けられ、市民の目を楽しませている。

Fig.1　歴史の散歩道

2．発掘調査の組織と構成

調査委託　福岡市土木局道路部街路課

調査主体　福岡市教育委員会　　教育長　佐藤善郎

調査総括　福岡市教育委員会文化部長　川崎賢治

福岡市教育委員会埋蔵文化財課長　柳田純孝

埋蔵文化財課第一係長折尾学（前任）　飛高憲雄

調査庶務　埋蔵文化財課第一係　松延好文

調査担当　埋蔵文化財課第一係　松村道博　大庭康時

調査補助　山口満 池田光男 入江のり子 濱石正子 撫養久美子

発掘作業　井口英雄 大部茂久 山崎光一 権藤利雄 三浦力 高田勘四郎 柴田松蔵 梅野和俊 三宅安政 中村仁則 江越初代 古賀博子 関加代子 関政子 徳永道子 尾崎文代 尾崎君枝 長野康子 桑野正子 黒木静子 井手口美代子 曽根崎昭子 村崎祐子 野口ミヨ 服坂千鶴 村田敬子 門司弘子 近藤澄江 濱地フサエ

整理補助　村田喜代美 生垣綾子 鶴ちとせ 須原純子 井上友子 西村道子 進藤有里 村上由美子 柳瀬伸 吉岡節子 曽木隆子 原田夏子 林由紀子 中嶋玲子 山田由美子 藤崎未方香 平川理恵子 桑野正子 牟田恵子 藤崎もと子 有島美江 瀬戸満寿江 渋谷格

3．位置と環境

博多遺跡群は砂丘上に立地する遺跡群で、江戸時代の城下町である福岡に対して那珂川を挟んで東側に対峙する商人の街博多部にあたる。那珂川と石堂川の沖積作用で形成された沖ノ浜、博多浜（櫛田浜）と呼ぶ二つの砂浜上に占地する。しかしながら中世以来の都市の成長と発展により本来の地形は大きく損なわれ、旧状を窺い知ることはできない。現地形から旧地形を推測すると、標高6mのコンターは聖福寺を中心に微高地を形成する。標高5mのラインは呉服町、冷泉町、樋屋町、祇園町を中心に拡がり、いわゆる博多浜を形成している。櫛田神社の東側は入江となる。一方北側には奈良屋町、小山町を中心に低丘陵が発達し、沖ノ浜を囲むラインとなる。呉服町交差点附近は狭くなり陸橋部状になる。5次調査は、4次調査地点と1次調査地点の間にあたる。博多遺跡群は多種、多量な輸入陶磁器の出土があり中世の国際交易都市の中心的位置を占めているが突然出現したのではなく、弥生時代以降、連綿と集落が営まれている。弥生時代の遺構は、祇園町周辺の砂丘の最も高い部分から中～後期の甕棺があり、弥生時代後期の竪穴住居址もあり徐々に集落が拡大傾向を示している。古墳時代には方形周溝墓、さらには博多1号墳という前方後円墳を築造するまで集落が広がり富の集積、権力の集中化が進む一方、

集落も多く検出され、畿内系の土師器も出土している。今回の5次調査でも古墳時代初期の土壙があり、この地点まで当時の集落の規模が拡がっていたものと考えられる。

古代の遺構はこれまであまり調査例はないが、遺物はこれまでの各調査地点で多く出土している。石帯、銅銙帯、皇朝十二銭、円面硯、風字硯等が各調査地区から出土し、官家の存在を推測されるものがあり、また長沙窯系、刑窯系の陶磁器、イスラム陶磁や「長官」銘須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器などもある。平安時代末から鎌倉にかけては、遺物、遺構が豊富で、国際貿易都市博多を如実に現わしている。輸入陶磁量も浙江、福建、広東省を中心に多種、多様な状況を示す。墨書土器の中に中国人姓と考えられる「李」「張」「陳」等が認められ、中国商人の街「宋人百堂」や「大唐街」の存在を裏付けるものであろう。

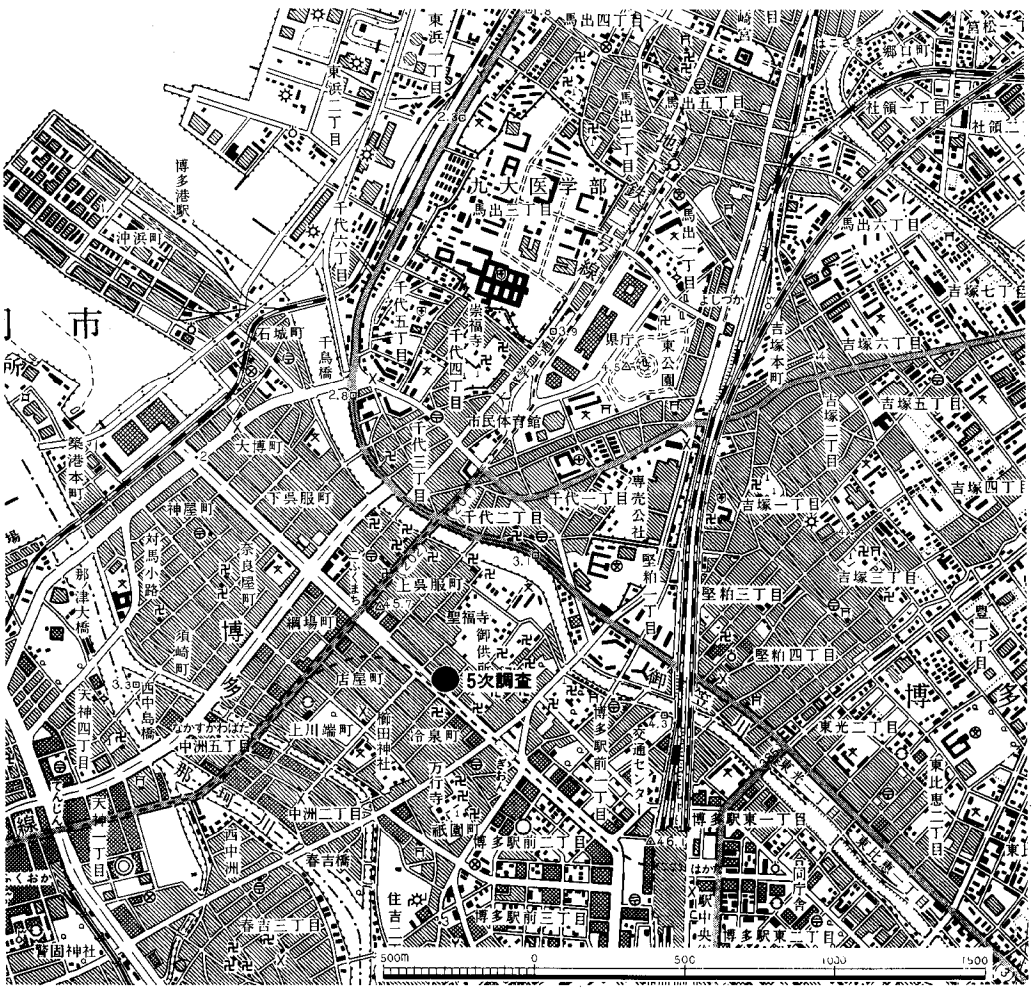


Fig.2　遺跡位置図(縮尺：1/25,000)

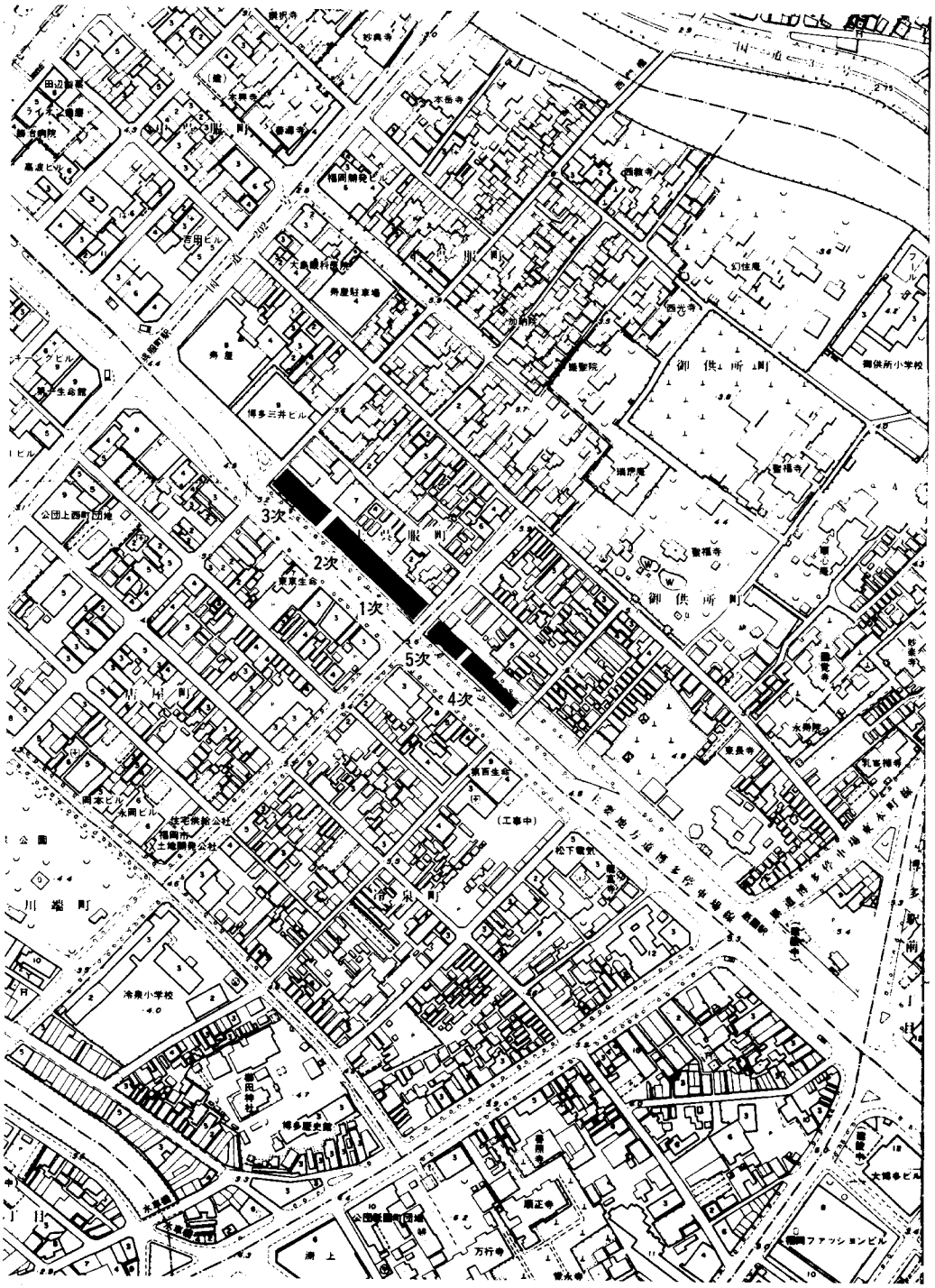


Fig.3　第5次調査地点地形測量図(1/5,000)

第２章　発掘調査の概要

１．発掘調査の経過

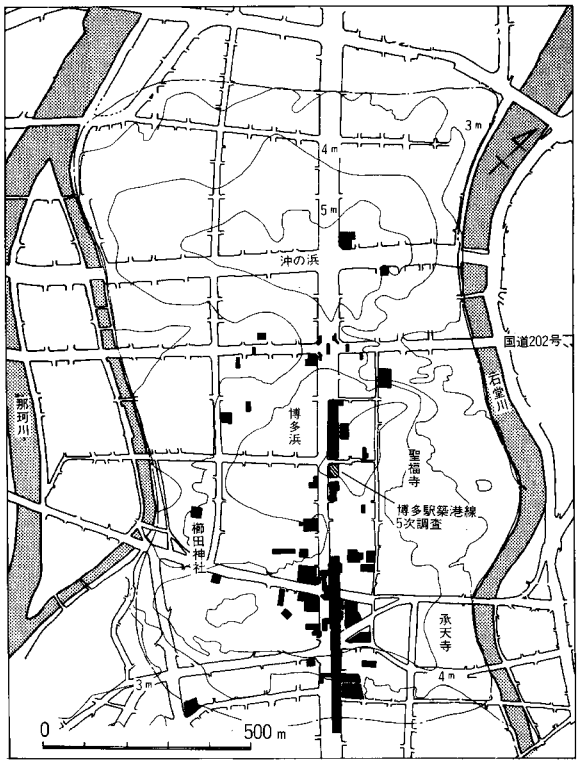


Fig.4　博多遺跡群地形図

博多駅、築港線第5次調査は昭和61年9月10日から昭和62年2月10日まで実施した。調査地点は4次調査の北、1次調査地点とは道路を隔てた南側にあたる。4次調査では表土除去は委託工事として業者に発注したが、掘削前の設計通りに実施することから掘り過ぎ、あるいは掘り足りない点なども考慮に入れ、5次調査では業者委託は行わなかった。

表土除去は任意の面（Ｉ面）を設定しその下を数十センチ毎に遺構を検出して調査を実施した。これは博多遺跡群が砂丘上に占地し、古代～現代まで絶えることなく連綿と生活が継続した結果、数メートルにも及ぶ沖積地の「包含層」が形成されている。それは多くの遺構が掘り込まれた結果数百年にわたる生活の痕跡である。しかし遺構が

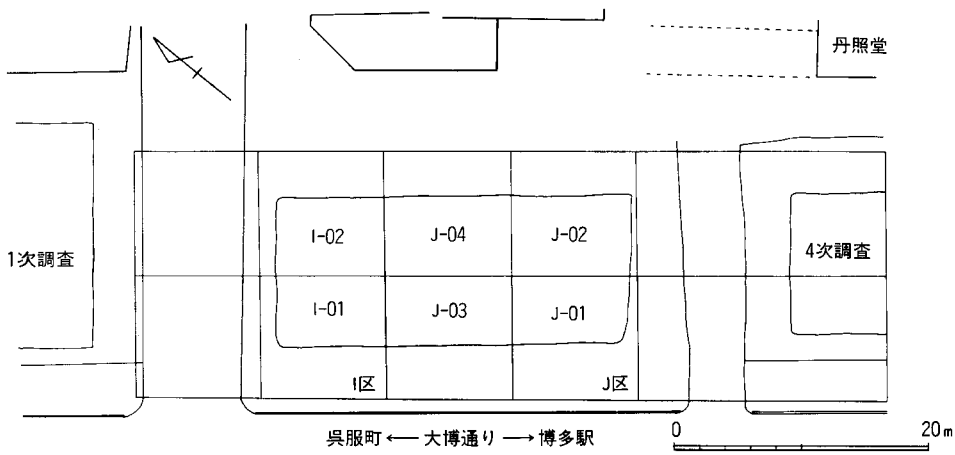


Fig.5　調査区全体図及び区割図(縮尺：1/600)

どの層から掘り込まれているのか、あるいは焼土層とか砂層とか全体に広がる特定の層となるのが認められない。同一調査地点でも層と時期の対応を明確に把握することができず、調査地点が異なれば各調査区との土層を対比することはさらに困難となる。このような状況は、現況の地形はほぼ平坦であるが、旧地形は博多浜、沖ノ浜や入江がつらなり、起伏に富む地形であり、さらに広範囲にわたる造成がなされていないことに起因するものであろう。

調査区は1～4次調査で用いたグリッド区画をそのまま使用した。今回の調査はI、J区にあたる。グリッドは20mの方眼とし、その中を４区に細分して調査区名とした。

調査は表土剝ぎした面をⅠ面とし、北側で標高4.1m南側で4.75mである。以下Ⅱ面3.8m、4.25m、Ⅲ面3.4m、3.8m、Ⅳ面3.5m、3.1m、Ⅴ面3.3m、2.7m、Ⅵ面2.7m、3.3m、Ⅶ面とした。Ⅰ面の北側で0.7m低くなる。各面の掘り下げ時に出土した出土遺物は各面の包含層として一括して処理している。

調査経過の概略は以下のとおりである。

昭和60年９月27日～10月３日	表土剝ぎ	10月６日～10月22日	Ⅰ面の調査
10月23日～11月11日	Ⅱ面の調査	11月12日～11月25日	Ⅲ面の調査
11月26日～12月10日	Ⅳ面の調査	12月11日～12月27日	Ⅴ面の調査
昭和61年１月５日～１月22日	Ⅵ面の調査	１月27日～２月10日	Ⅶ面の調査

2．1～5次調査の概要

1)1次調査概要

地下鉄関係調査に次いで行なわれた、博多遺跡群での大規模公共事業による発掘調査である。調査は昭和57年11月15日から昭和58年３月31日まで、調査面積は約630㎡について実施した。博多遺跡群を形成する3つの砂丘（陸側から微高地Ⅰ～Ⅲと呼ぶ）のうち中央の微高地Ⅱに当たる地点である。1次調査はこの道跡拡幅部全調査区のうちG、H区およびF区の一部が対象である。

地下鉄関係調査が行なわれた微高地Ⅰに比べ地山砂層の検出レベルはほぼ等しいが、現地表面の高さは1.5m程高く、遺物包含層は3.5～4mもの厚さがあった。層の堆積が複雑であり、調査区全体を通した鍵層が確認できないために、一定レベル面で6面にわけて調査を行なった。以下各面の概要を記す。

第一面―近世の瓦組井戸遺構が検出される。第二面－太閤町割（1587）前後の遺構が多く、島津の博多焼き打ちに起因する焼け土が多い。第三面―14～16世紀の遺構が混在する。現町筋からやや西に偏る道路遺構が検出された。第四面―14～15世紀の土壙や木桶組井戸の遺構が混在する。第五面―11～15世紀の各時期の遺構が混在する。柱穴が多く見られるが組織的には把握できない。第六面―地山黄白色砂層で11～13世紀の様々な遺構が検出された。この層の上面には、奈良、平安時代の遺物包含層があり、越州窯系青磁がまとまって出土している。

主要な遺構として太閤町割以前の町筋方向を示す溝、柱穴列、道跡が検出された。隣接する35次調査区でも同様の道路が検出され、町割の変遷を示す具体的な例として重要な資料となる。第二面では四隅に掘立柱をもつ長方形の竪穴遺構があり、備前焼二石甕が据え置かれていた。また集石遺構があり、五輪塔が多く含まれていた。第五面では堂宇の基壇と思われる敷石遺構が検出された。

出土遺物は、地下鉄等で出土したのよりも多種、多様で、また遺構毎にまとまりを示すものが多かった。特に明代、李朝の陶磁は豊富であった。イスラム陶器、元様式染付、釉裏紅等は特筆すべきであろう。(池崎譲二)

Fig.6　683号土壙(2次)

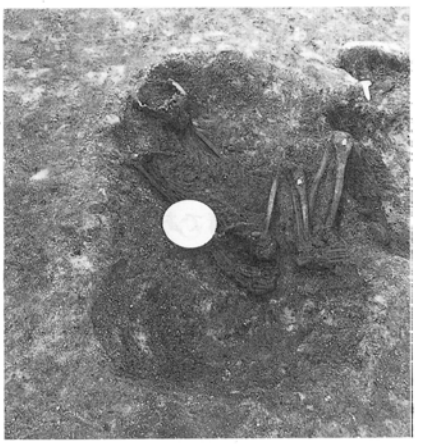


Fig.7　877号土壙(3次)

Fig.8　698号土壙(3次)

2) 2次調査概要

1984年2月1日より9月18日まで、564㎡について調査を実施した。

現地表下1.5mまでを表土層として重機で除去し、それ以下について5面にわけて遺構を検出した。各面の年代観、標高は次の通りである。1面：16C後半、4.0～4.2m。2面：14C、3.6～3.8m。3面：14C前半、3.3m。4面：11～12C、3.0～3.1m。5面：8C後半～12C、2.6～3.1m。

2次調査においては、中世の遺構、遺物もさることながら、「長官」墨書須恵器、円面硯、石帯など、律令官人関係の資料が多く出土した。また「和同開珎」2枚も出土している。(大庭康時)

3) 3次調査概要

1985年1月25日より12月4日まで、417㎡について調査を実施した。

現地表下1.5mまでを表土層として重機で除去し、それ以下について7面にわけて遺構を検出した。各面の年代観、標高は次の通りである。1面：16C後半、3.8m。2面：16C、3.6～3.7m。3面：15C中頃、3.2～3.3m。

4面：14C、2.9m前後。5面：14C前半、2.5m前後。6面：13C後半～14C初、2.0～2.2m。7面：8C後半～13C前半、1.0～2.3m。

3次調査地点では、14C～16Cの包含層が良好に残っていた。また、8C前～11C頃の砂丘前面の傾斜が確認され、当該期の博多遺跡群の北限を示している。(大庭康時)

4)4次調査の概要

4次調査は地下鉄調査の祇園工区と呉服町工区の中間地点にあたる。I区の南端では基盤層の黄白色砂層は標高4m前後、II区の北端では3.4m、10m毎に北側が0.1m低くなる。1次調査の北端では急激に落ち込み泥炭層となる。I面の調査ではSX30と呼ぶ粘土敷遺構がある。4～5cmの厚さに黄白色粘土を平に敷き、その上に小円礫を置く遺構である。道路あるいは家屋の土間、庭の類いであろうか。遺物は14～15世紀の所産であり、当時の生活面がこの高さであったと考えられる。II面とIII面の間からSX37の瓦敷遺構が検出された。1次調査で検出された道路状遺構と酷似しているが、検出したのが狭い範囲であり、その確証はない。出土遺物は12～13世紀の所産であり、1次調査の16世紀までは下らない。SX34の真下から1号礎石建物が検出された。2間×2間の建物で板石状の用材である。III、IV面では11世紀後半～12世紀前半の土器を多く出土する土壙や、破片を数点しか出土しない土壙など変化に富む。この中で1058・1059・1072号土壙は土壙墓と考えられる。II面では13世紀後半の東西方向の17号溝がある。IV面では南北に主軸を取る18号溝がある。遺物は小破片しか出土していないので時期は明らかでは

Fig.9　SX34(4次)

Fig.10　SX36(4次)

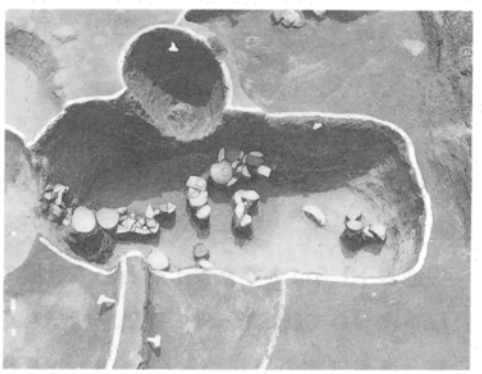


Fig.11　1056号土壙(4次)

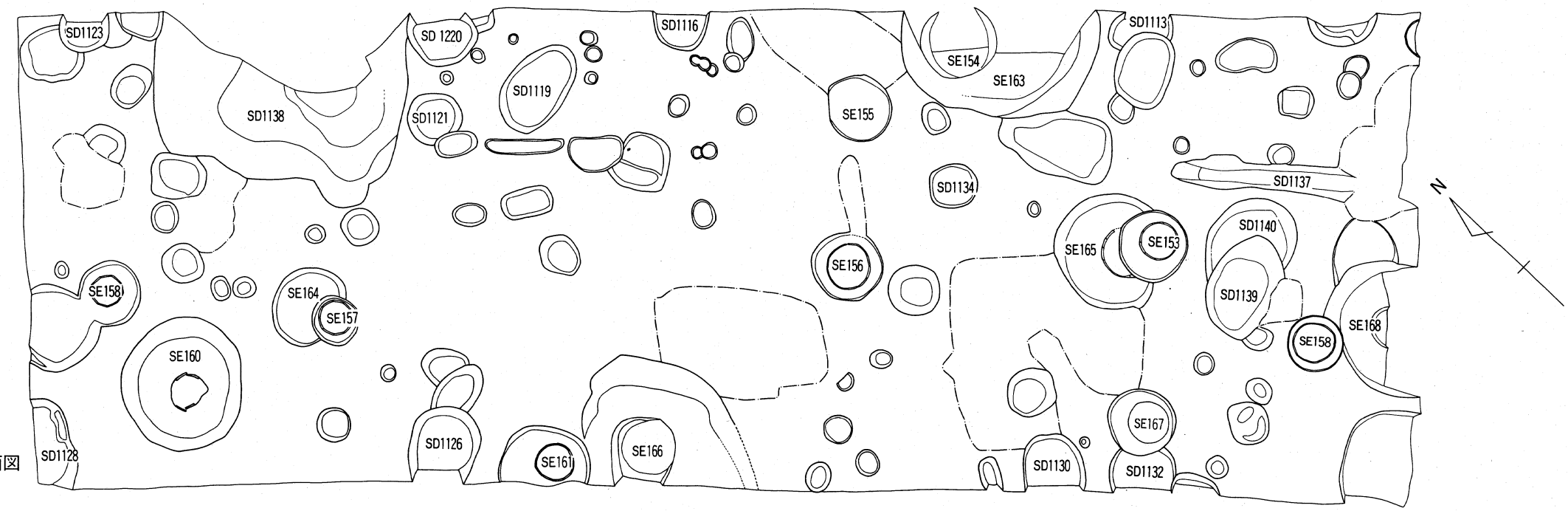
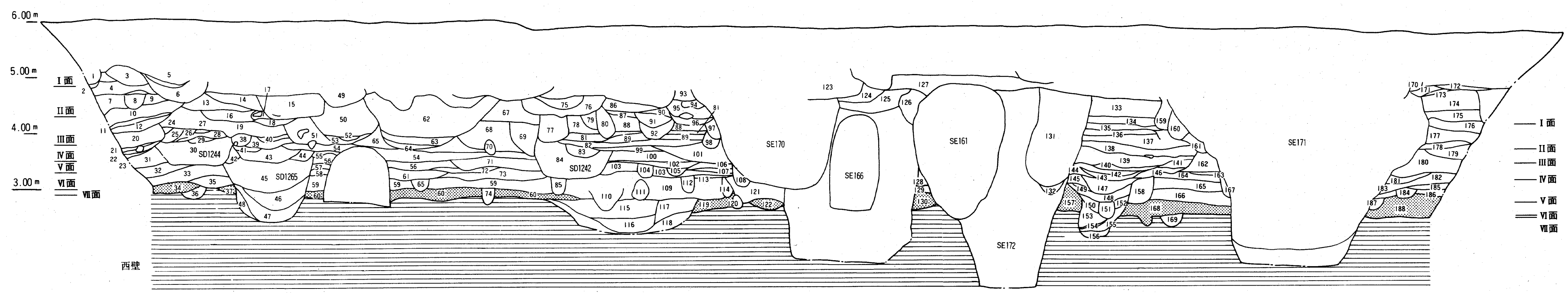
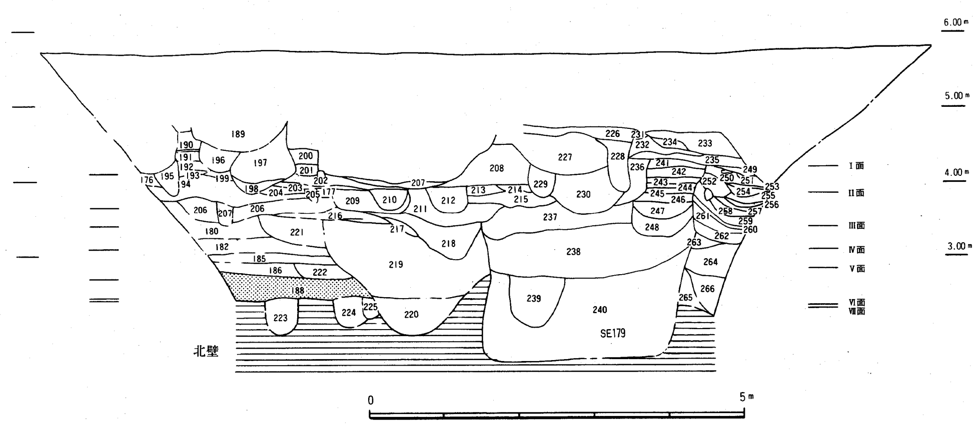


Fig.12　I・II面遺構全体図(1/100)





1 灰色粘質土
2 明灰褐色土
3 茶褐色土
4 明褐色土
5 明褐色粘質土
6 灰褐色土
7 暗灰褐色土
8 明灰褐色土
9 暗灰褐色土
10 暗灰色土
11 黄灰色土
12 暗褐色土
13 灰色土
14 灰色粘質土
15 淡灰褐色土
16 灰褐色土
17 灰色土
18 暗濃褐色土
19 灰褐色土
20 灰褐色土
21 灰色粘質土
22 炭・灰
23 暗灰色土
24 暗灰褐色土
25 暗灰褐色土
26 黒色灰
27 淡灰色粘質土
28 灰褐色粘質土
29 淡灰色粘質土
30 暗灰褐色土
31 暗灰褐色土
32 暗灰色土
33 暗灰色土
34 灰褐色粘質土
35 炭・灰
36 灰褐色砂
37 黄褐色砂
38 褐色土
39 褐色土
40 炭・灰
41 灰茶褐色土
42 茶褐色土
43 灰色土
44 褐色焼土
45 炭・灰混暗灰色土
46 灰色土
47 暗灰色土
48 暗灰色土
49 灰褐色土
50 暗灰褐色土
51 暗灰褐色土
52 灰茶色粘質土
53 暗灰色土
54 褐色焼土
55 灰褐色土
56 暗灰色土
57 暗褐色土
58 灰褐色粘質土
59 褐色砂質土
60 淡褐色砂
61 暗灰色砂質土
62 灰茶褐色土
63 暗褐色土
64 焼土混暗茶褐色土
65 暗灰褐色土
66 褐色砂質土
67 砂・礫
68 暗褐色土
69 暗褐色土
70 暗茶褐色土
71 暗褐色焼土
72 灰色粘質土
73 灰茶褐色砂質土
74 暗灰色砂質土
75 灰色粘質土
76 灰褐色土
77 暗灰色土
78 暗灰色土
79 砂混暗灰色土
80 暗青灰色土
81 茶色焼土
82 濃褐色土
83 濃褐色土
84 暗褐色土
85 焼土混暗褐色土
86 灰茶褐色土
87 暗灰褐色土
88 暗灰色土
89 濃褐色土
90 灰茶褐色土
91 炭・灰混黒灰色土
92 焼土混茶褐色土
93 灰褐色土
94 黄茶褐色砂質土
95 灰茶褐色土
96 暗褐色土
97 炭・灰
98 炭・灰
99 暗灰褐色土
100 暗灰色土
101 暗褐色土
102 茶褐色焼土
103 暗褐色焼土
104 淡灰褐色土
105 黒灰褐色土
106 灰茶褐色土
107 茶色焼土
108 焼土混暗褐色土
109 暗褐色砂質土
110 暗褐色砂質土
111 炭・灰混濃褐色土
112 焼土混暗褐色土
113 焼土
114 焼土混暗褐色土
115 褐色砂
116 暗褐色砂
117 暗褐色砂
118 淡褐色砂
119 暗褐色砂
120 茶色焼土
121 暗褐色砂質土
122 灰褐色砂
123 褐色土
124 暗褐色土
125 灰白色粘質土
126 灰色土
127 灰色土
128 暗灰褐色土
129 黒褐色土
130 暗褐色砂質土
131 暗灰色土
132 暗褐色土
133 灰褐色土
134 黒灰色土
135 白色砂
136 灰褐色粗砂
137 黒灰色土
138 暗灰色土
139 暗褐色土
140 灰色土
141 暗灰褐色土
142 灰色土
143 暗灰色土
144 暗灰色土
145 暗灰色土
146 濃灰色土
147 暗灰褐色土
148 暗茶褐色土
149 炭・灰
150 炭・灰
151 炭・灰・粘土
152 炭・灰
153 褐色土
154 炭
155 濃褐色土
156 濃褐色土
157 暗褐色砂
158 暗灰褐色土
159 暗灰色土
160 暗灰色土
161 灰色土
162 暗灰色土
163 暗灰色粘質土
164 茶褐色焼土
165 暗褐色土
166 暗濃褐色砂
167 暗灰褐色砂質土
168 暗褐色砂
169 淡暗褐色砂
170 灰色土
171 灰色粘質土
172 褐色焼土
173 灰白色粘土
174 灰褐色土
175 炭混黒褐色土
176 灰色土
177 灰褐色土
178 灰褐色砂
179 暗灰色土
180 暗灰色土
181 淡茶褐色土
182 褐色土
183 暗褐色土
184 暗褐色土
185 暗灰褐色土
186 黒褐色土
187 黒褐色土
188 暗褐色砂
189 焼土混灰褐色土
190 灰褐色土
191 淡灰褐色粘質土
192 灰色土
193 茶褐色土
194 暗灰色土
195 茶褐色土
196 灰色土
197 茶褐色焼土
198 灰褐色粘質土
199 炭混黒灰色土
200 灰色土
201 白褐色砂
202 灰色砂質土
203 灰白色砂
204 濃茶褐色土
205 暗灰色土
206 茶褐色砂質土
207 暗灰色土
208 暗褐色土
209 砂混暗灰色土
210 暗灰色土
211 濃灰色土
212 暗灰色砂質土
213 灰色粘質土
214 砂混黒灰色土
215 黄灰色砂質土
216 暗灰色粘質土
217 黒灰色粘質土
218 黒褐色土
219 暗褐色土
220 褐色砂質土
221 暗褐色土
222 暗褐色土
223 灰褐色砂質土
224 灰褐色砂
225 暗褐色砂質土
226 灰褐色土
227 灰色土
228 灰色混土
229 黒灰色土
230 灰褐色土
231 炭混暗紫色土
232 灰色土
233 淡灰褐色土
234 灰色粘質土
235 緑灰色砂
236 砂混暗褐色土
237 暗灰色土
238 暗茶褐色土
239 黒褐色土
240 暗灰色砂
241 暗灰色土
242 砂混灰色土
243 灰白色砂
244 暗褐色土
245 褐色砂
246 暗灰色土・暗褐色砂の互層
247 暗灰褐色土
248 砂混暗茶褐色土
249 灰色砂
250 暗褐色土
251 灰茶褐色土
252 灰茶褐色砂質土
253 灰白色砂
254 灰色砂混土
255 灰色砂
256 黄褐色砂
257 灰色砂
258 炭・灰
259 灰色砂
260 暗灰色粘質土
261 砂・灰色土の互層
262 暗灰色粘質土
263 暗褐色土
264 暗灰褐色砂質土
265 黒灰色土
266 黒灰色粘質土

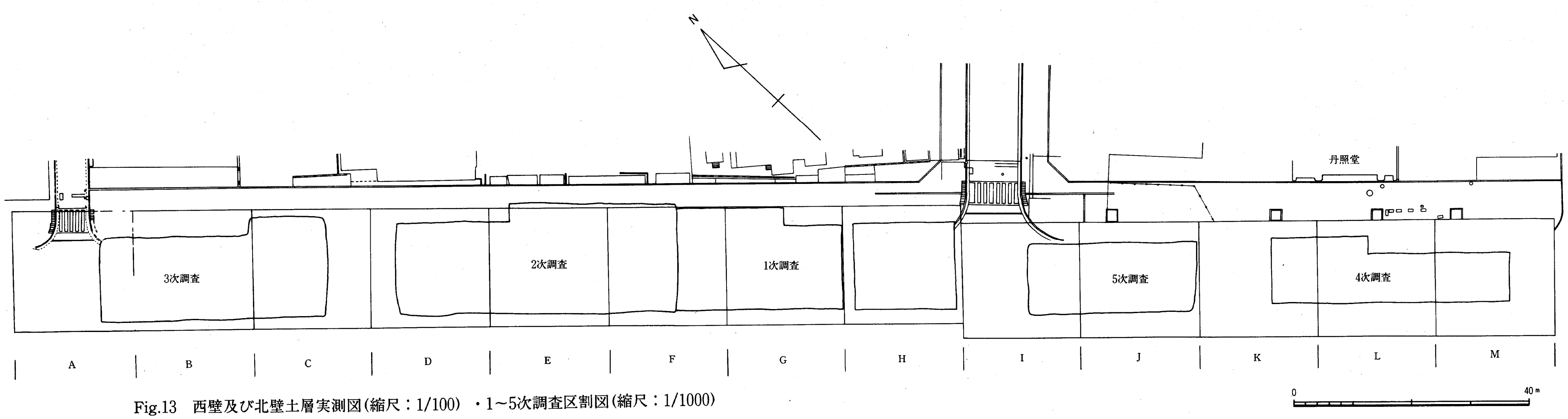


Fig.13　西壁及び北壁土層実測図(縮尺：1/100)　・1～5次調査区割図(縮尺：1/1000)

ないが古墳時代の可能性が強い。

5）5次調査の概要

今回調査を実施した地区は1次調査区と4次調査区の中間地点にあたる。4次調査地点よりは地下室等の大きな攪乱はなかったが、遺構が確認できたのは現地表下1～1.5m位の高さからである。遺構は井戸、廃棄用の土壙を少なからず検出したが、木棺墓、あるいは建物、道路等の遺構はなかった。最下層の基盤層である黄白色砂層は南端で2.9m、北端で2.4mを測り、その勾配角2°となる。各調査時の黄白色砂層の高さは南側の4次調査で南端4m、北端3.4m、1次調査の南端2.2m、北端2.3m、2次調査の南端2.6m、北端3.1m、3次調査の南端2.2m、北へ約5mの地点で急峻に落ち込み、黒褐色腐食泥土層となる。現在の地形よりもかなり起伏の著しい地形であったことが窺える。

Ⅰ面の調査では近、現代の瓦井筒の井戸が多く検出された。これらの井戸からはその時期の遺物と共に中世の遺物も多く出土している。李朝青磁、越州窯系青磁、土師器坏、皿がある。また寛永通寶も2点出土している。特異な遺構として1137号土壙がある。幅約0.5mの細長い溝状を呈する遺構で内面は穀物の炭化物、焼土、木炭等で塡塞されている。除湿のための施設であろうか。時期は16世紀末の所産である。また土師器の坏、皿を重ね合わせて多数出土する土壙もあり、祭祀用土壙と考えられる。Ⅱ面では大型の土壙が2基（1151、1300号土壙）あり土壙墓と考えられる。また井戸も6基あり、175号井戸は方形の掘り込みで中心部に木桶の井筒を用いていたものであろう。Ⅲ面では良好な遺構は少ない。177、188号井戸は隅丸長方形の大型の掘り方をもつ井戸である。現代井戸に切られ、井筒部を確認することができなかったので大型土壙の可能性がある。Ⅳ面では1221号土壙が隅丸長方形の土壙墓であろう。1227号土壙は壙底に一塊になった鉄滓があり、鍛冶炉の可能性ももたれる。1243号土壙には11世紀後半から12世紀前半に属する白磁碗、皿類が破砕された状態で一括廃棄されたものである。

Ⅴ面では大型で深い土壙が多い。その中で1256、1259号土壙は土壙墓の可能性が強い。11世紀後半～12世紀前半代のものであろう。井戸は2基あり、円形の掘り方で木桶の井筒をもつものである。Ⅵ面もⅤ面と同様の遺構のあり方を示す。Ⅶ面では、古墳時代初期の土壙がある。古墳時代の遺構がこの地点まで拡がっていたことが判明した。包含層中から弥生時代の土器も数点採集されている。

第3章　調査の記録

1．Ⅰ面の調査

前述したように恣意的に遺構が確認できる面をⅠ面として設定して調査を実施したので、各面には何らかの意味を加味していないが、上の面より下の面で確認した遺構が相対的に古く、遺構も面毎に考えた方が理解が容易であるので各面毎に説明を行う。

Ⅰ面での標高は南端で4.25m、北端で4.1mの高さで確認した遺構である。遺構の大半は近、現代の井戸、攪乱で、遺構の遺存状態は悪い。

1）土壙の調査

1112号土壙（Fig.14，PL.1）

J－02区に位置する隅丸長方形の土壙で東側で1113号土壙を切る。主軸をほぼ東西にとり、規模は東西1.35m、南北1.63m、深さ約0.4mを測る断面深皿状の土壙である。壁面は緩やかな傾斜を示し、床面は中央部が少し窪む。覆土は灰褐色砂質土である。出土遺物は少く、小破片のみである。Ⅳ類の白磁碗、龍泉窯系Ⅱ類の碗、口ハゲの皿類の磁器の他に土師器の底部糸切りの坏、皿類、あるいは近世の擂鉢や陶磁器類がある。

1113号土壙（Fig.14，PL.1）

西側を1112号土壙に切られ、東側は調査区外へ延び、主軸を東北－南西にとる長楕円形の土壙である。長軸1.15mを測る浅い土壙で覆土は暗褐色土である。

出土遺物（Fig.15－1）

出土遺物は少く図示した他に青、白磁の碗、茶釉四耳壺の小片の他に底部糸切りの土師器の坏、皿が数点出土している。1は白磁の碗である。胎土はきめ細かな灰白色で釉は器内は青灰白色で外面は茶褐色を帯びる。高台脇まで施釉され、釉だれが認められる。

1116号土壙（Fig.14，PL.1）

J－04区に位置する楕円形の土壙である。東半部は調査区外へ延びる。現況で南北1.0m、東西0.65m、深さ0.15mを測る浅い土壙である。覆土は暗褐色で少量の木炭片を含む。

出土遺物（Fig.15－2）

2は明代染付の碁笥底皿である。胎土は白灰色できめ細く、釉は淡青白色で釉下に藍色の絵付を行う。内面には草木、鳥、外面に文様を描く。口径10.4cm、器高3.1cmで他に底部糸切りの土師器坏、皿、土鍋、備前焼の甕の破片などが出土している。

1119号土壙（Fig.14，PL.1）

J－04区に位置する楕円形の土壙で主軸を東西にもつ。規模は東西1.72m、南北1.06m、深さ

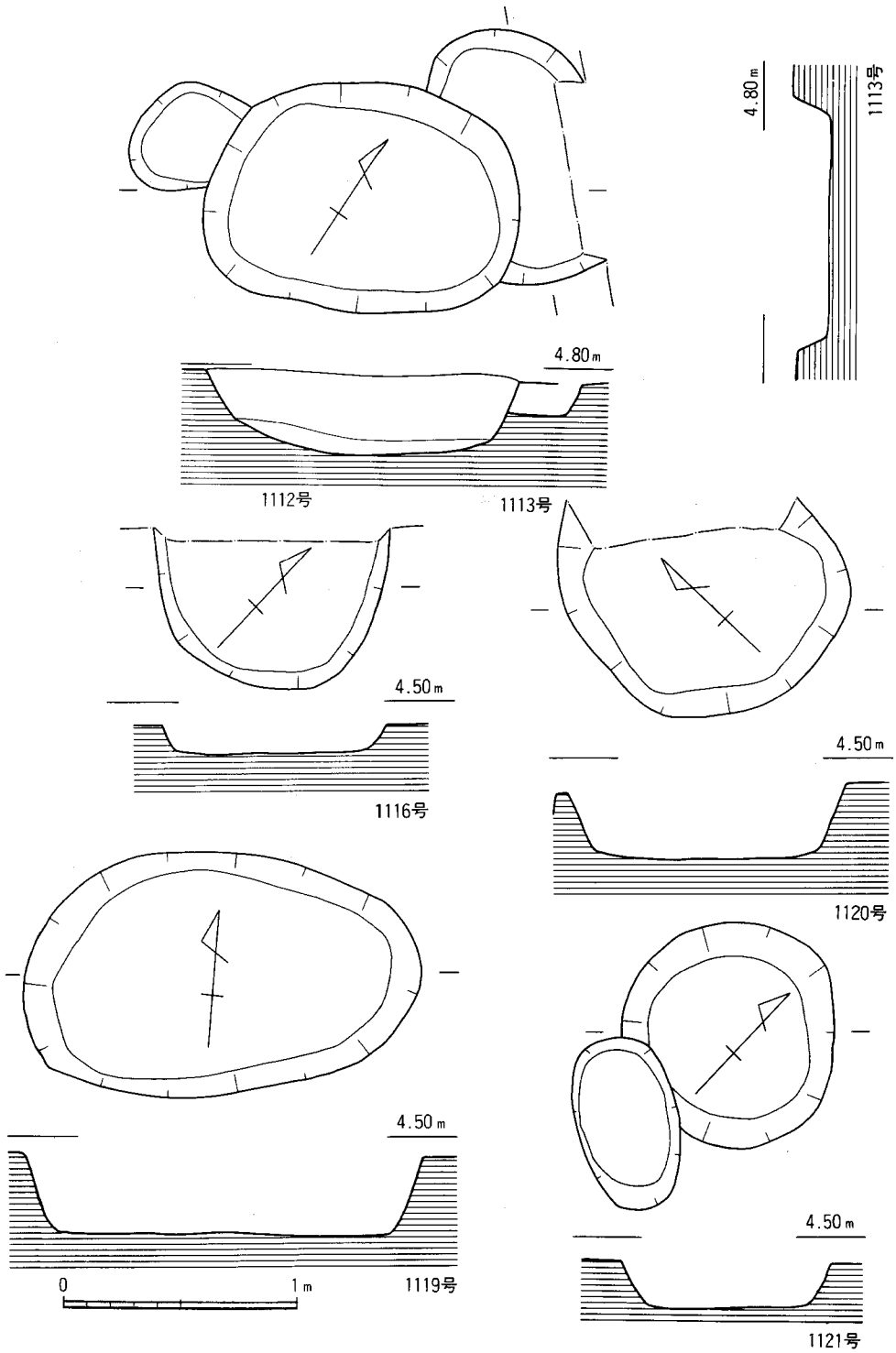


Fig.14　1112・1113・1116・1119～1121号土壙実測図 (1/30)

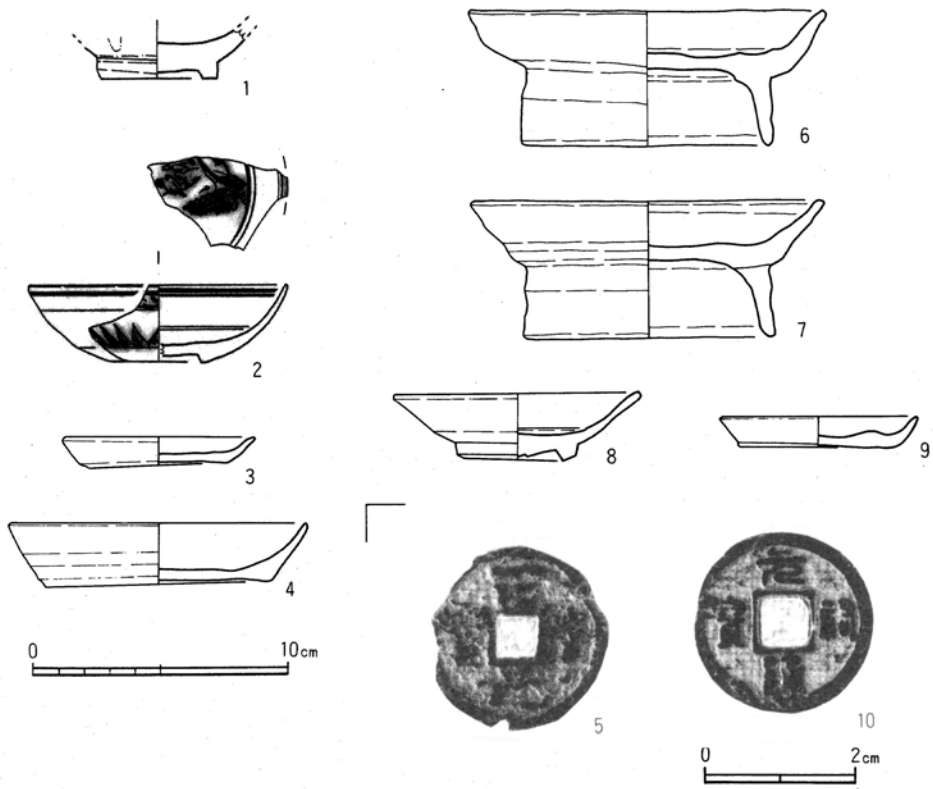


Fig.15　I面土壙出土遺物実測図(1)

0.36mを測る。壁面は緩傾斜で床面はほぼ平である。覆土は明褐色土である。

出土遺物（Fig.15－3・4，PL.58）

3は土師器の小皿である。口径7.8cm、器高1.3cmを測る。底部糸切りで灰褐色の胎土には砂粒を含む。口縁部は肥厚気味で、少し外反する。4も底部糸切りの土師器坏で胎土、焼成とも3とほぼ同じである。口径12.0cm 器高2.6cmを測る。5は正隆元寶（初鋳1156年）である。他に細片ではあるが、白磁のII、Ⅳ類の碗や龍泉窯系青磁碗、天目、四耳壺、備前焼の甕などが出土している。

1120号土壙（Fig.14，PL.1）

J－04区に位置する略円形の土壙と考えられる。東側は調査区外へ拡がっているので全形を知ることはできない。規模は径1.13m、深さ0.3mを測り、床面は平である。北側で1138号土壙と切り合う。覆土は全体に軟らかく、暗灰色砂質土で黄褐色の斑点が入る。

出土遺物（Fig.15－6～8）

6、7は土師器の高台付坏である。全体に厚手のつくりで、坏部に高い高台を貼り付けている。高台はほぼ直に立ちあがり、坏部との境に段をもつ。内底面はナデ、他はヨコナデである。8は

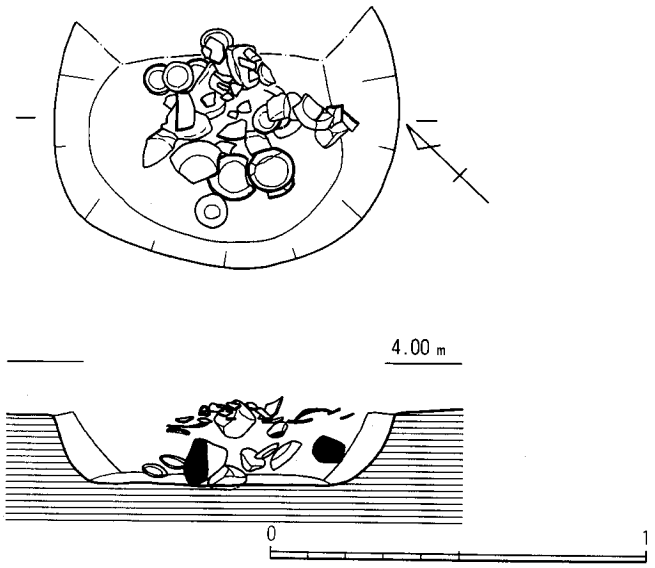


Fig.16　1123号土壙実測図(1/20)

完形品の高台付白磁皿II類である。釉は青味を帯びた淡黄灰色で不透明である。胎土は淡黄乳灰色を呈し小砂粒を含みあまり緻密ではない。見込の釉を輪状に掻きとる。

1121号土壙 (Fig.14, PL.1)

J－04区、1120号土壙の西側に位置する略円形の土壙である。規模は長径1.0m、短径0.95m、深さ0.25mを測る。断面皿状の小形の土壙である。覆土は1120号土壙とほぼ同じで暗灰色砂質土である。

出土遺物 (Fig.15－9・10, PL.58)

10は元祐通寶（初鋳1086年）である。径1.2cmで中央部に方孔をもつ。他に底部糸切りの土師器坏、皿類が出土している。

1123号土壙 (Fig.16, PL.2)

I－02区、調査区の北東隅に検出した円形の土壙である。東側の一部は調査区外へ拡がる。径0.9m、深さ0.2mの小規模の土壙である。覆土は灰褐色砂質土で、拳大の礫を少し含む。出土土器は土師器の坏、皿類に限られ、上層からの出土が多い。

出土遺物 (Fig.17, PL.22・58)

1～12は土師器の皿である。底部は糸切りで10～12は糸切りの後に板状圧痕が残る。 口径8.4cm、器高1.4cm前後を測るものが大部分であるが、10は一回り小さく、12は大きくなる。底部は平底か、上げ底風となり、口縁部は内湾気味に外に開く。13～25は坏である。底部は糸切りで、19、25は板状圧痕が残る。内外面はヨコナデ調整で、内底面はナデ調整を行う。口径はほぼ12.5cm、器高2.7cm前後を測り、器形も底部から内湾しながら口縁部となる。24は口径13.5

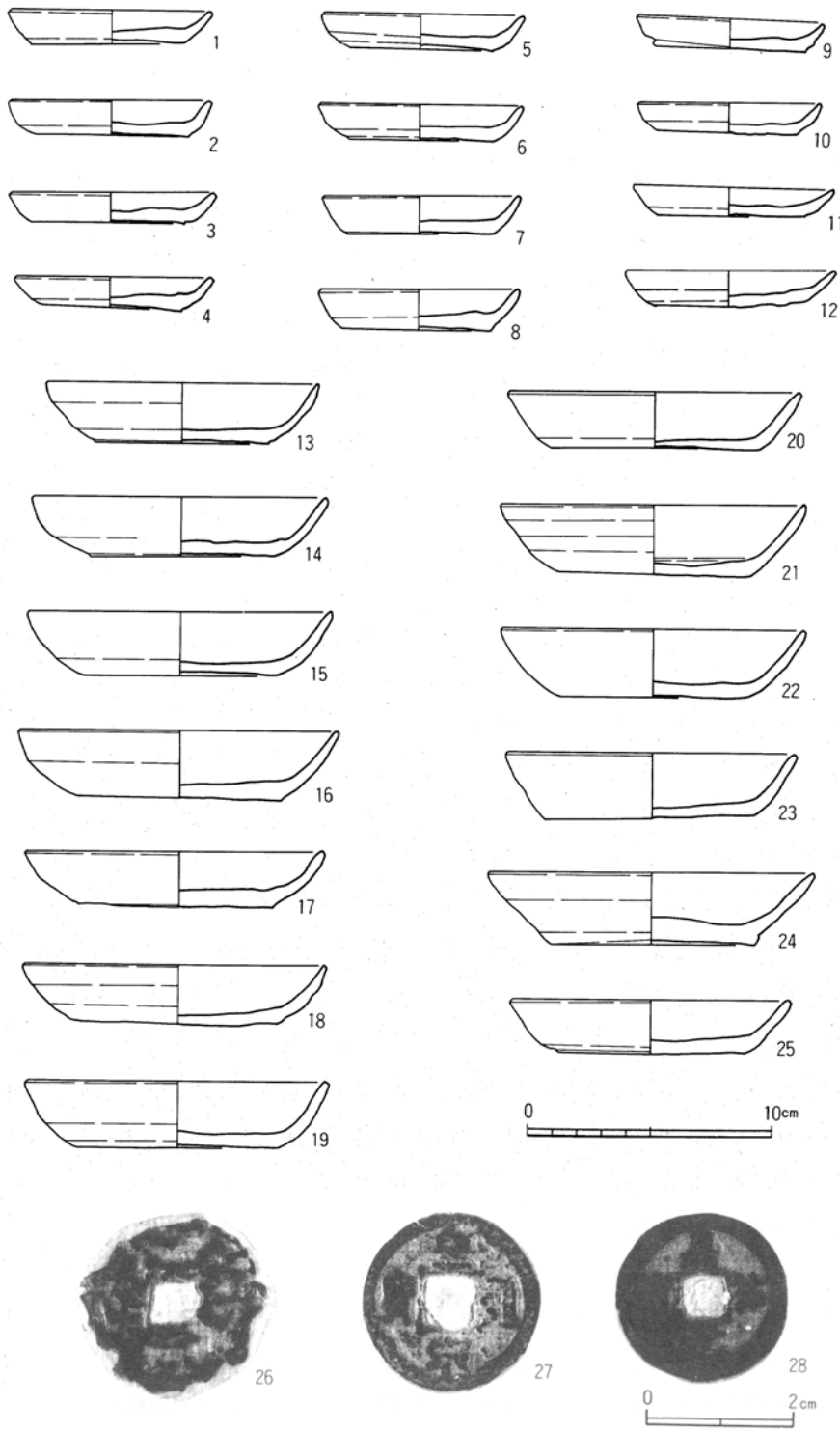


Fig.17　1123号土壙出土遺物実測図

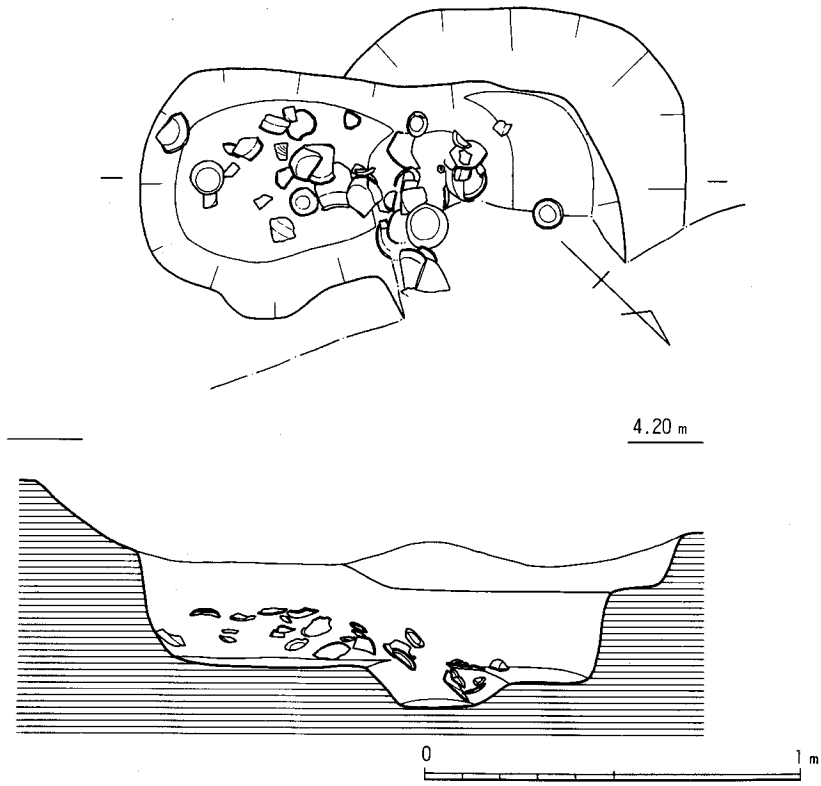


Fig.18　1123B号土壙実測図（1/20）

cm、器高3.0cmを測り少し大型品となる。26～28は銅銭である。26は□□元寶しか判読できない。27は皇宋通寶（初鋳1038年）、28は嘉祐通寶（初鋳1056年）である。他に図化できなかったが青磁、白磁の細片も出土しているが、土壙に伴うものではなかろう。

1123B号土壙（Fig.18, PL.2）

1123号土壙調査時に南壁面にかかっている土師器の完形品があったので掘り進めた結果、別の遺構と判明した土壙である。平面形は隅丸長方形で西側を1123号土壙に切られる。主軸を南北にとり、規模は長径2.0m、短径0.66m、深さ0.4mを測る。覆土は1123号土壙と類似するが少し暗褐色を帯びる。この土壙も土師器の坏、皿が多量に出土しているので1123号土壙と同様の性格をもつと考えられよう。

出土遺物（Fig.19・20, PL.22・58）

1～21は底部糸切りの土師器皿で板状圧痕が残るのは5、21である。1、2、5、6、21は口径7.8cm前後を測る小型品で、12、19は口径8.8cmを超える。他は口径8.0～8.4cmの範囲におさまる。内外面ともヨコナデ、内底面はナデ調整を行う。22～33は土師器坏である。口径が11.7cm前後、

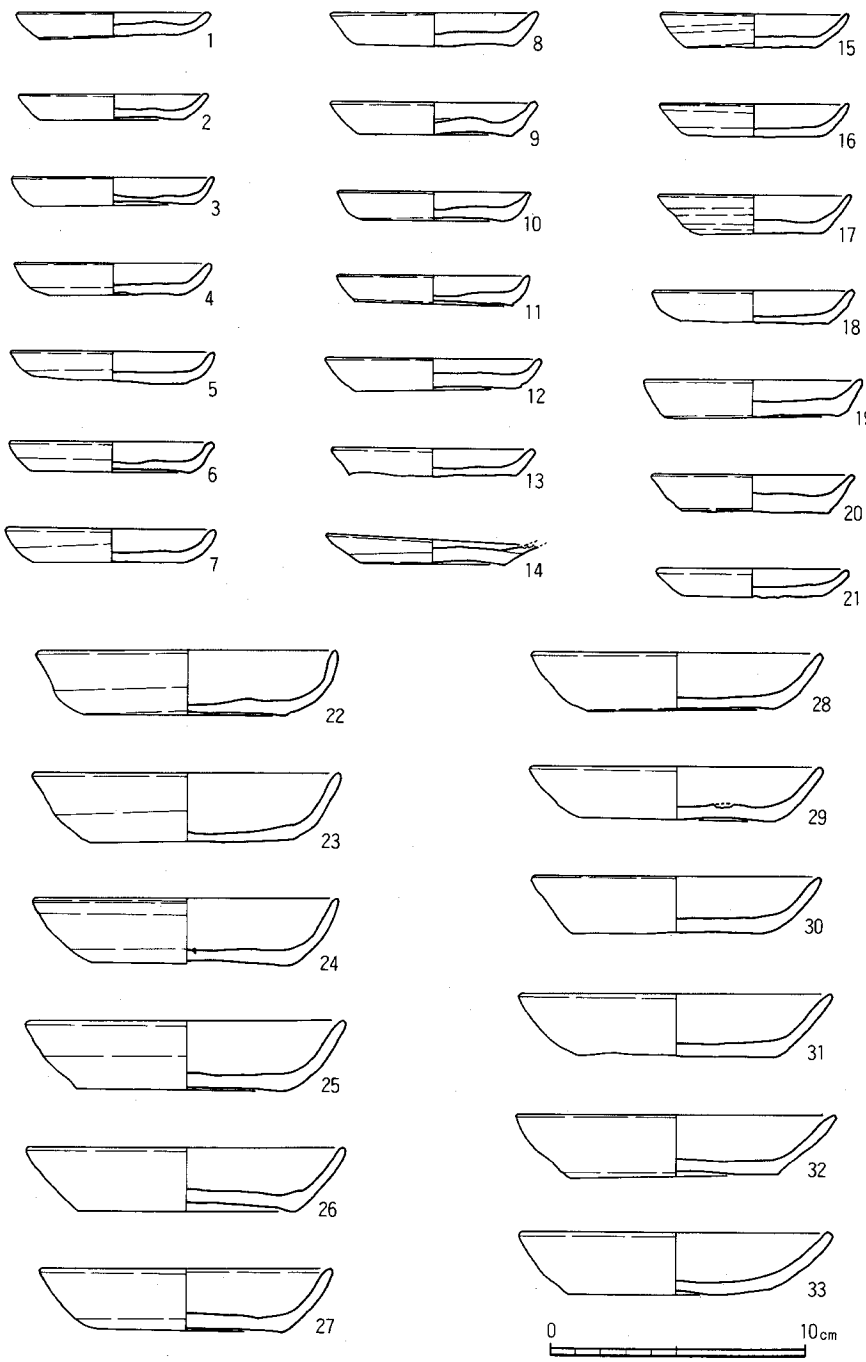


Fig.19　1123B号土壙出土遺物実測図(1)

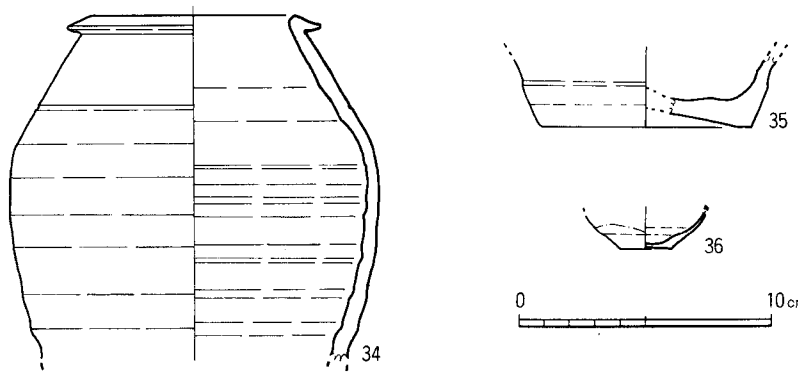


Fig.20　1123B号土壙出土遺物実測図(2)

器高2.3cmを測るのは27～30、口径12.8cm前後、器高2.6cmを測るのが25、26、31～33で、口径12.3cm前後、器高2.5cmは22～24である。底面は33を除き平底で、33は丸味をもった底部となる。調整は内外面ともヨコナデ、内底面がナデである。34、35は陶器C群の壺である。34は最大径を胴上半部におき、肩部に一条の沈線をめぐらす。口縁部は外側へつまみ出し三角突帯状とする。胎土は白色細砂粒を多く含む暗灰色で焼成は良好である。内外面とも施釉され外面は黒褐色、口縁部上面は茶褐色、内面も黒褐色で轆轤目の稜線の部分は薄く茶褐色となる。35の畳付部は露体のままである。36は陶器茶入れの底部片である。胎土は砂粒を少し含むが緻密で焼成良好である。釉は茶褐色で胴下半から底部と内面にかけて露胎である。底部は糸切りを行っている。

1125号土壙 (Fig.21, PL.1)

J－03区、調査区の西側に位置し、3803号ピットを切り、1126号土壙に切られる。平面は長楕円形で長軸1.1m以上、短軸0.7m、深さ0.25mを測る規模である。覆土は暗灰色土で軟質である。出土遺物は少く白磁の碗V類が一点、底部糸切りの土師器が数点出土している。

1126号土壙 (Fig.21, PL.1)

1125号土壙を切って西側に位置する楕円形の土壙である。西側は調査区外へもさらに拡がっている。現況で長軸0.8m以上、短軸0.85m、深さ0.2mを測る。覆土は黄褐色土である。出土遺物は白磁の碗II類、V類、口ハゲ碗、龍泉窯系青磁碗、明染付碗、あるいは国産の底部糸切り土師器などが少量ある。

1128号土壙 (Fig.21, PL.1)

I－01区、調査区の西北隅に検出した土壙で、大部分は調査区外へ拡がっているので全体の形状は不明であるが、不整円形をなすものであろう。深さは約0.35mを測る。覆土は明灰色砂質

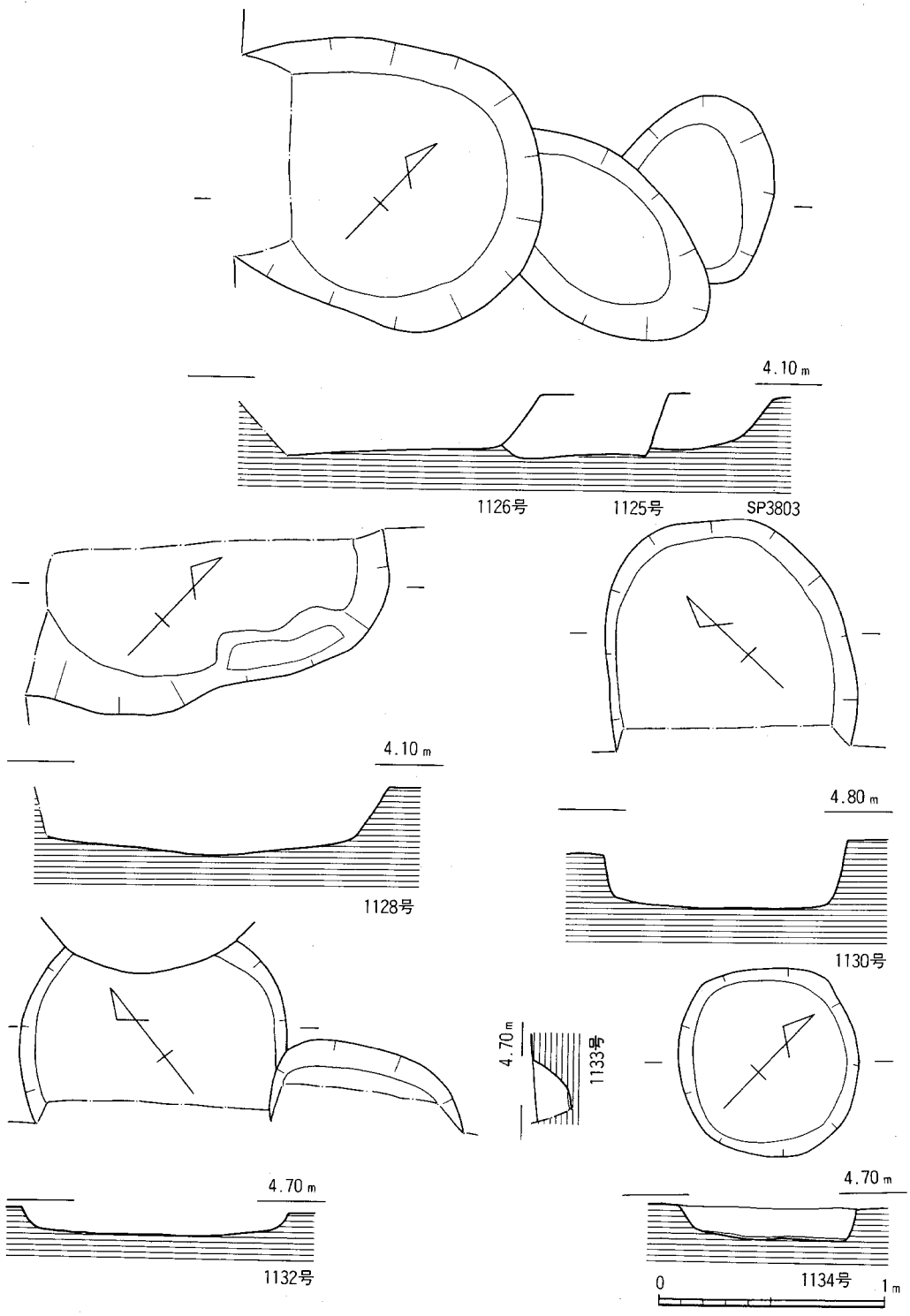


Fig.21　1125・1126・1128・1130・1132・1134号土壙実測図 (1/30)

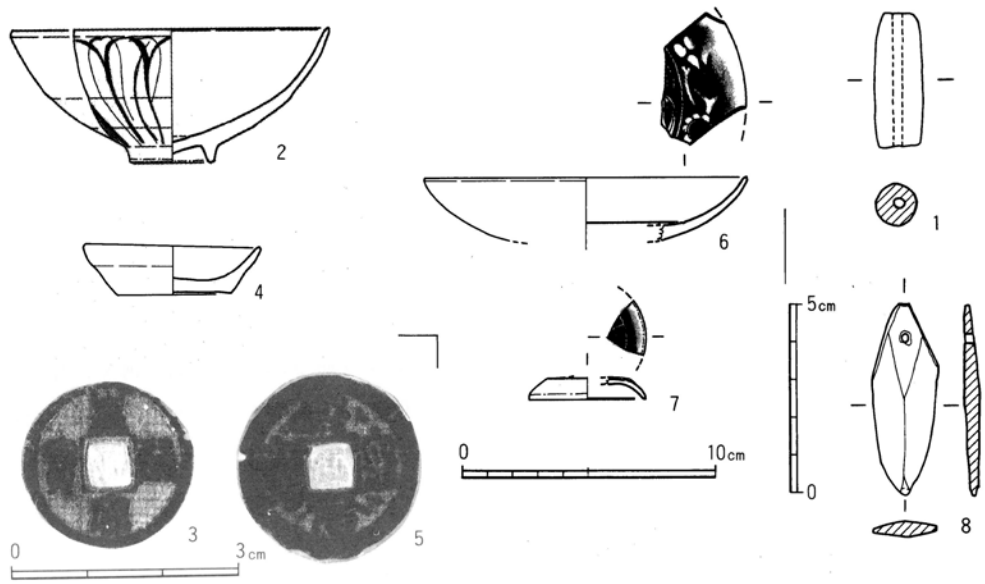


Fig.22　I面土壙出土遺物実測図(2)

土である。

出土遺物（Fig.22－1～3，PL.58）

1は管状土錘である。直径1.3cm、長さ3.5cmを測る。焼成はあまり良くない。2は龍泉窯系の蓮弁文碗である。高台は小さく畳付以外は全面施釉する。釉は青緑灰色で、胎土は灰白色を呈し緻密である。3は皇宋通寶（初鋳1038年）である。他に錆が著しく判読不能な銅銭が7枚出土している。

1130号土壙（Fig.21，PL.1）

J－03区に位置し、西はさらに調査区外へ延びる楕円形の浅い土壙である。東西0.95m以上、南北1.15m、深さ0.26mを測る。覆土は淡褐色土である。近世の土壙である。

出土遺物（Fig.22－4・5，PL.23・58）

4は土師質の小皿である。口径6.7cm、器高1.8cmを測る。底部は糸切りである。体部中央に稜をもち立ち上がる。内外面ともヨコナデ調整である。5は熙寧元寶（初鋳1068年）である。

1132号土壙（Fig.21，PL.1）

J－03区、1130号土壙の南に位置する円形の土壙である。東側は167号井戸に切られ、西側は調査区外へ延び、調査したのは全体の約半分である。東西0.8m以上、南北1.2m、深さ0.12mを測る。

出土遺物（Fig.22－6・7）

6は枢府の白磁で高台付皿であろう。底部は欠失している。白灰色の緻密な胎土で淡い青味を

帯びた白灰色の不透明釉を施す。釉下は型押しでレリーフ状に文様を浮かびあがらせている。7は青白磁の合子の蓋である。胎土は白くきめ細かで、釉は透明感のある空色である。口縁部から内側は露胎である。

1134号土壙 (Fig.21, PL.1)

J－04区、154号井戸の西側に位置するピット状の土壙である。0.4m×0.42m、深さ0.2mの円形の浅い掘り込みである。覆土は灰褐色土である。

出土遺物 (Fig.22－8, PL.23)

剣形の石製品である。硬質砂岩系の石材である。両側より研き出し、両端を薄く、中央部が厚くなり稜をもつ。両側面は平担に研磨され、基部も側面から研磨し一孔を穿つ。研磨は緻密である。他に出土している遺物は白磁Ⅴ類の碗、口ハゲの皿、龍泉窯系の碗、底部糸切りの土師皿などがある。

1137号土壙 (Fig.23, PL.3)

J－01、調査区南端に位置する狭長な溝状土壙である。幅0.55m、現存長3.35m、深さ1.92mを測る。南側は攪乱土壙に切られ、全長は明らかでないが、南側床面の立ち上がりから判断して全長4m前後の長さになろう。東、西側は、ほぼ直線となり、北端は丸く、側壁は垂直になる。床面は中央部が深く、南北が丸味をもち緩やかに立ち上がり、中央に段をもつ。覆土は炭化した籾、焼土塊、木炭等が大部分でその中に黒褐色の軟質土が混在する状況で一時期に埋めた可能性が強い。湿気を防ぐための施設と考えられるが、この遺構だけでは何の目的でいかなる用途に用いたのか不明である。16世紀末まで下る土壙である。

出土遺物 (Fig.24・25, PL.24・25・58)

1は土師器の坏である。口径10.0cm、器高2.4cmを測る。底部は糸切りの後、板状圧痕が残る。胎土には砂粒を多く含み、良くない。焼成は良好で、明赤褐色～暗赤褐色を呈する。2は白磁碗Ⅳ類である。胎土は白灰色、釉は灰クリーム色を呈し、高台脇から底部にかけては露胎である。口縁部は折り返しで釉だれが認められる。見込に沈圏線をめぐらす。 3～10は明代高台付白磁皿である。3は口径17.6cm、器高4.3cmを測る。胎土は白灰色で緻密、釉は淡い白灰色で畳付のみ露胎である。三角形の高台から体部にかけて内湾し、口縁下で外反する。4～10は小皿で、口径11.6cm、器高2.6cmを測るものが多い。胎土、釉は3と同じ。11～13は木葉型の青磁皿である。明代と考えられるが、国産ではないかとの指摘もある。平面形は木葉状を呈し先端が尖る。白灰色の緻密な胎土、明灰緑色の釉で全体に氷裂が認められ表面は二次熱を受け光沢が消えている。底部は露胎で灰茶色を呈する。口縁は稜花で体部は菊花状の波状とする。全体に厚手の造りで洗練さを欠く。14は明代の高台付染付皿である。全体に青味を帯びた白灰色の釉で畳付のみ露胎である。染付は藍色で見込に草花文と鳥文を描き、口縁下に2条の圏線をめぐらす。外面

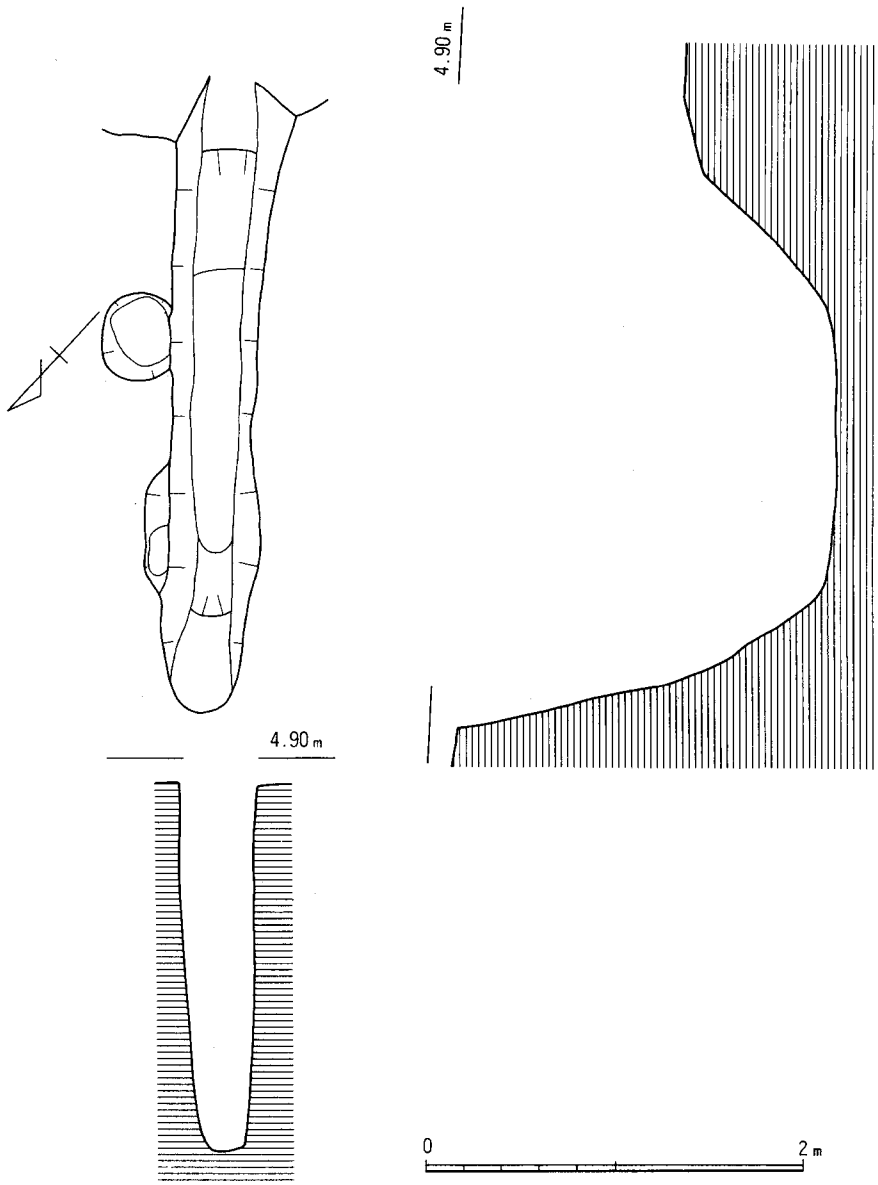


Fig.23　1137号土壙実測図 (1/40)

も体部に草花文をもつ。器形は3の白磁皿と同様で少し薄手である。15、16は李朝陶器の壺で同一個体と考えられる。胎土は暗赤褐色の精選されたもので、全面に施釉される。外面は暗緑褐色、内面は茶褐色を呈する。器壁は薄く、内面に波状の線が残る。平底で胴部の張りが少く、口縁部は外反し肥厚させる。17、18は備前焼の壺である。17は口縁部から胴部にかけての破片

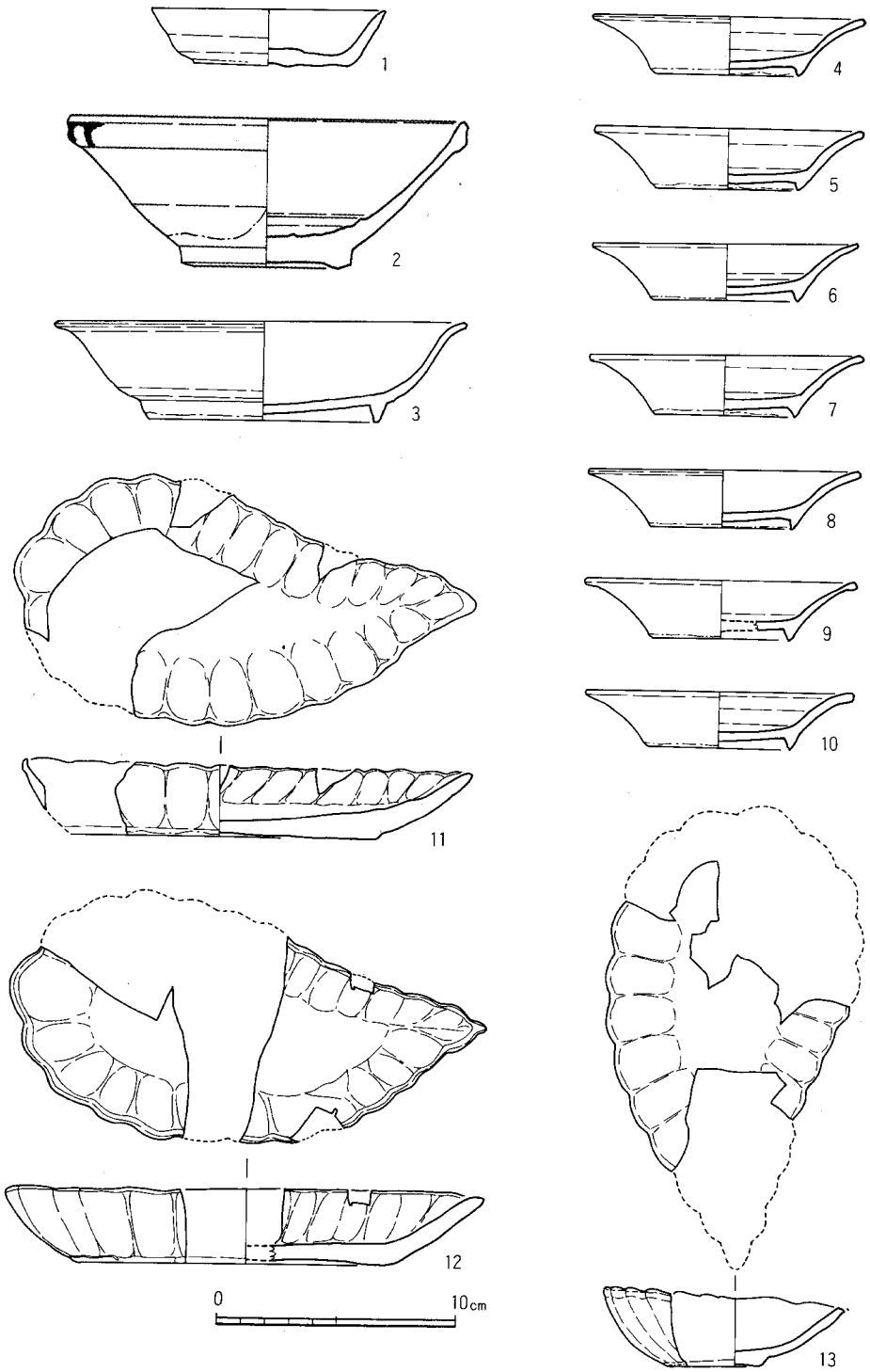


Fig.24　1137号土壙出土遺物実測図(1)

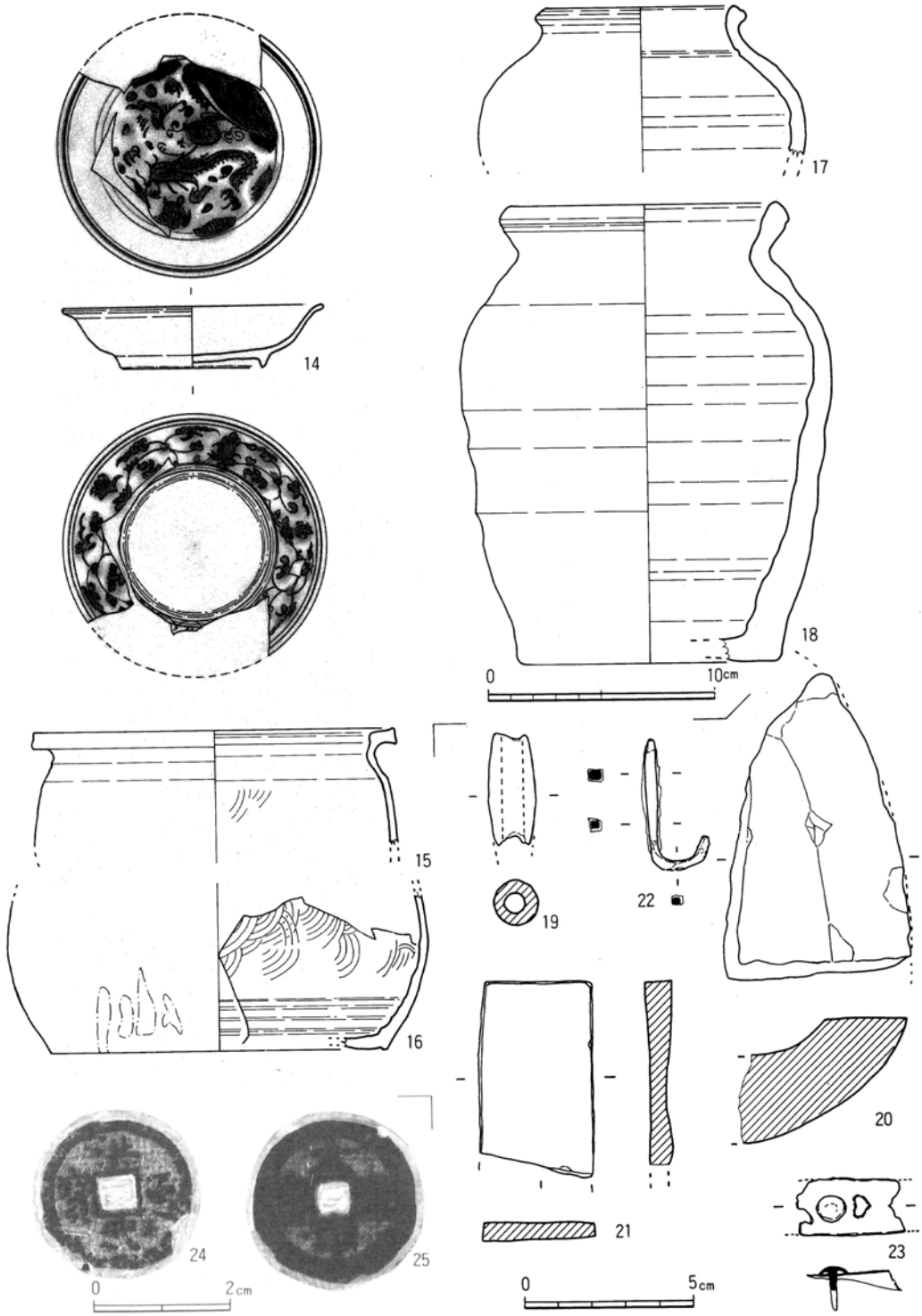


Fig.25　1137号土壙出土遺物実測図(2)

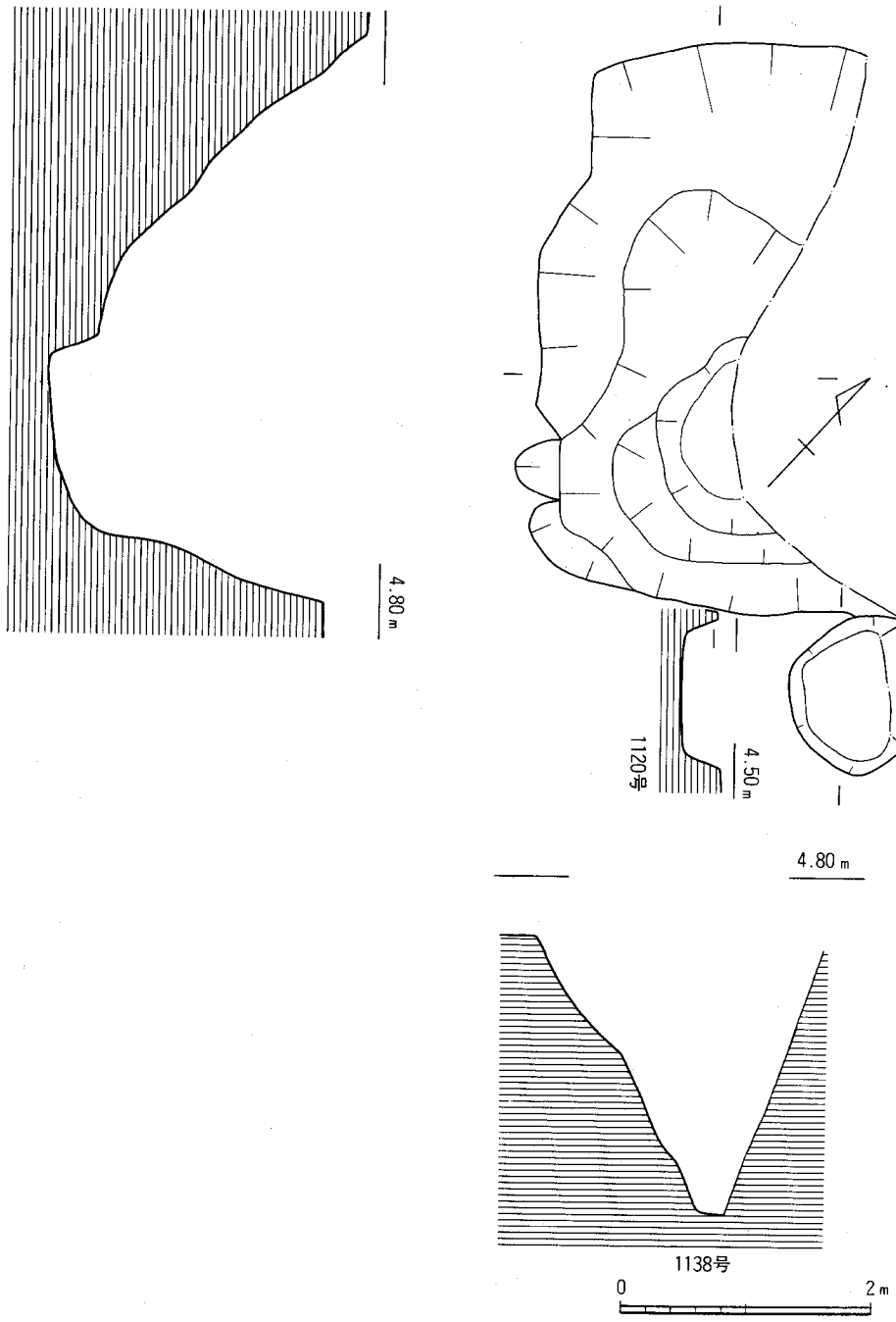


Fig.26　1120・1138号土壙実測図(1/60)

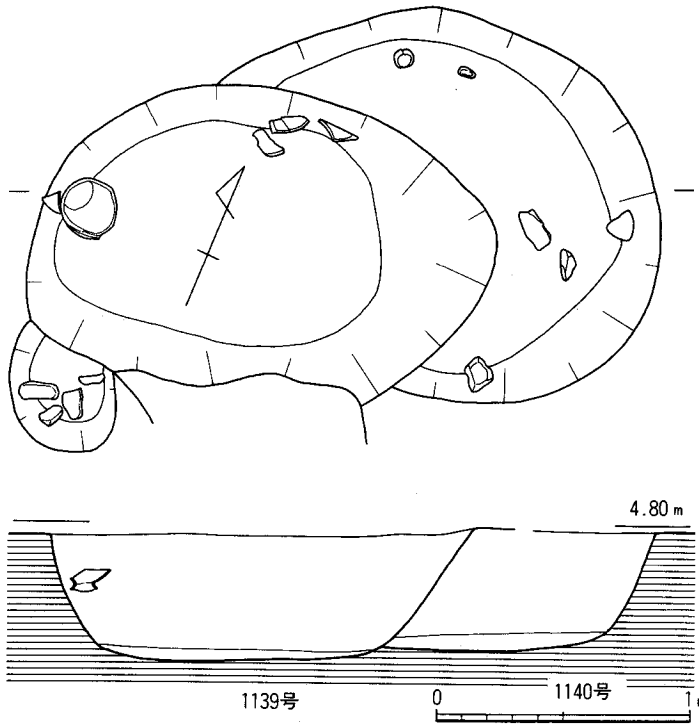


Fig.27　1139・1140号土壙実測図 (1/30)

である。口縁部は肥厚し、短い頸部から丸い胴部となる。外面は暗褐色～暗茶褐色を呈し、胎土、焼成とも良い。18は口縁部片と胴～底部片の合成した図である。平底で胴上位に最大径をもち、短い頸部から外反する口縁部となる。口縁部はいくぶん肥厚させている。色調は15と類似するが、胎土に小礫を多く含んでいる。19は土製の網錘である。径1.4cm、長さ3.4cmを測る。21は粘板岩系の淡肌色の石材を用いた仕上砥である。表面は使用により中央部が少し窪む。側面は未使用で裏面は剝離欠損しているので不明である。22は鉄製の釣針である。先端をU字に曲げ、逆刺はない。断面は四角で、先端部は丸く尖る。23は薄い半円状の銅板に円形とハート形の孔をあけている飾金具である。円形の孔に割鋲を通す。24は洪武通寶（初鋳1368年）、25は大平通寶（初鋳976年）である。

1138号土壙 (Fig.26, PL.3)

I－02区、調査区の東北寄りに位置する大型の土壙である。東側が調査区外へと続いているので、全体の形状は不明である。現状では略長方形の平面である。東西3m以上、南北4.6m、深さ2.2mを測る。覆土は灰褐色砂質土のほぼ単一層で、一時期に埋められた可能性が強い。北側の壁面の傾斜は緩やかで、中位で二段の傾斜の変化を示す。南西側は急激に傾斜して床面となる。床面は、南北1.1m、東西0.45m以上を測り平面は不整であろう。4次調査で検出したSX32

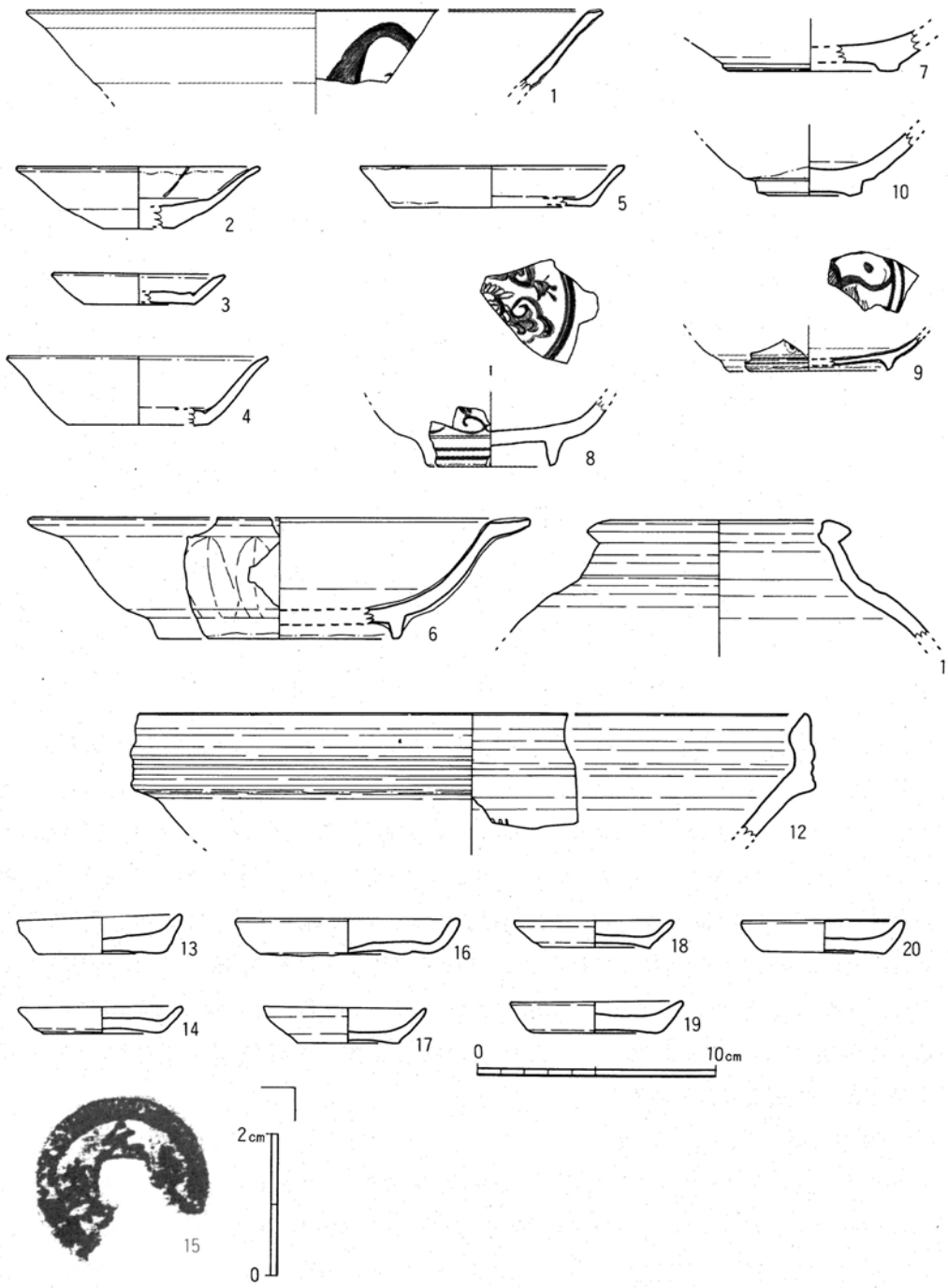


Fig.28　1138・1139・1140号土壙出土遺物実測図

と類似する形態であるがその性格は明らかではない。

出土遺物 (Fig.28－1～12)

1は内面に鉄彩文を描く白磁の鉄絵鉢である。釉は少し緑を帯びたクリーム色、鉄絵は焦茶色を呈する。胎土は白灰色で微砂を含む。2は白磁平底皿である。内面に白堆線が認められ、体部と内底部の境に緩やかな段をもつ。胎土は白灰色、釉は白灰飴色で底部は露胎である。3～5は口ハゲの白磁皿である。3は小皿で口縁部以外は緑白灰色の釉を施す。胎土は白灰色で緻密である。8、9は明代染付碗である。8は高台付碗で見込の2条の沈圏線の内側に草花文様、外面には高台から底部にかけて線文、体部に草花文様を描く。畳付のみ無釉で、他は全体にうすい青味を帯びた白色釉を施す。10は天目碗の底部片である。胎土は灰白色～肌色の緻密なもので、細かい気泡を含む。釉は黒褐色で、釉が薄い部分は茶褐色である。11は陶器B群の壺で口縁部は肥厚し、断面が三角形となる。胎土は白灰色で微砂を含む。釉は灰色を帯びるオリーブ色で光沢がある。12は古窯系の擂鉢である。口縁部は幅広で垂直に立ちあがり2条の凹線をめぐらす。胎土は明茶褐色で緻密、釉は海老茶色が薄くかかり不透明である。

1139号土壙 (Fig.27, PL.1)

J－01、02区、1137号土壙の西側に位置する土壙である。南側を攪乱土壙に切られて、東側で1140号土壙と重複する。東西1.89m、南北1.15m、深さ0.5mを測る不整楕円形の土壙である。覆土は灰褐色砂質土である。

出土遺物 (Fig.28－13・14, PL.25)

土師器の小皿で底部糸切りである。13は底部が厚く、胎土に砂粒を多く含む。14は底部が上げ底気味で、口縁から底部にかけてヨコナデ、内底面はナデである。他に白磁碗Ⅳ、Ⅴ類、明代染付碗などの輸入陶磁器と共に近世以降の唐津、伊万里系の陶磁器が出土している。

1140号土壙 (Fig.27, PL.1)

J－02区、1139号土壙に西側を切られた不整楕円形をした土壙である。東西約1.2m、南北1.05m、深さ0.45mを測り断面深鉢状を示す。

出土遺物 (Fig.28－16～20, PL.25)

16～20は底部糸切りの土師器の小皿である。16は少し大きめで他のより古手で口径9.6cm、器高1.6cmを測る。糸切り時に体部との境に段を残している。19、20は厚い底部から短い体部となる。他に中国陶磁器では白磁碗Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ類、明代染付などが出土している。

2)井戸の調査

Ⅰ面で確認した井戸は計13基あるが、瓦井筒の近世後半から現代にかけての井戸が大部分を占める。井戸の掘り方により二つに大別できる。ひとつは掘り方が1m前後の小さい掘り方のものである。Ⅰ面で遺構検出時に瓦井筒が確認でき、その出土遺物は現代のガラス、煉瓦、鉄製

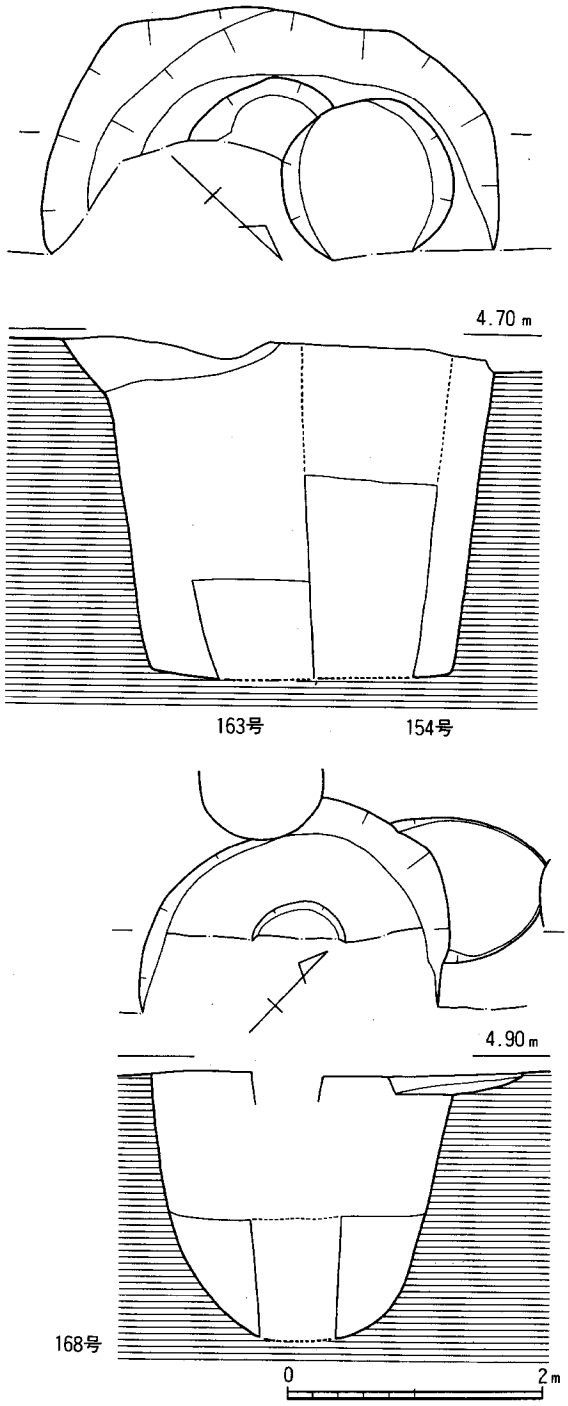


Fig.29　154・163・168号井戸実測図 (1/60)

品、瓦、近代陶磁器等がありごみすて場として用いられている。一方径2m前後あるいはそれ以上の掘り方をもつ井戸で、Ⅰ面では井筒は確認できないが1m以上掘り下げると井筒を確認できるものである。このタイプの井戸からは現代の遺物は出土しないので、近世の井戸であろう。以下近、現代の井戸については割愛して古いものについて記載する。なお出土遺物については、目についたものについて図化している。

168号井戸 (Fig.29, PL.1)

J－01区、調査区の南端に位置する井戸で、北側を159号井戸に切られ、南側は調査区外へ拡がって全体の半分にも満たない調査であった。掘り方は、ほぼ円形で直径2.35m、深さ2.2mまで確認できた。なお調査区の壁を傾斜をつけて掘り下げるので、下面まで調査することはできなかった。中央には木桶を用いたと考えられる井筒部が確認できた。直径0.75mの掘り方でほぼ円形を呈する。

出土遺物 (Fig.32－38･41, PL.26)

38は青磁碗である。釉は半透明の灰オリーブ色で胎土は灰色で緻密である。全面施釉され高台に目跡が残る。41は李朝白磁碗である。胎土はクリーム色でパサパサした粗雑なもので、釉はうすく緑を帯びた飴色である。畳付から内底面は露胎である。

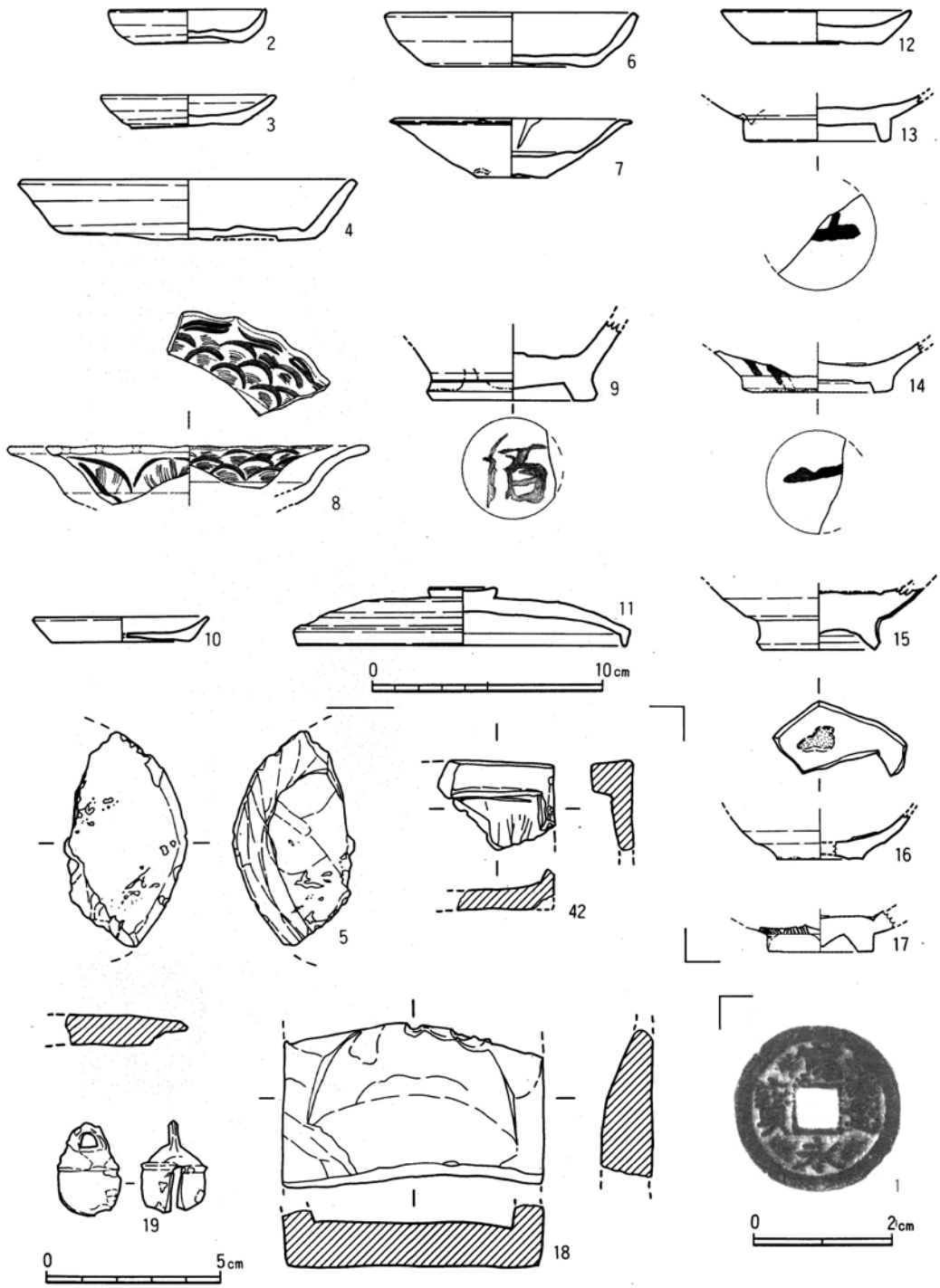


Fig.30　I面井戸出土遺物実測図(1)

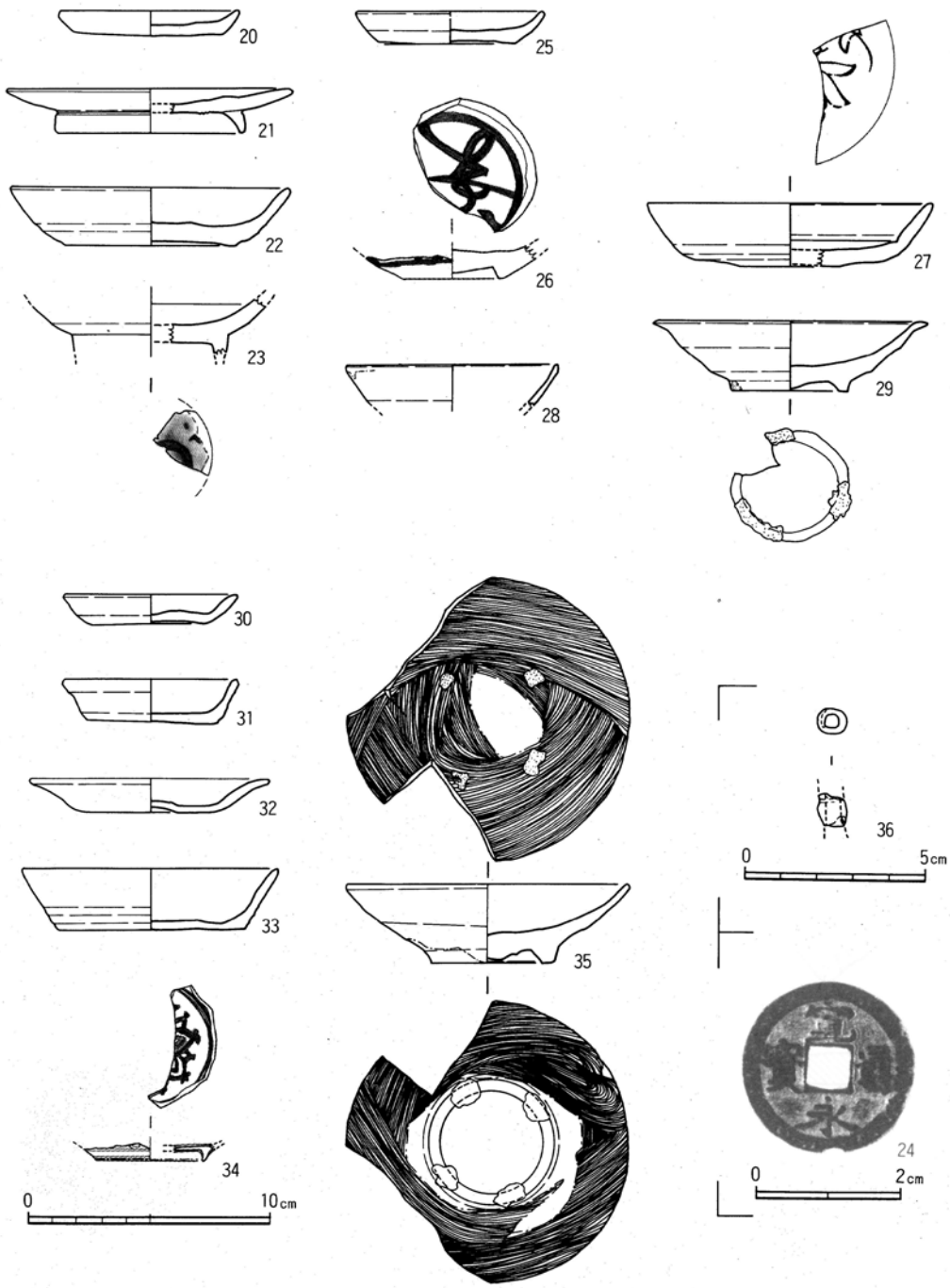


Fig.31　I面井戸出土遺物実測図(2)

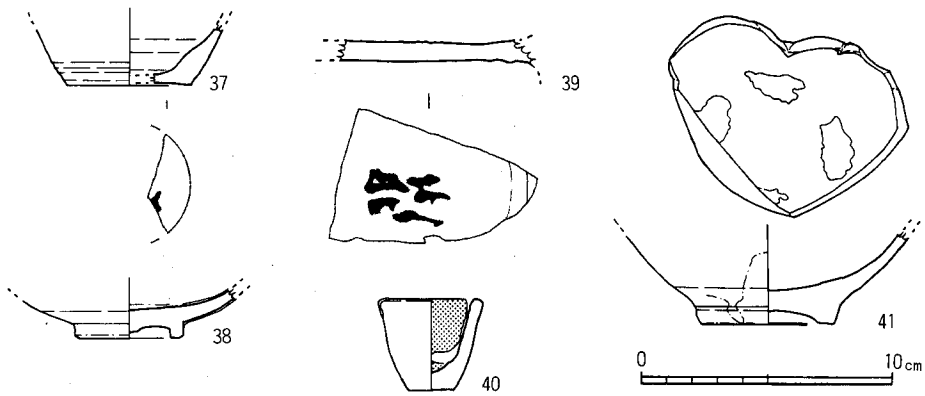


Fig.32　I面井戸出土遺物実測図(3)

内底には4ケ所に目跡が残る。

I面井戸出土遺物 (Fig.30～32, PL.25・26・58・60)

1は153号井戸出土の寛永通寶である。2～4は154号井戸出土の底部糸切りの土師器坏、皿である。2、3は皿で、3は底部から直線的に体部が開き、2は内湾気味に立ち上がり口縁端部はすぼまる。4は坏で底部は一度糸切りを失敗して、押圧して再度調整している。6、7は155号井戸出土である。6は底部糸切りの土師器坏、7は白磁II類の平底皿で、内面に白堆線と沈圏線をめぐらし口唇部外側に刻み目を数ケ所施す。8、9は154号井戸出土。8は龍泉窯系青磁皿である。胎土は灰白色で細砂粒を少し含むがやや緻密である。釉は淡暗緑灰色の半透明で厚く施釉する。底部から体部にかけて開き、体部中位で外反して口縁部となる。口縁部は稜花としている。内外面とも波状の片切彫文様の下に櫛描文を描き鱗状文とする。9は白磁の壺である。胎土は淡明灰色で細かい砂粒を含むが緻密で、釉は灰白色の透明釉である。高台、底部は露胎で墨書が認められる。「人」偏は判読できるが旁は不明。10、11は158号井戸出土。10は底部糸切りの土師器、11はつまみのつく須恵器坏蓋である。12～19は160号井戸出土。12は底部糸切りの土師器の皿である。13～17は輸入陶磁器類である。13、14は白磁碗で高台脇から底部は露胎、墨書が認められる。15は厚い底部の龍泉窯系青磁碗である。高台の内側を大きく斜めに削り取る。胎土は灰白色で釉はオリーブ色である。見込の沈圏線の内側、底部から高台の内側は露胎である。16は李朝青磁の碗である。胎土は灰肌色で白砂粒混り、釉は灰オリーブ色で器内は白色に変化している。見込には目跡が残る。全面に施釉し、畳付部の釉を掻きとる。17は同安窯系青磁碗である。18は石製硯で陸部裏面を欠損する。淡い小豆色の石材で、使用による磨耗が認められ、表面に墨が付着する。19は銅製鈴である。42は161号井戸出土の滑石製硯で大部分を欠失する。20～24は163号井戸出土。20～22は底部糸切りの土師器の坏、皿である。21は高台付皿で皿部は

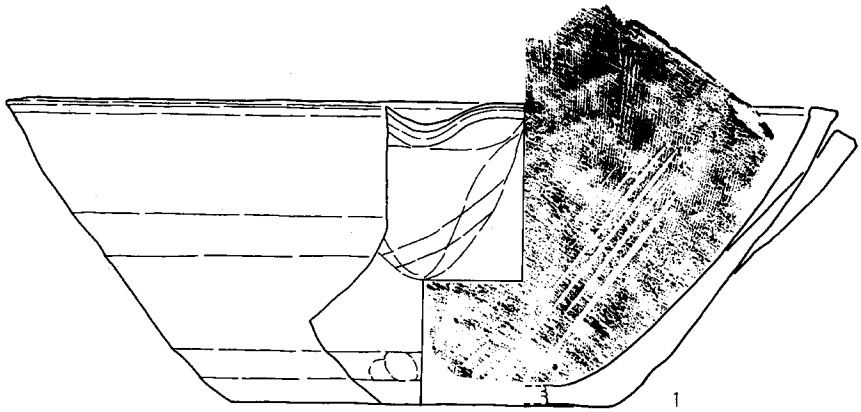
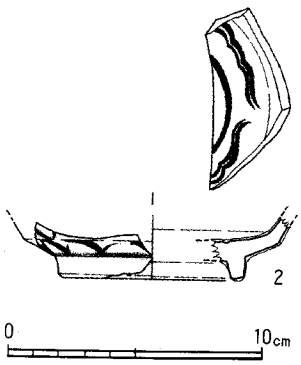


Fig.33　Ⅰ面ピット出土遺物実測図



板状で中央が少し窪む。23は白磁碗で高台内の露胎部に赤色顔料を塗布し、その上に墨痕がある。24は寛永通寶である。25、26は164号井戸出土。25は底部糸切りの土師器皿である。26は明代染付の碁笥底皿である。釉は青味を帯びた白色である。見込の沈圏線の内側に寿を図案化している。27～29は165号井戸出土。27は白磁の皿、28は白磁小碗である。29は李朝青磁である。胎土は灰色で白砂粒を含み粗い。透明感のあるオリーブ色の釉を施す。畳付に3ケ所目跡が残る。高台は低く内側を斜に削る。口縁部は外反し、平坦面をつくる。30～36は166号井戸出土。30～33は土師器の坏、皿である。32は丸い底部から外反する口縁部である。底部は指頭押圧の後ナデ、他はヨコナデ調整である。34は明代染付で見込に花文を描く。35は李朝青磁碗で高台脇から底部を除き白化粧土を文様風に施す。胎土は赤茶色～灰色で砂粒を含み粗い。全面に白灰色の釉が認められ高台の畳付と見込に4個の目跡が残る。36は国産のガラス玉である。連珠状に連なったものである。径0.4cm、現存長0.46cmを測る。色調はライトブルーを呈する。37～40は167号井戸出土。37は土師質の近世の陶器壺である。底部に墨書がある。38は青白磁碗で見込は釉を掻きとる。39は陶器鉢の底部で赤色顔料の上から墨書がある。40は国産の土師質小壺である。内面には全体に銅滓が付着し坩堝として使用したものであろう。

3)ピットの調査 (Fig.12)

Ⅰ面からは径0.7mを測る大きく深いピットがかなり出土しているが掘立柱建物等は復元することができなかった。出土遺物は12世紀代の白磁、青磁、李朝象嵌青磁や近世の備前、伊万里、

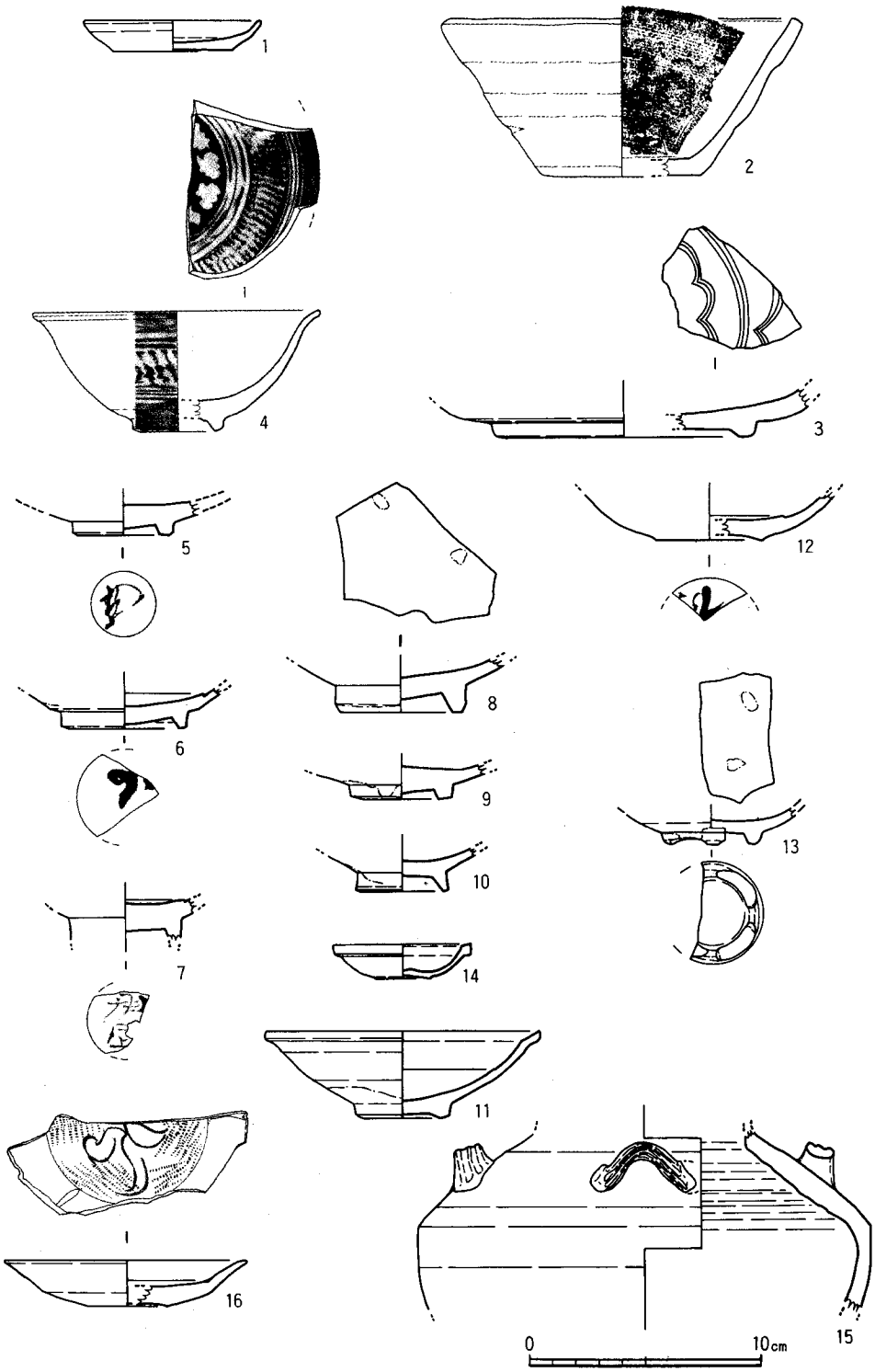


Fig.34　I 面包含層出土遺物実測図(1)

唐津焼まで各時代のものがある。

出土遺物 (Fig.33, PL.60)

1は土師質の片口擂鉢である。胎土は大粒の白砂混りで白橙色を呈する。器内外ともヨコナデ調整である。外面に指頭痕があり内面には刷毛目が残る。2は龍泉窯系の青磁皿である。胎土は白灰色で緻密、釉は白濁したオリーブ色で全体に厚く施釉する。

4) 包含層出土遺物 (Fig.34～37, PL.27・28)

Ⅰ面の遺構検出時、及びⅠ面の下からⅡ面まで掘り下げた時に出土した遺物を一括している。また攪乱土壙、壁面からの出土遺物を含んでおり、各時代にわたっている。

土器 (1～3)

1は土師器の皿である。口径7.8cm、器高1.2cmを測る。底部は糸切りである。2は瓦質の捏鉢である。胎土は白灰色で砂粒を多く含む。内面は刷毛目調整を行う。3は瀬戸の盤である。胎土は白灰クリーム色で釉は黄緑白色で高台畳付は無釉である。見込には弧状の線刻文を描く。

輸入陶磁器 (4～43)

4は李朝の粉青沙器の碗である。復元口径12.6cm、器高5.3cmを測る。胎土は灰色ないし白濁した肌色、釉は白灰色で釉下に白色の化粧土で曲線文を描く。5～11は白磁碗で5～7は底部に墨書をもつ。字体は残りが少く判読できない。11は小碗で胎土、釉ともにⅣ類に類似する。ただ玉縁口縁ではなく内面に稜をもち外に開く。12は白磁の平底皿で露胎の底部に墨書が認められる。13は明代の高台付白磁皿である。高台脇から底部は露胎で高台部を4ケ所弧状の抉りとなる。釉は少しベージュを帯びた白で胎土は黄褐色を帯びる。見込に目跡が残る。14は白磁の器蓋である。釉は淡いオリーブ色、胎土は白灰色である。口縁部から下は露胎である。15は白磁四耳壺の胴部片である。胴上半部に稜をつくり肩部に四個の耳がつく。胎土は白灰色で緻密、釉は青味を帯びる灰白色である。16は龍泉窯系青磁皿である。釉はガラス質の青味をおびたオリーブ色で見込に線文と櫛描文、露胎の底部に墨痕をもつ。17～25は明代の染付碗である。17は内湾して直線的に口縁部となる。18、19は口縁部が外反する。17は鳥、18、19は草花文様を染付する。20は外面に芭蕉文をもつ底部片である。21は器壁がうすく、底部から直線的に立ち上がり口縁部が強く外反する小碗である。内面に雷文、外に梅花文をもつ。22は畳付から底部は露胎、23、24は畳付のみ露胎である。26～32は龍泉窯系青磁である。26は鍔付皿で外面に蓮弁文を描く。胎土は白灰色で緻密、釉は乳白色で厚ぼったく施す。27は束口碗で外面に蓮弁文をヘラ描する。28の見込には印花文、29は見込の釉を掻きとり外底には墨書が認められる。31は腰折皿である。胎土は白灰色で釉は厚く白濁したオリーブ色を施し、ヘラで文様を書く。32は大碗で胎土は褐色を帯びる灰色、釉は半透明のオリーブ色で、畳付と見込を輪状に掻きとる。33は越州窯系青磁碗である。34は青白磁の仮高台付皿で露胎の底部に墨書が認められる。35は青白磁

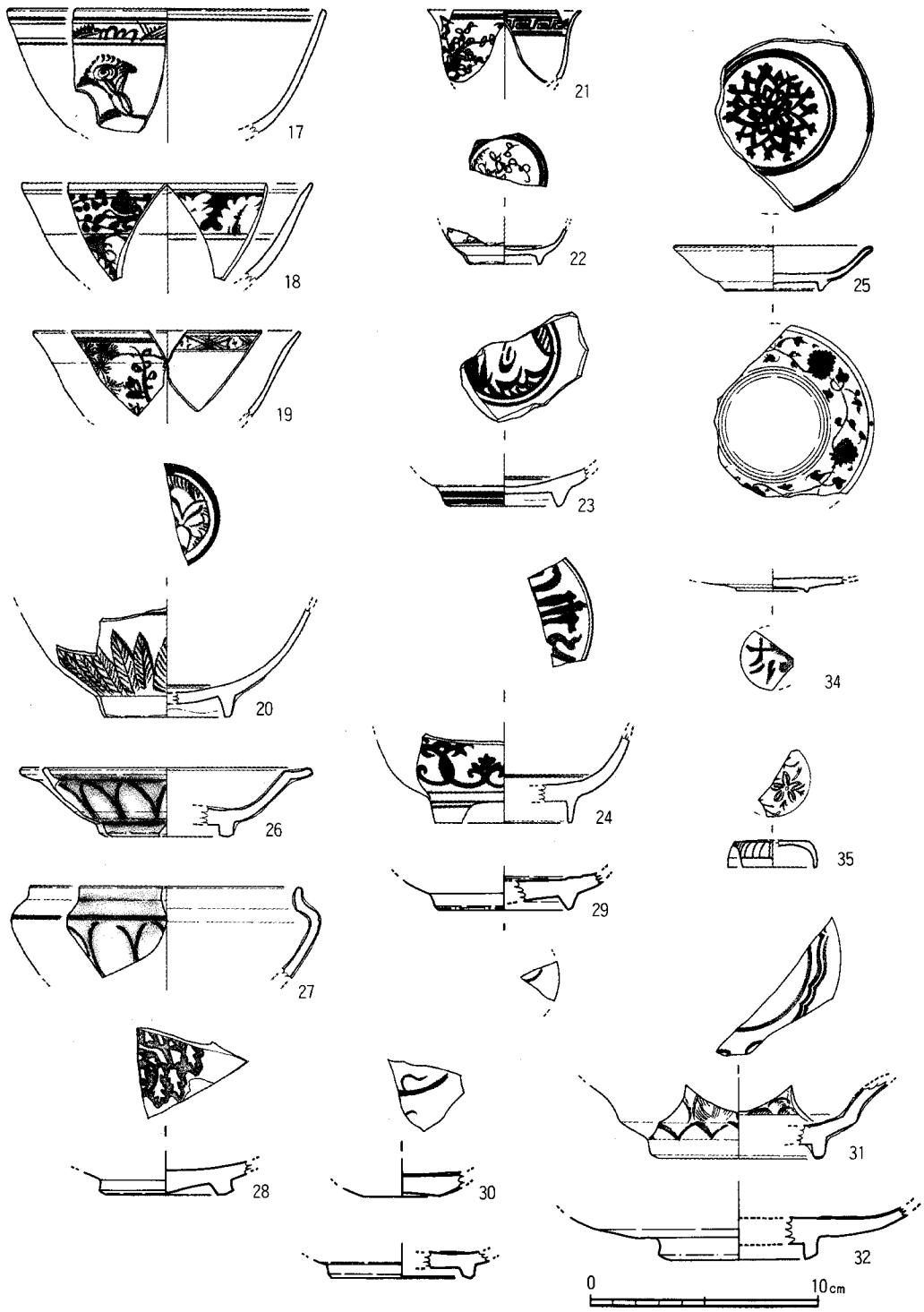


Fig.35　I面包含層出土遺物実測図(2)

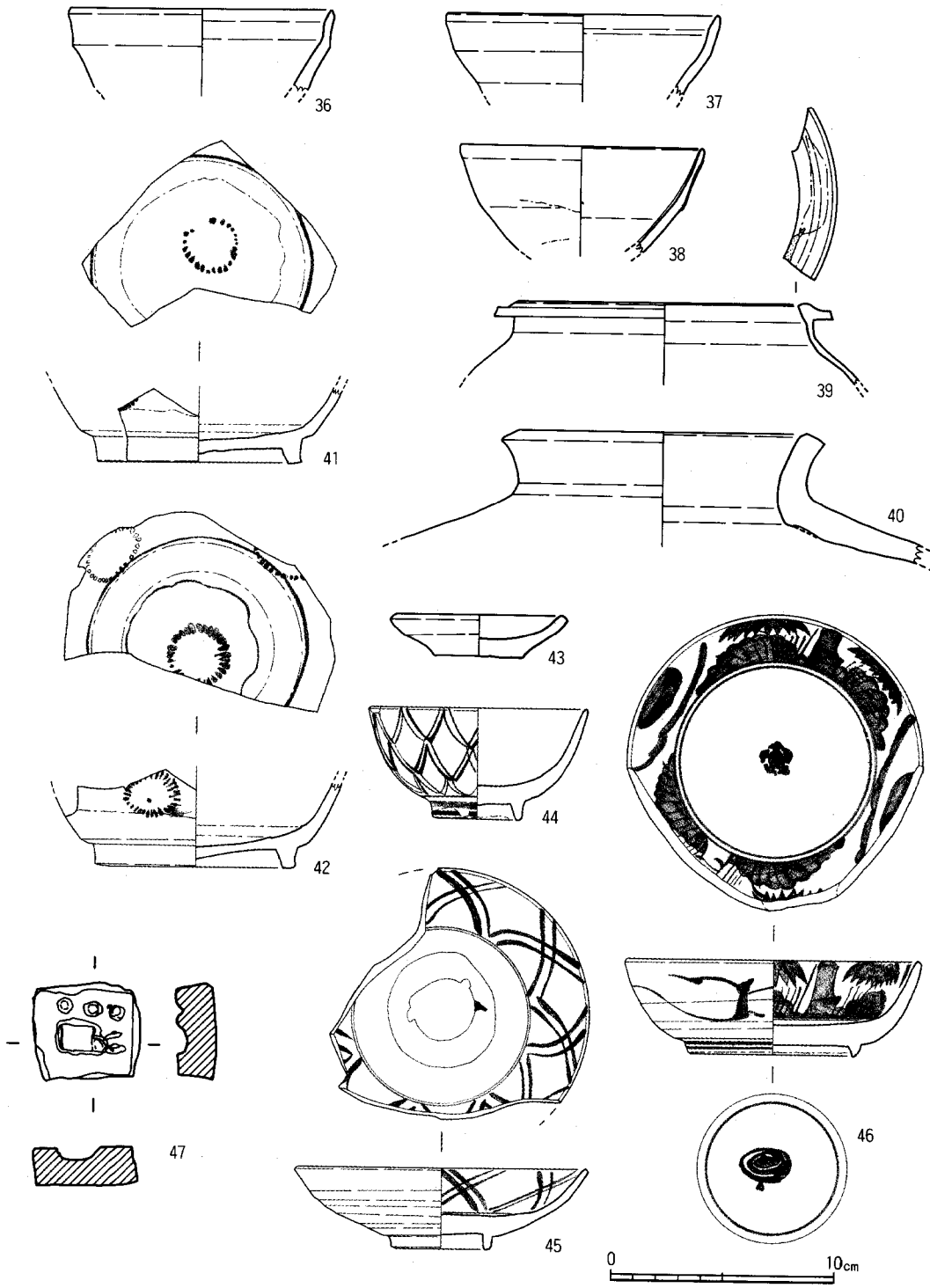


Fig.36　I面包含層出土遺物実測図(3)

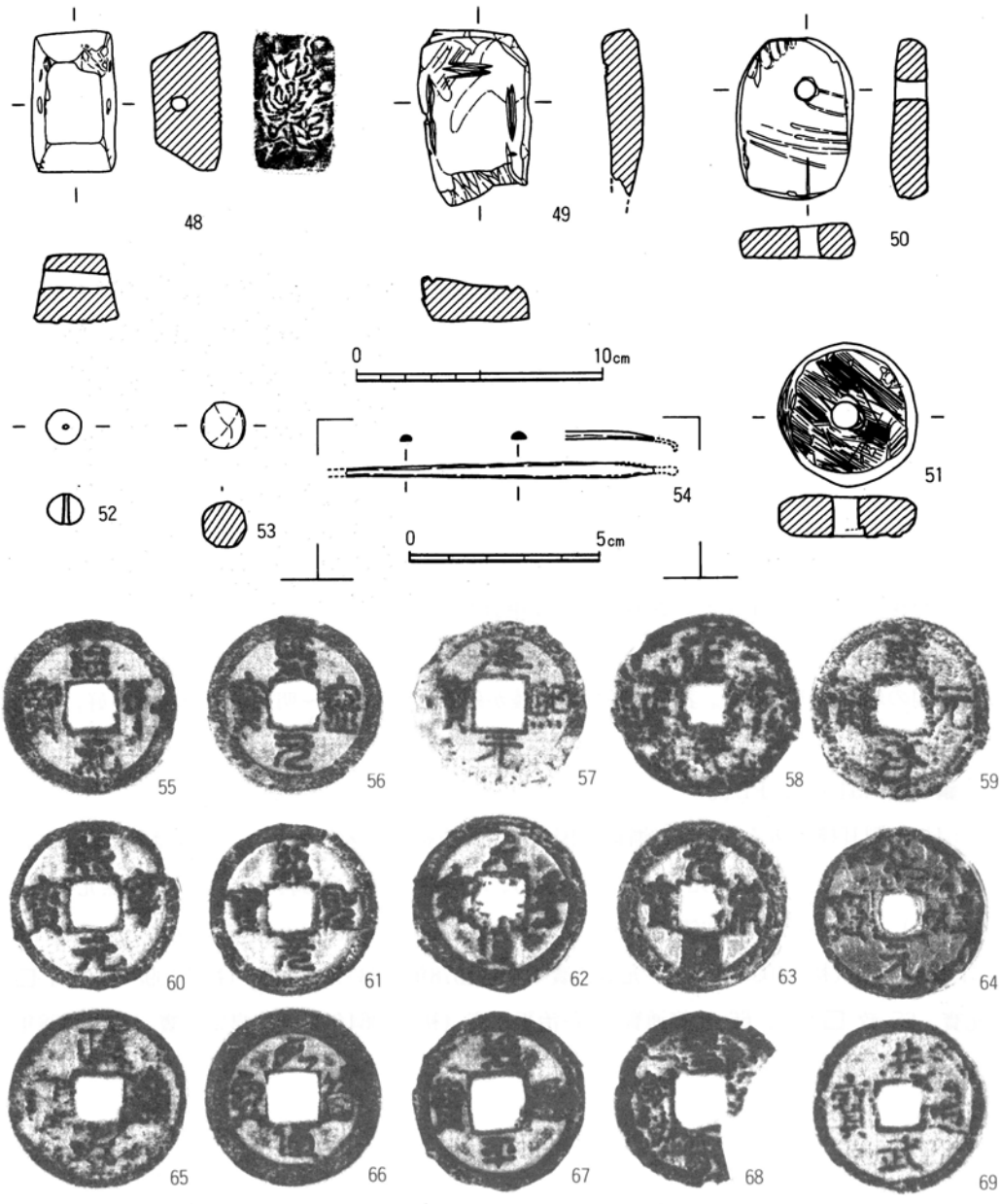


Fig.37　I面包含層出土遺物実測図(4)

の合子蓋である。天井部に花文、体部に蓮弁文をもつ、口縁端から内面は露胎である。36～38は天目碗である。胎土は白灰色、釉は茶褐色～赤茶褐色を呈する。39、40は陶器B群の壺である。39においては釉は灰色を帯びるオリーブ色、胎土は茶褐色で焼成堅緻。40は砂粒を多く含む茶灰色で気泡を多く含む。釉は茶緑色で全体に厚くぼってりと施されている。41、42はベト

ナム白磁碗である。釉は灰色を帯びる灰白色で、高台脇から底部は露胎で見込を輪状に掻きとる。胎土は白濁した黄褐色で微砂が混じる。内外面に花文のスタンプを押す。43は陶器の皿で底部は糸切り、外面は茶褐色の釉を施す。

肥前系磁器（44～46）

44、45は外面に網目文をもつ碗である。46は内面全体に竹林を染付る。

石製品（48～50）

48は滑石製スタンプである。下面に花文を陽刻する。断面は台形を呈し、側面に反りをもたせている。中央より上の位置に孔を貫通させる。全体を丁寧に研磨している。49は滑石製石鍋の再利用品である。表面に「コ」の字状に幅広の筋を入れ、その内側を少し窪ませている。側面は荒い削りで、裏面には煤が付着している。硯の未製品であろう。50も石鍋の再加工品で小判形を呈する。短辺に寄った位置に0.8～0.9cmの円孔を穿つ。

ガラス製品（52・PL.60）

ガラス玉である。径1.2～1.4cmを測る球形で、中心に径0.1cmの孔をもつ。半透明の緑を帯びたコバルトブルーを呈する。表面は小さな亀裂がある。

土製品（53）

手捏の球形の玉である。表面に整形時の稜が残る。胎土は茶～明褐色で焼成は良好。径1.8cmを測る。

銅製品（54～69，PL.59）

54は銅製耳掻である。握部は断面半円状で先端を細く抉入部をもつ。基部は細く尖る。55～69は銅銭である。55-治平元寶（初鋳1064年）、56-熙寧元寶（初鋳1068年）、57-淳熙元寶（初鋳1174年）、58-正隆元寶（初鋳1156年）、59-咸淳元寶（初鋳1265年）、60-熙寧元寶（初鋳1068年）、61-紹聖元寶（初鋳1094年）、62-元豊通寶（初鋳1078年）63-元符通寶（初鋳1098年）、64-□□元寶、65-政□通寶、66-元符通寶、67-治平通寶（初鋳1064年）、68-皇宋通寶（初鋳1038年）、69-洪武通寶（初鋳1368年）。

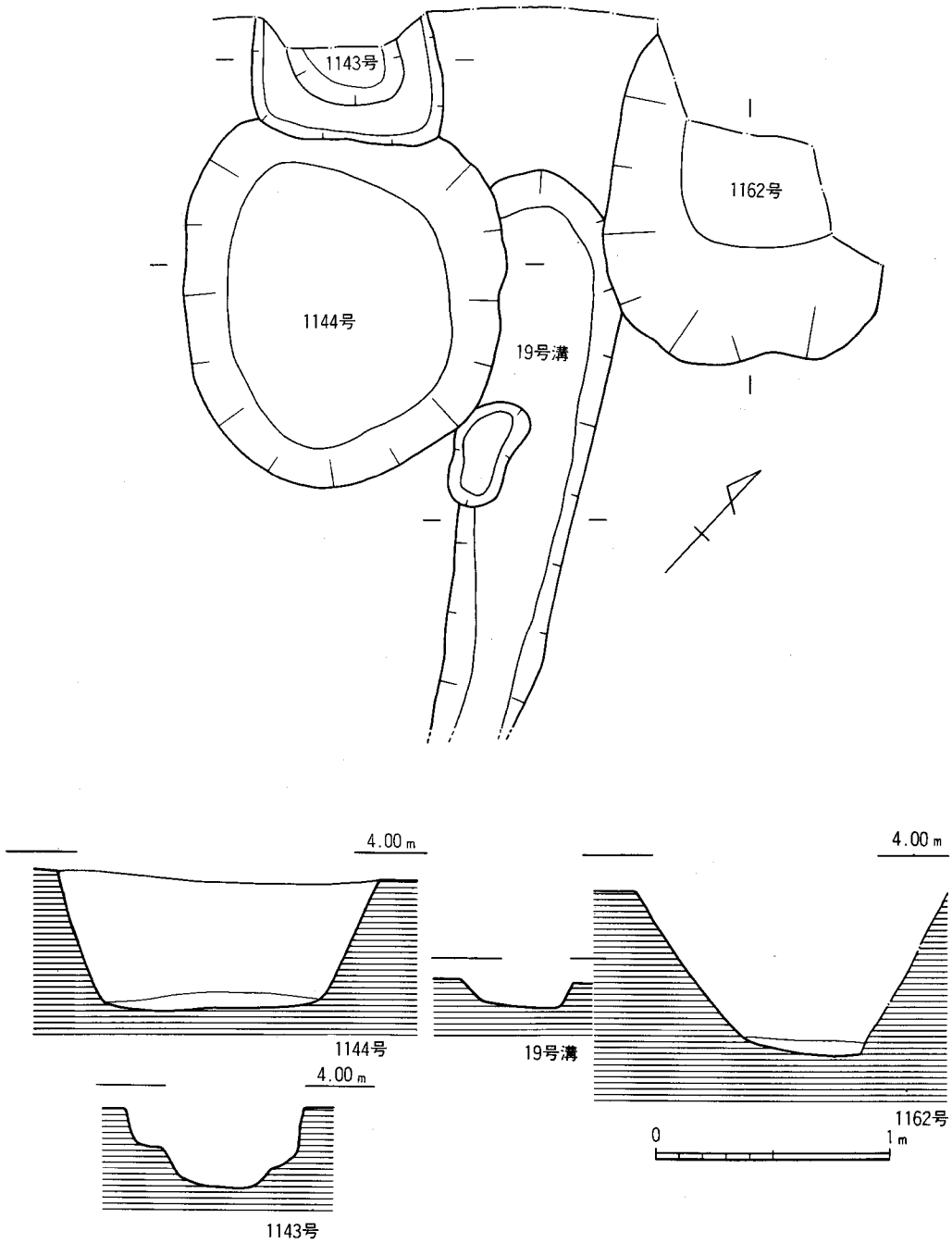


Fig.38　1143・1144・1162号土壙，19号溝実測図　(1/30)

2．II面の調査

II面の調査は南端で標高4.25m、北端で3.8mの高さで確認した遺構である。土壙は礫を投げ込んだ1153、1163、1169号土壙や土壙墓と考えられる1151、1179号土壙がある。また1300号土壙は当初井戸と考えるような大型の方形土壙であった。井戸も5基確認でき溝も2条検出している.

1)土壙の調査

1144号土壙 (Fig.38, PL. 4)

I－02区調査区北端に位置する楕円形の土壙で、北側をピットに切られ、東側で19号溝を切る。平面形は楕円形で主軸を南北にとる。規模は南北1.63m、東西1.39m、深さ0.58mを測る。覆土は黒灰色砂質土である。

出土遺物 (Fig.40－1・2, PL.28)

1は白磁の碗である。胎土は灰肌色できめ細かく、釉は透明感のある飴色である。高台脇から底部にかけて露胎で墨書が認められる。2は越州窯系青磁の碗である。胎土は灰茶～灰色で緻密、釉はオリーブ色で、高台と見込に胎土目が残る。

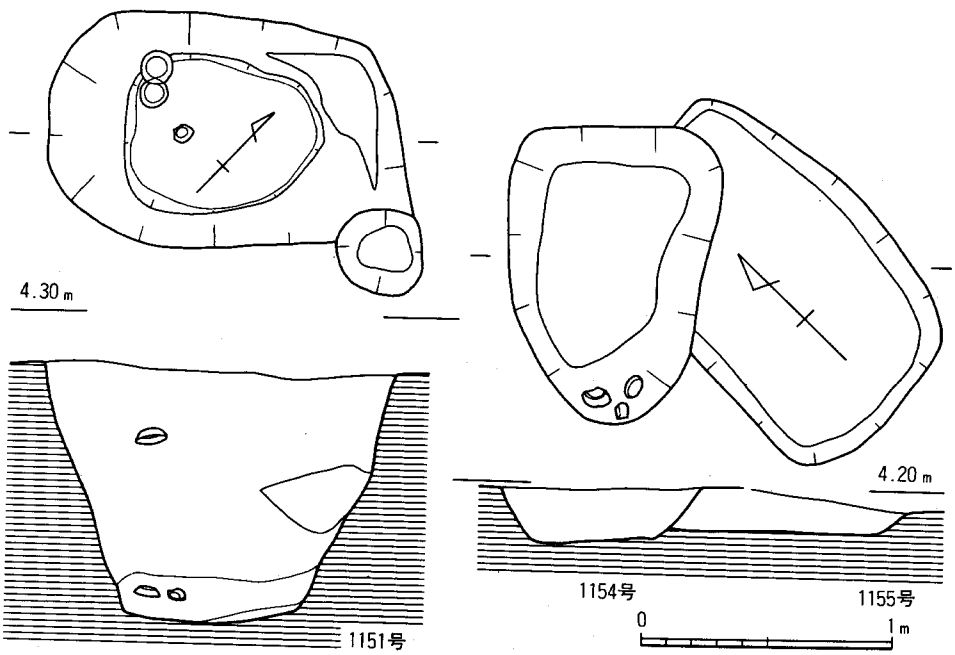


Fig.39　1151・1154・1155号土壙実測図 (1/30)

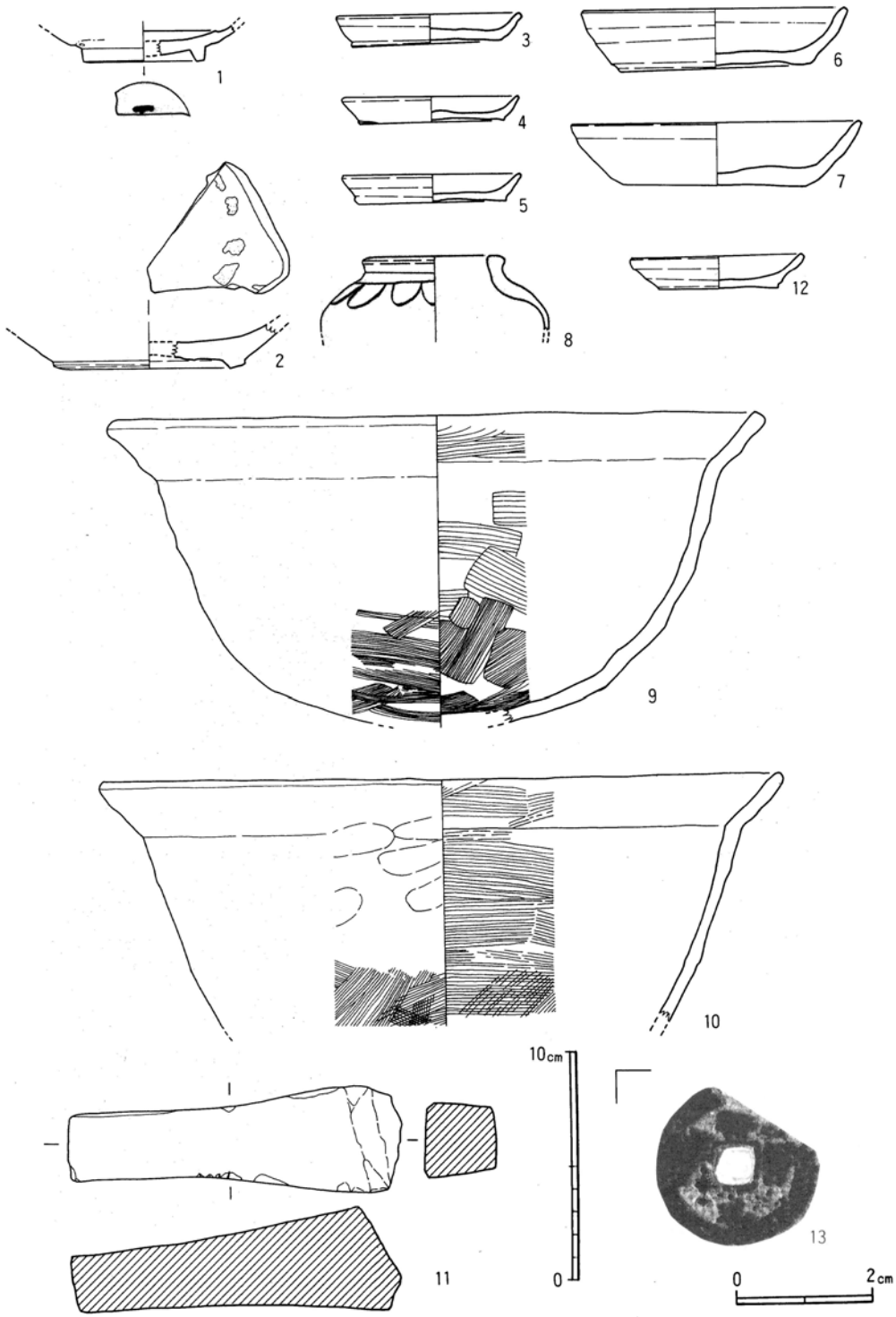


Fig.40　1144・1151・1153～1155号 出土遺物実測図

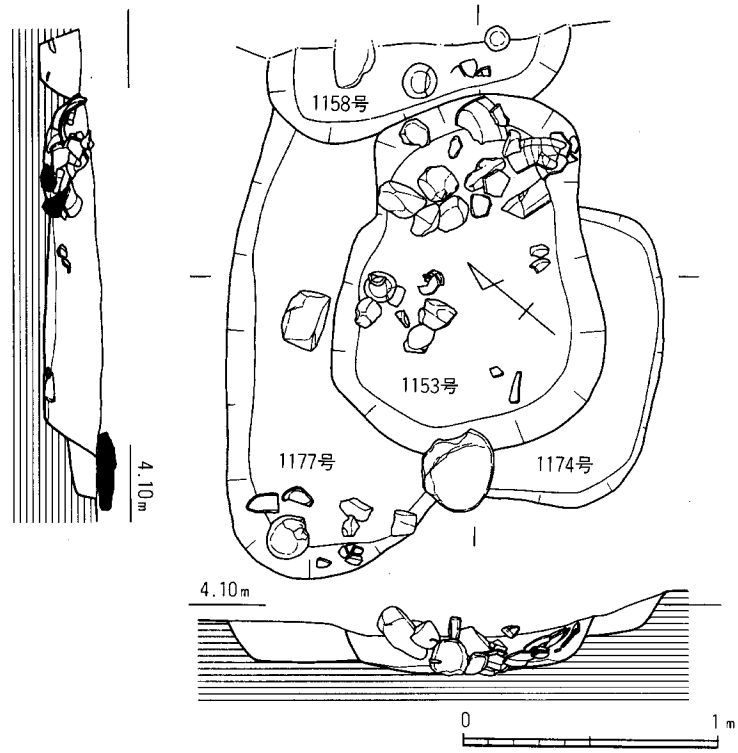


Fig.41　1153・1158・1174・1177号土壙実測図(1/30)

1151号土壙 (Fig.39, PL.4)

J－04区、I面の1138号土壙の南東に位置する隅丸長方形の土壙である。東隅はピットに切られている。主軸は南西—北東にとり1.7m×0.92m、深さ1.0mを測る。壁面はゆるやかな傾斜を示し床面は平で中央部が窪み丸味をもつ。埋土は黒灰色土で木炭、灰を含む軟かい土壌で完形の土師器坏2、皿3点出土し、土壙墓と考えられる。

出土遺物 (Fig.40－3～8, PL.28)

図示した外に破片では白磁碗Ⅳ、Ⅵ、Ⅸ類、龍泉窯系青磁碗、陶器類が出土している。3～5は底部糸切りの土師器皿である。口径8.0cm前後、器高1.3cm前後を測る。色調は淡茶白色で胎土に砂粒を含む。6、7は底部糸切りの土師器坏である。7は口径13.1cm、器高2.9cmを測る。8は瓦質の小壺である。色調は灰白色で胎土には細砂粒を含むが良好で焼成は良く堅緻である。球形の胴部に短い直立する口縁部となり上端を平坦にする。肩部には内外面とも接合時の指跡が残る。頸部との境に横線を、その下に半円文を墨書する。部分的にはその上から赤色顔料を塗布する。

1153号土壙 (Fig.41, PL.41)

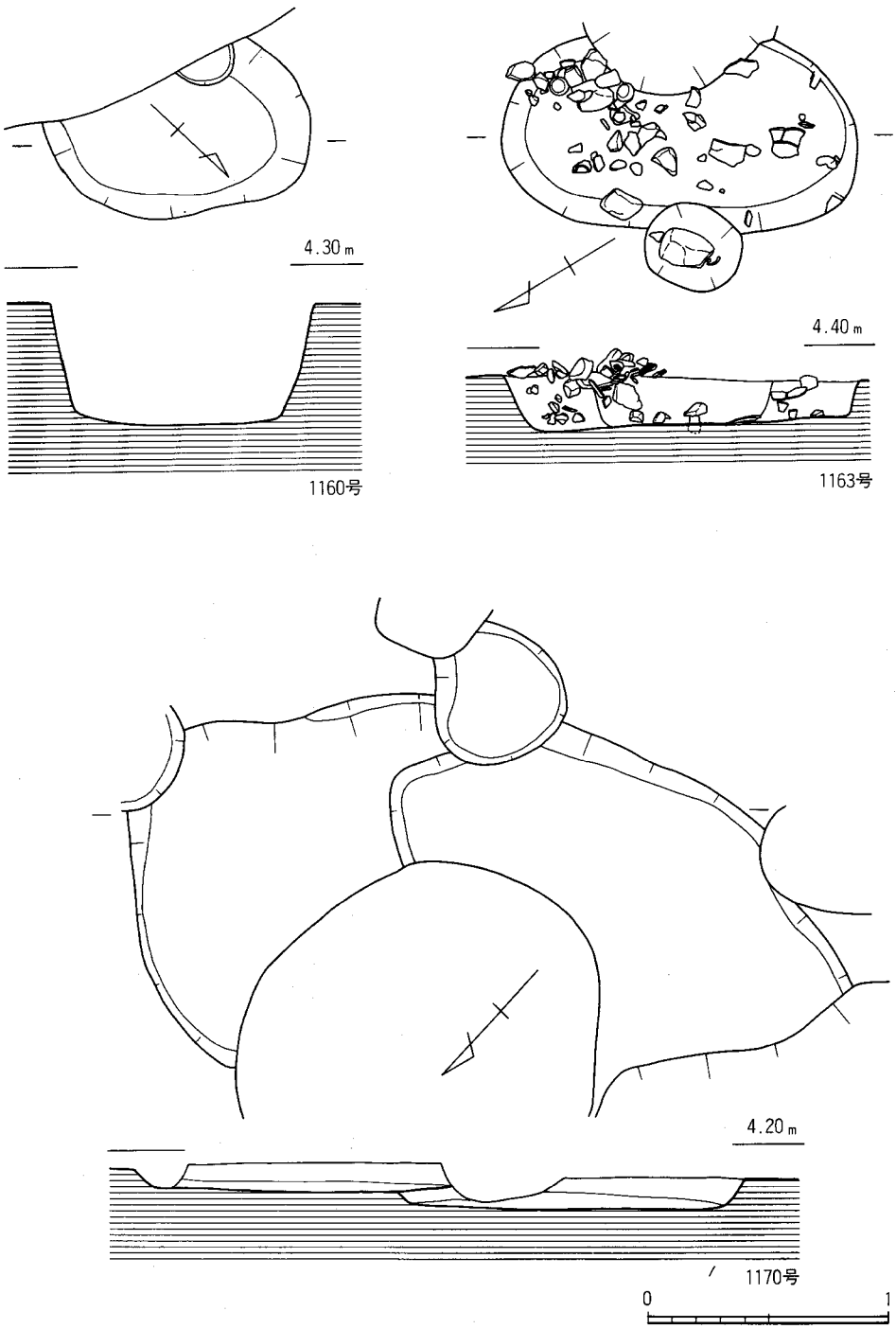


Fig.42　1160・1163・1170号土壙実測図 (1/30)

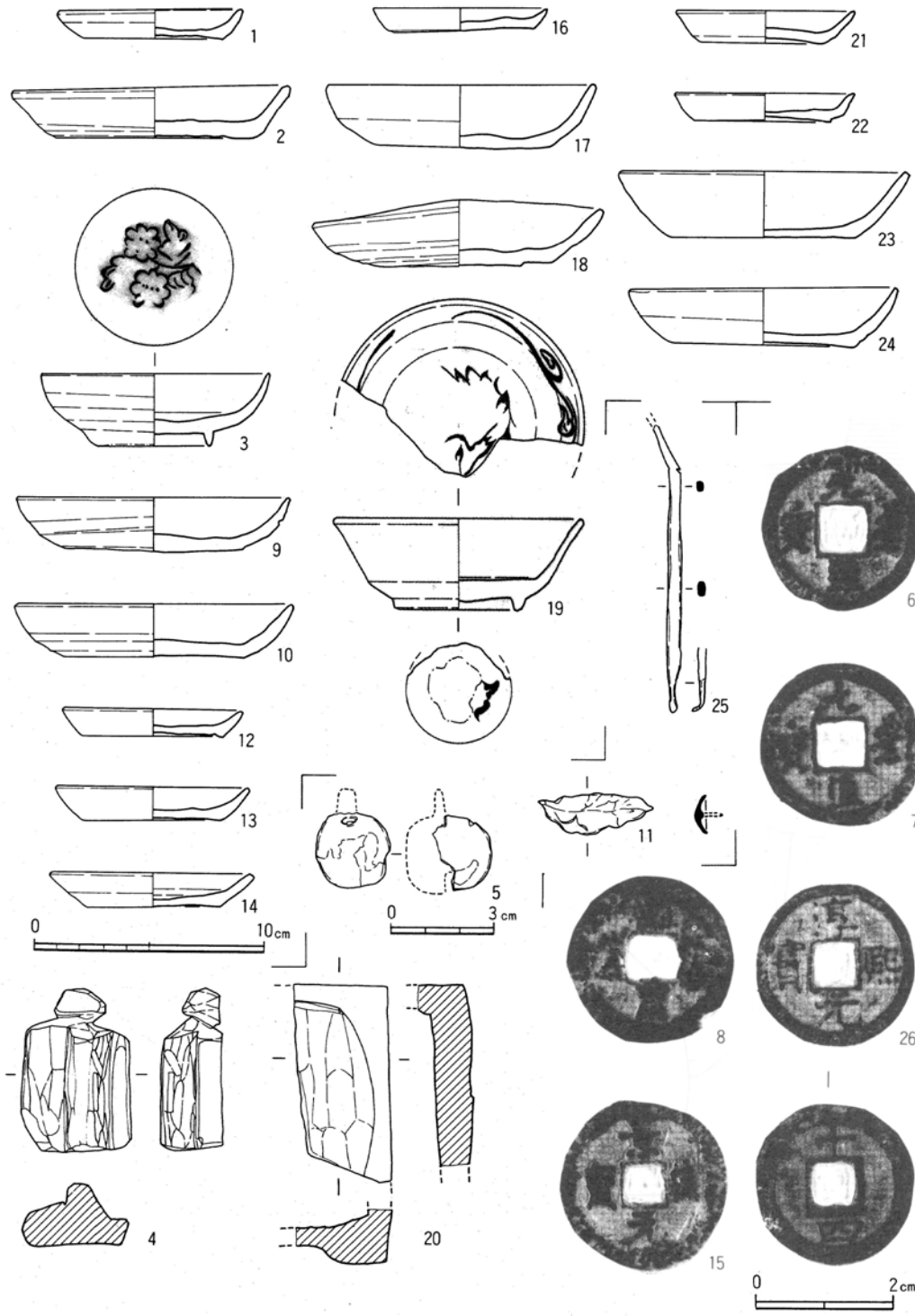


Fig.43　1158～1160・1162・1163・1169号土壙出土遺物実測図

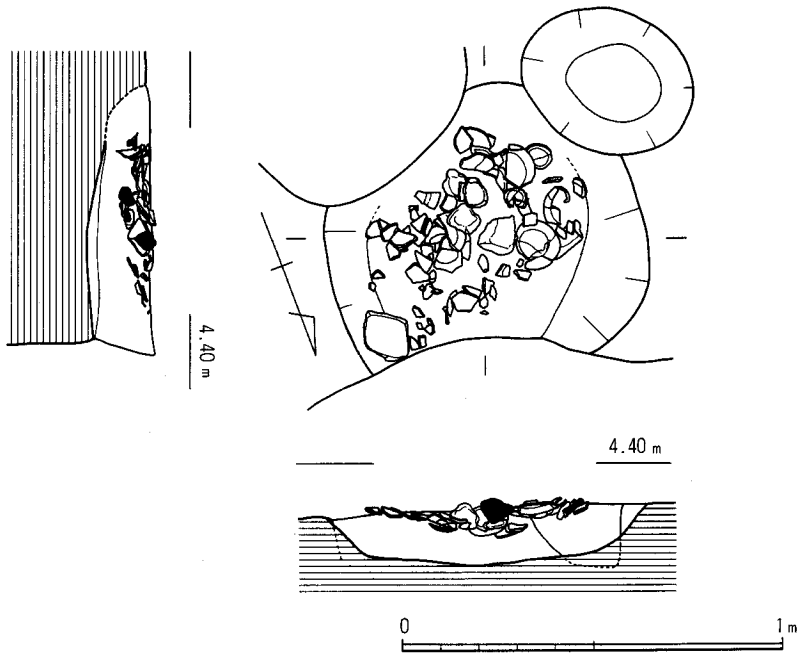


Fig.44　1169号土壙実測図（1/20）

J－04区、1151号土壙に接して南側に位置する土壙群の中の一つである。南側で1174号、北側で1177号土壙を切る。中央部がくびれ瓢箪形をした土壙で長径1.4m、短径1.0m、深さ0.2mを測る。覆土は灰褐色で木炭、灰、獣骨等を含む。東壁に拳大の礫、土鍋があり、北側に同様の礫、土師器の坏、皿が出土している。西辺に扁平な円形の石があるが、この土壙に伴うか否か不明である。

出土遺物（Fig.40－9～11，PL.28）

9、10は土師質の土鍋である。9は口径29.6cm、器高13.7cmを測る。胎土には金雲母を多く含んでいる。色調は明茶褐色で、外面全体に煤が付着している。丸底から体部は内湾して頸部となり屈曲して外に開き、内面に稜を残す。胴～外底は斜方位の細い刷毛調整で胴上半部はナデ調整を行う。内面は底面を細い刷毛、上を荒い刷毛調整を行う。10もほぼ同じであるが少し器高が高くなる。11は砂岩製の四面使用の砥石である。断面は四角形で中央が少し窪む。中央部で折損している。

1154号土壙（Fig.39，PL.4）

J－04区、1177号土壙の南に位置する土壙である。平面形は丸味をもった三角形の浅い土壙で東側を1115号土壙と重複する。覆土は灰褐色土である。出土遺物は少いが糸切り底部の土師器の他に白磁碗片、青磁碗片１点、土鍋、土師質鍋、瓦器塊などが出土している。

出土遺物 (Fig.40－12, PL.28)

土壙の南西隅より床面に接して出土した。底部糸切りの土師器小皿で口径7.9cm、器高1.6cmを測る。胎土に砂粒を少量含み、色調は淡茶褐色～茶褐色である。

1155号土壙 (Fig.39)

Ｊ－04区、北西隅を1154号土壙に切られる隅丸長方形の土壙である。主軸をほぼ南北にとり、規模は1.4m×0.92m、深さ0.1mの浅い掘り方である。覆土は黒灰色土と暗灰色土が層状に堆積し床面近くは黄白色砂となる。出土遺物は白磁、青磁片が数点、糸切り土師器が少量出土している。図示 (Fig.40－13) したのは祥符元寶 (初鋳1008年) である。

1158号土壙 (Fig.41)

1137号土壙の南に位置する土壙群の一つである。西側を1153号土壙に切られ、東側は調査区外へ拡がるため全体の形状は不明である。楕円形を呈するものであろう。現況での規模は1.1m×0.3m、深さ0.3mを測る。覆土は軟質の黒灰色土で土器を多く含んでいる。

出土遺物 (Fig.43－1～6)

1、2は底部糸切りの土師器である。1は小皿で口径7.8cm、器高1.4cmを測る。2は坏で口径12.4cm、器高2.3cmを測る。胎土は茶褐色で砂粒を含む。焼成は良好で、ほぼ完形である。3は14世紀代の龍泉窯系青磁の高台付皿である。内湾する体部に直立する高台であるが高台脇に釉がたまり外見上は三角形を呈する。胎土は灰白色で緻密、青緑色の透明感のある釉を施す。畳付部は釉を掻きとる。見込に印花文をスタンプする。4は滑石製品である。石鍋の鍔部の再加工品で全体を丁寧に削り、頭部につまみをもつ。下面は石鍋のままの曲線を描く。5は銅鈴である。現状では半球形で肩部に長円形の穿孔が認められる。6は元豊通寶 (初鋳1078年) である。

1060号土壙 (Fig.42)

Ｊ－04区に位置し、南側を、174号井戸に切られる土壙である。本来平面形は楕円形と思われる。規模は長径1.1m、短径0.6m以上、深さ0.47mを測る。覆土は明灰色粘質土である。

出土遺物 (Fig.43－9～11)

9、10は底部糸切りの土師器坏でほぼ完形品である。9は口径12.2cm、器高2.6cmを測り、10は少し大きくなる。胎土には大粒の白砂を混入し赤褐色を呈する。底部以外はヨコナデ調整を行い、10の底部には板状圧痕がある。他に破片ではあるが白磁、青磁の碗が数点出土している。11は銅製の飾金具である。平面は木葉状を呈し、断面は半円形で中央に鋲の基部が遺存する。

1162号土壙 (Fig.38)

Ｉ－02調査区の北隅に位置する土壙である。大部分は調査区外へ拡がる。平面形は隅丸の長方形ないし方形になるものであろう。現存値で東西1.2m、南北1.2m、深さ0.7mを測る。覆土は縞状堆積を示し、上から暗褐色土、灰白色砂、灰色砂混土、灰色砂、黄褐色砂、灰色砂、木

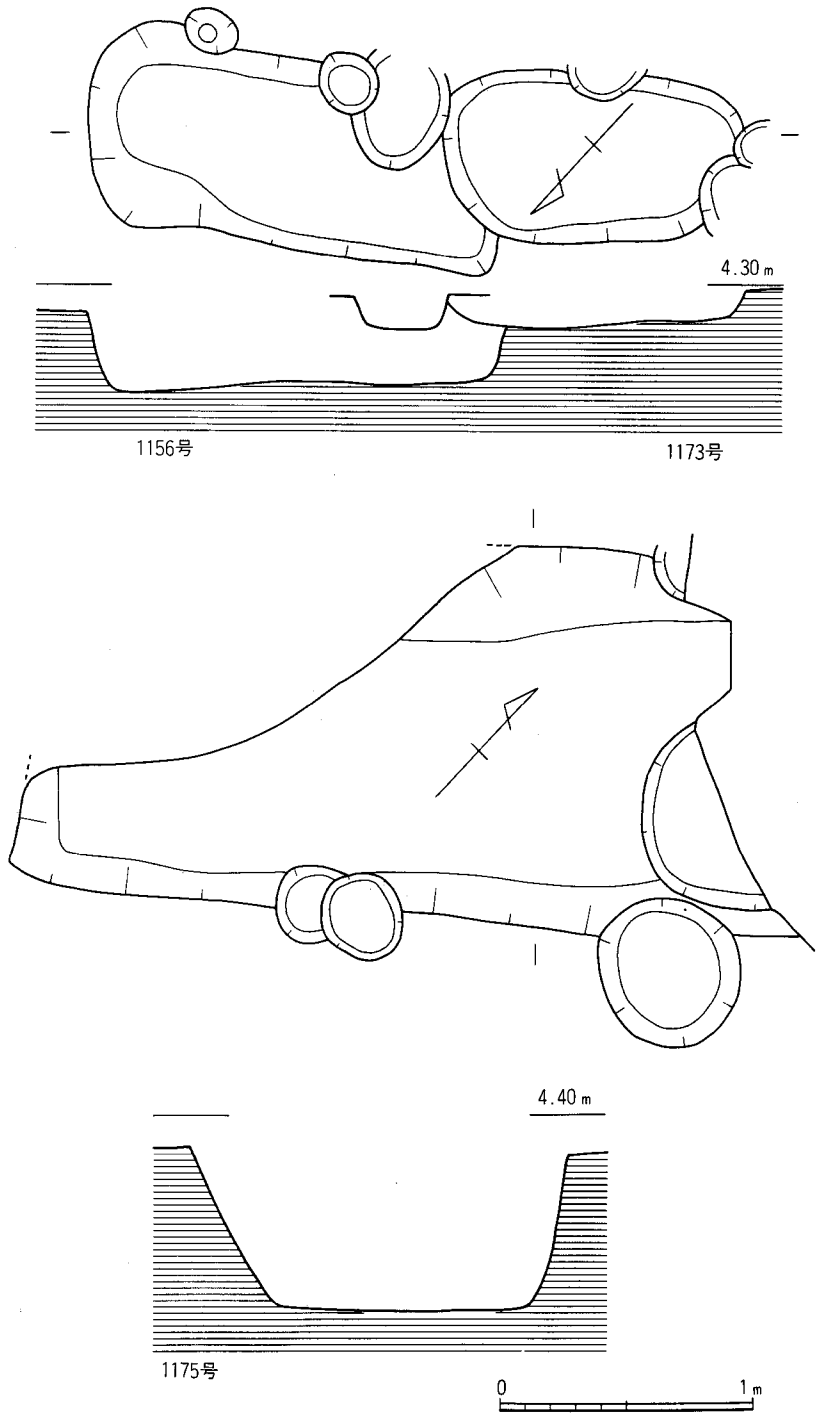


Fig.45　1156・1173・1175号土壙実測図 (1/30)

炭、灰層、暗灰色粘質土等となる。

出土遺物 (Fig.43－12)

12は土師器の底部糸切り小皿である。口径0.8cm、器高1.1cmを測る。胎土は砂粒を少し含むが良好で色調は赤褐色、焼成良好である。他に土師器の坏、皿が多く出土し青磁、白磁等も少数出土している。

1163号土壙 (Fig.42)

Ｊ－01区、20号溝の北側に位置する楕円形土壙である。北側をＩ面の1129号土壙に切られている。長径1.52m、短径0.8m、深さ0.25mを測る。覆土は明灰色土で、土壙上層より拳大の礫が多く出土した。礫に混り鉄滓や土師器坏、皿の完形品も出土している。

出土遺物 (Fig.43－13～15)

13､14は土師器の皿である。底部は糸切りで板状圧痕が残る。14は口径9.0cm、器高1.5cmを測る。色調は灰肌色で胎土に金雲母を含む。体部はヨコナデ、内底はナデ調整である。15は景徳元寳（初鋳1004年）である。

1169号土壙 (Fig.44)

Ｊ－01区に位置する土壙である。北側をＩ面の153号井戸に切られ、南側をピットに切られている。本来の形態を大きく損なっているが、本来隅丸方形を呈し、一辺0.8m前後を測るものであろう。現況で東西0.83m、南北0.76mを測る小規模な土壙である。覆土は軟質の黒褐色土で、上層に小礫を多く検出し、その中に土師器類を一緒に投棄している。

出土遺物 (Fig.43－16～20)

16～18は底部糸切りの土師器である。16は小皿で口径7.8cm、器高1.0cmを測る。胎土には砂粒を少し含むが良好で色調淡褐色である。17は坏で内面には煤が付着する。体部はヨコナデ、内底はナデである。18も糸切り底の坏である。糸切りは二度行い、底部に段がつく。全体に歪である。

1170号土壙 (Fig.42, PL.4)

Ｉ－01区に位置する大型の不定形土壙である。北側を157号井戸に切られ、南側を3837号ピットに切られる。東西3.15m、南北1.7m、深さ2.0mを測る。中央部に低い段があり、東側は浅くなる。埋土は暗褐色土のほぼ同一の層である。

出土遺物 (Fig.43－21～26, PL.29・58)

21～24は底部糸切りの土師器である。21、22は小皿で口径8.0cm、器高1.3～1.4cmを測る。胎土に細砂を多く含み、色調は灰褐色である。23、24は坏である。口径12.0～13.0cm、器高2.6～2.9cmを測り、胎土、色調は小皿に類似する。25は銅製耳掻である。握部は断面隅丸長方形で先端部を薄くして屈曲して折り曲げる。基部は細くなり途中で折れ曲る。全長8.6cm、幅0.4cm、

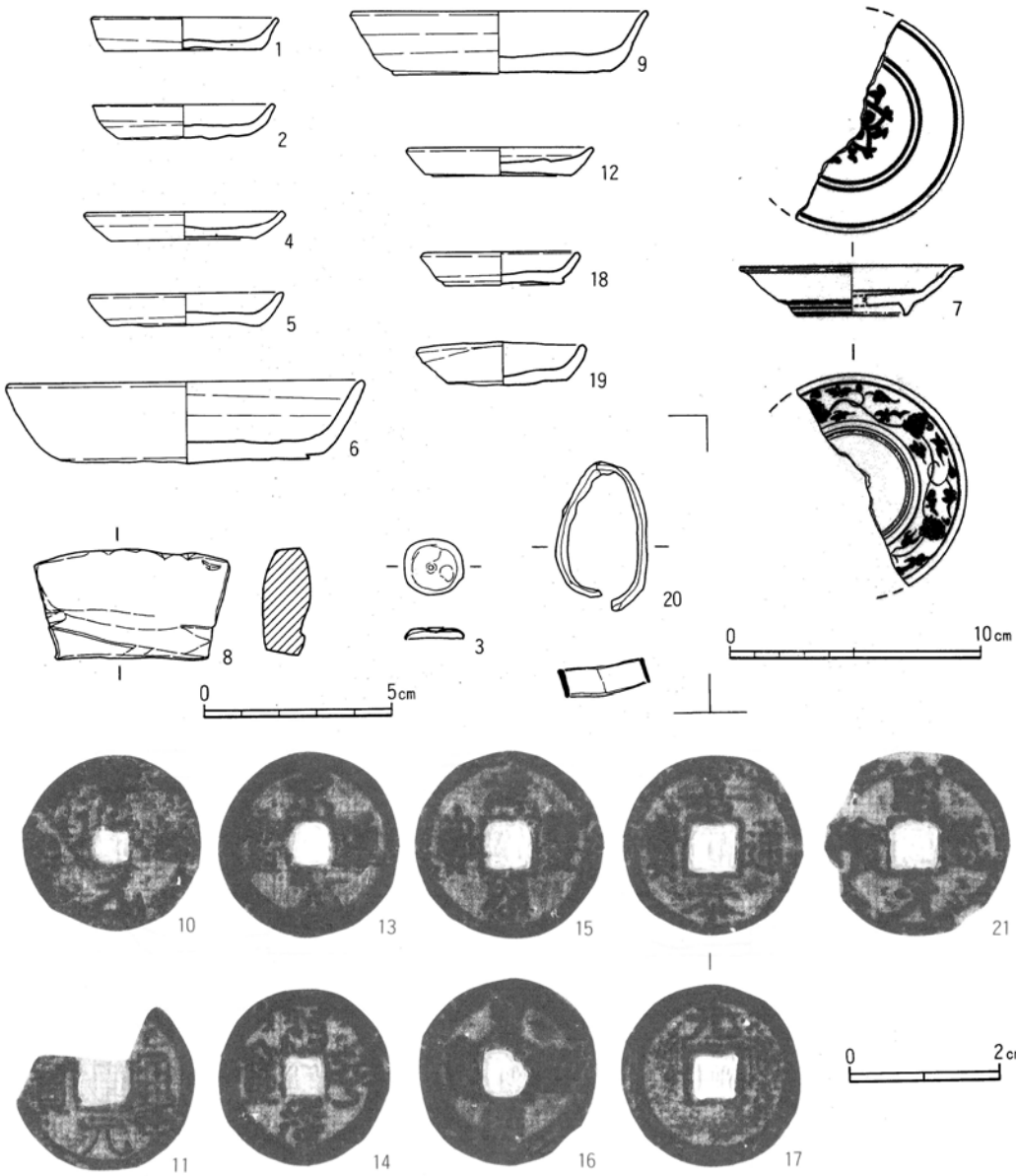


Fig.46　1173～1175・1177～1179号土壙出土遺物実測図

厚さ0.2㎝を測る。26は淳熙元寶（初鋳1174年）である。背面に縦位に「十四」の年数を記す。

1173号土壙（Fig.45，PL.4）

J－04区、175号井戸の北側に位置する隅丸長方形の小土壙である。東側は1156号土壙を切る。東西1.2m、南北0.7m、深さ0.15mの規模である。覆土は暗黄褐色土である。

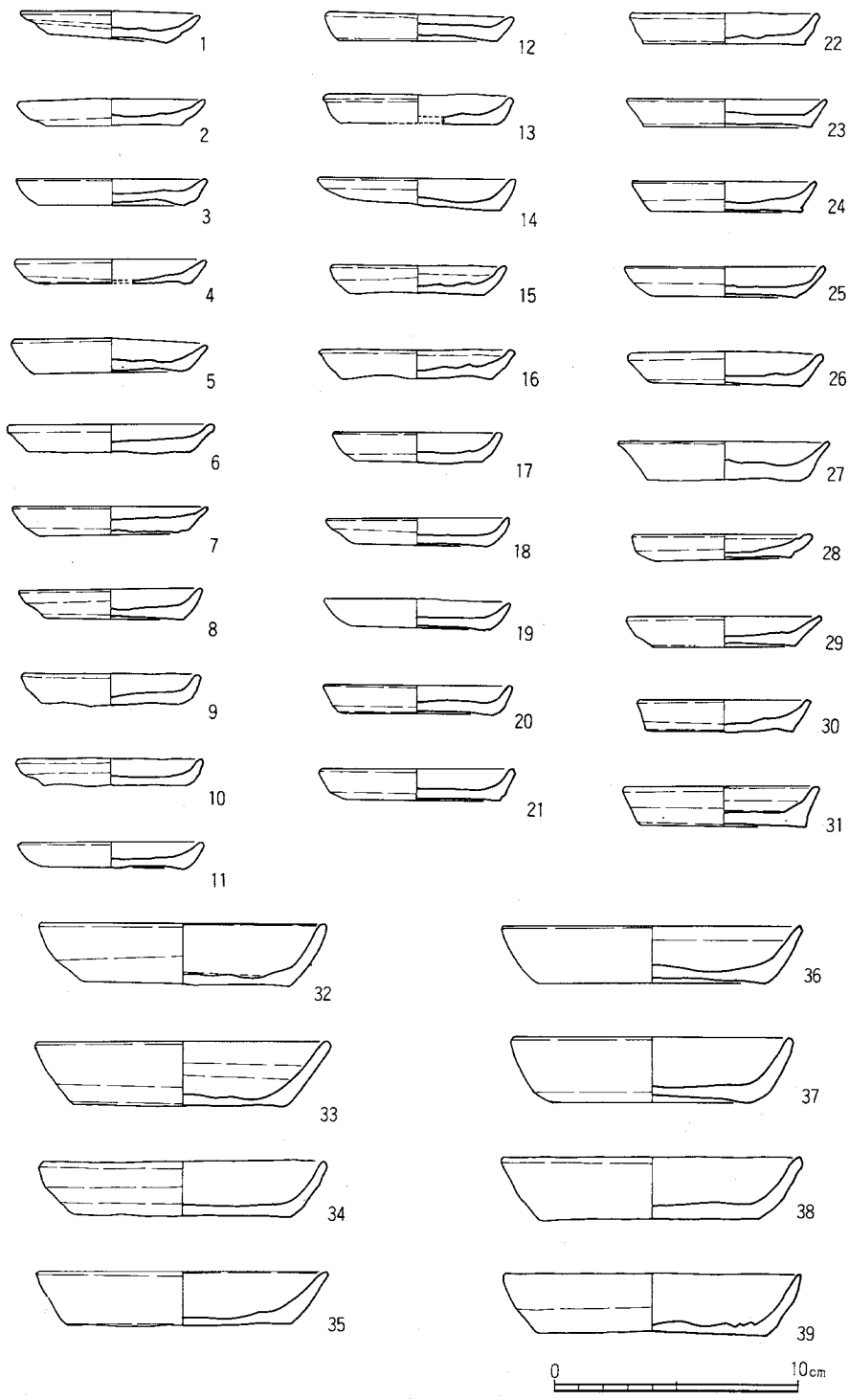


Fig.47　1182号土壙出土遺物実測図(1)

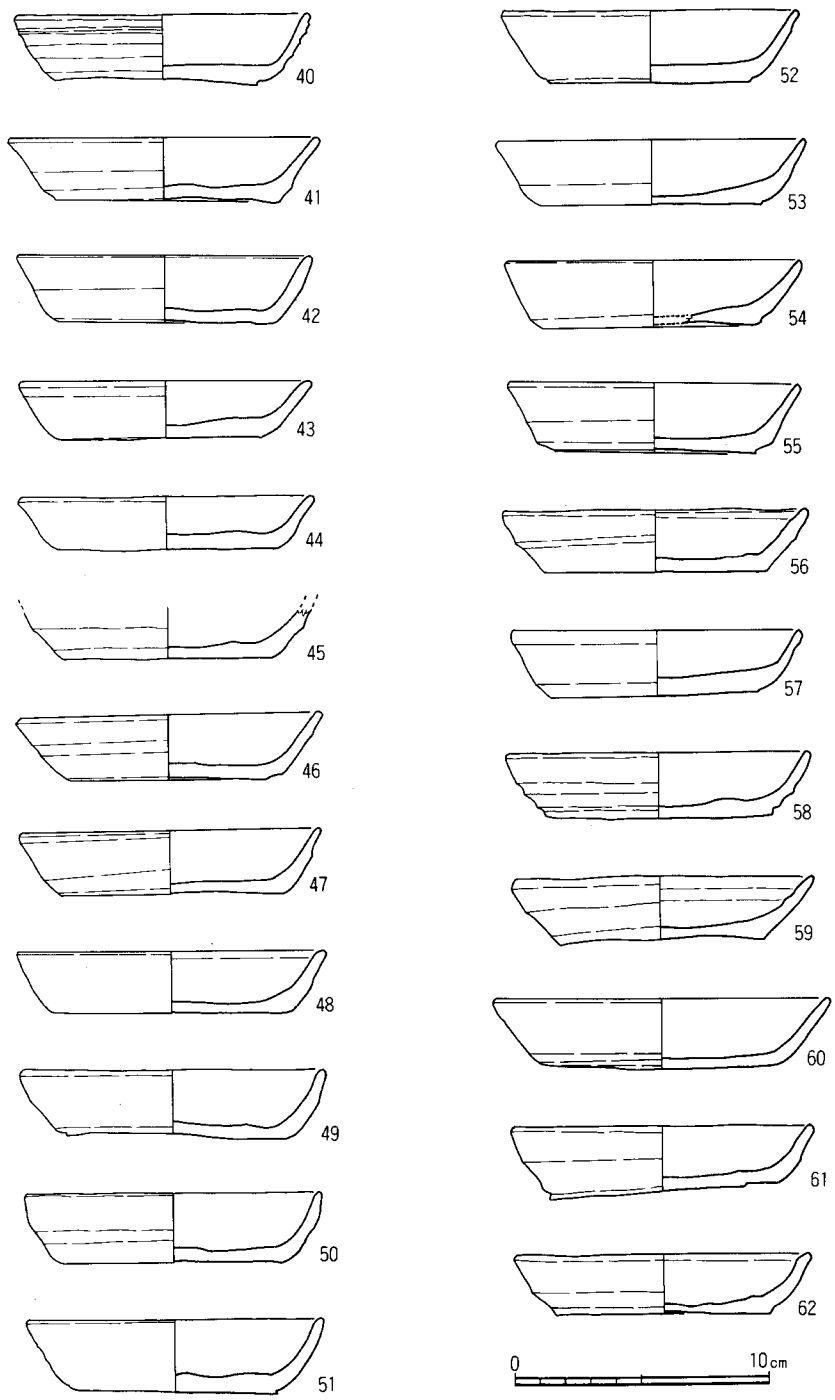


Fig.48　1182号土壙出土遺物実測図(2)

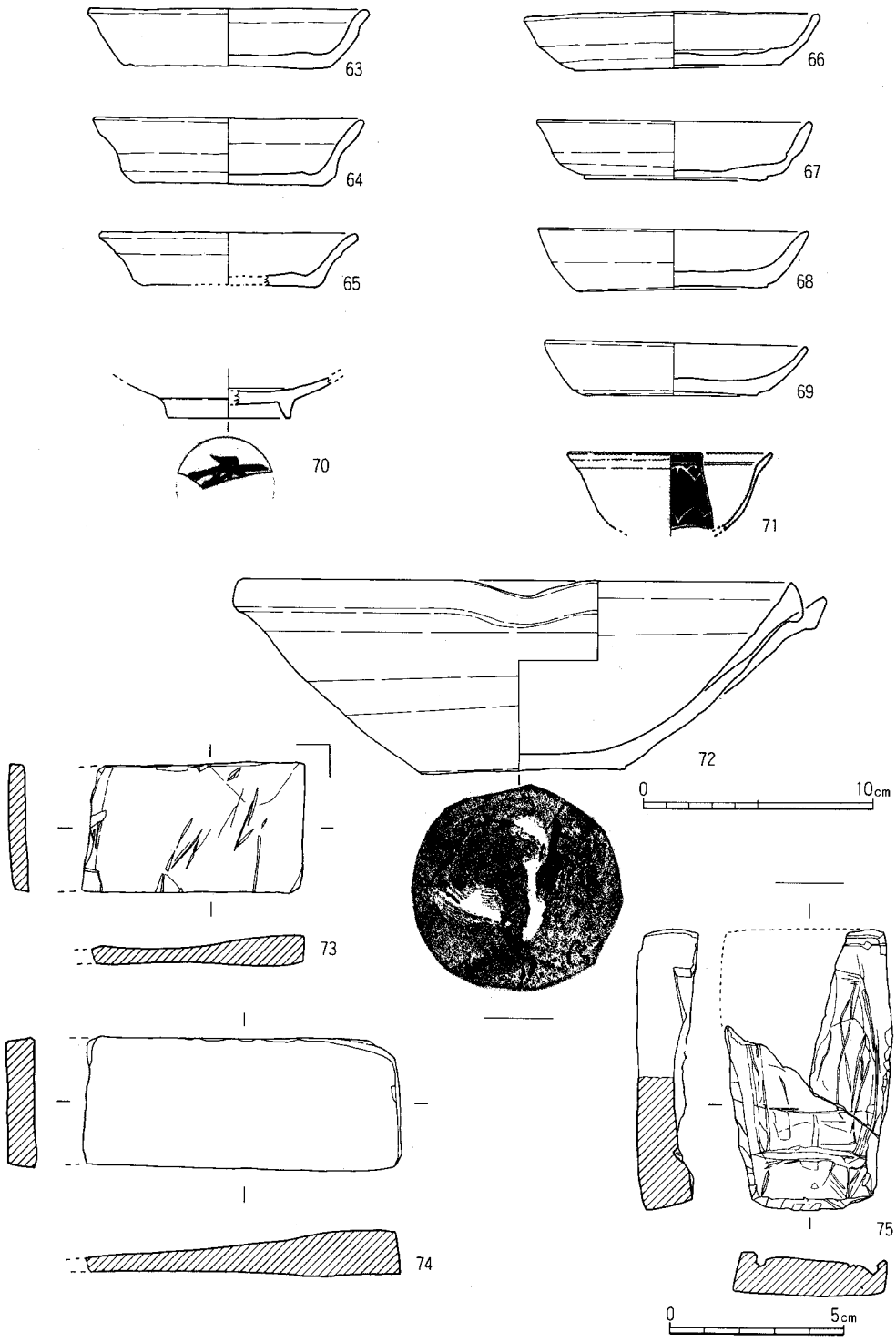


Fig.49　1182号土壙出土遺物実測図(3)

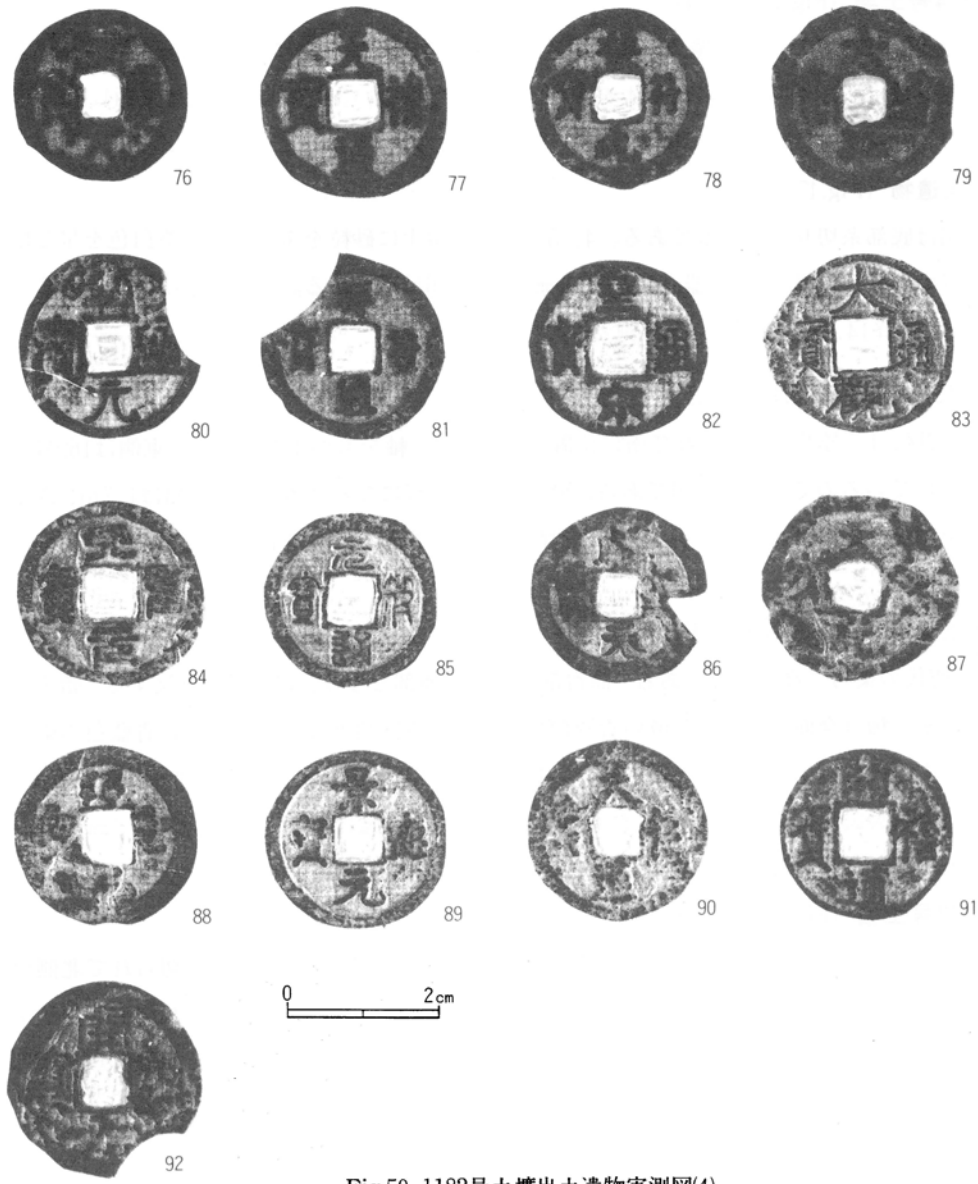


Fig.50 1182号土壙出土遺物実測図(4)

出土遺物 (Fig.47－1～3、PL.29)

1、2は底部糸切りで板状圧痕のある土師器小皿である。2は丸底風に整形している。口径7.6cm、器高1.3～1.4cmを測る。体部はヨコナデ、内底はナデである。2点ともほぼ完形品である。3は銅製でボタン状を呈する。銅板と押打により内側を窪ませ、中央に円孔をもつ。径1.6cm、

厚さ0.03cmを測る。

1174号土壙 (Fig.41, PL.4)

J－04区、I面の1138号土壙の南に位置する土壙群の中で最も南に位置する土壙である。北側の大部分は1153号土壙に切られ全体の形状は明らかではない。現存する規模は東西1.2m、南北0.6m、深さを0.17mを測る。覆土は暗茶褐色土である。

出土遺物 (Fig.47－4～6)

4～6は底部糸切りの土師器である。4、5は小皿で胎土に砂粒を多く含み淡茶白色を呈し焼成は良好である。口径8.0cm、器高1.1～1.3cmを測る。6は坏である。明茶白色で焼成はあまり良くない。口径14.6cm、器高3.3cmを測る。

1175号土壙 (Fig.45, PL.7)

J－02区、175号井戸に切られて南に位置し、東西に主軸をもつ土壙である。東側は169号井戸に切られているので全長は不明である。平面形は長方形になると考えられ、幅は1.7m、深さ0.53mを測り、断面は逆台形を示す。埋土は暗褐色、灰褐色、木炭を混入した黒褐色等の縞状堆積を示す。

出土遺物 (Fig.47－7・8, PL.29)

7は明代の染付で高台付皿である。高台部から直接体部となり、口縁部は外反する。胎土は白色で緻密、釉は全面に施され、薄い青灰白色で畳付のみ露胎となる。内外面に青藍色の染付があり、I面の1137号土壙出土の皿の絵付と類似する。8は粗悪な滑石製石鍋の再加工品である。円環状の石製品を幅5.1cmで切断したもので、上、下面が円弧になる。両端に幅2～3㎜の浅い切目を入れており、切目石錘の未製品であろうか。

1177号土壙 (Fig.41, PL.4)

J－04区、I面の1138号土壙の南に位置する土壙群の1つで、1153号土壙に切られて北側に位置する土壙である。東側は1158号土壙に切られ全体の形状は明確ではないが長楕円形を呈するものであろう。覆土は暗灰色土、黒灰色土層である。拳大の礫を少し含み、西側には土師器数点が出土する。

出土遺物 (Fig.47－9～11, PL.29)

9は底部糸切りで板状圧痕のある坏である。胎土には砂粒を含み色調は淡茶白色、焼成良好である。口縁部内面の一部に煤が付着している。口径12.1cm、器高2.6cmを測る。10は景徳元寶、11は□通元寶である。

1178号土壙 (Fig.53, PL.4)

J－03区に位置する円形の浅い土壙で170号井戸に切られ東側は攪乱土壙に切られる。現況で

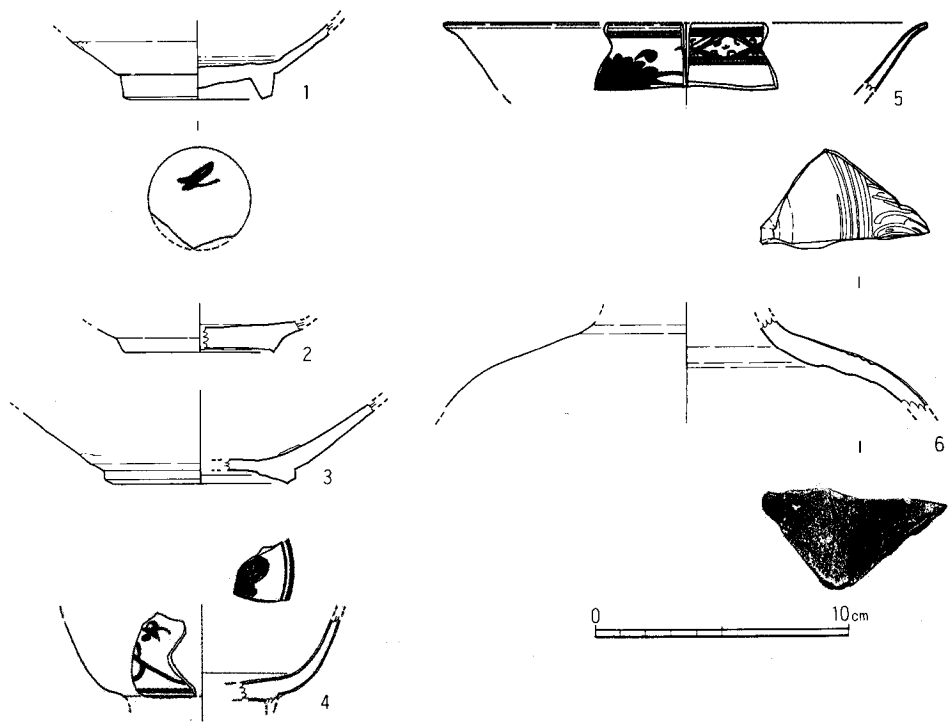


Fig.51　1300号土壙出土遺物実測図

は弧状を呈するが本来径1.5～2mの円形であろう。深さは0.2mで浅い掘り込みである。埋土は灰褐色土である。

出土遺物（Fig.47－12～17，PL.29・58）

12は底部糸切りの土師器の皿である。口径7.6cm、器高1.2cmを測る。胎土に砂粒を多く含み、焼成良好で淡橙色をなす。13～17は銅銭である。13は宋通元寶（初鋳968年）、14は治平元寶（初鋳1064年）、15は□豊通寶、16は不明、17は嘉泰通寶（初鋳1201年）で背に元の字を刻む。

1179号土壙（Fig.46，PL.4）

調査区の南東端、J－01区に位置する。東半部はI面の1137号土壙に切られている。幅1.15m、長さ0.95m以上、深さ約0.3mを測り、隅丸長方形を呈する。覆土は上層が焼土を混じえた赤褐色土で、下層は灰色粘質土である。

出土遺物（Fig.47－18～21，PL.29）

18、19は底部糸切りの土師器皿である。全体に器壁が厚く、ぼってりした造りで体部はヨコナデ、内底面はナデ調整である。胎土には砂粒を多く含むが良好、焼成堅緻で色調は淡橙色をなす。20は銅製の飾金具である。幅0.7～0.8cmの薄板の楕円形に折り曲げている。穿孔等は認

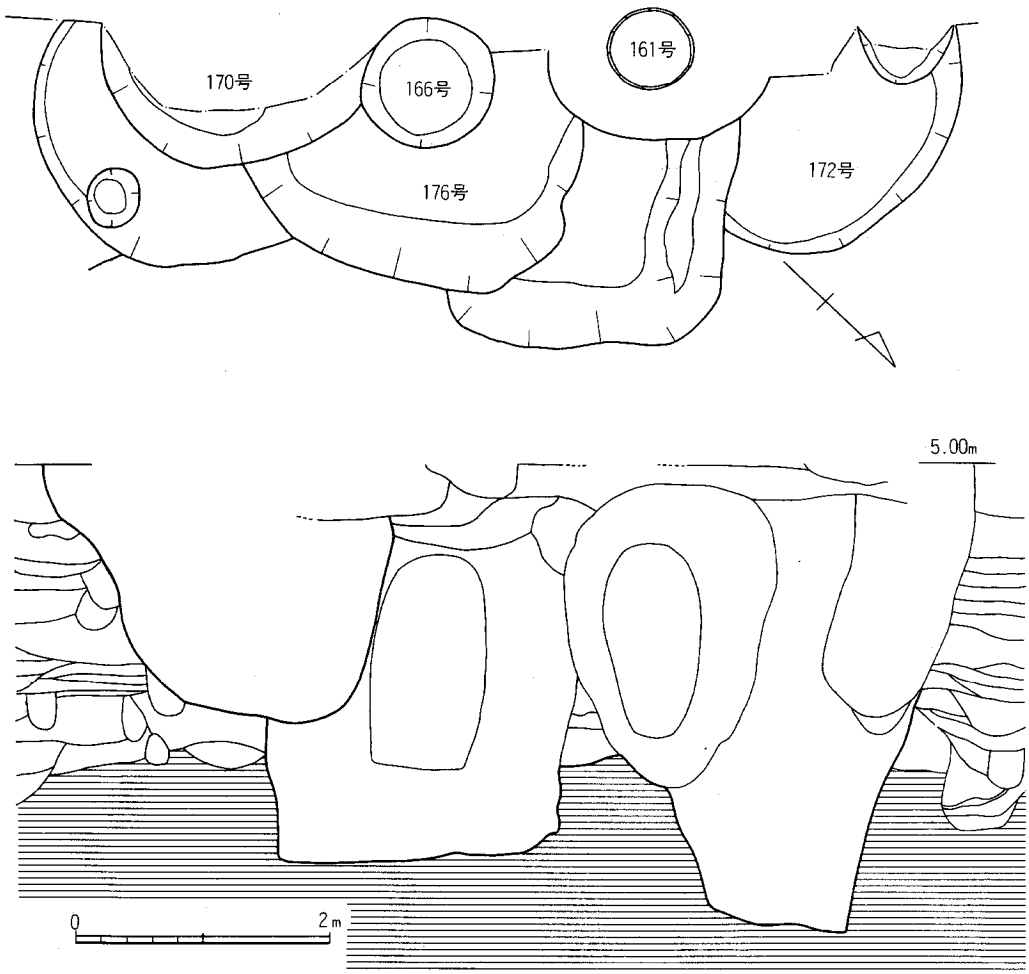


Fig.52　161・166・170・172・176号井戸実測図 (1/60)

められない。21は銅銭である。錆が著しく判読しがたい。開元通寶であろうか。

1182号土壙 (Fig.46, PL.7・8)

II面を掘り下げる途中で土師器等が集中して出土したので、全体を平にして確認した遺構であるが土壌の区別が困難で不明瞭なものであった。J－04区、1152号土壙の東に検出した。平面は東側が少し窪む不整楕円形を呈し、掘り込みも0.15mと浅い土壙である。遺物は床面より浮いた状態で出土している。土壙の外側にも遺物、完形の土師器の坏、皿が出土しており、もっと広がるが、土壙と考えるよりも、一定の層の包含層と考える方が妥当性が強い。

出土遺物 (Fig.48～51, PL.29～31・58)

1～31は底部糸切りの土師器の皿である。口径は7.6～8.2cm、器高は1.1～1.4cmの範囲に収まるものが大部分である。6の口径が8.6cmとひと回り大きく、31の器高が1.7cmと高い。口縁部の形態は底部から口縁部をつまみ上げ尖るもの（7、8）や口縁を外反させるもの（6）あるいは内湾して丸く収めるもの（13、14）など変化がある。32～69は土師器の坏である。底部は糸切りで、66～69には板状圧痕が残る。口径は11.8～12.4cm、器高12.4～12.6cmの範囲に収まるものが大部分である。口縁部も内湾するものや、端部が丸く収めるもの、尖り気味になるものがある。70は白磁碗の底部片である。淡黄灰白色の透明釉で胎土は砂粒を少し含む淡黄灰白色である。畳付から底部は露胎で花押を墨書する。71は口ハゲの白磁の小碗である。口縁部は外反し、釉を掻きとる。内面には蓮弁文の山形文がある。胎土は白色、釉は青灰白色である。72は瓦質の片口の捏鉢である。色調は明灰色で口縁部外周のみ暗灰色を呈する。焼成は良好で胎土に小礫、砂粒を少し含む。底部は糸切り、体部はナデ調整を行う。73、74は仕上砥で両面を使用し、中央部が磨り減っている。75は滑石製の硯である。裏面を平滑に仕上げるが他は鑿跡が明瞭に残り荒い仕上げである。76～92は銅銭である。76は□通元寶、77-天禧通寶（初鋳1017年）、78-祥符元寶（初鋳1008年）、79-不明、80-開元通寶（初鋳621年）、81-祥符通寶（初鋳1008年）、82-皇宋通寶（初鋳1038年）、83-大観通寶（初鋳1107年）、84-天聖元寶（初鋳1023年）、85-元符通寶（初鋳1098年）、86-□□元寶、87-天□元寶、88-不明、89-景徳元寶（初鋳1004年）、90-天禧通寶（初鋳1017年）、91-開禧通寶（初鋳1201年）、92-開元□寶、である。

1300号土壙（Fig.46, PL.4）

J－03区に位置し南側を176号井戸、北側を171号井戸に切られる大型の土壙である。当初平面形態から井戸と考えていたが掘り込みが浅く、井筒部が確認できなかったので土壙とした。土層は暗褐色、灰褐色砂質土、黄白色砂層の縞状堆積となる軟かい覆土であった。大部分が他の遺構に切られ、本来の形状は大きく損なわれているが一辺1.5m前後の隅丸方形をなすものであろう。深さは0.58mで床面は平坦である。東壁は2段になっている。

出土遺物（Fig.52）

1は白磁Ⅸ類である。胎土は白灰色で釉はうすい緑灰色で、見込の釉を輪状に掻きとる。外底部に花押を墨書する。2は青白磁の碗で断面三角形の低い高台となる。胎土は白灰色で釉は青灰色である。畳付から底部は露胎である。3は越州窯系青磁で蛇ノ目高台である。胎土は赤茶灰色で緻密、釉は灰オリーブ色である。見込に胎土目が残る。4、5は明代染付碗である。4は高台を欠損する。見込と体部に圏線と草文を描く。6は李朝の粉青沙器壺である。胎土は灰白色できめが粗く、釉は緑灰色で全面に施釉する。内面には頸部と胴部の境に段をもち、胴部に当具の跡が波状に残る。

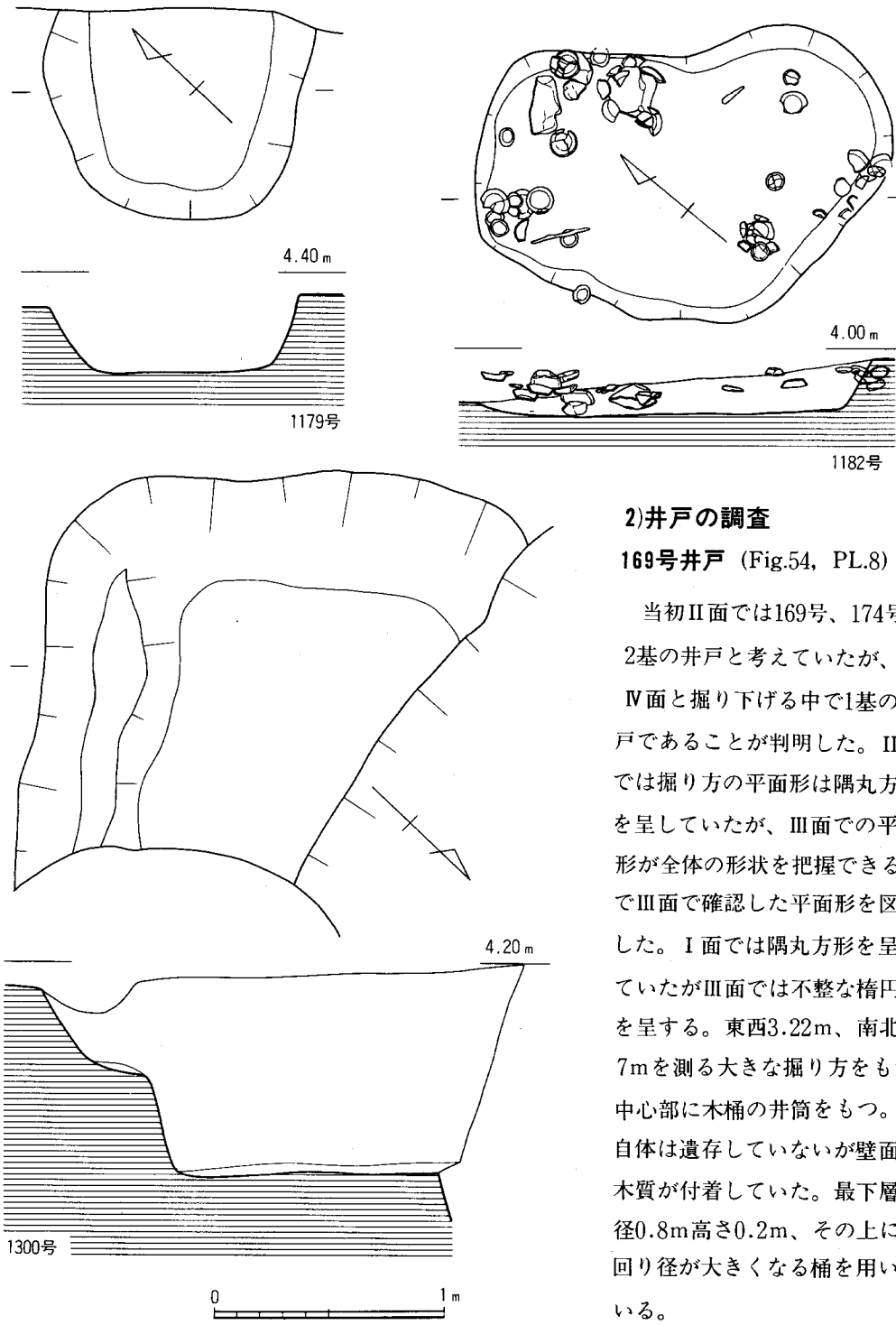


Fig.53 1179・1182・1300号土壙実測図 (1/30)

2)井戸の調査

169号井戸 (Fig.54, PL.8)

当初II面では169号、174号の2基の井戸と考えていたが、III、IV面と掘り下げる中で1基の井戸であることが判明した。II面では掘り方の平面形は隅丸方形を呈していたが、III面での平面形が全体の形状を把握できるのでIII面で確認した平面形を図示した。I面では隅丸方形を呈していたがIII面では不整な楕円形を呈する。東西3.22m、南北2.7mを測る大きな掘り方をもつ。中心部に木桶の井筒をもつ。桶自体は遺存していないが壁面に木質が付着していた。最下層に径0.8m高さ0.2m、その上に一回り径が大きくなる桶を用いている。

出土遺物 (Fig.55, PL.31)

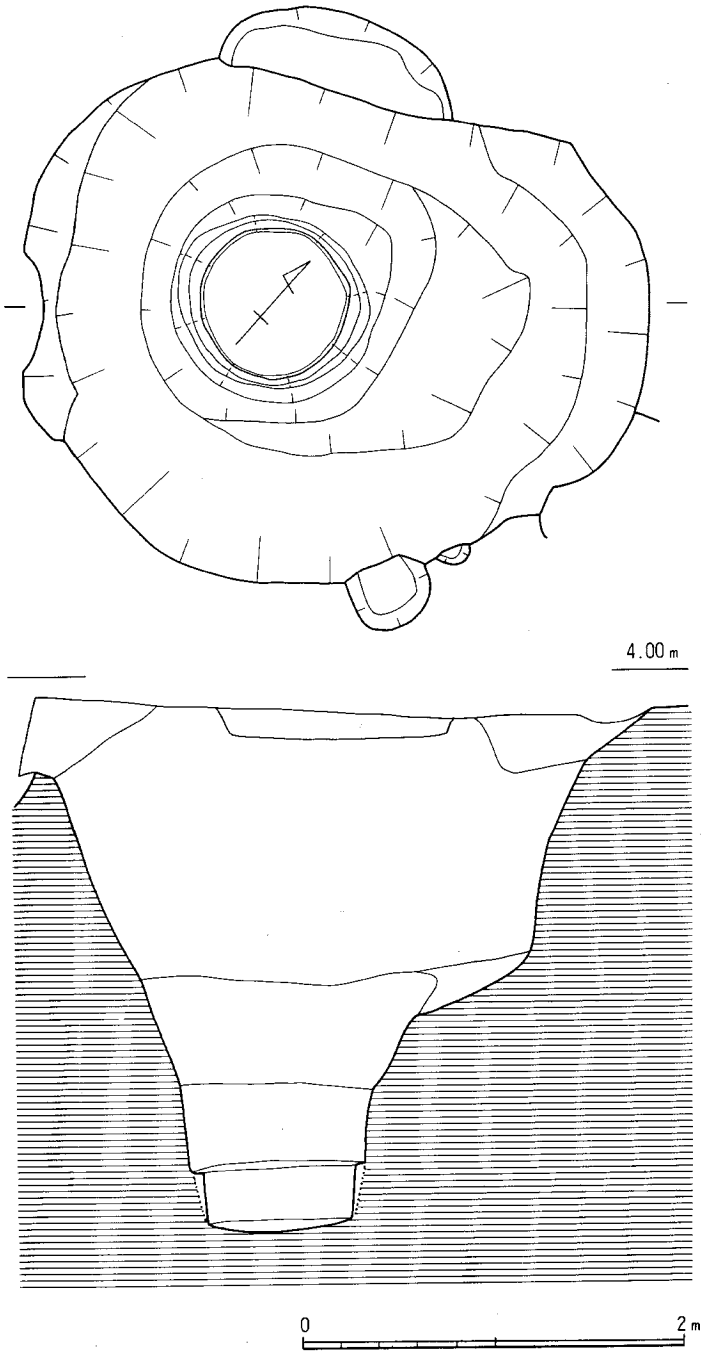


Fig.54　169号井戸実測図 (1/40)

1～10は底部糸切りの土師器である。1～5は小皿で1を除き口径8.0～8.8cm、器高1.0～1.2cmを測り、体部はヨコナデ調整である。4は糸切りの後に板状圧痕が残る。1は口径6.3cm、器高1.5cmを測る。胎土に砂粒を多く含む。口縁部には煤が付着する。6～10は坏である。6は底部と体部の境が明瞭で直線的に外に開き、外面に轆轤目が残る。7、8、10は口径13～13.8cm、器高2.5～2.8cmを測る。体部は直線的に開き口縁端部は丸く収める。11、12は瀬戸の皿である。胎土は白灰色でパサつく感じをもち、釉は緑灰色である。11はおろし目皿で畳付から底部は露胎で格子目状にヘラ切りを行う。13は古式土師器の壺の頸部破片である。頸部と口縁部の境は突帯状となり、その上に円形の浮文を貼りつけている。胎土に石英粒を多量に含み、色調は赤褐色を呈する。14～16は白磁である。15は碗の底部である。高台脇から底部は露胎で外底部に花押を墨書する。胎土はクリーム色で釉はうすい青味を帯びた白灰色である。17は束口碗の口縁部である。胎土は白灰色で釉はうすい飴色である。16は皿である。胎土は白灰色、釉はうすい青白灰色で口縁部から内面全体に施釉し、

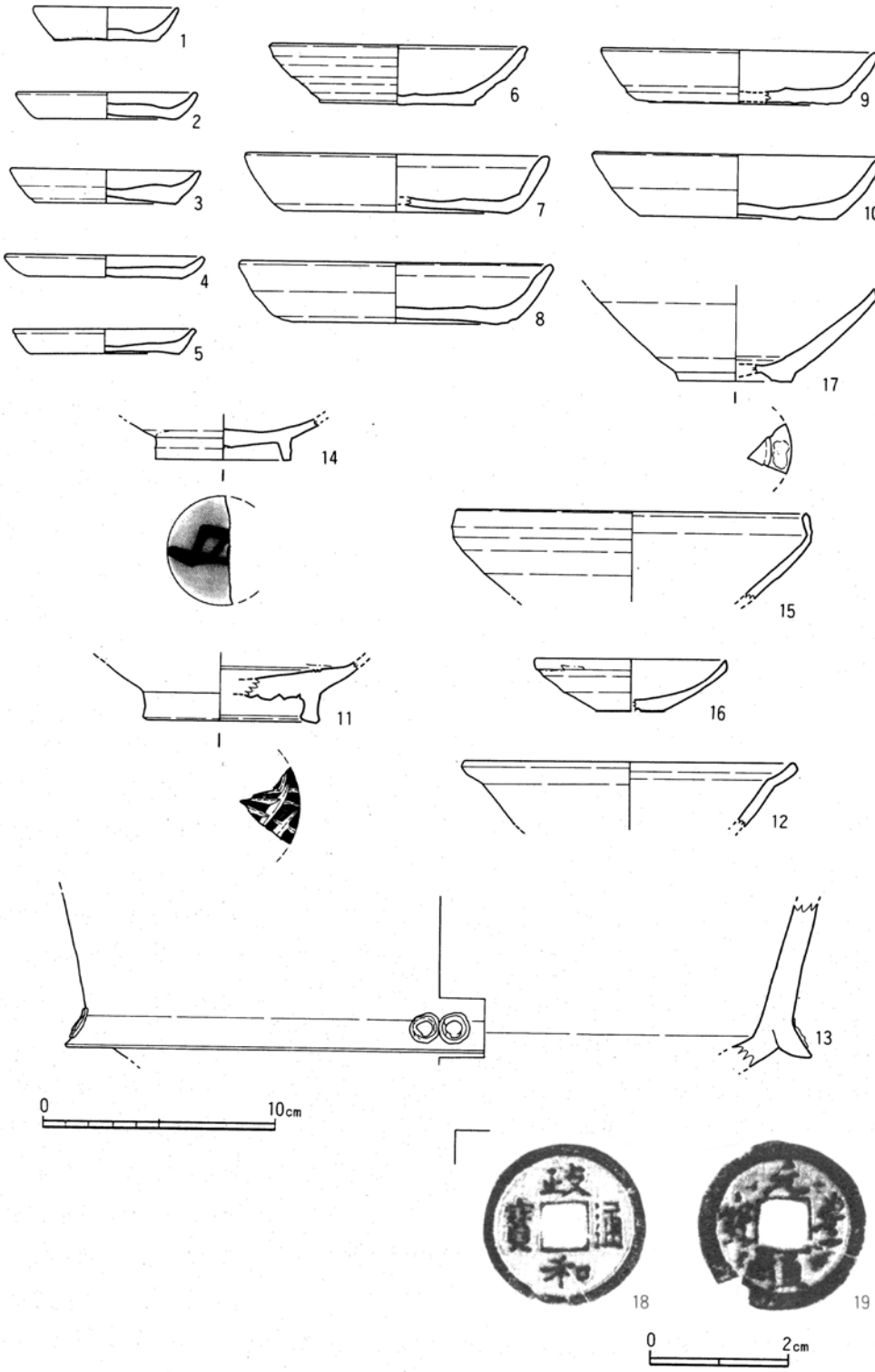


Fig.55　169号井戸出土遺物実測図

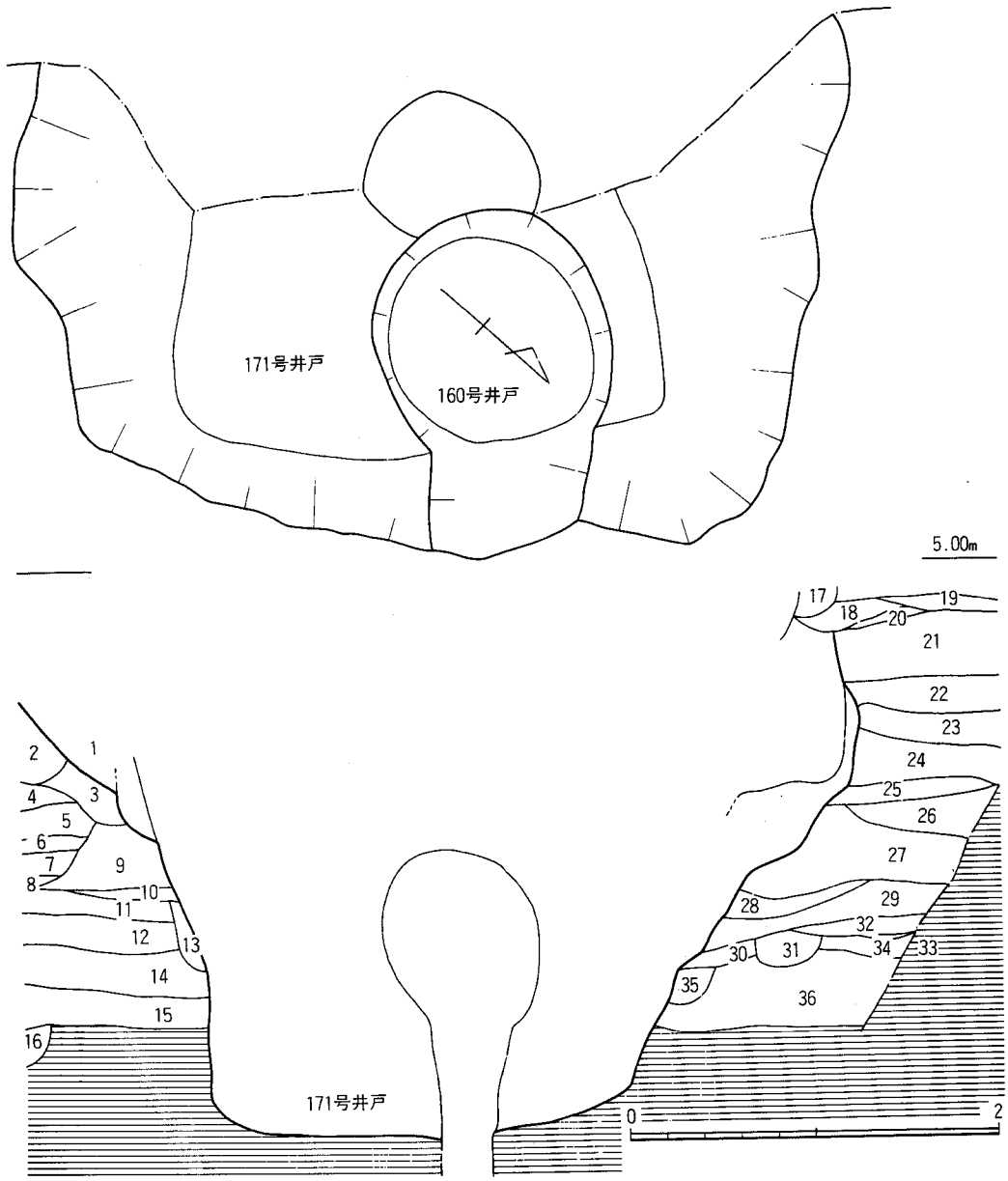


Fig.56　171号井戸実測図 (1/40)

1 暗灰褐色土	7 暗灰色褐色土	13 暗灰褐砂質土	19 褐色焼土	25 灰褐色砂	31 暗褐色土
2 暗灰色土	8 暗灰色土	14 暗濃褐色砂	20 灰白色粘土	26 暗灰色土	32 暗灰褐色土
3 灰色土	9 暗灰色土	15 暗褐色砂	21 灰褐色土	27 暗灰色土	33 炭
4 黒灰色土	10 暗灰色粘質土	16 淡暗褐色砂	22 炭粒混黒褐色土	28 淡茶褐色土	34 黒褐色土
5 暗灰色土	11 茶褐色焼土	17 灰色土	23 灰色壌土質土	29 褐色土	35 黒褐色土
6 暗褐色土	12 茶褐色土	18 灰色粘質土	24 灰褐色土	30 暗褐色土	36 暗褐色砂

外面は大部分が露胎である。17は高麗青磁の碗である。暗灰色で砂粒を含む。釉は深緑灰色で全面に施釉し、高台には目跡がつく。18、19は銅銭である。18は政和通寶（初鋳1111年）、19は元豊通寶（初鋳1078年）である。

170号井戸（Fig.53，PL.4）

J－03区、166号、176号井戸の南側に位置する井戸である。掘り方の一部を調査しただけで、大部分は調査区外へ拡がる。現況では径2.2mの弧状を呈するが、円形の掘り方の井戸であろう。166号井戸に切られ176号井戸を切っている。覆土は灰褐色砂質土である。

出土遺物（Fig.57－1・2，PL.58）

1は越州窯系青磁の鍔付皿の破片である。胎土は灰色で緻密、釉はオリーブ色である。口縁端部にスカラップ、上面に櫛描文をもつ。2は嘉定通寶（初鋳年1208～24年）。

171号井戸（Fig.56，PL.4）

J－03区、172号井戸の北側に位置する井戸である。隅丸方形の掘り方をもち一辺約4.3mを測るが西半部は調査区外へ拡がり、井筒部も西壁にかかり、今回の調査では井戸の掘り方の調査だけにとどまった。Ⅰ面では平面形が明瞭でなかったのでⅡ面で掘り下げた。土層の観察では標高4.6mの位置から掘り込まれており、上面の形態はかなり大きくなるであろう。

出土遺物（Fig.57－3～14，PL.31・58）

3～5は底部糸切りの土師器である。3は小皿で口径7.2cm、器高1.2cmを測る。4、5は坏で体部はヨコナデ、内底面はナデ調整である。内湾する体部で端部は丸く収める。胎土には砂粒を多く含み色調は黄褐色である。6～8は白磁碗である。6の胎土はうすい白灰色で緻密、釉は灰飴色で、見込の釉を輪状に掻きとる。高台脇から底部は露胎で花押を墨書する。7は低い高台で、内側を斜に削る。胎土は白灰色、釉は青白灰色で全面施釉する。畳付に目跡が残る。8は細く高く削り出した高台で見込に沈圏線をもつ。釉はクリーム色で高台脇から底部は無釉。9は口ハゲの白磁平底皿である。緑灰白色の釉を全面に施し、口縁部のみ掻きとる。胎土は白灰色で緻密。体部上半が外反する。10は龍泉窯系青磁の香炉である。胎土は白灰色で緻密、釉は半透明のオリーブ色で厚く施釉される。内面の下半は露胎で赤茶色を呈する。体部下半に脚部がつくが折損している。11は李朝青磁碗である。胎土はきめ細かな灰白色で、釉は青オリーブの透明釉である。全面施釉し、畳付に目跡が残る。他に各種の白磁、青磁碗、皿、明代染付なども小破片として出土している。12は滑石製品である。滑石製石鍋の再加工品で湾曲している。右側面が石鍋の口縁部であったと考えられる。縦に1条，横に2条Ｖ字形の切り込みをもつ。横の刻みは一周する。石錘であろう。13は銅製の小銙の破片で外面蓮弁様に膨らませる。14は錆が著しく元□□寶としか読むことができない。

172号井戸（Fig.53，PL.4）

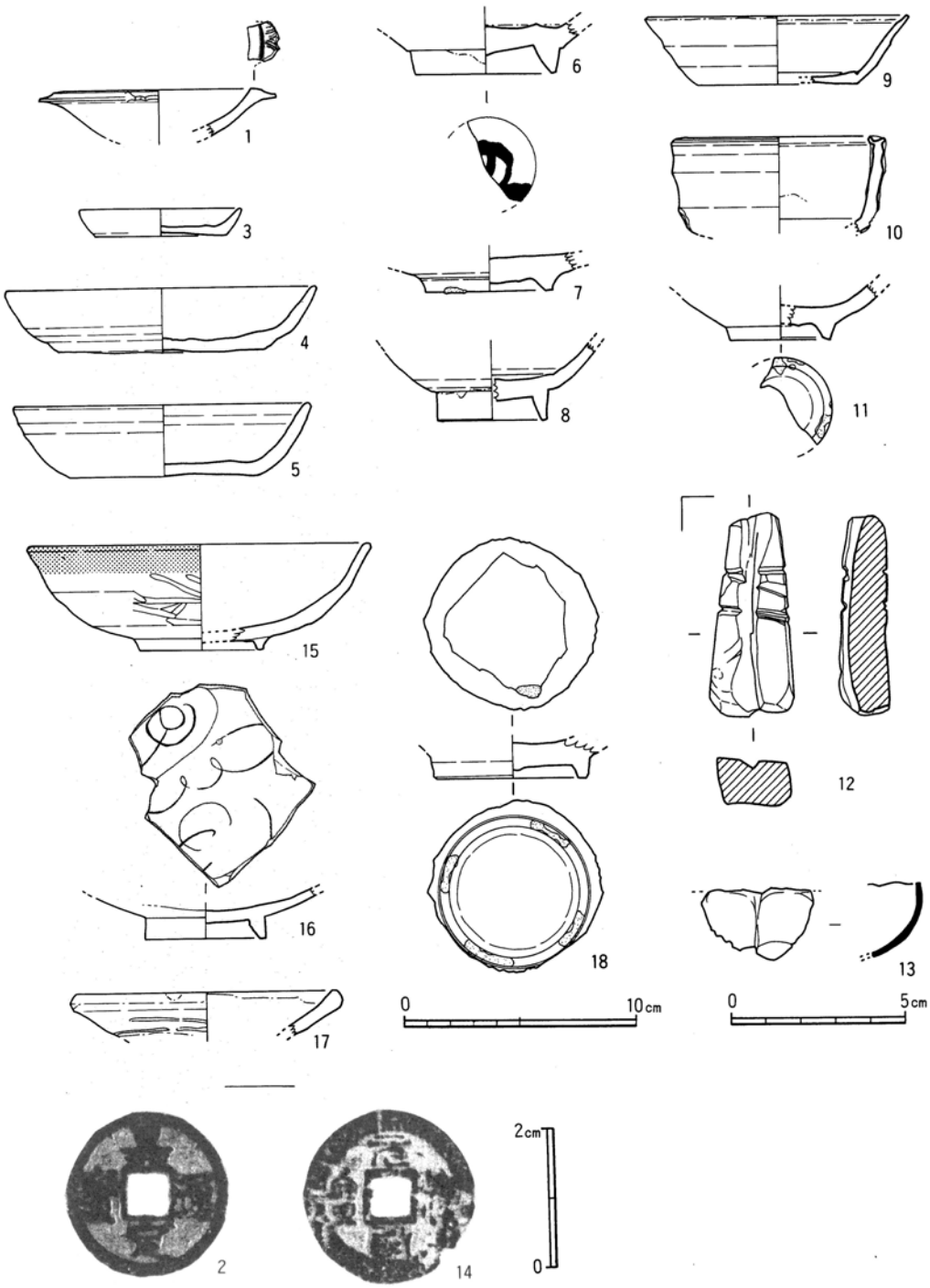


Fig.57　170～172号井戸出土遺物実測図

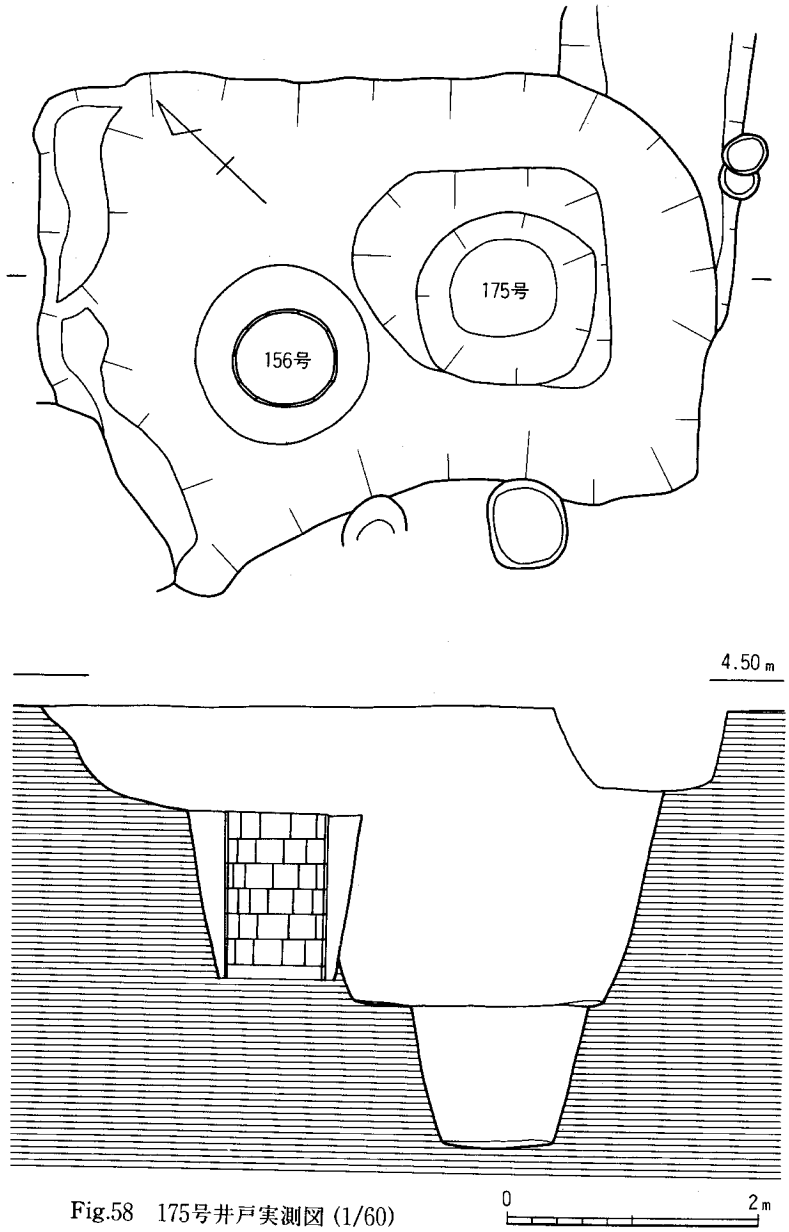


Fig.58　175号井戸実測図 (1/60)

J－03区、171号と1300号土壙の間にある井戸で、井筒及び掘り方の大部分は西側の調査区外へ拡がり全体の形状は不明瞭である。西側を3834号ピット、南側を1300号土壙に切られ、現状では扇形を呈する。半径約1.3mを測り、円形の掘り方をもつ井戸である。井筒は確認することができなかったが、調査区の西側に位置するものであろう。

出土遺物（Fig.57－15～18，PL.31）

15は瓦器埦である。口径15.0cm、器高4.6cmを測る。胎土に細砂粒を少量含むが良好で色調は口縁から内面は黒色か暗灰色、外面は灰白色である。逆台形の低い貼付高台である。器表面が荒れて器面調整は不明瞭で一部横方向の研磨が認められる。16は潮州窯系白磁の高台付皿である。低い高台で内側を斜に削り、見込には曲線文をヘラ描している。胎土は白色と黒色の微粒子を含む灰色を帯びた白色で、釉は淡黄緑色である。17は陶器Ｂ群の皿である。胎土は暗灰茶褐色で釉は濃茶緑色である。釉は内面と口唇部に帯状に施されている。18は李朝の低い高台の陶器碗である。胎土は茶褐色ないし淡茶色で砂粒を多く含む。釉は灰緑色で全体に施釉される。高台の畳付には4ヶ所目跡が認められ部分的に釉を掻きとる。

175号井戸（Fig.58，PL.9）

J－03、04区、調査区の南寄りの中央部に位置する大型の掘り込みをもつ井戸である。南北5.25m、東西3.2mを測る隅丸長方形の掘り方である。北西部隅は撹乱に切られ、南東部で1175号土壙を切る。東側には近世の瓦井戸（164号）がある。井筒は中央部より南に寄った位置にあり上面径0.95m、床面径0.6m、深さ0.7mを測る。木桶を用いたと思われるが、桶自体は遺存していない。掘り方は北側は3段、南、西、東側は2段になる。

出土遺物（Fig.59～61，PL.32・58）

1～8は掘り方上層出土の底部糸切りの土師器である。1～6は皿である。口径7.6～8.2cm、器高は1.3～1.5cmを測る。6の底部には板状圧痕が残る。7、8は坏である。8は大きく口縁部が外反する。10は白磁の平底皿である。胎土は灰白色で釉は淡灰緑色である。見込に沈圏線をめぐらす。11は龍泉窯系青磁の皿である。胎土は灰白色で釉は淡灰緑色を呈する。底部以外は施釉する。見込には片切彫の文様を施す。12はアーチ状に抉る高台の白磁皿である。胎土は白色で少し黄味を帯びる。釉は淡灰白色で全面施釉する。高台は円弧に抉り、畳付に釉がつく。13は枢府白磁皿である。胎土は黒色微粒子を少量含む白色、釉は灰白色である。内面に型押の文様をもつ。14は陶器の茶入れである。釉は黒味の強い赤茶色で胎土は小豆色である。15は無頸壺で胎土は淡橙色、釉は暗黄～茶褐色である。口縁部は折り曲げて厚く、蓋受け部分及び内面が帯状に露胎となる。16は李朝陶器碗である。胎土は白色砂粒を多く含む灰色で、灰緑色の釉で全面に施釉する。見込と畳付には目跡が認められる。17は刀子で先端部を欠損する。18は角釘で頭部をＬ字に折り曲げている。19～36は下層出土である。19は底部糸切りの土師器皿である。胎土は砂粒を含み、淡橙色を呈する。口径7.6cm、器高1.25cmを測る。20は土師器坏で底部は糸切りである。21は丸底の土師器坏である。胎土は少し砂粒を含むが良好で色調は淡橙色を呈する。外面はナデ、内面は粗い研磨を行う。22～33は白磁である。22はⅣ類の碗である。胎土は灰白色できめ細か、釉は灰クリーム色である。体部下半から底部は露胎で見込に沈圏線をめぐ

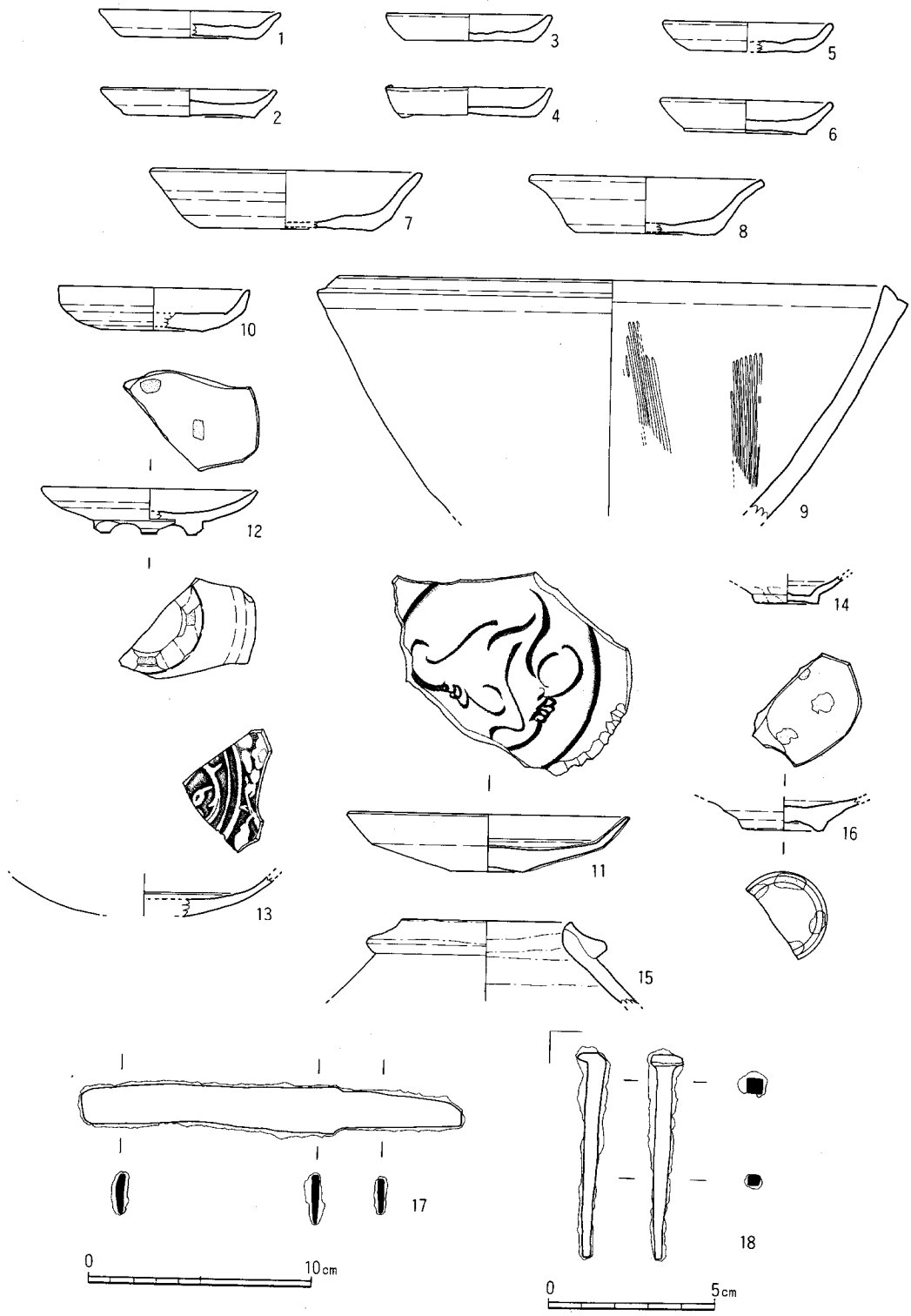


Fig.59　175号井戸出土遺物実測図(1)

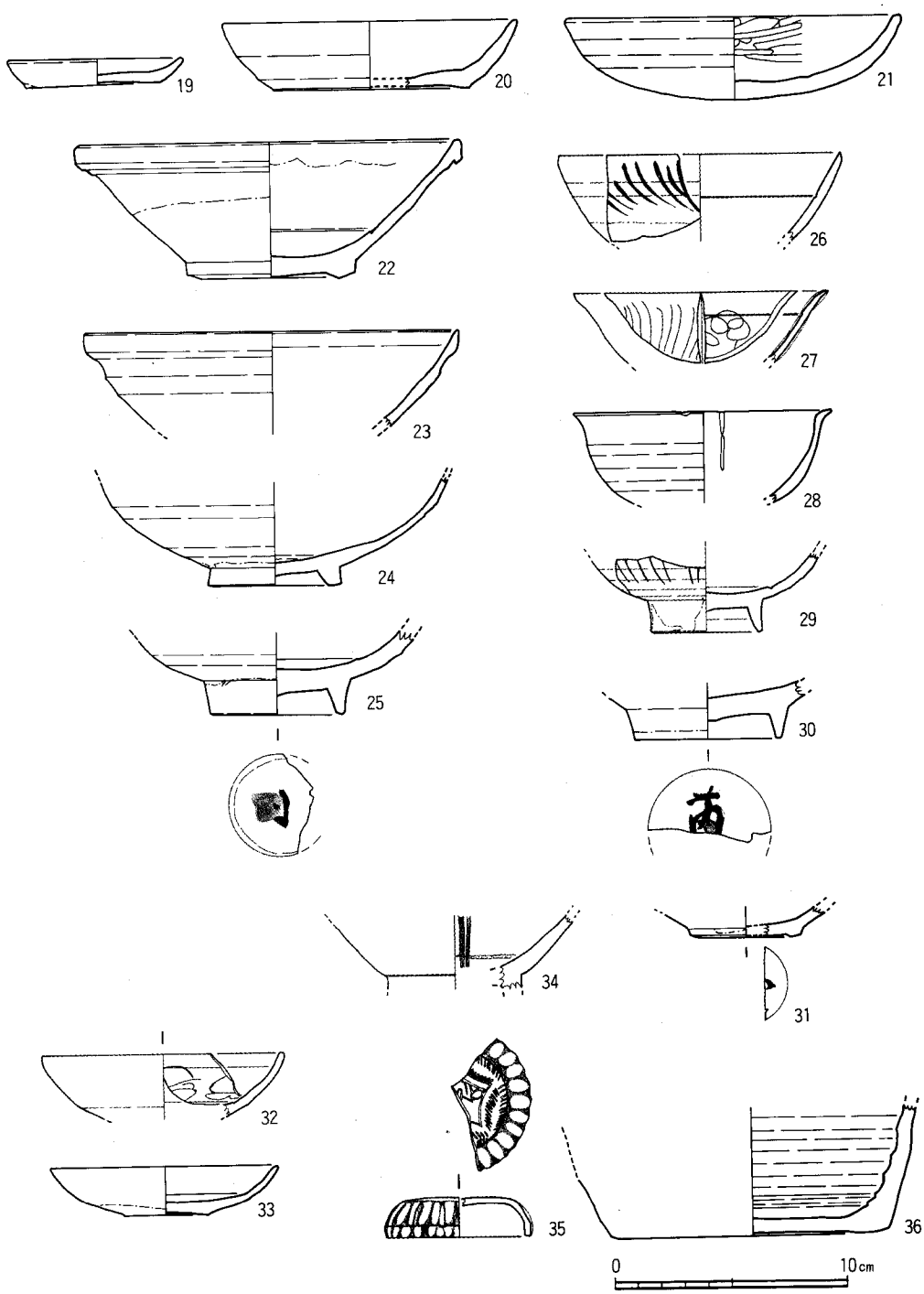


Fig.60　175号井戸出土遺物実測図(2)

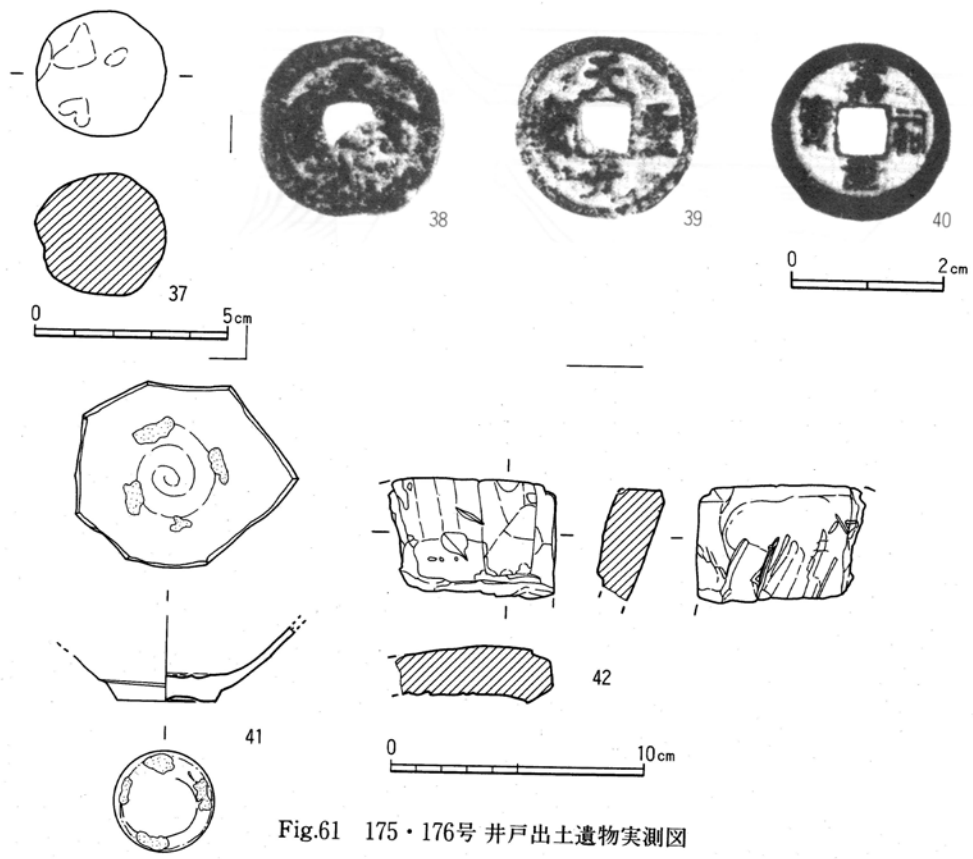


Fig.61　175・176号 井戸出土遺物実測図

らす。口縁部内面に釉だれが見られる。23の玉縁は薄く、その下が窪むタイプである。26は潮州窯系白磁碗である。胎土は黄白色で黒色粒子を含み、釉も黄白色を呈する。外面にヘラ描文様、内面に沈線をもつ。体部は内湾気味で口縁部端は尖る。27は口縁部が外反する白磁の小碗である。外面に直線、内面に曲線のヘラ文様を刻む。胎土は白色で色調は淡灰緑色を呈する。28は0類の小碗である。口縁端を強く外反させ、内面に白堆線をもち、口唇部に数個の刻目を入れる。30は底部で高台脇から底部は露胎である。露胎部に「廿ノ内」と墨書している。32、33は皿で、32の内面に曲線文を描く。34は越州窯系青磁碗である。胎土は灰色で灰緑色の釉を全面に施す。内面に2条の幅広の沈線があり、重ね焼の跡が帯状に残る。35は青白磁の合子蓋である。体部を蓮弁状とし、天井部に線状のレリーフがある。36は黒褐釉陶器の壺である。内面には轆轤目が残る。外面のみ施釉する。胎土は緻密で茶褐色である。37は砂岩製の毬球玉である。38は天□□寶、39は天聖元寶（初鋳1023年）、40は嘉祐元寶（初鋳1056年）である。

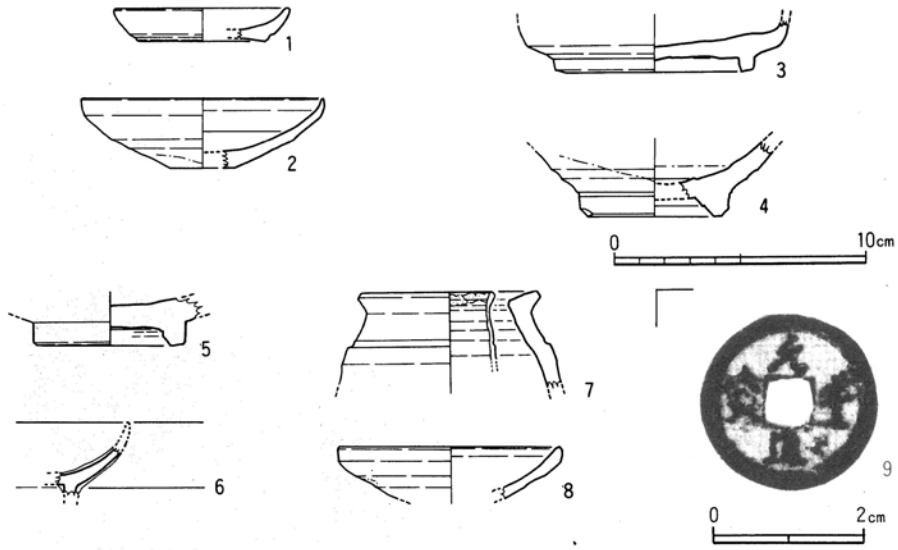


Fig.62　19・20号溝出土遺物実測図

176号井戸（Fig.53，PL.4）

J－03区、170号井戸に切られ、1300号土壙を切りその間に位置する井戸である。西側は近、現代の161、166号井戸に切られ、井戸の掘り方のみの調査である。平面形は現状では扇形をしているが、本来径約2mの円～楕円形をなすものであろう。掘り込みの深さは1.2mであるが土層を観察すると標高4.3m前後からの掘り方であることがわかる。井筒部は166号井戸の中か、さらに西側に位置するものであろう。

出土遺物（Fig.61－41・42）

41は李朝陶器の碗である。胎土は赤褐色で白色、黒色の砂粒が混じる。釉は白灰色で全面施釉し、畳付、内面に目跡が4ヶ所に残る。42は表面に煤が付着した滑石製石鍋の再加工品である。石鍋の本来の口縁部が右側面にあたり、鍔部分と、上面を削り加工しているが、他の部分は破損している。未製品であろう。

3）溝の調査

19号溝（Fig.38，PL.4）

I－02区調査区の北端に位置し、1144号土壙と1162号土壙の間から1137号土壙に延びる溝状遺構である。覆土は暗灰褐色である。幅0.6～0.35m、深さ0.05～0.1m長さ2.5mを測り浅い。主軸はN－35°－Wである。道路等の側溝ではなく建物に付随するものであろう。

出土遺物（Fig.62－1～4）

遺物は極めて少量しか出土していない。1は底部糸切りの土師器皿である。口径7.0cm、器高1.3cmを測る。胎土は砂粒を少し含み淡黄白色である。体部はナデ調整を行う。2は白磁の平底

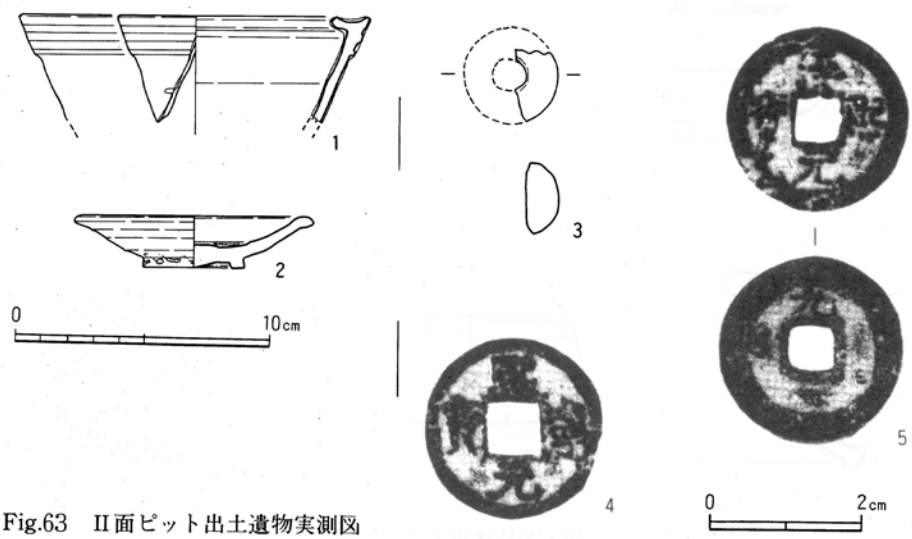


Fig.63　II面ピット出土遺物実測図

皿である。胎土は白灰色、釉は黄灰白色で底部近くから下は露胎である。4は青磁で見込の釉を輪状に掻きとる。釉は白っぽいオリーブ色で胎土は茶褐色の粗いものである。3は須恵器の高台付坏である。

20号溝（PL.9）

J－01区に位置し、東西に延びる浅い溝である。幅0.35～0.5m長さ2.5mを測る。覆土は暗灰色砂質土である。19号溝と同じ性格の溝状遺構であろう。

出土遺物（Fig.62－5～9，PL.58）

19号溝と同様に遺物の出土は極めて少ない。5はII類の白磁碗底部である。断面が四角の高台で内側を斜めに削る。6は龍泉窯系III類の小碗である。胎土は白灰色で緻密、釉は緑を帯びた青灰白色で全体に厚くかかる。7、8はB群陶器の皿、壺である。9は元豊通寶である。

4）ピットの調査

I面と同様に大小のピットが多数出土したが、狭い調査面積であるので建物を復元するには至らなかった。中には礎石状の石をもつものや、土器を投棄したものがある。

出土遺物（Fig.63，PL.38・39・58）

1は龍泉窯系青磁の小型の水注であろう。胎土は灰白色で緻密、釉は白濁したオリーブ色である。全体に厚く施釉している。口縁部の内側を鍬形に肥厚させ、上面を窪ませる。口縁部外面には幅広の二重の沈線をめぐらせる。2は高台付白磁皿である。胎土は白灰色、釉は緑灰白色で見込の釉を輪状に掻きとる。また高台と見込に重ね焼の跡が残る。釉は高台～底部を除き全体に施釉する。3はガラス玉である。中央の孔の部分より半折している。色調は濃紺で気泡を含む。4、5は銅銭である。4は熙寧元寶（初鋳1068年）、5は淳熙元寶（初鋳1174年）で背に「九」の字

が見える。

5)包含層出土遺物

土師器 (Fig.64－1～14, PL.32・33)

1～7は底部糸切りの皿である。1は口径6.3cm、器高1.5cmと小ぶりで器高が高い類である。他は口径7.6～8.2cm、器高1.2～1.3cmとほぼ同一の規格性がある。6、7には糸切りの後に板状圧痕がつく。8～14は底部糸切りの土師器坏である。8～13は口径11.6～12.6cm、器高2.4～2.8cmを測る一群である。平底から内湾する体部となり、口縁部は尖るものと丸く収まるもの二種がある。13には板状圧痕が残る。14は一回り大きな坏で体部は直線的に開く。口径15.3cm、器高2.9cmを測る。胎土、焼成は堅緻で明橙色を呈する。底部には板状圧痕が残る。

輸入陶磁器 (Fig.64－15～55, PL.32～34)

15は白磁碗IX類である。胎土は赤味を帯びた黄白色で釉は淡灰色である。外面体部下半から高台、底部は露胎である。見込の釉を輪状に掻きとる。16～21は白磁碗底部で露体の底部に墨書をもつ。16、19は花押であろう。22～30は白磁の皿である。22の胎土はクリーム色でパサパサした感じで釉は白灰クリーム色である。内面の見込と体部の境に緩やかな段をもつ。見込には花文を線刻する。23、24の底部には墨書が認められる。25～30は口ハゲ白磁の皿である。25は完形品で外底部は露胎で重ね焼の跡が残る。胎土は白色で釉は緑灰白色である。見込に沈圏線があり、中央にヘラ跡が認められる。26、27、29はほぼ完形品で29は底部の釉をヘラナデし、28は地肌が多く残る。30は底部が露胎で墨書が認められる。31は白磁の水注である。口縁部は折り返し端部を垂下させる。把手は2条の沈線の入った帯状のもので、基部のみ遺存する。胎土は淡灰色で灰白色の釉を施す。32～40は青白磁である。32、33は碗で口ハゲにする。外面にはヘラ描の蓮弁文をもつ。胎土は白色できめ細かで、釉は青味を帯びる白灰色である。34は小碗の底部で畳付から底部は露胎である。胎土は白色で釉は明るい水色である。内面に幅広の凹線を放射状に、見込に二重の円文をもつ。35、36は平底皿で内面に型押しの草花文、雷文をもつ。胎土は白色で緻密、釉は空色で白濁している。口縁部を口ハゲにし、外底部の釉をうすく掻きとる。38は型押しの小壺で胎土は白色、釉は薄い青白色である。体部下半から底部は無釉である。内面は全体に施釉するが部分的に釉がとぎれる。外面には蓮弁文をもつ。39は小壺の蓋である。胎土は白色で緻密、釉は灰肌色で天井部のみ施釉する。型造りで天井部に花弁をレリーフしている。40は合子の蓋である。胎土は白色で釉は緑を帯びた淡青色で内外面天井部に施釉し、口縁部は露胎である。体部に蓮弁文、天井部に曲線のレリーフをもつ。41は黒褐釉の天目碗である。胎土は灰～茶灰色で気泡を含む。体部下半から底部は露胎である。42～45は龍泉窯系の青磁碗である。42の胎土は白灰色で釉は深草色である。器面には砂粒等の付着物が多くつ

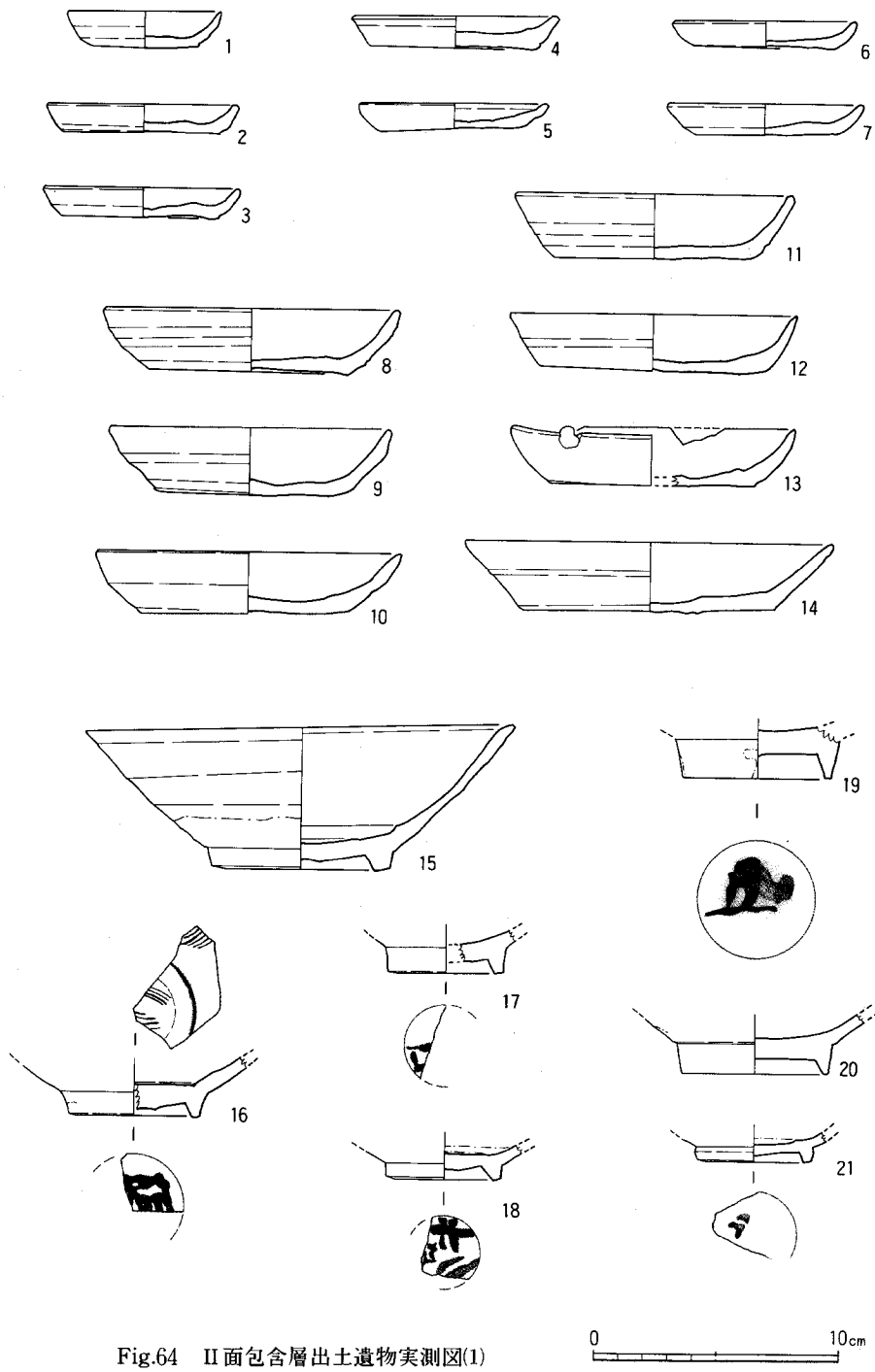


Fig.64　II面包含層出土遺物実測図(1)

く。体部下半にはヘラ削りの跡が明瞭に残る。畳付から底部は露胎である。43も蓮弁文の小碗である。胎土は白色砂粒を含み橙色、釉は灰緑色で畳付を除き全体に厚くかける。44は束口碗

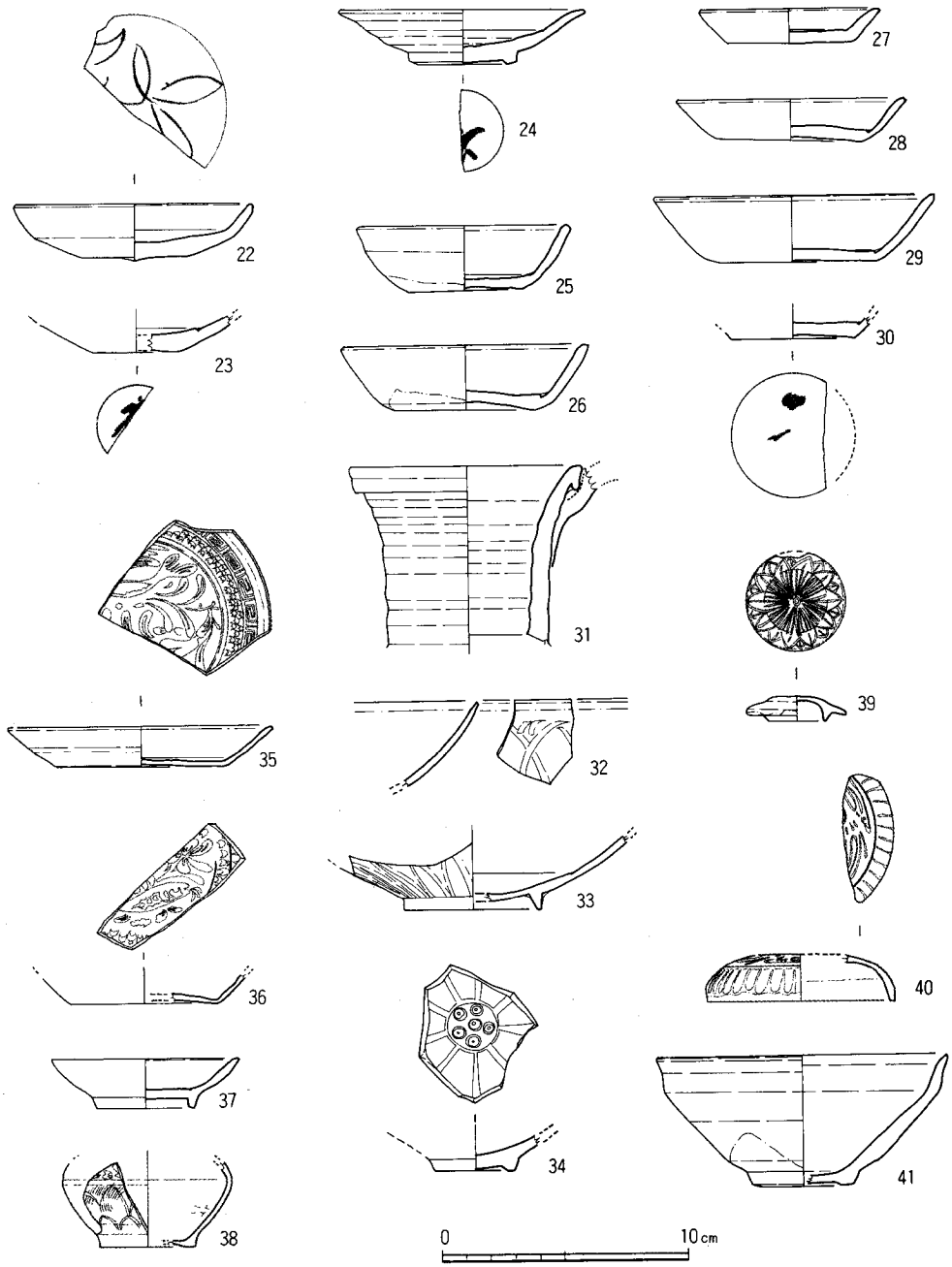


Fig.65　II面包含層出土遺物実測図(2)

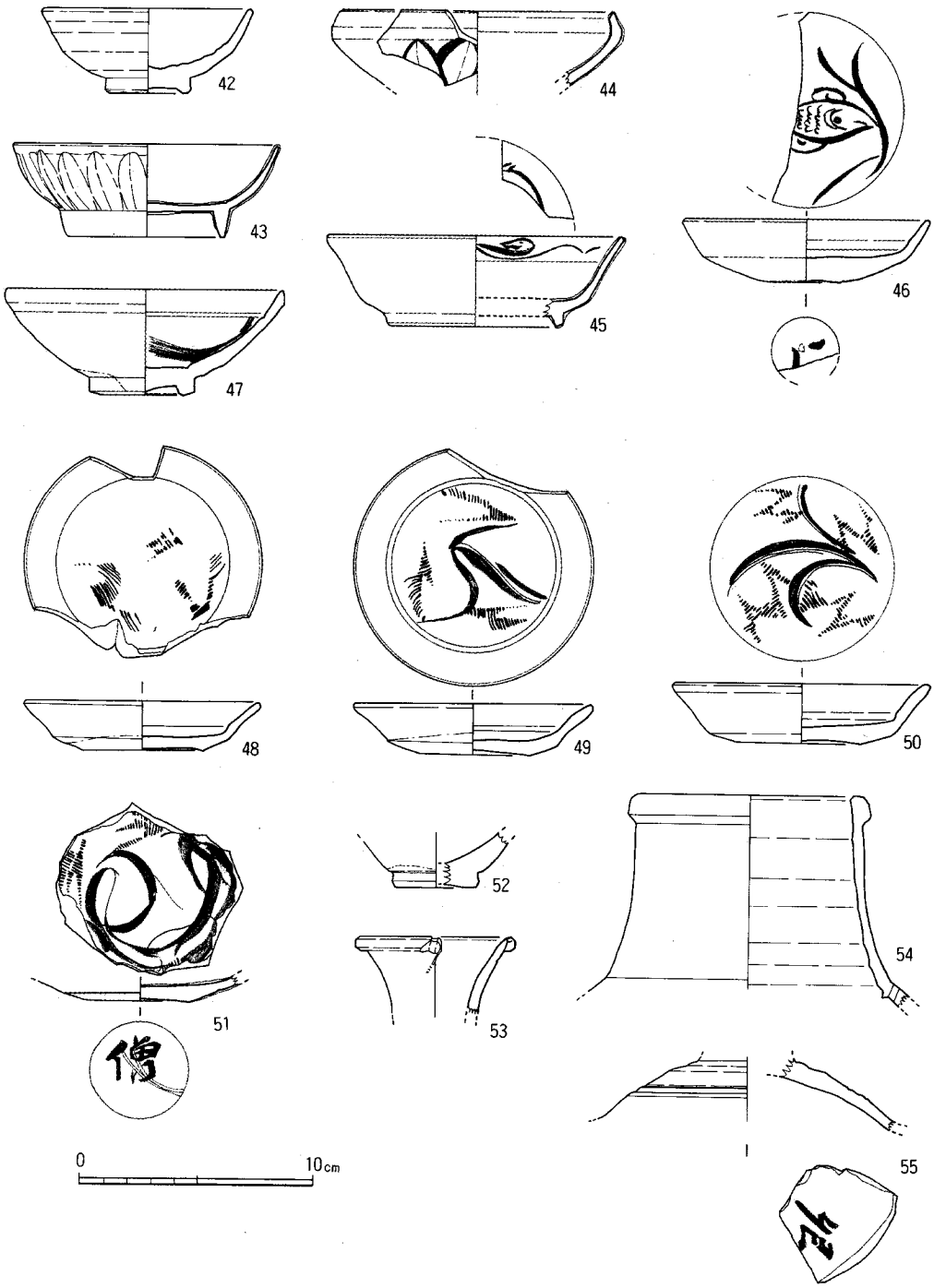


Fig.66　II面包含層出土遺物実測図(3)

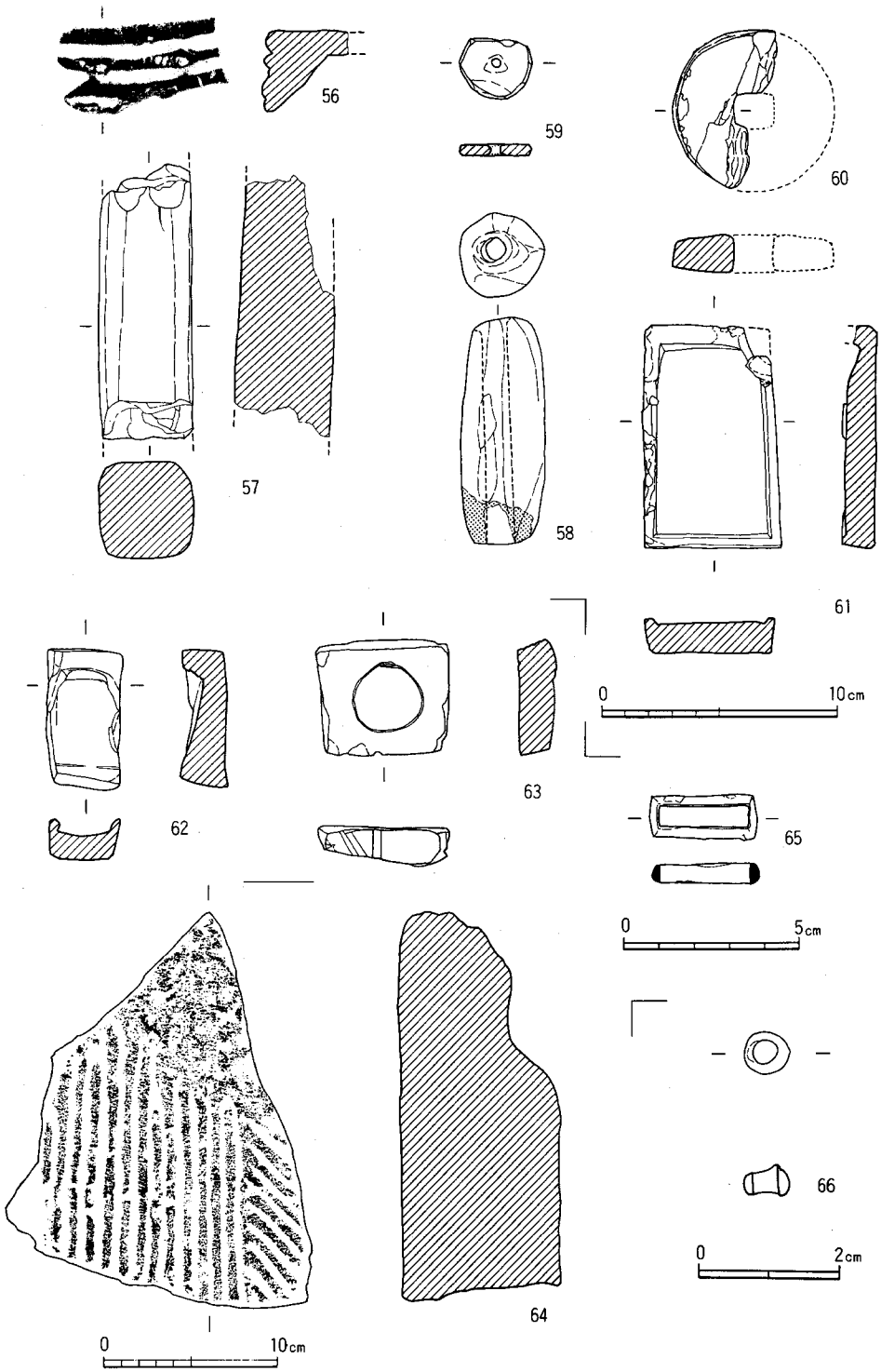


Fig.67　II面包含層出土遺物実測図(4)

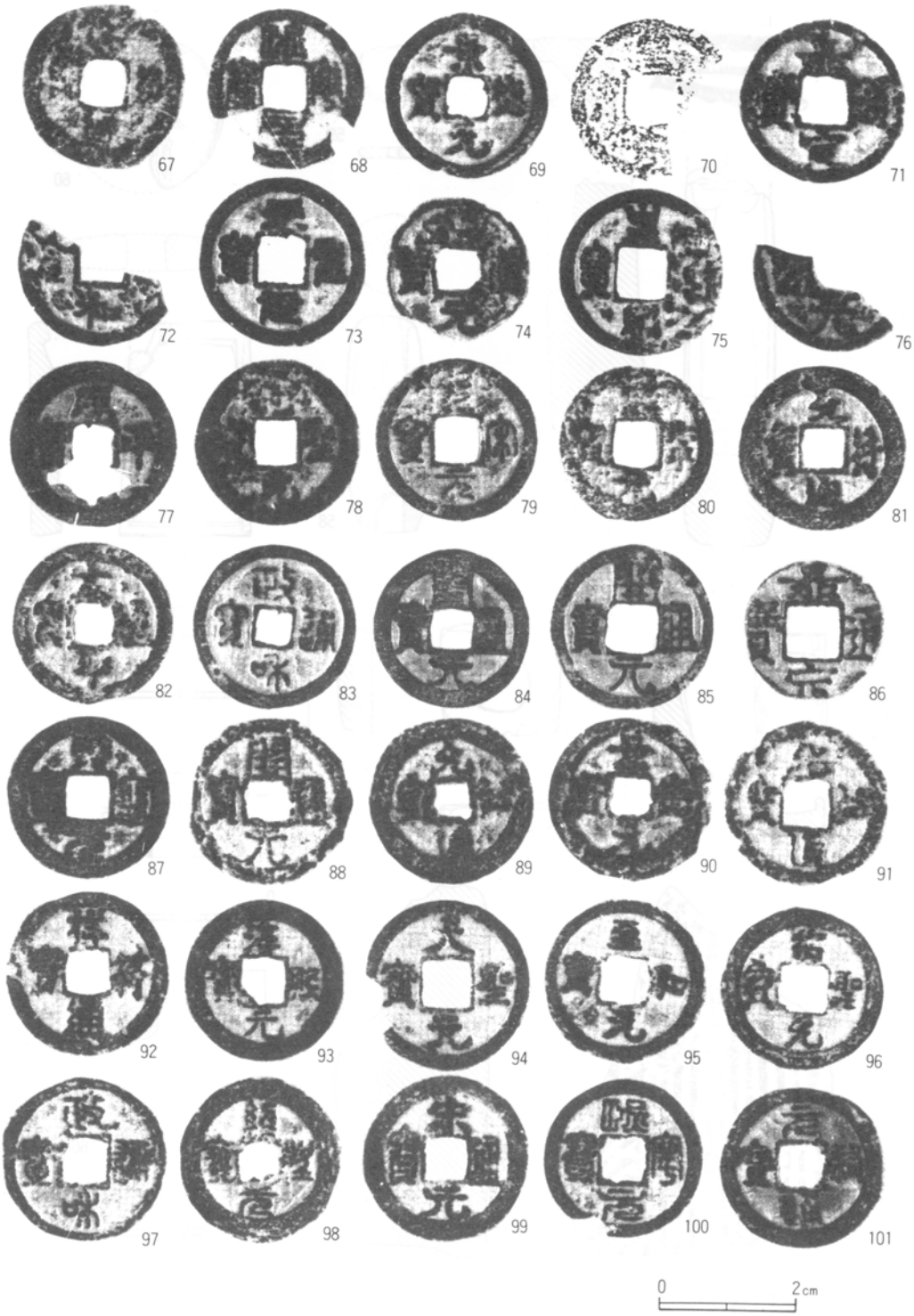


Fig.68　II面包含層出土遺物実測図(5)

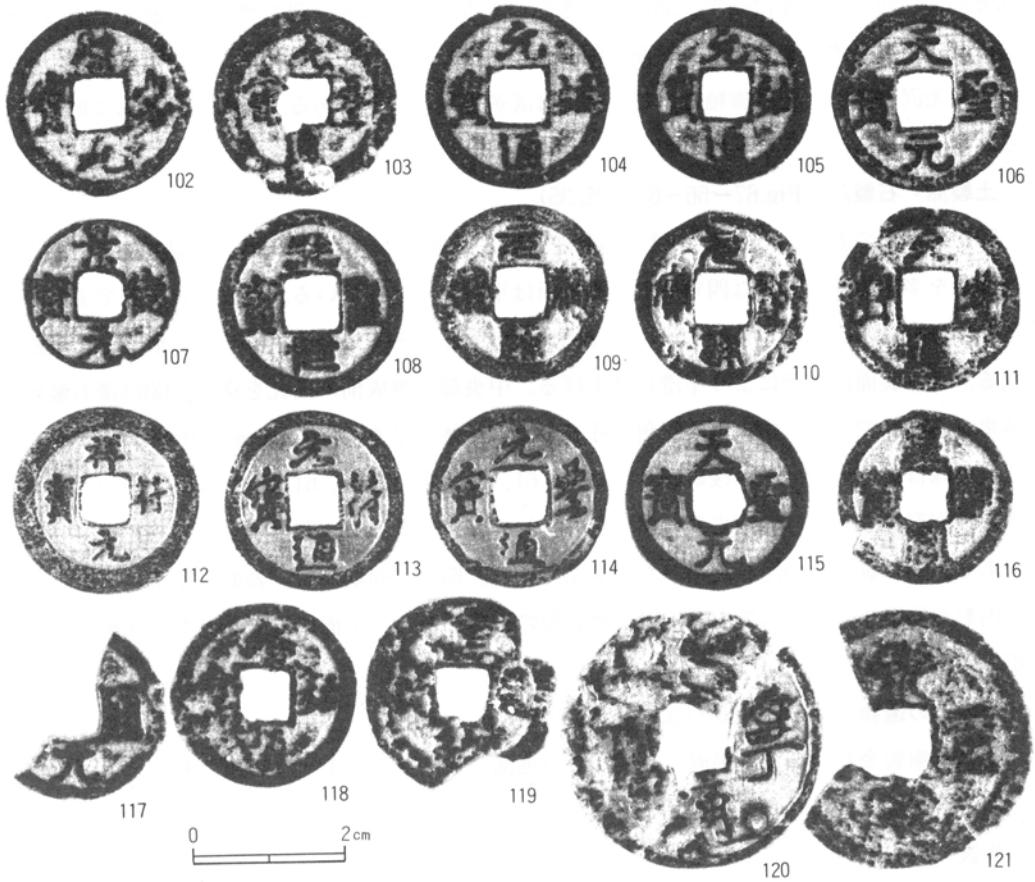


Fig.69　II面包含層出土遺物実測図(6)

で胎土は灰白色を呈し、白濁したオリーブ色の釉を全体に厚く施釉する。外面に蓮弁文をもつ。45は広い底部で直線的に開く体部をもつ碗である。高台は八の字に外に開く。口縁部内面に片切彫文をもつ。胎土は灰～黄褐色、釉は灰緑色で全面施釉する。46は龍泉窯系の青磁平底皿である。体部に稜をもち、見込に魚文を施す。胎土は白灰色で緻密、釉はオリーブ色で全面施釉し、底部のみ掻き取る。また墨書をもつ。48～51は同安窯系青磁平底皿である。48、49、51は底部脇から底部にかけて露胎である。50は底部のみ露胎である。48は見込に短い櫛描文をもつ。胎土は淡灰色で釉は黄白色である。49も48と同じ胎土、釉であるが見込にヘラ描文、櫛描文をもつ。51は底部だけの破片で胎土は灰色、釉は淡緑色である。露胎の底部に「僧」と墨書する。52は天目風の底部をもつ碗で胎土は緻密で灰色を呈し、釉は黄～緑褐釉の碗である。釉尻は茶褐色を呈する。高台脇から底部は露胎である。54は陶器の水注である。口縁は玉縁口縁で肩部の注口部を欠損する。胎土は細砂粒を含む赤褐色で光沢のある茶褐色釉を施す。釉は口縁部は

部分的で外面には全体に施す。53は李朝陶器である。胎土は灰白色でザラつく感じである。釉は緑灰白色で全体に施釉する。外面の頸部には白土で刷毛目文様を描く。55は陶器蓋で天井部のみ半光沢の緑灰白色の施釉である。胎土は淡黄褐色で緻密である。内面の露胎部に墨書がある。右が欠損しているが「郷」の字か。

土製品・石製品（Fig.67－56～64，PL.35）

56は軒平瓦である。瓦当面は平行の3条の凹線文様をもつ。57は支脚状土製品である。胎土には砂粒を多く含む。断面は四角形で、器表面は平滑に仕上げている。58は管状土錘である。中央部に径0.5～0.7cmの円孔をもつ。59は円盤状土製品である。側面はヘラで面取りし、稜線が残る。表、裏面はナデにより平滑に仕上げる。中央部に焼成前の円孔を穿つ。60は滑石製の紡錘車状石製品である。中央部に四角の孔をもつ。全体に厚く円縁で1.0cm、中央部で1.5cmを測る。周縁は鑿で削り、その後研磨している。61、62は硯である。61は小型の硯で縁の一部を除きほぼ完形品である。粘板岩系の黒灰色の石材を使用している。62は小豆色の石材を用いた硯である。63は黄灰色の泥岩を用いた未製品である。四角に面取りし、表面を丁寧に研磨した上に円形の筋彫をおこなっている。64は砂岩製の石臼である。上面に方向の異なる沈線を全面に彫り込んでいる。

その他の遺物（Fig.67－65・66，PL.35・60）

65は青銅製金具である。平面は長方形で中央部を抉り抜いたような形態である。断面は鉾形である。66はガラス玉でコバルトブルーを呈する。

銅銭（Fig.68・69，PL.59・60）

II面の遺構検出及びその下を掘り下げる時に合計89枚の銅銭が出土した。中には10枚前後が銹着して一括して出土したものがある。また74、86、107は外縁を削りとった削銭である。120は崇寧通寶で外縁に沿った位置に円孔を穿つ。銅銭名は以下の通りである。67－祥符通寶（初鋳1008年）、68－熙寧元寶（初鋳1068年）、69－景徳元寶（初鋳1004年）、70－皇宋□寶、71－嘉定通寶（初鋳1208～24年）、72－□和□寶、73－天聖元寶（初鋳1023年）、75－皇宋通寶（初鋳1038年）、76－□□元寶、77－咸平□寶、78－不明、79－聖宋元寶（初鋳1101年）、80－□寧元寶、81－元符通寶（初鋳1098年）、82－大平通寶（初鋳976年）、83－政和通寶、84、85－開元通寶（初鋳621年）、86－嘉定通寶、87－熙寧元寶、88－開元通寶、89－元祐通寶（初鋳1086年）、90－景徳元寶（初鋳1004年）、91－不明、92－祥符通寶、93－淳熙元寶（初鋳1174年）、94－天聖元寶、95－至和元寶（初鋳1054年）、96－紹聖元寶（初鋳1094年）、97－政和通寶、98－紹聖元寶、99－宋通元寶（初鋳968年）、100－熙寧元寶、101－元祐通寶、102－□□元寶、103－元豊通寶、104、105－元祐通寶、106－天聖元寶、107－景徳元寶、108－天聖元寶、109－元祐通寶、110－元□通寶、111－元豊通寶、112－祥符元寶、113－元符通寶、114－元豊通寶、115－

天聖元寶、116－嘉□□寶、117－□通元寶、118－元祐通寶、119－嘉祐通寶、120－□寧通寶、121－崇寧□寶である。

3.III面の調査

III面の調査は南端で、標高4.2m、北端で4.0mの高さで確認した遺構である。I、II面と異なり大型土壙や土壙墓、あるいは祭祀遺構などは検出できなかった。井戸も調査区の北端で2基あるだけである。遺構の極めて少ない面である。

1)土壙の調査

1184号土壙 (Fig.71, PL.10)

J－04区、調査区中央の東寄りの位置にある。南側を155号井戸に切られる不整円形の土壙である。東西1.0m、南北0.8m、深さ0.28mの規模である。覆土は暗褐色土で床面近くは灰白色粗砂である。出土遺物は土師器の坏、皿類で上層の北西隅から完形品で数個体が出土している。

出土遺物 (Fig.72－1～20, PL.36・58)

1～7は底部糸切りの土師器皿である。口径7.6～8.5cm、器高1～1.2cmを測る。体部～内底はヨコナデ調整である。5、6の底部には板状圧痕がある。体部は内湾し、口唇部は尖るものと丸く収めるもの二種がある。8～10は底部糸切りの土師器坏である。8は口径12.8cm、器高2.8cmを測る。体部はヨコナデ、内底面はナデである。口縁部は外反し、丸く収める。9は口径11.8cm、器高2.5cmを測る。体部は内湾する。11～20は銅銭で一括して出土した。11－開元□寶、12－熙寧元寶、13－□□元寶、14－□□通寶、15－太平通寶、16－□□元寶、17－大観通寶、18－皇宋通寶、19－天聖元寶である。

1186号土壙 (Fig.71, PL.11)

J－04区、II面の1175号土壙の北側に位置する。西側を175号井戸に切られるが、楕円形を呈する。東西0.9m、南北0.7m、深さ0.32mを測る小土壙である。覆土は暗灰色砂質土で上層から土師器の坏、皿が数点出土する。

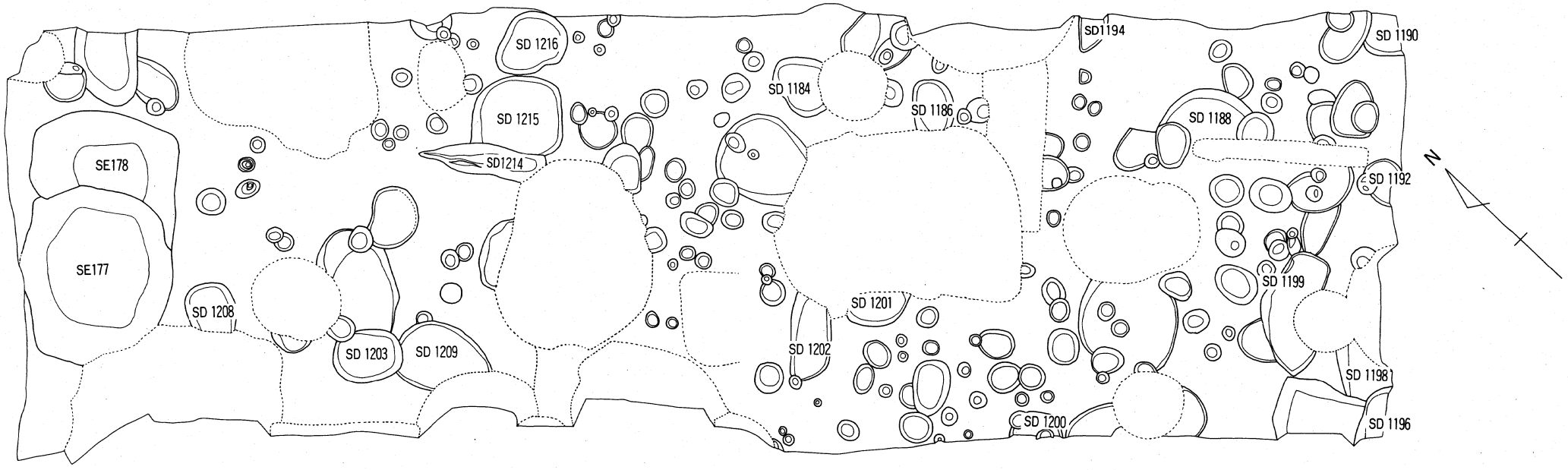
出土遺物 (Fig.72－20～26, PL.36)

21は底部糸切りの土師器皿である。口径8.2cm、器高1.3cmを測る。胎土は砂粒を含むが良好で色調は淡茶褐色を呈す。22～25は底部糸切りの坏である。口径12.0～12.6cm、器高2.7～3.0cmを測る。体部は内湾気味に口縁部となる。22は底部に板状圧痕が残り、26の内底には煤が付着する。27は白磁碗である。胎土は白灰色土で釉はうすいオリーブ色を帯びた白灰色である。高台から底部は露胎で底部に墨書をもつ。

1188号土壙 (Fig.71, PL.10)

J－02区、I面の1137号土壙の東側に位置する。1137号土壙や、他のピットに切られ、現状では径1.25mの半円を呈する。深さは約0.20mと浅い。本来円形の皿状遺構である。覆土は暗褐

Ⅲ面平面図



Ⅳ面平面図

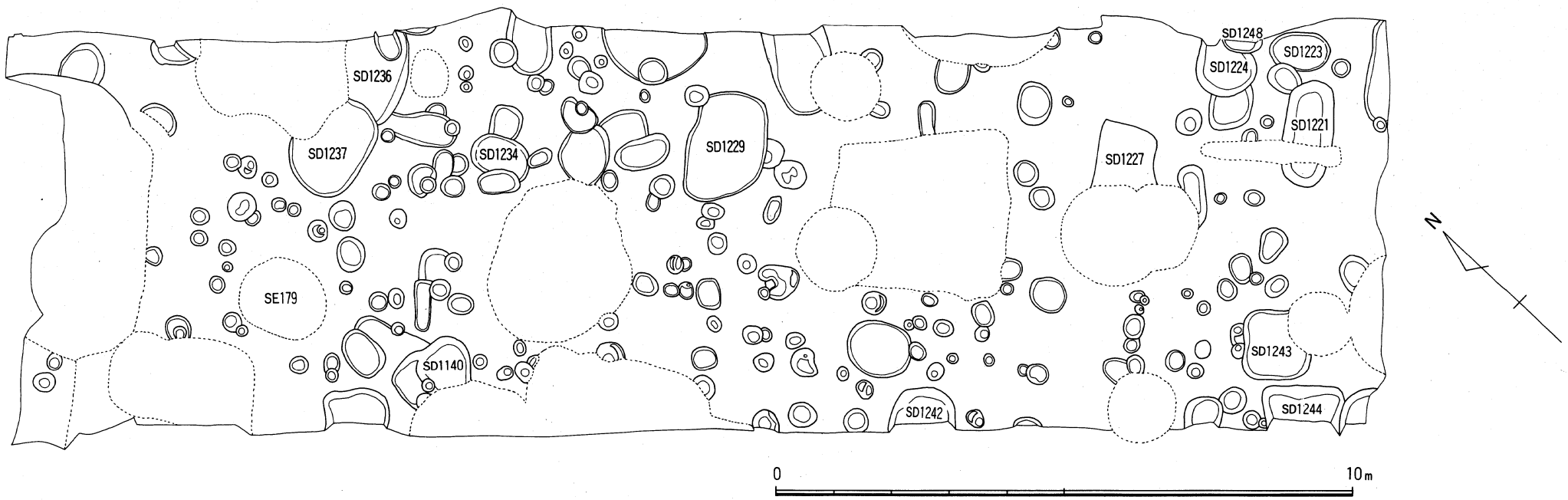


Fig.70　Ⅲ・Ⅳ面遺構全体図(縮尺1/100)

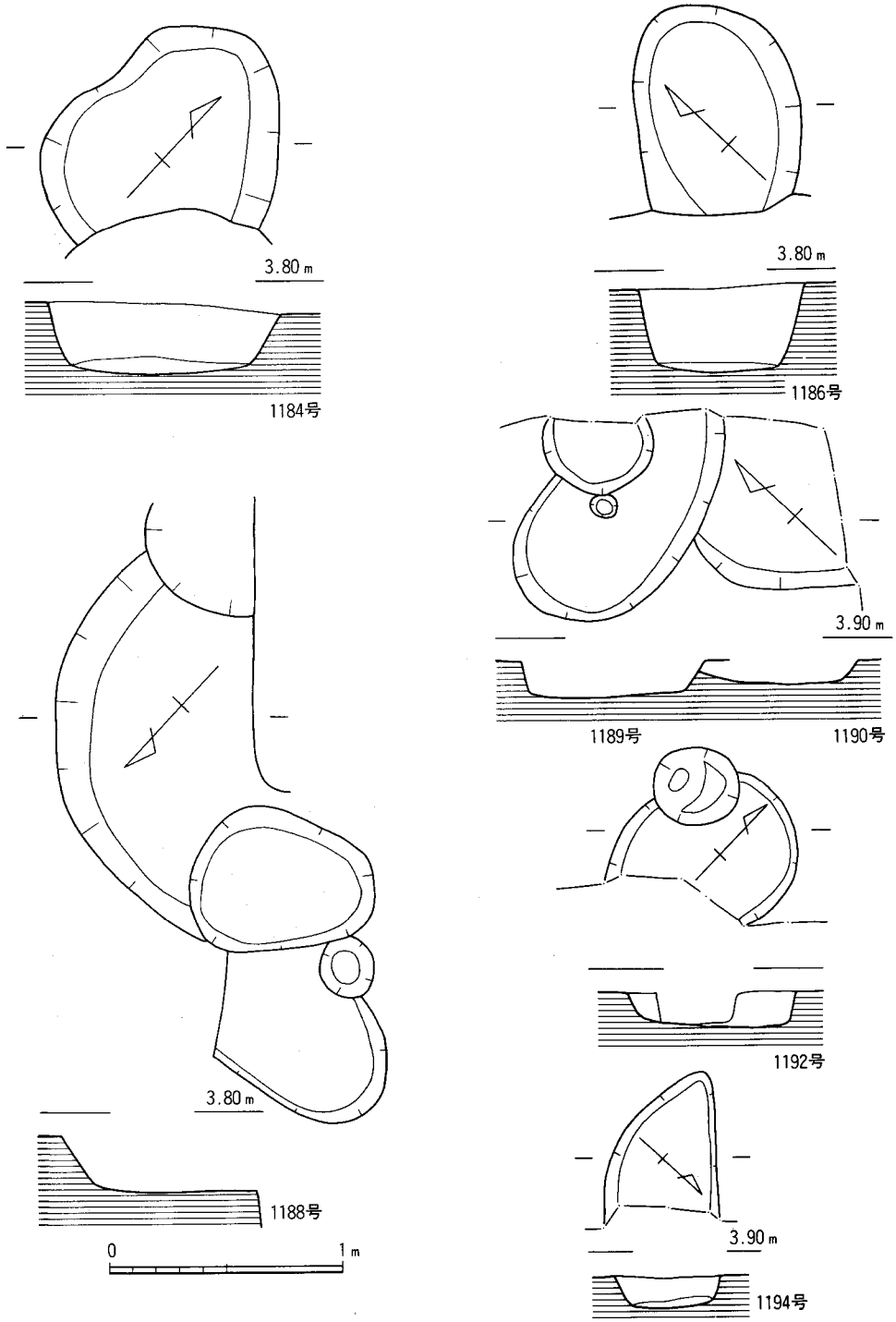


Fig.71　Ⅲ面土壙実測図 (1/30)

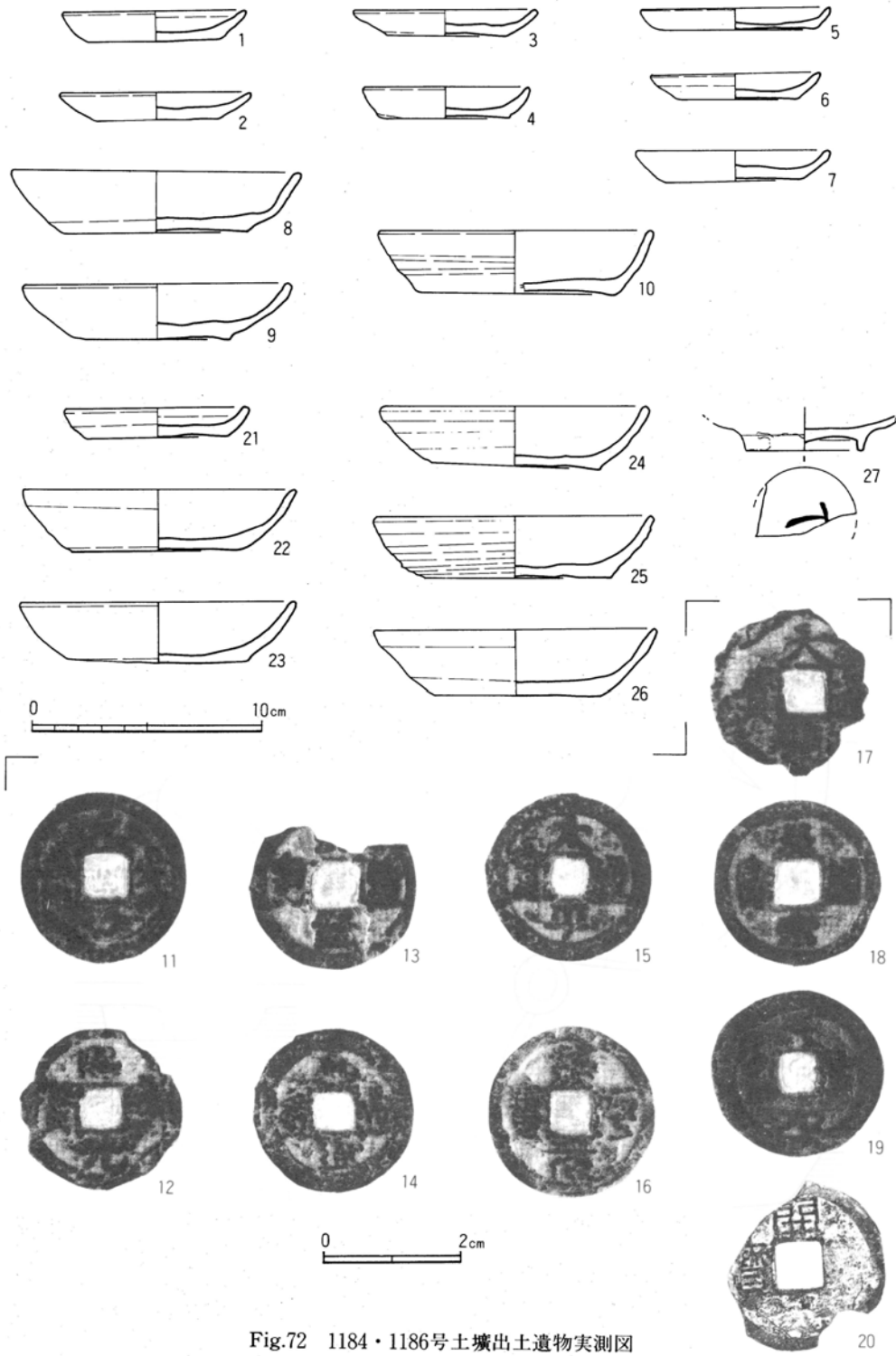


Fig.72　1184・1186号土壙出土遺物実測図

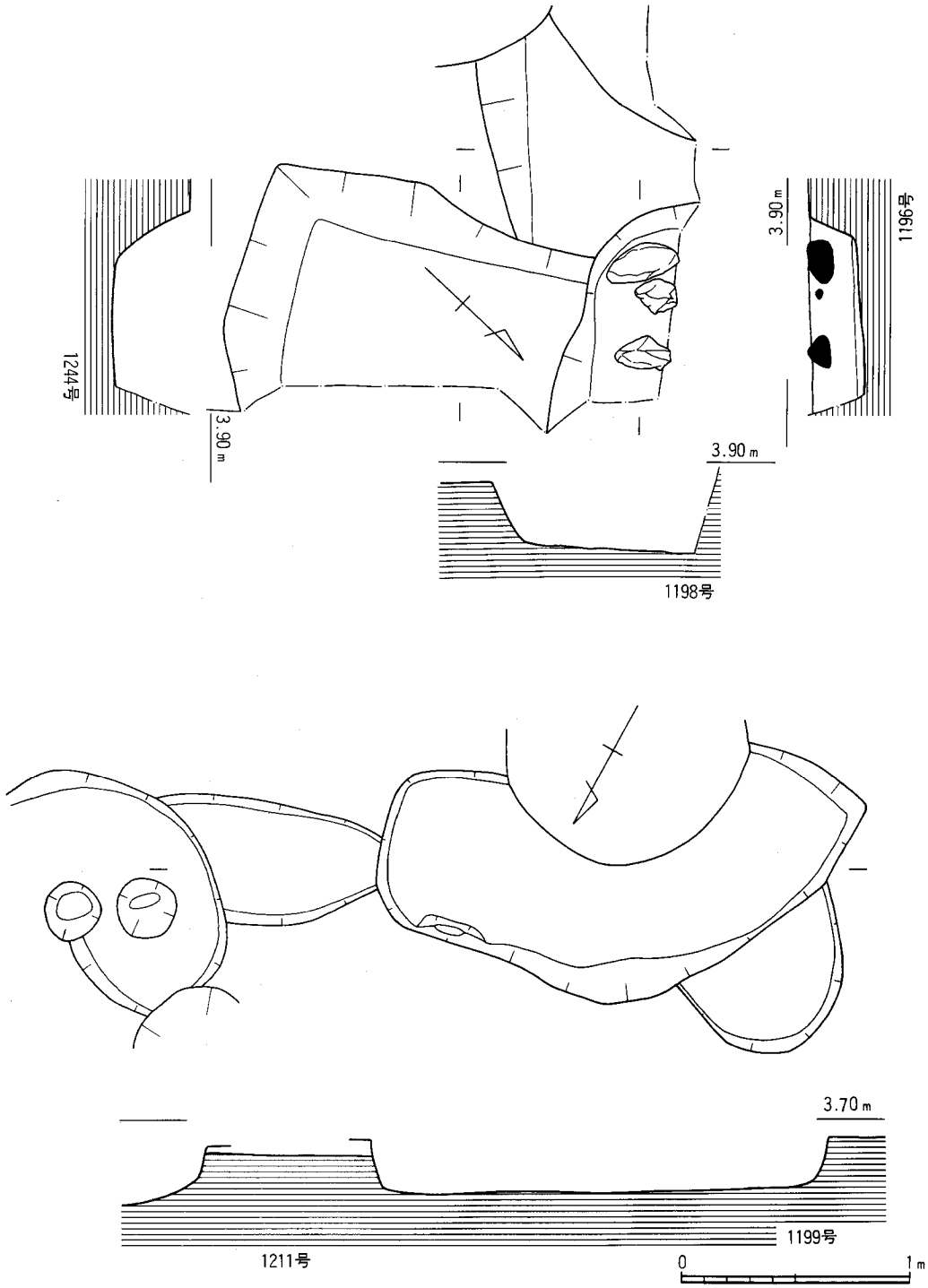


Fig.73 1196・1198・1199・1211・1244号土壙実測図(1/30)

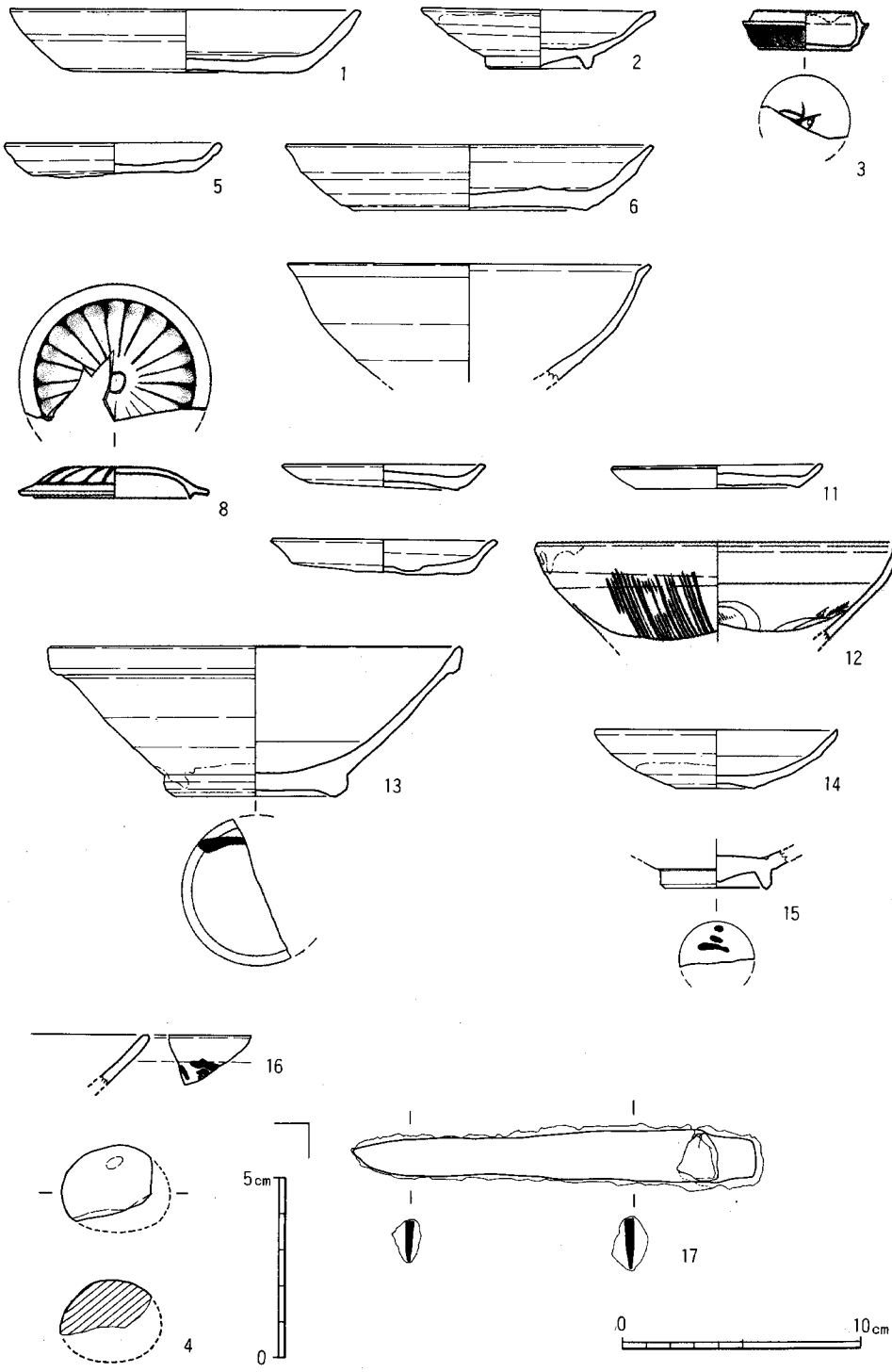


Fig.74　Ⅲ面土壙出土遺物実測図(1)

色で土師器、輸入陶磁器が少量出土する。

出土遺物 (Fig.74－1～3, PL.36)

1は底部糸切りの土師器坏である。体部は内外面ともヨコナデ、内底はナデ調整である。口径14.8cm、器高2.7cmを測る。2は白磁の高台付皿である。胎土は白灰色～肌色で見込の釉を輪状に掻きとる。釉は内外の口縁部から内面に施釉し、他は露胎である。高台内に墨書痕があるが薄くて判読できない。3は青白磁の合子の身である。胎土は白灰色で緻密、釉は白濁した空色である。口縁部と底部は露胎である。

1190号土壙 (Fig.71, PL.10)

J－02区、調査区の南東隅に位置する。北側を小判形土壙1189号に切られ、東、南は調査区外へ拡がっているので全体の形状は不明である。覆土は灰褐色土である。同じ位置にV面で1263号土壙があり、その土壙の上面になる可能性がある。

出土遺物 (Fig.74－4)

砂岩製の毬球玉である。球形の半分ほどの遺存である。外面をなめらかに研磨している。

1192号土壙 (Fig.71, PL.11)

J－02区、1190号土壙の西に位置する。南側は調査区外へ延びて、全体の形状は明瞭ではないが、楕円形を呈するものであろう。規模は南北0.55m、東西0.7m、深さ0.15mの浅いピット状土壙である。覆土は黒褐色土で木炭が少し混入している。

出土遺物 (Fig.74－5～7, PL.36)

5は底部糸切りの土師器皿である。口径9.4cm、器高1.5cmを測る。底部は少し丸味をもち板状圧痕がある。6は底部糸切りの坏で上げ底状となる。口径15.6cm、器高3.7cmを測る。胎土には大きな砂を多く含み黒灰色～肌色となる。体部はヨコナデ、内底はナデ調整である。7はII類の白磁碗で底部を欠失する。内湾する体部で口縁部が外反する。胎土は白灰色、釉は黄白色である。

1194号土壙 (Fig.71, PL.10)

J－02区、163号井戸の南に位置する。東側は調査区外へ拡がり、全体の形状は不明であるが、現状では三角形を呈する。規模は東西0.65m、南北0.48m、深さ0.1mを測る浅い土壙である。覆土は灰褐色である。

出土遺物 (Fig.74－8, PL.37)

青白磁の合子の蓋である。胎土は白色で緻密である。釉は淡青灰白色の透明釉で口縁部を除き全体に施釉する。天井部は花弁状とする。

1196号土壙 (Fig.73, PL.10)

J－01区、調査区の南西端に位置する弧状土壙である。南、西側は調査区外へ拡がっているの

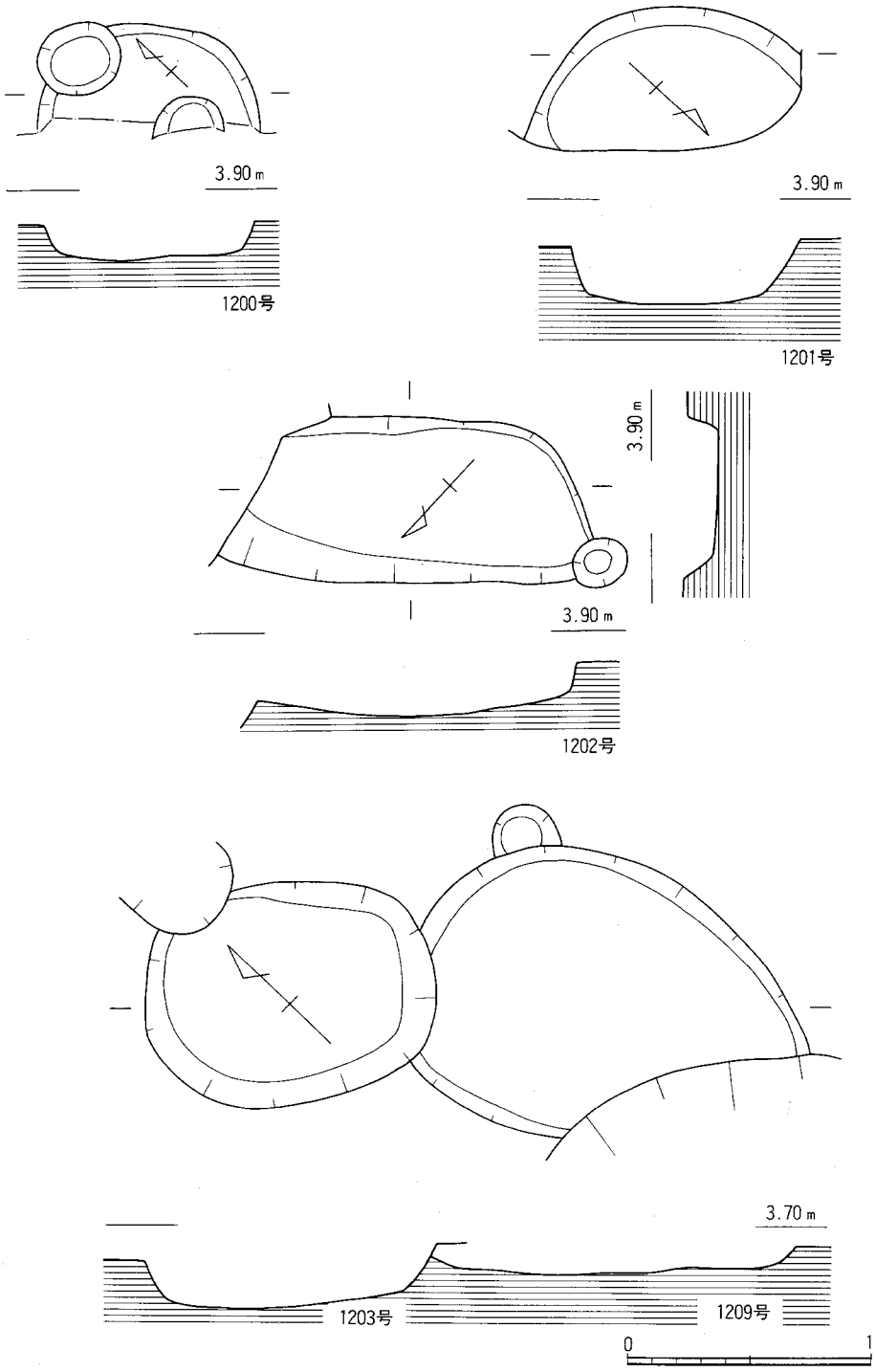


Fig.75　1200～1203・1209号土壙実測図（1/30）

で全体の形状は不明である。遺存している深さは0.1mであるが、土層図によると0.5～0.6m前後の掘り込みである。覆土は灰褐色土で下層は灰褐色粘質土、炭、灰を含む黒色土ないし暗灰褐色土である。また礫を多く混入している。

出土遺物 (Fig.74－9～12)

9～11は底部糸切りで板状圧痕の残る土師器皿である。胎土に砂粒を含み、色調は淡茶灰褐色ないし淡黄茶白色である。体部はヨコナデ、内底はナデである。 10の口径は8.6～9.6cm、器高1.0～1.4cmを測り一回り大きくなる。12は同安窯系青磁碗の口縁部である。胎土は砂粒を多く含む灰白色で釉は濁った淡青緑灰色である。外面に櫛描文、内面に櫛描文、片切彫文をもつ。

1198号土壙 (Fig.73, PL.10)

J－01区、1196号土壙に切られて東側に位置する。南側は調査区外へ延び、東側は168号井戸に切られ、北辺の一部が遺存するだけで全体の形状は不明である。覆土は灰褐色土で、深さ0.3mを測る。

出土遺物 (Fig.74－13, PL.37)

Ⅳ類の白磁碗である。幅広の玉縁口縁をもち、低い安定した高台である。胎土は白灰色で釉は灰クリーム色である。高台脇から外底は露胎で墨書がある。

1199号土壙 (Fig.73, PL.10)

J－01区、159号井戸の北側に位置する不整形の土壙である。規模は東西2.2m、南北1.0m、深さ0.12mを測る浅い掘り込みである。床面はほぼ平で覆土は黄褐色砂質土である。

出土遺物 (Fig.74 -14･15)

14は白磁の平底皿である。底部は白灰色で緻密、釉は黄オリーブ色であり、外面の体部下半～底部は露胎である。15は同安窯系青磁碗の底部である。胎土は灰白色で釉はガラス質で黄灰色である。外底に数字の「三」を墨書する。

1200号土壙 (Fig.75, PL.10)

J－01区、1218号土壙の北側に位置し、西側は調査区外へ拡がる小土壙である。径0.95m、深さ0.1mの半円形土壙であるが、本来は円形の平面形であろう。覆土は暗褐色で焼土を多く含む。

出土遺物 (Fig.74－16)

土師器の坏の口縁部片である。胎土に砂粒を多く含み、色調は淡茶灰色である。口縁部外面に墨書がある。

1201号土壙 (Fig.75、PL.10)

J－03区、175号井戸に切られその西側に位置する半円形の土壙である。規模は1.2m×0.6m、深さ0.25mを測る。覆土は暗灰褐色土である。床面はほぼ平で壁面はなだらかである。

出土遺物 (Fig.74－17)

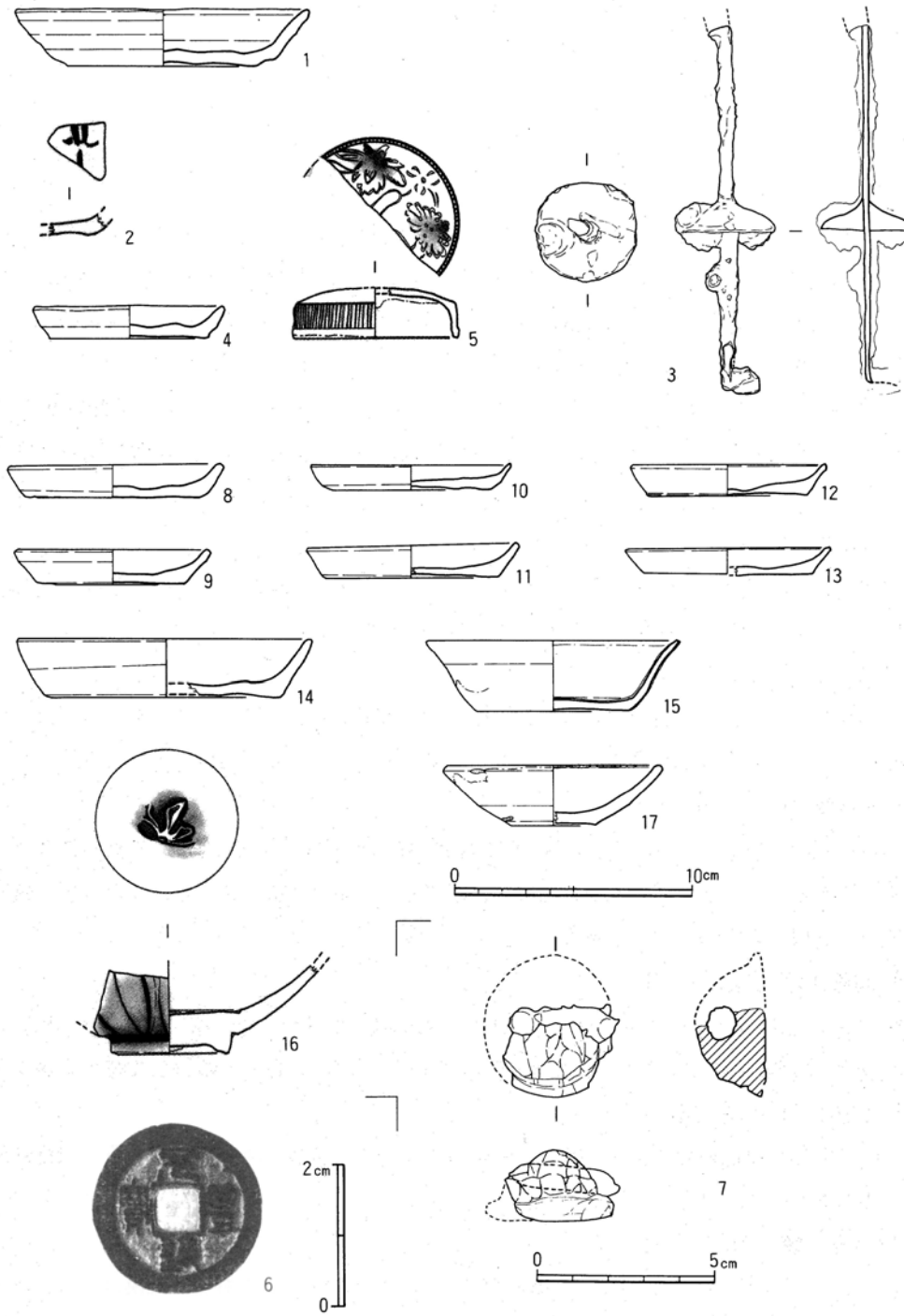


Fig.76　Ⅲ面土壙出土遺物実測図(2)

出土遺物は少なく輸入陶磁器、土師器が少量出土しているだけである。17は刀子である。茎部を欠失する。現状長16.1cm、幅2.2cm、厚さ0.5cmである。

1202号土壙 (Fig.75, PL.10)

J－03区、1201号土壙の北側に位置する。東側は175号井戸に切られるが隅丸長方形を呈していたものであろう。現存長1.55m、幅0.7m、深さ0.1mを測る浅い土壙である。床面には拳大の礫が数個出土している。覆土は灰褐色土で砂質を帯びる。

出土遺物 (Fig.76－1・2)

1は底部糸切りの土師器坏である。色調は淡茶褐色で胎土に砂粒を多く含む。体部はヨコナデ、内底はナデである。口径12.6cm、器高0.4cmを測る。2は底部糸切りの土師器皿の破片である。内底に墨書があるが小破片のため字は不明である。

1203号土壙 (Fig.75, PL.10)

I－01区、1300号土壙の南側に位置する。北側はピットに切られ、東側は1204号土壙、南側は1209号土壙を切る楕円形の土壙である。規模は1.20×0.95m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色土で軟質である。

出土遺物 (Fig.76－3, PL.37)

鉄製紡錘車である。径4mmの鉄棒に円盤状の鉄板を装着したものである。先端は直角に折れ曲がり、基部は欠失する。

1208号土壙 (Fig.77, PL.10)

I－01区、1300号土壙に切られて東側に位置する小土壙である。平面形は隅丸長方形～楕円形を呈している。規模は南北0.9m、東西0.85m、深さ0.2mを測る浅い掘り込みで、覆土は暗褐色土である。床面から拳大の礫が数個集った状態で出土した。

出土遺物 (Fig.76－4, PL.37)

底部糸切りの土師器皿である。胎土には砂粒を多く含み、色調は淡茶褐色を呈する。口径 8.1cm、器高1.4cmを測る。内外面ともヨコナデ調整である。

1209号土壙 (Fig.75, PL.10)

I－01区に位置し、1203号土壙に北西部、さらに南は172号井戸に切られる。本来の形状を大きく損っているが、楕円形を呈していたと考えられる。現存長1.6m、幅1.2m、深さ0.24mを測る。中央部に一辺20～30cmの扁平な石を数個根石状に据えている。覆土は暗灰色土である。

出土遺物 (Fig.76－5, PL.37)

青白磁の合子蓋である。胎土は白色で細かい砂粒を少し含む。釉は淡青緑灰白色の透明釉である。外面は口縁部を除く全面に、内面は天井部のみに施釉する。体部は沈線状、天井部は花

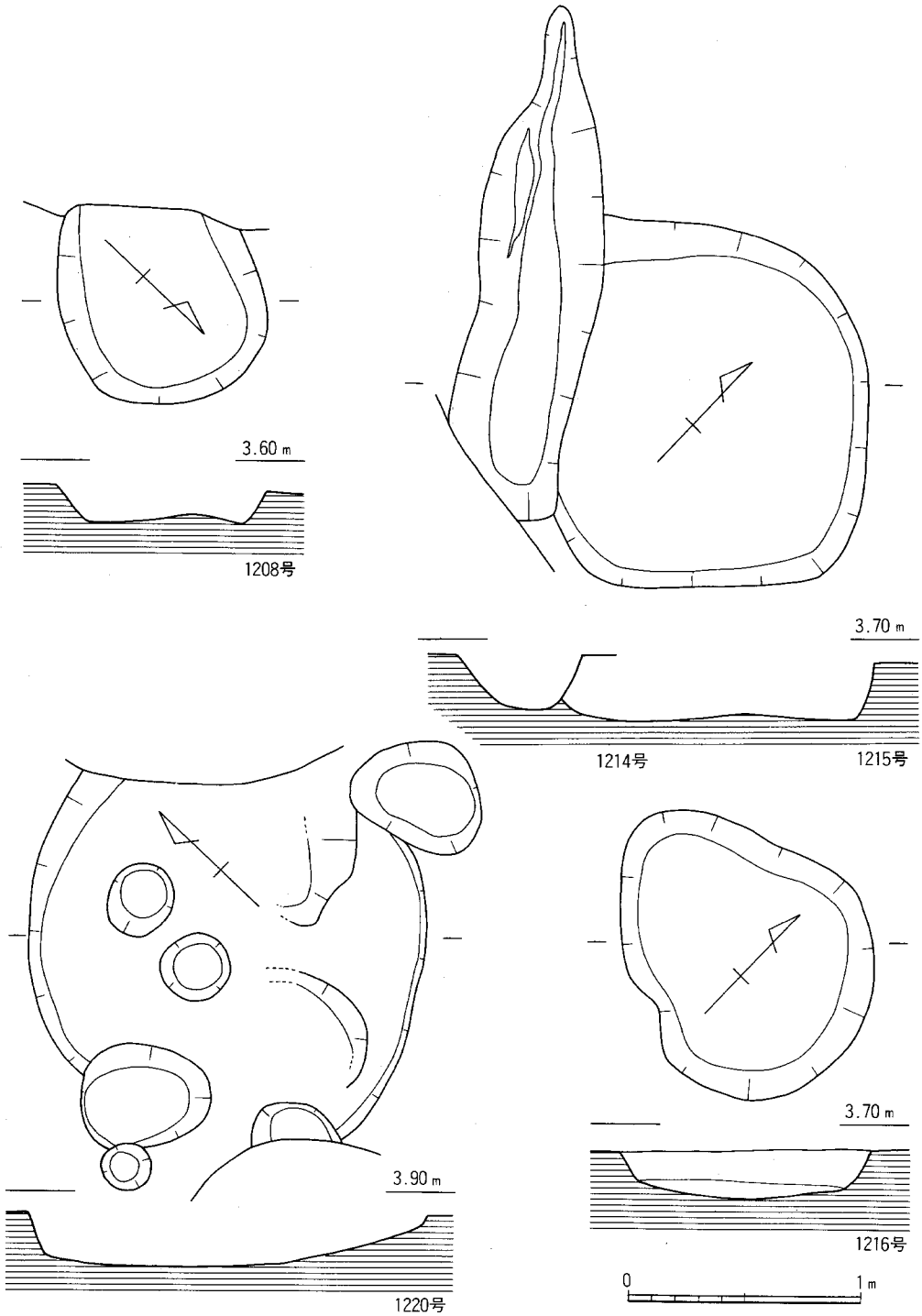


Fig.77　1214～1216・1220号土壙実測図 (1/30)

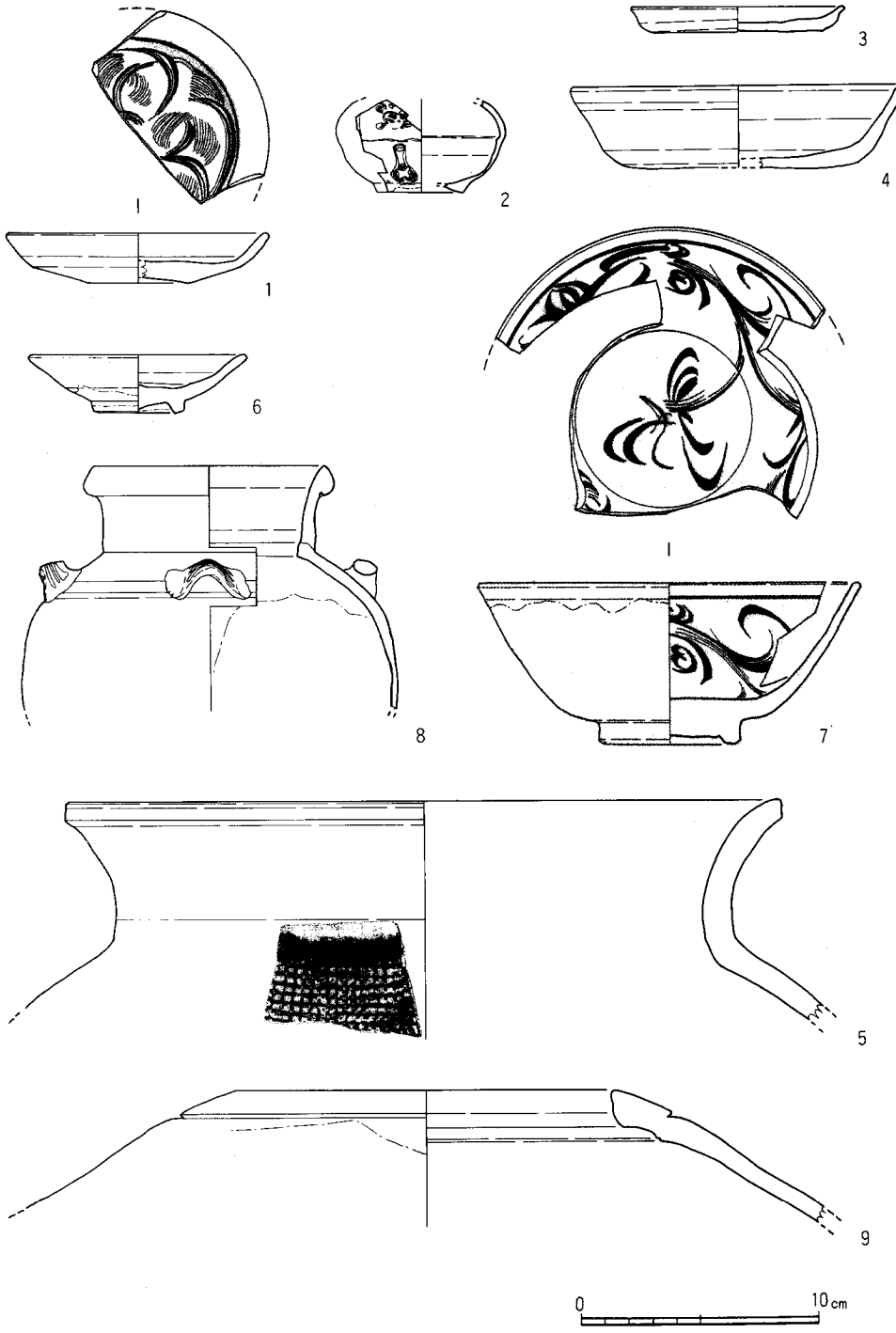


Fig.78　1216・1220号土壙出土遺物実測図

文をもつ。

1214号土壙 (Fig.77, PL.10)

J－04区に位置する狭長な溝状遺構である。東側で1215号土壙を切り、南側で169号井戸に切られ、全長は不明である。規模は長さ2.2m、最大幅0.5m、深さ0.2mを測る。覆土は黄褐色土である。

出土遺物 (Fig.76－7, PL.37)

滑石製容器蓋である。円盤状に削り出し、つまみ部には横に貫通する孔を穿ち、その中に鉄製把手を挿入している。つまみ部の削りは荒く、煤が付着している。下面は平滑に仕上げている。

1215号土壙 (Fig.77, PL.10)

J－04区、1214号土壙に切られて東側に位置する略円形の土壙である。西辺は直線的になり、南、北は丸くなる。長さ1.58m、幅1.4m、深さ0.27mを測る。覆土は軟らかい暗褐色土で土壙墓の可能性がある。

出土遺物 (Fig.76－8～17, PL.37)

8～13は底部糸切りの土師器皿である。口径8.4～9.8cm、器高1.1～1.5cmを測る。体部はヨコナデ、内底はナデ調整である。9、13は外底に板状圧痕が残る。14は土師器坏で底部糸切り、板状圧痕が残る。胎土に砂粒を含み、色調は淡黄白色である。15は口ハゲの白磁皿である。胎土は白灰色、釉は青白灰色を呈し、全体に施釉し、口縁部は掻きとり、外底は薄く拭きとった様である。体部外面に釉だれが認められる。16は龍泉窯系青磁碗である。胎土は灰色で緻密、釉は全体に半透明の明るいオリーブ色の釉である。外底の中心部に焼台が付着する。外面には蓮弁文、見込に花文様をもつ。17は陶器B群皿である。胎土は灰～灰肌色で茶色の砂粒を含む。口縁部に重ね焼の跡が残り、底部脇に目跡が残る。

1216号土壙 (Fig.77, PL.10)

J－04区、1215号土壙の東側に隣接する土壙である。平面形は不整形をしている。規模は東西1.2m、南北1.1m、深さ0.2mを測る。覆土は暗褐色土である。

出土遺物 (Fig.78－1・2, PL.37)

1は龍泉窯系青磁平底皿である。胎土は暗灰色で釉は暗緑灰色である。外底は露胎で墨痕が認められるが判読不能である。見込に櫛描文をもつ。2は白磁の小壺である。釉は透明な白色で底部は露胎である。外面に型押の花文と壺文様をもつ。

1220号土壙 (Fig.77, PL.10)

J－01区に位置する円形の浅い土壙である。西側を167号井戸、東側を165号井戸に切られる。また多くのピットと重複しているので、本来の姿を大きく損なう。最大径1.73m、深さ0.25m

を測る。覆土は淡灰褐色砂質土で土壙の東側より拳大の礫、南側より陶磁器片が出土している。

出土遺物 (Fig.78－3～9, PL.37)

3、4は底部糸切りの土師器である。3は皿で口径9.2cm、器高1.1cmを測り外底に板状圧痕がある。胎土には砂粒を含み、色調は淡茶白灰色である。体部はヨコナデ、内底はナデである。4は坏で3同様板状圧痕が残る。5は須恵質の甕の口縁部～胴部片である。胎土は良好で焼成も良く堅緻である。口縁部は灰白色、胴部は黒褐色である。胴部には格子目タタキを施す。6は高台付白磁皿である。胎土は灰白色で緻密、釉は淡青緑灰白色の半透明釉である。体外半釉で見込の釉を輪状に掻きとる。畳付には重ね焼の跡が残る。7は龍泉窯系青磁碗である。胎土は明灰色で釉は淡青緑灰色、高台内を除き全面に施釉する。低い高台で厚い底部をもち内面に片切彫の文様を描く。8は白磁の四耳壺である。胎土は灰白色で少し細砂を含むが緻密で、釉は淡黄緑白色である。内面の胴部上半まで施釉する。直立する頸部に玉縁口縁となる。胴部は長胴で最大径を胴上半部にとる。9は陶器D群の無頸壺である。胴部に口縁部を貼りつけ胴部との境には沈線をめぐらし、内面はU字状に窪ませている。胎土は大きな砂粒を含み粗く、明褐色である。釉は黄褐色の不透明釉である。口縁部から内面は露胎である。

2)井戸の調査

177号井戸 (Fig.79, PL.12)

I－01、02区、調査区の北端に位置する井戸である。掘り方は隅丸長方形である。規模は南北2.6m、東西3.1mを測る。中央部に現代の158号井戸、南西隅を160号井戸に切られている。覆土は暗褐色土、黄白色砂層、褐色砂質土である。井筒部は全体が158号井戸と重複している。

出土遺物 (Fig.80－1～14, PL.38)

1～4は底部糸切りの土師器である。1、2は皿で1は口径8.0cm、器高1.4cm、2は口径9.8cm、器高1.3cmを測る。2の内底はナデ、他はヨコナデである。3、4は坏である。3は口径14.2cm、器高2.8cmを測り体部はヨコナデ、内底はナデである。4の外底には墨書がみられる。「犾」と読めるが上が欠損しているので正確には明らかではない。5～7は須恵器の形態を模した土師器である。5は蓋で中央が窪む扁平なつまみで、短いかえりとなる。天井部はヘラ削りの後研磨、内面も丁寧な研磨を施す。胎土に砂粒を多く含む。焼成は良好で色調は外面が暗灰褐色～淡灰褐色、口縁端部にかけて明赤褐色である。6、7は高台付坏である。高台は低く、外に開き、体部は両面とも研磨を施す。8、9は墨書のある白磁の碗底部である。9はⅨ類で外底に「永」と墨書文字がみえる。10は白磁の平底皿で外底に花押を墨書する。11は白磁平底皿である。胎土は灰白色で黄灰白色の釉を施す。体外半釉である。12は口ハゲの白磁皿である。胎土は淡灰色で黄灰色～灰白色の釉を全面に施し口縁部の釉を拭きとる。13は青白磁の小壺で型押しの花文様を施す。胎土は白色で緻密、色調は淡灰白色～淡青灰色である。14は口縁部を屈曲させる天目の碗であ

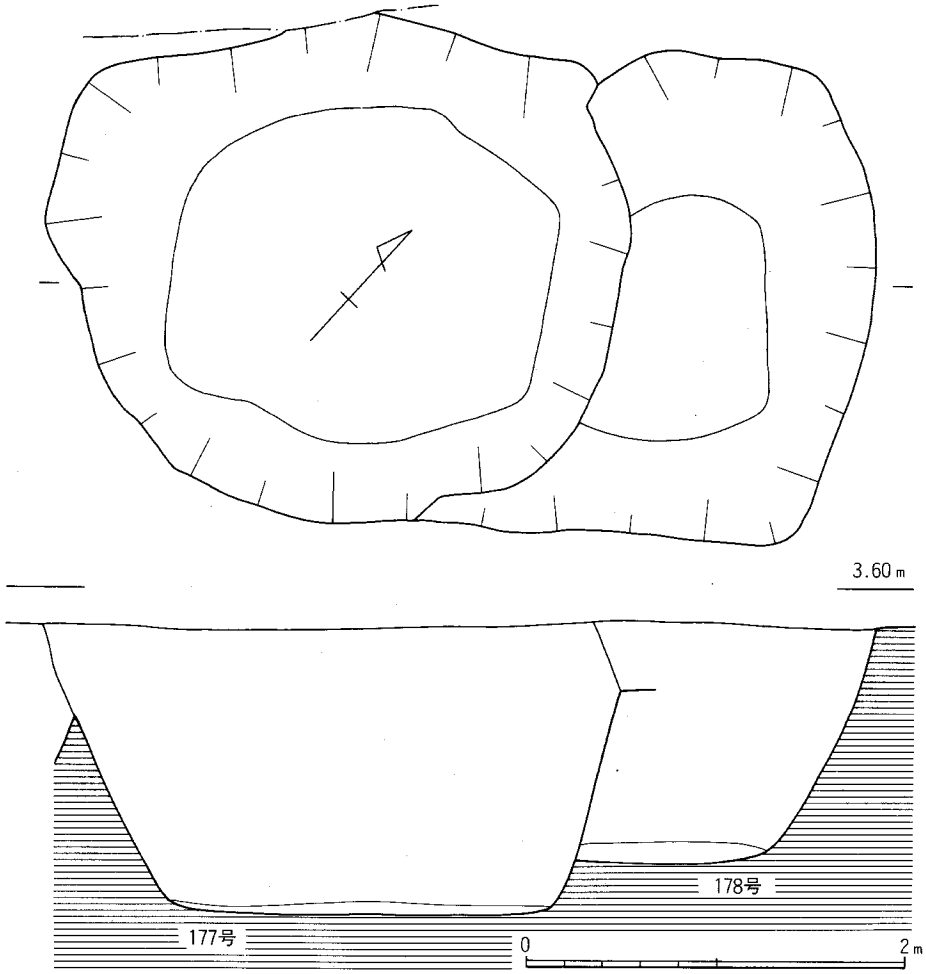


Fig.79　177・178号井戸実測図 (1/40)

る。胎土は暗灰色で釉は暗黄褐色～黒褐色である。

178号井戸 (Fig.79, PL.12)

I－02区、177号井戸に切られて東側に位置する井戸である。平面形は隅丸長方形を呈するものであろう。長さ2.5m以上、幅2.58m、深さ1.3mを測る。埋土は暗灰色～暗褐色砂質土である。掘り方、井筒部を確認することができなかったのであるいは土壙の可能性が強い。

出土遺物 (Fig.80－15・16, PL.38)

15は見込に線刻文様のある白磁碗である。胎土は白灰色で緻密、釉は飴色で部分的に乳白色となる。16は白磁の器蓋である。胎土は白灰色、釉は青味を帯びた飴色で半透明である。外面

のみ施釉し口縁部から内面は露胎である。

3)ピット出土遺物 (Fig.81・82, PL.38・39・58・59)

1は青白磁の高台付小皿である。胎土は白色で緻密である。型造りで内面に花文様をもち、器壁を仕上げている。釉は青白灰色である。2は底部糸切りの土師器坏である。外底に板状圧痕が

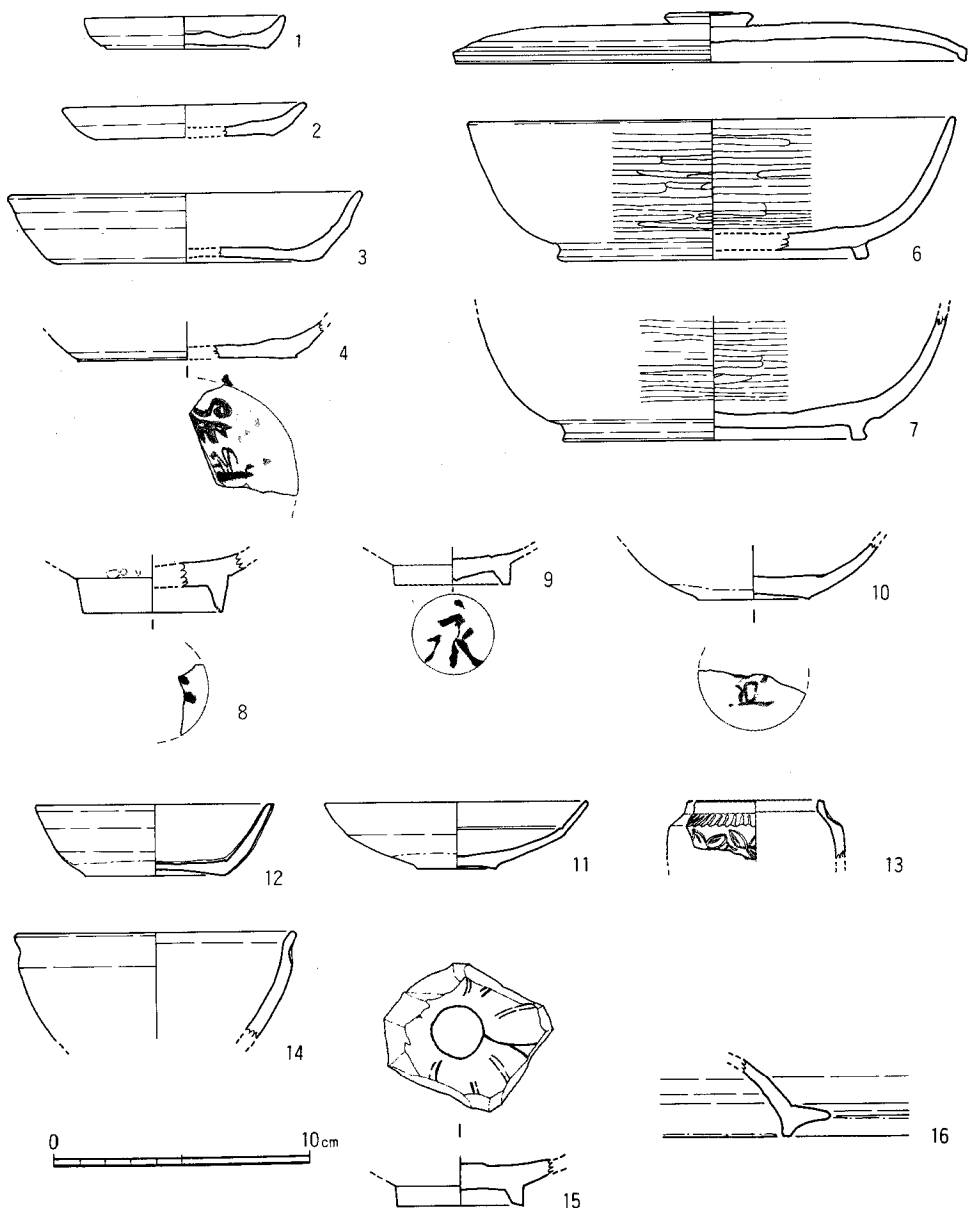


Fig.80　177・178号井戸出土遺物実測図

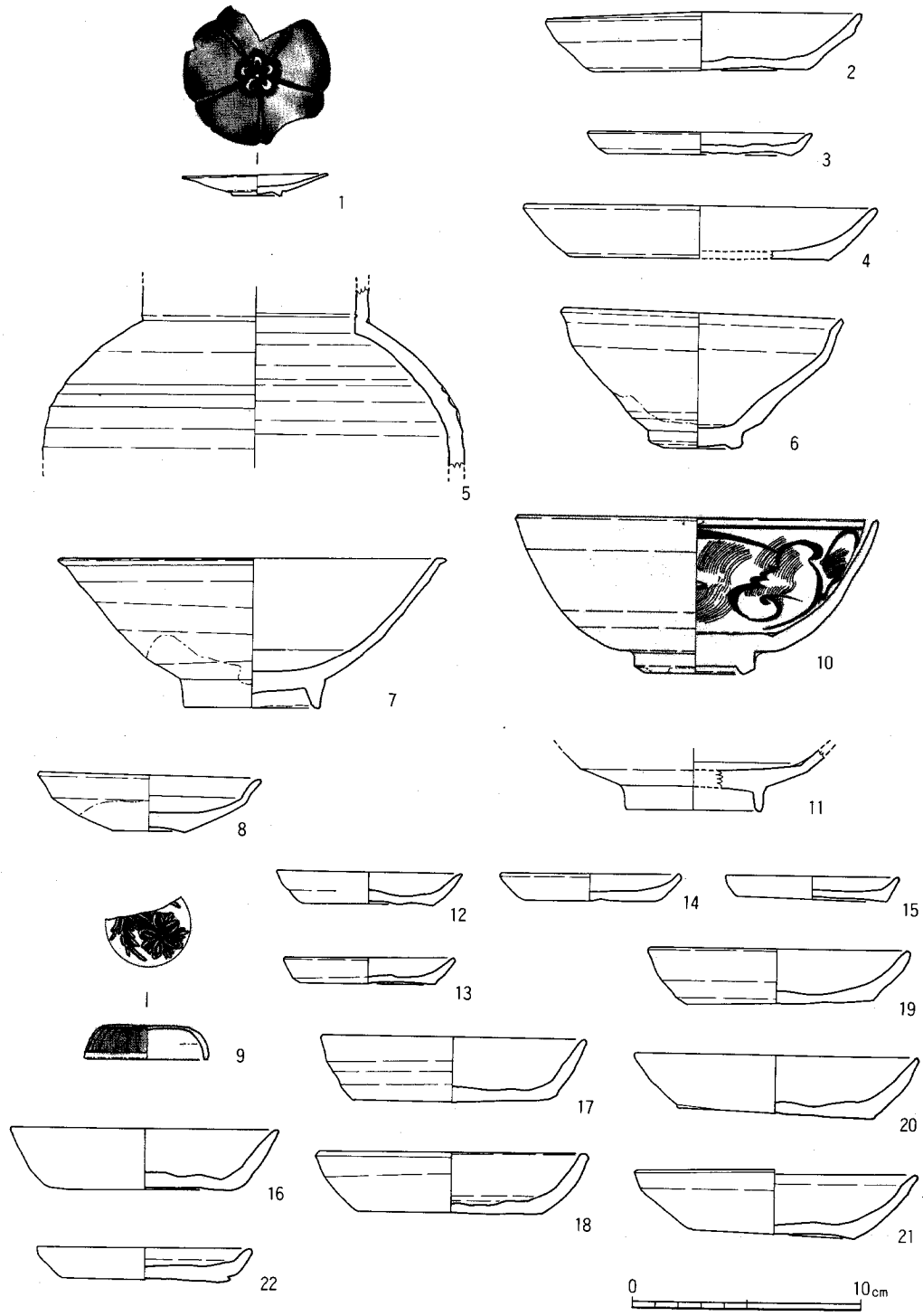


Fig.81　Ⅲ面ピット出土遺物実測図(1)

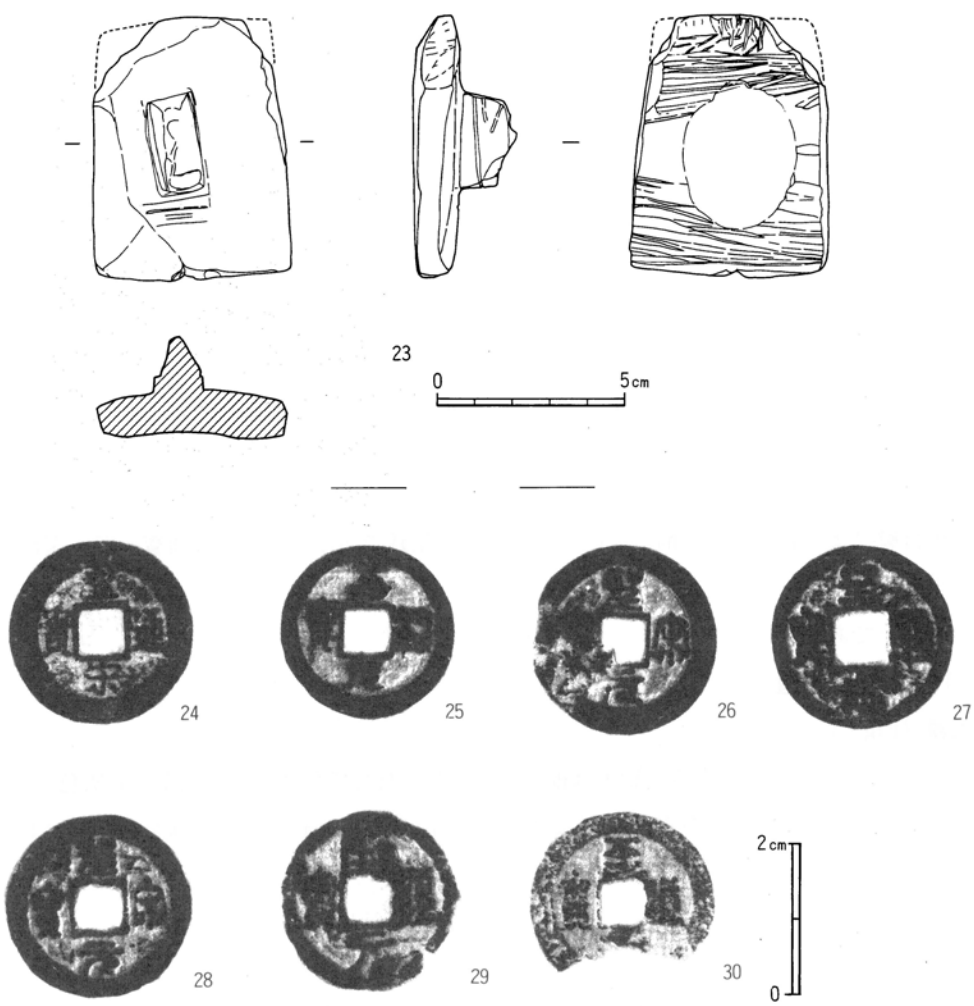


Fig.82　Ⅲ面ピット出土遺物実測図(2)

残る。3～6は4038号ピットから出土した。3は底部糸切りの土師器皿である。口径9.9cm、器高1.0cmを測る。外底に板状圧痕が残る。4は坏片で底部は糸切りである。5は白磁壺の頸～胴部片である。胎土は白色できめ細かく、釉はうすい青白灰色で、内外面とも施釉する。6は天目碗である。胎土は黒灰色である。釉は黒褐色で釉尻や口縁部は茶褐色を呈す。体外は半釉である。口縁部は屈曲し、高台は低い。7はⅥ類の白磁碗である。胎土はクリーム色～白灰色、釉はうすい白灰色である。高台は高く、口縁部を水平に削る。高台脇から底部は露胎である。8は白磁の平底皿である。釉は白濁したクリーム色で体外半釉である。胎土は白灰色で緻密である。9は青白磁の合子蓋である。胎土は白色で緻密、釉は青白色で口縁部を除き施釉し少し濁っている。

体部に菊花文、天井に花文をもつ、10は龍泉窯系青磁碗である。胎土は灰白色できめ細かく、深いオリーブ色で透明感のある釉である。畳付から外底は露胎で焼台の跡が残る。内面には櫛描、ヘラ描文様を全面に刻む。11は白磁碗である。胎土は白色で釉はうすい白灰色、高台内面まで施釉している。高台は垂直で細く薄いものである。12～21は4055号ピット上層から一括して出土した底部糸切りの土師器である。12～15は皿で口径7.6～8.2cm、器高1.1～1.45cmを測る。体部はヨコナデで15だけが内底をナデ調整をしている。16～21は底部糸切りの土師器坏である。17、18を除き板状圧痕がある。口径11.7～12.6cm、器高2.5～2.9cmを測る。体部はナデで、16、19、20の内底はナデ調整を行う。色調は淡橙色で、胎土に砂粒を含んでいる。22は底部糸切りの土師器皿である。胎土に砂粒を多く含み、淡黄褐色を呈する。口径9.4cm、器高1.5cmを測る。体部はヨコナデ、内底はナデ調整である。23は滑石製の蓋である。石鍋片の突起部を利用したもので、表面は全体に約0.5cmを削りとって、平坦にし、裏面も中心部に楕円形状に元の面を残し、他は鑿により荒く平坦に削っている。24～30は銅銭である。24－皇宋通寶、25－嘉祐元寶、27－皇宋通寶、28－聖宋元寶、29－開元通寶、30－至道□寶である。27から29は4055号ピットからの出土である。

4)包含層出土遺物

瓦器 (Fig.83－1・2)

1は皿で底部は糸切りである。胎土は細砂粒を含むが良好で色調は灰白色ないし灰色である。口縁部は内外面とも黒色である。2は埦である。復元口径17.6cm、器高5.6cmを測る。胎土には細砂粒を含むが良好で、色調は黒～暗灰色を呈する。低い三角高台を貼りつけ高台脇から底部にかけてヨコナデ調整をしている。内湾する体部で内外面とも横位の研磨を施す。

須恵器 (Fig.83－3)

大甕の口縁～胴部の破片である。堅く焼き締められ色調は黒灰色～黒色である。口縁部はヨコナデで胴部外面は格子目のタタキが明瞭に残る。内面は青海波文が痕跡をとどめる。

輸入陶磁器 (Fig.83－4～・84・85・86・87・88－～89, PL.40～42)

4～22は白磁碗である。4はII類の碗で口縁部を小玉縁とする。高台の内側を斜に削り低い高台で安定感がある。6はVI類の碗で口唇上端をおさえ、外面を窪ませ稜をつくり出す。胎土は灰白色で釉は少し緑味を帯びる灰白色で不透明である。釉尻、口縁部付近は赤茶色となる。見込の釉を輪状に削りとり、高台脇から底部は露胎とする。7は白磁小碗の完形品で、胎土は淡黄乳灰色で淡緑灰色の釉である。低い高台の碗で高台脇から底部は露胎である。8は高台付皿である。9は小碗の高台で畳付から底部は露胎である。10～20は高台内に墨書をもつ白磁碗の底部破片である。大部分は墨が薄くて判読しがたいが14は「李網」16は「九」と花押、17は漢数字の「三」、19はカナ文字がうかがえる。18、20は花押であろうか。10～13は墨書痕のみで文字は不明であ

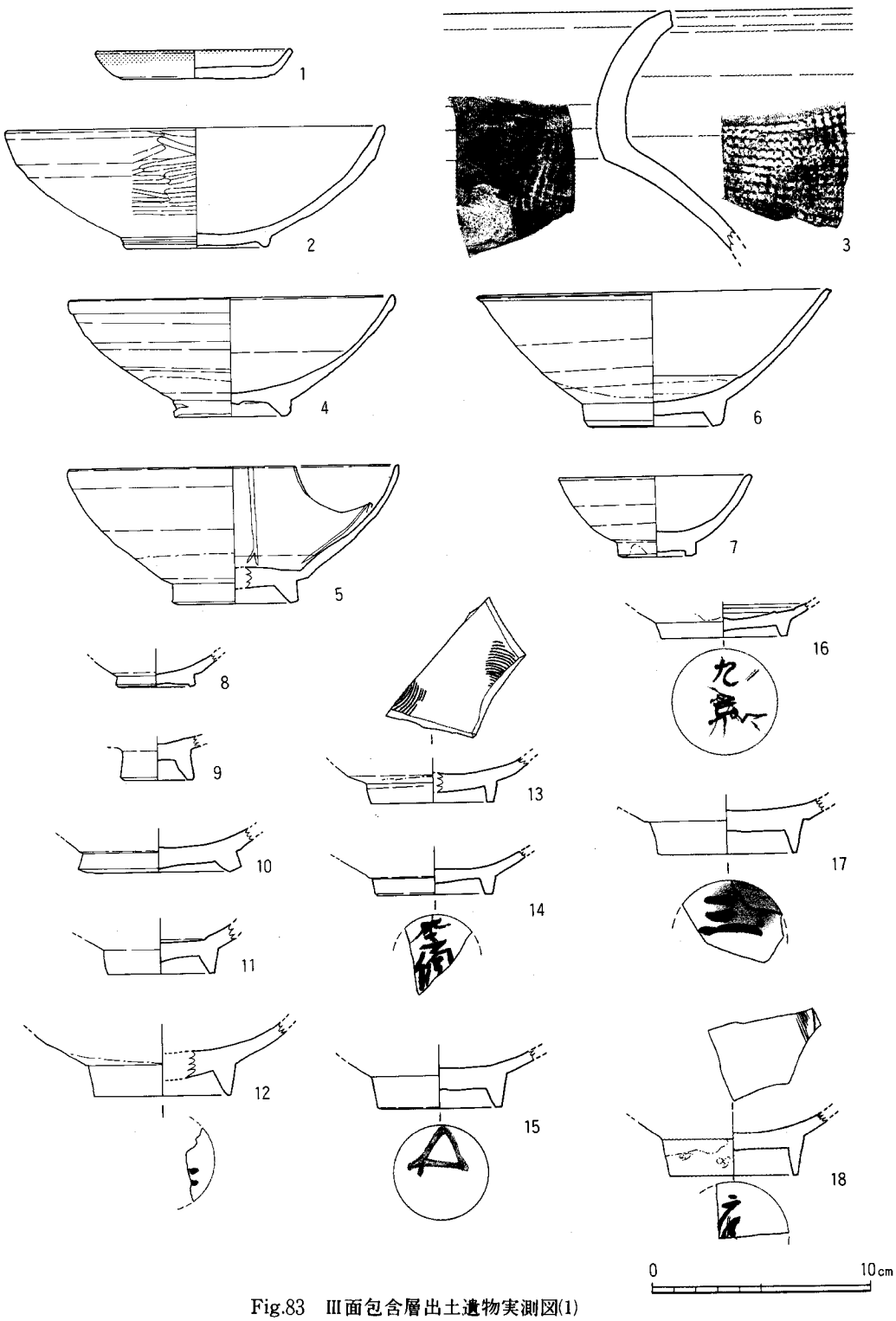


Fig.83　III面包含層出土遺物実測図(1)

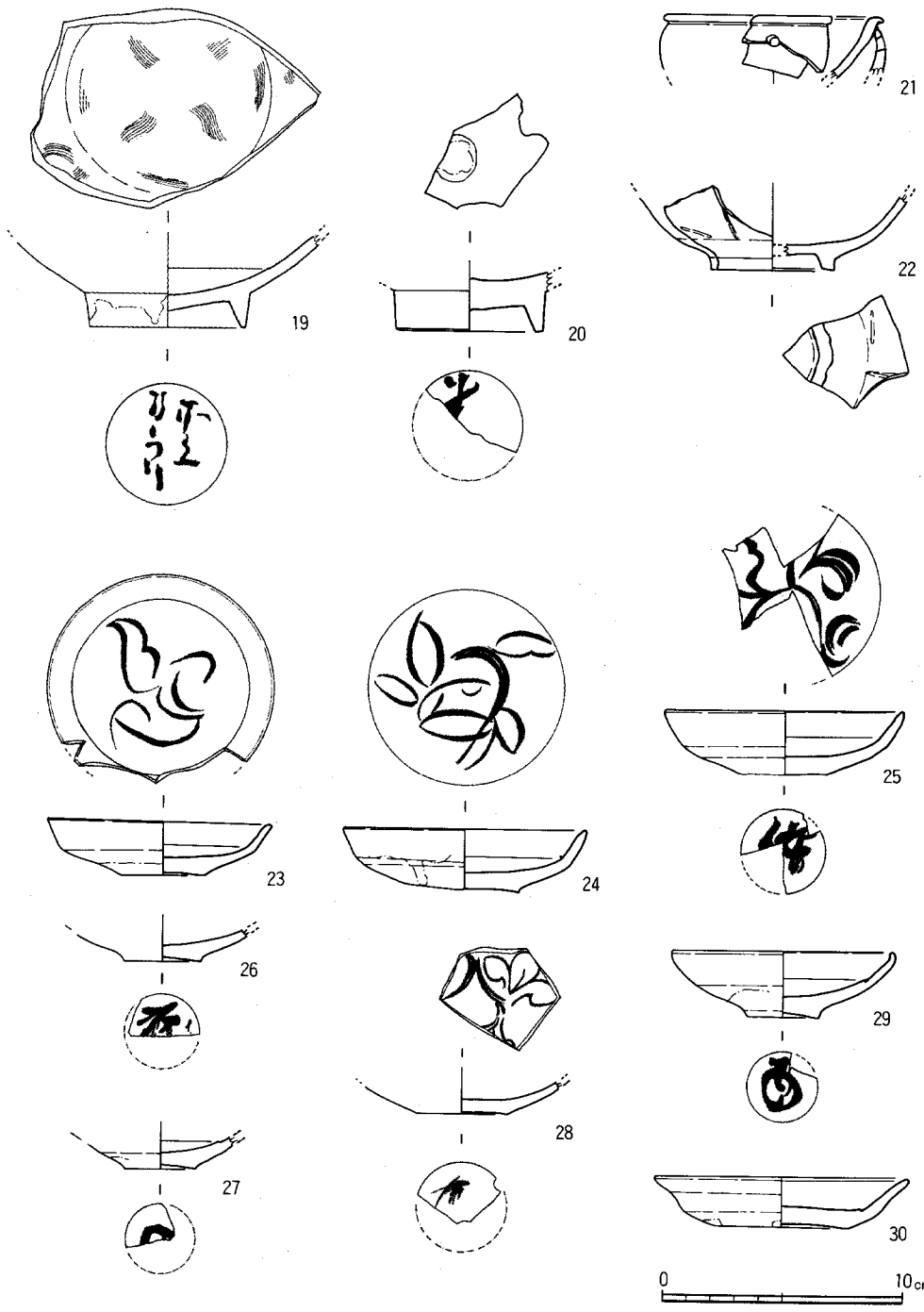


Fig.84　Ⅲ面包含層出土遺物実測図(2)

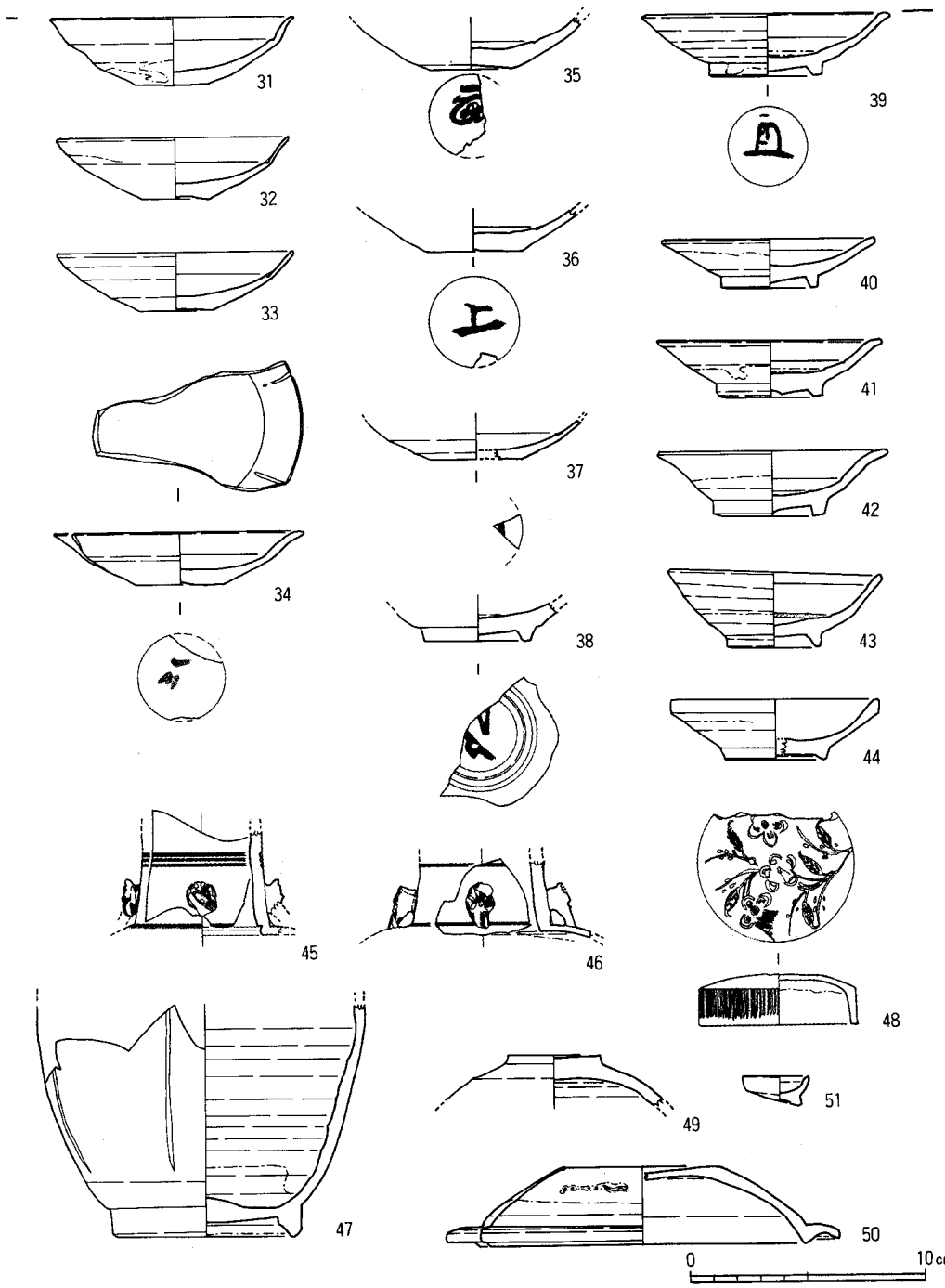


Fig.85　Ⅲ面包含層出土遺物実測図(3)

る。21は双層碗の口縁部である。胎土は灰白色、釉は灰緑色で全面施釉する。口縁下に穿孔をもつ。22は明代の白磁碗である。胎土はクリーム色で粗く、釉は飴色でうすく高台畳付を含み

全面施釉する。体部外面には輪花状にヘラで押さえている。23～37は白磁の平底皿である。23～25、28は見込に片切彫の文様をもつ。胎土は白灰色ないし黄白色で黄緑灰色の釉を底部を除き施釉する。25～29の外底には墨書が認められる。25は「僧」？、26、28、29は花押であろう。30は口ハゲの平底皿である。胎土は淡灰色、釉も淡緑灰色である。口縁部の釉を拭きとり口ハゲとする。外面の施釉は雑である。上半は全体に施釉するが、下半～底部は部分的なものである。31～37は内湾して立ち上がり、口縁下で外反する一群である。31の胎土は灰クリーム色、釉はガラス質で黄緑色を帯びたオリーブ色である。33は白灰色のきめ細かな胎土で釉は灰オリーブ色でガラス質である。体外半釉である。36は露胎の底部に「上」の字を墨書する。34は口縁部にスカラップを入れ輪花状とする。胎土は白灰色で緻密、釉は灰クリーム色で底部を除き施釉する。露胎の底部に墨書が認められる。38～44は高台付皿である。39は高台内の露胎部に花押を墨書する。低い高台で、口縁部を外反させ、見込の釉を輪状に掻きとる。胎土は白灰色で釉は緑を帯びた飴色である。高台脇～底部は露胎である。40は直線的な体部から少し外反する口縁部となる。胎土は白灰色、釉は灰白色で体外半釉である。41は灰白色の胎土で釉は灰白色で体外半釉である。また見込の釉を輪状に掻きとる。44は口縁部を肥厚させる。低い高台、厚い底部で胎土は白灰色、釉は緑を帯びる飴色で、体外半釉である。底部に焼き台の跡が残る。45～47は白磁壺である。45、46は頸部から胴部にかけて飾耳を貼りつける。釉はやや灰色を帯びる淡緑灰色で胎土は白灰色で緻密である。47は胴部から底部にかけての破片である。高台は低く内側を斜に削り、胴部外面には縦に沈線を6本入れ割瓜状としている。胎土は白灰色で緻密、釉は薄い緑灰色で内底と外面、及び一部高台内側にも施釉する。48は白磁の合子蓋である。体部に松葉文、天井部に花文のレリーフがある。胎土は灰白色、釉は淡緑灰色である。外面と内面天井部に施釉する。49、50は器蓋である。胎土は白灰色で釉は黄灰白色である。天井部上半部のみの施釉で他は露胎である。51は蓋のつまみであろう。本体との接合部はヘラ削りしている。胎土は灰白色で釉は黄灰白色である。52～58は青磁である。52～54は越州窯系青磁である。52は小壺である。袋状口縁で口縁部には角をもたせる。胎土は緻密で灰色、釉は白っぽいオリーブ色で少し透明感がある。上等の壺である。53も小壺で丸い扁平な胴部から短く外反する口縁部となる。釉は茶緑色で不透明で光沢がある。胎土は灰色で緻密である。54は碗の底部である。胎土は灰白色で緻密、釉は内面は黄緑灰色、外面は淡黄灰色である。内面に目跡が2ヶ所ある。高台脇から底部は露胎である。55～59は龍泉窯系青磁である。55は碗で外面に蓮弁文をもつ。釉はオリーブ色で透明感があり気泡が多く入る。畳付を除き全面に厚く施釉する。胎土は白灰色である。56は筒形の小碗である。平底から直立する体部となる。釉は淡い青緑色で透明感があるので、胎土の白灰色が影響して全体の釉調となる。高台脇から底部は露胎である。外底に墨書があるが判読不能である。57～59は皿である。厚い底部で外面に稜をもち屈曲する。

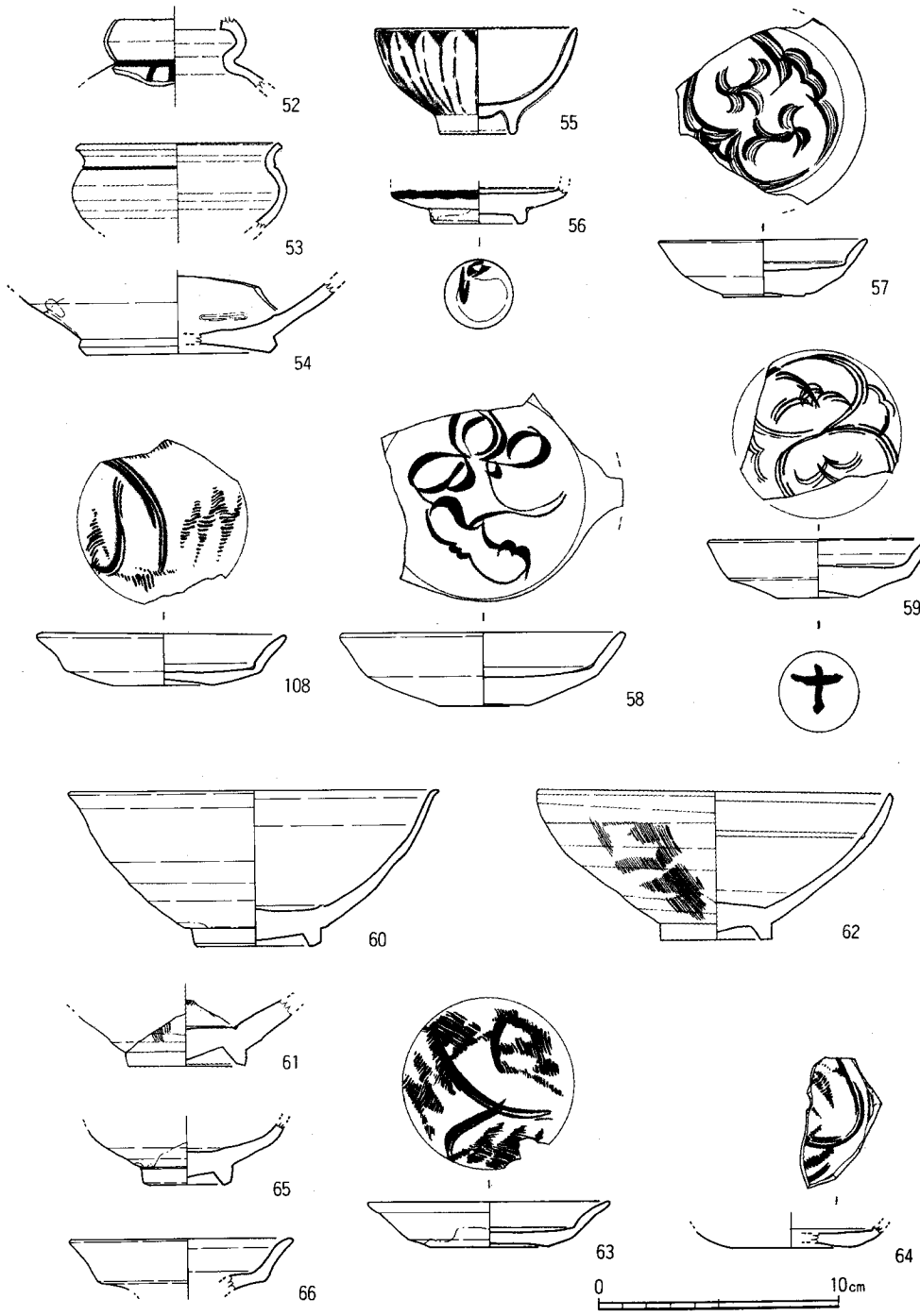


Fig.86　III面包含層出土遺物実測図(4)

見込にヘラ描文をもつ。胎土は灰白色で釉は黄緑灰色～青緑色で外底を除き施釉する。59の外底には「十」の字を墨書する。60～64、108は同安窯系青磁である。60～62は碗である。60は低い高台で外反する口縁部となる。釉は淡い茶緑色で胎土は白灰色である。釉は淡緑灰色で高台脇から底部は露胎である。61、62は外面に4ヶ所櫛描文をもつ。63、64、108は平底皿である。見込に櫛描文、ヘラ描文がある。胎土は淡灰色、釉は淡緑灰色で底部は露胎である。66は二重口縁の壺の破片である。胎土は暗赤褐色、釉は青灰色～緑灰色である。67～73は青白磁である。67は碗である。釉は淡い水色で胎土は純白色である。外面に蓮弁文、内面にヘラ描文をもつ。68は小壺の口縁部である。胎土は白色で青緑白色の釉を全面に施す。69は平底皿である。胎土は白色、釉は水色で透明感がある。外底を除き全面施釉する。口縁上端を水平に削り、全体を薄く仕上げる。70も69と同じ胎土、釉調である。高台脇から底部は露胎である。見込に曲線文を描く。71は小壺の蓋である。天井部に花文をもつ。胎土は白色、釉は白濁した水色で口縁部のかえりを除いて施釉する。72、73は合子の身である。胎土は白色、淡緑白色の釉を蓋受け、底部を除いて施釉する。74～80は天目碗である。74～76は口縁部が屈曲する。77は低い高台から直線的に開き口縁部となる。胎土は黒灰色、釉は黒褐色～黒色である。釉尻や口縁部は茶褐色となる。高台脇から底部は露胎で茶白色を呈する。81は褐釉の平底皿である。釉は明るい茶色で光沢がある。底部は露胎で、胎土は淡茶白色である。82～89は陶器である。82は褐釉陶器の蓋である。胎土は細砂粒を多く含む淡灰色、釉は茶褐色で下面は露胎で薄茶色を呈する。底部に2個の穿孔がある。83は平底皿である。釉は褐色で不透明、全面施釉である。胎土は茶色である。84は陶器B群の蓋である。胎土は赤褐色の緻密なもので、釉はうすく灰白色で一部分に地肌が透けて見える。天井につまみがつくものであろう。85は小さな陶器B群の瓶の完形品である。底部脇～底部は露胎で灰～灰肌色である。釉は茶オリーブ色で、一部熱を受け白色に変化したところがある。86は陶器C群の鉢である。釉は茶褐色で光沢があり、全面施釉している。口縁上端には目跡が残り釉を掻きとり茶と茶褐色の縞文様となる。胎土は釉より淡い茶褐色である。87はT字口縁の甕である。胎土は黒灰色で粗い。釉は口縁部上面と内面は濃い茶緑色、外面は黄褐色である。88は陶器D群の口縁内折の甕である。釉は灰色を帯びたオリーブ色で口縁上面や内面は釉を拭きとり茶色となる。胎土は灰色で砂粒を多く含む。胴部内外面に整形時のタタキ痕が残る。89は玉縁口縁の緑釉の陶器である。胎土は砂粒が多く入り粗く、灰白色を呈し、釉は鮮やかな緑色である。90は李朝陶器の碗である。釉は不透明の緑灰色、胎土は粗い感じの灰色で一部淡茶色で畳付を除き全面施釉している。内面には目跡が残る。

土製品・石製品 (Fig.93－91～97)

91は滑石製匙の未製品である。石鍋片を利用したものか。2.2～2.5cmの厚さにし、表裏を湾曲させている。裏面、側面には荒い鑿の削り跡が明瞭に残る。一方表面は平滑な面で身の中央

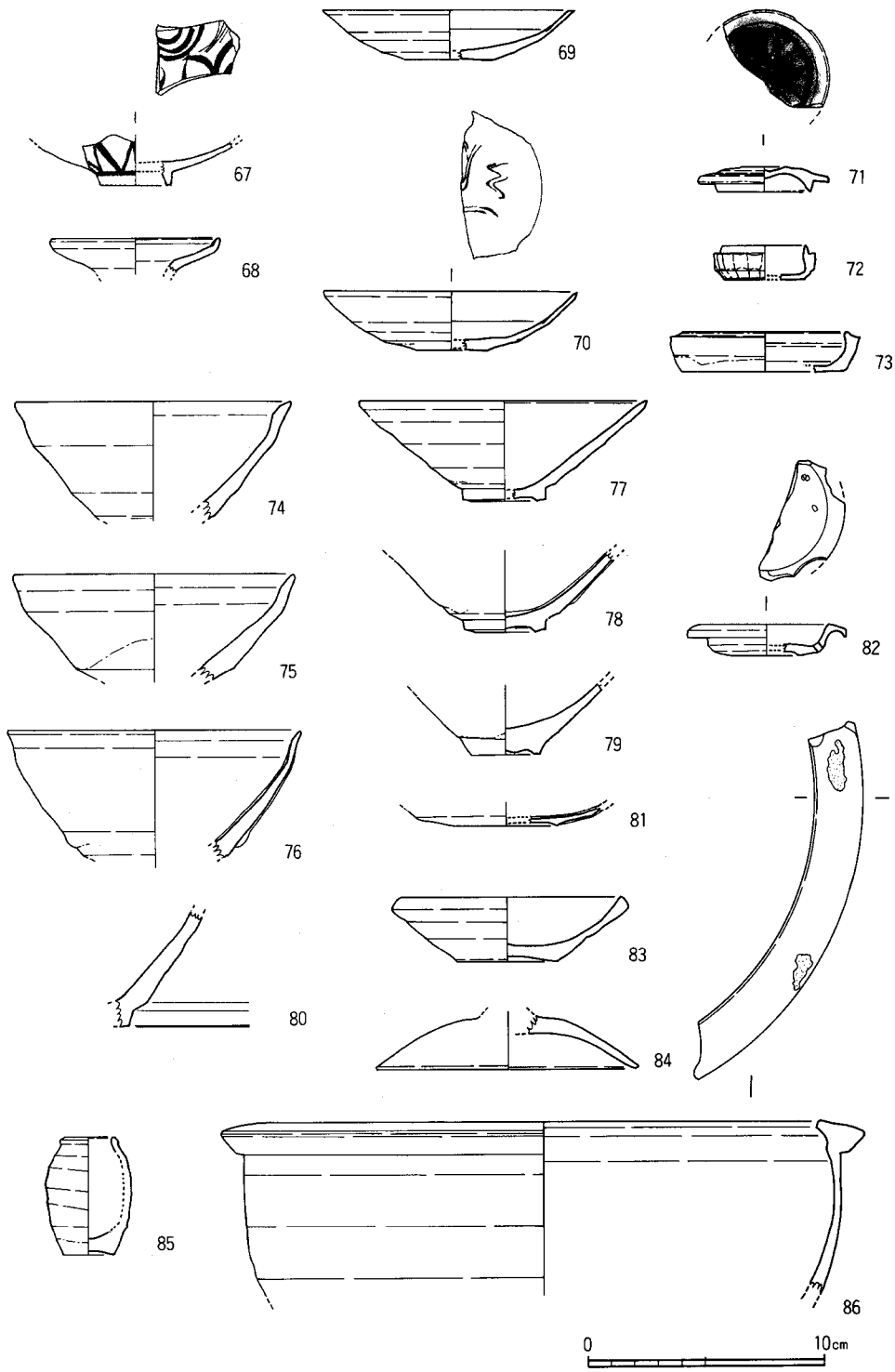


Fig.87　III面包含層出土遺物実測図(5)

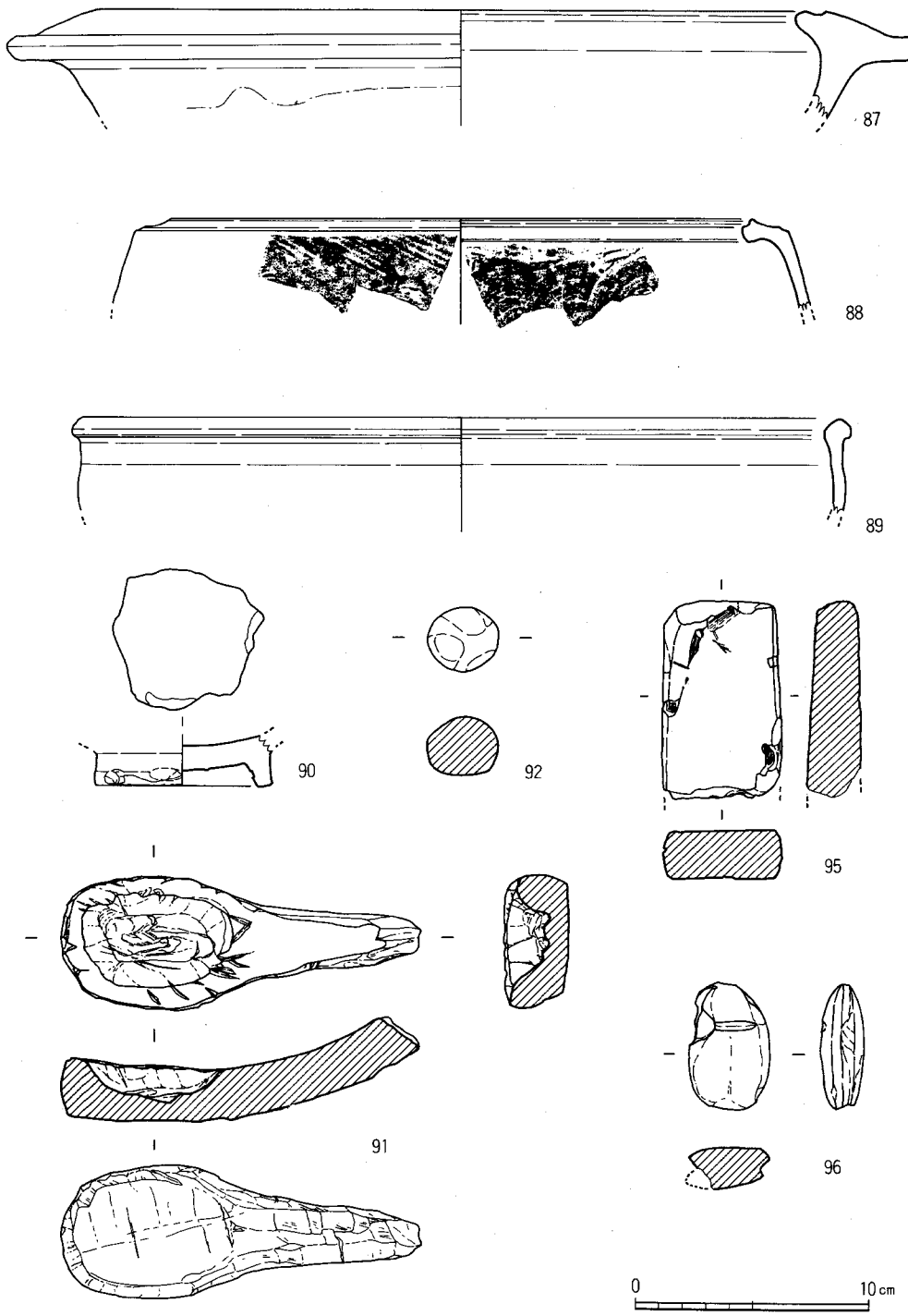


Fig.88　Ⅲ面包含層出土遺物実測図(6)

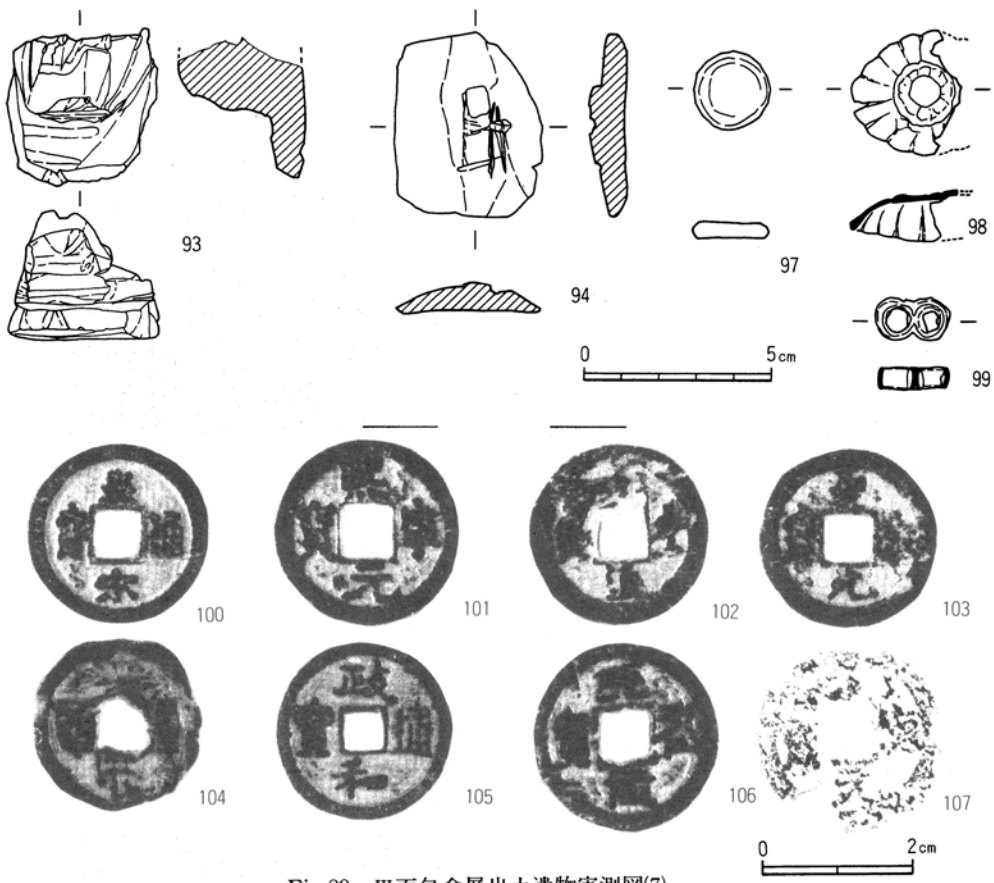


Fig.89　Ⅲ面包含層出土遺物実測図(7)

部を楕円形に削り込んで鑿跡が荒々しく残る。柄の先端部は欠損している。92は砂岩製の毬球玉である。93、94は滑石製の器蓋である。隅丸長方形の蓋で中央部の突起部に横に穿孔する形態である。95は煉瓦状の土製品である。4.5cm×8.5cm、厚さ1.8cmを測る。胎土に砂粒を多く混じえ少量のスサを混入している。焼成は良く赤褐色～灰褐色を呈する。96は楕円形の扁平な土錘である。両側面に緊縛用のV字の溝をもつ。胎土に砂粒を含むが精良で赤褐色を呈する。

銅製品（Fig.89－98～107，PL.42・60）

98は金銅製鋳造の容器の蓋であろう。体部は菊花状とし、天井部は平となる。中心に花芯をその外側を花弁を描く。全体に歪んでいるが楕円形を呈するものであろう。99は双環の銅製品である。100～106は銅銭である。100－皇宋通寶、101－熙寧元寶、102－元豊通寶、103－聖宋元寶、104－不明、105－政和通寶、106－□□元寶 、107-景徳元寶 である。他に破片や錆が著しく字体が見えないものなど合計16枚が出土している。

4. Ⅳ面の調査

Ⅳ面の調査は南端で標高3.5m、北端で3.05mの高さで確認した遺構である。遺構はⅢ面と同様にあまり遺存状態は良くない。1229号土壙は床面に鉄滓が溶解したような状態で出土し鍛冶

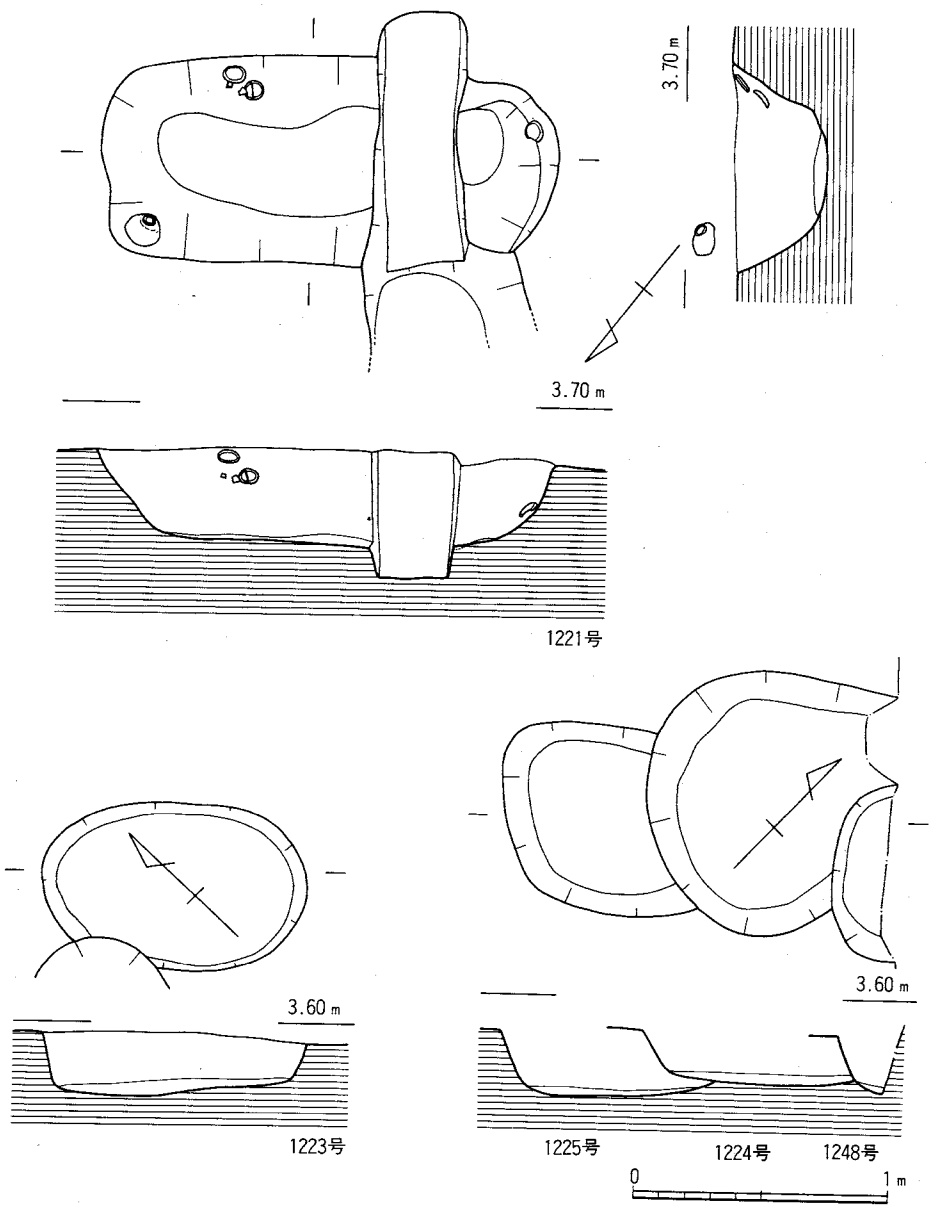


Fig.90　1221・1223～1225・1248号土壙実測図 (1/30)

遺構と思われる。また1244号土壙からは破砕した状態で粉々になった白磁碗が多数出土した。井戸は1基検出したが大部分は現代の159号井戸に切られ、掘り方の確認だけにとどまった。

1)土壙の調査

1221号土壙 (Fig.90, PL.13)

J－02区、調査区の南東部に位置する土壙墓である。中央部を1137号土壙により南北に切られる。主軸を東西にとる長楕円形で規模は長さ1.85m、最大幅8.7m、深さ0.37mである。棺外副葬と考えられ、床面より浮いた状態で青磁碗、土師器皿が出土している。埋土は黒褐色の軟質なもので木炭を含んだ層が縞状堆積を示す。壁面は緩やかな傾斜を示し床面はほぼ平坦である。

出土遺物 (Fig.91－1～12, PL.42)

1～7は底部糸切りで板状圧痕が残る土師器皿である。口径9.0～9.6cm、器高1.1～1.3cmを測る扁平なものである。胎土に砂粒を含み色調は淡茶白色ないし淡黄灰褐色を呈する。体部はヨコナデ、内底はナデ調整である。8は須恵器である。胎土には砂粒を含み、あまり緻密ではなく、色調は暗灰色である。天井部は自然釉で灰白色となる。9～12は輸入磁器である。9はⅣ類の白磁碗底部である。胎土は淡黄灰色で黄灰白色の釉を内面のみ施釉する。高台内に墨書があるが薄くて不明瞭である。10は龍泉窯系青磁Ⅰ類の皿である。胎土は明灰色で緻密、釉は淡青緑灰色で外底は露胎である。見込に櫛描文をもつ。11は龍泉窯系青磁のⅠ類碗である。低い高台で底部を厚く造り、口縁部まで直線的に開く体部である。櫛描、片切彫文様を内面全体に描く。畳付から高台内は露胎で墨書があるが、一部釉が付着し、その部分の墨書が消えており判読できない。12は青白磁の合子蓋である。胎土は白色でやや緻密、釉は淡青白色で透明である。口縁から内面は露胎である。天井に菊花文を陽刻し口縁を稜花状にする。この土壙に本来伴う遺物は土師器皿と11の碗であろう。

1223号土壙 (Fig.90, PL.13)

J－02区、1221号土壙の東側に位置する。南北に主軸をとる長楕円形の浅い土壙である。規模は長さ1.06m、幅0.66m、深さ0.17mを測る。覆土は暗灰褐色土で獣骨、土師器皿が出土している。

出土遺物 (Fig.91－13～17, PL.42)

13は底部糸切りで板状圧痕のある土師器坏である。口径15.2cm、器高2.7cmを測る。口縁部はヨコナデ、内底はナデ調整である。14、15は白磁碗Ⅵ、Ⅳ類の底部で露胎の外底に墨書をもつ。15は「李網」であろう。16は白磁平底皿0類である。胎土は白灰色で緻密、釉は飴色である。器壁は薄く、上げ底の底部となり、体外半釉である。17は滑石製ミニチュア品である。器高2.3cm、径3.0cmを測る容器で内側を抉り込む。外面は平滑になるが、内面は少し鑿跡が残る。

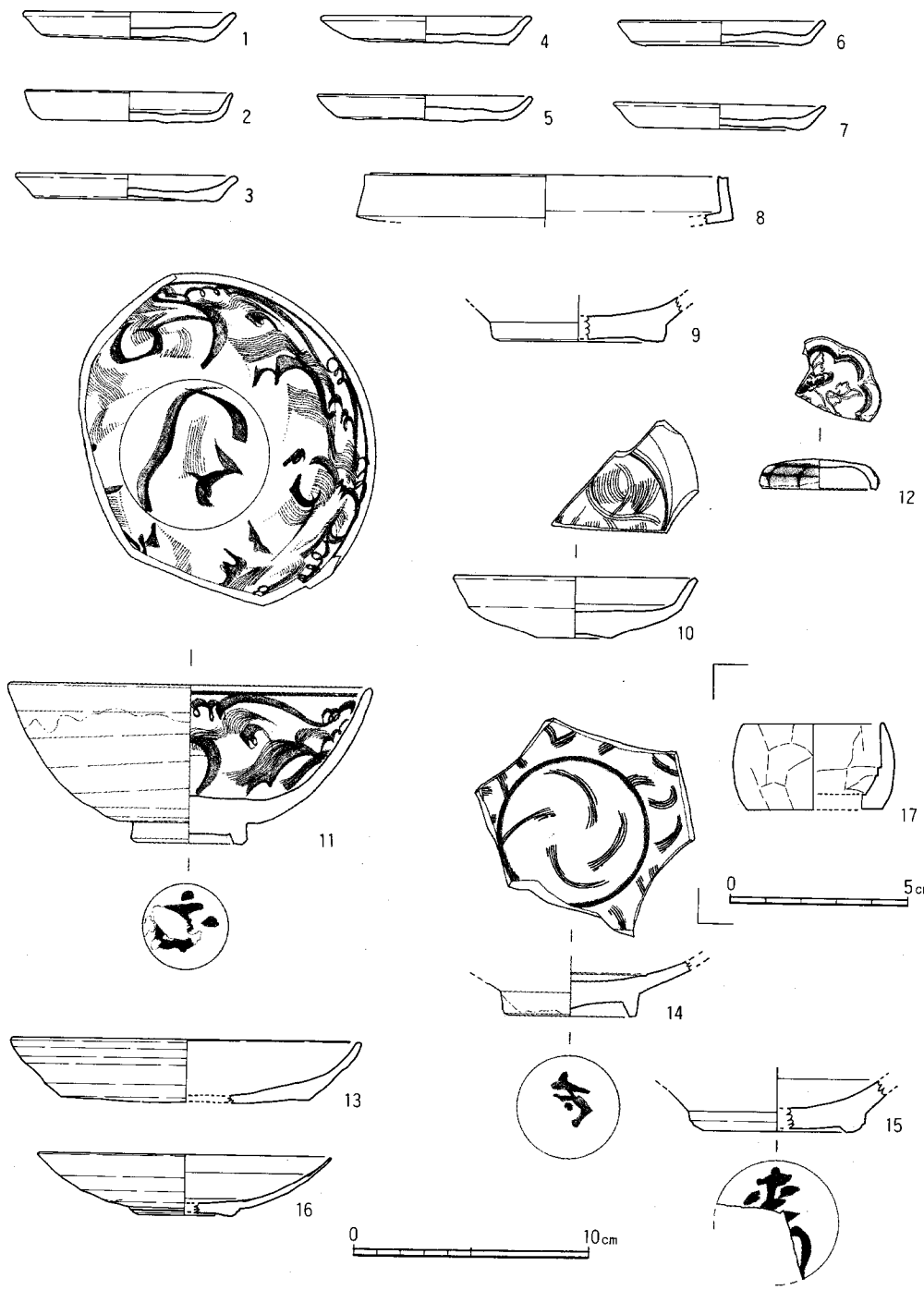


Fig.91　1221・1223号土壙出土遺物実測図

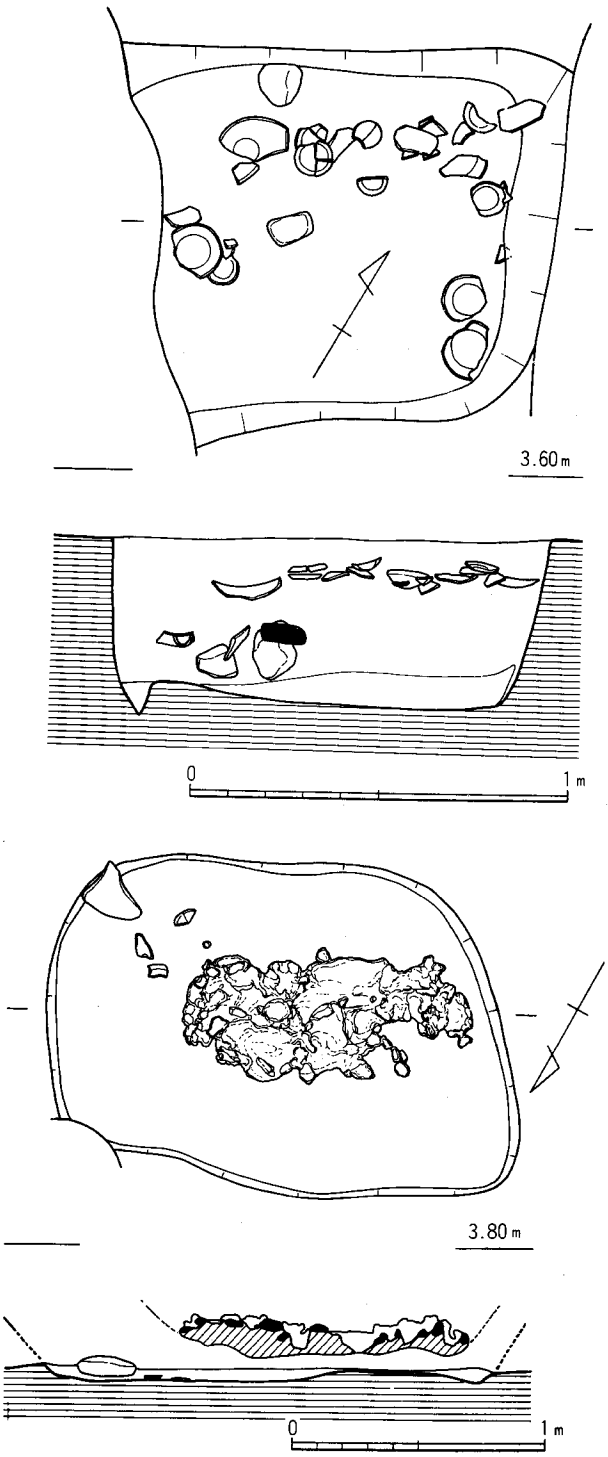


Fig.92　1227・1229号土壙実測図 (1/20・1/30)

1224号土壙 (Fig.90, PL.13)

J－02区、1223号土壙の北側に位置する。東側を1248号土壙に切られ、さらに調査区外へ拡がる略円形の土壙である。南北1.1m、東西0.9m以上、深さ0.15mの浅い土壙である。覆土は暗褐色土である。

出土遺物 (Fig.93－1, PL.43)

白磁碗である。低い高台で、体部が内湾し口縁部となる。胎土は白灰色で緻密で釉は青白灰色を呈し、高台脇から高台内は露胎である。

1227号土壙 (Fig.92, PL.14)

J－02区、I面の165号井戸の西側に位置する土壙である。東半部は井戸に切られて全体の形状は明らかではないが隅丸長方形を呈するものであろう。長さ1.05m以上、幅1.0m、深さ0.45mを測る。覆土は灰褐色砂質土である。遺物は土師器の坏、皿が埋土上面より多く出土している。口縁部を上にして置いたような状況である。完形品はなく口縁部の一部を欠損したり、半分だけの土器など大部分は破損したものである。北壁に寄った位置で床面近くから拳大より少し大き目の石が数個出土している。木棺墓で遺物は棺外副葬あるいは葬送儀礼に伴うものであろうか。

出土遺物 (Fig.93－2～20, PL.44)

2～12は底部糸切りの土師器皿である。口径9.0～9.8cm、器高1.1～1.5cmを測る。口縁部はヨコナデ、内底はヨコナデの後ナデ調整である。外底には大部分が板状圧痕がある。13～18は土師器坏である。

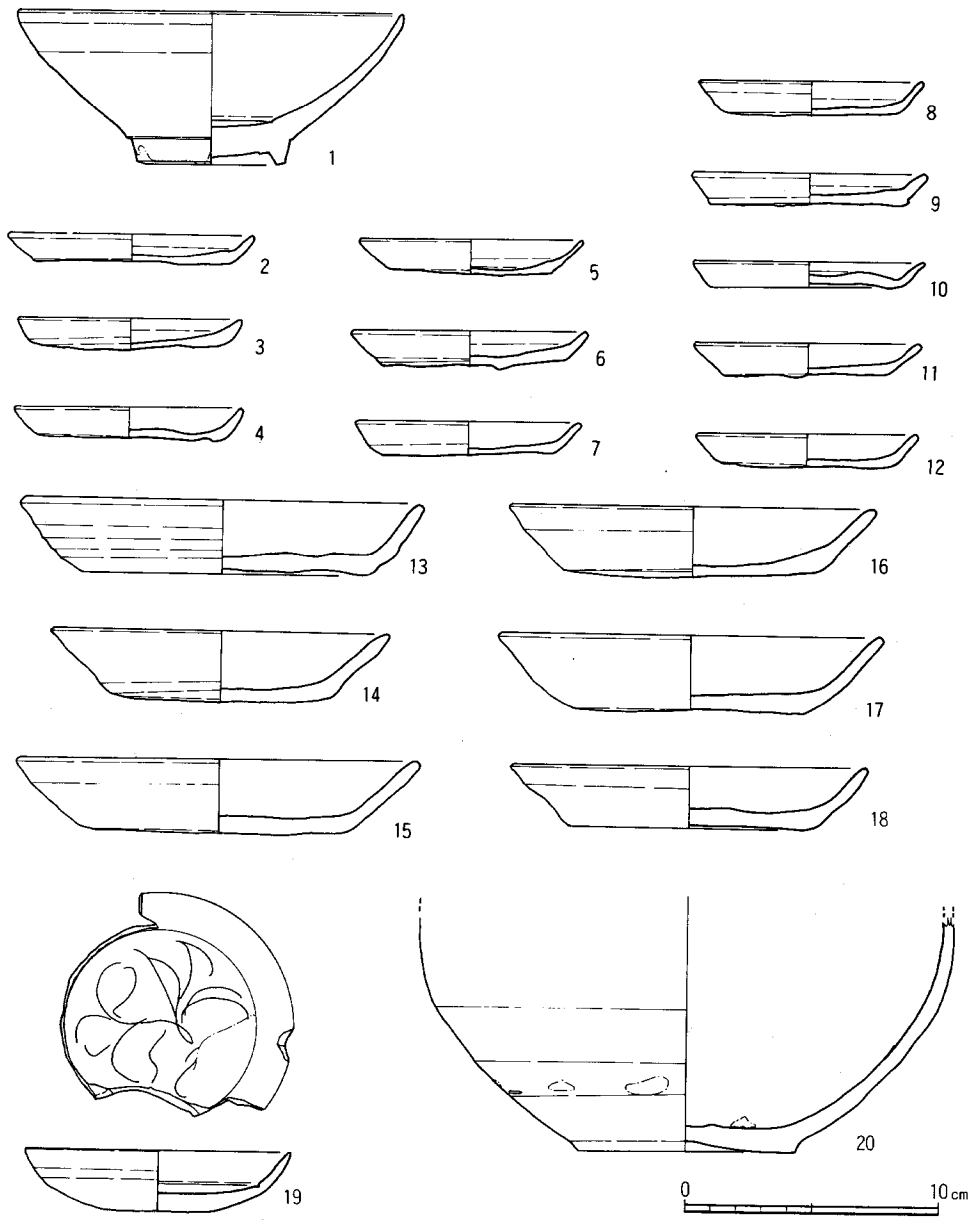


Fig.93　1224・1227号土壙出土遺物実測図

14を除き口径14.4～16.2cm、器高2.5～3.1cmを測る。19は白磁の平底皿Ⅵ類である。胎土は乳灰白色、釉は少し黄色を帯びる乳灰白色である。底部は露胎で体部は丸く、見込に沈圏線をもちヘラ描文を描く。20は陶器Ｂ群の鉢の胴～底部である。胎土は明茶褐色で細砂粒を多く含む。暗茶褐色の釉を全体に施釉する。体部外面に目跡がある。

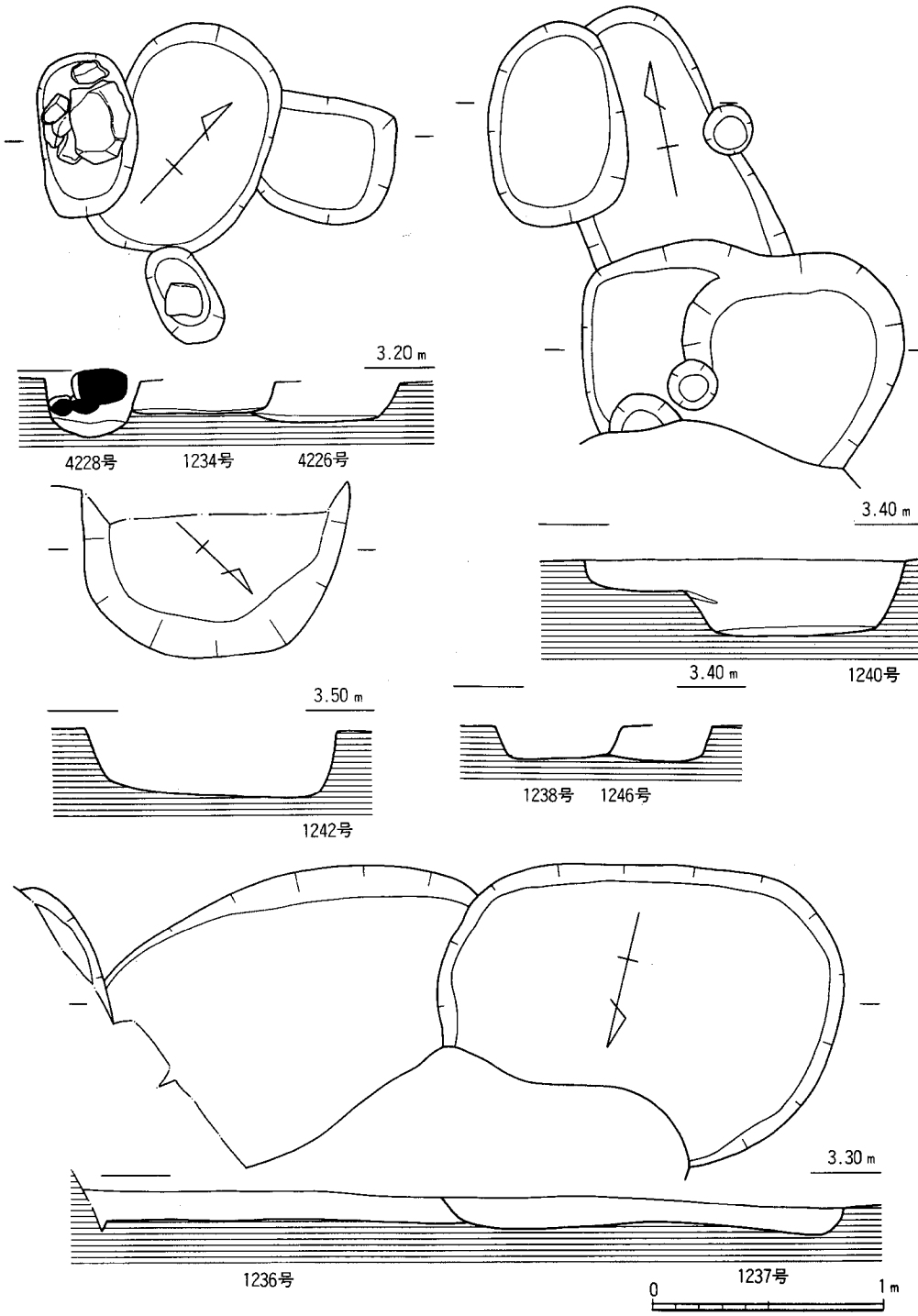


Fig.94　1234・1236～1238・1240・1242・1246号土壙実測図 (1/30)

1229号土壙（Fig.92，PL.14）

J－04区、調査区中央東寄りの地点に位置する土壙である。Ⅲ面を掘り下げる途中に確認したもので中央部に鉄滓が溶解して一塊りになって出土し、鍛冶炉と考えられる。形状は隅丸長方形と考えたがあるいは鉄滓の下面が土壙の下面である可能性が強い。鉄滓の中から轆の羽口破片が1点出土している。

出土遺物（Fig.95－1・2，PL.44・58）

1は白磁の平底皿である。胎土は白灰色で緻密、釉は青灰白色で底部際まで施釉する。露胎の底部には「黄綱」と墨書する。2は青白磁の合子蓋である。胎土は白く緻密、釉は白濁した水色である。

1234号土壙（Fig.94，PL.13）

J－04区、169号井戸の北東に位置する土壙である。主軸を南北におく小判形の平面形で西側をピットにより切られている。規模は長さ1.1m、幅0.7m、深さ0.2mを測る小規模なものである。覆土は黄灰褐色砂質土である。

出土遺物（Fig.95－4～7，PL.44）

4は土師器の皿である。底部は糸切りで板状圧痕がある。口径8.4cm、器高1.5cmを測る。底部は丸くなり、体部との境に稜をもつ。5～7は白磁である。5はⅡ類の平底皿である。底部から内湾して口縁部となる。見込に沈圏線をもつ。胎土は白灰色で釉は飴色、底部から体部下半は露胎である。6は高い高台をもつ碗の底部で高台内に「上」の墨書文字がある。7は小壺の蓋である。胎土は黄白色、釉は飴色で天井部のみ施釉する。

1236号土壙（Fig.94，PL.13）

J－04、I－02区、I面の大型の1137号土壙に切られて南側に位置する土壙である。東側は調査区外へ拡がり、西側は1237号土壙に切られ、平面形は不明瞭である。おそらく大きな楕円～不整円形をなすものであろう。覆土は暗灰褐色と木炭を含んだ層との縞状堆積を示す。

出土遺物（Fig.95-8・9，PL.44）

8は同安窯系青磁碗の底部である。胎土は白灰色できめ細かく、釉はオリーブ色である。畳付から高台内は露胎で墨書がある。9は越州窯系青磁の底部片である。胎土は白灰色で緻密、釉は白濁したオリーブ色である。内底に目跡がみられる。

1237号土壙（Fig.94，PL.13）

I－02区、1336号土壙を切って西側に位置する土壙である。東北隅を1137号土壙に切られる。平面形は隅丸長方形で主軸をほぼ東西にとる。規模は東西1.85m、南北1.3m、深さ0.15mを測る浅い掘り込みの土壙である。覆土は1336号土壙とほぼ同じである。

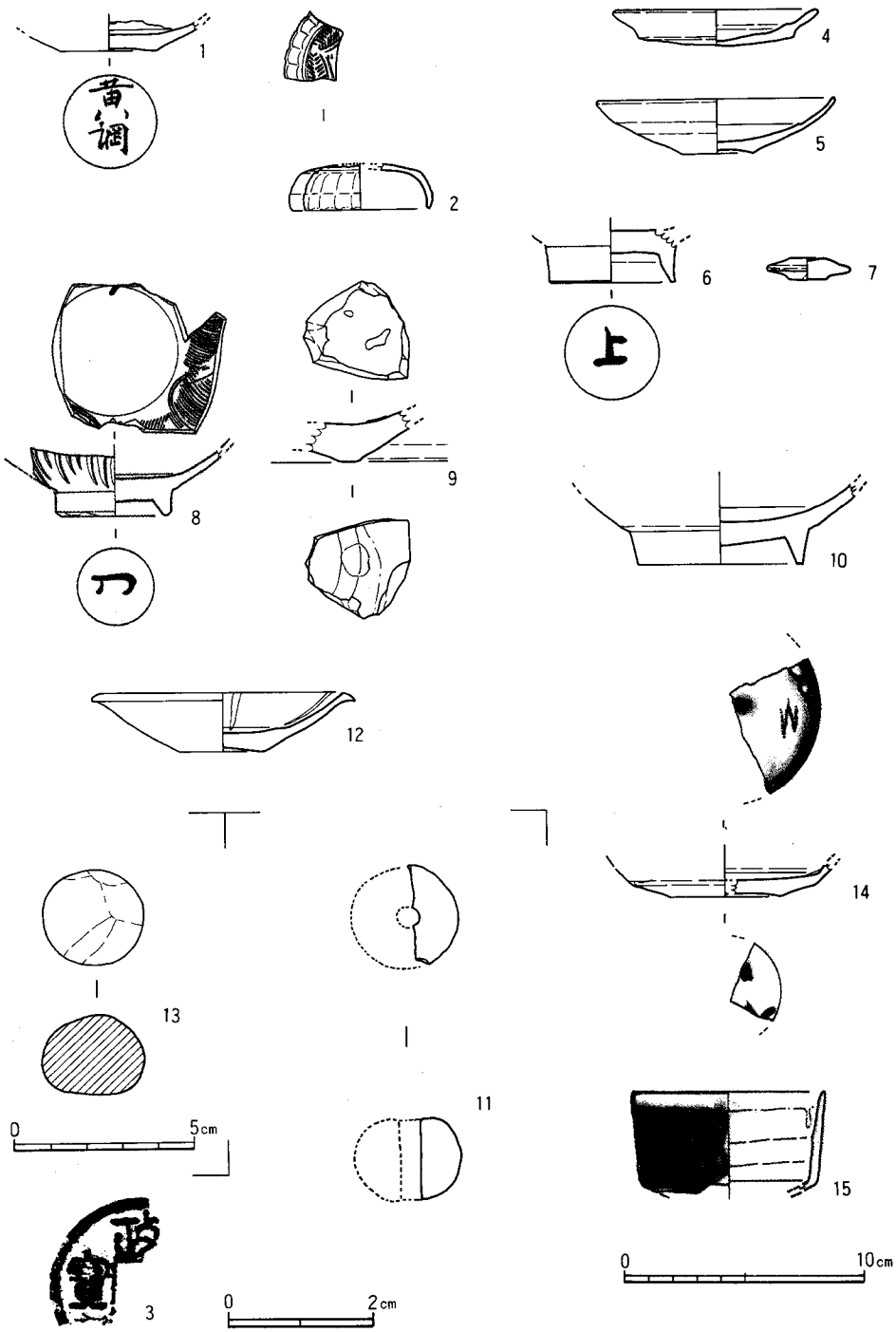
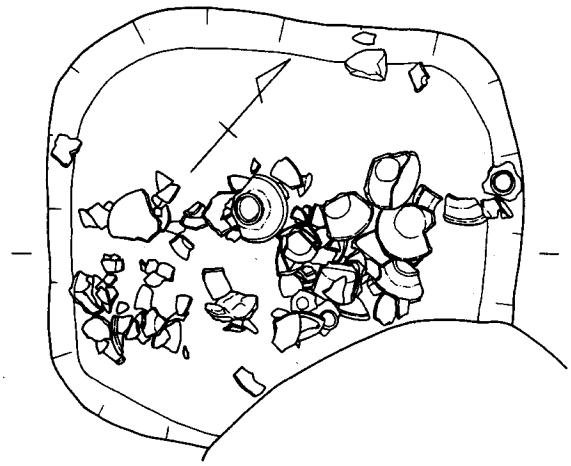
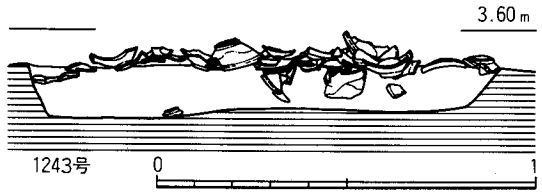


Fig.95　Ⅳ面土壙出土遺物実測図





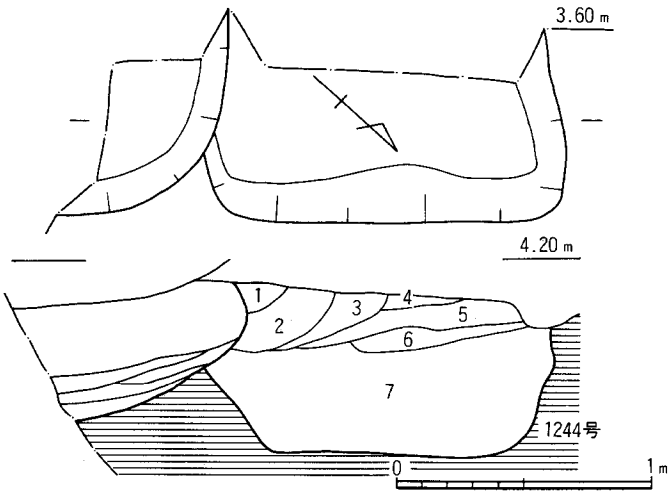


Fig.96　1243・1244号土壙実測図 (1/20・1/30)

出土遺物 (Fig.95－10, PL.60)

高い高台をもつ白磁碗底部である。胎土は灰白色で少し粗い感じである。釉は半透明の灰白色で高台内まで全体に施釉される。

1240号土壙 (Fig.94, PL.13)

J－03区、172号井戸の北に位置する土壙である。西辺は172号井戸に切られ全体の幅は不明である。長さ1.4m、幅0.8m以上、深さ0.4mを測る。平面形は隅丸長方形で中心部で段をもち、2段の掘り込みとなる。覆土は上層が灰褐色砂質土、下層は約0.1mほど黄白色砂層となる。

出土遺物 (Fig.95－12・13, PL.44)

12は白磁のⅣ類平底皿の完形品である。口縁部を折り返し、上面を丸くした形態である。内面に沈圏線と白堆線をもつ。胎土は白色で細かい砂粒を含む。釉は灰白色で外底は露胎である。13は砂岩製の石玉である。

1242号土壙 (Fig.94, PL.13)

J－03区、167号井戸の西側に位置する半円形の土壙である。西側は調査区外に拡がって全体の形状は不明であるが本来円形を呈していたものであろう。規模は南北1.1m、東西0.65m以上、深さ0.3mを測る。西壁の土層の観察では3.9m前後から掘り込まれており、0.7m前後の深さである。覆土は暗灰褐色砂質土である。

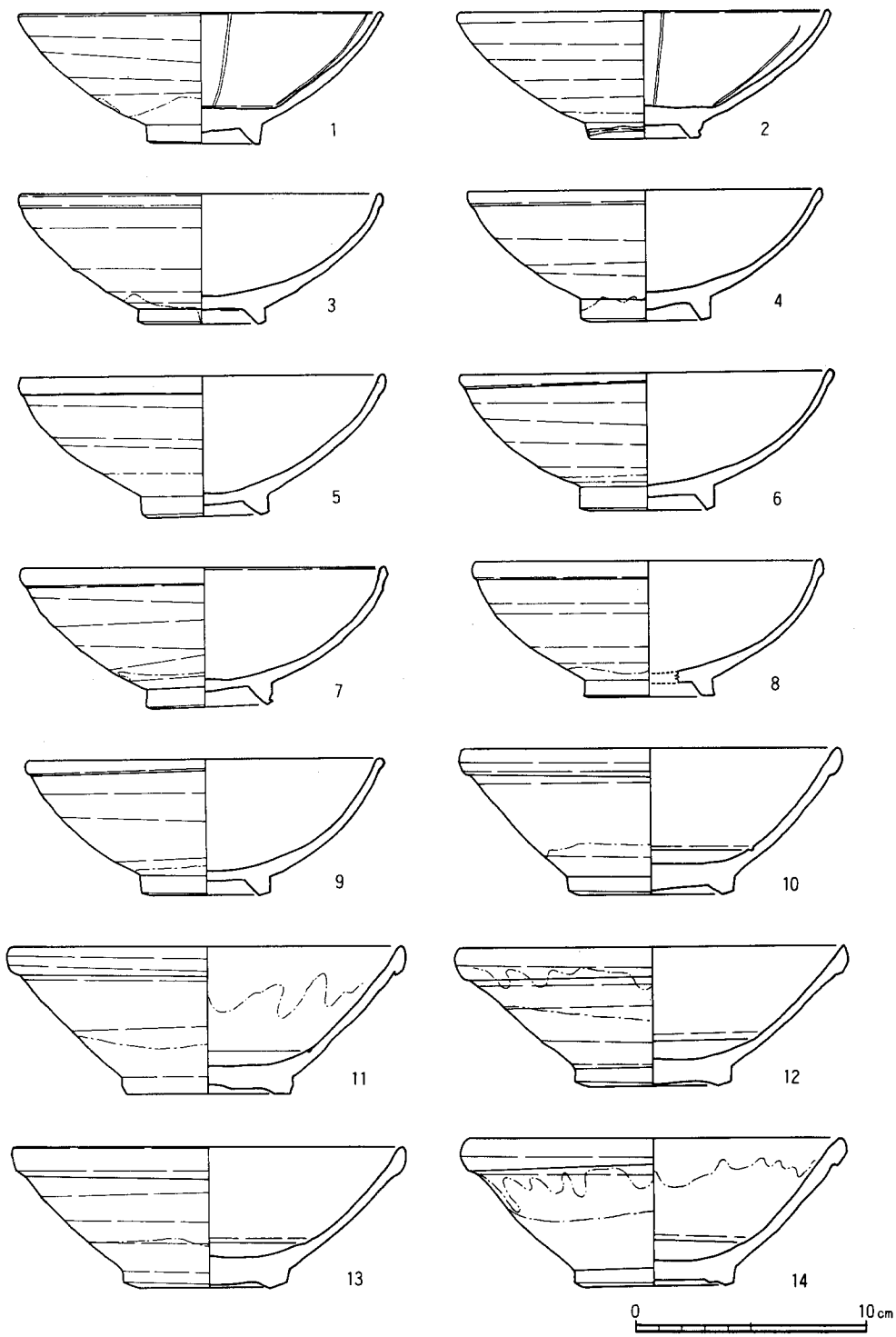


Fig.97　1243号土壙出土遺物実測図

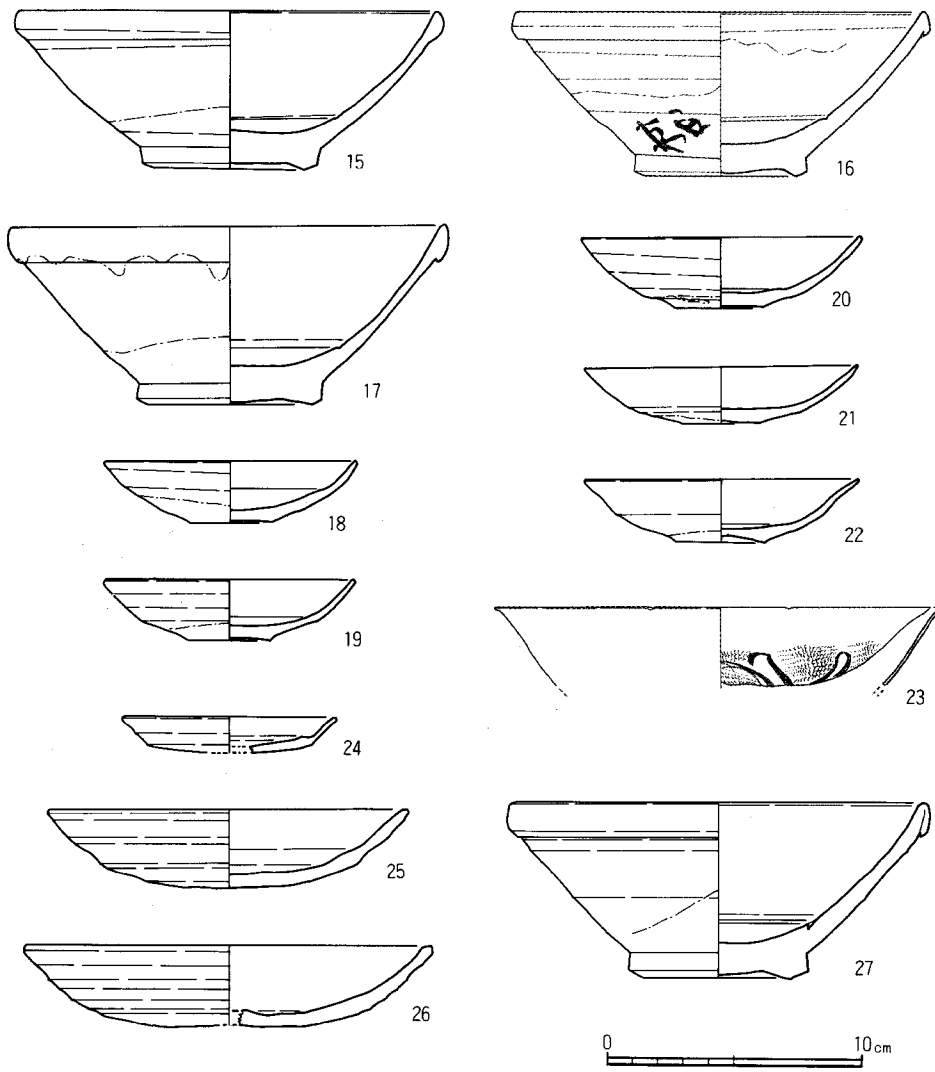


Fig.98　1243・1244号土壙出土遺物実測図

出土遺物（Fig.95－14・15，PL.44）

14は同安窯系青磁の平底皿である。胎土は灰白色、釉はオリーブ色を帯びた飴色で底部から体部下半は露胎である。外底には墨書があるが不明瞭である。見込に櫛描文がある。15は白磁の香炉である。胎土は白灰色の緻密なもので釉はうすい青白灰色である。内面の口縁部から外面体部に施釉する。外面には2～3段に蓮弁文をもつ。

1243号土壙（Fig.96，PL.15）

J－01、調査区の南西隅に検出した廃棄用の土壙である。東隅は159号井戸に切られるがほぼ全体の形状は明らかで、隅丸方形を呈する。規模は一辺1.16～1.26m，深さ0.15mを測る。遺

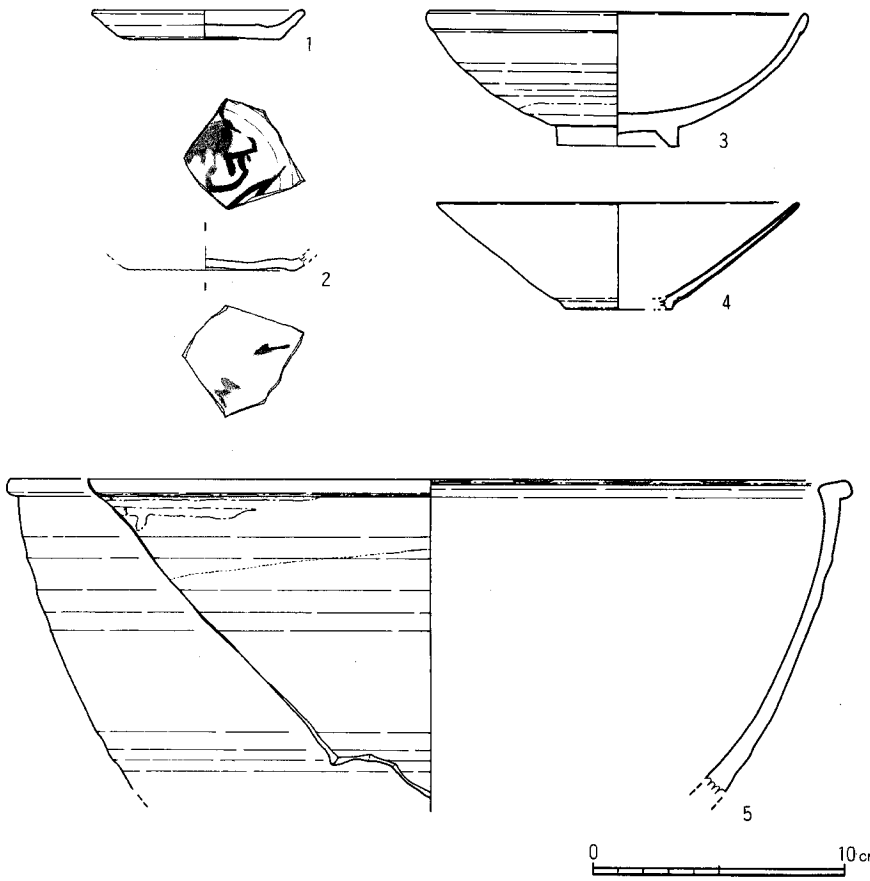


Fig.99　1248号土壙出土遺物実測図

構確認面に白磁の碗、皿類が一面に破砕した状態で投棄されている。破片を接合しても完形になるものはなく、大半が半分位の遺存である。本来もっと深い土壙であって、床面近くに一括して棄てられたものであろう。

出土遺物（Fig.97・98－15～23，PL.44・45）

1～9はII類の白磁碗である。1、2は内湾する体部で内面に6本の白堆線をもつ。胎土は灰白色で細かい砂粒を多く含む。釉は淡黄灰白色の透明で体外半釉である。3～9は口縁を小玉縁に造る形態である。高台は低く内側を斜に削り、体部は内湾する。胎土は淡乳灰白色、釉は淡黄乳灰白色で体外半釉である。10～17は低く厚い高台に大きな断面三角形の玉縁をもつ一群である。見込に沈圏線をもつ。体外半釉で口縁部の内外面に釉だれが認められる。胎土は白色～灰白色、釉は淡灰白色である。18～22はII類の白磁平底皿である。灰白色の胎土に淡黄灰白色の釉を施す。体外半釉である。見込と体部の境に浅い段をもち、内湾して口縁部となる。22は体部中ほ

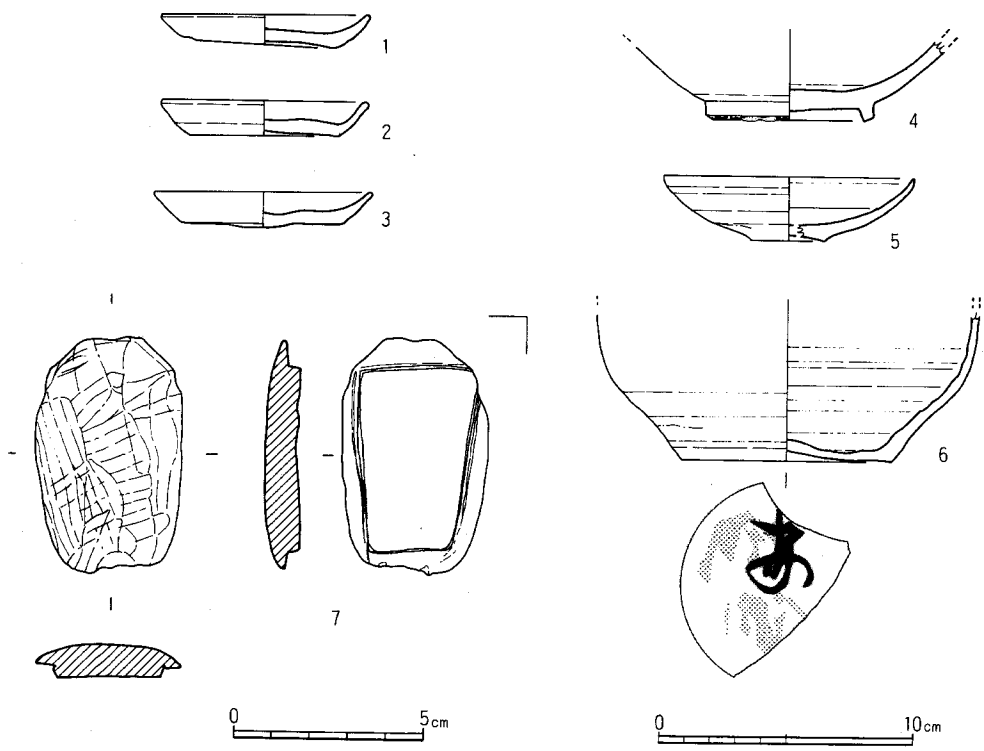


Fig.100　179号井戸出土遺物実測図

どで外反する。

1244号土壙 (Fig.96, PL.13)

J－01区、1243号土壙の西側に位置する土壙である。Ⅲ面で一部確認していたが、平面形が一部不明瞭であったので、Ⅵ面で掘り下げた。西側は調査区外へ拡がり、調査できたのは、全体の半分である。規模は長さ1.45m、現存幅0.8m、深さ0.5mを測る隅丸長方形の土壙である。覆土は暗灰褐色土である。

出土遺物 (Fig.98－24～27)

24～26は土師器である。24は板状圧痕の残る底部ヘラ切りの皿である。口径は8.6cm、器高は1.5cmを測る。口縁部はヨコナデ、内底はナデ調整である。25、26は丸底の坏である。外面はヨコナデ調整、内面は横方向のヘラ研磨をしている。26の外底には板状圧痕が残る。27は白磁Ⅳ類の碗である。幅広の折り返し口縁で見込に沈圏線をもつ。胎土は灰白色で釉は淡黄乳灰白色である。体外半釉である。

1248号土壙 (Fig.90, PL.13)

J－02区、1224号土壙を切って東側に位置するピット状の小土壙である。東側は調査区外へ拡

がり、全体の規模は不明である。南北0.6m以上、深さ0.2mを測る。覆土は暗灰褐色砂質土で礫、遺物を多く含んでいる。

出土遺物 (Fig.99, PL.46)

1、2は土師器の小皿である。底部糸切りで板状圧痕が残る。胎土は少し砂粒を含み淡黄白色を呈す。体部はヨコナデ、内底はナデである。2の内外底には墨書があるが判読不能である。内底の墨書は文字でなく、呪符的性格のものであろう。3はII類の白磁碗である。胎土は白灰色の緻密なもので釉は淡黄緑灰色、体外半釉である。4は越州窯系青磁碗である。胎土は灰白色で緻密、釉は緑灰色で高台部を除き全面施釉する。5は陶器A群の盤である。胎土は砂粒混じりの粗い土で暗灰～黄褐色である。釉下には白土で化粧し、その上に淡黄緑灰色の釉をかける。内面のみ施釉し、外面は露胎で暗褐色を呈する。口縁部上面には目跡が残る。

2)井戸の調査

179号井戸 (Fig.70)

I－02区、III面の178号井戸とほぼ重複し、一部南側の掘り方だけが遺存した井戸である。北壁土層に井筒の一部が認められ、相当大型の掘り込みをもつ井戸と考えられる。178号井戸と重複するのでその一部の可能性もある。

出土遺物 (Fig.100, PL.46)

1～3は土師器皿である。底部は糸切りで、2、3には板状圧痕が残る。口径8.3～8.7cm、器高1.3～1.4cmを測る。胎土に砂粒を少量含み色調は淡黄褐色である。 4は越州窯系青磁碗である。胎土は緻密で淡い小豆色、釉は緑灰色を呈し全面施釉する。畳付に目跡が残る。5はII類の白磁平底皿である。底部から内湾して口縁部となる。胎土は淡黄灰色で、釉は淡黄灰白色である。体外半釉である。6は陶器A群で黄褐釉の軍持である。胎土は白灰肌色で胴下半から底部は露胎である。外底に赤色顔料と墨で文字を描くが薄くて判読不能である。7は滑石製容器蓋である。平面形を小判形に整え、天井部を丸く鑿で削る。下面を台形に造り出しその縁を丁寧に研磨する。台形部分にはこげ状の炭化物が付着している。

3)ピット出土遺物 (Fig.101)

1は龍泉窯系平底皿である。胎土は白灰色で緻密である。釉は透明感のある明るいオリーブ色で底部は露胎である。外底に墨痕が認められる。2は外底に墨書をもつ白磁皿である。内面のみ灰飴色の釉をかけ、見込の釉を輪状に掻きとる。胎土は灰肌色で緻密である。3は白磁碗である。胎土は白灰クリーム色できめ細かな土で釉は白濁したクリーム色で体外半釉である。口縁部を玉縁につくり、高台は低く、内側を斜に削る。4は青白磁の香炉である。口縁部をL字に屈曲させ胴部は筒状となり凹線をめぐらす。胎土は白色で緻密である。釉は青白色で内面の口縁部屈曲部まで施す。5は白磁平底皿である。胎土は白灰色、釉はうすい青色を帯びた白灰色で外底は

露胎のままである。外底には墨書をもつ。6も外底の露胎部に墨書をもつ白磁平底皿である。7は白磁の鉢口縁部である。胎土は白灰色できめ細か、釉は飴色である。8は白磁の高台付皿である。全体に器壁が厚く、ぼってりした造りである。胎土は黒砂粒を混入したクリーム色で釉は灰白色である。

4)包含層出土遺物

瓦器 (Fig.102－1, PL.47)

瓦器皿である。口縁部、底部の一部を欠損するがほぼ完形品である。丸い底部で口縁部が外反し口縁下に稜をもつ。胎土は細砂を含むが良好で、灰白色を呈する。内面はヘラ研磨で外底はヘラナデ、口縁部はヨコナデである。

須恵器 (Fig.102－2)

須恵器の皿である。平底で口縁下で屈曲する。胎土には小石が混じるが良好で、色調は灰色～暗灰色である。

輸入陶磁器

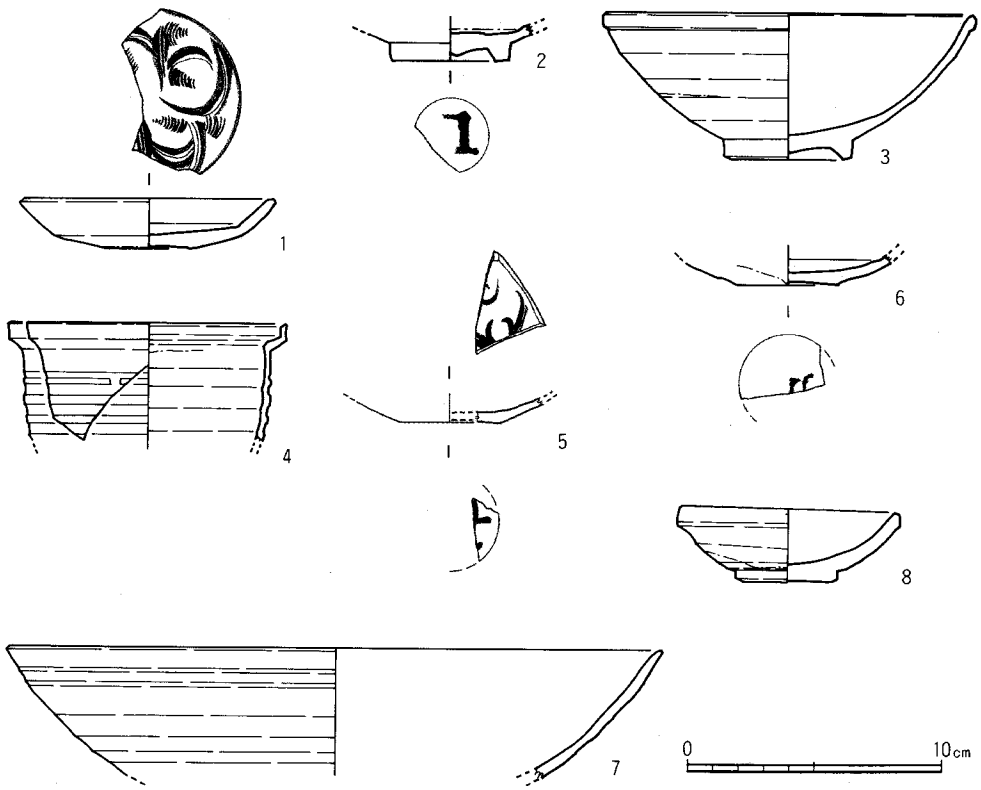


Fig.101　Ⅳ面ピット出土遺物実測図

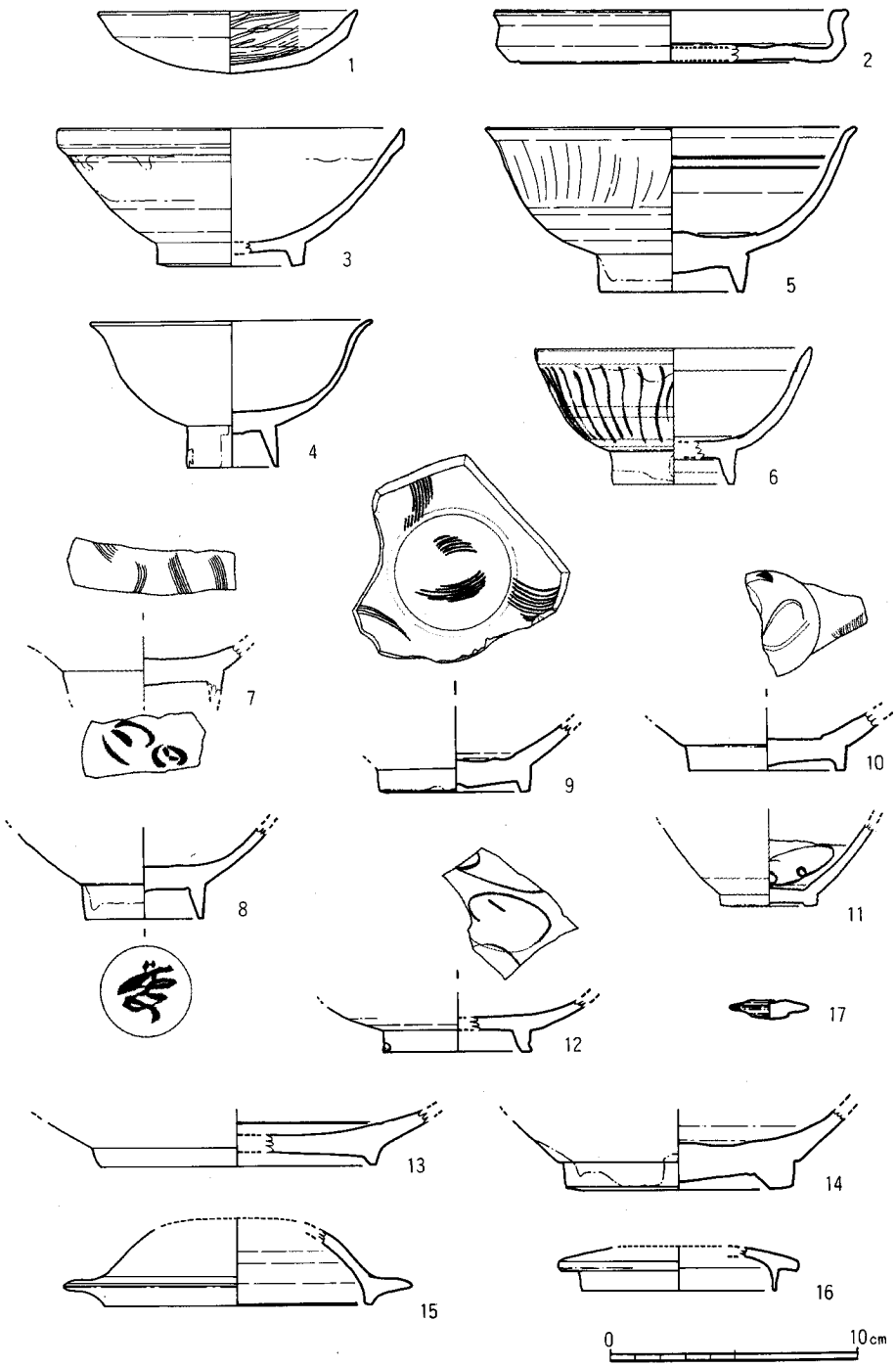


Fig.102　Ⅳ面包含層出土遺物実測図(1)

白磁（Fig.102－3～・103－～30，PL.47・48）

3は碗で口縁部を玉縁とする。高台は低く断面四角形である。胎土は白灰色、釉は白灰色で口縁部に釉だれがあり体外半釉である。4は高い高台で、口縁部が外反する深い碗である。胎土は白色で細砂を少量含み、釉は白色である。高台外面には釉がたれ、畳付から内面は露胎である。5は口縁部の反りが小さく、外面にヘラ描文を描く。胎土は白灰色、釉は淡緑灰色で透明感がない。6は口縁部が直線的に立ち上がるもので外面にヘラ描文をもつ。胎土は白灰色できめ細かく、釉は緑がかった白灰飴色で一部分高台外側まで施釉する。畳付から高台内面は露胎である。見込に沈圏線をもつ。7、8は白磁碗の底部で外底の露胎部に墨書がある。8は花押であろう。9、10は内面に櫛描文をもつ碗である。胎土はクリーム色でパサパサした感じで釉は乳白色を呈する。見込と体部の境に明瞭な段をもつ。11は内面に曲線文を描く小碗である。胎土は9と同じで、釉はうすい飴色である。畳付から高台内は露胎である。12は見込に曲線文を描く白磁の碗である。13は鉢の底部片で低い断面三角形の高台である。見込に沈圏線をもつ。胎土は黄白色で釉は淡黄白色で畳付から底部は露胎である。14も鉢で厚い底部と大きな高台をもつ。見込の釉を輪状に掻きとる。15、16は蓋である。16の胎土はクリーム色で黒褐釉を天井部のみに施釉する。18～23は平底皿である。19の口縁部外面は窪み丸く外反する。胎土は緻密で灰白色、釉も白灰色を呈し底部は露胎である。他は内湾する体部から口縁部となり、見込に沈圏線をもつ。21は見込に、23は体部内側に曲線文を描き、20、22は外底に墨書をもつ。22には「陳」と中国人名文字を記す。24～30は高台付皿である。24、25は内面に櫛描文をもつ。胎土は白灰色～うすいクリーム色で釉は灰飴色である。26は見込に沈圏線をもつ皿である。胎土は白色できめ細かく、釉は青白色の半透明釉である。高台内にハマの跡が残る。27は外底に墨書のある皿である。見込の釉を輪状に掻きとり体外半釉である。釉は緑色を帯びた灰白色で少し透明感がある。胎土は灰白色で微砂が混じる。29、30は見込に沈圏線状の段をもつタイプである。高台は低く直線的な体部から口縁部となる。胎土は白灰色で釉は青味を帯びる白灰色で体外半釉である。31は型造りの合子の蓋である。口縁部を除き全面に施釉し天井部に花文を施す。

青白磁（Fig.103－32～34）

32は碗である。胎土は純白で微砂を含む。釉は淡い緑青色で透明、高台内面から底部まで施釉している。見込にはヘラ、櫛描文様を描く。露胎の底部に墨書をもつが判読不能である。33は香炉の脚部である。釉は淡い水色で透明である。内面は露胎である。34は小壺の肩～胴部片である。肩部に片切彫の連続文を刻み、その上に貼付文を施す。胎土は純白で釉は淡い緑白色を呈する透明釉である。

青磁（Fig.104－35～48，PL.47）

35は龍泉窯系青磁深皿である。見込にヘラ、櫛描文様を一面に描く。胎土は灰色、釉は茶緑

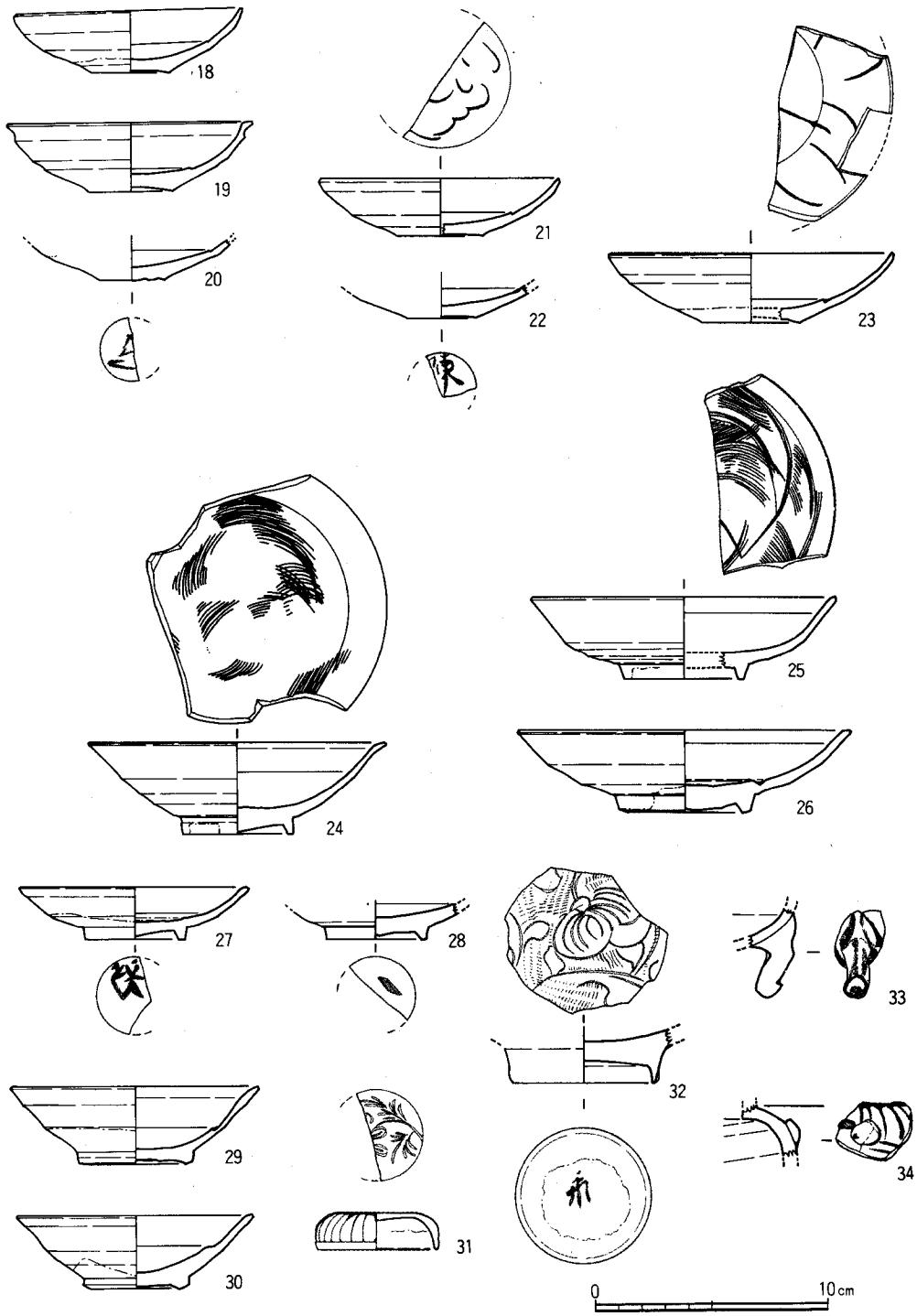


Fig.103　Ⅳ面包含層出土遺物実測図(2)

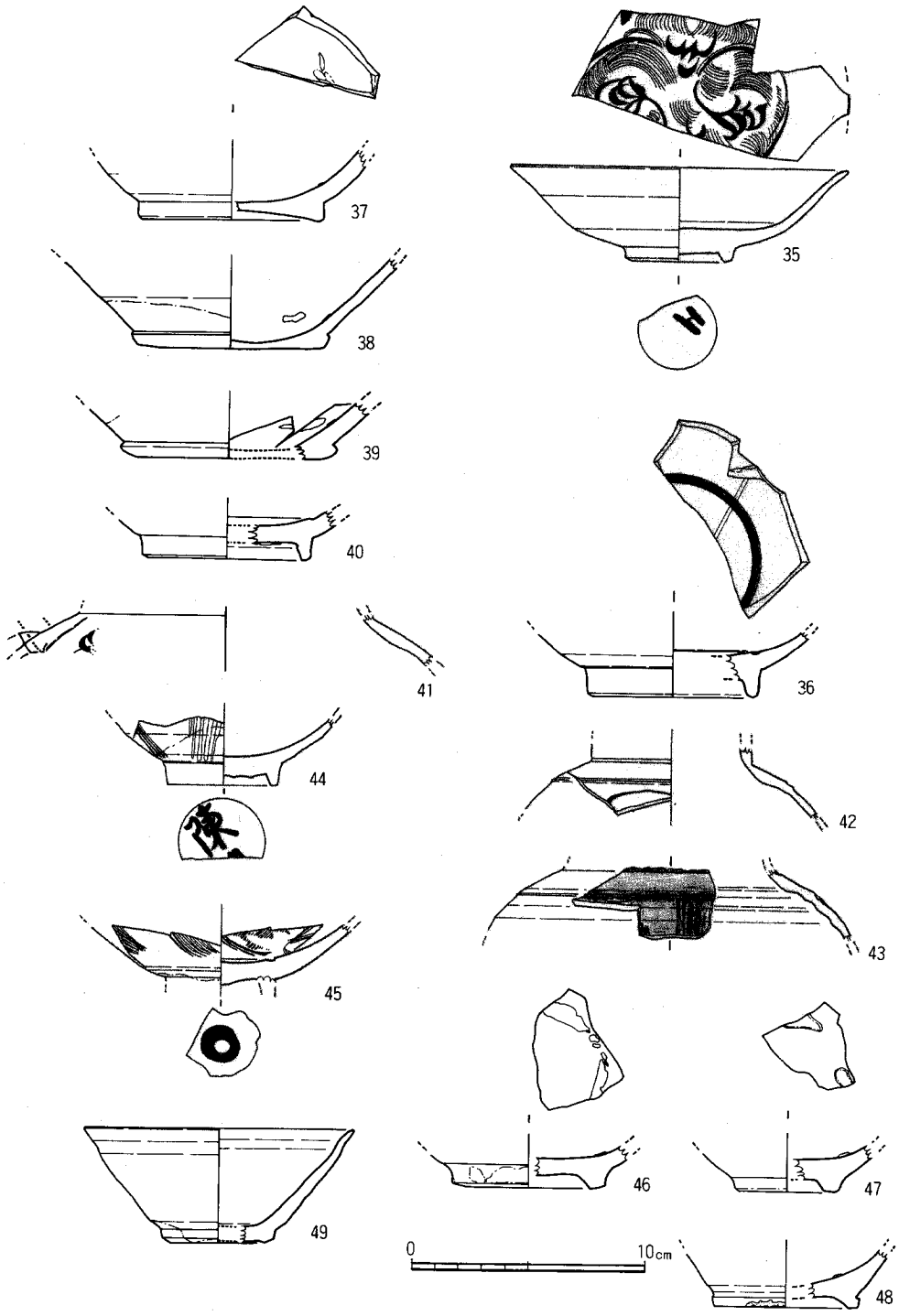


Fig.104　Ⅳ面包含層出土遺物実測図(3)

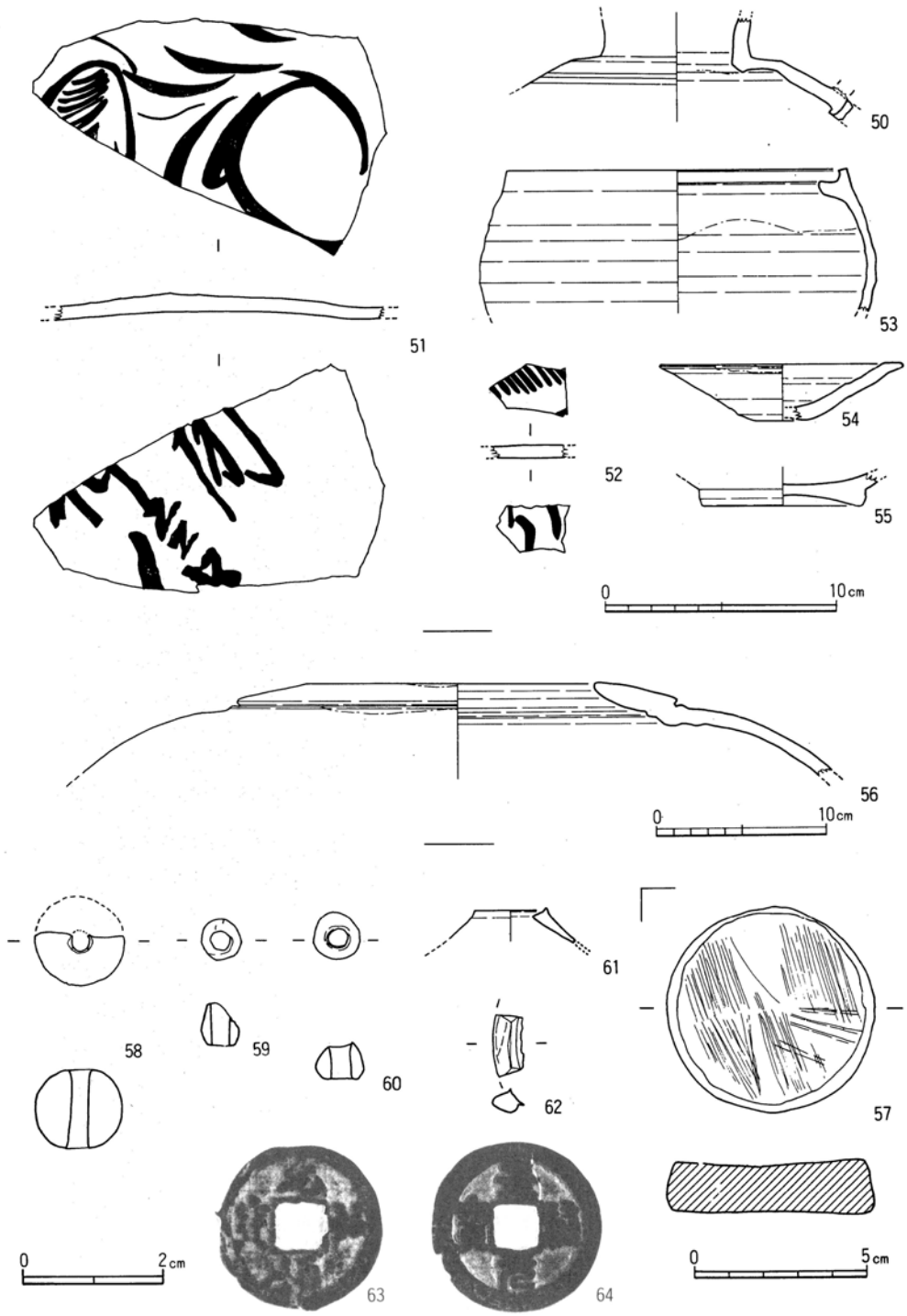


Fig.105　Ⅳ面包含層出土遺物実測図(4)

色で透明、畳付まで施釉する。高台内には墨書があるが判読不能である。36～43は越州窯系青磁碗である。36、40は輪高台で全体にガラス質のオリーブ釉を施す。37は上げ底状平高台の碗で胎土が灰色できめ細かで黒色砂を含む。茶オリーブの釉で体外半釉で見込に目跡がある。38、39は平高台で胎土は灰色で黒い砂粒を含む。釉は淡いオリーブ色で釉尻は茶色で体外半釉である。見込には目跡が残る。41～43は壺の肩部の破片である。43は肩部から胴部にT字状に連続した突帯状の削り出しをもち、耳の接合痕が残る。胎土は白灰色で釉はうすい灰オリーブ色である。45は同安窯系碗である。見込にヘラ、櫛描文様、外面にヘラ描文をもつ。外底の高台内に墨で円文を描く。胎土は灰色で、釉は水色がかった青色を呈し高台脇まで施釉する。46～48は高麗青磁碗である。胎土は灰白色できめが粗く砂粒を多く含む。釉は灰緑色で全面施釉し、高台部を拭きとる。見込及び高台には目跡が残る。

天目（Fig.104－49，PL.48）

碗である。口縁部を緩やかに屈曲させる。胎土は明るい茶褐色で微砂が混じる。釉は黒褐色で口縁部先端の釉尻が茶褐色である。高台脇から底部は露胎である。

陶器（Fig.105－50～56，PL.48）

50は緑釉陶器の水注である。頸部の内面から外面全体に淡い黄緑色の釉を施す。胎土は淡肌色で緻密である。頸部と胴部の接合痕が内面に残る。胴部に注口部の貼付跡が残る。51は黄褐釉の盤の底部である。外底に墨書文字が複数あるが「信」の一字しか読めない。52も同様の盤で外底に墨書がみられる。53は行平の口縁から胴部の破片である。内面の胴下半のみ暗茶褐色の釉を施す。胎土は暗灰～灰褐色で砂粒を多く含む。露胎部は茶褐色を呈する。54は蓋で口縁部の一部に茶緑色の釉がかかるが他は露胎である。胎土は灰白色で露胎は灰肌色である。55は緑釉の碗底部片である。胎土は肌色～灰色、釉は黄緑色で全面施釉する。

ガラス製品（Fig.105－58～62，PL.60）

58は半球形のガラス玉である。色調は黄灰白色で石製の感じを受ける。59、60もガラス玉で青緑色を呈する。61は小瓶の口縁部片で青白色を呈する。口縁部の平面は角張り四角形に近くなる。器壁は口縁部では厚いが胴部では極く薄くなる。62は青紺色を呈するガラス製品であるが、器形は不明である。楕円形の断面で直角に延びる二つの面がある。

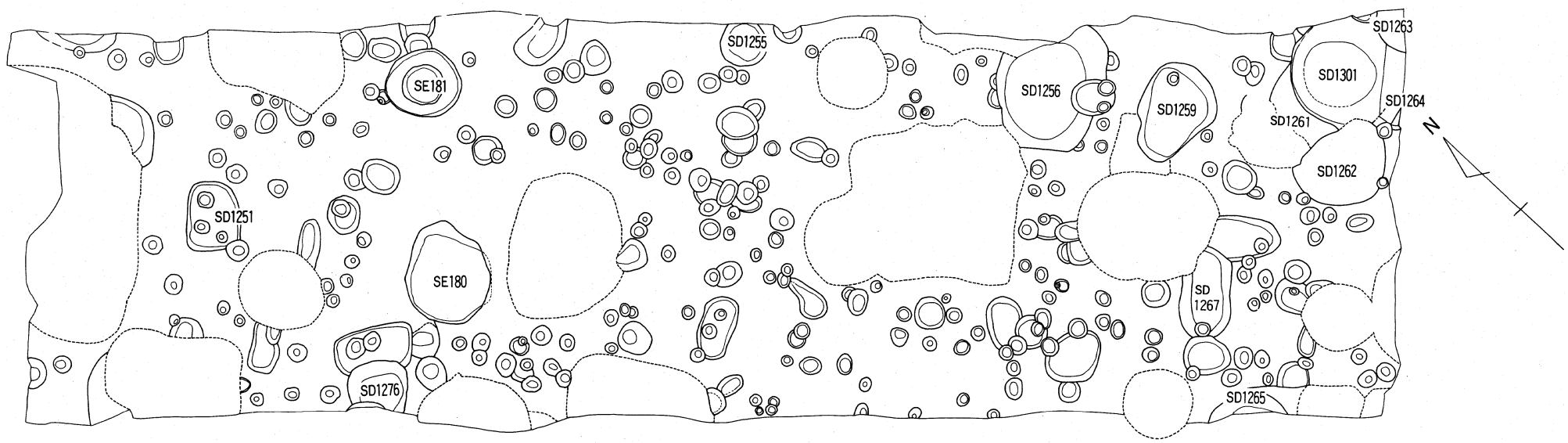
石製品（Fig.105－57，PL.48）

滑石製円盤状製品である。径5.7cm、厚さ1.6cmを測り、わずかに鑿の削跡が残るが研磨され丁寧な造りである。上面は少し中央が窪み、下面は平で剝離面が残る。

銅銭（Fig.105－63・64，PL.60）

Ⅳ面では4枚の銅銭が出土しているが、図示した2枚が銭名が判明したものである。63は元符通寶（初鋳1098年）、64は景祐元寶（初鋳1034年）である。

V面平面図



Ⅵ・Ⅶ面平面図

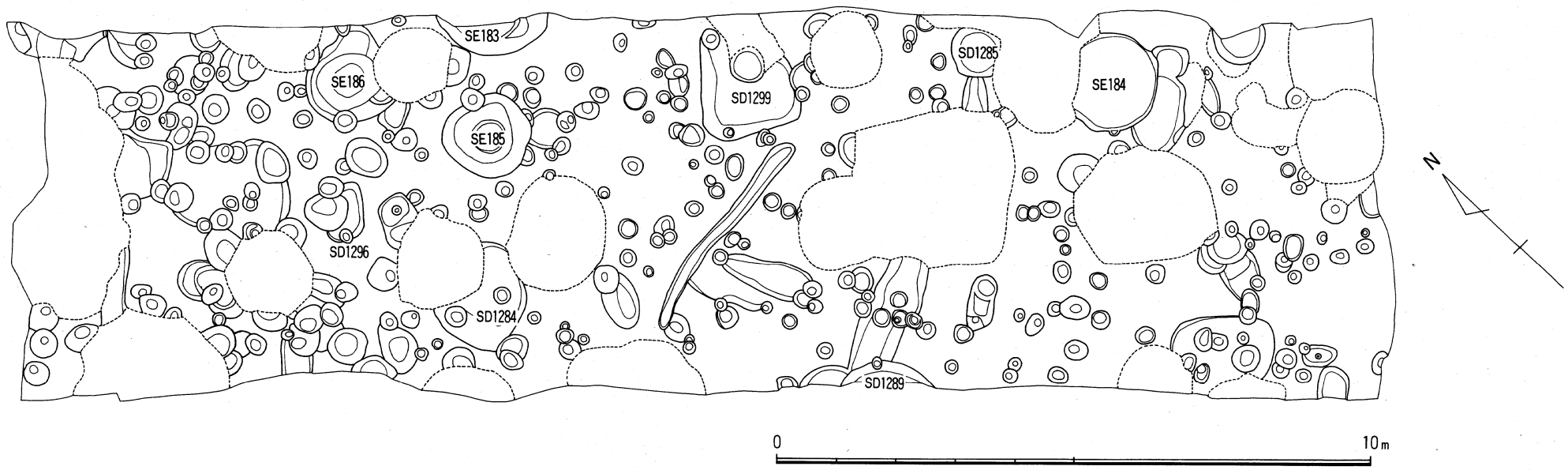


Fig.106　Ⅴ～Ⅶ面遺構全体図(1/100)

5. V面の調査

V面の調査は南端で標高3.3m、北端で2.7mの高さで確認した遺構である。土壙の数は少ないが1256号、1262号土壙のように遺物を多く含み、深い掘り込みをもつものがある。1259号土壙は0.4m位の掘り込みであるが、遺物の出土状況から土壙墓の可能性が強い。井戸も2基と少ないが、180号井戸からは11世紀後半の遺物を一括して出土している。

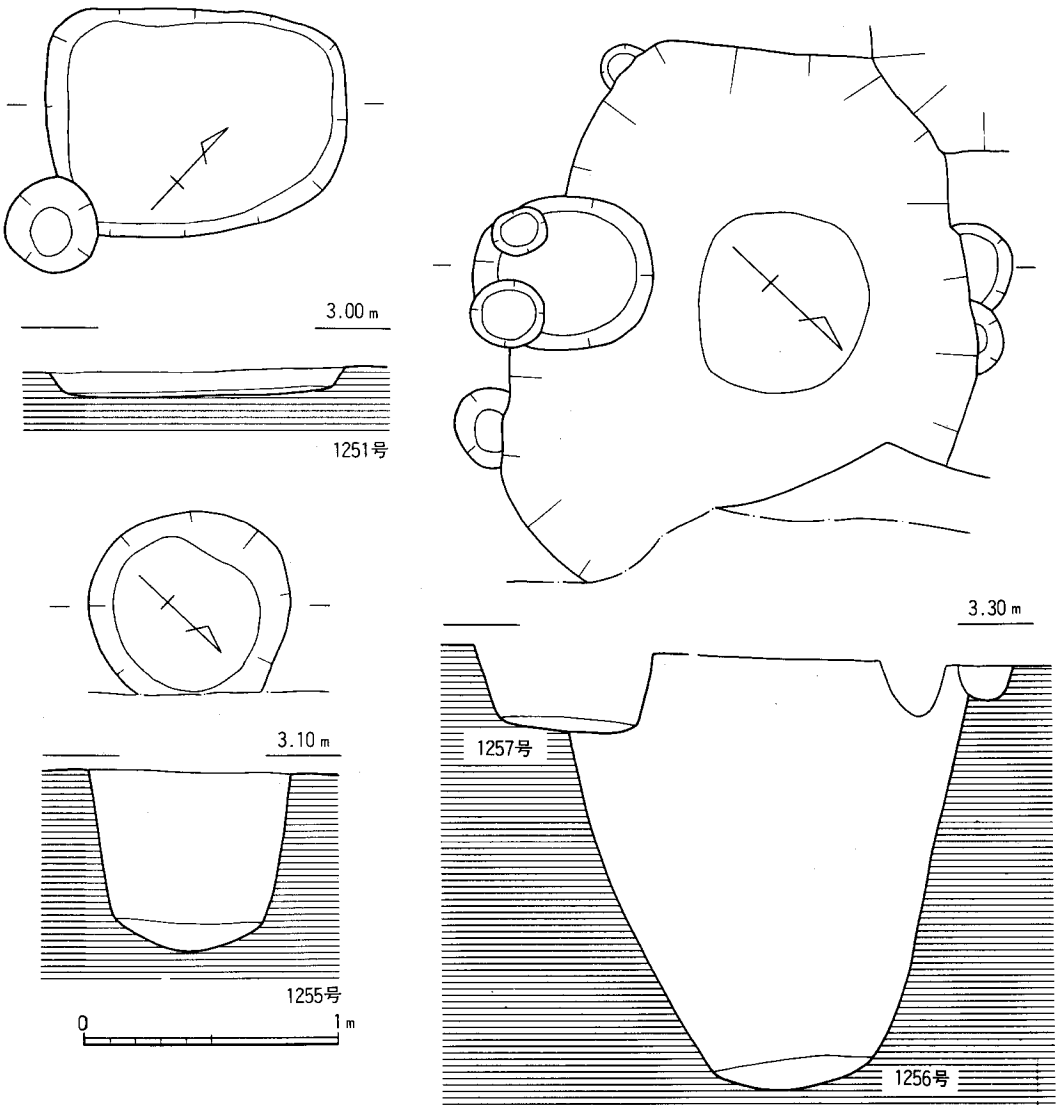


Fig.107　1251・1255～1257号土壙実測図 (1/30)

1)土壙の調査

1251号土壙 (Fig.107, PL.17)

Ⅰ－01、02区、178号井戸の北側に位置する隅丸長方形の土壙である。主軸を東西方向にとり、規模は長さ1.18m、幅0.9m、深さ0.1mを測る浅い掘り込みである。覆土は暗褐色砂質土である。

出土遺物 (Fig.108－1～4, PL.48)

1、2は同安窯系青磁の碗である。同一個体と考えられるが接合しない。低い高台で内湾する体部から口縁部が外反する。胎土は灰肌色で緻密、釉は黄オリーブ色で高台外面まで施釉し、畳付から底部は露胎である。見込に沈圏線と体部にヘラ描文様をもつ。3は完形の白磁の小壺

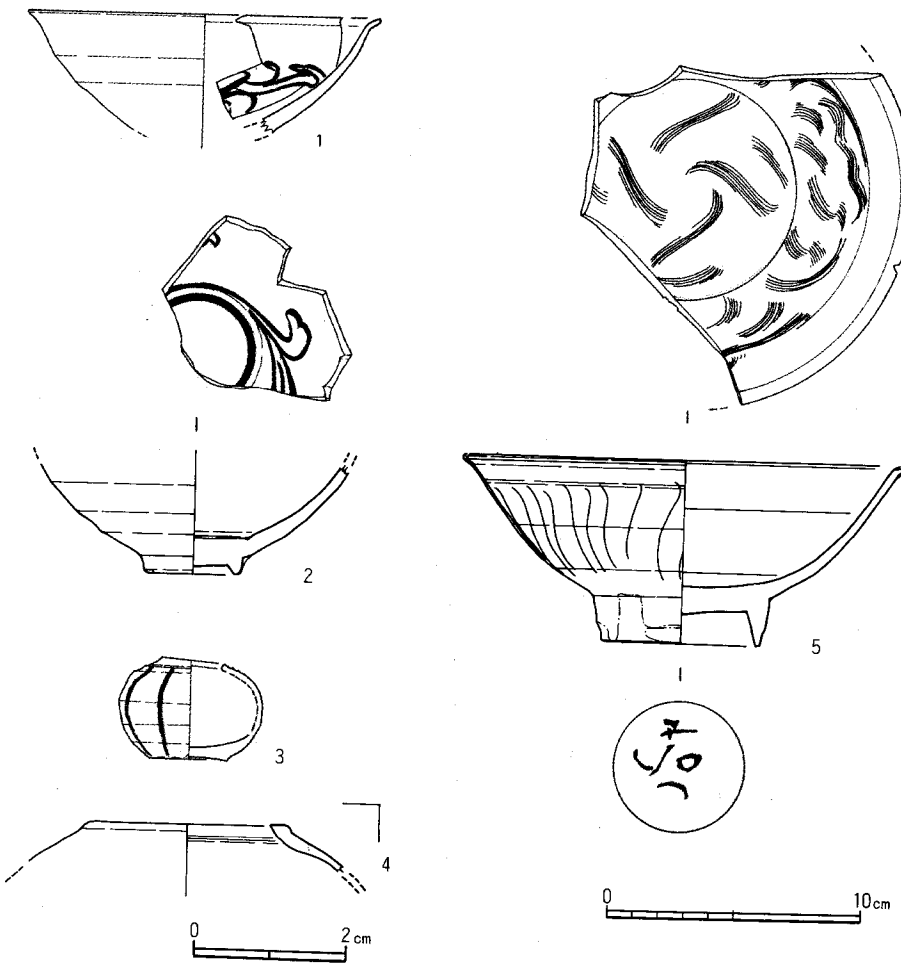


Fig.108　1251・1255号土壙出土遺物実測図

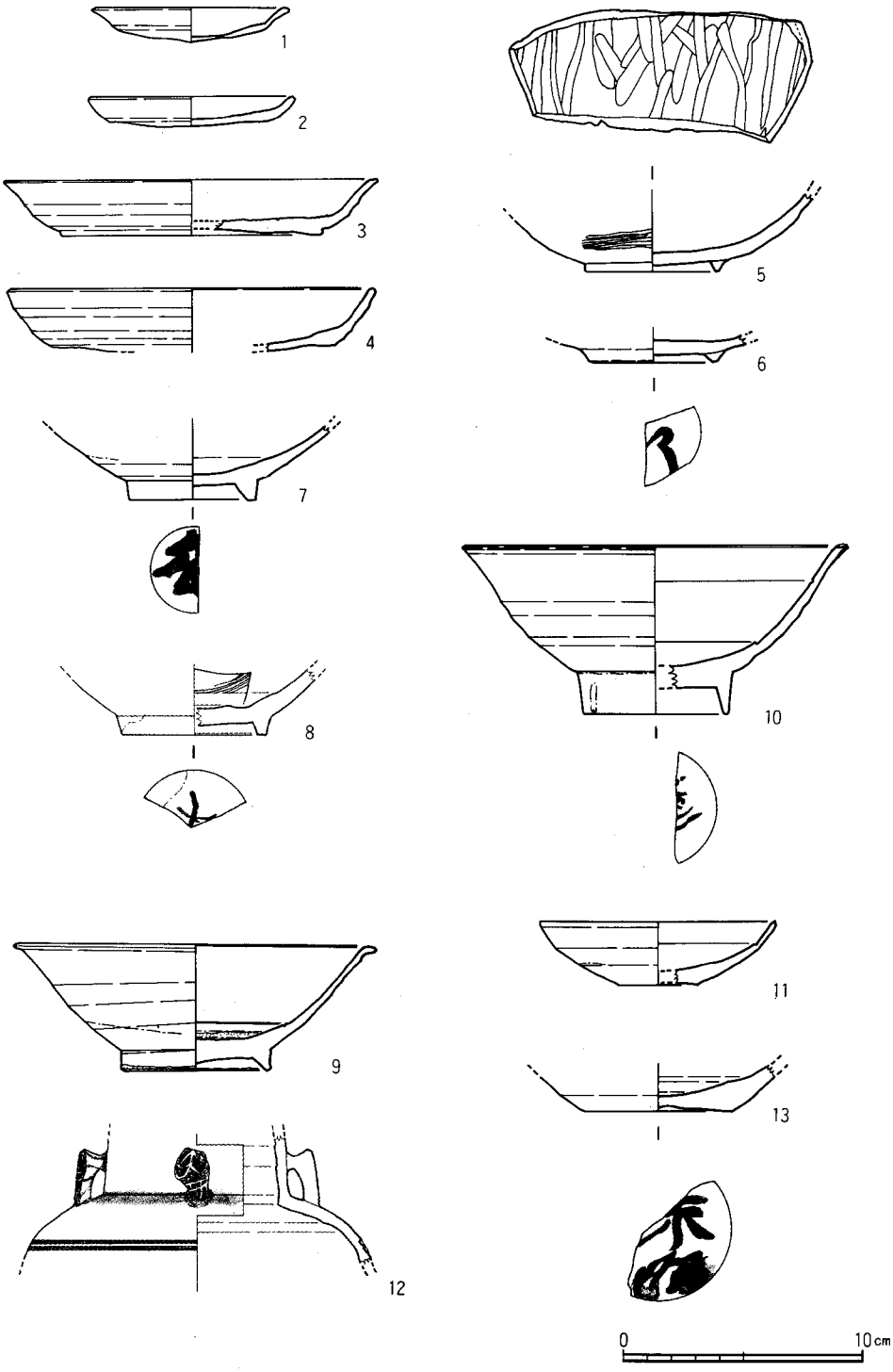


Fig.109　1256号土壙出土遺物実測図(1)

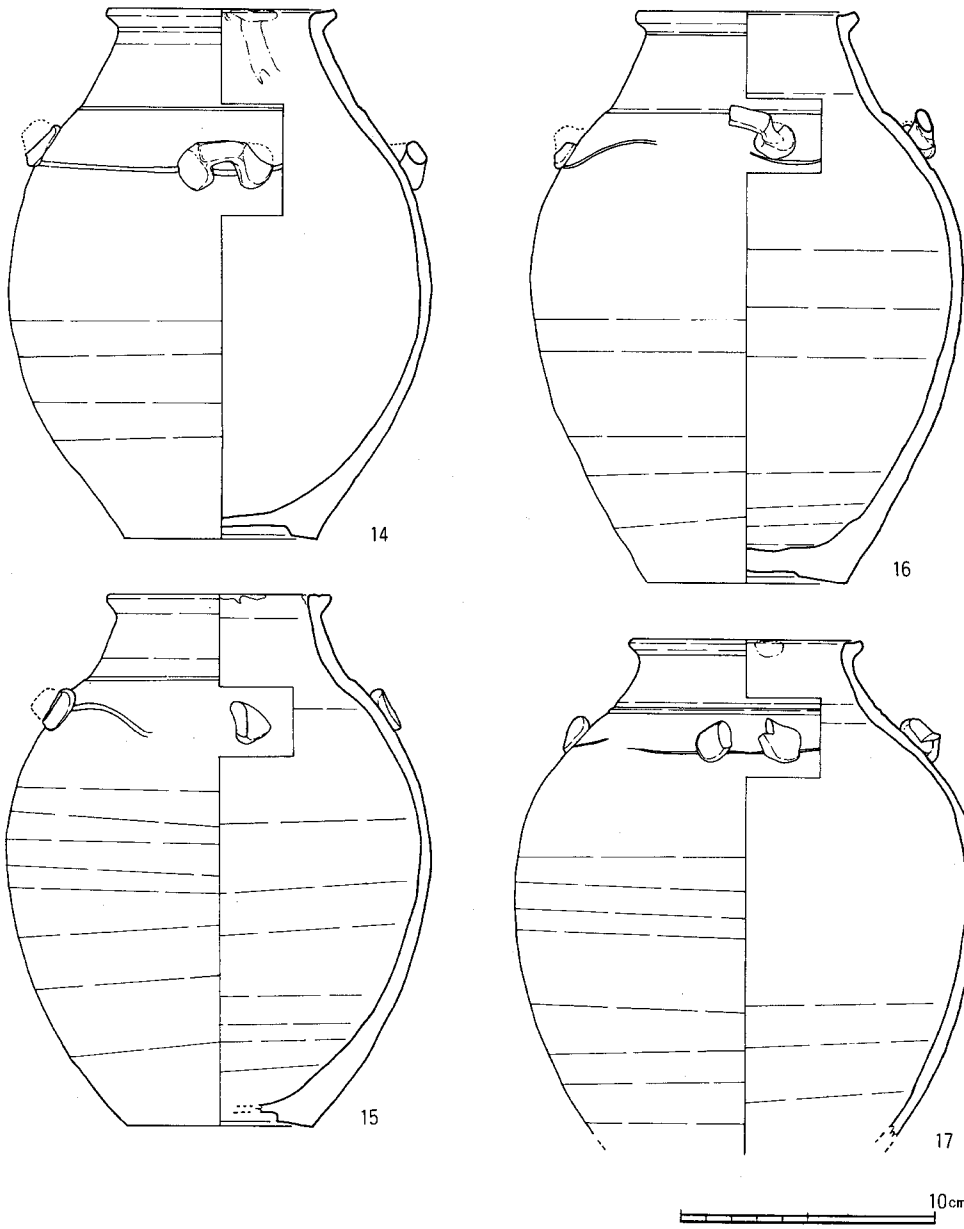


Fig.110　1256号土壙出土遺物実測図(2)

である。肩部に削り出しの突帯をもち胴部に沈線を縦に入れ瓜状とする。釉は青白色で外底を除き全面施釉する。4はガラス製小瓶である。口縁部を折り曲げ肥厚させている。色調は青緑色を呈し表面に亀裂がはいる。

1255号土壙 (Fig.107, PL.17)

J－04区、調査区中央の東壁沿いに位置するピット状の小土壙である。一部調査区外へ延びる

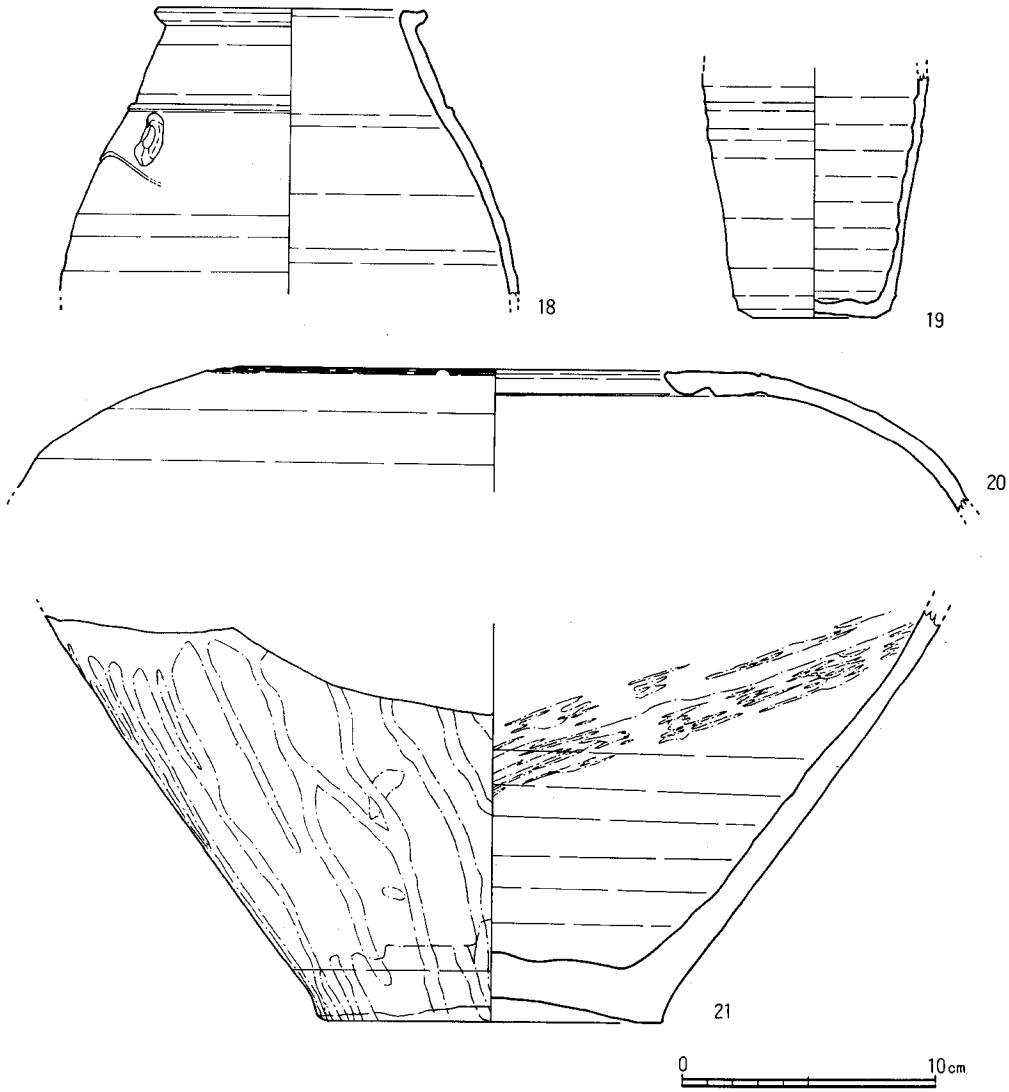


Fig.111　1256号土壙出土遺物実測図(3)

がほぼ円形の土壙で、規模は径0.8m、深さ0.7mを測る。覆土の上層は黒褐色で下層は灰褐色砂質土である。

出土遺物（Fig.108－5，PL.48）

内面に櫛描文、外面にヘラ描文を描く白磁碗である。高台は高く口縁部上端を水平に削る。高台内に墨書しているが判読不能である。胎土は白灰色で釉は灰オリーブを帯びた飴色である。

1256号土壙（Fig.107，PL.17）

J－02区、1259号土壙の北側に位置する大型の土壙である。東側は調査区外へ拡がり、西側は169号井戸に切られる。また南側では1257号土壙と切り合っている。規模は上面で幅1.09m、長

さ2.2m以上、床面では径0.7m、深さ1.7mを測り、平面は楕円形を呈する。覆土は上層が木炭、木灰を含む暗褐色土で、下層は軟質な灰褐色土である。上層から四耳壺を始め多くの遺物が出土している。

出土遺物 (Fig.109～111, PL.49・50)

1～4は土師器である。1、2は底部ヘラ切りの皿である。口径8.4～8.8cm、器高1.3～1.5cmを測る。口縁部はヨコナデ、内底はナデで外底には板状圧痕が残る。3、4は底部糸切りの坏である。口縁部はヨコナデ、内底はナデ調整である。外底には板状圧痕が残る。5、6は瓦器埦の底部である。胎土に砂粒を少し含み、色調は暗灰色を呈する。内外面とも荒いヘラ磨きを施す。6の外底には墨書がみられる。7～10は白磁碗である。7、8は底部で、露胎の外底に墨書があるが判読できない。10はⅥ類の碗で高台内に墨書がみられる。高い高台で口縁部上端を水平に削る。胎土は白灰色で釉は飴色である。9もⅥ類の碗である。口縁部を外に引きだし、高台は低く、内面を斜めに削る。見込の釉を輪状に掻きとり重ね焼きの痕が残る。畳付も同様の目跡が残る。胎土は白灰色で緻密である。釉は白灰色で不透明、体外半釉である。11はⅡ類の白磁の平底皿である。胎土は白灰肌色、釉は緑を帯びた飴色で体外半釉である。12は白磁の壺である。頸～胴部片で線刻を施した耳が1個遺存する。肩部に2条の幅広い沈線をめぐらせる。胎土は灰白色、釉はうすい青灰白色で全体に施釉する。双耳壺であろう。13～18は陶器の壺である。13は外底に墨書をもつ。偏が不明で旁が「末」と読める。その下に花押を書く。14～18は陶器B群の四耳壺である。卵形の胴部に上げ底の底部と玉縁状の口縁部で上端を平坦にする形態で肩部に波状沈線を施しその上に耳を貼りつける。口縁部には目跡が残る。胎土は暗灰色～茶褐色で大きな砂粒を含み、釉は暗緑灰色ないし黄茶褐色で外底は露胎である。19は陶器A群の小口瓶である。胎土は黄赤褐色で全体に薄い造り、内外面に轆轤目が残る。20は陶器D群の甕である。口縁部は折り返して肥厚させ胴部との境を沈線状に窪ませる。胎土は大きな砂粒を含んで粗く灰赤褐色を呈する。灰オリーブの釉を外面全体に施し、口縁部のみ拭きとる。21は甕の胴～底部片である。胎土は赤褐色で小石を多く含む。茶褐色の化粧土を施しその上に緑褐色の釉が垂れている。

1259号土壙 (Fig.112, PL.18)

J－02区、1256号土壙の南側に位置する土壙である。西側はⅣ面の1227号土壙に切られる不整形の土壙である。最大長1.7m、最大幅1.3m、深さ0.45mを測る。東側が幅広く西側が幅を狭め台形状に近い形態である。土壙の西側の床面近くから土師器皿、坏、白磁の完形品が集中して出土し、土壙墓の副葬品であろう。床面はほぼ平らで壁面はなだらかな傾斜を示す。埋土は灰褐色土で全体に軟かい。

出土遺物 (Fig.113, PL.49～51)

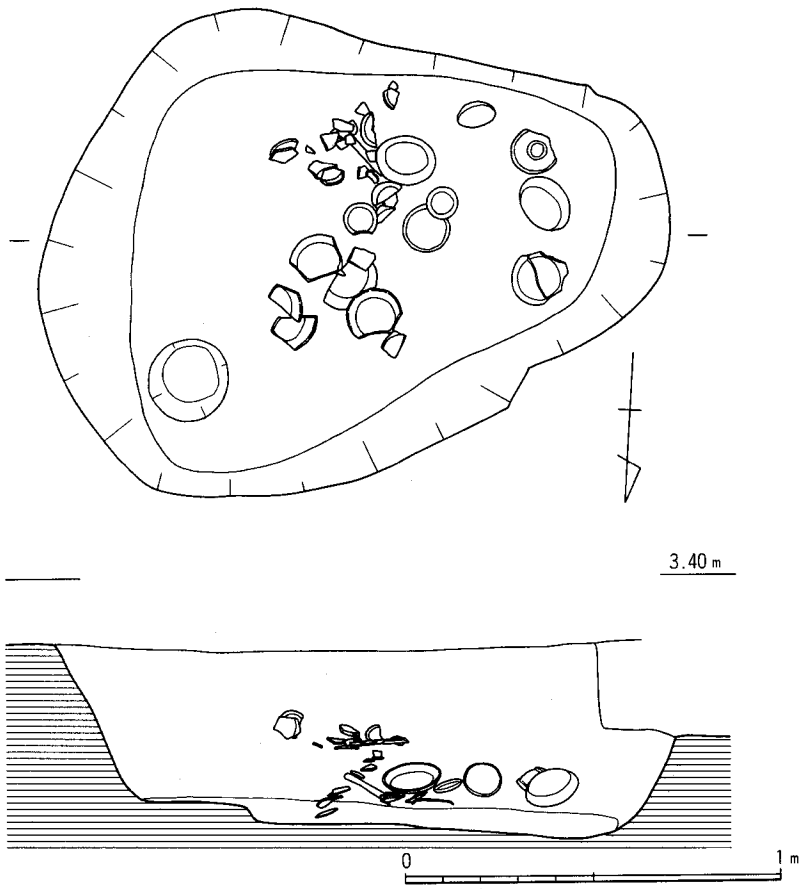


Fig.112　1259号土壙実測図（1/20）

1～14は土師器坏、皿である。ほぼ完形で一部欠損するのみである。1～6は底部糸切りで、板状圧痕が残る皿である。。口径8.4～9.1cm、器高1.0～1.2cmを測る。6は全体がヨコナデであるが他は口縁部はヨコナデ、内底はナデである。7～14は底部糸切りで板状圧痕が残る坏である。口径15.0～16.4cm、器高2.6～3.0cmを測る。胎土は砂粒を多く含み淡明褐色を呈する。口縁部はヨコナデ、内底はナデである。15はⅣ類の白磁碗で2/3が遺存する。玉縁口縁で低い高台となる。胎土は灰色で、白濁した緑を帯びた淡黄白色の釉である。外面に釉垂れがあり、体外半釉である。16は鉄彩の白磁鉢である。内面の釉下に曲線文をもち、口縁部を外に引き出している。胎土はクリーム色で気泡を含み、釉もクリーム色である。17は白磁の小碗の完形品である。露胎は灰白色で釉は淡緑灰色である。口縁下に釉垂れがあり、見込に茶溜まりを造る。

1261号土壙（Fig.114，PL.17）

J－02区、調査区の南東隅に位置する。3基の土壙1261、1262、1301号が重複している。1301号土壙の上に位置し、1262号土壙との切り合いはⅠ～Ⅳ面の遺構に切られて明らかではない。

土壙は主軸を東西にとる不整楕円形で西側をⅠ面の1139号土壙により切られる。規模は現存長1.5m以上、幅1.5m、深さ0.32mを測る。壁面は緩やかな傾斜を示し、床面は中央部が最も深くなる。土壙の中央部に白磁碗、北壁から白磁皿、南西部で土師器皿が出土している。覆土は黒褐色土と灰褐色～暗褐色砂層の縞状堆積となる。

出土遺物（Fig.115, PL.51）

1～10は土師器の坏、皿、埦である。1～4は底部ヘラ切りの皿である。1は深めの皿で口径10.

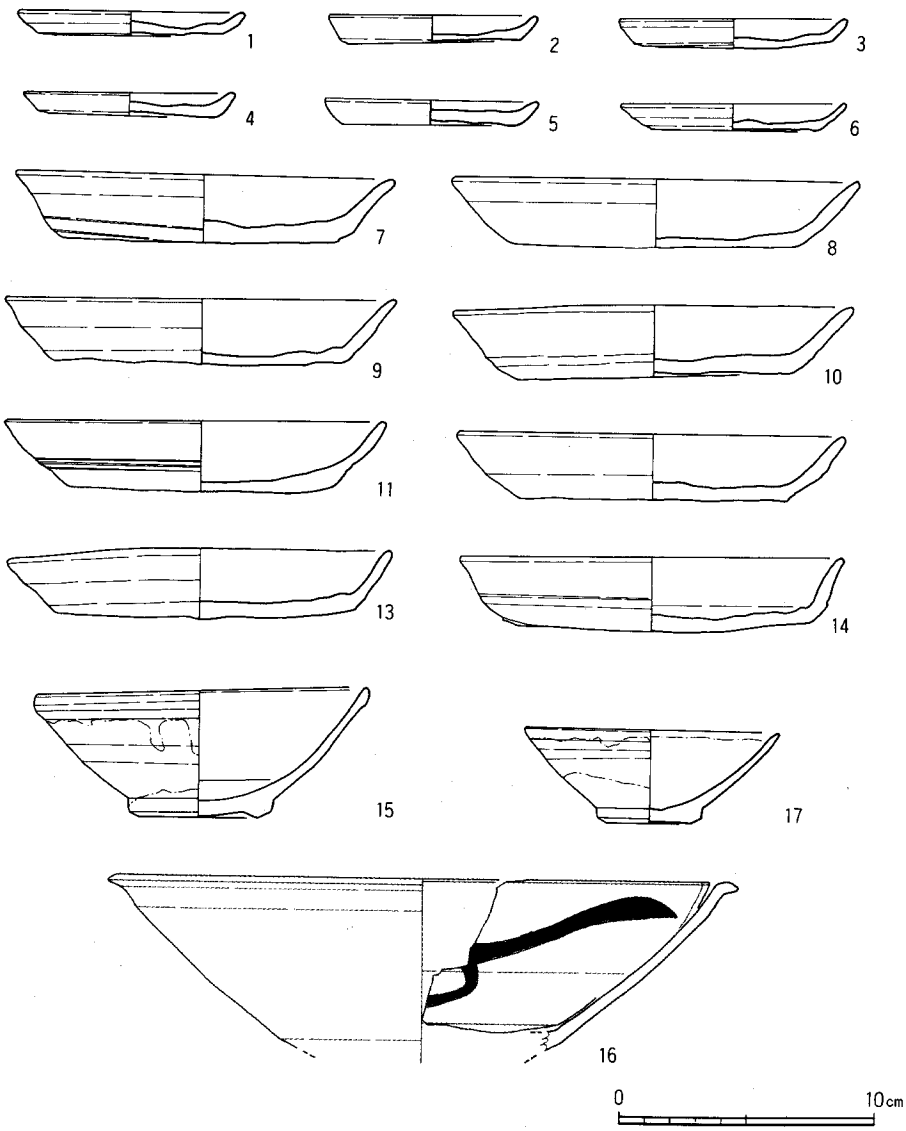


Fig.113　1259号土壙出土遺物実測図

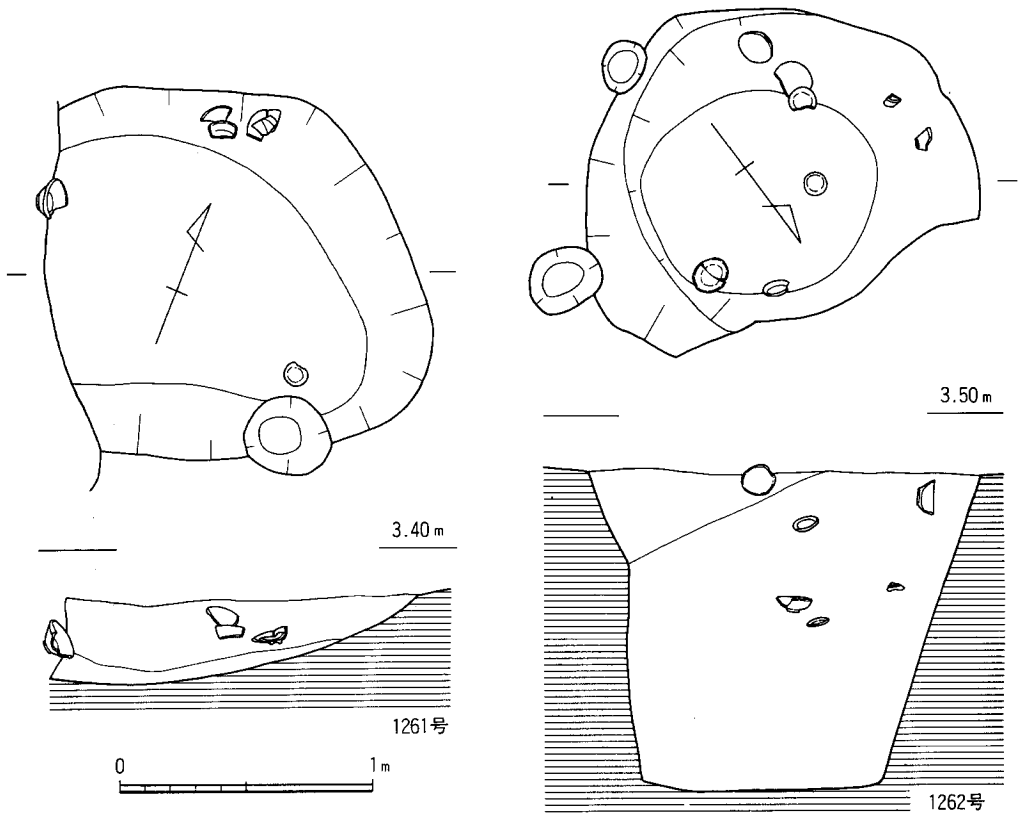


Fig.114　1261・1262号土壙実測図 (1/30)

7cm、器高2.2cmを測る。底部以外はヨコナデ調整である。2～4は扁平な皿で口径9.0～9.4cm、器高1.2～1.6cmを測る。内底をナデ調整を行う。2の底部に板状圧痕が残る。5は底部糸切りの坏である。6は丸底の坏である。胎土は砂粒を含むが良好で色調は淡黄褐色を呈する。口縁部はヨコナデで外面に煤が付着する。7、8は高台付埦である。高台は外に開く貼付高台である。内外面ともヨコナデである。8の高台内には板状圧痕がみられる。砂粒を少し含み赤褐色を呈し、焼成良好である。9、10は高台付皿である。10は高台を欠損する。11、12は須恵器である。12の底部は糸切りで内外ともナデ調整をする。胎土に砂粒を含むが良好で色調は青灰～灰白色である。13～22は輸入陶磁器である。13～15はII類の白磁碗である。13の内面には白堆線がある。14、15は玉縁口縁で低い高台である。16～18はIV類の白磁で見込に沈圏線を持つ。体外半釉である。19、20はII類の白磁平底皿である。飴色の釉で胎土は白灰色である。見込に段をもつ。21は越州窯系青磁碗の底部で、胎土は茶褐色、外面は露胎、内面の釉は黄灰色で、目跡が残る。22は高麗青磁碗である。胎土は粗く暗灰色で灰緑色の釉を全面に施し、畳付の釉を拭きとっている。

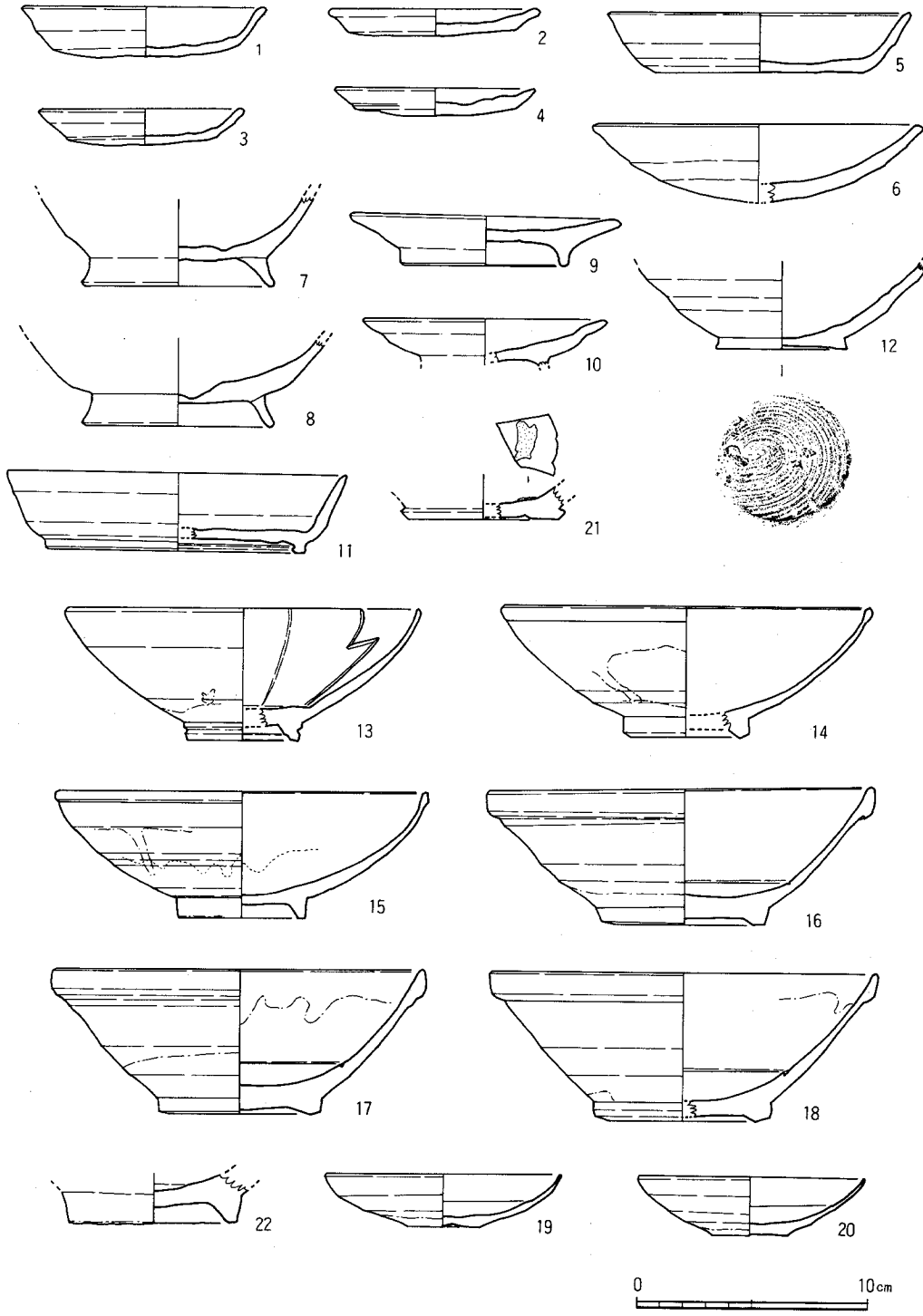


Fig.115　1261号土壙出土遺物実測図

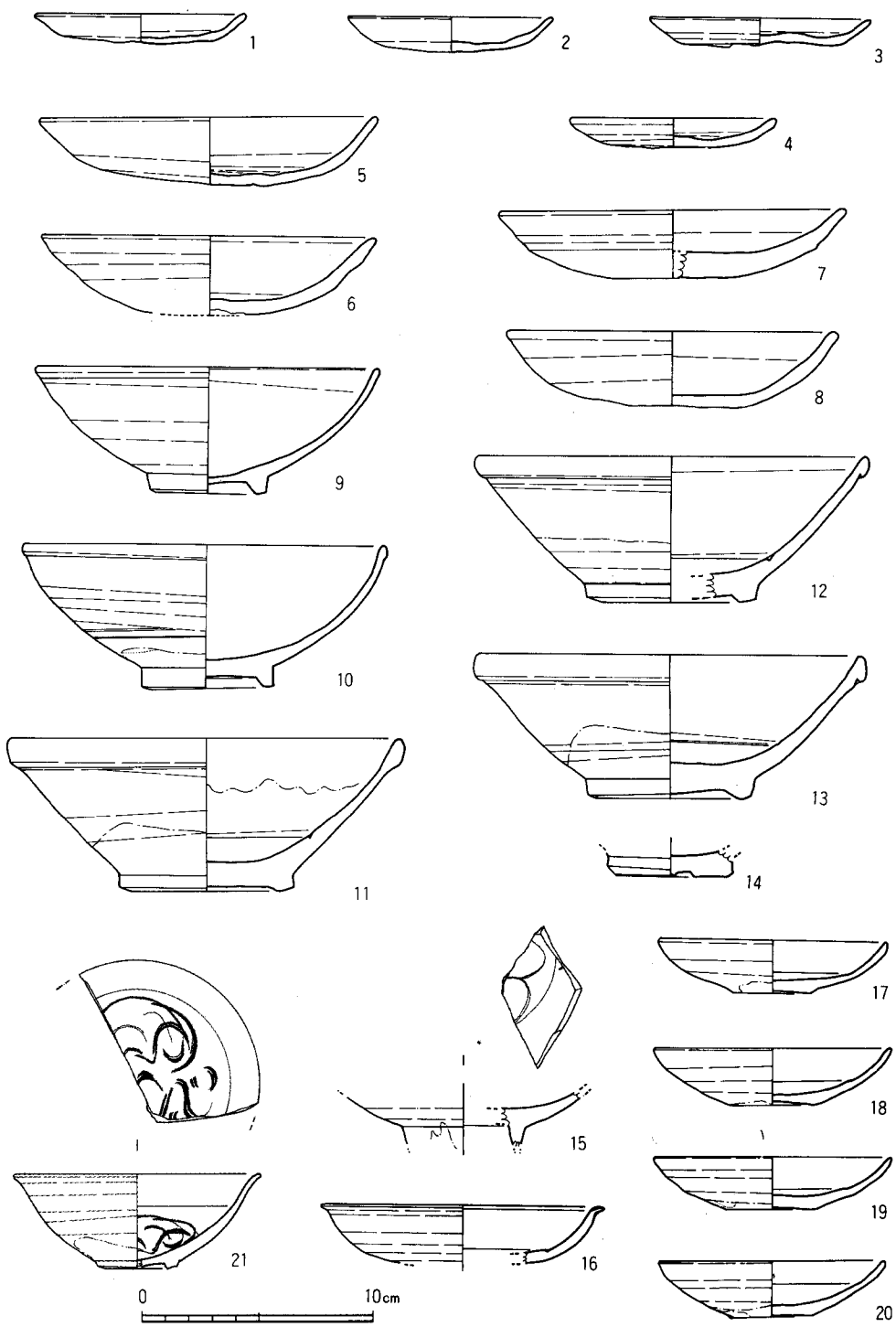


Fig.116　1262号土壙出土遺物実測図

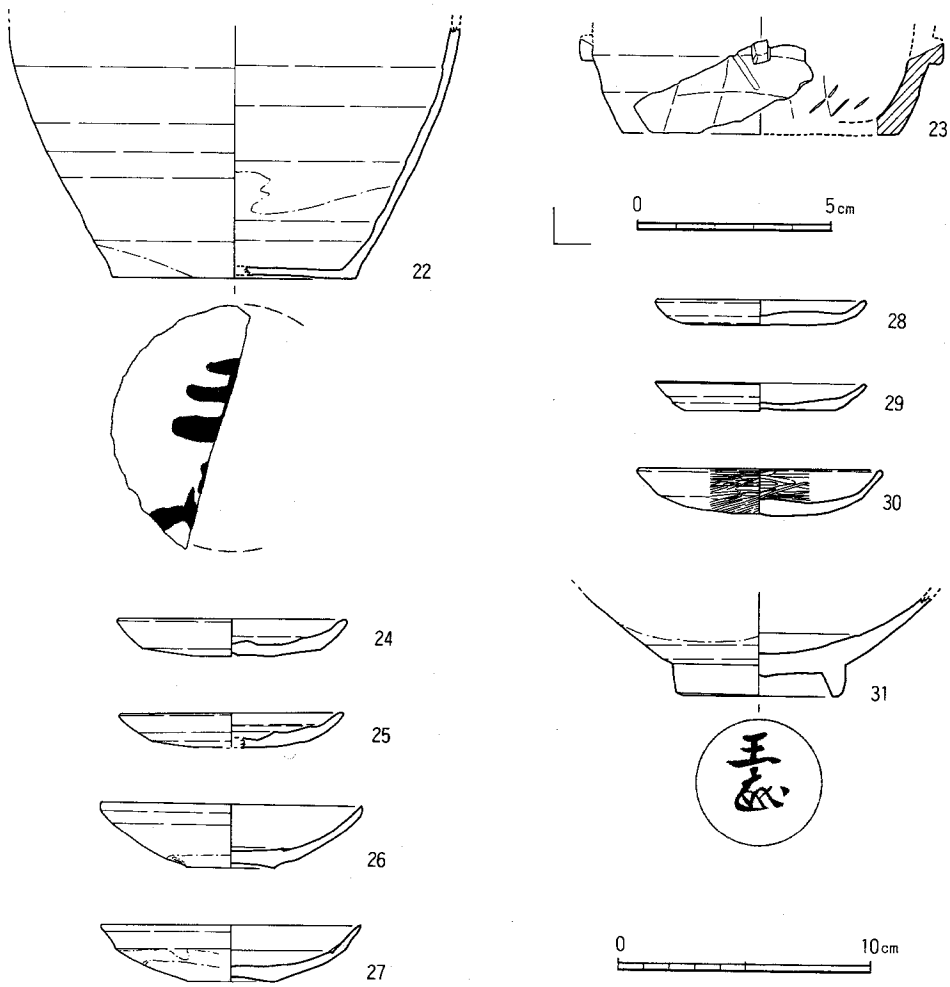


Fig.117　1262～1265号土壙出土遺物実測図

他にイスラム陶器の小片が1点出土している。胎土は軟質で淡黄白色、濃紺のガラス質釉である。

1262号土壙 (Fig.114, PL.17)

J－02区、1301号土壙の西に隣接し、調査区の南東端に位置する。東側を1261号土壙に切られるが遺構が深いため下半部は遺存する。規模は一部不明瞭な点もあるが径1.65m、深さ1.3mを測る円形の大型土壙である。覆土は灰褐色砂層で周壁に沿って黄白色砂が混入。遺物は上層から多く出土し、投棄した状態を示す。

出土遺物 (Fig.116・117－22・23, PL.51・52)

1～8は土師器である。1～4は底部ヘラ切りの皿で口径9.0～9.8cm、器高1.2～1.5cmを測る。胎土は赤茶色～赤茶白色で砂粒を少し含む。口縁から内底にかけヨコナデ調整で一部ナデ調整

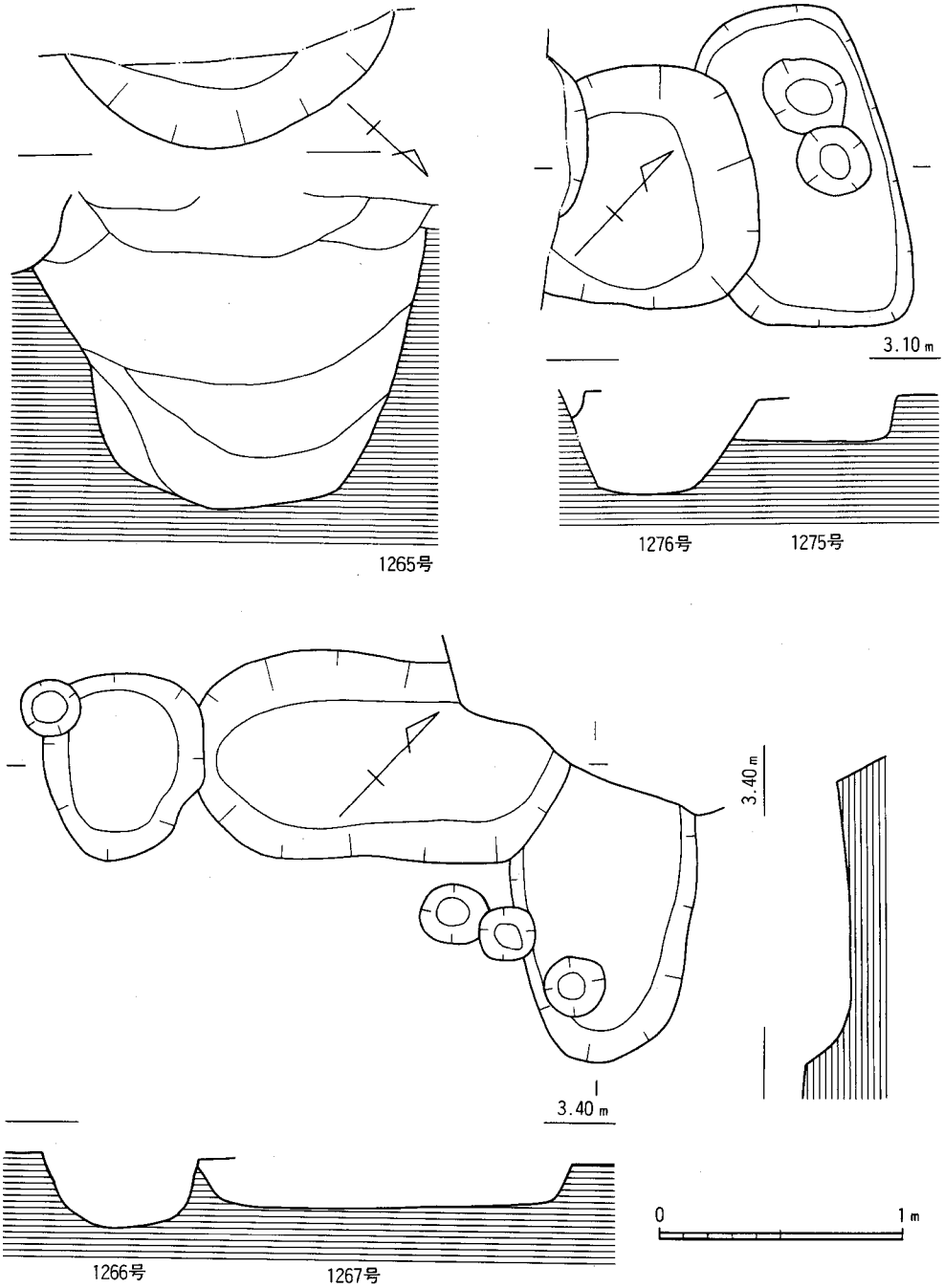


Fig.118　1265～1267・1269・1275・1276号土壙実測図 (1/30)

を行なう。5～8は丸底の坏である。5は器壁を薄く仕上げている。色調は明褐色で胎土に砂粒を少し含む。6～8は不細工な造りで器壁が全体に厚く外底～体部に指の押圧痕が残る。色調は灰

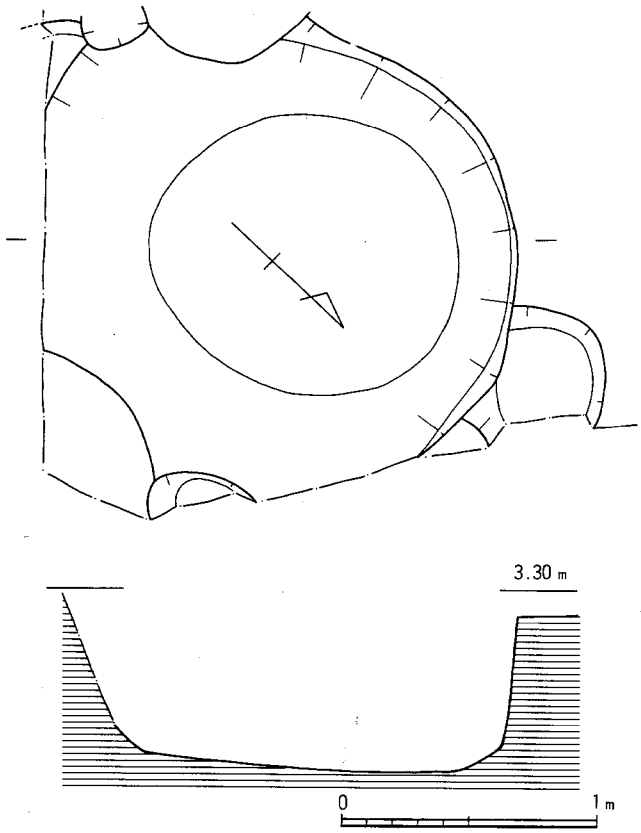


Fig.119　1301号土壙実測図 (1/30)

白色～黄灰色である。内面は荒いヘラ研磨を施す。6の口縁部には粘土板を貼りつけたような状態を示す。9～20は白磁である。9、10はII類の碗で小玉縁状口縁である。胎土は淡灰褐色、釉は淡黄灰白色で体外半釉である。11～13はIV類の碗で大きな玉縁口縁である。見込に沈圏線をもち、11は内面に釉だれが認められる。胎土は灰白色。淡い明灰色の釉で体外半釉である。14は蛇ノ目高台の白磁碗底部である。胎土は淡乳灰白色で淡黄緑褐色の釉を施し、高台、底部は露胎である。15は高い高台の白磁碗である。見込に曲線文をもつ。16はIV類の平底皿である。口縁部を外反させ、見込に沈圏線をもつ。胎土は白色、釉は淡青白色の透明釉である。17～20はII類の平底皿で見込に沈圏線状の段をもち、口縁部を内湾させる。胎土は灰色で釉は緑灰色～黄緑灰色で外底脇から露胎である。21は連江窯系青磁の小碗である。低く小さい高台で内湾する体部から外反する口縁部となる。見込にヘラ描の曲線文をもつ。胎土は明灰色で細砂粒を含む。淡黄緑灰色の透明釉を高台脇まで施す。22は陶器A群の壺で茶褐色釉を施す。内底部から胴部にかけて刷毛目状に薄く施釉する。外底は露胎で墨書がある。23は滑石製の小型容器の胴～底部片である。胴部に小さなつまみがつき、横方向の鑿の跡が残る。

1263号土壙 (Fig.106)

J－02区、調査区の南西隅に検出した遺構である。大部分は調査区外へ拡がり現状で扇形を呈するが円～楕円形の土壙であろう。覆土は暗褐色砂質土である。

出土遺物 (Fig.117－24～26)

24、25は底部ヘラ切りの土師器皿である。底部は丸底に近く板状圧痕が残る。胎土は白肌色で砂粒が混じる。口縁部はヨコナデ、内底はナデ調整である。26はII類の白磁平底皿である。胎土は黄灰白色で釉は黄緑灰色である。

1264号土壙 (Fig.106)

J－02区、1301号土壙の南側に位置する小土壙であるが、大部分は調査区外へ拡がり形状は不明である。覆土は暗灰褐色砂質土である。

出土遺物 (Fig.117－27, PL.52)

白磁平底皿II類である。胎土はくすんだ肌色で釉は飴色で体外半釉である。釉下に化粧がけしている。

1265号土壙 (Fig.118, PL.17)

J－01区、IV面の1244号土壙の北側に位置し、大半は調査区の西側へ拡がる円形土壙である。半分以上が未調査であるが、土層の観察では上層に木炭、灰を含む暗灰色土、軟質な灰色土、木炭、灰混入の暗灰色土となり深さは約1mとなる。

出土遺物 (Fig.117－28～31, PL.52)

28、29は土師器の皿である。28は底部ヘラ切りで板状圧痕がある。口縁部はヨコナデ、内底

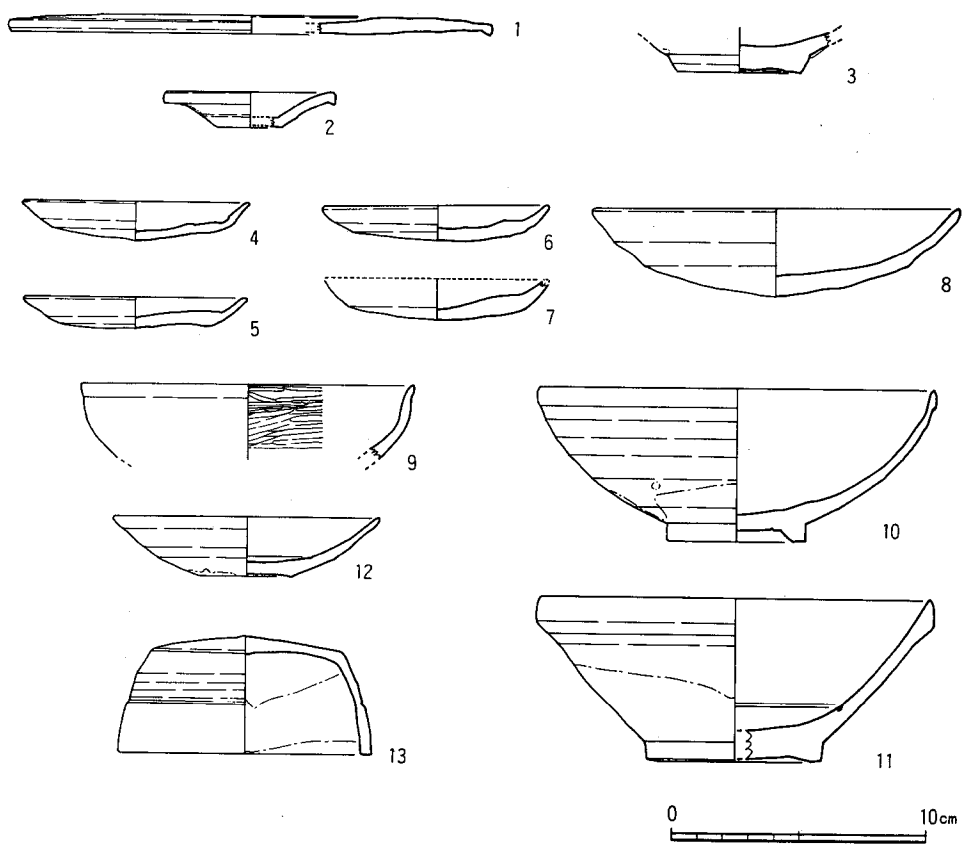


Fig.120　2367・1276・1301号土壙出土遺物実測図

はナデである。口径8.5cm、器高1.0cmを測る。29は底部糸切りで口縁から内底にかけてヨコナデである。口径8.5cm、器高1.2cmを測る。30は瓦器皿である。丸底で口縁部を肥厚気味にする。内外面とも丁寧なヘラ研磨を行う。胎土は細砂を多く含むが良好で焼成も良く灰白色～黒褐色を呈する。31は白磁碗の底部である。高台脇まで淡黄灰白色の透明釉を施し、灰白色の胎土である。高台内に「王」と中国人名と花押を墨書する。

1267号土壙 (Fig.118, PL.17)

J－01区、1265号土壙の東に位置する小判形の土壙である。北隅はⅠ面の165号井戸、西は1266号土壙に切られる。規模は長さ1.55m、幅0.85m、深さ0.2mを測る。壁面は緩やかで床面は平である。覆土は暗褐色砂層である。

出土遺物 (Fig.120－1・2)

1は須恵器の蓋である。端部を折り曲げる扁平な器形である。胎土は明灰色で白砂粒を少し含む。内外面ともヨコナデ調整である。2は白磁の蓋である。口縁部から底部は青白灰色の釉を施し、胎土は白灰色を呈し緻密である。

1276号土壙 (Fig.118, PL.17)

Ⅰ－01、J－03区、Ⅳ面の180号井戸の西側に位置する土壙である。西側は一部調査区外へ拡がるが略隅丸方形を呈する。上層は木炭、灰を多く含む青暗～暗茶褐色土で下層は褐色土である。規模は1.0m×0.8m以上、深さ1.0mを測る。

出土遺物 (Fig.120－3)

白磁碗Ⅳ類の底部片である。胎土は白灰色で白灰色の釉を高台脇まで施す。

1301号土壙 (Fig.119, PL.17)

J－02区、調査区の東南隅に位置する土壙で、1261、1262号土壙と重複する略円形の平面形である。当初井戸と考えたが、掘り込みが浅く井筒もないことから土壙とした。東、西側は調査区外へ拡がり全体の規模は明らかではないが径1.8m以上を測り、深さは0.6mを測る。覆土は暗褐色砂質土である。

出土遺物 (Fig.120－4～13, PL.52)

4～7は底部ヘラ切りの土師器皿である。底部には板状圧痕がある。口縁部はヨコナデ、内底はナデ調整である。口径9.0～9.1cm、器高1.3～1.6cmを測る。8は土師器坏である。丸底で板状圧痕が残る。口縁部はヨコナデ、内面は荒い研磨である。口径14.9cm、器高3.5cmを測る。9は内黒土器の椀である。外面は薄茶色で内面は黒色である。胎土には砂粒を多く含む。外面はヨコナデ、内面は横位の研磨をする。内湾する体部から口縁部が屈曲する。10～12は白磁である。10はⅡ類の碗である。口縁部は小玉縁で低い高台である。胎土は灰白色で釉は淡黄白色で体外半釉である。11はⅣ類の碗で見込に沈圏線をもつ。淡緑灰色で体外半釉である。12はⅡ類の平

底皿である。胎土は黄白色、釉は灰白色で底部は露胎である。13は陶器B群の蓋である。無釉で外面に化粧がけしている。胎土は明橙色、色調は内面が赤褐色、外面は茶褐色である。焼成は良く堅緻である。

2)井戸の調査

V面では2基の井戸を検出した。掘り方は小さく円～楕円形である。井筒は遺存していなかったが壁面に木質が繊維状に確認できた。土師器の坏、皿は底部が糸切りとヘラ切りが混在し11世紀中～後半に比定できよう。

180号井戸 (Fig.121, PL.17)

J－03区、1276号土壙の東に位置する井戸である。平面形は角張った南北に長い楕円形の掘り方である。掘り方の規模は南北1.75m、東西1.42mである。南に寄った位置に井筒がある。井筒は径0.54mの円形で木桶を用いたと考えられ、壁面に木質が付着していた。桶の高さは0.4m前後を測る。遺構確認面から井戸の底面までの深さは2.15mで標高0.7mである。

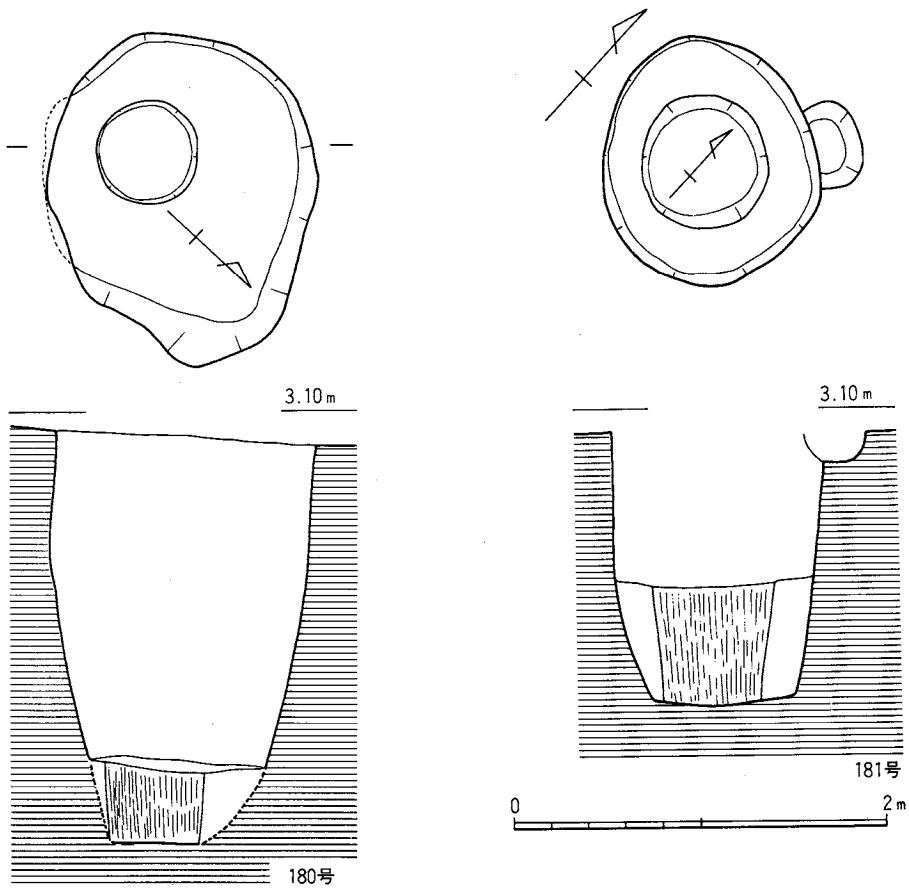


Fig.121　180・181号井戸実測図 (1/40)

出土遺物 (Fig.122・123－～32, PL.53・54)

1～7は土師器の皿である。7は底部糸切りで他はヘラ切りで板状圧痕がある。口径8.2～9.2cm、器高1.0～1.5cmを測る。口縁部はヨコナデで内底はナデ調整である。8、29は厚手の土師器丸底坏である。底部と体部の境に緩やかな稜をもつ。内面は平滑で荒い研磨をする。口縁～外面はヨコナデである。胎土は砂粒を多く含み淡橙色を呈する。9は内黒土器である。低い貼付高台から内湾して口縁部となる。胎土に細砂粒を多く含み外面は淡褐色、内面は黒色を呈する。10は土師器の高台付埦である。焼成良好で堅緻である。内外面ともヘラ研磨をして平滑である。胎土は精良で淡黄褐色を呈する。11は蛇ノ目高台風の土師器坏の底部である。胎土には砂粒を含み、色調は灰褐色である。12～28は輸入陶磁器である。12～23は白磁である。12、13はⅣ類の碗で高台脇まで緑灰白色の釉をかけ底部は露胎である。14はⅤ類の碗である。高い高台で見込に沈圏線をもつ。胎土は灰肌色で、緑灰色の釉を高台までかける。15はⅡ類の碗底部である。16は潮州窯系碗である。胎土は灰色を帯びる白色、釉は緑を帯びる灰白色で透明感がある。内面にヘラ描の曲線文をもつ。畳付から高台内は露胎である。17は低い高台で見込に櫛描文をもつ碗である。胎土は白色で釉はうすい白灰色である。18は小さな高台をもつ鉢である。胎土はクリーム色で乳白色の釉を畳付まで施釉する。19～22は皿である。19はⅠ類の高台付皿である。低い高台から直線的に開き口縁部となる。全体に厚手のつくりで白灰色の胎土、釉は灰色で高台部まで施釉する。20～22はⅡ類の平底皿である。見込に沈圏線をもち口縁部を尖らせる。胎土は白灰色で釉は緑灰白色である。底部は露胎である。23は蓋である。天井部を平にし、体部の縁に2条の幅広の沈線をめぐらし、3条の縦線により区画している。胎土は白灰色の緻密なもので、釉は緑灰色である。内面には一面に煤が付着する。24は越州窯系青磁碗の口縁部である。胎土は灰色で釉は淡黄緑灰色である。25は高麗青磁碗の口縁部である。胎土は灰色で砂粒を含み、器表面は荒れ、灰緑色釉を施す。26は越州窯系青磁の壺の口縁部である。胎土は灰白色で緻密、釉は緑灰色の透明釉で内外面とも施釉する。28は陶器C群の壺である。卵形の胴部から直立する頸部となる。胎土は小石を多く含む暗灰色で器表面は茶褐色を呈する。30は壺の底部片である。胎土は白灰色で緻密、釉は外面が淡緑灰色、内面が黒褐色である。31、32は石玉である。

181号井戸 (Fig.121, PL.17)

J－04区、180号井戸の東側、Ⅰ面の1138号土壙の北側に位置する。楕円形の掘り方で中央部に井筒がある。井戸の規模は掘り方が南北1.3m、東西1.15m、深さ1.25mを測る。井筒は繊維化した木質部が壁面に付着している程度で、その規模は径0.6～0.7m、深さ0.6mを測る。

出土遺物 (Fig.123－33～36, PL.54)

33は越州窯系青磁の壺か水注の口縁部である。胎土は灰肌色で緻密、釉はガラス質でオリー

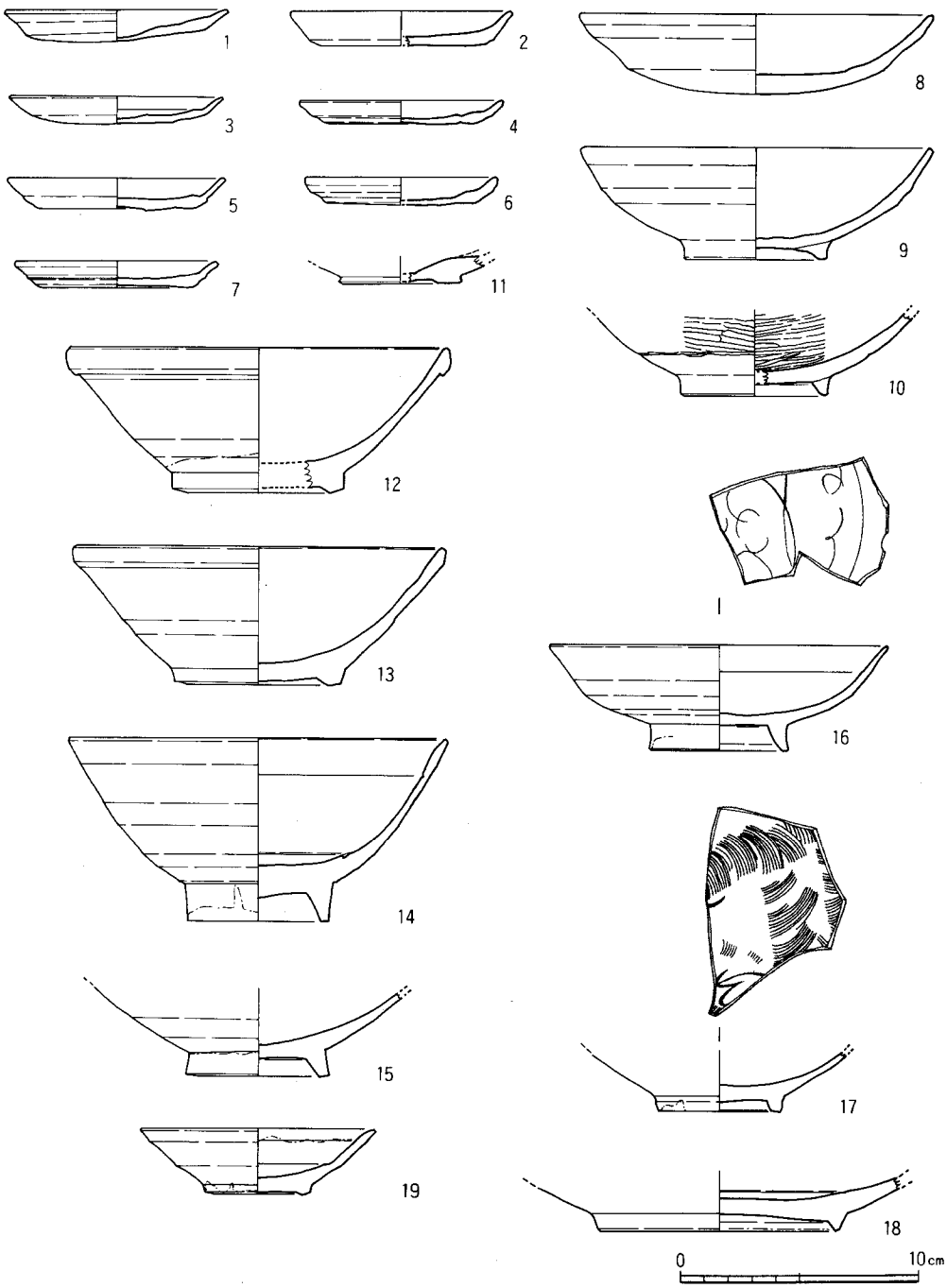


Fig.122　180号井戸出土遺物実測図

ブ色を呈し、内外面とも施釉する。二重口縁の屈曲する口縁で外面に2条の凹線をもつ。34は型造りの白磁蓋である。天井部を輪状にして淡明灰色の釉を施す。下半は栓状に突起部を造り出

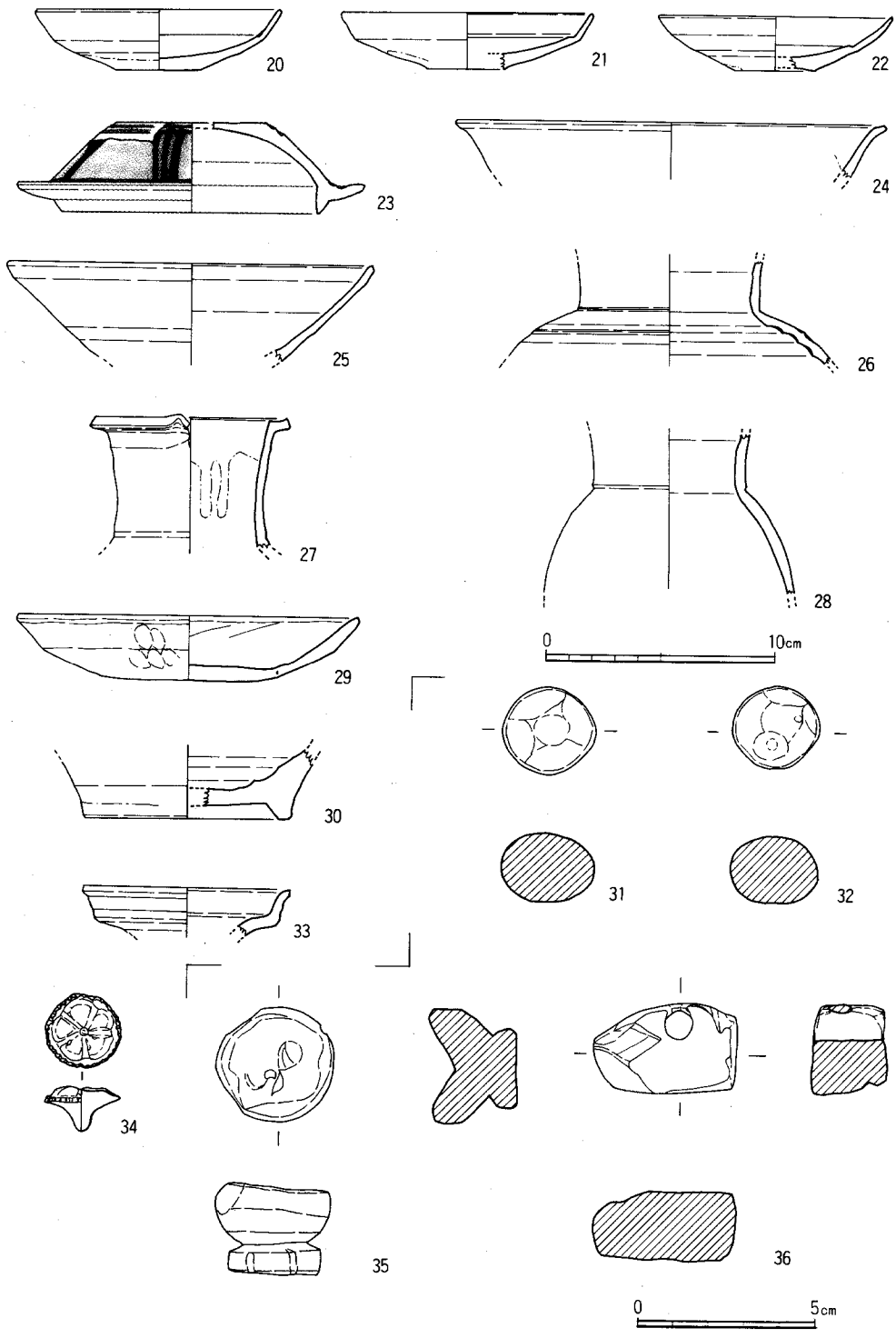


Fig.123　180・181号井戸出土遺物実測図

し露胎である。35、36は滑石製品である。35は木栓状で扁平な円盤に埦を据えたような形態である。全体に丁寧な削りで、天井部の窪みだけが荒く鑿跡が残る。36は長方形の平面形で長辺に寄った位置に穿孔している。

3) ピット出土遺物 (Fig.124, PL.17)

1は丸底の土師器坏の底部片である。中央部に焼成前に穿孔する。胎土は細砂粒を含むが良好で黄白色を呈する。2はV類の白磁碗である。低い高台で厚い底部、内湾する体部である。胎土は黒粒まじりの白灰色で釉は白灰～黄緑灰色、高台際まで施釉する。3は丸底の土師器坏である。口径15.0cm、器高3.7cmを測る。4はVI類の白磁碗である。見込には櫛描文を四方に配し高台内に「船市」？と墨書する。胎土は灰肌色で、釉は青白灰色を高台外面まで施釉する。5は黒褐釉陶器の壺の底部である。胎土は白灰肌色で緻密である。内面と外底は露胎である。

4) 包含層出土遺物

土器 (Fig.125－1～7, PL.54・55)

1、2は瓦器埦である。1は外に開く低い高台で体部中央に稜をもち口縁部となる。内外面とも研磨をし器表を滑らかにする。内面の研磨は口縁部近くは斜方向、体部から底部は横方向である。胎土は良く、色調は黒灰色を呈する。2は口縁部片である。灰白色の内面に「大」と墨書文字がある。その下にも文字があるが判読できない。3･5･6は須恵器である。3は蓋で扁平なつまみで、口縁の端部を折り曲げる。5は蓋の天井部の破片で墨書を認める。6は高台付坏である。外に開く低い高台で直線的に立ち上がり外傾する口縁部となる。4は緑釉陶器の把手の破片である。胎土は精良で須恵質の焼成で淡い緑灰色の釉が全体に薄くかかる。7は瀬戸系の壺底部である。

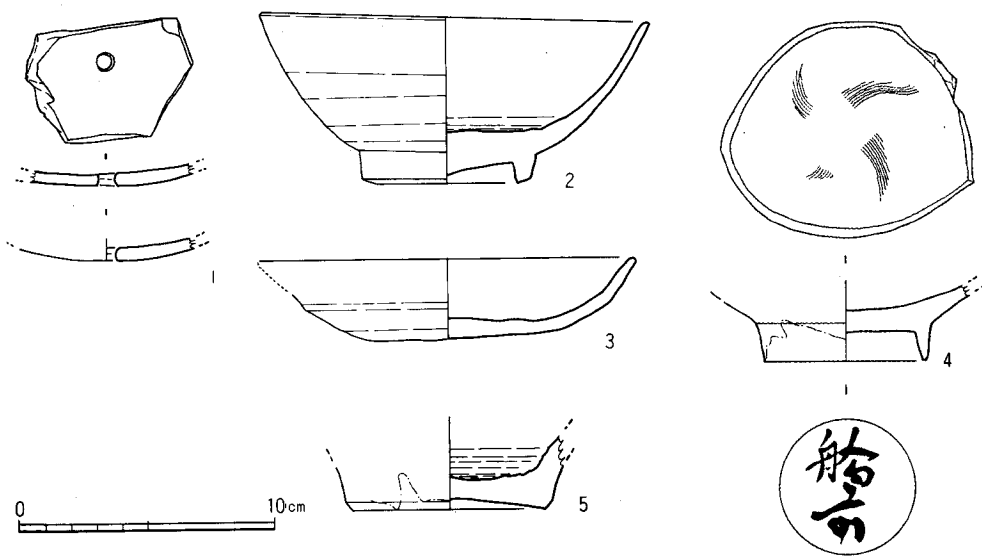


Fig.124　V面ピット出土遺物実測図

胎土は灰白色で緻密、釉はガラス質で青緑色、内底には斑点状に釉が飛び散っている。高台外面に目跡が残り高台内は露胎である。

輸入陶磁器（Fig.125－8～・126－～29，PL.54・55）

8～15は白磁碗である。8はII類碗である。高台の内面を斜に削り口縁を小玉縁にする。胎土は灰白色、黄白色の釉で体外半釉である。9はIV類碗の底部、10は高い高台をもち高台内に墨書している。灰白色の胎土に灰色を帯びるクリーム色の半透明釉である。11、12も外底に墨書をもつ。13は高い高台をもつ小碗である。胎土は白灰色、釉は灰色で一部高台まで垂れる。14も小碗である。小さい高台の深い碗である。胎土は純白色、釉は透明の灰白色である。畳付～高台内は露胎である。15は高台内に墨書をもつ小碗である。内面にヘラ描の曲線文をもつ。胎土は灰白色で黄緑灰色釉である。16は潮州窯系白磁の香炉である。外面に蓮弁を貼りつけている。胎土は白灰色で緻密、外面のみ施釉し、青灰白色を呈する。17～20は高台付皿である。低い高台で見込に沈圏線をもつ。17、18は口縁部を外反させ、19、20は直線的に開く。胎土は灰白色で釉は緑白灰色である。21～25は白磁II類の平底皿である。23、24は外底に墨書をもつ。23は「上」、24は花押であろう。25の内面には浅いヘラ描文をもつ。26～29は越州窯系青磁である。26、27は輪高台の碗である。高台と見込に目跡をもつ。胎土は茶色味を帯びた灰色、釉は少し淡い茶緑色を帯び半透明で全面に施釉し、畳付のみ拭きとる。28は碁笥底皿である。胎土は灰色で緑灰色釉を内外面にかける。29は上げ底の碗で、口縁部は強く外反する。胎土は灰白色で砂粒が多く混じる。釉は灰緑色で体外半釉、釉下に化粧がけしている。露胎部は茶褐色である。見込には目跡が残る。

土製品・石製品（Fig.126－30～33，PL.44・45）

30は土製品の栗の土型である。栗の実を半裁した形態をそのまま写実的に模している。外面は押圧により整形している。31は滑石製の錘である。石鍋の再加工品で裏面が内側に湾曲している。長楕円形に仕上げ側面には荒い鑿跡が残り、中央に摺り切りの溝をもつ。32は黄白色を呈する滑石製品である。長方形の台に明確な稜をもつ多面体の握部をもつ。一面は握部から台部まで直線的に削られる。スタンプの未製品か。33は土錘である。平面形は紡錘形で中央の断面は四角形を呈する。縦に網掛用の溝をもつ。側面には押圧整形の指跡が残る。

ガラス製品（Fig.126－34・35，PL.60）

ガラスの小玉である。透明感のあるコバルトブルーで、35は表面が乳白化している。連玉であったものを切断したようで両面には凹凸がある。

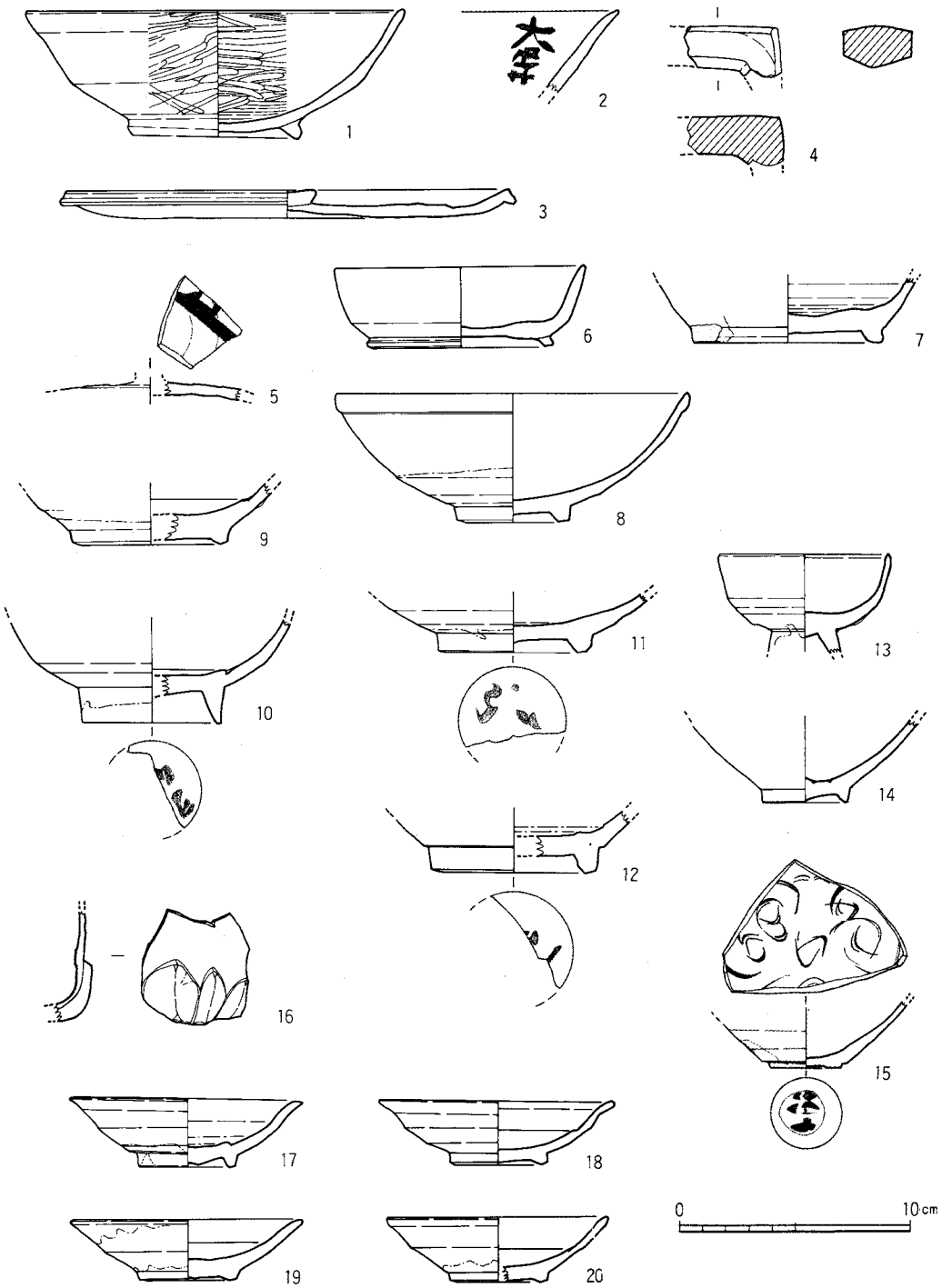


Fig.125　V面包含層出土遺物実測図(1)

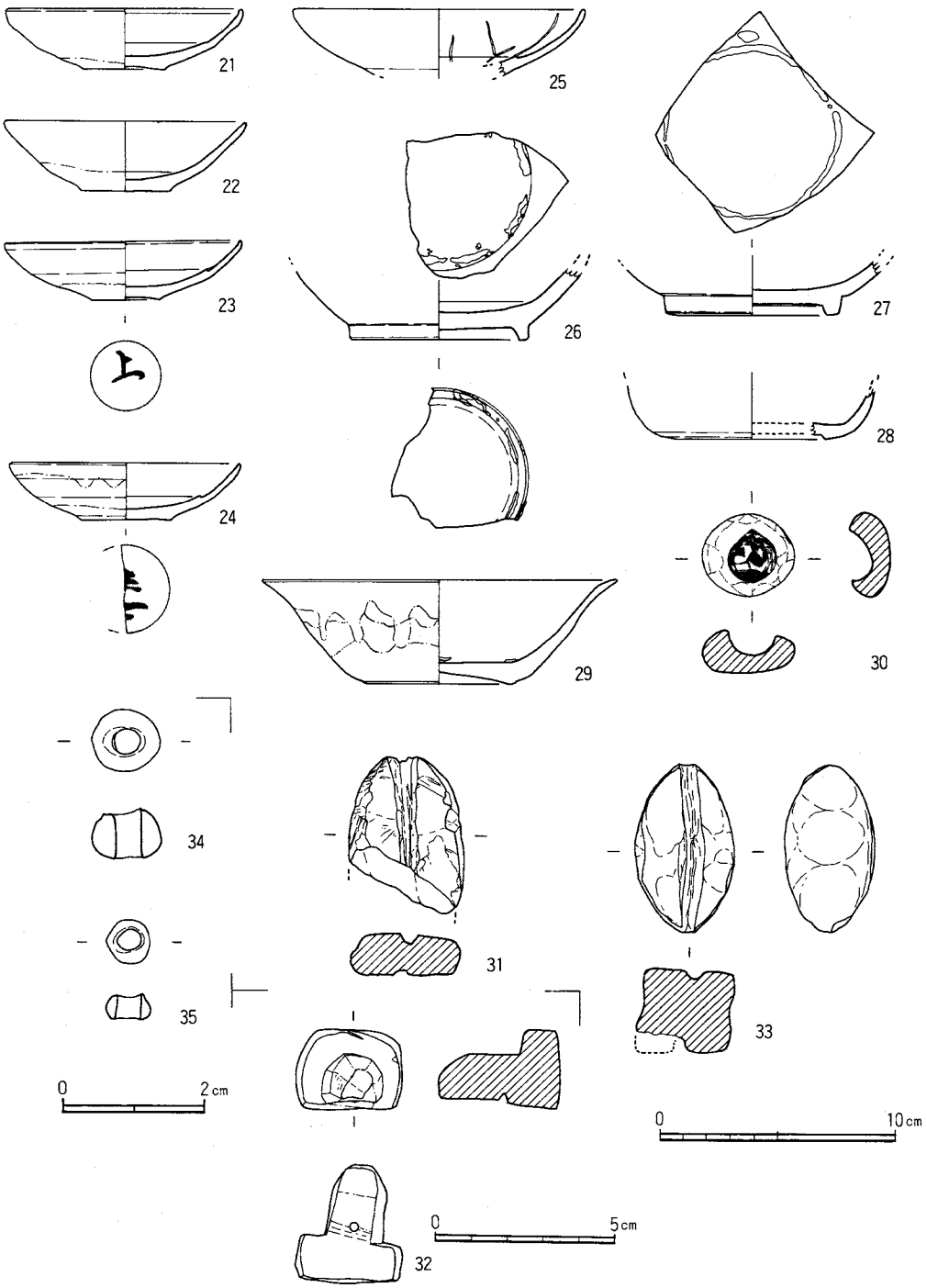


Fig.126　V面包含層出土遺物実測図(2)

6. Ⅵ・Ⅶ面の調査

Ⅵ面の調査は包含層を暗褐色砂層まで下げて確認した遺構である。標高は南側で2.3m、北側で2.8mの高さでの調査で、古代～中世にかけての遺構面ではあるが、上の面で確認できなかった遺構も含まれているので層の年代として明確な比定は困難である。Ⅵ面の調査は基盤層である黄白色砂層で、その上面にあたる遺構は小土壙数基と井戸がある。井戸は上からの掘り込みである。Ⅶ面の遺構では古墳時代前半の土器が出土し、この地点まで集落が拡大していたことが判明した。

1)土壙の調査

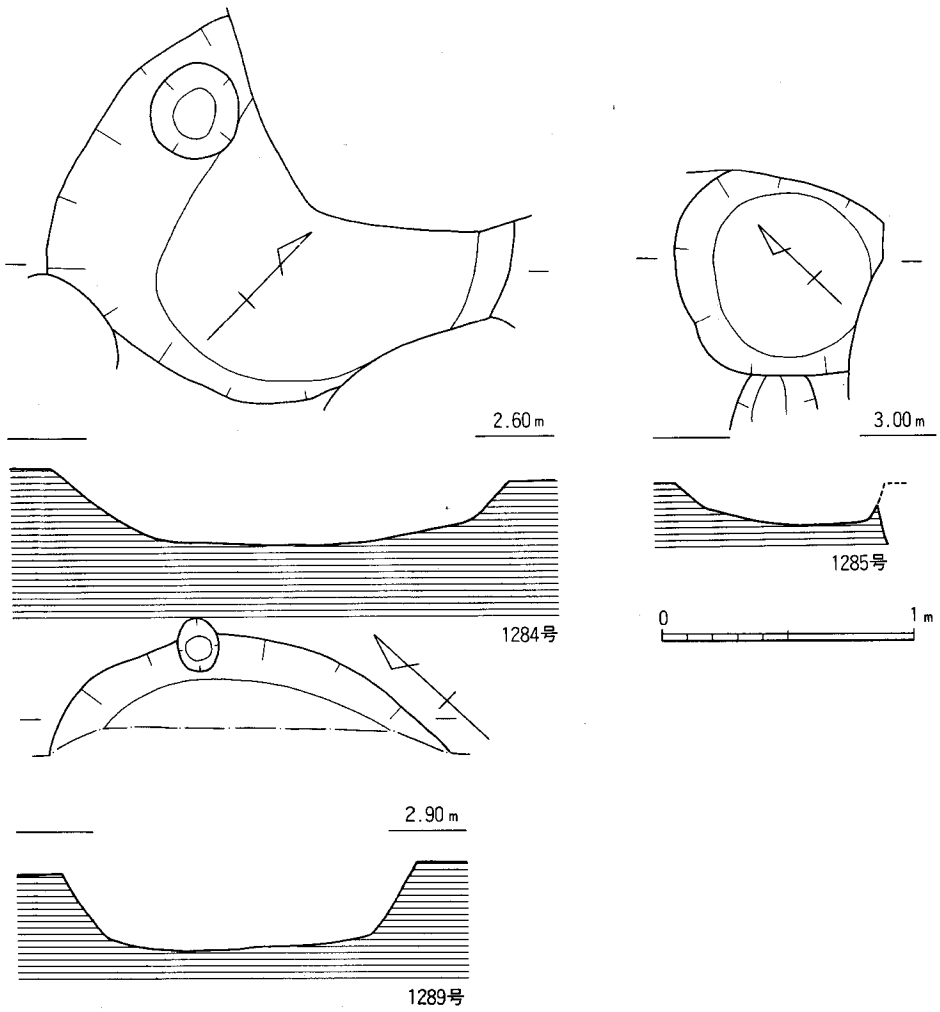


Fig.127　1284・1285・1289号土壙実測図 (1/30)

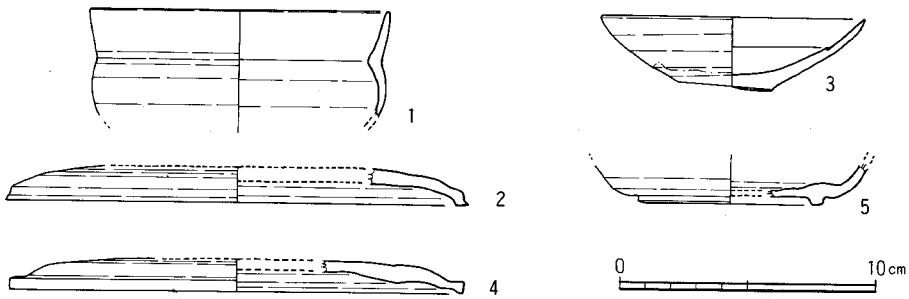


Fig.128　Ⅵ面土壙出土遺物実測図

1284号土壙 (Fig.127, PL.19)

J－03区、172号井戸の東側に位置する略円形の土壙である。北側はⅤ面の180号井戸、東側はⅡ面の169号井戸に切られ全体の南半部の調査にとどまった。規模は東西1.7m、南北0.85m、深さ0.3mを測る断面皿状の浅い土壙である。覆土は黒褐色砂質土である。

出土遺物 (Fig.128－1・2)

1は土師器の小型丸底壺である。球形の胴部から屈曲して直線的に開き、口縁部となる。胎土は精良で茶～明褐色を呈する。内外面ともヨコナデである。2は須恵器の蓋である。胎土は砂粒を含み灰白色を呈する。

1285号土壙 (Fig.127, PL.19)

J－02区、181号井戸の北側に位置するピット状の円形土壙である。南側は181号井戸に切られ東側は調査区外へ拡がり全体の形態は不明である。径1m前後を測る規模の土壙であろう。

出土遺物 (Fig.128－3, PL.55)

Ⅱ類の白磁平底皿である。底部から内湾して体部となり沈圏線状の段をもち口縁部となる。白灰肌色の胎土で飴色の釉で体外半釉である。

1289号土壙 (Fig.127, PL.19)

J－03区、Ⅱ面170号井戸の南側に位置する土壙である。大部分は西側の調査区外へ拡がり全体の規模、形態は明瞭でないが径2m前後を測る略円形の土壙であろう。覆土は暗～灰褐色砂である。

出土遺物 (Fig.128－4・5)

4は須恵器の蓋である。扁平な蓋で端部を屈曲させる。口縁部はヨコナデで天井部はヘラ削りである。胎土には小石が少し混じり、濃灰色をしている。5は須恵器の高台付坏である。低く外に張る高台から直線的に開く口縁となる。胎土には砂粒が混じるが良好で濃灰色を呈する。

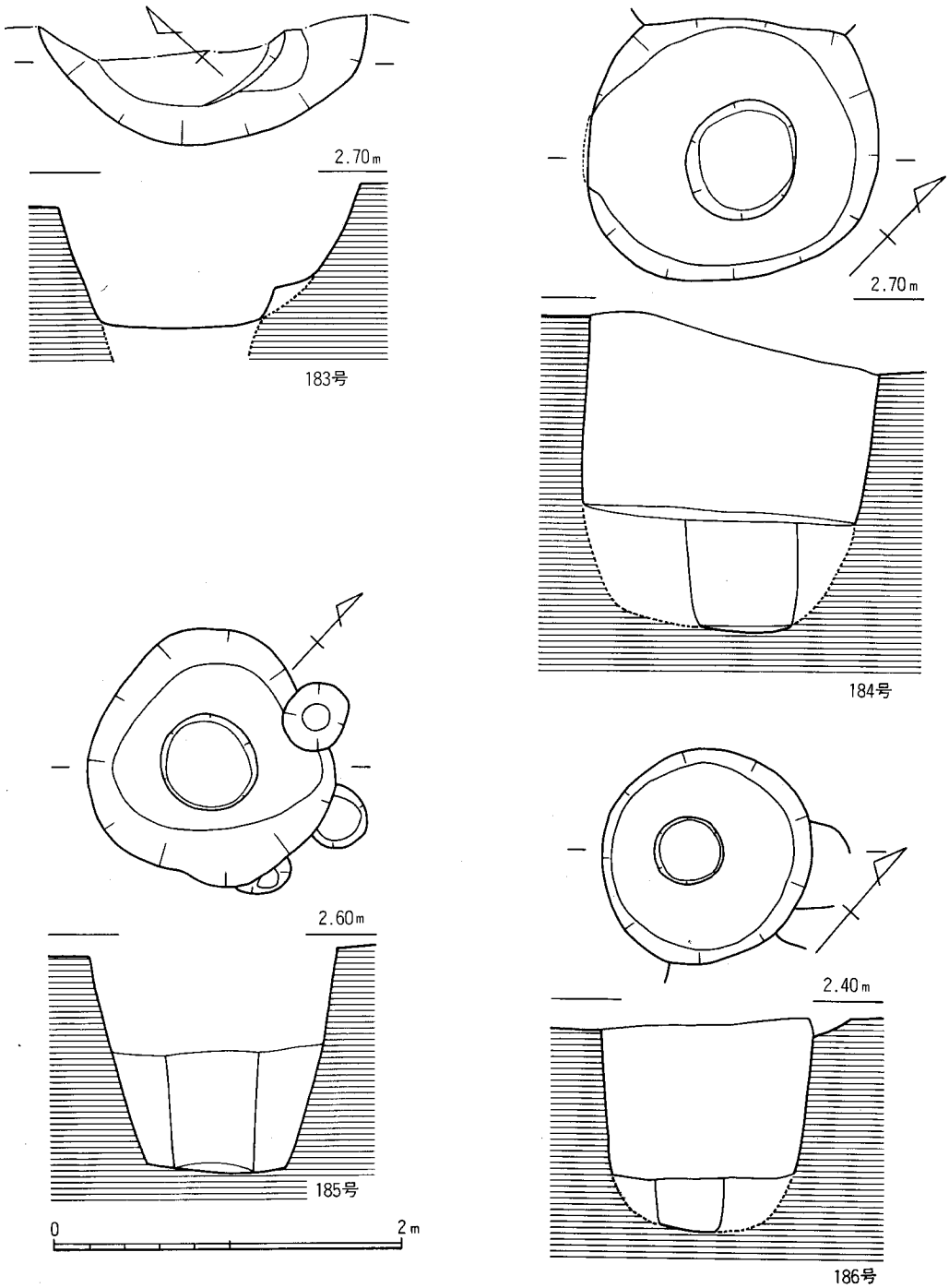


Fig.129　183～186号井戸実測図（1/40）

2)井戸の調査

183号井戸 (Fig.129, ＰＬ19)

J－04区、185、186号井戸の東側に位置する井戸である。東側は調査区外へ拡がり、全体の1/3の調査にとどまった。調査区の壁面に位置しているので床面までは調査することができなかった。平面形は半円形を呈する。

出土遺物 (Fig.130－1・2, PL.55)

1は底部糸切りの土師器皿である。口径9.3cm、器高1.3cmを測る。口縁部はヨコナデ、内底はナデ調整である。胎土に砂粒を含むが良好で色調は黄褐色である。2は瓦器埦である。外に開く低い貼付高台で高台内には板状圧痕が残る。外面は横方向の研磨で内面は縦方向の研磨である。胎土には砂粒を多く含み色調は外面が黒色、内面が灰白色を呈する。

184号井戸 (Fig.129, PL.20)

J－04区、165号、175号井戸に挟まれた中間に位置する井戸である。北側を154号井戸に切られるがほぼ円形を呈する。当初は土壙と考えていたが井筒部が確認されたので井戸と考えた。掘り方の径は1.6m、深さ1.8m、井筒は径0.6m、深さ0.6mを測る。井筒の桶そのものは遺存していない。

出土遺物 (Fig.130－3～8, PL.57)

3は白磁の碗である。高い高台から丸い体部となり口縁部が外反する。胎土は白灰色で緻密である。釉は白灰オリーブ色である。畳付から高台外面は露胎である。4は白磁のミニチュアの碗である。厚い高台で内湾して口縁部となる。胎土はクリーム色で釉は乳白色である。5は天目碗の完形品である。低い高台から体部は直線的に開き口縁部となる。胎土は暗茶褐色で黒褐色の釉を施す。高台脇から底部は露胎である。6はガラス製の扁平な玉である。戯具のおはじき玉と酷似している。径2.1cm、厚さ0.5cmを測り、色調は乳黄白色を呈する。7は鹿角製品である。幅1.1cm、長さ13cm、厚さ0.3～0.6cmを測る。表面は自然のままで、両側と裏面を削り板状としている。両端を穿孔し、側面から小さな目釘穴を直角に穿つ。さらにその外側に半円形の扁平な突起部をもち、2 孔をもつ。刀装具等の装飾具であろう。8は刀子の完形品である。全体に錆が著しく本来の形状を保っている部分が少ない。全長24.5cm、最大幅2.5cmを測る。

185号井戸 (Fig.129, PL.20)

J－04区、184号井戸の西に位置する井戸である。平面形は卵形を呈し、北側でピットと重複するが、ほぼ完全な形態を保っている。当初土壙と考えたほど掘り方は小さく、その規模は径1.4m、深さ1.3mを測り、その中心部に径0.55mの井筒が確認できた。井筒は木桶を用いたものであろうが、桶自体は遺存していなかった。

出土遺物 (Fig.130－9～・131－～17, PL.56)

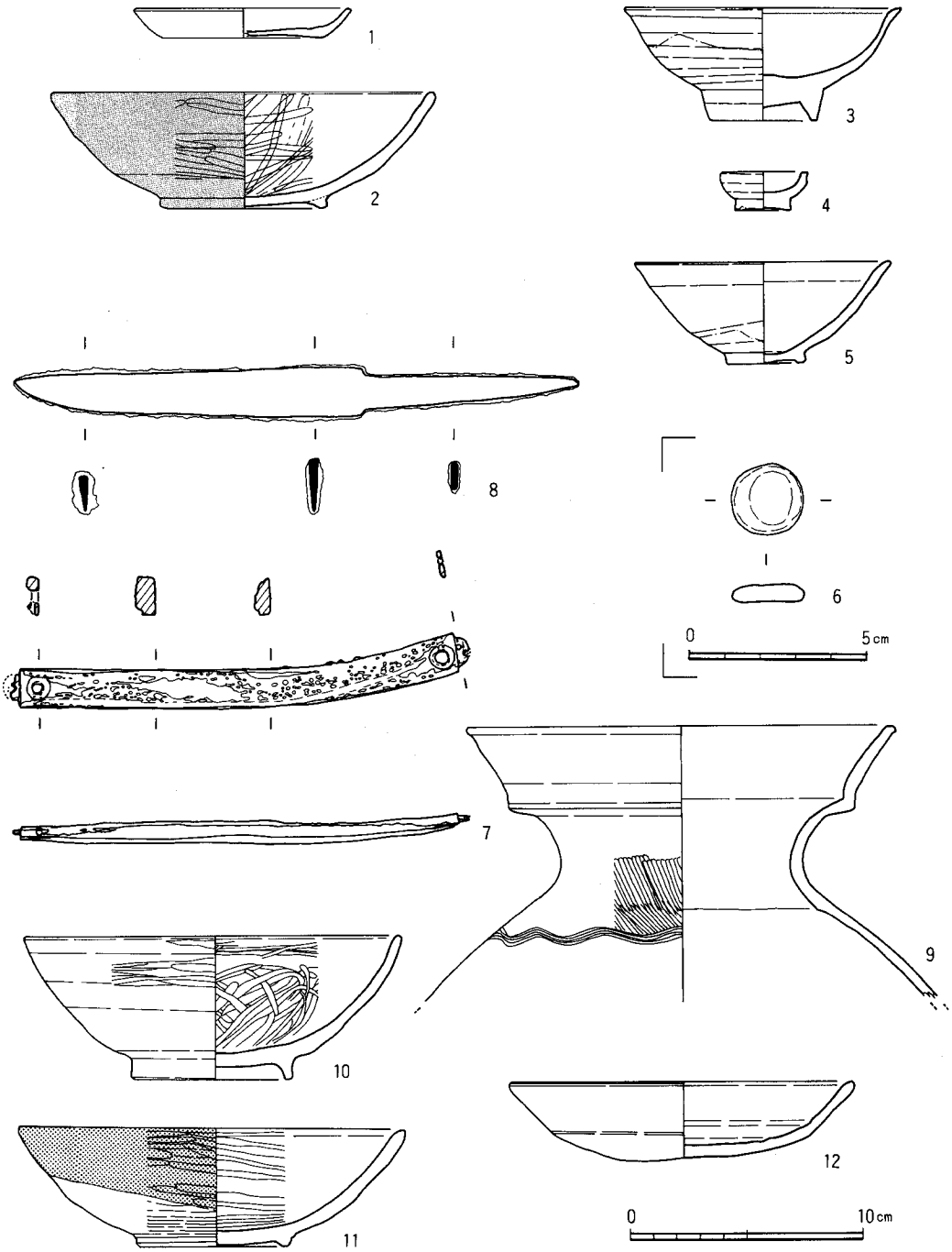


Fig.130　183・184号井戸出土遺物実測図

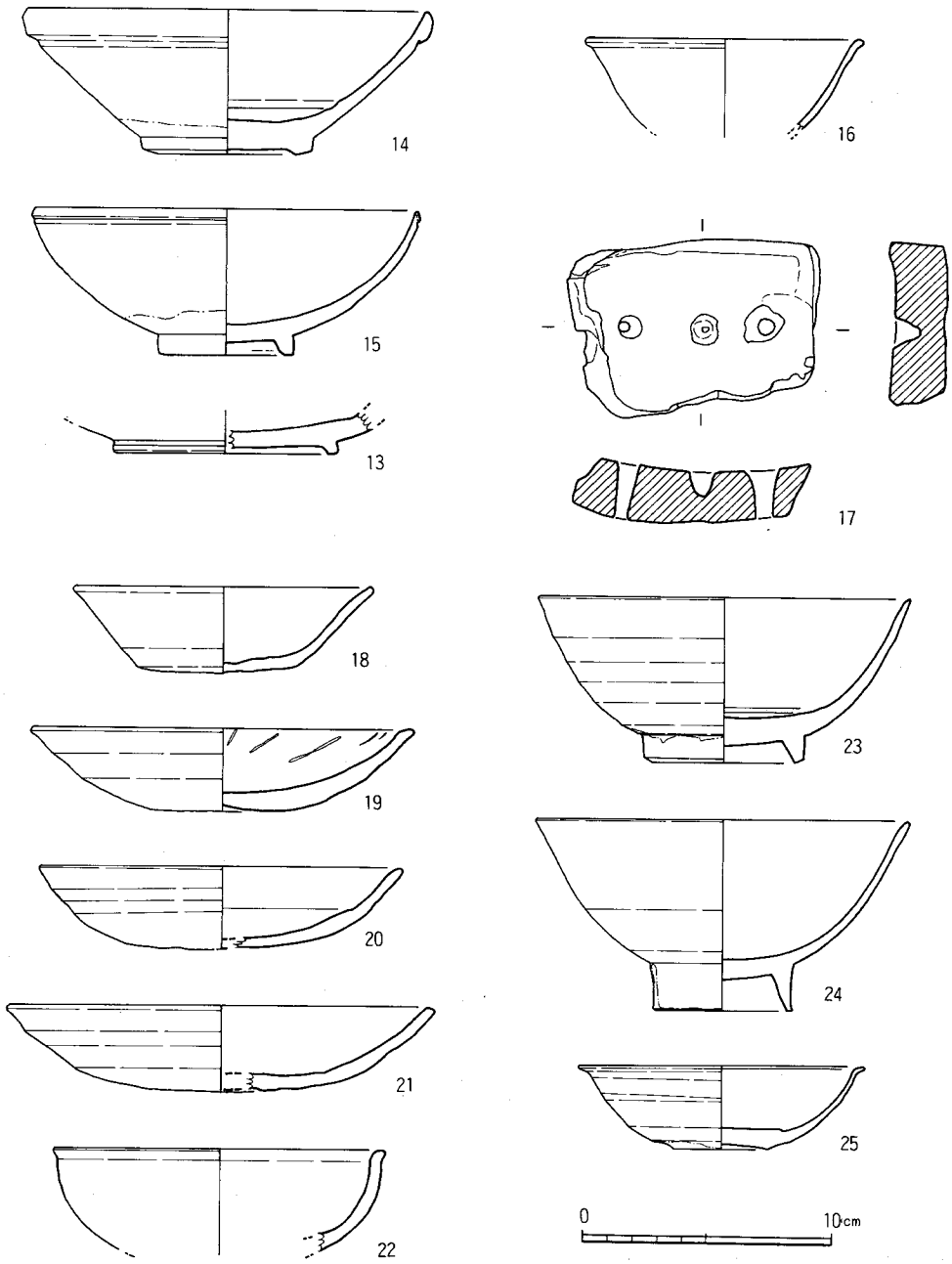


Fig.131　184～186号井戸出土遺物実測図

9は二重口縁の土師器壺である。肩部に波状の沈線をもち、口縁端部は肥厚し、上面を平にする。外面は刷毛目、内面はヘラ削りである。10、11は完形品の瓦器埦である。10は低い高台である。内外面とも横方向の研磨である。10の高台はほぼ垂直で高く、体部は内湾する。胎土に

は砂粒を含み、焼成は良く色調は明灰色～灰褐色を呈する。外面と内面の口縁部は横のヘラ研磨で、内面は縦方向の研磨である。12は土師器の丸底坏である。口径15.1cm、器高3.5cmを測る。底部と体部の境に稜をもち、口縁部は少し外反する。口縁部はヨコナデ、内底は研磨状のヘラナデである。13は須恵質の緑釉陶器埦である。薄い黄緑釉を全面に施釉し内底は研磨している。胎土は砂粒を少し含むが良好で、灰白色を呈する。14、15は白磁碗である。14は玉縁口縁のIV類の碗で見込に沈圏線をもつ。胎土は白灰色、淡緑灰色の釉で体外半釉である。15は小玉縁のII類の碗である。口縁部は折り返して小玉縁としている。胎土は淡灰色、釉は黄灰白色で体外半釉である。16は天目碗である。胎土は白色で黒褐色の釉である。口縁部は小玉縁状となる。17は滑石製品である。石鍋の再利用品で長方形に削り中央に3個の穿孔をもつ。中央の穴は途中までで貫通していない。

186号井戸 (Fig.129, PL.19)

J－02区、V面の181号井戸の南側に位置する井戸である。当初2基の重複する土壙と考えていたがVII面で最終的に掘り下げた結果1基の井戸であることが判明した。井戸の規模は小さく掘り方は径1.25m、深さ1.2m、井筒部の規模は径0.4m、深さ0.3mを測る。井筒の桶自体は遺存していない。

出土遺物 (Fig.131－18～25, PL.56)

18～22は土師器である。18は平底の坏である。器壁は薄く全体に丁寧なつくりである。外底の周縁はヘラ削りしている。胎土には砂粒を多く含み、色調は外底が黒褐色で他は淡黄褐色である。19～21は丸底の坏である。19は厚い造りで外底にひび割れがあり、内面にはタタキの跡のようなコテ当ての斜状隆起がある。胎土には砂粒を含み、小石も混じる。20はほぼ完形品である。内面は荒い研磨で底部と体部の境に浅い段をもつ。外面はヨコナデで底部に板状圧痕をもつ。胎土は精良で色調は外面が黒～茶褐色、内面は淡黄灰色である。21もほぼ同じ整形で色調は明黄褐色である。22は埦である。内湾する体部で口縁部は肥厚気味に外反する。胎土は精良で色調は淡黄褐色を呈する。23～25は白磁である。23は碗で逆台形の高台で内湾する体部となり、全体に厚手の造りである。胎土は白灰色で釉は透明感のある緑灰白色である。24は高台が高く、口縁部が外反する薄手の造りである。胎土は淡黄白色で釉は半透明で高台内側までたれる。25は平底で体部が内湾する深い皿で口縁部を折り返し平坦部をつくる。見込に沈圏線をもつ。胎土は白灰色で緻密である。釉は青白灰色で釉尻は黄橙色を呈する。

3)ピット出土遺物 (Fig.132・133, PL.56・57)

1～8は4549号ピットから出土した一括遺物である。ピットはI－02区にあり、186号井戸の西側に位置する。0.75×0.65m、深さ0.3mを測る楕円形のピットである。1、2は土師器である。1は底部糸切りの皿で口径9.7cm、器高1.3cmを測る。外底には板状圧痕が残る。2は丸底の坏で口

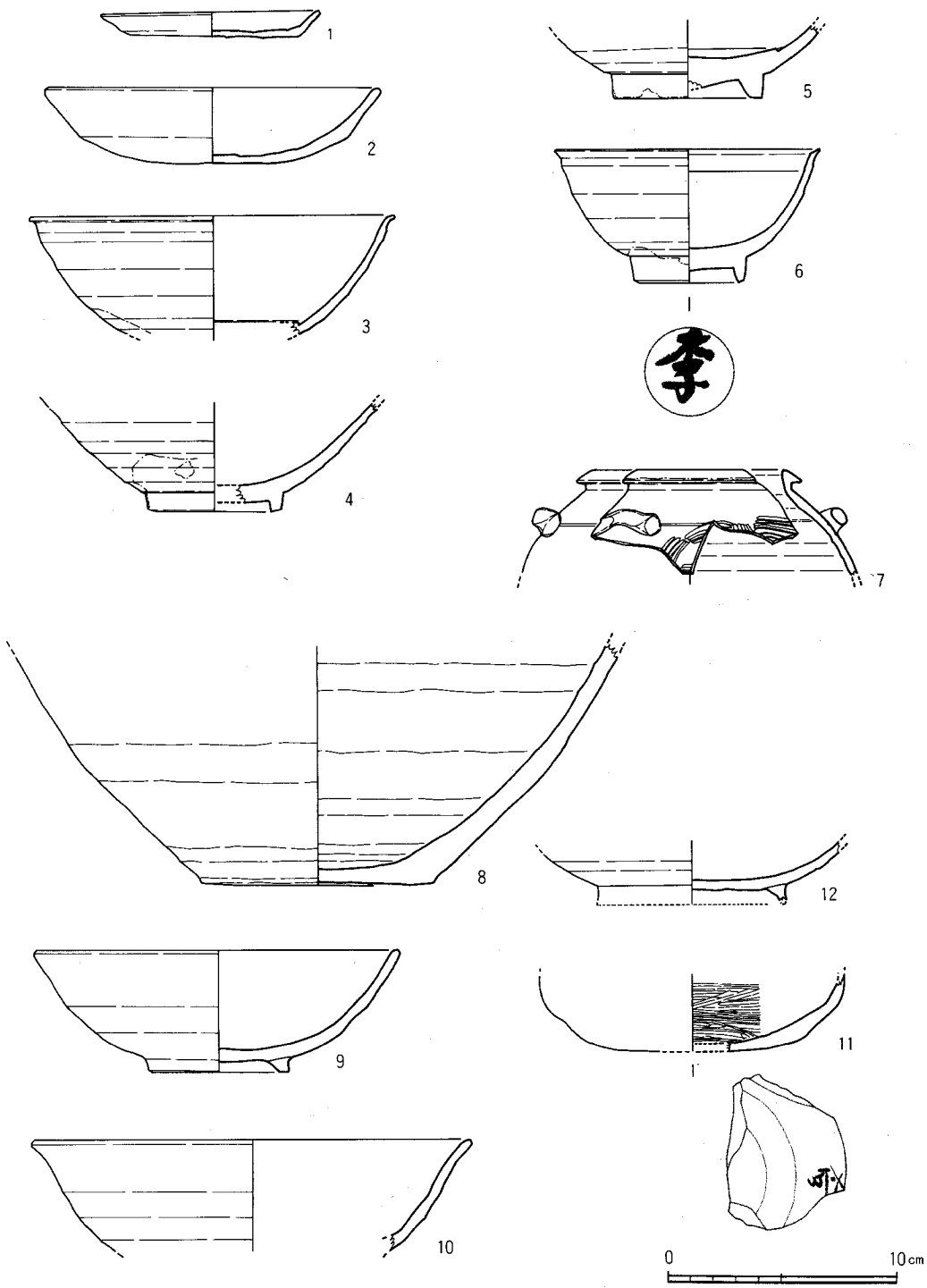


Fig.132　VI面ピット出土遺物実測図(1)

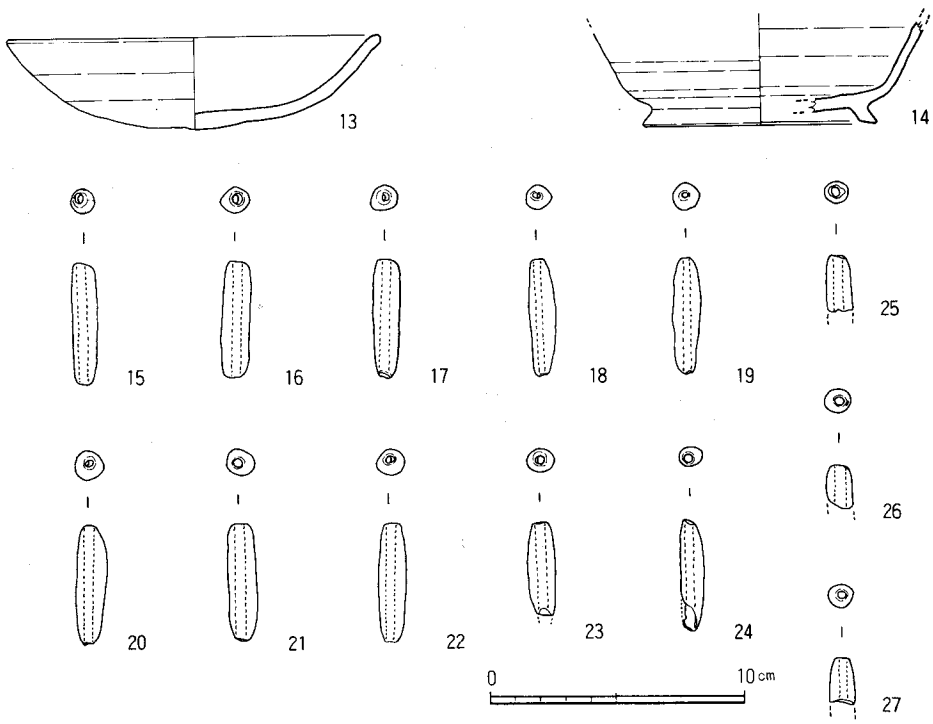


Fig.133　Ⅵ面ピット出土遺物実測図(2)

径14.9cm、器高3.5cmを測る。外底には板状圧痕が残り体部との境をもつ。胎土には砂粒を含むが良好で色調は淡橙色を呈する。口縁部～外面はヨコナデ、内面はヘラナデを行い平滑である。3～6は白磁の碗である。3は内湾する体部で口縁部を外反させ、外面を窪ませる。胎土は白灰色で釉は飴色である。5は高台部片で見込に沈圏線をもつ。胎土は白色で緻密である。釉は青味を帯びる白灰色で高台外面まで施釉する。6は高台内に「李」と人名の墨書文字をもつ碗である。内湾する体部で口縁部を外反させる。胎土は白っぽいクリーム色で粗く、釉もクリーム色で高台脇まで施釉する。Ⅴ面の4283号ピットの破片と接合しているので、Ⅴ面から掘り込まれたものであろう。7は陶器の四耳壺である。肩部に耳を貼りつけ、幅広の櫛描文をもつ。胎土は肌色で緻密である。釉は茶オリーブ色で口縁部の釉を拭きとる。内面は一部釉が垂れるが露胎である。8は須恵質の甕で底部糸切りである。胎土は精良で気泡を含み、灰色を呈する。内底はナデ、他はヨコナデ調整である。9～13は土師器である。9は高台付埦である。瓦器埦を模した形態で内外面とも荒い研磨をしている。胎は砂粒を多く含みあまり良くない。色調は外面が淡黄褐色、内面は灰白色である。10も埦の口縁部である。11は高台付埦の底部片で高台部を欠損する。外底に「宮」あるいは「官」の墨書文字をもち、その上に×印状の文字を記すが、上半部が欠損しているので判読し難い。12も高台付埦で、高台内に板状圧痕をもつ。13は丸底の坏である。

外底には板状圧痕が残り口縁部はヨコナデ、他はナデ調整を行う。14は須恵器の高台付坏である。胎土には砂粒を少し含み、色調は暗灰色を呈する。15～27は4777号ピットから一括して出土した管状土錘である。最大径0.9～1.1cm、長さ4.6～4.8cmを測るものが大部分で23、24は少し短くなる。

4)Ⅶ面の土壙の調査

1299号土壙 (Fig.134, PL.21)

Ⅶ面で確認した古墳時代初頭の唯一の土壙である。Ⅵ面で土器の一部は現れていたが、遺構の平面形は判然としなかったので黄白色砂層まで下げて平面形が把握できた。J－04、Ⅱ面の175号井戸とⅤ面の185号井戸の間に位置する平面台形の土壙である。東側は上面の遺構に切られるが全体の形状は推定できる。規模は長さ1.93m、最大幅1.7m、深さ0.16mを測る。壁面は緩やかな傾斜を示し、床面は平坦である。覆土は暗褐色砂層である。

出土遺物 (Fig.134, PL.57)

1は小型丸底壺である。球形の胴部から外に直線的に開く口縁部となる。口縁部は内外面とも刷毛目調整で、外面の胴部は上半部が刷毛目の後研磨、下半はヘラ削りの後研磨している。内面は下から上への刷毛目調整の後ナデ調整を行う。頸部には内面に指の押圧痕が残る。胎土は良好で砂粒を少し含む。色調は明橙色で胴部に丹塗様の痕跡が残る。2、3は倒卵形の胴部に外に開く口縁部となる。上面を平坦に押さえ、端部が両側に張り出し肥厚する口唇部となる。口縁の中位には緩やかな稜をもつ。口縁部はヨコナデで胴部外面は刷毛目、内面はヘラ削りである。器面は凹凸が著しく粗雑な調整である。肩部に斜めの刺突文があるが全周はしない。

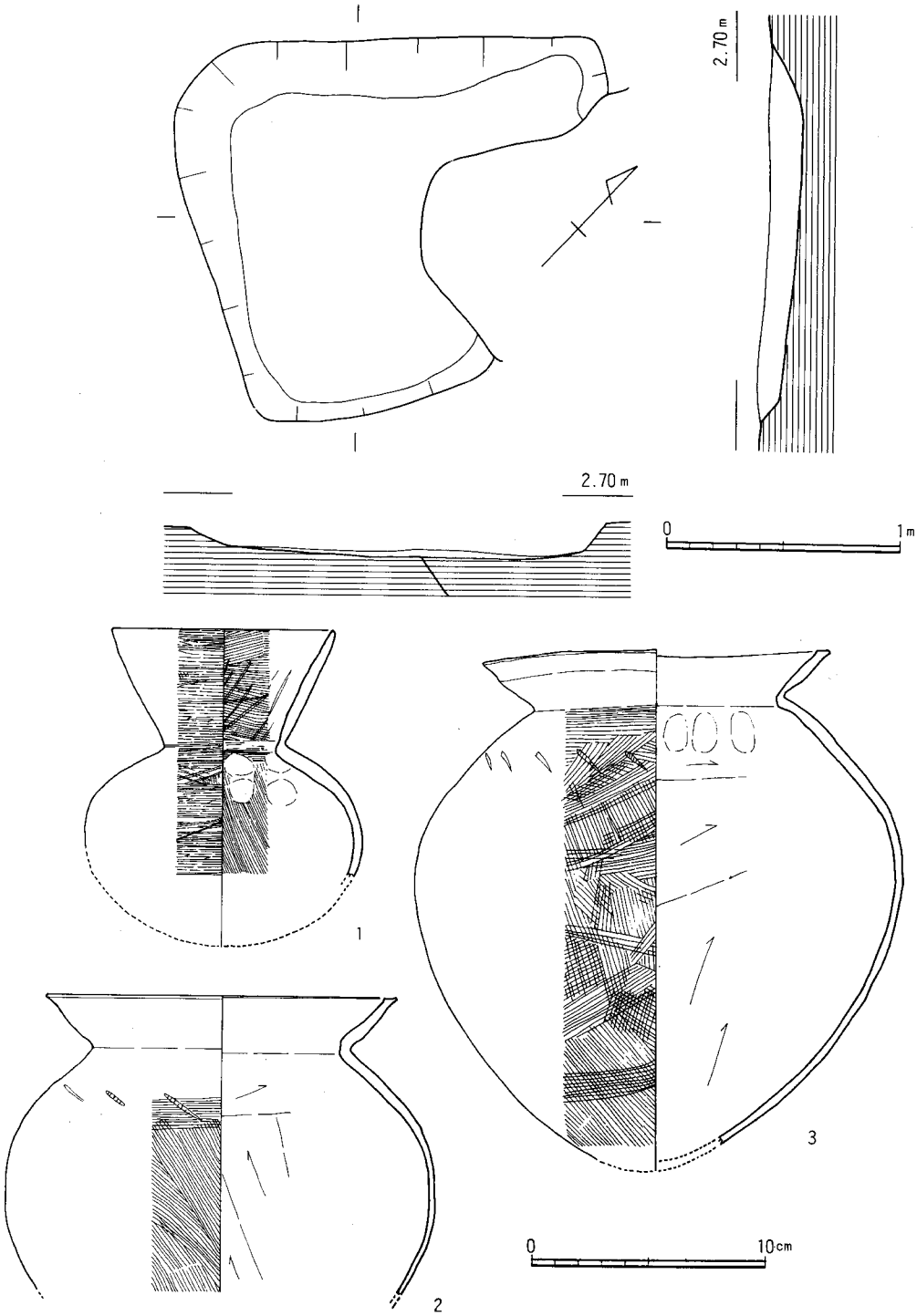


Fig.134　1299号土壙(1/30)及び出土遺物実測図

Tab. I　出土銅銭一覧

銭名	時代	初鋳	出土遺構（数）	数
開元通寶	唐	武徳4年621年	1177号土壙(1)，1179号土壙(1)，1182号土壙(2)，1184号土壙(1)，4055号ピット(1)，Ⅱ面包含層(4)	9
宋通元寶	北宋	興国2年968年	1178号土壙(1)，Ⅱ面包含層(1)	2
太平通寶	〃	太平興国元年976年	1137号土壙(1)，1182号土壙(1)，1184号土壙(1)，Ⅱ面包含層(1)	4
至道元寶	〃	至道元年995年	4058号ピット(1)	1
咸平元寶	〃	咸平元年998年	Ⅱ面包含層(1)	1
景徳元寶	〃	景徳元年1004年	1163号土壙(1)，1177号土壙(1)，1182号土壙(1)，Ⅰ面包含層(1)，Ⅱ面包含層(2)，Ⅲ面包含層(1)	7
祥符元寶	〃	大中祥符元年1008年	1155号土壙(1)，1182号土壙(1)，Ⅱ面包層(1)	3
祥符通寶	〃	〃	1182号土壙(1)，Ⅱ面包含層(1)	2
天禧通寶	〃	天禧年間1017～21年	1182号土壙(2)	2
天聖元寶	〃	天聖元年1023年	1182号土壙(1)，1184号土壙(1)，175号井戸(1)，Ⅱ面包含層(5)	8
景祐元寶	〃	景祐元年1034年	Ⅳ面包含層(1)	1
皇宋通寶	〃	寶元2年1038年	1123号土壙(1)，1128号土壙(1)，1182号土壙(1)，1184号土壙(1)，3966号ピット(1)，4055号ピット(1)，Ⅱ面包含層(2)，Ⅲ面包含層(1)	9
至和元寶	〃	至和元年1054年	Ⅱ面包含層(1)	1
嘉祐元寶	〃	嘉祐元年1056年	1123号土壙(1)，175号井戸(1)，3981号ピット(1)	3
嘉祐通寶	〃	〃	Ⅱ面包含層(1)	1
治平元寶	〃	治平元年1064年	1178号土壙(1)，Ⅰ面包含層(1)	2
治平通寶	〃	〃	Ⅰ面包含層(1)	1
熙寧元寶	〃	熙寧元年1068年	1130号土壙(1)，1184号土壙(1)，3881号ピット(1)，Ⅰ面包含層(2)，Ⅱ面包含層(4)，Ⅲ面包含層(1)	10
元豊通寶	〃	元豊元年1078年	1158号土壙(1)，1159号土壙(1)，1178号土壙(1)，1212号土壙(1)，174号井戸(1)，20号溝(1)，Ⅰ面包含層(1)，Ⅱ面包含層(3)，Ⅲ面包含層(1)	11
元祐通寶	〃	元祐元年1086年	1121号土壙(1)，171号井戸(1)，Ⅱ面包含層(6)	8
紹聖元寶	〃	紹聖元年1094年	Ⅰ面包含層(1)，Ⅱ面包含層(3)	4
元符通寶	〃	元符元年1098年	1182号土壙(1)，Ⅰ面包含層(2)，Ⅱ面包含層(2)，Ⅳ面包含層(1)	6
聖宋元寶	〃	建中靖国元年1101年	4035号ピット(1)，4055号ピット(1)，Ⅱ面包含層(1)，Ⅲ面包含層(1)	4
崇寧通寶	〃	崇寧元年1102年	Ⅱ面包含層(1)	1
崇寧重寶	〃	崇寧3年1104年	Ⅱ面包含層(1)	1
大観通寶	〃	大観元年1107年	1182号土壙(1)，1184号土壙(1)	2
政和通寶	〃	政和元年1111年	174号井戸(1)，Ⅰ面包含層(1)，Ⅱ面包含層(2)，Ⅲ面包含層(1)	5
正隆元寶	金	正隆元年1156年	1119号土壙(1)，Ⅰ面包含層(1)	2
淳熙元寶	南宋	淳熙元年1174年	1170号土壙(1)，3881号ピット(1)，Ⅰ面包含層(1)，Ⅱ面包含層(1)	4
嘉泰通寶	〃	嘉泰元年1201年	1178号土壙(1)	1
開禧通寶	〃	開禧元年1201年	1182号土壙(1)	1
嘉定通寶	〃	嘉定年間1208～24年	170号井戸(1)，Ⅱ面包含層(2)	3
咸淳元寶	〃	咸淳元年1265年	Ⅰ面包含層(1)	1
洪武通寶	明	洪武元年1368年	1137号土壙(1)，包含層(北)(1)	2
寛永通寶	江戸	寛永13年1636年	153号井戸(1)，163号井戸(1)	2

Tab.2　出土遺物分類表

Ⅰ面

1119号土壙出土遺物

器種					数量
輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ	1
				Ⅳ	2(1)
				不明	1
		皿		平底Ⅵ	1
				不明片	1
	青磁	龍泉	碗	Ⅱ－1	2
		同安	碗	Ⅱ	2
		天目碗			2
	陶器	A群		Ⅰ－四耳壺	1
		B群		袋物	4
		D群			3
国産品	古墳土師器				13
	奈良平安	須恵器		大型容器	1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	112
				糸切小皿	43
				坏	47
				小皿	16
				不明	46
			その他	土鍋	9
				擂鉢	1
		瓦質		鉢	5
				不明	8
		陶器		備前甕	3
				古窯系不明	1
	平瓦				4
	備考	石鍋			1
		鉄釘			6
		板状鉄器			1
		鉄滓			
		銅銭			7
		銅製品			1

1120号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅵ－1	1
				Ⅸ	1(1)
		皿		高台付Ⅱ	1(1)
				平　底Ⅱ	1(1)
				口ハゲ	1(1)
	青磁	龍泉	碗	Ⅱ－1	2
		同安	碗	Ⅱ	2(1)
			皿	Ⅰ－1	1(1)
	陶器	B群		袋物	3
	青白磁	碗			1(1)
国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	28
				糸切小皿	9
				坏	15
				高台付	3
				不明	8
	平安末～中世	土師器	その他	鉢	1
				不明	2
		須恵質		鉢	1
		瓦質		鉢	4
	備考	石鍋			1
		鉄釘			1

1123号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅳ	1
				Ⅴ－2－a	1
				Ⅵ－1	1
				不明	11
		皿		平底Ⅱ	1
				枢府窯	1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－3	1
				Ⅱ－1	1
				不明	1
		同安	碗	Ⅱ	1
	陶器	A群		盤	1
				不明	1
		B群		皿	1
	天目碗				1
国産品	奈良平安	須恵器		坏蓋	1
				坏	1
				不明	3
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	151
				糸切小皿	69
				坏	151
				小皿	10
				不明	29
			その他	不明	4
		須恵質		鉢	3
				不明	1
		瓦質		鉢	3
	近世	陶器			2
		土製品			1
		火鉢			1
	平瓦				1
	備考	鉄釘			6
		銅銭			3

1123号下層土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ	1
				Ⅳ－2	1(1)
				Ⅵ	1
	青磁	龍泉	碗	Ⅱ－1	1
		同安	皿	不明	1
	陶器	A群		不明	2
		準A群			2
	陶器	B群		袋物	3
		C群		壺	2
	茶入れ				1
国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	94
				糸切小皿	78
				坏	93
				小皿	22
				不明	84
			その他	不明	1
		須恵質		不明	1
		瓦器		不明	3
		陶器		備前壺	1
	備考	鉄釘			3

1126号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ	2
				Ⅴ－Ⅰ－a	2
				Ⅴ～Ⅵ	1
				不明	5
		皿		平底Ⅵ	1
				口ハゲ	1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－不明	6
	陶器	A群		盤	1
				Ⅰ－四耳壺	3
		準A群			3
		D群			1
	明染付碗				1(1)
	朝鮮不明碗				1
国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	20
				糸切小皿	3
				坏	8
				小皿	3
				不明	18
				研磨	2
			その他	不明	4
		須恵質		鉢	1
		瓦質		鉢	2
				不明	2
		陶器		備前擂鉢	1
				備前不明片	2
	平瓦				1
	備考	砥石			1
		鉄釘			1
		鉄器			2
		土錘			1

1128号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅳ	2
				Ⅴ－1－a	1
				Ⅴ～Ⅵ	2(2)
				不明	3
		皿		平底Ⅵ－1	1(1)
				口ハゲ	1
				不明片	1
	袋物				1
	青磁	龍泉	碗	Ⅲ	3
				Ⅲ－蓮弁文	1(1)
		同安	碗	不明	1
	陶器	A群		盤	4
				小口瓶	1
				袋物	1
		B群		袋物	9
		C群		捏鉢3	1
				捏鉢	1
		D群			1
国産品	奈良平安	須恵器		坏身	1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	26
				糸切小皿	9
				坏	19
				不明	11
			その他	不明	3
		瓦質		鉢	5
		陶器		不明片	1
	平瓦				2
	石鍋				1
	板状鉄器				1
	鉄滓				
	銅銭				8

1130号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ	1
				Ⅳ	1
				Ⅴ－1－a	1
		皿		平底Ⅱ	1
	青磁	龍泉	碗	不明	1
			盤		1
	陶器	B群		袋物	1
		D群		D－2	2

国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	23
				糸切小皿	12
				坏	12
				小皿	2
				不明	8
			その他	不明	3
		瓦質	擂鉢		5
			鉢		1
		陶器	備前甕		1
	近世	磁器			3
		陶器			1
	備考	鉄釘			6
		鉄滓			
		銅銭			2
		銅製品			1

1137号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ	2
				Ⅳ－2	2(2)
				Ⅳ	2
				Ⅴ－1－a	3
				Ⅴ－2－a	1
				Ⅵ－1	8
				Ⅵ－5	1
				Ⅴ～Ⅵ	1(1)
				Ⅸ	2
				不明	5
		皿		平底Ⅱ	5
				Ⅵ－1	1(1)
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－不明	1
				Ⅲ－蓮弁文	4
		同安	碗	Ⅱ	2(1)
			皿	不明	2
		明代木ノ葉型皿？			3
	陶器	A群	盤		3
			不明		1
		準A群			2
		B群	袋物		2
		D群			1
		不明			1
		明染付碗			6
		明染付皿			1
		李朝陶器壺			10
		李朝陶器瓶			1
		不明			2
国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	19
				糸切小皿	2
				坏	19
				小皿	2
				不明	6
			その他	不明	5
		陶器	備前甕		6
			備前壺		3
			備前擂鉢		1
	備考	石鍋			1
		砥石			2
		石製鉢			1
		鉄釘			35
		釣針			1

国産品	備考	板状鉄器	2
		銅製品	1
		簞笥の取手？	1
		銅銭	26
		土錘	1
		壁土	

1138号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	6
				Ⅱ	18(3)
				Ⅳ－2	2(2)
				Ⅳ	25(4)
				Ⅴ－2－a	4
				Ⅴ	16
				Ⅵ－2	1
				Ⅵ－5	1
				Ⅴ～Ⅵ	15(5)
				Ⅶ	1(1)
				Ⅸ	6(2)
				潮州窯系	1
				明代	1
				特殊	1
				不明	74
		小碗			4(2)
		皿		高台付Ⅱ	3(1)
				平底Ⅱ－4	2
				Ⅱ	4
				Ⅳ－1	1
				Ⅵ－1	1
				口ハゲ	21(7)
				不明	5
				明代高台付	7(7)
		袋物			11
		潮州窯系水注			1
		鉄絵鉢			2
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－1	11(1)
				Ⅰ－2	2
				Ⅰ－3	10(3)
				Ⅰ－4	3
				Ⅱ－1	20
				Ⅱ－2	1
				Ⅲ	18(5)
				Ⅴ－1	1
				Ⅴ－2	1
				Ⅴ	9
				Ⅴ～Ⅵ	7
				類不明蓮弁文	5
			皿	Ⅴ－稜花皿	1
				不明	5
			盤		1
			壺		1
		同安	碗	Ⅰ	3
				Ⅱ	24(4)
				不明	6
			皿	Ⅰ－1	3(3)
				不明	1
		越州	碗		5(2)
	陶器	A群	Ⅰ－盤－2		2
			盤		20
			Ⅰ－四耳壺		7
			小口瓶		4

輸入陶磁	陶器	準A群	茶釉四耳壺		12
			無釉四耳壺		2
		B群	水注		1
			袋物		61
			鉢		1
			皿		2
		C群	捏鉢3		1
			捏鉢		6
			坩堝		1
		D群			23
	青白磁	碗			1(1)
		皿			2
		袋物			2
		不明			3
	天目碗				3(1)
	明染付碗				5(1)
	明染付高台付皿				5(3)
	朝鮮袋物				6
国産品	奈良平安	須恵器	坏蓋		7
			坏身		26
			大型		55
	平安末～中世	土師器	坏	ヘラ切小皿	2
				糸切坏	360
				糸切小皿	69
				坏	182
				小皿	15
				不明	45
				高台付	10
			黒色土器椀		4
			その他	土鍋	4
				鉢	8
				不明	55
		須恵質	鉢		8
		瓦器	椀		11
			皿		1
		瓦質	鍋		1
			擂鉢		8
			鉢		4
			火舎		4
			不明		50
		陶器	備前甕		31
			備前擂鉢		1
			瀬戸おろし皿		1
			甕		13
			擂鉢		4
			天目碗		1
	近世	磁器			1
		陶器			5
		土製品			3
	丸瓦				1
	平瓦				19
	備考	石鍋			2
		砥石			2
		鉄釘			13
		刀子			1
		鉄器			3
		鉄滓			
		銅銭			1
		銅製品			1

1139号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅳ－2	1(1)
				Ⅵ	1
				Ⅴ～Ⅵ	1(1)
				Ⅸ	2(2)
				不明	13
		皿		平底Ⅲ	1
				明代高台付	1
	青磁	龍泉	碗	Ⅲ	2
				Ⅴ～Ⅵ	1(1)
				不明	2
			Ⅲ－小鉢		1(1)
			盤		2
		同安	碗	Ⅱ	3
				不明	1
	陶器	A群	盤		1
			Ⅰ－四耳壺		2
		準A群			2
		B群	袋物		4
		C群	捏鉢		2
		D群			1
	明代染付碗				2(2)
国産品	奈良平安	須恵器	袋物		5
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	107
				糸切小皿	15
				坏	43
				小皿	11
				不明	31
			その他	土鍋	1
				不明	7
		瓦質	鉢		5
			不明		22
		陶器	備前甕		4
			甕		1
	近世	唐津			2
		磁器			18
		陶器			20
		片口			1
	平瓦				13
	備考	鉄釘			1
		鉄滓			
		銅銭			1
		土鈴			1

1140号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅳ	1
				Ⅴ	1
				Ⅵ	2
				Ⅴ～Ⅵ	1
				不明	4
		皿		不明	1
	青磁	龍泉	碗	Ⅴ～Ⅵ	1
	陶器	A群	小口瓶		1
		準A群			1
		B群	袋物		1

輸入陶磁	陶器	D群			3
	明染付不明				3(1)
国産品	古墳土師器				1
	奈良・平安	須恵器	坏身		1
			坏		1
			大型容器		2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	30
				糸切小皿	17
				坏	15
				小皿	8
				高台付	1
				不明	15
		瓦質	不明		10
		陶器	甕		5
	近世	磁器			10
		陶器			10
		擂鉢			6
	丸瓦				1
	軒平瓦				1
	平瓦				6
	備考	砥石			1
		鉄釘			3
		鉄杭？			1
		鉄滓			

上記以外のⅠ面土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ		3
			Ⅳ		7(1)
			Ⅴ - 1 - a		3
			Ⅴ - 1 - b		2
			Ⅴ		1
			Ⅵ		1
			Ⅶ		1(1)
			Ⅸ		2
			口ハゲ		1
			未分類		1
			不明		30(1)
		皿	高台付Ⅱ		1
			明代高台付皿		1
			平底Ⅱ		3
			Ⅴ		1
			Ⅵ - 1		2
			口ハゲ		3
			不明		2
			枢府		1
		袋物			9
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ - 2	1
				Ⅰ - 3	5
				Ⅰ - 不明	7
				Ⅱ - 1	5
				Ⅲ	2
				Ⅴ	1(1)
				不明	2
			小碗		1(1)
			Ⅲ - 小鉢		1
			Ⅴ～Ⅵ盤		1
			不明		1
		同安	碗	Ⅱ	1(1)

輸入陶磁	青磁	同安	皿	Ⅱ - 1	1
	陶器	A群	盤		6
			Ⅰ - 四耳壺		3
			袋物		2
			不明		2
		準A群			11
		B群	袋物		15
		C群	捏鉢		3
		D群	D - 3		1
			不明		6
		不明			2
	青白磁	碁笥底皿			1(1)
		合子蓋			1
	明染付碗				1
	明染付不明				1
国産品	古墳土師器				7
	平安末～中世	奈良・平安	須恵器	大型容器	9
		土師器	坏・皿	ヘラ切坏	1
				糸切坏	233
				糸切小皿	60
				坏	126
				小皿	44
				高台付	1
				灯明皿	1
				不明	225
			その他	土鍋	3
				鉢	1
				焙烙？	3
				不明	30
		須恵質	擂鉢		1
			鉢		9
			不明		3
		瓦質	埦		1
		瓦質	擂鉢		1
			鉢		16
			火舎		1
			釜？		1
			不明		4
		陶器	備前甕		19
			備前擂鉢		2
			美濃天目碗		1
			甕		8
			擂鉢		1
	近世	伊万里			15
		唐津			1
		鍋島			1
		磁器			29(1)
		陶器			21
		土製品			2
		七輪			4
		擂鉢			2
		鉢			1
	丸瓦				1
	平瓦				16
	備考	石鍋			1
		石加工品			1
		硯？			1
		鉄釘			19
		刀子			1
		板状鉄器			1

国産品	備考	鉄器	3
		鉄滓	
		銅銭	4
		銅製品	3

Ⅰ面井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ - 1	14
				Ⅱ - 2	4
				Ⅱ	29(6)
				Ⅳ - 1	5
				Ⅳ - 2	13(6)
				Ⅳ	64(6)
				Ⅴ - 1 - a	31
				Ⅴ - 1 - b	4
				Ⅴ - 2 - a	3
				Ⅴ - 2 - b	1
				Ⅴ	1
				Ⅵ - 1	26
				Ⅵ - 2	1
				Ⅵ - 4	1
				Ⅵ - 5	2(1)
				Ⅵ	1
				Ⅴ～Ⅵ	18(11)
				Ⅶ - 1	1
				Ⅶ - 2	1
				Ⅶ	1(1)
				Ⅸ	25(6)
				口ハゲ	2
				未分類	2(1)
				不明	184(8)
		小碗		潮州窯系	1
				不明	1
		皿		高台付Ⅰ	2
				Ⅱ	15(3)
				Ⅲ	1
				明代	2
				不明	10(6)
				平底Ⅱ - 2	1
				Ⅱ	36(4)
				Ⅲ	1
				Ⅳ - 1	1(3)
				Ⅴ	1(1)
				Ⅵ - 1	5
				口ハゲ	22(4)
				明代	1
				不明	1(1)
				碁笥底	1
		水注			2
		壺			1
		袋物			21
		鉄絵鉢			1
		香炉			2
		小壺			1
		蓋			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ - 1	23(4)
				Ⅰ - 2	1
				Ⅰ - 3	16(2)
				Ⅰ - 4	5
				Ⅰ - 不明	32(4)
				Ⅱ - 1	20
				Ⅱ - 2	4
				Ⅲ - 蓮弁文	2
				Ⅲ	10

輸入陶磁	青磁	龍泉	碗	Ⅴ	3(1)
				Ⅵ - 1	3
				Ⅵ	1(1)
				Ⅴ～Ⅵ	1
				不明	21
			皿	高台付	1
				平底Ⅰ - 1	2
				Ⅰ - 2	1
				Ⅰ - 3	2(1)
				不明	1
			Ⅴ - 盤		7
			盤		1
			Ⅴ～Ⅵ？		1
			袋物		1
		同安	碗	Ⅱ	67(9)
				荒い縦線文	4
				不明	1
			皿	高台付	1(1)
				平底Ⅰ - 1	2
				Ⅱ - 1	4
				Ⅱ - 2	4
				Ⅱ	2
				不明	5
		越州	碗		12(2)
			壺		2
			瓶		1
			袋物		2
	陶器	A群	Ⅰ - 盤 - 1		3
			Ⅰ - 盤 - 2		6
			盤		54
			Ⅰ - 四耳壺		8
			小口瓶		1
			不明		5
		準A群			68
		B群	四耳壺		1
			水注		6
			瓶		2
			小瓶		1
			袋物		71
			鉢		2
			皿		3
			不明		1
		C群	四耳壺		1
			壺		2
			鉢		2
			捏鉢 2		1
			捏鉢 3		5
			捏鉢		12
			坩堝？		1
		D群	D - 3		1
			不明		50
		不明			8
	青白磁	碗			19
		皿			2
		合子身			1
		不明			4
	天目碗				3
	明染付碗				12(2)
	明染付皿				5(2)
	明染付不明				2
	黒釉袋物				2
	李朝粉青沙器袋物				3
	李朝陶器袋物				6
	李朝白釉碗				1
	朝鮮青磁碗				1

輸入陶磁	朝鮮陶器碗				2(2)
	朝鮮陶器皿				1
	朝鮮陶器不明				1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		13
			坏身		32
			坏		9
			袋物		12
			大型容器		44
			不明		4
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	3
				ヘラ切小皿	5
				糸切坏	498
				糸切小皿	254
				坏	330
				小皿	102
				高台付	18
				不明	263
				黒色土器椀	3
			その他	土鍋	28
				擂鉢	8
				壺	3
				不明	29
		須恵器	擂鉢		2
			鉢		18
			大型容器		6
			不明		1
		瓦器	椀		16
			不明		2
		瓦質	擂鉢		23
			鉢		14
			火舎		28
			大型容器		19
			不明		42
		陶器	備前甕		110
			備前擂鉢		7
			甕		44
			擂鉢		1
	近世	唐津			8
		肥前系磁器			82
		磁器			414
		陶器			369
		陶器大型			15
		火舎			25
		火鉢			21
		焙烙			4
		土製品			26
		七輪			241
		擂鉢			56
		紅皿			5
		鋳型			6
		不明			41
	軒丸瓦				8
	丸瓦				14
	軒平瓦				4
	平瓦				243
	備考	石鍋			11
		硯			2
		砥石			1
		石製蓋			1
		ガラス玉			1
		鉄釘			74
		刀子			7
		板状鉄器			2
		棒状鉄器			1
		環状鉄器			1

国産品	備考	針金	1
		鉄器	9
		鉄滓	
		銅銭	16
		銅管	1
		銅線	1
		銅製品	6
		土錘	1
		焼塩壺	1

I面ピット出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1		2
			Ⅱ		3(1)
			Ⅳ－2		1(1)
			Ⅳ		2
			Ⅴ		1
			Ⅵ		2
			Ⅴ～Ⅵ		1
			Ⅸ		2
			不明		22
		皿	平底Ⅱ		2(1)
			口ハゲ		1
			不明		1
		袋物			5
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－4	1
				Ⅱ－1	7
				Ⅲ－蓮弁文	1
				Ⅲ	1
				Ⅴ	2
				Ⅳ～Ⅵ	2(1)
				不明	5
			皿	高台付	1(1)
			Ⅲ－小鉢		1
			Ⅲ－水滴		1
			Ⅲ－香炉		1
			香炉		1
		同安	碗	Ⅱ	1
				不明	3
			皿	不明	1
	陶器	A群		Ⅰ－盤－1	1
				Ⅰ－盤－2	2
				盤	3
				Ⅰ－四耳壺	1
				Ⅲ－軍持	1
				壺	1
				不明	1
		準A群			5
		B群	四耳壺		1
			袋物		4
		C群	捏鉢		1
		D群			2
		不明			4
	青白磁	合子蓋			1
	天目碗				3
	明染付碗				2
	明染付皿				2
	李朝粉青沙器不明				1
	李朝陶器壺				1

輸入陶磁	李朝陶器碗				1
	朝鮮陶器甕				1
	朝鮮陶器不明				2
国産品	古墳土師器				3
	奈良・平安	須恵器	坏身		2
			坏		3
			高台付坏		1
			大型容器		3
			不明		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	262
				糸切小皿	52
				坏	223
				小皿	20
				不明	78
			その他	土鍋	13
				擂鉢	4
				鉢	1
				不明	15
		須恵質	鉢		4
			大型容器		1
			不明		2
		瓦器	椀		3
		瓦質	擂鉢		4
			鉢		11
			火舎		5
			不明		14
		陶器	備前甕		6
			備前擂鉢		1
			瀬戸おろし皿		1
			甕		10
			不明		2
	近世	唐津			1
		磁器			3
		土製品			1
		七輪			1
		土鍋			1
		行平			1
	丸瓦				1
	平瓦				11
	備考	石鍋			2
		鉄釘			19
		環状鉄器			1
		鉄器			1
		鉄滓			
		鞴土			

I面包含層出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	9
			Ⅱ	23(3)
			Ⅳ－1	1(1)
			Ⅳ－2	4(4)
			Ⅳ－4	2(2)
			Ⅳ	50(4)
			Ⅴ－1－a	36
			Ⅴ－1－b	2
			Ⅴ－2－a	4
			Ⅵ－1	29
			Ⅵ－3	2
			Ⅵ－4	2
			Ⅵ－5	4(2)
			Ⅴ～Ⅵ	37(2)
			Ⅶ～2	1
			Ⅸ	8(2)

輸入陶磁	白磁	碗	口ハゲ		1
			未分類		1(1)
			不明		216(1)
			明代		1
		皿	高台付Ⅰ		5(1)
			Ⅱ		17(7)
			平底0－b		1(1)
			0－C		2
			Ⅱ－4		2
			Ⅱ		28(4)
			Ⅲ		1
			Ⅴ		1
			Ⅵ－1		3(2)
			口ハゲ		34(2)
			不明		14(5)
		明代高台付			4(4)
	袋物				53
	水注				1
	鉢				1
	おとし蓋？				1
	合子蓋				1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－1	28(1)
				Ⅰ－2	2
				Ⅰ－3	25(4)
				Ⅰ－4	10
				櫛描蓮弁文	1
				Ⅰ－不明	48(4)
				Ⅱ－1	57(1)
				Ⅱ－2	1
				Ⅲ－蓮弁文	1
				Ⅲ	7(1)
				Ⅳ	1(1)
				Ⅴ－1	2
				Ⅴ	6
				Ⅴ－3	9
				Ⅴ	33(9)
				Ⅵ－1	1
				Ⅵ－2	5
				Ⅴ～Ⅵ	6
				不明	13
				東口碗	1
			小碗	Ⅱ	1
				Ⅲ	1
				不明	3
			皿	高台付	7(1)
				平底Ⅰ－1	1
				Ⅰ－2	1(1)
				Ⅰ－魚文	2(1)
				不明	8(2)
				碁笥底	2
			Ⅲ－坏		2(1)
			Ⅴ－盤		16
			Ⅴ～Ⅵ袋物		2
			袋物		5
			香炉		1
		同安	碗	Ⅰ	4(1)
				Ⅱ	67(5)
				荒い縦線文	5(1)
				不明	11
			皿	Ⅰ－1	10(6)
				Ⅱ－1	3(1)
				不明	7
		越州	碗		5(1)
	不明碗				2

輸入陶磁	陶器	A群	Ⅰ-盤-1		3
			Ⅰ-盤-2		10
			緑釉盤		1
			盤		65
			Ⅰ-四耳壺		24
			小口瓶		7
			Ⅲ-軍持		2
			Ⅲ-鉢		1
			蓋		1
			袋物		3
			不明		8
		準A群	茶釉四耳壺		76
			無釉四耳壺		18
		B群	四耳壺		1
			長瓶		2
			短頸壺		4
			袋物		138
			鉢		1
			皿		8(1)
		C群	鉢		1
			捏鉢1		1
			捏鉢3		3
			捏鉢		11
		D群	D-4		1
			不明		37
		不明			9
	青白磁	碗			12(3)
		皿			9(1)
		梅瓶			1
		袋物			2
		壺			1
		合子蓋			3
		不明			1
	天目碗				18(1)
	明染付碗				24(3)
	明染付小碗				2(1)
	明染付高台付皿				5(1)
	明染付蓋筒底皿				2
	高麗青磁碗				1
	李朝粉青沙器碗				5
	李朝粉青沙器袋物				3
	李朝粉青沙器不明				2(1)
	李朝白釉碗				1(1)
	李朝碗				9
	李朝茶緑釉壺				22
	李朝大型容器				5
	唐津あるいは朝鮮				1
	ベトナム染付皿				2(2)
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		11
			坏身		26
			坏		15
			袋物		26
			大型容器		92
			不明		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切小皿	1
				ヘラ切	1
				糸切坏	1774
				糸切小皿	871
				坏	715
				小皿	330
				小皿b	1
				高台付	12
				灯明皿	3
				不明	363

国産品	平安末～中世	土師器	その他	黒色土器椀	2
				土鍋	82
				擂鉢	13
				鉢	3
				不明	104
		須恵質	鉢		17
		瓦器	椀		10
			不明		3
		瓦質	鉢		146
			擂鉢		56
			片口		1
			火舎		26
			不明		46
		陶器	備前甕		84
			備前擂鉢		17
			備前不明		26
			瀬戸鉢		1
			瀬戸袋物		1
			瀬戸不明		1
			常滑甕		2
			甕		147
			擂鉢		3
	近世	伊万里			20
		唐津			9
		波佐見			4
		磁器			182
		陶器			81
		大型陶器			80
		土鈴			3
		土製品			23
		七輪			96
		擂鉢			21
		火舎			10
		鍋			1
	軒丸瓦				1
	丸瓦				13
	平瓦				134
	瓦玉				1
	瓦加工品				1
	備考	石鍋			13
		石錘			1
		石製スタンプ			1
		石鍋加工品			1
		硯			1
		石玉			1
		砥石			3
		ガラス玉			1
		鉄釘			106
		刀子			10
		環状鉄器			3
		鉄滓			7
		鉄滓			
		銅銭			24
		煙管の吸口			1
		銅製品			9
		銅鍋			1
		土錘			1
		土鈴			1
		土製品			1
		焼塩壺			3
		鞴			2
		壁土			

Ⅱ面

1144号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ-1		3
			Ⅳ-1		1(1)
			Ⅳ		4
			Ⅴ		3
			Ⅴ～Ⅵ		1
			Ⅸ		2(1)
			不明		24(1)
		皿	高台付		1(1)
			平底Ⅱ		7
			Ⅲ		1
		袋物			6
	青磁	龍泉	碗	Ⅱ-1	2
				Ⅴ-2	1
				不明	8
		同安	碗	Ⅰ	1
			皿	Ⅰ-1	2
				Ⅱ-1	1
		越州	碗		1(1)
	陶器	A群	Ⅰ-盤-2		2
			盤		8
			Ⅰ-四耳壺		2
			小口瓶		3
		準A群	茶釉四耳壺		6
			無釉四耳壺		1
		B群	袋物		5
	青白磁	袋物			1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏身		3
			大型容器		13
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	46
				坏	43
				小皿	9
				不明	40
			その他	不明	12
		瓦器	椀		1
		瓦質	鉢		2
			不明		6
		陶器	甕		2
	平瓦				5
	備考	石鍋			2
		鉄器			2
		鉄滓			

1151号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅳ	1
			Ⅵ	1
			Ⅸ	1
			不明	4
		皿	不明	3
		小壺		1
		袋物		1

国産品	奈良・平安	須恵器	坏身		1
			坏		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	38
				糸切小皿	7
				坏	15
				小皿	3
				高台付	1
				不明	2
			その他	不明	1
		須恵質	鉢		1
		瓦質	壺		1
			不明		1
	備考	石鍋			1
		鉄釘			2

1153号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅳ-1		1
			不明		1
		皿	平底Ⅱ-4		1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ-3	1
				Ⅱ-1	2
				不明	1
			Ⅲ-小鉢		1
	陶器	A群	盤		3
		B群	袋物		3
		D群			1
	青白磁	合子蓋？			1
国産品	奈良・平安	須恵器	袋物		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	79
				糸切小皿	35
				坏	93
				小皿	3
			その他	土鍋	5
				不明	1
		瓦器	不明		1
		陶器	瀬戸不明		1
			天目碗		1
			甕		2
	平瓦				2
	備考	砥石			1
		鉄釘			3
		鉄器			1
		銅製品			1

1158号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅸ	2
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ-3	1
			Ⅲ-小鉢		1(1)
		同安	碗	Ⅱ	1
	陶器	B群	袋物		2

国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	72
				糸切小皿	32
				坏	46
				小皿	5
				高台付	2
		須恵質	鉢		1
		陶器擂鉢			1
	近世	陶器大型容器			2
	平瓦				1
	備考	石錘			1
		鉄釘			3
		刀子			1
		銅銭			1
		銅製品			1

1160号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅳ		1
			不明		4
		皿	高台付Ⅱ		1
			平底 口ハゲ		1
	青磁	龍泉	碗	Ⅲ	2(1)
				不明	1
		同安	皿	Ⅰ－1	1(1)
国産品	奈良平安	須恵器	大型容器		1
			不明		2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	52
				糸切小皿	22
				坏	45
			その他	土鍋	3
				不明	5
		須恵質	鉢		2
		陶器	甕		1
			壺		2
	平瓦				3
	備考	鉄釘			3
		銅銭			1
		銅製品			1

1162号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅳ		2
			Ⅴ－1－a		3
			不明		9
		袋物			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅱ－1	3
				不明	1
	陶器	A群	盤		5
			小口瓶		2
		準A群			1
		B群	袋物		4
国産品	奈良平安	須恵器	大型容器		4
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	69
				糸切小皿	16
				坏	17
				小皿	3
				不明	6
			その他	鉢	1
				不明	2

国産品	平安末～中世	瓦器	埦		2
		瓦質	鉢		3
		陶器	甕		14
	平瓦				2
	備考	鉄釘			3
		棒状鉄器			1
		鉄滓			

1163号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅳ		1
			Ⅵ－1		2
			不明		4
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－3	1(1)
				Ⅴ－3	1
			皿	不明	1
	陶器	A群	盤		3
		準A群	茶釉四耳壺		3
			無釉四耳壺		1
		B群	袋物		1
		D群			2
	李朝陶器碗				1(1)
国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	59
				糸切小皿	22
				坏	45
				小皿	3
		瓦質	片口		1
			鉢		6
	平瓦				3
	備考	石鍋			1
		鉄釘			8
		鉄器			1
		鉄滓			
		銅銭			1

1169号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ		1
			Ⅸ		2
			不明		2
		皿	平底Ⅱ		2
	青磁	龍泉	碗	Ⅱ－1	1
			Ⅴ～Ⅵ小鉢		1(1)
		同安	碗	Ⅰ	1
				Ⅱ	1
			皿	不明	1
	陶器	A群	盤		2
		準A群			1
		B群	袋物		1
		C群	捏鉢		3
		D群			1

国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	62
				糸切小皿	17
				坏	86
				不明	13
			その他	不明	1
		須恵質	鉢		1
		瓦器	埦		1
	備考	石鍋			1
		硯			1
		鉄釘			6
		鉄器			1
		鉄滓			
		銅銭			1

1170号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	皿	高台付Ⅱ		1(1)
			平底 口ハゲ		1
		袋物			2
		器種不明			1
	青磁	龍泉	碗	不明	1
	陶器	準A群			2
		B群	袋物		1
	天目碗				1
国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	149
				糸切小皿	43
				坏	108
				小皿	9
				高台付	1
				不明	34
			その他	土鍋	2
				不明	1
		須恵質	鉢		3
		陶器	甕		1
	平瓦				7
	瓦玉				2
	備考	鉄釘			12
		板状鉄器			1
		銅銭			3
		銅製品			1

1177号土壙出土遺物75

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ		1
			Ⅳ－2		1
			Ⅴ－1－b		1
			Ⅴ－2－a		1
			Ⅵ－1		3
			Ⅴ～Ⅵ		1
			不明		23
		小碗			1(1)
		皿	高台付Ⅱ		3(1)
			平底 Ⅵ－1		1(1)
			口ハゲ		4(1)
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－3	1
				Ⅰ－4	2
				Ⅰ－不明	7(1)
				Ⅱ－1	2

輸入陶磁	青磁	龍泉	碗	Ⅲ	1
				Ⅲ－蓮弁文	2
				Ⅳ	1(1)
				Ⅵ	1
				不明	4
			袋物		1
			Ⅴ－器種不明		1
		同安 越州	碗	Ⅱ	3
			盤口壺		1
	陶器	A群	Ⅰ－盤－2		1
			盤		4
			Ⅰ－四耳壺		3
			Ⅰ－袋物		1
			不明		1
		準A群			5
		B群	袋物		15
		D群			7
	青白磁	碗			2
		皿			1
	明染付碗				2(1)
	明染付高台付皿				6(1)
	朝鮮不明				1
国産品	奈良平安	須恵器	袋物		1
			大型容器		5
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	63
				糸切小皿	25
				坏	63
				小皿	3
				不明	12
			その他	土鍋	3
				不明	13
		須恵質	鉢		1
		瓦器	埦		1
		瓦質	鉢		6
			不明		1
		陶器	備前甕		4
			甕		11
	近世	擂鉢			1
	平瓦				7
	備考	石錘			1
		鉄釘			15
		刀子			1
		鉄滓			

1177号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅳ		1
		皿	平底口ハゲ		1
			不明		1
	青磁	龍泉	碗	Ⅱ－1	1
				Ⅲ	1
		同安	碗	Ⅱ	1(1)
	陶器	A群	Ⅰ－四耳壺		2
		準A群			1
国産品	奈良平安	須恵器	坏蓋		1
			坏		1

国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	76
				糸切小皿	18
				坏	31
				小皿	25
				不明	62
		須恵質	鉢		1
		瓦質	鉢		1
	平瓦				2
	備考	鉄釘			2
		刀子			2
		鉄器			2
		銅銭			3
		銅製品			1

1178号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ		1
			Ⅳ		1
			不明		4
		皿	平底Ⅳ	口ハゲ	1
					1
		袋物			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－4	1
				Ⅱ－1	2
				Ⅲ	2
		同安	碗	Ⅱ	1
			皿	Ⅱ－1	1
	陶器	A群	Ⅰ－盤－1		1
			盤		1
			不明		2
		B群	水注		1
			袋物		1
			鉢		1
	青白磁	碗			1
		合子身			1
国産品	奢侈	須恵器	坏蓋		1
			袋物		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	47
				糸切小皿	26
				坏	35
				小皿	8
				不明	34
			その他	土鍋	1
		瓦質	鉢		6
			不明		2
	近世	擂鉢			1
	備考	石鍋			1
		鉄釘			1
		銅銭			5

1179号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	皿	不明		2
		袋物			1
		蓋			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－不明	1
				Ⅱ－1	2
				Ⅲ	1
			Ⅲ－袋物		1

輸入陶磁	青磁	同安	碗	Ⅱ	4
			皿	不明	1
	陶器	A群	盤		1
		準A群			1
		D群			11
	青白磁	碗			1
国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	49
				糸切小皿	10
				坏	42
				不明	9
			その他	不明	6
		瓦質	火舎		6
			鉢		1
			不明		1
		陶器	擂鉢		1
			不明		3
	平瓦				1
	備考	鉄釘			19
		刀子			1
		鉄器			1
		鉄滓			
		銅銭			1
		銅製品			1
		壁土			

1182号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1		2
			Ⅱ		3(1)
			Ⅳ		5
			Ⅴ－1－a		1
			Ⅵ－1		3
			Ⅵ－5		1
			Ⅸ		1(1)
			不明		38(3)
		皿	平底Ⅱ		4
			Ⅴ		1
			Ⅵ		2
			口ハゲ		16(6)
		袋物			2
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－1	2
				Ⅰ－3	2
				Ⅰ－4	2
				Ⅰ－不明	11
				Ⅱ－1	11(1)
				Ⅲ－蓮弁文	1
		同安	碗	Ⅰ	2
				Ⅱ	5(3)
			皿	不明	6
		越州	袋物		1
	陶器	A群	Ⅰ－盤－2		5
			小口瓶		2
		準A群	茶釉四耳壺		10
			無釉四耳壺		5
		B群	袋物		24
			鉢		1
			皿		2

輸入陶磁	陶器	C群	袋物		1
			捏鉢3		1
			捏鉢		1
		D群			12
		陶器碗あるいは同安碗			1
	青白磁	碗			1
		皿			1
		合子身			1
		不明			1
	天目碗				2
国産品	奢侈	須恵器	坏身		5
			大型容器		9
			不明		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	815
				糸切小皿	547
				坏	424
				小皿	259
				不明	712
			その他	土鍋	5
				行平	1
				不明	12
		須恵質	鉢		5
		瓦器	埦		7
		瓦質	鉢		10
			不明		1
		陶器	甕		7
	近世	磁器			1
		陶器			2
	平瓦				7
	備考	石鍋			6
		砥石			4
		石製品			1
		鉄釘			41
		刀子			2
		板状鉄器			1
		棒状鉄器			3
		篦笥の取手			1
		鉄器			8
		鉄滓			
		銅銭			34
		銅製品			1
		壁土			

1300号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－2		2
			Ⅱ		5(1)
			Ⅳ－2		1(1)
			Ⅳ		15(1)
			Ⅴ－1－a		8
			Ⅴ－2－a		1
			Ⅵ－1		2
			Ⅵ－5		1(1)
			Ⅴ～Ⅵ		5(5)
			Ⅸ		11(2)
			口ハゲ		4
			不明		39
		皿	高台付Ⅰ		1
			Ⅱ		1(1)
			平 ⅢⅡ		5(2)
			口ハゲ		2(1)

輸入陶磁		袋物			3
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－1	4(1)
				Ⅰ－3	1
				櫛描蓮弁文	1
				Ⅰ－不明	3
				Ⅱ－1	3 4
				Ⅲ	(1)
				Ⅵ	1
			皿	Ⅰ－2	1
				Ⅴ－稜花	1
				Ⅲ－坏	1
				Ⅲ－小鉢	1
				Ⅴ－蓮弁文盤	1
				Ⅴ	1
				袋物	1
				香炉	1
		越州	碗		5(1)
			袋物		1
	陶器	A群	Ⅰ－盤－2		3
			盤		9
			袋物		4
		準A群			13
		B群	短頸壺		2
			袋物		9
		D群			4
		陶器不明			3
	青白磁	碗			1(1)
		皿			3(2)
		不明			1
	明染付碗				3
	明染付香炉				1
	高麗あるいは龍泉碗				1
	李朝粉青沙器壺				1
	李朝陶器不明				1
国産品	奈良・平安	土師器	甑		1
			不明		7
		須恵器	坏蓋		4
			坏身		19
			大型容器		27
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	1
				糸切坏	91
				糸切小皿	46
				坏	94
				小皿	6
				高台付	7
				高坏	3
			黒色土器埦		1
			その他	不明	4
		須恵質	片口		7
		瓦器	埦		10
		瓦質	擂鉢		4
			火舎		2
		陶器	備前甕		11
			甕		2
			擂鉢		2
	近世	陶器			2
		擂鉢			1
		土師質			3
	平瓦				8
	備考	鉄釘			1

上記以外のⅡ面土壙

輸入陶磁器	白磁	碗	不明		2
	青磁	龍泉	碗	Ⅵ	1
		同安	碗	Ⅱ	1
			皿	不明	1
	陶器	A群	不明		2
		B群	袋物		4
		D群			1
国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	69
				糸切小皿	21
				坏	45
				小皿	4
				不明	25
			その他	土鍋	3
				不明	1
		瓦器	椀		1
		瓦質	擂鉢		2
			鉢		2
		陶器	備前甕		1
	平瓦				1
	備考	鉄釘			4
		鉄滓			
		銅製品			1

169号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1		4
			Ⅱ		18(4)
			Ⅳ		27(2)
			Ⅴ－1－a		12
			Ⅴ－1－b		1
			Ⅵ－1		10
			Ⅵ－2		1
			Ⅵ－3		3
			Ⅵ－5		3(2)
			Ⅴ～Ⅵ		7(2)
			Ⅶ－2		1(1)
			Ⅸ		13
			東口碗		1
			不明		69(1)
			明代		1(1)
		皿	高台付Ⅱ		1
			Ⅲ		1
			不明		6
			平 底0		1(1)
			Ⅱ		26(1)
			Ⅲ		1
			Ⅴ		1(1)
			Ⅵ－1		1(1)
			口ハゲ		20(4)
			不明		1
	水注				2
	袋物				12
	鉄絵鉢				1

輸入陶磁	白磁	角型小鉢			1
		蓋			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅱ－1	11
				Ⅰ－3	11
				Ⅰ－4	2
				Ⅰ－不明	4(1)
				Ⅱ－1	21
				Ⅲ	4(2)
				Ⅲ－蓮弁文	6
				Ⅳ	2
				Ⅴ－1	1(1)
				Ⅴ	5
			小碗		1(1)
			皿	Ⅰ－2	2(1)
				Ⅰ－不明	4
				Ⅴ－稜花	1
				Ⅲ－盤	4
				Ⅲ－杯	4
				Ⅴ～Ⅵ盤	1
		同安	碗	Ⅰ	2
				Ⅱ	17
				荒い縦線文	2(1)
			皿	Ⅰ－1	5(1)
				Ⅱ－1	1
				不明	2
		越州	碗		1
			袋物		1
	陶器	A群	Ⅰ－盤－1		1
			Ⅰ－盤－2		2
			盤		11
			Ⅰ－四耳壺		5
			小口瓶		10
			黒釉壺		1
		準A群			20
		B群	四耳壺		1
			袋物		45
			鉢		2
			皿		1
		C群	坩堝		1
			捏鉢		2
			不明		2
		D群			24
	青白磁	小壺			1
		不明			8(1)
	李朝粉青沙器Ⅲ				1
	李朝粉青沙器不明				3
	李朝陶器高台付Ⅲ				1
	李朝黒釉陶器				1
国産品	古墳土師器				1
	奈良・平安	土師器	高坏		1
		須恵器	坏蓋		8
			坏身		23
			坏		8
			袋物		17
			大型容器		35
		緑釉椀			1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	780
				糸切小皿	294
				坏	542
				小皿	15
				高台付	10
				不明	7

国産品	平安末～中世	土師器	その他	黒色土器椀	1
				土鍋	7
				擂鉢	1
				鉢	12
		須恵質	鉢		7
		瓦器	椀		23
		瓦質	擂鉢		17
		陶器	火舎		5
			不明		4
			備前甕		41
			備前擂鉢		12
			瀬戸おろし皿		4
			瀬戸		1
			常滑甕		1
			甕		1
	近世	磁器			3
		火舎			5
		不明			5
	丸瓦				1
	平瓦				30
	備考	石鍋			6
		砥石			1
		鉄釘			9
		刀子			1
		鉄器			4
		銅銭			2

170号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ		5(1)
			Ⅳ－2		1(1)
			Ⅳ		2(1)
			Ⅴ－1－a		1
			Ⅴ～Ⅵ		1(1)
			不明		16
		皿	高台付不明		2
			平 底Ⅲ		1
			Ⅳ－1		1
			不明		2
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－1	2
				Ⅱ－1	2
				Ⅱ－2	1
				Ⅴ	1
				不明	5
			皿	不明	1
		同安	碗	Ⅱ	2(1)
		越州	碗		1
			皿		1
	陶器	A群	盤		5
		準A群			1
		B群	袋物		1
		C群	捏鉢		1
		D群			4
	青白磁	不明			2

輸入陶磁	天目碗				2
	高麗碗				1
	中国磁器茶釉碗				1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		3
			坏身		4
			坏		3
			袋物		2
			大型容器		6
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	34
				糸切小皿	18
				坏	20
				小皿	7
				高台付	1
				不明	28
				黒色土器椀	2
		瓦質	擂鉢		1
			鉢		4
		陶器	備前甕		3
	近世	陶器			1
		坩堝			1
	平瓦				3
	備考	鉄釘			4
		銅銭			1
		銅製品			1
		焼塩壺			1

171号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1		1
			Ⅱ		4(1)
			Ⅳ－2		2(2)
			Ⅳ		27(3)
			Ⅴ－1－a		13
			Ⅴ－1－b		3
			Ⅴ－2－a		4
			Ⅴ－2－b		1
			Ⅵ－1		11
			Ⅵ－5		5(3)
			Ⅴ～Ⅵ		4(4)
			Ⅸ－3		1
			口ハゲ		1
			不明		7(1)
		皿	高台付Ⅰ		1
			Ⅱ		18
			Ⅲ		1
			Ⅴ		1
			平 底0－蕉葉文		1
			Ⅱ		18
			口ハゲ		12(1)
	袋物				12
	鉄絵鉢				1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－1	12
				Ⅰ－2	1
				Ⅰ－3	6
				Ⅰ－4	1
				Ⅱ－1	8
				Ⅱ	1
				Ⅲ	4
				Ⅴ－1	1(1)
				Ⅴ	1
				不明	16
			皿	高台付	1

輸入陶磁	青磁	龍泉	皿	平底Ⅰ-1	1
				Ⅰ-2	1
				Ⅰ-3	1
				Ⅰ-魚文	1
				Ⅲ-小鉢	4
				Ⅲ-蓋	1
				袋物	2
				香炉	1
		同安	碗	Ⅰ	1
				Ⅱ	13(2)
				荒い縦線文	1
			皿	Ⅱ-1	1
				不明	2
	陶器	A群		盤	11
				Ⅰ-四耳壺	6
				小口瓶	3
				Ⅲ-行平	1
		準A群			33
		B群		水注	2
				袋物	31
				皿	1
		C群		鉢	1
				捏鉢3	1
				捏鉢	2
				坩場	1
				黒釉不明	2
		D群			1
	青白磁	皿			2
		不明			1
	天目碗				3
	明染付碗				3
	明染付皿				1
	李朝粉青沙器碗				2
	李朝粉青沙器袋物				1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏・皿	坏蓋	6
				坏身	9
				坏	2
				大型容器	19
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	2
				糸切坏	142
				糸切小皿	84
				坏	75
				小皿	61
				高台付	4
				不明	196
				黒色土器埦	3
			その他	土鍋	14
				壺	2
				不明	1
		須恵質	鉢		4
		瓦器	埦		14
		瓦質	擂鉢		2
			捏鉢		1
		陶器	備前甕		30
			甕		5
			緑釉陶器		1
	近世	磁器			3
		陶器			9
		土製品			2
		七輪			3
		火舎			2
	平瓦				15

国産品	備考	石錘	1
		鉄釘	5
		鉄器	1
		銅銭	2
		銅製品	1
		土錘	1

172号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ-1	2
				Ⅱ	8(3)
				Ⅳ	10
				Ⅴ-1-a	7
				Ⅴ-1-b	1
				Ⅵ-1	2
				Ⅵ-2	1
				Ⅵ-3	2
				Ⅵ-5	2(2)
				Ⅸ	2
				不明	24(1)
		皿	高台付	Ⅱ	2
				Ⅲ	3
				潮州窯系	1
			平底	Ⅱ-4	1
				Ⅱ	2(2)
				Ⅵ-1	1
				口ハゲ	1
		鉄絵鉢			1(1)
		袋物			3
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ-3	1(1)
				Ⅰ-4	1
				Ⅰ-不明	5
				Ⅱ-1	2
				Ⅲ	6
				Ⅴ-1	2
				不明	1
			Ⅲ-袋物		1
			袋物		1
		同安	碗	Ⅱ	2
			皿	Ⅰ-1	1(1)
		青磁蓋			1
	陶器	A群		Ⅰ-盤-1	1
				盤	3
				Ⅲ-行平	1
				袋物	2
		準A群			5
		B群	袋物		9
			皿		2
		C群	擂鉢3		1
			捏鉢		1
		D群			11
	李朝碗				1
	李朝陶器袋物				3
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		3
			坏身		8
			袋物		4
			大型容器		6
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	2
				糸切坏	13
				糸切小皿	26
				坏	51
				小皿	6
				高台付	3
				不明	11
		その他	擂鉢		1
			捏体		7
		須恵質	鉢		1
		瓦器	埦		2
		瓦質	擂鉢		3
			不明		1
		陶器	備前甕		13
	近世	擂鉢			1
		大型容器			3
	平瓦				5
	備考	鉄滓			
		土錘			1
		焼塩壺			2

175号井土出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		0-1	1
				Ⅱ-1	33
				Ⅱ	42(7)
				Ⅳ-1	1(1)
				Ⅳ-2	8(5)
				Ⅳ	63(4)
				Ⅴ-1-a	46
				Ⅴ-1-b	3
				Ⅴ-2-a	4
				Ⅵ-1	17
				Ⅵ-3	4
				Ⅵ-4	1
				Ⅵ-5	1
				Ⅴ～Ⅵ	16(10)
				Ⅸ-3	3(2)
				Ⅸ	13(1)
				特殊	1
				潮州窯系	1
				不明	147(10)
		皿	高台付	Ⅰ	3(3)
				Ⅱ	6(1)
				Ⅲ	1
				明代	1(1)
				不明	14(1)
			平底	Ⅱ-1	6
				Ⅱ-4	3
				Ⅱ	33(7)
				Ⅳ-2	1
				Ⅴ	1
				Ⅵ-1	8(3)
				Ⅵ	1
				口ハゲ	6(1)
				枢府	1
				不明	1
		四耳壺			5
		水注			1
		袋物			15
		鉄絵鉢			1
		鉢			1
		小壺			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ-1	32(4)
				Ⅰ-3	22
				Ⅰ-4	3
				Ⅰ-不明	2

輸入陶磁	青磁	龍泉	碗	Ⅱ-1	22(1)
				Ⅲ	4(1)
				Ⅴ-1	1
				Ⅴ-2	9
				Ⅴ-3	3
				Ⅴ	10
				Ⅵ-2	2
				不明	9
			皿	高台付輪花	3(2)
				平底Ⅰ-3	1
				不明	2
				碁笥底	1
				V稜花	1
				Ⅲ-小鉢	10(2)
				Ⅲ-盤	1
				Ⅴ-盤	1
				香炉	1
				袋物	1
		同安	碗	Ⅰ	5
				Ⅱ	42(3)
				荒い縦線文	5
			皿	Ⅰ-1	5(2)
				Ⅱ-1	2
				不明	5
		越州	碗		1(1)
			袋物		1
			不明		1
	陶器	A群		Ⅰ-盤-1	4
				Ⅰ-盤-2	3
				盤	36
				Ⅰ-四耳壺	5
				小口瓶	2
				Ⅲ-行平	1
				黒釉おとし蓋	1
				不明	3
		準A群			39
		B群		水注	1
				袋物	14
				鉢	2
				皿	2
		C群		捏鉢1	1
				捏鉢3	1
				捏鉢	8
		D群			21
		茶入れ			1
	青白磁	碗			3
		皿			3
		合子蓋			1
		不明			19
	天目碗				1
	李朝粉青沙器不明				3
	李朝白釉碗				1
	李朝陶器碗				3
	朝鮮碗				1
	朝鮮袋物				3
	朝鮮不明				3
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		15
			坏身		25
			坏		6
			袋物		8
			大型容器		39
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	13
				糸切坏	265
				糸切小皿	144

国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	坏	134
				小皿	156
				高台付	4
				不明	173
			その他	土鍋	17
				壺	15
				鉢	2
				不明	17
		須恵質		片口	1
				鉢	19
				大型容器	3
		瓦器		埦	25
		瓦質		擂鉢	19
				捏鉢	37
				火舎	4
				不明	2
		陶器		備前甕	12
				備前壺	2
				備前擂鉢	3
				甕	13
				壺	1
				擂鉢	1
				不明	1
	近世			磁器	25
				陶器	11
				土鍋	2
				七輪	2
				擂鉢	4
				火舎	5
	平瓦				38
	備考			石鍋	4
				石製品	1
				石球	1
				鉄釘	18
				刀子	3
				環状鉄器	1
				板状鉄器	2
				鉄器	11
				鉄滓	
				土錘	1
				鞴	2

176号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	1
			Ⅱ	3
			Ⅳ	2
			Ⅴ－1－a	4
			Ⅵ－1	2
			Ⅴ～Ⅵ	2(1)
			Ⅸ	3(1)
			不明	11
		皿	高台付Ⅱ	2
			平　底Ⅱ	3(1)
		鉢絵鉢		1
		袋物		2
	青磁	龍泉 碗	Ⅰ－1	1
			Ⅰ－3	2
			Ⅰ－4	2
			Ⅰ－不明	1
			不明	1
		皿	不明	1

輸入陶磁	青磁	同安	碗	Ⅱ	1
	陶器	A群	盤		5
			Ⅲ－行平		1
			茶褐釉袋物		2
		準A群			3
		B群	袋物		3
		D群			3
	青白磁	不明			1
	明染付高台付皿				1
	明染付不明				1
	李朝粉青沙器袋物				1
	李朝粉青沙器不明				1
国産品	奈良～平安	土師器	皿		1
		須恵器	坏身		5
			大型容器		5
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	1
				糸切坏	34
				糸切小皿	12
				坏	36
				特殊坏	1
				黒色土器埦	1
			その他	土鍋	1
				擂鉢	2
				不明	10
		須恵質	擂鉢		1
			鉢		1
			不明		1
		陶器	擂体		1
	近世	磁器			3
		陶器			2
	平瓦				1
	備考	石鍋加工品			1
		鉄釘			2
		鉄器			1
		鉄滓			

19号溝出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	1
			Ⅴ－1－a	2
			Ⅸ	1
			不明	3
		皿	高台付Ⅱ	3
			平　底Ⅲ	1(1)
			口ハゲ	1(1)
	青磁	碗	同安あるいは その他の青磁	1(1)
	陶器	B群	袋物	4
国産品	奈良・平安	須恵器	坏身	2
			大型容器	2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	11
				糸切小皿	5
				坏	11
				小皿	1
			その他	不明	1
		須恵質	鉢		1

国産品	平安末～中世	瓦器	埦		1
	備考	環状鉄器			1
		鉄器			1

20号溝出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ		1(1)
			Ⅴ－1－a		1
			Ⅵ－1		1
			Ⅴ～Ⅵ		1
			Ⅸ		1
			不明		8
	青磁	龍泉 碗	Ⅰ－3		1
			Ⅰ－不明		3
			Ⅱ－1		1
		Ⅲ－小鉢			1
		同安 碗	Ⅱ		2
		同安 皿	Ⅱ－1		1(1)
	陶器	A群	盤		2
			Ⅰ－四耳壺		1
		準A群			2
		B群	短頸壺		1
			袋物		1
			Ⅲ		1
		D群			1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		1
			不明		4
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	14
				坏	11
	平瓦				1
	備考	銅銭			2

Ⅱ面ピット出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1		2
			Ⅱ		2
			Ⅳ		11
			Ⅴ－1－a		3
			Ⅴ		5
			Ⅵ－1		2
			Ⅵ－3		2
			Ⅵ		4
			Ⅴ～Ⅵ		6(2)
			Ⅶ－2		1
			Ⅸ－2		1
			Ⅸ－3		1
			Ⅸ		3
			未分類		1
			不明		44(1)
		皿	高台付Ⅱ		3
			平　底Ⅱ		4(1)
				Ⅳ－1	1
				Ⅵ－2	2
				口ハゲ	3(1)
				不明	1
		袋物			3
	青磁	龍泉 碗	Ⅰ－1		1
			Ⅰ－2		1
			Ⅰ－3		5(1)

輸入陶磁	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－不明	8
				Ⅱ－1	6
				Ⅱ－2	1
				Ⅲ	2
				Ⅴ	1
				不明	9
			皿	不明	2
			Ⅲ－不明		5
			袋物		2
		同安	碗	Ⅰ	2
				Ⅱ	7(1)
				不明	3
			皿	不明	3
	陶器	A群	Ⅰ－盤－1		9
			Ⅰ－盤－2		2
			盤		3
			Ⅰ－四耳壺		3
			小口瓶		2
			袋物		1
		準A群			21
		B群	四耳壺		6
			壺		2
			短頸壺		2
			袋物		16
			鉢		3
		C群	袋物		4
			捏鉢		1
			坩堝		1
			不明		2
		D群			4
		茶入れ			1
		不明			2
	青白磁	碗			1
		皿			2
		不明			1
	天目碗				1
	李朝皿				1
	李朝白釉壺				1
	朝鮮碗				1
	朝鮮袋物				1
	朝鮮陶器不明				5
国産品	古墳土師器				1
	奈良・平安	須恵器	坏蓋		2
			坏身		1
			坏あるいは皿		1
			袋物		1
			大型容器		3
			不明		6
	製塩土器				1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	1
				糸切坏	767
				糸切小皿	182
				坏	464
				小皿	106
				灯明皿	2
				高台付	4
				不明	238
				黒色土器埦	1
			その他	土鍋	15
				火舎	3
				鉢	3
				不明	52

国産品	平安末～中世	須恵質	擂鉢	1
			鉢	8
			大型容器	1
			不明	3
		瓦器	椀	2
			皿	4
			不明	1
		瓦質	擂鉢	4
			鉢	13
			火舎	3
			不明	11
		陶器	備前甕	1
			甕	6
			壺	1
			擂鉢	1
			不明	6
	近世	磁器		7
		陶器		6
		陶器大型		6
		坩堝？		1
	軒丸瓦			1
	平瓦			17
	備考	石鍋		2
		砥石		2
		鉄釘		47
		刀子		1
		環状鉄器		1
		板状鉄器		1
		鉄器		6
		銅銭		6
		銅製品		2

Ⅱ面包含層出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	0 - 1	1
			Ⅱ - 1	19
			Ⅱ - 2	1
			Ⅱ	48(8)
			Ⅳ - 1	21(6)
			Ⅳ - 2	14(14)
			Ⅳ	109(9)
			Ⅴ - 1 - a	90
			Ⅴ - 1 - b	11
			Ⅴ - 2 - a	3
			Ⅴ - 2 - b	1
			Ⅵ - 1	106(2)
			Ⅵ - 2	1
			Ⅵ - 3	4
			Ⅵ - 4	1
			Ⅵ - 5	19(14)
			Ⅵ	1
			Ⅴ～Ⅵ	104(60)
			Ⅶ - 1	6(1)
			Ⅶ - 2	4
			Ⅶ	1
			Ⅸ	43(10)
			口ハゲ	1
			未分類	4(1)
			不明	422(3)
		小碗		2(2)
		皿	高台付Ⅰ	1
			Ⅱ	58(23)
			不明	1

輸入陶磁	白磁	皿	平底 0 - c	2(2)
			Ⅱ - 2	2
			Ⅱ - 4	2
			Ⅱ	66(7)
			Ⅲ	1
			Ⅵ - 1	32(7)
			Ⅵ	13
			口ハゲ	94(13)
			不明	18(1)
		鉄絵鉢		2
		四耳壺		4
		水注		2
		袋物		71
		高坏		1
		小壺		3
		白磁あるいは瀬戸		2
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ - 1	92(12)
				Ⅰ - 2	6(4)
				Ⅰ - 3	153(19)
				Ⅰ - 4	69(7)
				Ⅰ - 5	5(1)
				蓮弁櫛描文	5(1)
				Ⅰ - 不明	92(1)
				Ⅱ - 1	129(5)
				Ⅱ - 2	4
				Ⅱ	1
				Ⅲ	2
				Ⅲ - 蓮弁文	8(2)
				Ⅵ - 2	2
				Ⅵ	1
				Ⅴ～Ⅵ	1
				東口碗	1
				不明	2
			小碗	Ⅰ	1(1)
				Ⅲ	3(1)
			皿	平底Ⅰ - 1	1
				Ⅰ - 2	5(5)
				Ⅰ - 3	8(4)
				Ⅰ - 魚文	1(1)
				口ハゲ	1
				不明	18
			Ⅲ - 小鉢		18(6)
			Ⅲ - 不明		21(6)
			水注		1
			梅瓶		1
			袋物		3
			盤		2
			香炉		1
		同安	碗	Ⅰ	5(1)
				Ⅱ	252(35)
				Ⅲ	1(1)
				荒い縦線文	33(2)
				内・外無文	6(1)
				不明	5(1)
			皿	Ⅰ - 1	34(6)
				Ⅰ - 2	1
				Ⅱ - 1	14(3)
				Ⅱ - 2	4(1)
				不明	75
		越州	碗		2
			袋物		1
			不明		1
	陶器	A群	Ⅰ - 盤 - 1		8
			Ⅰ - 盤 - 2		21
			Ⅱ - 盤		2

輸入陶磁	陶器	A群		緑釉盤	2
				盤	152
				Ⅰ - 四耳壺	40
				Ⅱ - 四耳壺	1
				小口瓶	11
				Ⅲ - 行平	1
				Ⅲ - 鉢	2
				Ⅲ - 蓋	1
				袋物	5
				鉢	1
				皿	1
				不明	21
		準A群		茶釉四耳壺	246
				無釉四耳壺	16
		B群		四耳壺	5
				水注	7
				短頸壺	12
				瓶	4
				袋物	455
				擂鉢	1
				鉢	21
				皿	18
		C群		袋物	1
				擂鉢	1
				捏鉢1	2
				捏鉢3	14
				捏鉢	43
				坩堝	2
		D群		D - 1	2
				D - 2	2
				D - 3	1
				D - 4	5
				不明	113
		黒釉陶器袋物			2
		茶入れ			1
		不明			2
	青白磁	碗			14(3)
		皿			15(3)
		袋物			2
		合子蓋			3
		小壺蓋			1
		小壺			2
		おとし蓋			1
		香炉			1
	天目碗				6(1)
	明染付高台付皿				1
	明染付碁笥底皿				2
	磁州窯壺				1
	李朝茶緑釉壺				1
	李朝袋物				3
	不明				2
国産品	奈良・平安	土師器	高台付大坏		1
			坏		1
		須恵器	坏蓋		12
			坏身		25
			坏		12
			高坏蓋		1
			袋物		20
			大型容器		105
			不明		2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	3
				糸切坏	3454
				糸切小皿	1030
				坏	1377
				小皿	312

国産品	平安末～中世	土師器	坏a	1
			坏・皿 高台付	16
			坏・皿 不明	742
			坏・皿 黒色土器椀	3
			その他 土鍋	63
			その他 擂鉢	1
			その他 片口	1
			その他 鉢	27
			その他 不明	25
		須恵質	鉢	55
			不明	2
		瓦器	椀	24
		瓦質	擂鉢	8
			片口	1
			鉢	177
			火舎	5
			袋物	1
			不明	21
		陶器	備前甕	5
			備前擂鉢	2
			常滑甕	4
			甕	128
			擂鉢	2
	近世	磁器		10
		陶器		27
		陶器大型容器		4
		七輪		14
		火舎		3
		坩堝		1
		擂鉢		1
		不明		1
	軒丸瓦			1
	丸瓦			5
	平瓦			140
	塼			3
	備考	石鍋		29
		石錘		1
		石臼		1
		砥石		11
		硯		1
		硯ミニチュア		1
		石製品		1
		石加工品		1
		石玉		1
		鉄釘		161
		刀子		25
		環状鉄器		10
		板状鉄器		1
		棒状鉄器		1
		鉄器		29
		鉄滓		
		銅銭		89
		銅製品		9
		土錘		4
		土製品		2
		焼塩壺		1
		鞴		2
		さな		2

Ⅲ面

1186号土壙出土遺物

器種					数量
輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ	4
				Ⅳ	5
				Ⅴ－1－a	1
				Ⅴ－2－a	1
				Ⅵ－1	1
				Ⅵ－4	1
				Ⅴ～Ⅵ	6(3)
				Ⅸ	4(1)
				未分類	2(1)
				不明	20
		皿	高台付	Ⅱ	1
				Ⅱ－1	1
				Ⅱ	1
				不明	1
		鉄絵鉢			1
		広東系袋物			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－不明	1
				Ⅱ－1	1
			袋物		1
		同安	碗	Ⅰ	3
				Ⅱ	2
			皿	Ⅰ－1	1(1)
		越州	袋物		1
	陶器	A群	盤		6
			Ⅰ－四耳壺		1
		準A群			6
		B群	袋物		12
		C群	捏鉢		1
		D群			1
天目不明					1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏		1
			大型容器		3
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	64
				糸切小皿	10
				坏	31
				高台付	1
				不明	18
		瓦器	埦		3
		瓦質	鉢		8
	近世	磁器			1
	備考	石鍋			1
		鉄釘			3

1185号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅳ－1	1(1)
				Ⅳ	3
				Ⅴ－1－a	1
				Ⅵ－1	6
				Ⅵ－5	1(1)
				Ⅴ～Ⅵ	2(2)

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅸ	1(1)
				不明	14
		皿	高台付	Ⅱ	2(2)
			平　底	Ⅵ－1	2(1)
		袋物			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－3	3
				Ⅰ－4	1
				Ⅰ－不明	1
			皿	不明	1
		同安	碗	Ⅰ	1
				Ⅱ	2(1)
	陶器	A群	Ⅰ－盤－1		1
			盤		2
			小口瓶		1
		準A群			2
		B群	袋物		3
		C群	捏鉢		2
		D群			1
	青白磁	皿			2
		合子身			1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		1
			坏		2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	80
				糸切小皿	41
				坏	66
				小皿	2
			その他	不明	3
		陶器	甕		1
	平瓦				2
	塼				1
	備考	鉄釘			3
		刀子			1

1196号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	1
				Ⅱ	1
				Ⅴ－1－b	2
				Ⅵ－1	2
				不明	3
		小碗			1
		皿	高台付	Ⅱ	1
			平　底	0－c	1
				Ⅱ	2
	青磁	同安	碗	Ⅰ	2
				Ⅱ	1
				不明	2
	陶器	A群	Ⅰ－盤－1		1
			盤		1
		D群			1
	青白磁	皿			1
国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	18
				糸切小皿	10
				坏	14
				小皿	3
				不明	16

国産品	平安末～中世	瓦質	火鉢		1
		陶器	備前甕		1

1198号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	2
				Ⅱ	1
				Ⅳ－2	1(1)
				Ⅳ	1
				Ⅵ－1	1
				Ⅴ～Ⅵ	1(1)
				不明	3
		皿	高台付	Ⅱ	1
			平　底	Ⅱ	3
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－1	1
				Ⅱ－1	1
		同安	碗	Ⅱ	1
			皿	Ⅱ－1	1
	陶器	A群	小口瓶		1
		B群	袋物		1
		陶器不明			1
国産品	平安末～中世	須恵器	坏		1
		土師器	坏・皿	糸切坏	9
				糸切小皿	8
				坏	7
				小皿	1
		瓦器	埦		2
	備考	鉄釘			1

1203号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	1
				Ⅱ	1
				Ⅳ	2
				Ⅵ－1	2
				Ⅴ～Ⅵ	2(2)
				Ⅸ	2
				不明	5
		袋物			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－不明	4
		同安	碗	Ⅱ	4
	陶器	A群	盤		1
			Ⅰ－四耳壺		1
		準A群			3
		B群	袋物		1
		D群			1
	青白磁	碗			1
国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	13
				糸切小皿	7
				坏	9
				高台付	1

国産品	平安末～中世	瓦器	埦		2
	備考	石鍋			1
		鉄釘			3
		箆状の把手			1
		紡錘車			1

1208号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ	1
				Ⅳ	1
				不明	7
		皿	不明		1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－4	1
				Ⅱ－1	1
				Ⅱ－2	1
			皿	不明	1
		同安	碗	Ⅱ	4
	陶器	A群	盤		1
			Ⅰ－四耳壺		1
		準A群			1
		B群	袋物		2
		C群	捏鉢		1
国産品	奈良・平安	須恵器	大型容器		2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	17
				糸切小皿	13
				坏	25
			その他	不明	5
		須恵質	鉢		1
	平瓦				2
	備考	石鍋			1
		鉄釘			1

1209号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅳ－2	1(1)
				Ⅵ－1	1
				Ⅸ	1
				不明	6(1)
		皿	高台付	Ⅱ	1(1)
			平底	Ⅵ－1	1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－3	1
				Ⅰ－不明	4
				Ⅱ－1	1
			皿	不明	1(1)
		同安	碗	Ⅱ	1
			皿	Ⅰ－1	1(1)
	陶器	A群	不明		1
		準A群			2
		B群	袋物		4
		C群	捏鉢		2

輸入陶磁	陶器	D群			2
	青白磁	合子蓋			1
国産品	奈良平安	須恵器	袋物		2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	39
				糸切小皿	12
				坏	21
				高台付	1
			その他	土鍋	1
				不明	3
		須恵質	鉢		3
			不明		1
		瓦器	塊		1
	平瓦				1
	備考	鉄釘			6
		板状鉄器			1
		鉄滓			

1214号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		V	1
				V～VI	1
				不明	1
		皿		口ハゲ	1
	青磁	龍泉	碗	II－1	2
				III	1
			皿	I－1	1
	陶器	A群	盤		1
		B群	袋物		1
		C群	捏鉢		1
	青白磁	碗			1
国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	27
				糸切小皿	21
				坏	14
				小皿	7
				不明	23
			その他	不明	6
		陶器	甕		1
	備考	滑石製品			1
		鉄釘			4
		鉄滓			

1215号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	IV	5
			VI－1	1
			VI－3	1
			IX	1
			不明	1
		皿	高台付I	1
			平 底0－c	1
			口ハゲ	11(4)
			不明	3
	袋物			1

輸入陶磁	青磁	龍泉	碗	I－2	1(1)
				I－3	2
				I－4	1
				櫛描蓮弁文	1
				I－不明	1
				II－1	7
				II－2	4(1)
				III	1
			小碗		1(1)
			皿	I－1	1(1)
				I－2	1(1)
			III－盤		3
		同安	碗	不明	1
			皿	I－不明	1
	陶器	A群	盤		1
			I－四耳壺		3
			小口瓶		1
			III－行平		1
			III－鉢		1
			準A群		4
		B群	水注		1
			袋物		1
			鉢		1
			皿		1
		C群	捏鉢		2
		D群			6
	青白磁	合子蓋			1
国産品	奈良平安	須恵器	坏身		3
			袋物		2
			大型容器		2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	44
				糸切小皿	40
				坏	19
				小皿	1
				不明	6
			その他	土鍋	5
				不明	6
		須恵質	鉢		3
		瓦器	塊		1
		瓦質	鉢		3
			不明		3
		陶器	甕		1
	備考	石鍋			4
		砥石			1
		鉄釘			16
		刀子			2
		鉄器			4
		鉄滓			
		銅銭			1
		銅製品			1

1216号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	II		1
			IV		2
			V		2
			VI		2
			不明		2
		皿	高台付II		1
			平 底II		3
			VI－1		1
		小壺			1
	青磁	龍泉	碗	I－4	1
			皿	I－1	1
				I－2	1(1)
		同安	碗	II	1(1)
			皿	不明	1
	陶器	A群	盤		3
			III－行平		1
		準A群			3
		B群	袋物		2
			皿		1
		C群	捏鉢3		1
			捏鉢		2
		D群			1
国産品	奈良平安	須恵器	袋物		4
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	36
				糸切小皿	2
				坏	25
				小皿	1
				不明	23
			その他	不明	4
		須恵質	鉢		2
		瓦器	不明		3
	近世	土製品			1
	平瓦				4

1220号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	IV		1
			V－1－a		5
			V－1－b		1
			VI－1		3
			V～VI		1
			IX		1
			不明		10
		皿	高台付II		5(2)
			平 底II		1
			VI		1
			不明		3
		四耳壺			1
	青磁	龍泉	碗	I－1	2
				I－3	7(2)
		同安	碗	II	12(2)
				荒い櫛線文	2

輸入陶磁	青磁	同安	皿	I－1	3(3)
				不明	4
	陶器	A群	盤		1
			小口瓶		1
			不明		2
		準A群			25
		B群	袋物		16
		C群	捏鉢		1
		D群	D－4		1
			不明		8
	青白磁	碗			2
		皿			1
	天目片				1
国産品	奈良平安	須恵器	大型容器		3
			不明		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	45
				糸切小皿	20
				坏	43
				小皿	3
				不明	17
			その他	不明	3
		須恵質	壺		1
	平瓦				3
	備考	石鍋			1
		鉄釘			2

上記以外のIII面土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	II－1		9
			II		15(2)
			IV		18
			V－1－a		4
			V－2－a		4
			V－2－b		2
			V		6
			VI－1		10
			VI－5		1(1)
			VI		3
			V～VI		12(6)
			VII－1		1
			IX		8
			不明		73(1)
		皿	高台付II		8(1)
			不明		5(1)
			平 底II－1		1
			II－2		1
			II		12(1)
			III		1
			IV－1		1
			IV		4
			口ハゲ		6
			不明		2(1)
	広東系袋物				1
	袋物				12
	青磁	龍泉	碗	I－1	3
				I－2	1
				I－3	7
				I－4	5
				I－不明	8
				II－1	8
				III	12

輸入陶磁	青磁	龍泉	碗	V - 3	1
				不明	11
			皿	不明	4
			袋物		2
		同安	碗	Ⅰ	6
				Ⅱ	30(1)
				内外無文	1
				不明	4(1)
			皿	Ⅰ - 1	3(1)
				Ⅱ - 1	2
				不明	8
		越州	碗		2
			不明(B群?)		1
	陶器	A群	Ⅰ - 盤 - 1		1
			Ⅰ - 盤 - 2		6
			盤		19
			Ⅰ - 四耳壺		9
			小口瓶		5
			蓋		1
			壺		1
		準A群	茶釉四耳壺		21
			無釉四耳壺		1
		B群	瓶		1
			袋物		57
			鉢		1
		C群	袋物		1
			捏鉢3		2
			捏鉢		7
			坩堝		1
		D群			14
		茶入れ			1
	青白磁	碗			5(1)
		皿			1
		壺			1
		合子身			1
		小壺蓋			1
		不明			1
	天目碗				2
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		1
			坏身		5
			坏		2
			埦		1
			袋物		3
			大型容器		14
			不明		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	4
				糸切坏	314
				糸切小皿	184
				坏	315
				小皿	118
				高台付	2
				不明	165
			その他	土鍋	1
				不明	21
		須恵質	鉢		5
			甕		5
			不明		2
		瓦質	埦		18
		瓦質	擂鉢		1
			鉢		5
			不明		3

国産品	平安末～中世	陶器	甕	9
			擂鉢	1
			不明	1
	近世	磁器		1
		不明		1
	平瓦			25
	備考	石鍋		3
		砥石		1
		石球		1
		石製品		3
		鉄釘		23
		刀子		1
		鉄器		1
		鉄滓		
		銅銭		17
		土錘		1

177号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ - 1	10
				Ⅱ	22(6)
				Ⅳ - 1	3(3)
				Ⅳ - 2	6(6)
				Ⅳ	47
				V - 1 - a	19
				V - 2 - a	3
				V	1(1)
				Ⅵ - 1	23
				Ⅵ - 2	3
				Ⅵ - 4	3
				Ⅵ - 5	2(2)
				V～Ⅵ	17(11)
				Ⅶ	1(1)
				Ⅸ	7(2)
				曲線文	1(1)
				不明	118
		小碗			2(1)
		皿	高台付Ⅱ		12(5)
				Ⅲ	1
			平 底Ⅱ		25(10)
				Ⅵ - 1	5(3)
			口ハゲ		10(4)
			不明		1
		袋物			18
		器種不明			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ - 1	14(3)
				Ⅰ - 3	3
				Ⅰ - 4	2
				Ⅰ - 不明	7
				Ⅱ - 1	21(1)
				Ⅱ - 2	1
				Ⅲ	2
				Ⅲ - 蓮弁文	3(1)
			皿	不明	5(2)
		同安	碗	Ⅱ	16(3)
				荒い縦線文	4
				不明	1
			皿	Ⅰ - 1	3(3)
				不明	2
		越州	碗(輪高台)		1(1)
			(円盤高台)		3(1)
			皿		1
			袋物		1

輸入陶磁	陶器	A群	Ⅰ - 盤 - 1		2
			Ⅰ - 盤 - 2		7
			盤		37
			Ⅰ - 四耳壺		9
			Ⅲ - 軍持		7
			Ⅲ - 行平		3
			小口瓶		2
		準A群	茶釉四耳壺		30
			無釉四耳壺		14
		B群	四耳壺		5
			瓶		3
			短頸壺		2
			袋物		40
			鉢		2
			皿		2
		C群	捏鉢		9
		D群			13
	青白磁	碗			4
		皿			1
		袋物			1
		小壺			1
		不明			1
	天目碗				1
	李朝茶緑釉陶器袋物				1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		7
			坏身		24
			大型容器		49
			不明		3
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	9
				ヘラ切小皿	5
				糸切坏	189
				糸切小皿	88
				坏	126
				小皿	54
				高台付皿	14
				高台付坏	2
				蓋	1
				不明	153
				里色土器埦	8
			その他	土鍋	2
				壺	5
		須恵質	片口		10
			大型容器		27
		瓦器	埦		32
		瓦質	擂鉢		3
			鉢		28
			不明		1
		陶器	備前甕		18
			擂鉢		1
			甕		1
	近世	磁器			1
		陶器			7
		擂鉢			1
	平瓦				31
	塼				1
	不明				1
	備考	石鍋			11
		鉄釘			12
		環状鉄器			1
		鉄滓			
		銅銭			2
		銅製品			1

178号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ - 1	1
				Ⅱ	14(3)
				Ⅳ - 2	4(4)
				Ⅳ	27(1)
				V - 1 - a	6
				V - 2 - a	1
				Ⅵ - 1	6
				V～Ⅵ	3
				Ⅶ	1(1)
				Ⅸ	3
				特殊碗	1(1)
				不明	42(5)
		皿	高台付Ⅰ		1(1)
			Ⅱ		4(1)
			平 底Ⅱ		19
			Ⅲ		1
			口ハゲ		2
		四耳壺			4
		袋物			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ - 1	2
				Ⅰ - 2	1
				Ⅰ - 3	1
				Ⅰ - 不明	1
				Ⅱ - 1	4
				Ⅱ - 2	1
				Ⅲ	1
				不明	1
		同安	碗	Ⅱ	4(1)
				荒い縦線文	1(1)
			皿	Ⅱ - 2	3
		越州	碗		1
	陶器	A群	Ⅰ - 盤 - 1		2
			Ⅰ - 盤 - 2		1
			盤		2
			Ⅰ - 四耳壺		3
			墨褐釉袋物		2
		準A群			6
		B群	水注		1
			袋物		11
		C群	捏鉢1		1
			捏鉢		1
			坩堝		2
		D群			1
		不明			1
	青白磁	皿			2
		香炉			1
		小壺			4
国産品	奈良・平安	土師器	不明		5
		須恵器	坏蓋		3
			坏身		3
			坏		4
			大型容器		21
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	11
				糸切坏	48
				糸切小皿	15
				小皿	13
				高台付	2
				不明	65

国産品	平安末～中世	土師器	黒色土器椀	4
			その他 壺	1
			その他 不明	1
		須恵質	鉢	6
		瓦器	椀	12
		瓦質	鉢	4
			不明	2
		陶器	甕	4
	丸瓦			1
	平瓦			4
	備考	石鍋		3
		砥石		1
		鉄釘		2
		刀子		1
		不明		2

Ⅲ面ピット出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	4
			Ⅱ	11
			Ⅳ－1	2
			Ⅳ－2	1(1)
			Ⅳ	22(1)
			Ⅴ－1－a	10
			Ⅴ－1－b	1
			Ⅴ－2－a	1
			Ⅵ－1	22(1)
			Ⅵ－2	2
			Ⅵ－5	2(2)
			Ⅵ	5
			Ⅴ～Ⅵ	7(6)
			Ⅶ－1	5
			Ⅶ－2	1
			Ⅸ	13(4)
			口ハゲ	5
			不明	102
		小碗	Ⅴ	1(1)
			不明	1
		皿	高台付Ⅱ	6
			不明	5
			平 底Ⅱ－1	1
			Ⅱ	16(2)
			Ⅱ～Ⅲ	2
			Ⅲ	2(1)
			Ⅳ－1	1
			Ⅵ－1	3
			Ⅵ	1
			口ハゲ	7
			未分類	1
			不明	2
		袋物		15
		合子身		1
	青磁	龍泉 碗	Ⅰ－1	11(1)
			Ⅰ－2	2
			Ⅰ－3	5(1)
			Ⅰ－4	8
			Ⅰ－不明	6
			Ⅱ－1	11
			Ⅲ	3
			不明	9
		小碗		1

輸入陶磁	青磁	龍泉	皿	Ⅰ－3	2(1)
				不明	2
			Ⅲ－小鉢		1(1)
			小鉢		1
			袋物		1
		同安	碗	Ⅰ	3
				Ⅱ	29(3)
				荒い縦線文	4
				不明	25(3)
			皿	Ⅰ－1	4
				Ⅰ	4(2)
				不明	11
				基箭底	1
		越州	碗		1
	陶磁器	A群		Ⅰ－盤－1	5
				Ⅰ－盤－2	8
				Ⅰ－盤－3	1
				盤	21
				Ⅰ－四耳壺	6
				小口瓶	5
				Ⅲ－行平	1
				Ⅲ－不明	1
				袋物	2
		準A群		茶釉四耳壺	50
				無釉四耳壺	1
		B群		四耳壺	2
				瓶	3
				袋物	47
				鉢	2
				Ⅲ	6
				不明	10
		C群		袋物	1
				捏鉢3	4
				捏鉢	13
				不明	2
		D群		D－3	1
				D－4	1
				不明	23
		不明			2
	青白磁	碗			3
		Ⅲ			1
		合子蓋			1
		不明			7
	天目碗				6
	磁州窯袋物				1
	黒褐釉袋物				1
	朝鮮陶器				3
	朝鮮壺あるいは甕				1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		1
			坏身		7
			坏		3
			袋物		3
			大型容器		23
			不明		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	5
				ヘラ切小皿	1
				ヘラ切	1
				糸切坏	677
				糸切小皿	400
				坏	344
				小皿	95
				高台付	3
				ての字口縁	1
				へそ皿	1

国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿 蓋	1
			不明	106
			その他 土鍋	7
			釜	1
			鉢	7
			不明	28
		須恵質	鉢	5
			不明	1
		瓦器	椀	6
			皿	1
			不明	7
		陶器	甕	5
	近世	磁器		1
	平瓦			19
	瓦			3
	瓦玉？			1
	備考	石鍋		9
		石鍋転用品		2
		砥石		1
		石玉		2
		鉄釘		38
		刀子		6
		環状鉄器		1
		板状鉄器		3
		鉄器		5
		銅銭		10

Ⅲ面包含層出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	65(1)
			Ⅱ－2	1(1)
			Ⅱ	135(24)
			Ⅳ－2	42(32)
			Ⅳ	305(18)
			Ⅴ－1－a	170
			Ⅴ－1－b	13
			Ⅴ－2－a	6
			Ⅴ－2－b	1
			Ⅵ－1	236(1)
			Ⅵ－2	8
			Ⅵ－3	14
			Ⅵ－4	1
			Ⅵ－5	27(18)
			Ⅴ～Ⅵ	140(82)
			Ⅵ	17(13)
			Ⅶ－1	6
			Ⅶ－2	5
			Ⅶ	5(1)
			Ⅷ	2(2)
			Ⅸ－3	1
			Ⅸ	108(18)
			口ハゲ	2
			大型碗	1(1)
			双層碗	1
			潮州系	6
			白磁あるいは同安	1
			見込模様あり	1(1)
			不明	684(6)
		小碗		8(4)
		皿	高台付0	1
			Ⅰ－2	1
			Ⅰ	4(4)

輸入陶磁	白磁	皿	高台付Ⅱ	104(29)
			Ⅲ	3(1)
			平 底0－b	1
			0－c	3
			0－蕪菁文	2(1)
			0	2(1)
			Ⅱ－1	20(4)
			Ⅱ－2	1(1)
			Ⅱ－4	3
			Ⅱ	231(48)
			Ⅲ	3
			Ⅳ－1	4(3)
			Ⅳ－2	1
			Ⅴ	3
			Ⅵ－1	41(8)
			Ⅵ－2	4(2)
			Ⅵ	6
			口ハゲ	53(8)
			不明	21
		四耳壺		8
		水注		3
		壺		4
		広東系袋物		1
		袋物		123
		香炉		1
		合子蓋		1
		蓋		4
		おとし蓋		1
		鉄絵鉢		7
		鉢		1
	青磁	龍泉 碗	0？	1
			Ⅰ－1	119(10)
			Ⅰ－2	31(2)
			Ⅰ－3	126(7)
			Ⅰ－4	36(3)
			櫛描蓮弁文	8
			Ⅰ－不明	90(9)
			Ⅱ－1	82(2)
			Ⅱ－2	3
			Ⅲ	1
			Ⅵ－2	1
			不明	14(1)
		小碗	Ⅲ－蓮弁文	1
			Ⅲ－筒型	1(1)
			Ⅲ	3(2)
		皿	Ⅰ－2	12(7)
			Ⅰ－3	10(5)
			Ⅰ－魚	1
			不明	23
		水注		1
		袋物		4
		Ⅲ－盤		1
		Ⅴ－盤		1
		Ⅲ－小鉢		7
		同安 碗	Ⅰ	31
			Ⅱ	327(21)
			荒い縦線文	62(4)
			内外無文	4
			不明	34(1)
		皿	Ⅰ－1	31(8)
			Ⅰ－2	1(1)
			Ⅱ－1	15(3)
			Ⅱ－2	6(3)
			不明	48

輸入陶磁	青磁	越州	碗	2(1)
			水注	1
			壺	1
			袋物	5
			小壺	1
			不明	1
		青磁小碗		1(1)
		青磁不明		2
	陶器	A群	Ⅰ－盤－1	34
			Ⅰ－盤－2	33
			Ⅰ－盤－3	2
			Ⅱ－盤－？	1
			緑釉盤	3
			盤	203
			Ⅰ－四耳壺	110
			Ⅰ-四耳壺(スタンプ文あり)	1
			小口瓶	28
			Ⅲ－行平	8
			Ⅲ－鉢	2
			おとし蓋	1
			蓋	3
			袋物	4
			不明	18
		準A群	茶釉四耳壺	367
			無釉四耳壺	16
		B群	四耳壺	19
			水注	10
			瓶	9
			短頸壺	24
			小壺	1
			袋物	440
			鉢	36
			蓋	1
			皿	15
			不明	2
		C群	袋物	6
			燭台	1
			捏鉢1	6
			捏鉢2	2
			捏鉢3	26
			捏鉢	39
			鉢	3
			坩堝	2
		D群	D－1	5
			D－2	2
			D－3	4
			D－4	5
			不明	174
		中国陶器あるいは朝鮮		1
		不明		7
	青白磁	碗		29(4)
		皿		29(2)
		合子蓋		2
		合子身		5
		小壺蓋		1
		小壺		3
		蓋		1
		袋物		6
	磁州窯壺			2
	磁州窯系白磁碗			1(1)
	柿釉平底皿			1(1)
	天目碗			24(4)
	黒褐釉袋物			2
	緑釉片			3
	李朝碗			4

国産品	李朝陶器袋物			16
	古墳	土師器		70
		須恵器		1
	奈良・平安	須恵器	坏蓋	15
			坏身	59
			坏	18
			袋物	63
			大型容器	143
			不明	2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏 23
				ヘラ坏小皿 2
				糸切坏 2468
				糸切小皿 1273
				坏 1457
				小皿 172
				高台付 30
				蓋 2
				不明 546
			その他	土鍋 41
				鉢 6
				火舎 1
				不明 80
		須恵質	片口	1
			鉢	23
			大型容器	6
			不明	1
		瓦器	埦	135
			皿	3
		瓦質	鍋	1
			擂鉢	4
			鉢	27
			不明	12
		陶器	備前甕	1
			備前擂鉢	1
			甕	69
			擂鉢	2
	近世	陶器		4
		土製品		5
		擂鉢		3
		火鉢		1
	丸瓦			3
	平瓦			172
	備考	石鍋		28
		石蓋		1
		硯		1
		石錘		1
		砥石		7
		石玉		7
		石製品		5
		ガラス平玉		1
		鉄釘		106
		刀子		1
		針金		1
		鉄器		5
		鉄滓		
		銅銭		17
		銅製品		4
		土錘		2
		土製品		1
		鞴		2
		焼塩壺		1
		さな		3
		壁土		

Ⅳ面

1221号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	3
			Ⅱ	2
			Ⅳ－2	1(1)
			Ⅳ	1(1)
			Ⅴ－1－a	1
			Ⅵ－1	7
			Ⅴ～Ⅵ	4(1)
			Ⅸ	5
			不明	16
		小碗		1
		皿	高台付Ⅱ	1
			平底0－c	1(1)
			Ⅱ	4
			Ⅲ	2
			Ⅵ－1	1
		四耳壺		1
	青磁	龍泉	碗 Ⅰ－2	5(2)
			Ⅰ－不明	1
			皿 Ⅰ－2	1(1)
		同安	碗 不明	5
	陶器	A群	Ⅰ－盤－3	3
			盤	4
		準A群		1
		B群	袋物	2
		C群	捏鉢	7
	青白磁	碗		3
		皿		2
		合子蓋		2
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋	1
			坏身	3
			大型容器	4
			不明	3
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏 89
				糸切小皿 24
				坏 38
				小皿 4
				不明 4
			その他 不明	3
		須恵質	擂鉢	1
		瓦器	埦	1
	平瓦			3
	備考	鉄釘		3

1223号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	5
			Ⅱ	2
			Ⅳ	4(1)
			Ⅴ－1－a	2
			Ⅵ－1	3
			Ⅴ～Ⅵ	1(1)

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅵ	1(1)
			不明	4
		皿	平底0	1(1)
			Ⅱ	5
	青磁	龍泉	碗 Ⅰ－1	1
			Ⅰ－不明	1
			器種不明	1
	陶器	A群	盤	1
			不明	1
		準A群		1
		B群	袋物	1
	青白磁	碗		1
	天目碗			1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏身	6
			大型容器	2
	平安末～中世	土師器	坏・皿 ヘラ切坏	1
			糸切坏	17
			糸切小皿	3
			坏	25
			小皿	3
			不明	25
			その他 不明	3
		瓦器	埦	1
	平瓦			2
	備考	石製品		1
		鉄釘		3

1224号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	2
			Ⅱ	7(4)
			Ⅳ	14
			Ⅴ－1－a	3
			Ⅵ－1	1
			Ⅴ～Ⅵ	5(1)
			Ⅶ	1(1)
			Ⅸ	3(2)
			不明	11
		皿	高台付Ⅱ	1
			平底Ⅱ	12(1)
	青磁	同安	碗 Ⅰ	1
		越州	袋物	1
	陶器	A群	Ⅰ－盤－1	1
			盤	4
			小口瓶	1
			不明	1
		準A群		5
		B群	袋物	3
		C群	捏鉢	1
		D群		1
	青白磁	碗		1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏身	4
			大型容器	2
	平安末～中世	土師器	坏・皿 糸切坏	20
			糸切小皿	6

国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	坏	30
				小皿	7
				高台付	3
				不明	38
			その他	不明	4
		瓦器	埦		2
	平瓦				1
	備考	鉄釘			1
		板状鉄器			1
		鉄滓			
		焼塩壺			1
		壁土			

1227号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅳ－2	1
				Ⅳ	4
				Ⅴ－1－a	2
				Ⅵ－1	5
				Ⅵ－5	1(1)
				Ⅴ～Ⅵ	2(2)
				Ⅸ	1
				不明	24
		皿		高台付	1
				平　底0	2
				Ⅱ	6
				Ⅵ－1	1(1)
		袋物			4
	青磁	龍泉	碗	不明	1
		同安	碗	Ⅱ	1
			皿	不明	1
	陶器	A群	Ⅰ－盤－2		1
			盤		2
		準A群			4
		B群	袋物		4
			鉢		1
		C群	捏鉢		1
	明染付碗				1
国産品	古墳土師器				11
	奈良・平安	須恵器	坏蓋		1
			大型容器		2
			不明		2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	1
				糸切坏	57
				糸切小皿	66
				坏	93
				小皿	13
				高台付	4
				不明	140
			その他	鉢	5
				不明	16
		瓦器	埦		11
	平瓦				3
	備考	鉄釘			2
		板状鉄器			1

1229号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	2
				Ⅱ	4
				Ⅳ	4
				Ⅴ－1－a	3
				不明	18
		皿		高台付Ⅱ	1
				平　底Ⅱ	2
				Ⅵ	1
				不明	1(1)
		袋物			2
	龍泉	碗		Ⅰ－3	1
				Ⅰ－4	1
				Ⅰ－不明	3
	同安	碗		Ⅰ	1
				不明	1
		皿		Ⅱ－1	1(1)
				不明	4
	陶器	A群	Ⅰ－盤－2		1
			盤		5
		準A群			4
		B群	袋物		5
			碗		1
		C群	捏鉢		1
		D群			2
	青白磁	碗			1
		合子蓋			1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		1
			坏身		4
			瓶		4
			大型容器		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	71
				糸切小皿	27
				坏	64
				小皿	12
				高台付	2
				蓋	1
				不明	76
			その他	不明	5
		須恵質	鉢		2
		瓦器	埦		11
	平瓦				7
	国産品	鉄釘			4
		鉄滓			
		銅銭			1
		轡			1
		焼塩壺			1

1234号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	1
			Ⅱ	1
			Ⅳ	1
			Ⅴ～Ⅵ	1(1)
			Ⅸ	1
			不明	2
		皿	Ⅱ－4	1
			Ⅱ	5(2)

輸入陶磁	陶器		小壺蓋		1
		A群	Ⅰ－盤－1		2
			盤		3
			Ⅰ－四耳壺		1
			Ⅲ－行平		1
			袋物		1
		準A群			2
		B群	袋物		1
		C群	捏鉢3		1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		1
			坏身		1
			大型容器		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	2
				糸切小皿	4
				坏	15
				小皿	1
				不明	5
		須恵質	鉢		1
			大型容器		2
		瓦器	埦		3
	備考	鉄釘			3
		鉄器			1

1236号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	1
				Ⅱ	2
				Ⅳ	3
				Ⅴ－1－a	3
				Ⅸ	1
				不明	6
		皿		高台付Ⅱ	1
				平　底Ⅱ	2
				Ⅵ	1
				口ハゲ	1
	青磁	香炉			1
		龍泉	碗	Ⅰ－不明	2
				Ⅱ－1	1(1)
			皿	Ⅲ	1
		同安	碗	Ⅰ	2(1)
				Ⅱ	2
				不明	3
			皿	Ⅰ－1	2
		越州	碗		1
	陶器	A群	小口瓶		1
			壺		1
		準A群			1
		B群	袋物		4
	李朝陶器鉢				1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏身		1
			大型容器		2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	20
				糸切小皿	10
				坏	17
				小皿	7
				高台付	1
				不明	7

国産品	平安末～中世	土師器	その他	不明	1
		瓦器	埦		7
	平瓦				5
	備考	焼塩壺			1

1237号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ	1
				Ⅳ	2
				Ⅴ－1－a	5
				Ⅴ－1－b	1
				Ⅴ－Ⅵ	3(1)
				Ⅶ－1	2
				Ⅸ	1
				不明	15(1)
		皿		0－蕉葉文	1
				Ⅱ－4	1
				Ⅱ	5(1)
		鉄絵鉢			4
	青磁	龍泉	皿	Ⅰ－魚文	1
		同安	碗	Ⅱ	2
	陶器	A群	Ⅰ－盤－2		1
			Ⅰ－四耳壺		2
			小口瓶		2
		準A群			1
		B群	袋物		5
		C群	捏鉢		1
			袋物		1
		D群			1
	青白磁	碗			1
		不明			3
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		1
			大型容器		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	23
				糸切小皿	18
				坏	24
				小皿	1
				不明	24
			その他	不明	4
		須恵質	鉢		3
		瓦質	埦		7
	平瓦				1
	瓦				3
	備考	石鍋			1
		ガラス玉			1
		鉄釘			1

1240号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ	2
			Ⅳ－1	1(1)
			Ⅳ	3(1)
			Ⅴ－1－a	4
			Ⅴ～Ⅵ	1
			不明	4

輸入陶磁	青磁	龍泉	碗	Ⅰ-2	1
	陶器	準A群			1
		B群	袋物		1
		C群	捏鉢		1
		D群			1
国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	3
				ヘラ切小皿	7
				糸切坏	7
				糸切小皿	3
				坏	10
				小皿	1
			その他	不明	3
		瓦器	埦		2
	備考	鉄釘			1

1242号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ-1	1
				Ⅳ	1
				Ⅴ-1-a	2
				Ⅵ-5	1
				Ⅴ～Ⅵ	1(1)
				不明	11
		皿		高台付Ⅱ	1
				平　底0	1(1)
				Ⅱ	2
		香炉			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ-4	1
		同安	碗	Ⅱ	6
				内外無文	2
			皿	Ⅱ-1	1(1)
	陶器	A群	盤		2
		準A群			1
		B群	短頸壺		1
			盤口壺		2
			袋物		1
		C群	水注		1
		D群			2
国産品	平安末～中世	須恵器	坏身		4
			袋物		1
			大型容器		2
		土師器	坏・皿	糸切坏	19
				糸切小皿	7
				坏	16
				小皿	1
				不明	17
		須恵質	鉢		1
			大型容器		1
		瓦器	埦		5
平瓦					1

1243号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ-1	29(2)
				Ⅱ-2	2
				Ⅱ	12(1)
				Ⅳ-2	8(8)
				Ⅳ	15
				Ⅴ-1-a	3
				不明	23
		皿		高台付Ⅰ	1(1)
				平　底Ⅱ-1	12
				Ⅱ	19(5)
				Ⅲ	1
	青磁	越州	壺		1
	陶器	A群	Ⅰ-四耳壺		1
		B群	袋物		1
		C群	捏鉢		1
	青白磁	碗			1
		不明			1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		1
			坏身		5
			袋物		5
			大型容器		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	1
				ヘラ切小皿	2
				糸切坏	3
				糸切小皿	5
				坏	9
				小皿	6
				高台付	1
				不明	20
		瓦器	埦		3

1244号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ-1	5
				Ⅱ	6(1)
				Ⅳ-2	2(2)
				Ⅳ	1
				Ⅴ-1-a	5
				Ⅵ-1	2
				Ⅵ-2	1
				Ⅵ-3	2
				Ⅴ～Ⅵ	1(1)
		皿		高台付Ⅱ	1
				平　底Ⅱ	5(1)
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ-不明	2
		同安	碗	荒い縦線文	2
	陶器	A群	小口瓶		1
		準A群			1
		B群	袋物		2
		C群	捏鉢1		1
			壺あるいは甕		3

国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		2
			坏身		1
			袋物		1
			大型容器		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	4
				ヘラ切小皿	2
				糸切坏	24
				糸切小皿	7
				坏	37
				小皿	24
				高台付	2
				不明	8
			その他	不明	2
		須恵質	大型容器		3
		瓦器	埦		32
平瓦					2
備考		鉄釘			4
		銅製品			1

1248号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅳ-1	1(1)
				Ⅳ	2
				Ⅴ-1-a	3
				Ⅵ-1	1
				Ⅵ-5	1(1)
		皿		Ⅱ	1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ-1	1
		越州	碗		1
	陶器	A群	Ⅰ-盤-1		1
			盤		2
			袋物		1
		B群	袋物		1
国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切小皿	2

上記以外のⅣ面土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ-1	16
				Ⅱ	10(1)
				Ⅳ-2	2(2)
				Ⅳ	18(1)
				Ⅴ-1-a	4(1)
				Ⅴ-2-b	1
				Ⅴ	4
				Ⅴ～Ⅵ	1(1)
				Ⅸ	2
				不明	34
		小碗		Ⅱ	1
				不明	1
		皿		高台付Ⅱ	2
				平　底Ⅱ-1	1(1)
				Ⅱ	15(1)
				Ⅵ-1	2
				口ハゲ	2
				不明	1

輸入陶磁	白磁	広東系袋物			1
		袋物			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ-1	1
				Ⅰ-不明	3
				不明	7
		同安	碗	Ⅰ	1
				Ⅱ	6
			皿	不明	4(1)
	陶器	A群	Ⅰ-盤-1		2
			盤		6
			Ⅰ-四耳壺		5
			小口瓶		1
			不明		1
		準A群	茶釉四耳壺		8
			無釉四耳壺		1
		B群	袋物		26
		C群	袋物		2
			捏鉢		4
		D群			3
	青白磁	碗			5(1)
		皿			1
		小壺			1
天目碗					1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		3
			坏身		8
			坏		1
			大型容器		7
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	14
				糸切坏	70
				糸切小皿	53
				坏	75
				小皿	25
				高台付	5
				不明	85
			その他	土鍋	1
				不明	24
		須恵質	鉢		2
			大型容器		2
		瓦器	埦		22
		瓦質	不明		3
		陶器	甕		2
平瓦					2
備考		石鍋			1
		硯			1
		鉄釘			12

179号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ-1	6
			Ⅱ	11(2)
			Ⅳ-1	3(3)
			Ⅳ-2	3(3)
			Ⅳ	21
			Ⅴ-1-a	12
			Ⅴ-2-a	2
			Ⅴ	1
			Ⅵ-1	4
			Ⅵ-3	1

輸入陶器	白磁	碗		Ⅵ－5	1
				Ⅴ～Ⅵ	4(2)
				Ⅷ	1(1)
				Ⅸ	2
				不明	33(2)
		皿		高台付Ⅰ	2(1)
				Ⅱ	1(1)
				平 底Ⅱ	11(3)
				口ハゲ	1
		水注			1
		袋物			4
		蓋			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－1	3
				Ⅰ－4	1
				Ⅰ－不明	1
				Ⅱ－1	3(1)
				Ⅲ	1(1)
				不明	1(1)
		同安	碗	荒い縦線文	1
				不明	2
		越州	碗		1(1)
			袋物		1
	陶磁	A群	盤		3
			Ⅰ－四耳壺		3
			Ⅲ－軍持		1
			黒褐釉片		1
			袋物		2
		準A群	茶釉四耳壺		6
			無釉四耳壺		5
		B群	袋物		7
		C群	捏鉢		4
			坩堝		1
			不明		1
		D群			6
国産品	奈良・平安	土師器	坏		2
		須恵器	坏蓋		2
			坏身		2
			坏		1
			大型容器		22
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	6
				糸切坏	22
				糸切小皿	11
				坏	22
				高台付	6
				黒色土器埦	4
		須恵質	片口		3
			大型容器		1
			不明		2
		瓦器	埦		11
		瓦質	不明		2
	平瓦				4
	備考	石製蓋？			1
		鉄釘			1

Ⅳ面ピット出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	16(1)
				Ⅱ	19(2)
				Ⅳ－1	3(1)
				Ⅳ－2	2(1)
				Ⅳ	47(3)
				Ⅴ－1－a	10
				Ⅴ－1－b	1
				Ⅴ－2－a	5
				Ⅴ－2－b	1
				Ⅴ	5
				Ⅵ－1	13
				Ⅵ	4
				Ⅴ～Ⅵ	14(4)
				Ⅶ	1(1)
				Ⅸ－3	1(1)
				Ⅸ	9
				不明	100
		小碗	Ⅴ－1－a		1(1)
		皿	高台付Ⅰ		1
			Ⅱ		10(1)
			不明		2
			平 底0－蕉葉文		2
			Ⅱ		20(2)
			Ⅱ～Ⅲ		8(4)
			Ⅳ		1
			Ⅵ		2
			不明		8(2)
		四耳壺			1
		袋物			10
		鉢			1
		合子蓋			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－1	1(1)
				Ⅰ－2	2(1)
				Ⅰ－3	3
				Ⅰ－不明	4
				櫛描蓮弁文	1
				Ⅱ－1	2
				Ⅱ	2
				不明	3
		同安	碗	Ⅰ	7
				Ⅱ	12(1)
				Ⅲ	1
				荒い縦線文	1
			皿	Ⅰ－1	1(1)
				Ⅰ	1(1)
				不明	1
		越州	碗		1
			袋物		2
		碗			2
		不明			2
	陶器	A群	Ⅰ－盤－1		3
			Ⅰ－盤－2		1
			盤		17
			Ⅰ－四耳壺		4
			小口瓶		1
			Ⅲ－行平		1

輸入陶磁	陶磁			不明	1
		準A群			22
		B群	袋物		9
		C群	捏鉢		2
			無釉盤口壺		3
			不明		1
		D群	D－4		1
			不明		8
		墨釉袋物			1
		不明			2
	青白磁	碗			7
		皿			1
		合子蓋			1
		袋物			3
		香炉			1
		不明			1
	天目碗				2
	古墳土師器				2
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		10
			坏身		21
			坏		7
			坏あるいは皿		1
			高台付坏		1
			袋物		7
			大型容器		22
			不明		4
		製塩土器			1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	8
				ヘラ切小皿	2
				糸切坏	228
				糸切小皿	93
				坏	265
				小皿	29
				高台付	8
				高坏	1
				丸底坏	1
				蓋	1
				不明	78
				黒色土器埦	5
			その他	土鍋	3
				鉢	1
				甕	1
				不明	53
		須恵質	鉢		3
			大型容器		1
		瓦器	埦		27
			不明		15
		陶器	甕		3
	近世	陶器			2
	平瓦				7
	瓦				2
	備考	石鍋			7
		碁石？			1
		砥石			1
		鉄釘			24
		環状鉄器			4
		鉄滓			1

Ⅳ面包含層出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	121(1)
				Ⅱ－2	2
				Ⅱ	150(26)
				Ⅳ－1	4(4)
				Ⅳ－2	24(14)
				Ⅳ	256(5)
				Ⅴ－1－a	149
				Ⅴ－1－b	7
				Ⅴ－2－a	34(2)
				Ⅴ－2－b	5
				Ⅴ	3
				Ⅵ－1	34
				Ⅵ－2	2
				Ⅵ－3	4
				Ⅵ－4	2(1)
				Ⅵ－5	3(2)
				Ⅴ	2
				Ⅴ～Ⅵ	70(33)
				Ⅶ－2	2
				Ⅷ	6
				Ⅸ	2(2)
				Ⅸ	9
				口ハゲ	31(6)
				潮州窯系	1
				特殊	4(1)
				不明	6(2)
				不明	520(4)
		小碗	Ⅴ		1
			不明		6(4)
		皿	高台付Ⅰ		11(9)
			Ⅱ		83(13)
			Ⅲ		13(3)
			不明		1
			平 底0－c		2(1)
			0－蕉葉文		1(1)
			0		1
			Ⅱ－1		41(8)
			Ⅱ－4		6
			Ⅱ		100(15)
			Ⅳ－1		3(2)
			Ⅳ－2		3(2)
			Ⅳ		5(3)
			Ⅴ		1
			Ⅵ－1		3
			口ハゲ		6
			不明		30(1)
		水注			1
		袋物			33
		鉄絵鉢			15(3)
		鉢			3
		合子蓋			1
		蓋			5
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－2	2
				Ⅰ－3	13
				Ⅰ－4	1
				Ⅰ－不明	20(1)
				Ⅲ	1

輸入陶磁	青磁	龍泉	皿	Ⅰ-2	1
				Ⅰ-不明	2
				深皿	1(1)
			袋物		1
		同安	碗	Ⅰ	17(1)
				Ⅱ	21(4)
				荒い縦線文	2
				不明	11
			皿	Ⅰ-1	2
				不明	6
		袋物			1
		越州	碗		15(4)
			水注		2
			壺		1
			袋物		21
		連江	碗		3
		碗			3(1)
		壺			1
	陶器	A群	Ⅰ-盤-1		17
			Ⅰ-盤-2		9
			Ⅰ-盤-3		1
			Ⅱ-盤		1
			盤		74
			Ⅰ-四耳壺		91
			Ⅰ-四耳壺(スタンプ文)		1
			小口瓶		14
			Ⅲ-行平		12
			鉢あるいは軍持		2
			蓋		1
			不明		10
		準A群	茶釉四耳壺		121
			無釉四耳壺		8
		B群	四耳壺		5
			水注		1
			袋物		164
			平鉢		1
			鉢		4
			蓋		5
			碗		2
		C群	鉢		3
			捏鉢1		5
			捏鉢2		3
			捏鉢3		13
			捏鉢		32
			盤口壺		1
			坩堝		2
			不明		2
		D群	D-4		3
			不明		31
		鉢			3
		蓋			1
		不明			4
	青白磁	碗			28(1)
		皿			1
		合子蓋			1
		合子			1
		小壺			7
		香炉			1
		袋物			1
天目碗					6(1)
磁州窯碗					1
黒釉袋物					1
緑釉水注					1
高麗碗					2

国産品	李朝碗				3(3)
	ベトナム碗				1
	古墳土師器				120
	奈良・平安	土師器	坏		4
			不明		1
		須恵器	坏蓋		33
			坏身		113
			坏		45
			皿		1
			袋物		73
			大型容器		169
	緑釉不明				1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	97
				ヘラ切小皿	22
				糸切坏	414
				糸切小皿	324
				坏	481
				小皿	100
				高台付	46
				蓋	8
				不明	208
				黒色土器椀	15
			その他	甑	1
				不明	33
		須恵質	鉢		7
			甕(瓦質?)		5
			不明		1
		瓦器	椀		112
			皿		1
		瓦質	鉢		6
			甕		1
			不明		10
		陶器	瀬戸不明		1
			甕		11
	近世	磁器			9
		陶器			4
		土製品			2
		擂鉢			2
	丸瓦				4
	平瓦				72
	備考	石鍋			14
		砥石			1
		石錘未製品			1
		石玉			1
		石不明			1
		ガラス小瓶			1
		ガラス玉			3
		ガラス不明			1
		鉄釘			37
		刀子			1
		棒状鉄器			1
		板状鉄器			1
		環状鉄器			3
		鉄器			1
		鉄滓			
		銅銭			4
		土錘			3
		焼塩壺			4
		さな			2

V面

1251号土壙出土遺物

器種				数量
輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ-1	3
			Ⅳ-2	3(1)
			Ⅳ-4	1(1)
			Ⅳ	15(1)
			Ⅴ-1-a	3
			Ⅵ-1	3
			Ⅵ-2	1
			Ⅵ-5	1(1)
			Ⅴ～Ⅵ	3(1)
			Ⅸ	5
			不明	30
		皿	高台付Ⅱ	5
			不明	7(2)
		袋物		1
	陶器	A群	Ⅰ-盤-1	1
			盤	8
			Ⅰ-四耳壺	1
			小口瓶	9
		準A群		1
		B群	長瓶	2
			袋物	17
			碗	1
		C群	捏鉢3	1
			捏鉢	3
		D群		15
	青白磁	碗		1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋	1
			坏身	6
			坏	5
			袋物	5
			大型容器	6
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	2
				糸切坏	20
				糸切小皿	9
				坏	21
				小皿	6
				不明	36
			その他	不明	17
		瓦器	椀		4
	近世	土製品			2
	平瓦				9
	備考	砥石			1
		ガラス小瓶			1
		鉄釘			2

1255号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ-1	1
			Ⅱ	5(3)
			Ⅳ-2	2(2)
			Ⅳ	2
			Ⅴ-1-a	3
			Ⅵ-1	2
			Ⅵ-2	1(1)

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅵ-3		1
			Ⅴ～Ⅵ		1
			Ⅸ		1
			不明		7
		皿	高台付Ⅱ		1
			平底0-c		1
			Ⅱ		6
	陶器	同安	碗	Ⅱ	2
		A群	Ⅰ-盤-2		1
			盤		2
			Ⅰ-四耳壺		1
			Ⅲ-袋物		1
			不明		1
		B群	袋物		3
		C群	捏鉢3		1
			捏鉢		1
		D群			1
	青白磁	壺			1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏身		4
			袋物		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	12
				糸切小皿	2
				坏	14
				小皿	1
				不明	9
			その他	不明	12
		瓦器	椀		1
		陶器	備前甕		1
塼					2
備考	鉄釘				1
	鉄滓				

1256号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ-1	6
			Ⅱ	9(2)
			Ⅲ?	1
			Ⅳ-2	12(12)
			Ⅳ	43(1)
			Ⅴ-1-a	14
			Ⅴ-1-b	1
			Ⅵ-1	8(1)
			Ⅵ-2	4(1)
			Ⅵ-4	1
			Ⅵ-5	2(2)
			Ⅴ～Ⅵ	9(2)
			Ⅶ-2	1
			Ⅶ	1
			Ⅸ	17(4)
			不明	66
		皿	高台付Ⅱ	9
			不明	3
			平底Ⅱ-1	1(1)
			Ⅱ	25(1)
			Ⅴ?	1(1)
			不明	2
袋物				6

輸入陶磁	青磁	龍泉	碗	0	5
				Ⅰ-3	2
				Ⅰ-不明	3
		同安	碗	不明	4(2)
			皿	不明	1
		越州	碗		1
	陶器	A群		Ⅰ-盤-2	1
				盤	21
				Ⅰ-四耳壺	12
				小口瓶	14
				Ⅲ-行平	1
				Ⅲ-小鉢	1
				Ⅲ-軍持	3
				不明	1
		準A群			11
		B群		四耳壺	92
				長瓶	38
				壺?	1
				袋物	33
				碗	1
				不明	1
		C群		捏鉢3	3
				捏鉢	10
				坩堝	1
		D群		D-4	2
				不明	2
	青白磁	碗			1
		皿			3
		不明			1
	天目碗				1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		13
			坏身		15
			坏		3
			袋物		5
			大型容器		16
		緑釉袋物			1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	2
				ヘラ切小皿	2
				糸切坏	65
				糸切小皿	17
				坏	76
				小皿	10
				高台付	5
				不明	35
			その他	不明	27
		瓦器	埦		25
		瓦質	袋物		1
			不明		5
		陶器	甕		1
			瓶		1
			鉢		1
	近世	陶器			1
		土製品			6
	平瓦				24
	備考	石鍋			5
		石加工品			2
		石			1
		鉄釘			5
		刀子			1
		焼塩壺			1

1259号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ-1	10
				Ⅱ	15
				Ⅳ-2	2(2)
				Ⅳ	16
				Ⅴ-1-a	4
				Ⅴ-2-b	1
				Ⅵ-1	2(1)
				Ⅴ～Ⅵ	5
				Ⅸ-3	3
				Ⅸ	7
				不明	41
		小碗			1(1)
		皿		高台付不明	3(1)
				平底Ⅱ-4	1
				Ⅱ	14
				Ⅲ	2
				不明	1
		袋物			2
		鉄絵鉢			2
	青磁	同安	碗	Ⅱ	2
	陶器	A群		Ⅰ-盤-1	1
				盤	10
				Ⅰ-四耳壺	2
				小口瓶	5
				不明	2
		準A群			4
		B群	袋物		8
		C群	捏鉢3		1
			捏鉢		2
	青白磁	不明			5
	天目碗				1
	李朝陶器不明				1
国産品	古墳土師器				1
	奈良・平安	須恵器	坏蓋		4
			坏身		7
			坏		8
			袋物		1
			大型容器		9
			不明		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	3
				糸切坏	126
				糸切小皿	128
				坏	138
				小皿	81
				高台付	1
				不明	263
		須恵質	鉢		2
		瓦器	埦		22
		瓦質	不明		2
	近世	擂鉢			1
	平瓦				3
	備考	石鍋			3
		鉄釘			7
		刀子			1

国産品	備考	鉄器	1
		鉄滓	
		壁土	

1261号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ-1	4(2)
				Ⅱ-2	3(1)
				Ⅱ	7(1)
				Ⅳ-1	1(1)
				Ⅳ-2	5(5)
				Ⅳ	11
				Ⅴ-1-a	6
				Ⅵ-4	1
				Ⅴ～Ⅵ	4(2)
				未分類	1
				不明	17
		皿		高台付Ⅲ	1
				平底Ⅱ-1	2
				Ⅱ	5(1)
	青磁	越州	碗		5(1)
			袋物(陶器?)		1
	陶器	A群		Ⅰ-盤-1	2
				壺	1
				不明	1
		準A群			4
	青白磁	碗			2
	高麗陶磁碗				2
	李朝陶器碗				1(1)
	イスラム陶器				1
国産品	奈良・平安	土師器	坏?		4
		須恵器	坏蓋		1
			坏身		30
			埦		1
			袋物		5
			大型容器		19
		製塩土器			8
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	2
				ヘラ切小皿	13
				糸切坏	20
				糸切小皿	17
				坏	68
				小皿	2
				高台付坏	2
				高台付	8
				丸底坏	1
				ての字口縁	2
				蓋	1
				不明	4
				黒色土器埦	4
			土鍋		7
			不明		2
		須恵質	不明		1
		瓦器	埦		2
	丸瓦				1
	平瓦				4
	備考	鉄釘			2
		刀子			1
		土錘			1

1262号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ-1	12(2)
				Ⅱ	4(2)
				Ⅳ-1	5(5)
				Ⅳ-2	1(1)
				Ⅳ	16
				Ⅴ-1-a	5
				Ⅴ-2-b	3
				Ⅵ-1	1
				Ⅵ-2	1
				Ⅴ～Ⅵ	2(2)
				Ⅸ	3
				特殊	1(1)
				不明	12
		皿		高台付Ⅱ	1
				平底底Ⅱ-1	4(4)
				Ⅱ-3	1
				Ⅱ	6
				Ⅳ-2	1
		鉄絵鉢			1
	青磁	龍泉	袋物		1
		連江	碗		1(1)
	陶器	A群		盤	2
				Ⅰ-四耳壺	7
				小口瓶	2
				Ⅲ-行平	1
				黒褐釉壺	1
		準A群			7
		B群	袋物		3
		D群			1
		不明			3
	青白磁	碗			1
	天目碗				3
国産品	奈良・平安	土師器	不明		1
		須恵器	坏蓋		2
			坏身		8
			坏		2
			大型容器		10
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	20
				ヘラ切小皿	4
				糸切坏	4
				糸切小皿	6
				坏	12
				小皿	7
				高台付	6
				不明	27
			その他	不明	3
		瓦器	埦		5
		瓦質	不明		3
	丸瓦				1
	平瓦				4
	備考	小型石鍋?			1
		擂石			1
		鉄釘			3

国産品	備考	鉄器 鉄滓	1

1263号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	2
				Ⅱ－2	1
				Ⅱ	6(1)
				Ⅳ	1
				Ⅴ－1－a	1
				不明	2
		小碗			1(1)
		皿		平底Ⅱ－1	2(2)
				Ⅱ	3
	陶器	C群		捏鉢3	1
		不明			1
国産品	奈良・平安	須恵器		坏身	4
				不明	1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	1
				ヘラ切小皿	4
				糸切坏	2
				糸切小皿	1
				小皿	3
				高台付	1
				不明	1
				黒色土器椀	2
			その他	不明	3
		瓦器		椀	1

1264号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	2
				Ⅱ	2
				Ⅳ－1	1
				Ⅴ－1－a	1
				不明	4
		皿		平底Ⅱ－2	1
				Ⅱ	4
	陶器	B群		袋物	1
国産品	奈良・平安	須恵器		坏蓋	1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	坏	2
		須恵質		大型容器	1

1265号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	4
			Ⅱ	1
			Ⅳ	4(2)
			Ⅴ－1－a	3
			Ⅴ－2－b	2
			Ⅴ～Ⅵ	4(2)
			Ⅷ－1	4(1)
			不明	8
		皿	平底Ⅱ	7(3)
		鉄絵鉢		1

輸入陶磁	青磁	同安	碗	Ⅰ	1
				Ⅱ	1
		不明	碗		1
	陶器	A群	盤		1
			不明		2
		準A群			3
		D群	D－4		1
国産品	奈良・平安	土師器	甕		1
		須恵器	坏身		5
			大型容器		6
		製塩土器			2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切糸	5
				ヘラ切小皿	5
				糸切坏	6
				糸切小皿	3
				坏	27
				小皿	1
				高台付	1
			その他	土鍋	2
		瓦器	埦		5
			皿		1
平瓦					2
備考	鉄釘				3

1267号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	10(1)
				Ⅱ	3
				不明	1
		皿		Ⅱ	1
		おとし蓋			1
	陶磁	A群	盤		2
		C群	捏鉢		1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		1
			坏身		4
			大型容器		2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	3
				糸切小皿	1
				坏	7
				高台付	3

1276号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅳ	2(1)
				Ⅴ－1－a	7
				Ⅴ－2－a	2
				Ⅴ～Ⅵ	1(1)
				未分類	5
				不明	9
	陶器	A群	Ⅰ－盤－2		1
			盤		2
		B群	四耳壺		1
		D群			3
	青白磁	碗			1

国産品	奈良・平安	須恵器	坏身		2
			大型容器		6
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	1
				糸切小皿	5
				坏	14
				高台付	5
				黒色土器椀	6
平瓦					1
備考	石鍋				1

1301号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	3(1)
				Ⅱ－2	1
				Ⅱ	7(5)
				Ⅳ－2	1(1)
				Ⅳ	4
				Ⅴ－1－a	2
				Ⅴ－2－a	2
				Ⅴ～Ⅵ	3(3)
				不明	8
		皿		平底0－c	1
				Ⅱ	7
		鉄絵鉢			1
	陶器	B群	袋物		2
			蓋		1
		C群	捏鉢3		1
	青白磁	碗			1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		1
			坏身		1
			大型容器		9
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	3
				ヘラ切小皿	5
				糸切坏	2
				糸切小皿	1
				坏	2
				小皿	1
				高台付	1
				不明	1
				黒色土器椀	1
備考	砥石				1

上記以外のV面土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	5
				Ⅱ	3(1)
				Ⅳ－2	1(1)
				Ⅳ	12(2)
				Ⅴ－1－a	6
				Ⅵ－1	1
				Ⅴ～Ⅵ	3(1)
				Ⅸ－2	2(1)
				Ⅸ	1
				未分類	1(1)
				不明	1(1)
		皿	高台付	Ⅱ	8(4)
				Ⅲ	1
				潮州系(曲線文)	1
			平底	Ⅱ	8(1)
				Ⅲ	1
				不明	1

輸入陶磁	青磁	龍泉	碗	Ⅱ－1	1
		同安	碗	Ⅰ	2
				Ⅱ	1(1)
		越州	碗		2(1)
			中国陶器？		1
	陶器	A群	Ⅰ－盤－1		2
			盤		3
			Ⅰ－四耳壺		2
		準A群			3
		B群	袋物		16
		陶器碗			1
		陶器あるいは青磁碗			1
天目碗					1
高麗碗					1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		4
			坏身		41
			坏		1
			袋物		3
			大型容器		27
			不明		1
		製塩土器			2
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	9
				糸切坏	46
				糸切小皿	13
				坏	133
				小皿	6
				高台付	16
				不明	39
				黒色土器椀	7
			その他	土鍋	1
				不明	12
		須恵質	鉢		1
		瓦器	埦		4
近世	土人形				2
平瓦					3
備考	ガラス滓				
	鉄釘				5
	銅銭				1

180号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	6
			Ⅱ	8(4)
			Ⅳ－1	4(4)
			Ⅳ－2	4(3)
			Ⅳ	16
			Ⅴ－1－a	10(1)
			Ⅴ－1－b	4
			Ⅵ－1	1
			Ⅴ～Ⅵ	10(4)
			Ⅷ－2	1
			Ⅷ	1(1)
			潮州窯系	2(1)
			不明	36(2)
		皿	高台付Ⅰ－1	1(1)
			Ⅰ	1(1)
			平 底0－b	1(1)
			0－蕉葉文	1
			Ⅱ－2	2(2)
			Ⅱ	3(1)

輸入陶磁	白磁	壺			2
		鉢			1
		蓋			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－2	1
				Ⅰ－3	1
				Ⅰ－不明	1
		同安	碗	Ⅰ	1
				Ⅱ	1
		越州	碗		1
			袋物		1
			不明		1
		不明碗			1
	陶器	A群	Ⅰ－四耳壺		2
			小口瓶		5
			茶釉壺		1
			袋物		1
			不明		1
		準A群	無釉四耳壺		1
		B群	袋物		2
			碗		1
		C群	袋物		2
			捏鉢		8
			不明		2
		D群			1
		茶釉不明			1
国産品	古墳土師器				1
	奈良・平安	須恵器	坏蓋		6
			坏身		18
			袋物		1
			大型容器		16
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	13
				ヘラ切小皿	12
				糸切坏	12
				糸切小皿	16
				坏	54
				小皿	2
				高台付	1
				埦	11
				黒色土器埦	1
			その他	甕	1
				壺	1
		須恵質	鉢		1
			大型容器		7
		瓦器	埦		7
		瓦質	鉢		1
	平瓦				2
	備考	石鍋			8
		石球			2
		黒耀石			1
		ガラス平玉			1
		鉄釘			4
		環状鉄器			1
		鉄器			2

181号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	8
			Ⅱ	9
			Ⅳ－2	6
			Ⅳ	9(2)
			Ⅴ－1－a	6

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅵ－1	4
				Ⅵ－3	1
				Ⅴ～Ⅵ	6
				Ⅸ	5(1)
				不明	39
		小碗			1(1)
		皿	高台付Ⅰ		2(1)
				Ⅱ	6(2)
			平底0－蕉葉文		3
				Ⅱ－4	2
				Ⅱ	8
				Ⅵ	2(1)
		袋物			1
		鉄絵鉢			1
		小壺蓋			1
		蓋			1
		越州	碗		1
			盤口壺		1
	陶器	A群	Ⅰ－盤－1		2
			盤		10
			Ⅰ－四耳壺		2
			Ⅲ－軍持		2
			蓋		7
			不明		2
		準A群			15
		B群	袋物		7
		C群	捏鉢		4
			坩堝		2
		D群			4
	青白磁	碗			2
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋		1
			坏身		9
			坏		5
			袋物		1
			大型容器		12
	平安末～中世	土師器	坏・皿	糸切坏	49
				糸切小皿	25
				坏	90
				小皿	16
				高台付	2
				蓋	8
				不明	2
				黒色土器埦	
			その他	土鍋	4
		須恵質	鉢		1
		瓦器	埦		20
			皿		2
			蓋		1
		瓦質	不明		1
	平瓦				14
	備考	石鍋			2
		石鍋ミニチュア			1
		石錘			1
		鉄釘			6

V面ピット出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	16
				Ⅱ	26(2)
				Ⅳ－2	1(1)
				Ⅳ	23(1)
				Ⅴ－1－a	24(1)
				Ⅴ－2－a	2
				Ⅵ－1	1
				Ⅴ～Ⅵ	7(2)
				Ⅸ	1
				未分類	4(1)
				不明	62(2)
		小碗			1
		皿	高台付Ⅱ		3
				不明	3
			平底Ⅱ－4		2
				Ⅱ	11(2)
				Ⅳ	1
				不明	12
		水注			1
		鉄絵鉢			1
		鉢			2
		蓋			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－1	1
				Ⅰ－3	2
				Ⅰ－不明	1
				不明	1
		同安	碗	Ⅰ	1
				Ⅱ	2
				荒い縦線文	1
			小碗		1
			皿	不明	1
		越州	碗		2(1)
			袋物		1
			不明		2
		袋物			1
	陶器	A群	Ⅰ－盤－1		1
			盤		5
			Ⅰ－四耳壺		2
			小口瓶		3
			Ⅲ－行平		3
			不明		1
		準A群	茶釉四耳壺		5
			無釉四耳壺		1
		B群	袋物		9
			鉢		3
			碗		1
			不明		3
		C群	捏鉢3		2
			捏鉢		5
			坩堝		1
		D群	D－4		1
			不明		2
		黒釉壺			1
		不明			4
	青白磁	碗			1
		不明			1
	天目碗				1
国産品	奈良・平安	土師器	不明		2

国産品	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	45
				ヘラ切小皿	11
				糸切坏	95
				糸切小皿	41
				坏	134
				小皿	55
				高台付	42
				蓋	1
				不明	187
				黒色土器埦	29
			その他	土鍋	8
				鉢	2
				不明	166
		須恵質	鉢		1
			不明		3
		瓦器	埦		20
		瓦質	鉢		2
			不明		8
		陶器	甕		2
	平瓦				7
	備考	石鍋			2
		石錘			1
		鉄釘			8
		刀子			1
		鉄器			1
		鉄滓			
		焼塩壺			3
		壁土			

V面包含層出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		0－Ⅲ	1
				Ⅱ－1	46(1)
				Ⅱ－2	3
				Ⅱ	84(11)
				Ⅳ－1	4(4)
				Ⅳ－2	3(3)
				Ⅳ	114(5)
				Ⅴ－1－a	87(1)
				Ⅴ－1－b	2
				Ⅴ－2－a	6
				Ⅵ－1	5
				Ⅵ－3	1
				Ⅵ－5	2(2)
				Ⅴ～Ⅵ	42(26)
				Ⅸ－1	1(1)
				Ⅸ	25
				潮州窯	3
				未分類	3
				不明	222(1)
		小碗			7(4)
		皿	高台付蕉葉文		1(1)
				Ⅰ	9(4)
				Ⅱ	15(5)
				Ⅲ	1
			平底0－c		1
				0－蕉葉文	2
				Ⅱ－1	24(1)
				Ⅱ－2	2
				Ⅱ－4	3
				Ⅱ	46(14)
				Ⅲ	1(1)

輸入陶磁	白磁	皿	Ⅳ - 1	1
			Ⅳ - 2	2
			Ⅴ	1
			Ⅵ - 1	1
			Ⅵ	1
			口ハゲ	1(1)
			不明	6
		水注		3
		袋物		9
		鉄絵体		1
		潮州窯蓮弁文香炉		1
		香炉		2
		蓋		1
	青磁	龍泉	碗 Ⅰ - 1	19
			Ⅰ - 3	2
			Ⅰ - 4	7
			Ⅰ - 不明	7
			Ⅲ	1
			不明	1
			皿 碁笥底	1(1)
		同安	碗 Ⅰ	4
			Ⅱ	4
			荒い縦線文	1
			不明	5
			皿 不明	1
		越州	碗	40(3)
			四耳壺	4
			袋物	5
			不明	34
		連江	碗	2
			小碗	2(2)
	陶器	A群	Ⅰ - 盤 - 1	7
			Ⅰ - 盤 - 2	1
			盤	21
			Ⅰ - 四耳壺	46
			Ⅰ-四耳壺スタンプ文	1
			小口瓶	14
			Ⅲ - 行平	5
			Ⅲ - 鉢	1
			Ⅲ	6
			蓋	2
			不明	12
		準A群		36
		B群	四耳壺	4
			瓶	2
			袋物	70
			鉢	1
		C群	捏鉢1	3
			捏鉢3	4
			捏鉢	15
		D群		12
		黒釉不明		1
		不明		4
	青白磁	碗		15
		合子蓋		3
		合子身		2
		袋物		2
		不明		3
天目碗				6
黒釉壺・瓶あるいは水注				2
高麗碗				1
高麗不明				1

古墳土師器				1380
国産品	奈良・平安	土師器	蓋	1
			坏	20
			不明	163
		須恵器	坏蓋	306
			坏身	573
			坏	345
			高坏	1
			皿	1
			小壺	1
			袋物	170
			大型容器	758
			不明	7
		製塩土器		70
		玄界灘式製塩土器		74
		緑釉陶器		3
	平安末～中世	土師器	坏・皿 ヘラ切坏	89
			ヘラ切小皿	16
			糸切坏	410
			糸切小皿	171
			坏	1042
			小皿	252
			高坏	1
			埦	7
			蓋	11
			高台付	377
			ての字口縁	1
			不明	812
			黒色土器埦	271
			その他 土鍋	82
			把手	1
			鋳型	1
			不明	42
		須恵質	甕	25
			不明	3
		瓦器	埦	128
			皿	2
			不明	6
		瓦質	鉢	1
			火舎	4
			不明	28
		陶器	瀬戸壺	1
			甕	10
			不明	1
	近世	磁器		4
		陶器		2
		火舎		3
平瓦				32
備考			石鍋	20
			石錘	2
			砥石	5
			石玉	1
			石	1
			ガラス玉	2
			鉄釘	43
			刀子	2
			環状鉄器	4
			鉄器	3
			鉄滓	
			銅製把手	2
			銅製品	4
			土錘	21
			焼塩壺	81

Ⅵ面

Ⅵ面土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ - 1	1
			Ⅱ	2(1)
			Ⅳ - 2	1(1)
			Ⅶ - 2	1
			Ⅷ - 2	1
			不明	4
		皿	Ⅱ - 1	1(1)
			Ⅱ	1
		袋物		1
	陶器	A群	盤	5
			黄褐釉鉢	1
天目碗				1(1)
国産品	古墳土師器			8
	奈良・平安	須恵器	坏蓋	4
			坏身	24
			坏	2
			高台付坏	1
			埦	2
			大型容器	17
	製塩土器			11
	平安末～中世	土師器	坏・皿 ヘラ切坏	2
			糸切坏	5
			坏	14
			黒色土器埦	1
			その他 土鍋	11
			火鉢	1
			不明	10
		瓦器	埦	1
	備考	鉄釘		1
		焼塩壺		5

183号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ - 1	3
			Ⅱ	4
			Ⅳ - 1	1(1)
			Ⅸ	3
			不明	6
		皿	高台付Ⅰ	1(1)
		袋物		1
	越州	袋物		1
	陶器	A群	盤	1
			Ⅰ - 四耳壺	1
		B群	袋物	1
		C群	捏鉢	1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋	2
			坏身	6
			大型容器	5
	平安末～中世	土師器	糸切坏	12
			糸切小皿	5
			坏	12
			小皿	1
			高台付	4
	瓦器埦			7

国産品	備考	石鍋		1

184号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ - 1	4
			Ⅱ	5(1)
			Ⅳ	6(1)
			Ⅴ - 1 - a	2
			Ⅵ - 1	1(1)
			Ⅵ - 3	2
			Ⅴ～Ⅵ	4(2)
			不明	12
		小碗	ミニチュア	1(1)
			不明	1
		皿	平底Ⅱ	6
		袋物		1
	青磁	龍泉 碗	Ⅰ - 1	1
			Ⅰ - 不明	1
	陶器	A群	Ⅰ - 盤 - 1	1
			盤	1
			Ⅱ - 四耳壺	3
		準A群		2
		B群	袋物	2
		C群	捏鉢	1
			坩堝	1
天目碗				1(1)
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋	2
			坏身	11
			大型容器	12
	瓦？			1
	平安末～中世	土師器 坏・皿	ヘラ切坏	5
			ヘラ切小皿	2
			糸切坏	3
			糸切小皿	9
			坏	21
			高台付	2
			黒色土器埦	1
		その他	土鍋	9
			不明	5
		瓦器	埦	1
		瓦質	不明	1
		陶器	灰釉不明	1
			不明	1
	近世	陶器		2
平瓦				2
	備考	石鍋		2
		鉄釘		1
		刀子		2
		環状鉄器		1
		焼塩壺		1

185号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ - 1	4(1)
			Ⅱ	5
			Ⅳ - 1	1(1)
			Ⅳ - 2	2(1)
			Ⅳ	9
			Ⅴ - 1 - a	2

輸入陶磁	白磁	碗	V－2－a	2
			V～VI	2(1)
			不明	14
		小碗		1
		皿	高台付I	1(1)
			平　底II－4	1
			II	3(1)
		袋物		1
	青磁	越州	袋物	1
	陶器	A群	I－盤－1	1
			盤	1
			I－四耳壺	1
			不明	1
		準A群		4
		B群	袋物	3
		C群	捏鉢	1
			袋物	1
	天目碗			1
国産品	古墳土師器			27
	奈良・平安	土師器	高台付	1
		須恵器	坏蓋	3
			坏身	17
			袋物	1
			大型容器	9
	平安末～中世	土師器	坏・皿　ヘラ切坏	3
			ヘラ切小皿	2
			糸切坏	6
			糸切小皿	1
			坏	16
			高台付	6
			蓋	1
			不明	3
			黒色土器埦	2
			その他　土鍋	1
			不明	1
		須恵質	大型容器	3
		瓦器	埦	7
		陶器	緑釉埦	1
	平瓦			4
	備考	石鍋		3
		石鍋転用品		1
		焼塩壺		2

186号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	II－1	1
			II	1
			IV－1	1(1)
			IV	7
			V－1－a	1(1)
			V－2－a	1
			V	2
			VII	1(1)
			未分類	2(2)
			不明	8
		皿	平底0－蕉葉文	1
			II－4	2(1)

輸入陶磁	白磁	皿	II	1(1)
	袋物			2
	陶器	A群	盤	1
			小口瓶	1
		準A群		1
国産品	古墳土師器			13
	奈良・平安	須恵器	坏蓋	3
			坏身	9
			瓶	1
			大型容器	8
			不明	2
	平安末～中世	土師器	坏・皿　ヘラ切坏	4
			糸切坏	2
			糸切小皿	1
			坏	30
			小皿	3
			高台付	7
			埦	2
			その他　不明	5
		須恵質	大型容器	2
		瓦器	埦	2
		陶器	甕	1
	平瓦			4
	備考	石鍋		1

VI面ピット出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	II	4
			IV－1	1(1)
			IV	8
			V－1－a	9
			V～VI	1(1)
			VII－2	1
			IX	1
			未分類	1
			不明	25
		小碗		1
		皿	平底0－蕉葉文	1
			II－4	1
			II	2
			未分類	1
	青磁	龍泉	碗　I－1	3
			I－輪花	1
		同安	皿　I－1	1
		越州	碗	1
			不明	1
	陶器	A群	I－四耳壺	3
			III－行平	1
			不明	1
		準A群		1
		B群	袋物	1
			不明	1
		C群	捏鉢	1
国産品	古墳土師器			14
	奈良～平安　土師器		不明	9

国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋	33
			坏身	73
			坏	19
			皿	2
			袋物	11
			大型容器	71
			不明	4
		製塩土器		4
		緑釉不明		1
	平安末～中世	土師器	坏・皿　ヘラ切坏	17
			ヘラ切小皿	6
			糸切坏	34
			糸切小皿	2
			坏	134
			小皿	17
			高台付埦	7
			高台付	17
			蓋	3
			不明	51
			黒色土器埦	17
			その他　土鍋	2
			鉢	2
			壺	17
			不明	268
		須恵質	鉢	1
			不明	3
		瓦器	埦	6
		瓦質	不明	2
		陶器	灰釉不明	1
	平瓦			1
	備考	鉄釘		3
		刀子		1
		土錘		15
		土錘？		1
		焼塩壺		25

VI面包含層出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	0－III	2(2)
			II－1	4
			II	2
			IV－1	1
			IV－2	3(3)
			IV	7
			V－1－a	4
			VI－1	1
			VI－2	2
			IX	2
			末分類	2(2)
			不明	17
		小碗	内壁に曲線文	1
		皿	高台付II	2
			平　底II－1	1
			II	4
			IV－1	1
			IV－2	1
			不明	1
	袋物			1
	鉄絵鉢			1

輸入陶磁	青磁	越州	碗	3
	陶器	A群	I－盤－2	1
			盤	1
			I－四耳壺	6
			小口瓶	4
			III－行平	1
			不明	1
		準A群		2
		B群	四耳壺	2
			瓶	1
			袋物	8
		C群	水注	1
			擂鉢	1
			捏鉢	1
	青白磁	碗		2
		皿		2
		袋物		1
国産品	古墳土師器			138
	奈良・平安	土師器	坏	3
			不明	6
		須恵器	坏蓋	11
			坏身	40
			坏	3
			袋物	6
			大型容器	40
			不明	1
		玄界灘式製塩土器		2
		製塩土器		6
	平安末～中世	土師器	坏・皿　糸切坏	18
			糸切小皿	2
			坏	53
			小皿	1
			高台付	2
			蓋	1
			不明	14
			黒色土器埦	13
			その他　土鍋	1
			鉢	1
			不明	1
		須恵質	大型容器	1
			鉢	1
		瓦器	埦	7
			皿	1
		瓦質	不明	4
	近世	土製品		1
		袋物		3
		不明		1
	平瓦			4
	備考	石鍋		1
		砥石		1
		鉄釘		3
		土錘		2
		焼塩壺		3

Ⅶ面

1299号土壙出土遺物

器種					数量
輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	1
				Ⅱ	1
				不明	4
		皿		Ⅱ	1
	青白磁	不明			1
国産品	古墳土師器				17
	奈良・平安	土師器	坏・皿	糸切小皿	1
			その他	不明	4

Ⅶ面ピット出土遺物

器種					数量
輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	2
				Ⅱ	1
				不明	1
	青磁	越州		碗	1
	陶器	A群		Ⅲ－軍持	1
		黒釉袋物			1
国産品	奈良・平安	須恵器		坏蓋	1
				坏身	5
				坏	1
				袋物	2
				大型容器	5
		製塩土器			6
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	1
				糸切坏	1
				坏	4
				高台付	1
				不明	4
				黒色土器埦	2
			その他	不明	48
		陶器	黒釉袋物		1
	近世	磁器			2
		土製品			1
		その他			3
	平瓦				1
	備考	焼塩壺			2

撹乱、排土、壁削りetc

器種					数量
輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	2
				Ⅱ	4(2)
				Ⅳ	16(3)
				Ⅴ－1－a	6
				Ⅵ－1	5
				Ⅵ－5	1(1)
				Ⅴ～Ⅵ	5(4)
				Ⅶ－2	1
				Ⅷ	1(1)
				Ⅸ	2(1)
				不明	38(1)
		皿		高台付Ⅰ－1	1(1)
				Ⅱ	1
				曲線文	1
				明代	1(1)
				平 底0－蕉葉文	1(1)
				Ⅱ	4(1)
				口ハゲ	3(2)
				不明	1
		四耳壺			1
		袋物			3
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－3	1(1)
				Ⅰ－不明	4
				櫛描蓮弁文	1
				Ⅱ－1	2
				Ⅱ－2	1
				Ⅲ－蓮弁文	2
				Ⅴ	2(1)
				Ⅵ－1	2
				不明	11
			皿	高台付	1
				平底不明	3(1)
				Ⅲ－小鉢	1
				Ⅴ－盤	2
				Ⅴ－不明	1
		同安	碗	Ⅱ	10(3)
				不 明	1(1)
			皿	高台付	1(1)
				平底 Ⅰ-1	2
		越州	碗		1
	陶器	A群		Ⅰ－四耳壺	2
				不明	1
		準A群		茶釉四耳壺	16
				無釉四耳壺	1
		B群		袋物	9
		C群		袋物	1
				擂鉢	1
				坩堝	2
		D群			3
	青白磁	碗			1(1)
	天目碗				1
	明染付碗				1
	明染付皿				3(2)
	明染付不明				1
	李朝陶器不明				4
	朝鮮青磁碗				1(1)

	ベトナム染付高台付皿				2(2)
国産品	弥生土器				23
	古墳土師器				9
	奈良・平安	土師器			2
		須恵器	坏蓋		7
			坏身		18
			袋物		2
			大型容器		14
		製塩土器			1
	平安末～中世	土師器	坏・皿	ヘラ切坏	4
				ヘラ切小皿	1
				糸切坏	89
				糸切小皿	70
				坏	40
				小皿	5
				灯明皿	9
				高台付	1
				不明	41
				黒色土器埦	3
			その他	不明	1
		須恵質	擂鉢		1
			鉢		1
			大型容器		2
			不明		3
		瓦器	埦		5
		瓦質	片口		1
			鉢		4
			火舎		3
			不明		61
		陶器	備前甕		15
			備前擂鉢		4
			常滑甕		1
			甕		14
			擂鉢		2
	近世	唐津			3
		磁器			415
		陶器			154
		陶器大型容器			24
		陶器擂鉢			15
		土製品			96
		七輪			19
		土鍋			1
		灯明皿			1
		紅皿			10
	平瓦				20
	備考	刀子			1
		焼塩壺			3

Tab.3 輸入陶磁数量表

		Ⅰ面	Ⅱ面	Ⅲ面	Ⅳ面	Ⅴ面	Ⅵ面	Ⅶ面	計
輸入陶磁	白磁碗坏	1227(122)	1702(214)	2958(307)	2320(179)	1718(181)	244(29)	10	10179 (1029)
	明代碗	2	1(1)	0	0	0	0	0	3(1)
	小碗	6(2)	3(3)	13(6)	11(5)	11(7)	5(1)	0	47(24)
	皿	292(62)	599(97)	922(149)	507(90)	309(55)	33(7)	1	2663 460)
	明代高台付皿	12(11)	1	0	0	0	0	0	13(11)
	枢府皿	2	1	0	0	0	0	0	3
	鉢	4	7(1)	9	23(3)	11	1	0	55(4)
	四耳壺	0	9	13	2	0	0	0	24
	水注	5	5	3	2	4	0	0	19
	袋物	100	133	179	55	21	7	0	495
	合子	1	0	2	2	0	0	0	5
	小壺	1	5	1	1	1	0	0	9
	香炉	2	0	1	2	1	0	0	6
	蓋	2	2	5	6	5	0	0	20
	その他	0	5	1	0	0	0	0	6
	計	1656	2473	4107	2931	2081	290	11	13549
	龍泉Ⅰ-碗	239(23)	601(56)	518(37)	83(5)	52	6	0	1499 (121)
	Ⅱ-碗	121(1)	230(8)	144(4)	8(2)	1	0	0	504(15)
	Ⅲ-碗	52(7)	47(6)	24(1)	2(1)	1	0	0	126(15)
	Ⅳ-碗	1(1)	3(1)	0	0	0	0	0	4(2)
	Ⅴ-碗	72(12)	37(2)	1	0	0	0	0	110(14)
	Ⅳ-碗	8(1)	8	1	0	0	0	0	17(1)
	Ⅴ～Ⅵ碗	18(2)	1	0	0	0	0	0	19(2)
	不明碗	51	54	35(1)	5(1)	2	0	0	147(2)
	小碗	6(1)	5(3)	7(4)	0	0	0	0	18(8)
	皿	34(7)	57(13)	67(19)	7(2)	1(1)	0	0	166(42)
	V-稜花皿	5	3	0	0	0	0	0	8
	小鉢	6	23(3)	9(1)	0	0	0	0	37(6)
	袋物	6	12	9	1	1	0	0	29
	盤	29	10	5	0	0	0	0	44
	香炉	3	4	0	0	0	0	0	7
	その他	6	31(6)	0	1	0	0	0	38(6)
	計	656	1126	820	107	58	6	0	2773
	同安碗	209(23)	431(53)	627(43)	110(7)	33(3)	0	0	1410(129)
	小碗	0	0	0	0	1	0	0	1
	皿	48(12)	167(16)	153(25)	24(5)	3	1	0	396(58)
	計	257(35)	598(69)	780(68)	134(12)	37(3)	1	0	1806(187)
	越州碗	22(5)	11(3)	10(3)	19(5)	52(6)	4	1	119(22)
	皿	0	1	1	0	0	0	0	2
	袋物	5	6	9	29	12	2	0	63
	小壺	0	0	1	0	0	0	0	1
	その他	2	2	2	0	37	1	0	44
	計	29	20	23	48	101	7	1	229
	連江碗	0	0	0	3	3(1)	0	0	6(1)
	小碗	0	0	0	0	2(2)	0	0	2(2)
	計	0	0	0	3	5(3)	0	0	8(3)
	陶器盤	186	331	416	167	107	13	0	1220
	A群Ⅰ-四耳壺	46	69	144	108	78	14	0	459
	小口瓶	14	35	44	21	52	5	0	171
	軍持	3	0	7	3	5	0	1	19
	行平	0	5	14	14	10	2	0	45
	鉢	1	3	3	0	2	1	0	10
	蓋	1	2	5	1	9	0	0	18
	袋物	7	15	7	5	5	0	0	39
	その他	20	2	24	15	29	3	0	93
	準A群 茶釉四耳壺	188	436	520	179	89	10	0	1422
	無釉四耳壺	20	23	32	14	2	0	0	91
	B群四耳壺	3	12	26	5	97	2	0	145
	水注	7	11	12	1	0	0	0	31
	瓶	4	4	16	0	36	1	0	61
	短頸壺	4	17	26	1	0	0	0	48
	袋物	228	651	639	238	172	15	0	1943
	鉢	4	30	42	5	5	0	0	86

		Ⅰ面	Ⅱ面	Ⅲ面	Ⅳ面	Ⅴ面	Ⅵ面	Ⅶ面	計
輸入陶磁	陶器蓋	0	0	1	5	1	0	0	7
	B群碗	0	0	0	3	4	0	0	7
	皿	14	27	25	0	0	0	0	66
	その他	1	1	12	2	4	1	0	21
	C群四耳壺	1	0	0	0	0	0	0	1
	水注	0	0	0	1	0	1	0	2
	袋物	4	6	8	4	2	2	0	26
	擂鉢	0	1	0	0	0	1	0	2
	鉢	3	1	3	3	0	0	0	10
	捏鉢	48	83	123	80	65	5	0	404
	無釉盤口壺	0	0	0	4	0	0	0	4
	坩堝	2	5	5	3	4	1	0	20
	その他	0	5	2	4	2	0	0	13
	D群一括	123	231	265	59	46	0	0	724
	茶入れ	1	3	1	0	0	0	0	5
	不明	24	8	11	14	14	0	1	72
	計	957	2017	2433	959	840	77	2	7310
	青白磁碗	33(5)	24(4)	45(5)	48(2)	23	2	0	175(16)
	皿	14(2)	27(5)	38(2)	5	3	1	0	88(9)
	合子	6	7	12	6	5	0	0	36
	小壺	0	4	10	8	0	0	0	22
	袋物	6	3	8	4	3	1	0	25
	香炉	0	1	1	2	0	0	0	4
	蓋	0	1	1	0	0	0	0	2
	その他	0	34(1)	9	5	10	0	1	59
	計	59	101	124	78	44	4	1	411
	天目碗	30(2)	16(1)	33(4)	10(1)	11	3(2)	0	103(10)
	皿	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	2	0	0	0	0	2
	計	30	16	35	10	11	3	0	105
	明染付碗	60(13)	8(1)	0	1	0	0	0	69(14)
	高台付皿	5(1)	8(1)	0	0	0	0	0	13(2)
	碁笥底皿	2	2	0	0	0	0	0	4
	皿	8(2)	0	0	0	0	0	0	8(2)
	その他	6(1)	2	0	0	0	0	0	8(1)
	計	81	20	0	1	0	0	0	102
	磁州白磁碗	0	0	1(1)	1(1)	0	0	0	2(2)
	壺	0	1	3	0	0	0	0	4
	計	0	1	4	1	0	0	0	6
	黒釉碗	0	1	0	0	0	0	0	1
	(茶)皿	0	0	1(1)	0	0	0	0	1(1)
	袋物	2	0	3	1	2	0	0	8
	緑釉一括	0	1	3	1	0	0	0	5
	高麗碗	1	1	0	2	4	0	0	8
	皿	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	1	0	0	1
	李朝白釉碗	2(2)	1	0	0	0	0	0	3(2)
	粉青沙器碗	5	2	0	0	0	0	0	7
	粉青沙器皿	0	1	0	0	0	0	0	1
	粉青沙器袋物	6	3	0	0	0	0	0	9
	陶器碗	1	5(1)	4	3(3)	1(1)	0	0	14(5)
	陶器皿	0	2	0	0	0	0	0	2
	陶器袋物	45	7	17	0	0	0	0	69
	陶器不明	0	2	3	0	1	0	0	6
	朝鮮碗	4(2)	2	0	0	0	0	0	6(2)
	皿	1	0	0	0	0	0	0	1
	袋物	7	4	0	0	0	0	0	11
	不明	11	19	3	1	1	0	0	35
	計	83	49	27	6	8	0	0	173
	ベトナム	2(2)	0	0	1	0	0	0	3(2)
	イスラム陶器	0	0	0	0	1	0	0	1
	合計	3812	6423	8360	4281	3188	388	15	26467

Tab.4　国産品数量表

		Ⅰ面	Ⅱ面	Ⅲ面	Ⅳ面	Ⅴ面	Ⅵ面	Ⅶ面	計
国産品	弥生・古墳	24	2	71	133	1382	192	17	1821
	土師器 坏	0	3	0	6	24	4	0	37
	不明	0	9	5	1	168	15	0	198
	須恵器.坏	150	221	160	285	1438	263	7	2524
	皿	0	0	0	1	1	2	0	4
	埦	0	0	1	0	1	2	0	4
	物	43	55	75	91	192	19	2	477
	大型容器	206	276	262	239	896	162	5	2046
	不明	9	22	8	9	10	10	0	59
	計	408	574	506	625	2538	458	14	5123
	製塩土器	0	1	0	1	156	23	6	187
	土師器ヘラ切坏	7	23	52	135	195	31	1	444
	ヘラ切小皿	5	0	8	35	71	10	0	129
	糸切坏	3844	7350	4088	1086	872	80	1	17321
	糸切小皿	1563	2682	2144	663	456	20	1	7487
	坏	1998	3955	2529	1221	1834	280	4	11821
	小皿	586	904	457	234	443	22	0	2646
	埦	0	0	0	0	18	2	0	20
	高台付埦	0	0	0	0	7	7	0	14
	高台付皿	0	0	14	0	0	0	0	14
	高台付	45	52	40	78	473	49	1	738
	ての字口縁	0	0	1	0	3	0	0	4
	灯明皿	4	2	0	0	0	0	0	6
	蓋	0	0	4	10	15	5	0	34
	黒色土器埦	9	11	12	24	323	39	2	420
	不明	1230	2170	1147	735	1438	322	4	7046
	計	9291	17149	10496	4221	6145	867	14	48183
産品	土師器土鍋	140	139	57	4	104	24	0	468
	擂鉢	26	6	0	0	0	0	0	32
	鉢	14	53	13	7	2	3	0	92
	壺	3	16	6	0	1	17	0	43
	不明	263	264	154	152	284	290	52	1459
	須恵質擂鉢	3	2	11	1	0	0	0	17
	鉢	61	113	48	22	6	1	0	251
	大型容器	7	5	39	15	33	6	0	105
	不明	8	5	5	3	7	0	0	28
	瓦器埦	41	120	212	257	244	31	0	905
	皿	4	4	4	1	5	1	0	19
	瓦質擂鉢	41	204	8	0	0	0	0	253
	鉢	71	275	75	6	4	0	0	431
	鍋	1	0	1	0	0	0	0	2
	釜	1	0	0	0	0	0	0	1
	火舎	64	28	2	0	4	0	0	98
	容器	19	1	0	1	1	0	0	22
	不明	201	44	21	15	47	7	0	335
	備前燒	278	121	19	0	1	0	0	419
	擂鉢	34	17	1	0	0	0	0	52
	壺	1	2	0	0	0	0	0	3
	不明	29	0	0	0	0	0	0	29
	常滑燒	2	4	0	0	0	0	0	6
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0
	瀬戸おろし皿	2	4	0	0	0	0	0	6
	鉢	1	0	0	0	0	0	0	1
	袋物	1	0	0	0	1	0	0	2
	不明	1	2	0	1	0	0	0	4
	古窯系燒	215	193	23	16	13	1	0	461
	擂鉢	5	8	4	0	1	0	0	18
	不明	3	10	1	0	1	2	0	17
	天目碗	2	1	0	0	0	0	0	3
	緑釉陶器	0	1	0	1	4	1	0	7
	計	574	363	48	17	21	4	0	1027
	近世伊万里	117	0	0	0	0	0	0	117
	唐津	21	0	0	0	0	0	0	21

		Ⅰ面	Ⅱ面	Ⅲ面	Ⅳ面	Ⅴ面	Ⅵ面	Ⅶ面	
国産品	近世磁器	665	52	4	9	4	2	2	738
	陶器	509	60	11	6	3	0	0	589
	大型容器	95	12	0	0	0	0	0	107
	土鈴	3	0	0	0	0	0	0	3
	土製品	56	5	5	2	10	1	1	80
	七輪	342	19	0	0	0	0	0	361
	擂鉢	85	10	4	2	1	0	0	102
	火鉢	57	15	1	0	3	0	0	76
	紅皿	5	0	0	0	0	0	0	5
	その他・不明	55	11	1	0	0	4	3	74
	計	2010	184	26	19	21	7	6	2273
産品	軒丸瓦	9	2	1	0	0	0	0	12
	丸瓦	31	6	3	4	2	0	0	46
	軒平瓦	139	0	0	0	0	0	0	139
	平瓦	316	299	263	110	105	15	1	1109
	塼	0	3	2	0	2	0	0	7
	瓦	0	0	3	5	0	1	0	9
	瓦玉	1	1	1	0	0	0	0	3
	瓦加工品	1	0	0	0	0	0	0	1
	計	497	311	273	119	109	16	1	1326
	石鍋	33	53	62	22	43	8	0	221
	石鍋加工品	2	2	3	0	2	1	0	10
	石錘	1	4	1	1	4	0	0	11
	石製スタンプ	1	0	0	0	0	0	0	1
	硯	4	3	1	1	0	0	0	9
	砥石	10	19	11	2	7	1	0	50
	石玉	1	2	9	1	3	0	0	16
	石製品	1	4	9	5	0	0	0	19
	ガラス玉	2	0	1	4	3	0	0	10
	鉄釘	303	365	220	105	89	8	0	1090
	刀子	19	37	12	1	6	3	0	78
	板状鉄器	7	6	4	3	0	0	0	20
	環状鉄器	5	13	2	7	5	1	0	33
	鉄器	29	75	17	2	8	0	0	131
	銅銭	92	125	47	5	1	0	0	270
	煙管の吸口	1	0	0	0	0	0	0	1
	銅製品	25	21	6	1	4	0	0	57
	銅鍋	1	0	0	0	0	0	0	1
	土錘	4	7	3	3	22	18	0	57
	土鈴	2	0	0	0	0	0	0	2
	土製品	1	2	2	0	0	0	0	5
	焼塩壺	4	4	1	7	85	36	2	139
	鞴	2	4	2	1	0	0	0	9
	さな	0	2	3	2	0	0	0	7
	計	550	748	416	173	282	76	2	2247
	合計	14322	20623	12497	5799	11588	2042	112	66983

まとめ

博多駅・築港線の調査は昭和57年から昭和61年まで5次にわたり発掘調査を実施し、その後整理、報告を行いこれまで1～4次の報告書が刊行されている。調査は都市計画道路博多駅・築港線の拡幅工事に先行するもので、道路の東側部分の幅20m、調査総面積約2400㎡である。調査地点は福岡市博多区呉服町、御供所町にあたる。調査はビル、店舗等の出入口あるいは歩道を確保する必要から調査区によりその部分が狭くなり、また用地の買収の進展に合わせて5区に分割し、数年度にかけて調査を実施した結果、各調査次毎に調査担当者も異なり、自ずから調査方法等多少異なる点も生じた。調査区割は1次調査で用いたグリッドを2～5次もそのまま使用した。すなわち、現道に沿って20m×20mの方眼を設け、海側から順にA～Mの符号をつけて実施した。ただし4、5次調査は西へ3m寄っている。調査方法は表土から1.5～2mを機械で除去し、その下をⅠ～Ⅶ面に分けて面毎に調査を実施した。

1次調査で注目される遺構として瓦、陶磁器を敷きつめた道路状遺構があげられよう。方向は東西をとり、現町筋より6°～7°北に傾むいている。14～16世紀の所産とされ、当時の街割の一端を知ることができる。他に方形板組の井戸がある。土師皿類は大部分底部ヘラ切りで、丸底坏、Ⅱ、Ⅳ類の白磁碗を共伴し、11世紀後半～12世紀初めのもので、この時期の一括遺物として重要である。2次調査でも多くの遺構、遺物が出土している。Ⅲ面で検出した14世紀前半に比定される配石遺構は方形の区画をもち、五輪塔を伴う可能性があり墓地あるいは供養施設と考えられ、墓地とすれば、それまでの墓地の有り方と異なり、点在するのではなく、集落の近くに数箇所の墓地の形成が始まった可能性があるとされている。638号土壙は木棺墓で化粧箱が副葬されていた。 表面は漆塗で金、銀を用いる研出蒔絵の技法で描いている。 博多遺跡群は砂丘上に占地するため、木製品を出土するのは希であり、貴重な資料である。他に棺外副葬遺物に青磁碗、皿、土師器の坏、皿があり12世紀前半の一括資料として良好である。541号土壙からは黄釉鉄絵の盤の見込全体にユーモラスな龍を描いているものが出土している。13～14世紀にかけての遺物は単品としては多く出土しているが、遺構や一括資料は少ない。3次調査では基盤層である黄白色砂層は調査区の中ほどで急激に落ち込み、黒褐色腐植泥土及び灰～暗褐色粗砂層の堆積がみられる。この部分からは土壙墓、井戸、掘立柱建物がみられ、遅くとも12世紀代には遺構が掘り込まれている。689、699号土壙はこの砂丘縁に位置する15世紀前半の板囲いの土壙で湿地状を呈していたものであろう。掘り込み面は標高2.5m前後でほぼ同時代の1次調査の1号道路状遺構との比高差は約1mである。さらに北端は東西に走る10号溝がある。時期は698号土壙より少し新しくなる。標高3m前後より掘り込まれており、短い年月にかなり堆積が進んでいたことになる。これらの土壙、溝から木製品（下駄、漆器、箸、鳥帽子等）が多く出土し、当時の生活を彷彿させる。またSX05とした祭祀遺構は15世紀中頃の遺構で標高3.5～4m前後が当時の生活面と考えられる。以上のように3次調査地点は博多浜と沖ノ浜の間の低湿地

の都市化の歴史と言える。4次調査では地下室等の攪乱が著しく、標高4.3mからの調査であった。そのためI 面では一部15世紀代以降の遺構、遺物を含むが、それは上層からの掘り込みと考えられ、本来13～14世紀の層であろう。Ⅲ面からは白磁を主体とする11～12世紀の遺物が多い。ただ北側は新しくなる傾向があるが、これは本来傾斜している面を水平に機械的に掘った結果である。ＳＸ30、34は14世紀代の礫、粘土敷遺構である。標高は4.2～4.3mで遺構の状況から考えて、あまり深い掘り込みとは考えられないので、この標高前後が当時の生活面であろう。これより上が15世紀以降の遺構面と考えられるが、近、現代の攪乱によりそれらの面が把握できない。調査区の南側に13世紀後半の溝がある。東西に走る現街筋より南に傾く。幅1.4m、深さ0.6mを測るが、本来はもっと大きな規模のもので、この時期の街割りの一端を示すものであろう。11～12世紀の遺構では井戸の他に大型の土壙が著しく多い。特にII区とした北側には長方形ないし楕円形の土壙が集中して確認された。その中で1051、1066、1071、1072号土壙などは廃棄用土壙とは考え難く、土壙墓の可能性が強い。土壙墓とすればこの地点に集中して墓を造り、墓地を形成していたことになる。最下層からは8～9世紀の遺構、遺物もみられるが上面の遺構に切られ、遺存状態は悪い。その中で古墳時代初頭の古式土師器が一点完形品で出土している。掘り方は確認できなかったが出土した土師器は底部穿孔がなされており祭祀あるいは墓の可能性が強い。いずれにしろ古墳時代初頭の遺構がこの地点まで拡大していたことを示している。5次調査は面積も狭いことから遺構の量も遺存状態も良くない。最も古い遺構は古墳時代初頭の1099号土壙である。隅丸長方形の小土壙で小型壺、甕が出土している。古墳時代の遺構がさらに北側まで拡大していることがわかる。奈良～平安時代の遺構は少なく、増加するのは11世紀後半以降で輸入陶磁器を多く出土し、博多遺跡群の性格を如実に現している。その時期の遺構に1061、1062号土壙があげられる。遺物は底部ヘラ切りの土師器皿、丸底の坏あるいはII、Ⅳ類の白磁碗などで一括資料として良好である。他に同時期の遺構として1043、1056、1059号土壙があり、1043号土壙は白磁のII、Ⅵ類の碗を破砕して投棄しているものである。1059号土壙は完形の土師器の坏、皿、白磁を出土し土壙墓と考えられる。土師器の皿はすべての底部糸切りで12世紀の中頃になる。13世紀代の土壙として1221号土壙があげられる。青磁碗の内面に片切彫文様をもつ。長方形の土壙墓と考えられ底部糸切りの土師器皿が共伴している。14～15世紀の遺構は少なく175号井戸、1182号土壙などがある。1137号土壙は16世紀後半の溝状遺構で幅0.6m、深さ1.6mの規模である。一時期に埋められており埋土は焼土、炭化物であり、防湿の施設と考えられるが、関連する遺構はないので詳細については不明である。

1～5次の調査で4、5次調査の遺構は比較的古く11世紀後半～12世紀の遺構が多く、北側すなわち博多浜と沖ノ浜を繋く陸橋部にむかって包含層が厚く、時期的にも新しくなる。これは南側部分の生活面が高く近、現代の攪乱に切られ、遺構が破壊されているもので、本来全体に新しい時期の遺構も拡がっていたものであろう。

14世紀以降の輸入陶磁器

博多遺跡群・都市計画道路築港線拡幅工事に伴なう発掘調査　第三次調査出土品から

森本　朝子

頭書の調査は1985年１月25日から12月４日まで実施されたもので、すでに1989年度『福岡市埋蔵文化財報告書第204集』として調査概要が出版されている。対象地は博多区上呉服町一番地にあり、調査対象面積1,100㎡、調査実施面積は417㎡であった。報告書によれば、この地点においては中世Ⅲ期（築港線関係の調査で用いた時代区分で、室町時代後半を主とする時代、15・16世紀）の遺構・遺物が最も多かったとのことである。

博多では、これまでの調査で14世紀までの遺構・遺物が豊富に出土しているが、これになれた目にとっては、第三次調査の遺物は一見して異なり、珍しいものが多く興味をそそられた。

14世紀後葉からおよそ100年間は、中国では明代初期にあたる。我国、ことに沖縄以外の地方で、この時期の中国陶磁器を出土する良好な遺跡が少なく、資料の増加が待望されている時代である。生産地の中国においてもこの期の終りには「空白の三十年」とされる三朝、正徳、景泰、天順（1436～1464年）があり、景徳鎮における陶磁生産が大いに低落したということである。彼我の事情が相まって、我国の「空白の十五世紀」が現出したものであろう。このような研究の現状を考えると、第三次調査の厚い「中世Ⅲ期」は重要である。[1]

先にも述べたように、当遺跡の主要な遺構についてはすでに報告がされているので、ここでは紙数の関係で報告書から割愛された包含層の遺物を紹介しておきたい。

時間的な制約から遺物全体を扱うことができず、輸入陶磁器、中でも14世紀以降の遺物のみを対称とした。形式でいえば青磁龍泉Ⅲ類、白磁口ハゲ以後の新しい要素がそれである。[2]そのため、それ以前の輸入陶磁器との関係を検討できず、また国産陶磁器その他の遺物との対照も行なうことができなかった。

	Ⅳ面	Ⅲ面	Ⅱ面	Ⅰ面	表採	合計
青磁	10	243	325	162	27	767
参考（龍泉Ⅲ類）	(181)	(60)	(23)	(9)	(3)	
白磁	38	74	146	80	8	346
染付	5	18	111	69	47	250
天目	7	12	13	10	1	43
朝鮮陶磁器	19	37	78	67	16	217
合計	79	384	673	388	99	1,623

表一　14世紀以降の輸入陶磁器出土状況(破片数)

遺物の整理は取り上げの層位ごとに分けて行なった。報告書によれば、調査は上からⅦ面に分けて掘り下げられたが、土質の関係で層位確認が困難であったため、各面が必ずしも歴史的な同一生活面

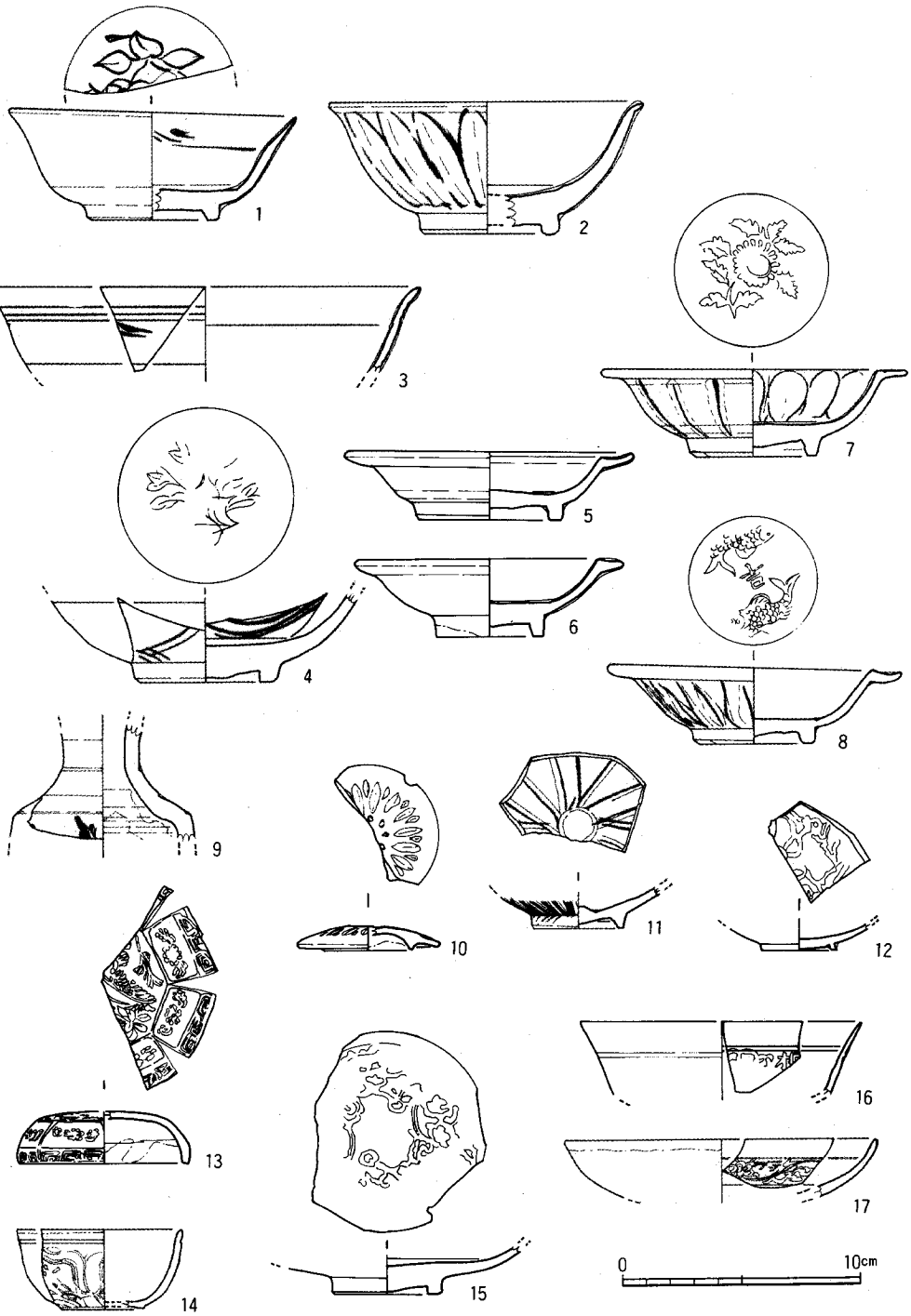


Fig.1　V面出土：1青磁 Ⅵ面出土：2～8青磁　9～12青白磁　13～17白磁

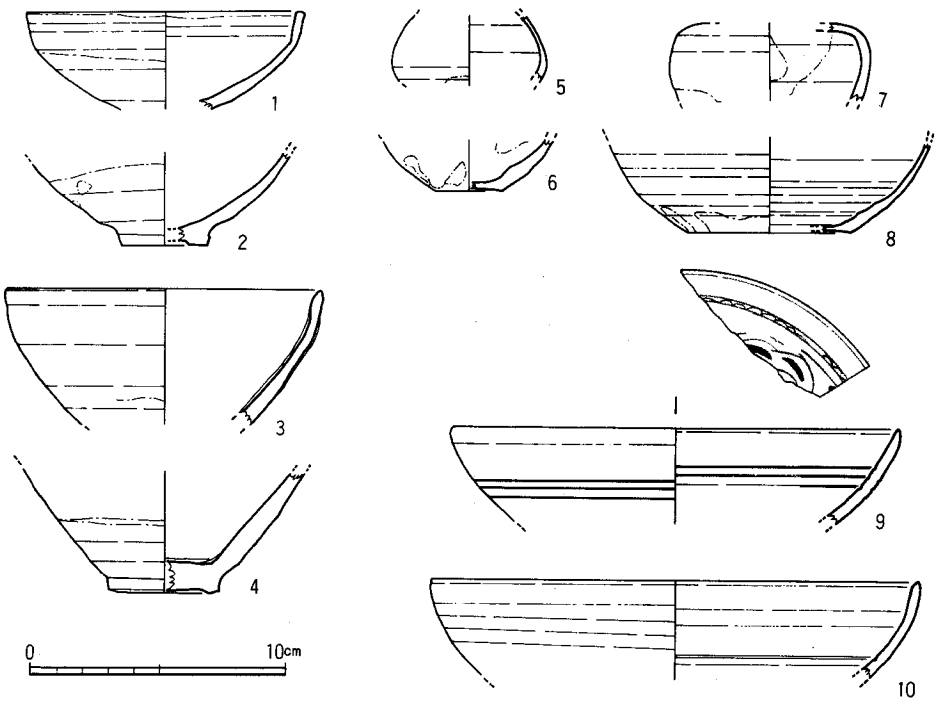


Fig.2　Ⅳ面出土：1～4天目茶碗　5～8黒褐釉陶器　9・10朝鮮陶器

と一致していないとのことである。これは博多での発掘調査では常に付きまとう問題である。しかし400㎡余にわたり、ともかくも一定の上下関係に従って取り上げられた資料である。素直にこの人為的「層位」に従うことにも、一定の意義があろう。

Ⅴ面以下の遺物

Ⅴ面以下の遺物には、新しい要素はほとんど見られなかった。わずかに1例を図化した。Fig.1－1　**青磁**龍泉Ⅳ類小鉢（Ⅴ面出土）。

したがって今回の対称となるのはⅣ面以上である。「表一」は抽出した新しい要素の集計である。青磁龍泉Ⅲ類の数を参考のため付した。

Ⅳ面の遺物

青磁（Fig.1－2～8）

2　陽刻蓮弁文碗。3・4　端反劃花文碗（図イ参照）。5～8　つば皿　いずれも青磁龍泉Ⅳ類に属す。このⅣ類は韓国新安沈船[3]（1323年）や、インドネシア・ジャワ島ツバン沈船[4]の（14世紀中葉）の青磁の主体をなすものである。釉調は個体差が激しいが、胎土は白灰色が多く、角

高台、外底無釉を基本としている。このⅣ類については最近詳細な分類の試みが発表されているので参照されたい。(5)

白磁（青白磁を含む）（Fig.1－9～17）

9～12　青白磁。確実に新しい要素は12のみであるが、青白磁はⅣ面以上では目立たなくなるので収録した。13・14は型造りの白磁、14にはラマ式蓮弁が見られる。15～17は白磁B群。いわゆる枢府系白磁である。内面に印花を施すが、釉が不透明ではっきり見えないものが多い。高台は断面方形に近く、平らで幅広い畳付から外底まで露胎である。16・17の「枢」「府」の銘は枢府系の名の由来となるものである。このような銘入りは従来元代の役所「枢府」公用のものと解釈されてきた。しかしこれまでに海外で出土した例もけっこう多く、また最近では中国国内でも個人の残したと思われる埋蔵から109件もの「枢府」銘入り皿類が発見され、必ずしも、公用を示す銘とはいえないようである。(6)この他に図化しなかったが、いわゆる徳化窯系の型造りの皿も出土している。外面に陽刻線文で蓮弁を表わす平底皿である。

天目茶碗と黒褐釉陶器、高麗象嵌青磁（Fig.2－1～10）

この種のものについては知識が十分ないので、変化を見るために並べてみる。

Ⅳ面では「表一」でも明らかなように新しい要素は多くなく、主体は青磁では龍泉Ⅱ・Ⅲ類、白磁では口ハゲの類である。

Ⅲ面の遺物

青磁（Fig.3－1～14）

1～8　青磁碗、1を除き端反である。龍泉Ⅳ類。胎土には精・粗の二種があり1～3、6は胎土

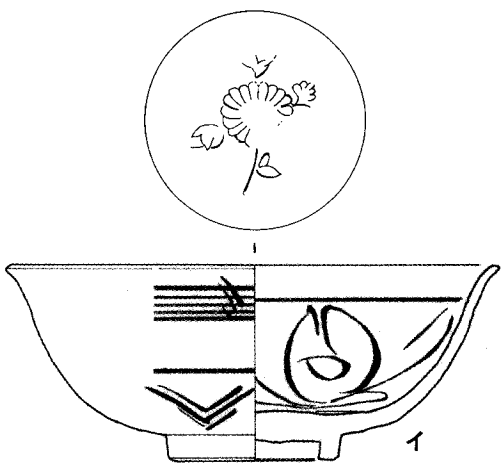


Fig.1-3・4と同形の青磁碗、ツバン出土(4)

		Ⅳ面	Ⅲ面	Ⅱ面	Ⅰ面	表採
つば皿	Ⅲ　類	36	11	11	2	0
	Ⅳ　類	19	16	6	4	0
	Fig.7-5・6	0	0	6	4	0
端反碗・精	印花文	3	6	1	1	0
	劃花文	12	10	11	1	1
	水平線文	3	11	1	0	0
	無　文	12	42	25	9	1
端反碗・粗	無　文	7	20	27	14	2
	玉縁無文		27	15	1	0
	玉縁印花文		1	5	3	

表二　青磁つば皿及び端反碗の出土状況(破片数)

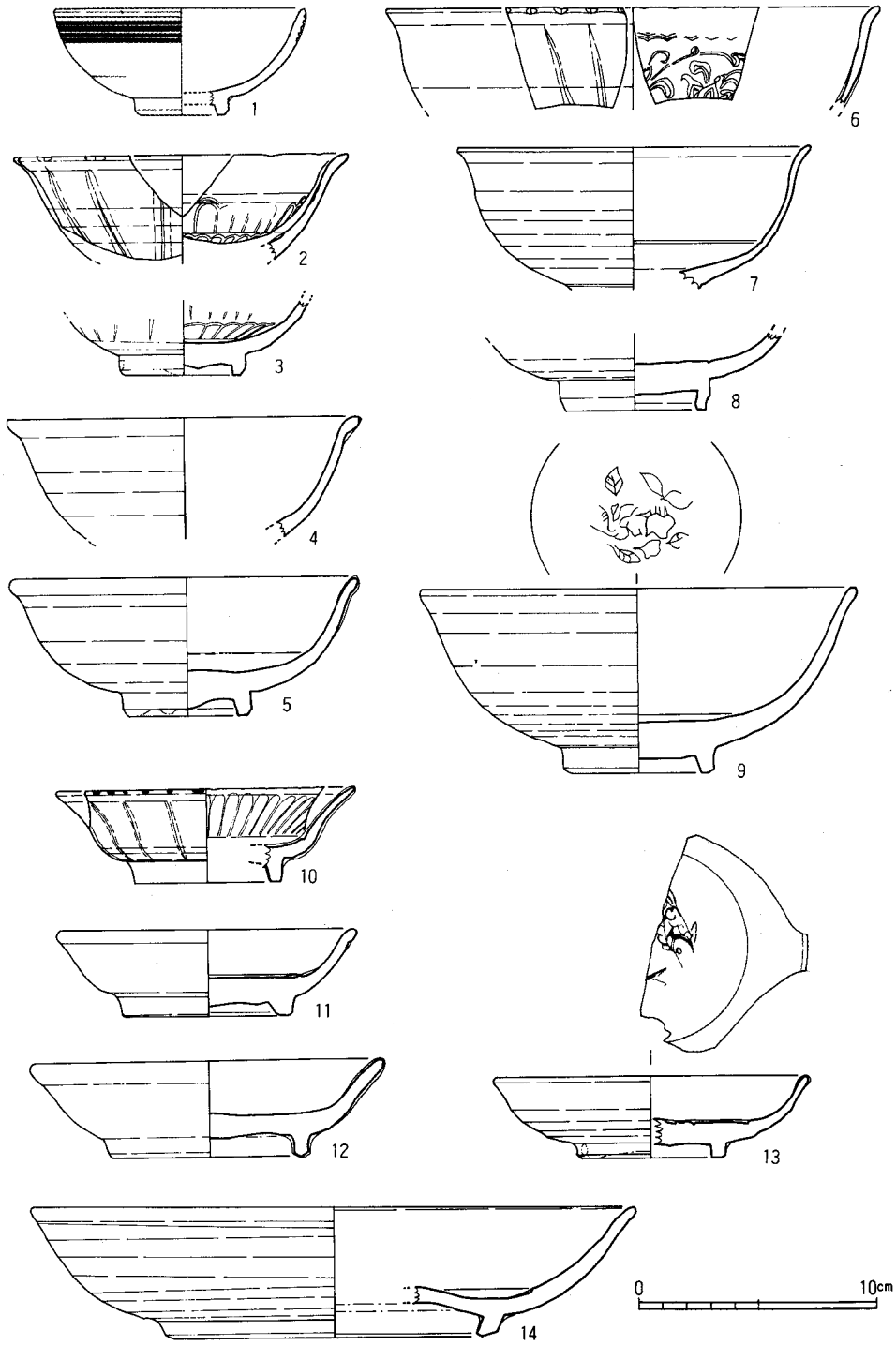


Fig.3　Ⅲ面出土：青磁

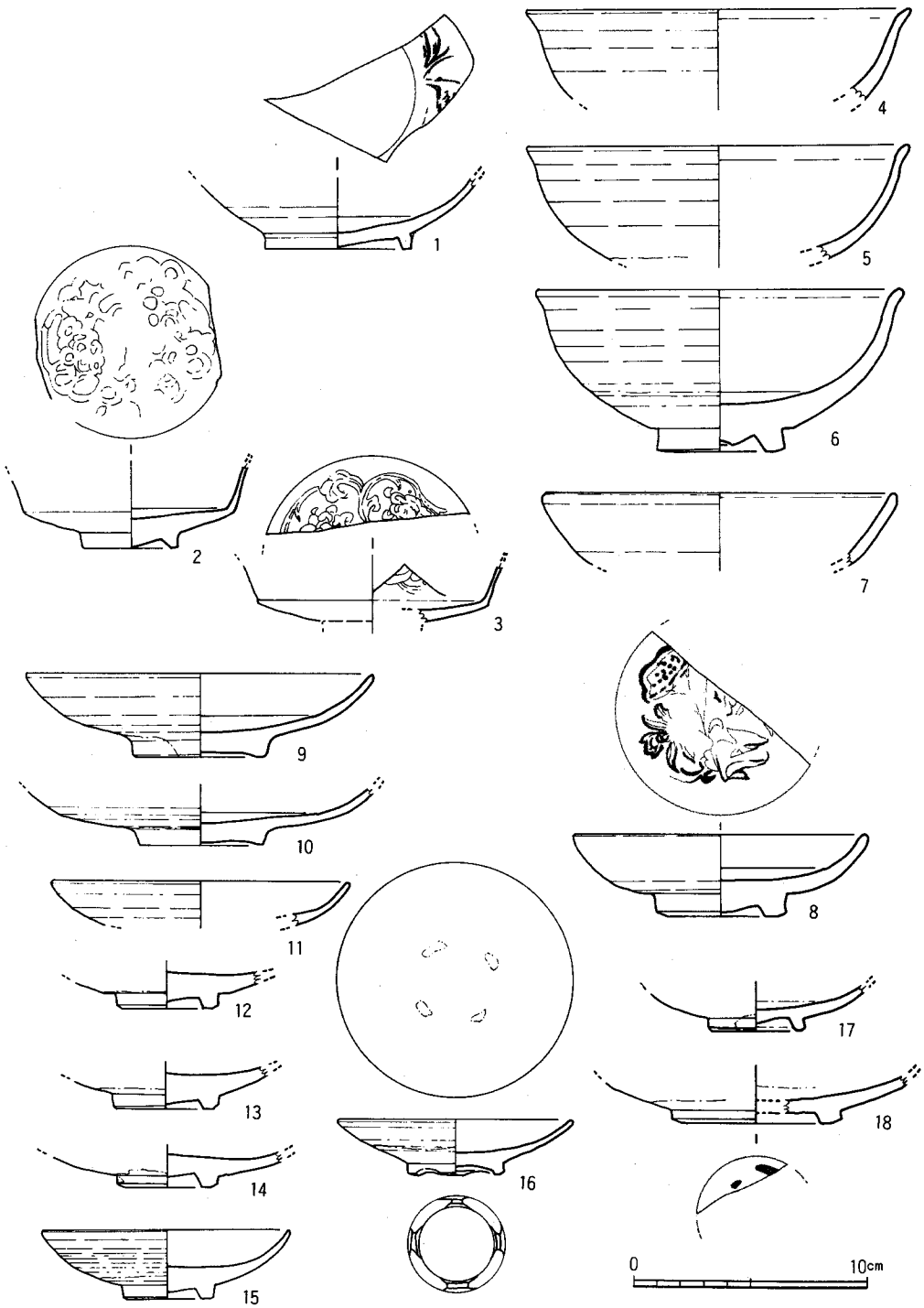


Fig.4　Ⅲ面出土：白磁

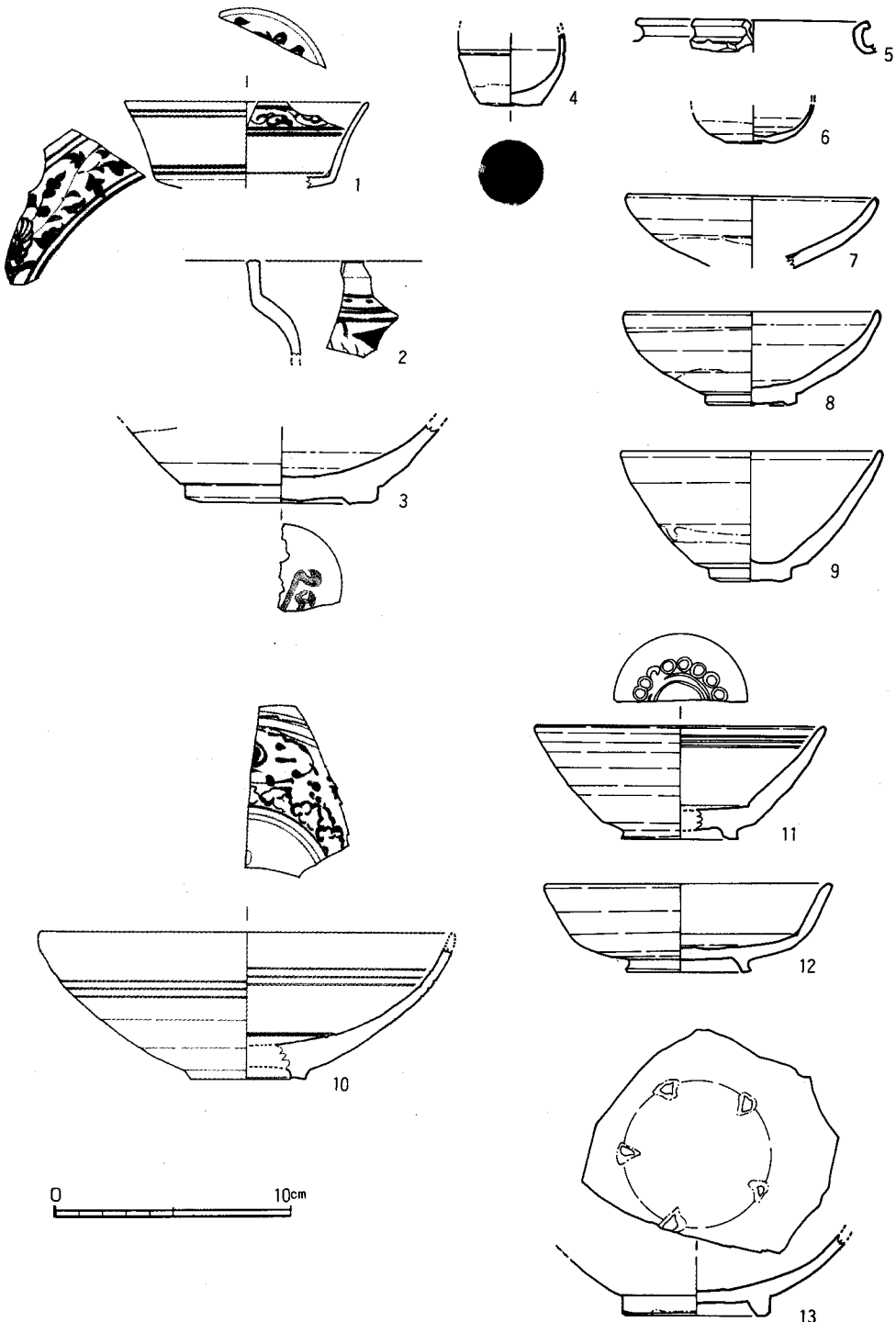


Fig.5　Ⅲ面出土：1染付　2鉄絵白釉陶器　3褐釉陶器　4～6黒褐釉陶器　7～9天目茶碗　10～12朝鮮陶器　13ヴェトナム白磁

が灰白色で細かいが、4～5・7・8は灰色で砂っぽい。9は胎土灰褐色だが細かくねっとりしていて精良のものに入る。外底部はみな露胎。10～14は皿。12，14は外底施釉の上環状に釉切をしている。他はⅣ類の精質である。

白磁（Fig.4－1～18）

1 印花文碗。2・3 白磁B群腰折皿。4 ～ 8 白磁C群碗及び皿。9～16は白磁D群の中皿と小皿である。17・18は内外の底部露胎の皿である。

染付、白釉鉄絵陶器、ヴェトナム白磁他（Fig.5－1～13）

1 元染付腰折皿。東南アジア方面で出土の多い絵の粗放なタイプである。2 白釉鉄絵陶器壺（吉州窯系）。3 褐釉陶器鉢、4～6 黒褐釉陶器小壺（茶入）。7～9 天目茶碗。10～12 朝鮮陶器。13 ヴェトナム白磁碗。

Ⅲ面は全体として新しい要素が主体をなしている。青磁、白磁とも碗は端反が目立つ。青磁の端反碗については、胎土が灰白色で細かいものと、灰色で砂めの二つに大分され、異なる窯系のものとする考えがあるが[7]、この考えに従って、当遺跡の遺物を集計したのが「表二」である。Fig.3の1～3・6は表の印花文に、Fig.1－3・4などが劃花文に、図はあげていないが、口縁下に数本の水平線をもつものを水平線文、Fig.3－4・5が玉縁無文、同じ器形で印花文のあるものを玉縁印花文とした。Fig.3－7・8は胎土の粗い無文碗である。内底にスタンプ文があっても無文碗としている。

端反碗は新安沈船の青磁の中ですでに大きな位置を占めているが、ツバン沈船では更に比重を大きくしている。この船の印花文碗は確認した範囲ではみな先細りであり、玉縁印花文はない。当遺跡では、精質の玉縁印花文碗はなかった。粗質の出土は精質よりやや後にずれたカーブを示しており、おそらくその出現は14世紀中葉以降であろう。

青磁皿類では、Ⅳ面での主役つば皿が数を減じてきている。その様子は同じく「表二」に示している。

白磁D群は高台をアーチ状にえぐる小皿で代表されるものである。一般に15世紀前半のものとされるが、一部14世紀後半にさかのぼるものもあると言われてきた。Fig.4－9・10は型造りで、あげ底ぎみの平底をもつ。広い見込に沈圏線を施す。製作手法は異なるが、胎土・釉調からD

	Ⅳ面	Ⅲ面	Ⅱ面	Ⅰ面	表採	合計
B群 丸腰皿	6	6	11	2	0	25
B群 腰折皿	1	6	1	1	0	9
D群 碗	0	0	？4	0	0	？4
D群 中皿	0	13	14	4	1	32
D群 小皿	1	26	45	28	0	100
D群 八角杯	0	2	8	11	0	21
D群 腰折杯	0	1	4	0	0	5
D群 丸腰杯	2	1	11	11	0	25
D群 合計	3	43	？86	54	1	189

表三　白磁B群、D群出土状況（破片数）

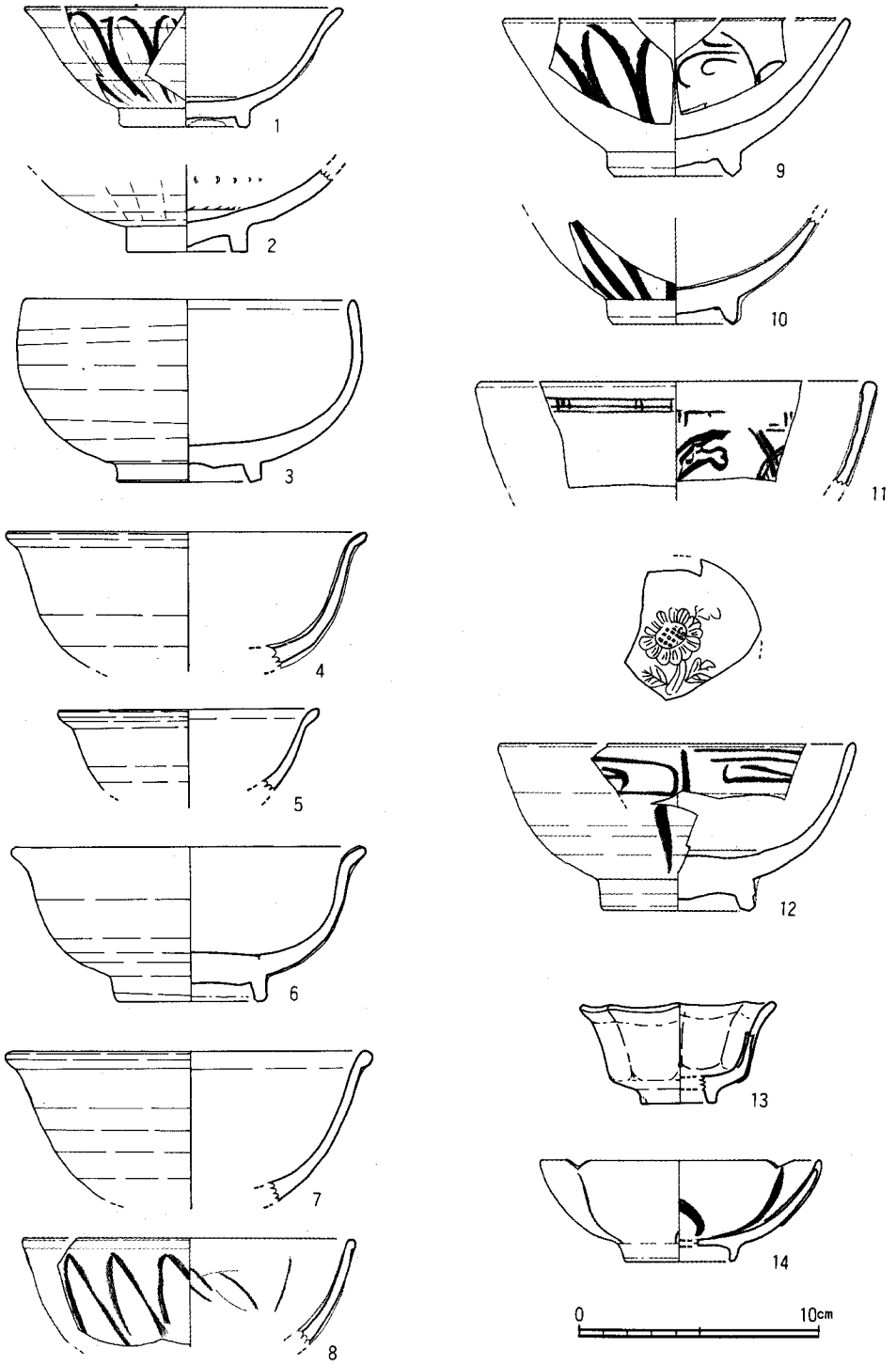


Fig.6　II面出土：青磁

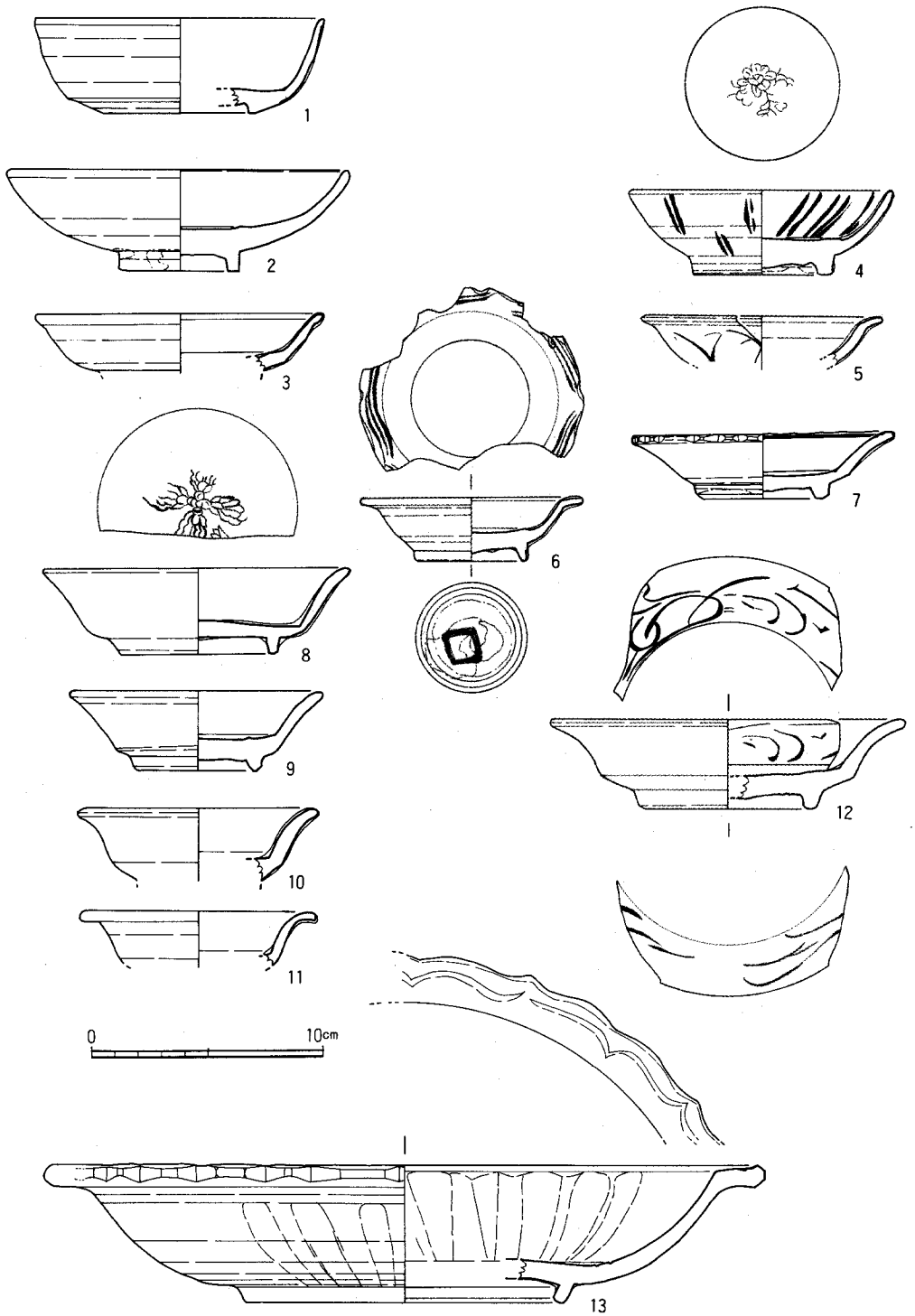


Fig.7　II面出土：青磁

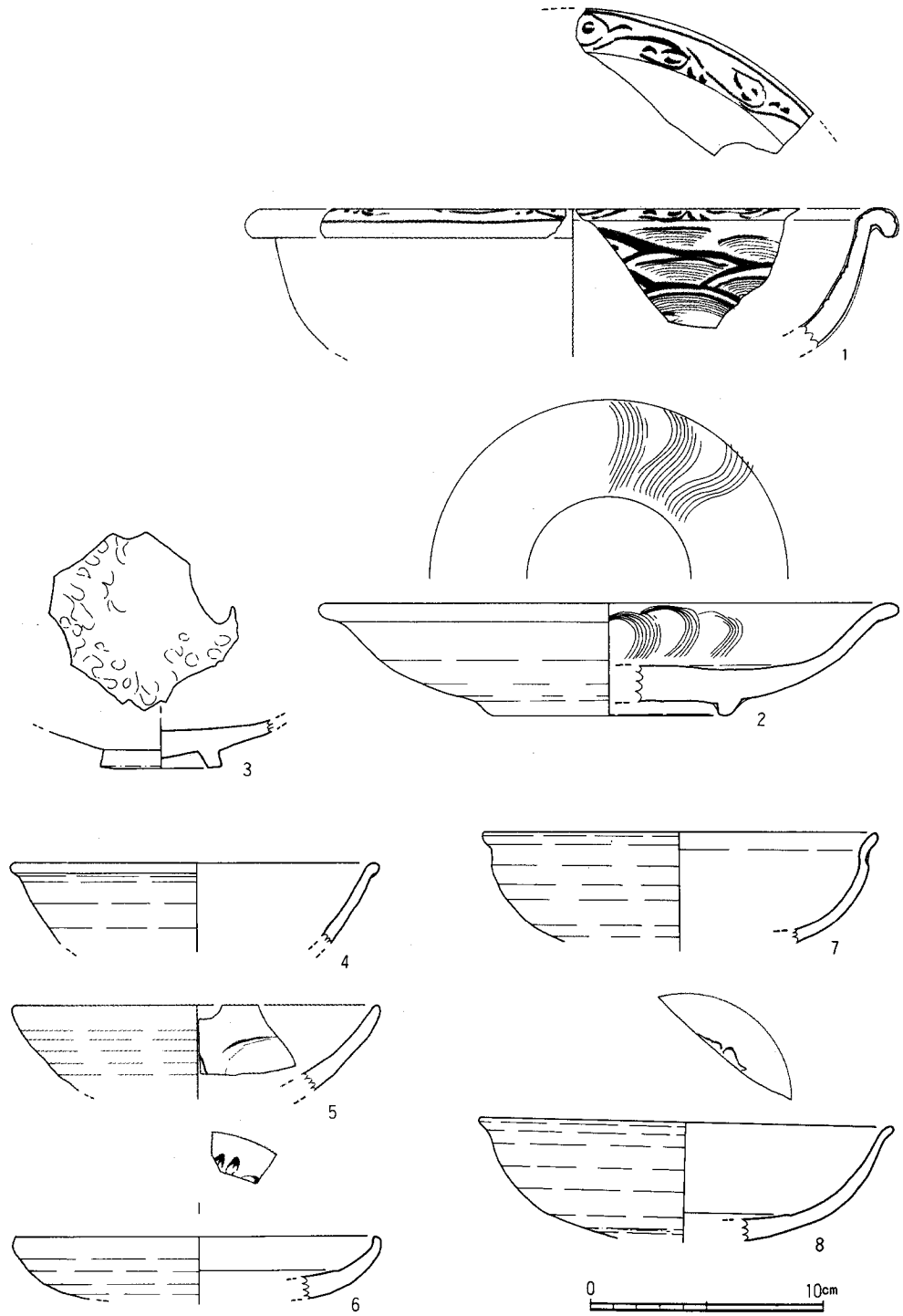


Fig.8　II面出土：1・2 青磁　3~8 白磁

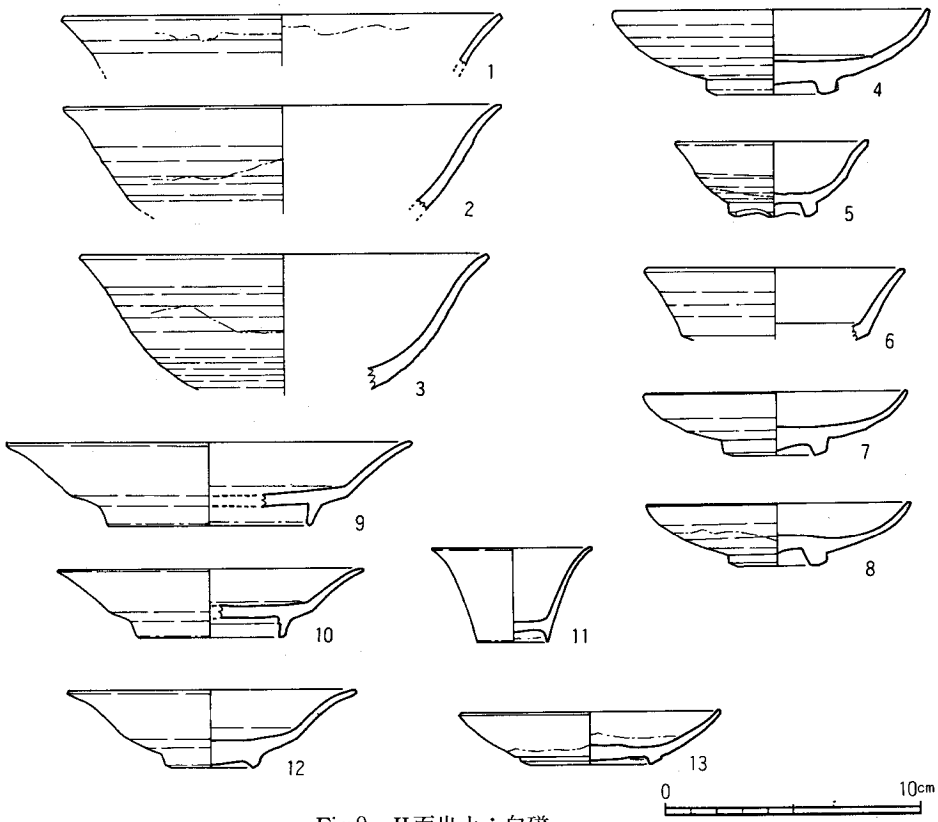


Fig.9　II面出土：白磁

群と区別することはできず、ここに入れられる。これと同類の皿はツバン沈船から出土しており[8]、D群が14世紀後半（中葉）にあらわれたのは、まずこのような形であったかと考えられる。D群の出土状況も、B群などと共に「表三」に示した。

III面ではこの他に元染付、ヴェトナム白磁碗などがツバン沈船に相似品をもち、鉄絵白釉陶器壺は新安沈船に類品をもつ。ことに青磁端反碗と白磁B群は、中国においても元染付を伴なう一括遺物の中にほとんどの場合顔を見せるもので、14世紀中葉における最も普遍的なものであったといえよう[9]。

II面の遺物

青磁（Fig.6－1～14・7－1～13・8－1・2）

Fig.6－1・4～7は端反碗。5・7は粗質である。2は内湾ぎみの直口蓮弁文碗、4は珍しい形の内湾碗である。不透明の黄土色の釉が厚くかかり、胎土、釉とも龍泉窯とは異質である。また6は高台畳付をまいて釉は内側下半で止められており、単純にIV類で処理できない要素が入り込んで

きているようである。8～10は直口で片切彫の蓮弁碗、器内にも劃花文がある。11は同じく直口碗であるが、内外とも印花文が施されている。焼成不良の破片で釉が熔けていない。12は直口碗で口縁に雷文、その下体部には幅広の蓮弁文を彫る。これらの直口碗は白い胎土にやや透明性の釉を厚くかけ、底全体に施釉した上で外底に環状の釉切をしている。13は厚い不透明な釉のかかった八角杯。14は明代景徳鎮の青磁で、他の遺物に比べてやや新しすぎる。Fig.7－1は新安沈船や、ツバン沈船に見られる玉縁碁笥底の鉢。Ⅳ類。2は内底を円形に露胎とした皿で体外も高台脇で釉が止まっている。5・6はつば皿の終末の姿か、折れ方が甘い（「表二」）。 7～12は体部が、立ち上がりから大きく外反する皿で、新しい流行形のようである。7は口縁が稜花になっており、見込で環状の釉切がみられる。Fig.7－13, Fig.8－1・2は大形品である。

白磁 (Fig.8－3～8, Fig.9－1～13)

Fig.8－3はB群、4～8はC群である。Fig.8－1～3は碗で、胎土や釉調はD群のあるものに似ている。1の、口唇をへらで削り放しにする点、2・3の体外下半部に細かい轆轤削りがみられる点なども時にD群に見られるものである。3では、見込で釉切を行っている。4～8はD群の皿。9～11はE群の皿である。12は畳付から外底無釉。13は内外底露胎の皿である。

染付 (Fig.10)

すべて染付B群に属する資料である。1・2・4は畳付から外底部無釉である。7～19は、先のFig.9－9～10の白磁E群腰折皿とほとんど一括資料のような状況のものである。8・9は唐草文碗、10～15は巻雲文碗、16～19は唐草文の皿である。体内口縁部には15が雷文である以外はいずれも四方襷をめぐらす。碗の見込は梅月文である。皿の見込は波涛文をめぐらした中に獅子と雑宝を散らす。絵はしっかり丁寧に描かれていて、獅子もごくおとなしい。描法は、顔料に濃淡をつけない古式なものである。B群の中では精品にあたる。

天目茶碗、李朝陶器 (Fig.11)

1は薄手の白胎に黒褐色光沢釉がかかる。2～5は天目茶碗。6～12は李朝陶器。6・7は象嵌三島手、8は白釉陶器、9・10は刷毛目文陶器、11・12は粉青沙器系陶器である。8・11・12には内底に砂目跡が残る。

Ⅱ面は遺物の分量がもっとも多かった。青磁では、端反碗に代って直口碗が増してきたことを指摘できる。直口碗の出土状況は「表五」に示した。ここで蓮弁文としたのはFig.6－8～10のように、幅広の花弁のものであり、菊弁文とは紀淡海峡友ヶ島沖や、山梨荒巻

	Ⅳ面	Ⅲ面	Ⅱ面	Ⅰ面	表採	合計
白磁E群腰折皿	0	4	43	14	0	65
染付B群唐草文碗	0	1	9	1	0	11
染付B群巻雲文碗	(Ⅶ面1)	1	23	0	0	25
染付B群唐草文皿	(Ⅶ面1)	2	18	5	0	26
その他の染付B群		4	18	0	1	24

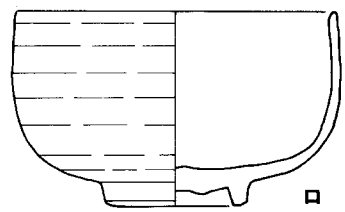
表四　白磁E群腰折皿、染付B群の出土状況(破片数)

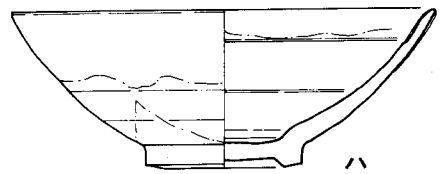
本村で出土した細弁蓮弁文、剣先蓮弁文と呼ばれるもの[11]である。この二つは出土のピークに時間的ズレがあるが、連続性はないものと考えている。Fig.6－3は博多では単なる特殊器形に見えるが、ツバンでは青磁にも白磁にも一定量あり（図ロ3）、ヴェトナム陶器でも見られる器形である。

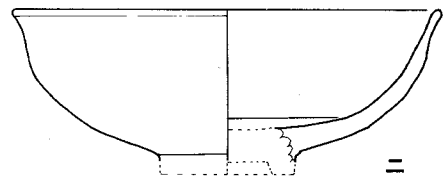
質の上から見ると、II面の青磁はⅣ類と異なる透明感のある釉を厚くかけるものが目につく。Ⅲ類への回帰とも感じられるが、胎土は厚く、釉中の気泡が大きめで小さな破片でも多分見分けることができそうである。

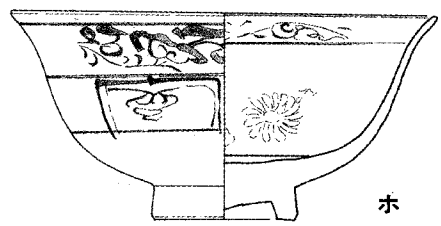
白磁C群は、胎土や釉調が前代の白磁に最も似ている。非常に厚い高台を持ち、内底面に印花文を持つものもある。II面のC群の中の二つのタイプ、外反口縁（Fig.8－5）と直口口縁（Fig.7－7）の両方ともがツバン沈船でも出ていた。図ハ、ニがそれである。

染付B群は明初の染付[12]で、腰が張った端反碗である。高台は比較的厚く高めで、元染付の形（図ホ・ヘ参照）を強く残している。中でもFig.10－1・2・4は外底無釉でその遺風を感じさせるものである。B群については『貿易陶磁研究』No.1及びNo.2で紹介されて久しいが、博多では今回初めてまとまって検出できた。先にも触れたが、中でも7～19で示されるような碗、皿約60片は、火に会って砕け、あるいは


ロ

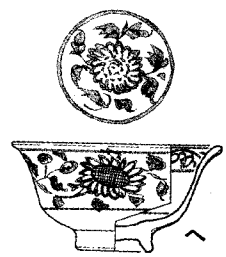

ハ


ニ


ホ

	Ⅳ面	Ⅲ面	II面	I面	表採
蓮弁文	0	4	11	2	1
雷　文	0	9	41	10	0
菊弁文	0	1	5	18	2
無　文	0	0	11	7	1

表五　直口碗の出土状況(破片数)


ヘ

ロ　青磁 ジャカルタ考古学研究センター
ハ　白磁 同上
ニ　白磁 同上
ホ　元染付 ジャカルタ国立中央博物館蔵、ツバン出土
ヘ　元染付博多29次調査出土、山本信夫図

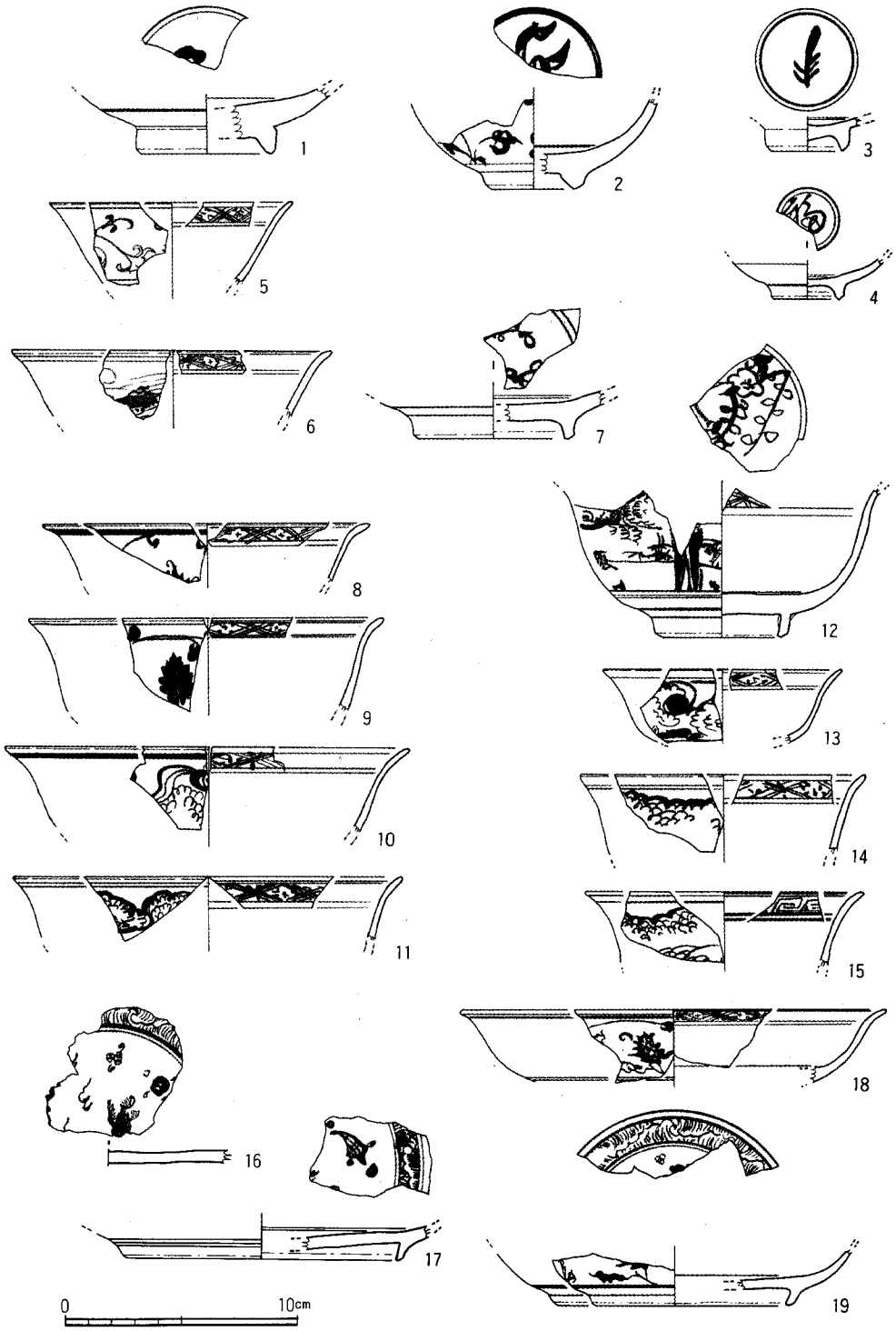


Fig.10　II面出土：染付

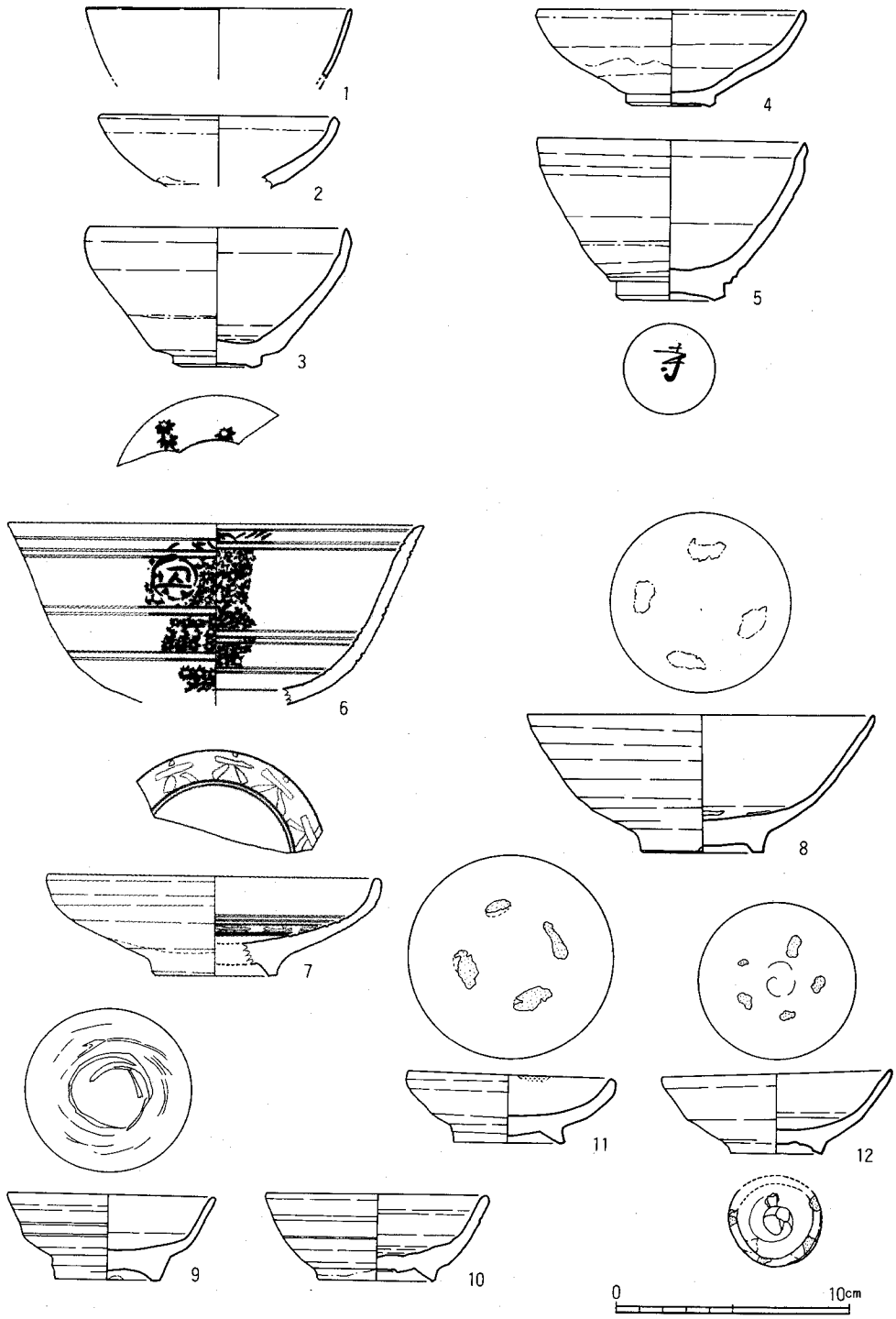


Fig.11　II面出土：1～5天目茶碗　6～12朝鮮陶器

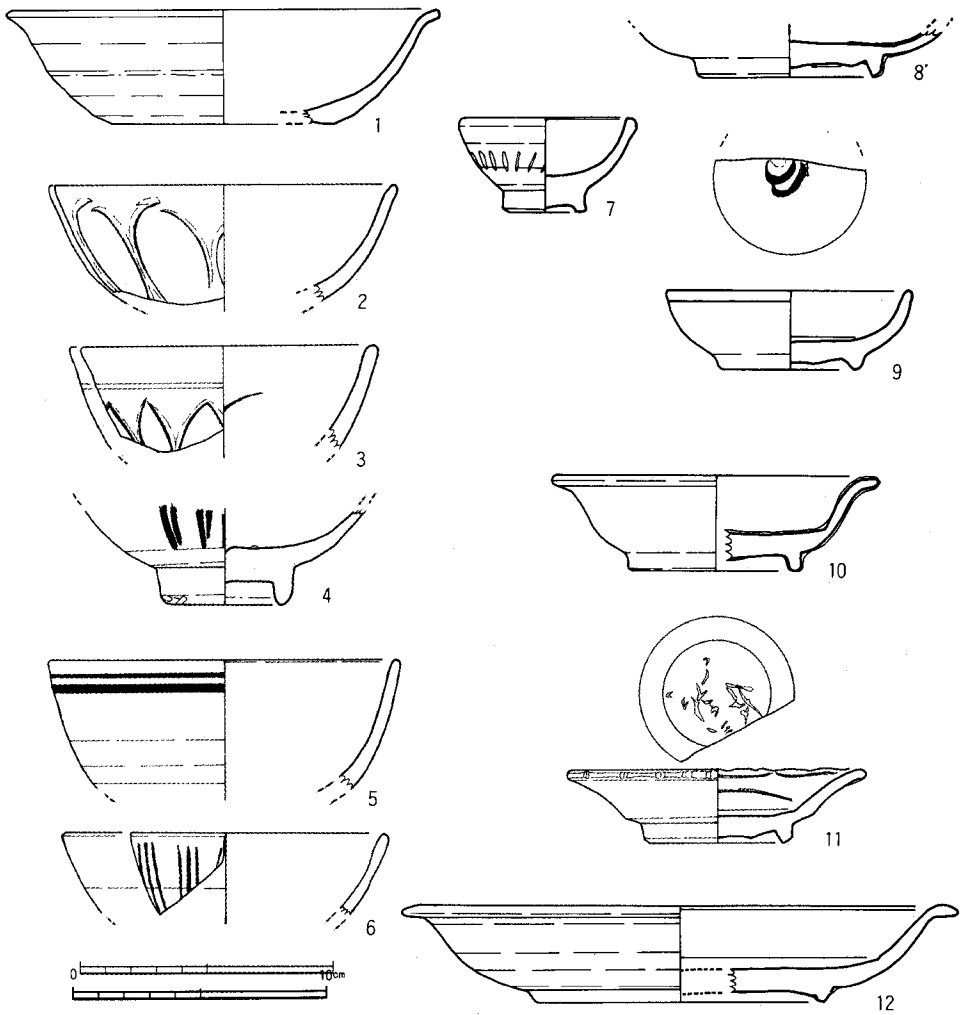


Fig.12　I面出土：青磁

互いに熔着したりしていた。重ねた状態で焼けたものと思われる。これらとほとんどセットと考えられる白磁E群腰折皿もまた60数片が火熱による破砕を見せていた。見込の釉面には、上に重ねた皿の高台跡が焼き付いている。両者の破片は「表四」で見られるように、あまり撹乱を受けず、拡散しないで出土している。またこれらの一部は、793号土壙や107号井戸にも閉じ込められ、すでに遺構とともに報告されている。すなわち793号土壙では、染付B群皿と白磁E群腰折皿が、龍泉青磁器台や白磁D群八角杯と出土した。一方107号井戸では染付B群皿2片、唐草文の碗2片と小碗1片、巻雲文碗3片、碗底部1片が、白磁E群腰折皿3片、同じくD群八角杯、腰折杯、丸腰杯各1片、小皿2片と出土した。青磁の共伴遺物としては、龍泉直口無

文碗、同じく雷文碗各１片、不遊環付瓶１片、それに盤５個体分がある。またⅣ期の備前焼甕と擂鉢の破片が共伴している。

余談になるが、これらの遺物がどれも火に当たっていたことから、同じ火を受けた遺物を並べることはできないかと考えた。しかし包含層では実に多くのものが火に当たっており、特定の火事の影響を探し出すことは不可能としなければならなかった。

さてこの度の染付Ｂ群の資料を、これまで知られている染付Ｂ群出土の主要な遺跡の例と比較するならば、共伴の遺物からみて、紀淡海峡友ヶ島沖出土のものよりは古く、青森尻八[13]館や広島加井妻城のものに近いと思われる。Fig.10－12は、ほぼ同じものが和歌山根来寺で出土しているが、報告者上田秀夫も紀淡海峡のものより古い可能性を指摘されている。確かに当遺跡での共伴遺物を見ると、15世紀前半を与えるのが適当であろう。同時に、これ[14]まで知られなかった、Ｂ群碗と共伴するＢ群の皿が検出されたこと、白磁Ｅ群腰折皿の位置がはっきりしたことも成果の一つとしてあげられる。

Ⅰ面の遺物

青磁（Fig.12）

1　端反碗。灰色の胎土に透明釉が体外半ばまでかかる。2～4は直口蓮弁碗、4は胎土が灰色砂めである。釉は畳付をつつんで高台内側半ばまでかける。5は直口無文碗である。口縁部に沈線を二本めぐらす。6　直口描掻文碗、同安窯系といいたい雰囲気である。7　造りの雑な杯。胴部に文様か、へら跡が飛んでいる。8～12　皿。8は見込を円く露胎にしている。9・10・12は外底露胎の稜花皿である。

白磁（Fig.13－1～12）

1～6はＤ群の白磁。7もＤ群に似るが内底露胎の皿である。8はＥ群腰折皿。9　Ｅ群皿で高台から直接大きく外反している。10 Ｅ群杯。11・12は内外底露胎の皿である。

	Ⅳ面	Ⅲ面	Ⅱ面	Ⅰ面	表採	合計
象嵌三島手	10	21	40	17	2	90
粉青沙器系	6	12	19	25	0	62
刷毛目	0	1	2	5	0	8
白釉陶器	2	0	8	7	2	19
白磁皿	1	3	9	13	12	38
合計	19	37	78	67	16	217

表六　朝鮮陶磁器の出土状況（破片数）

染付、天目茶碗（Fig.13－13～17）

13・14は染付Ｃ群碗。15は型造りの菊皿の見込に青花を描いている。16・17は天目茶碗である。

李朝陶磁（Fig.13－18～22・14－1～3）

Fig.14－1　胎土目の白磁皿

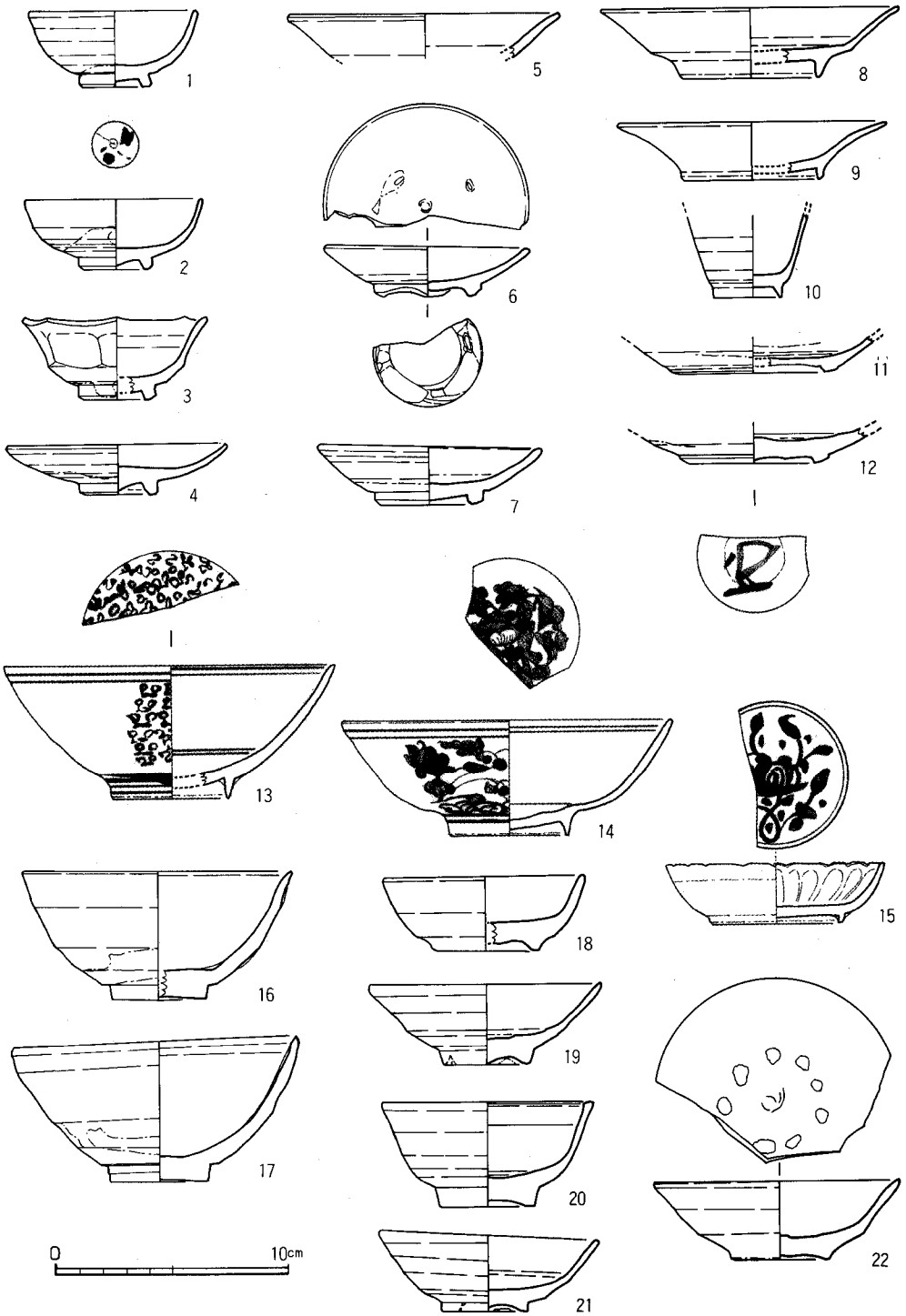
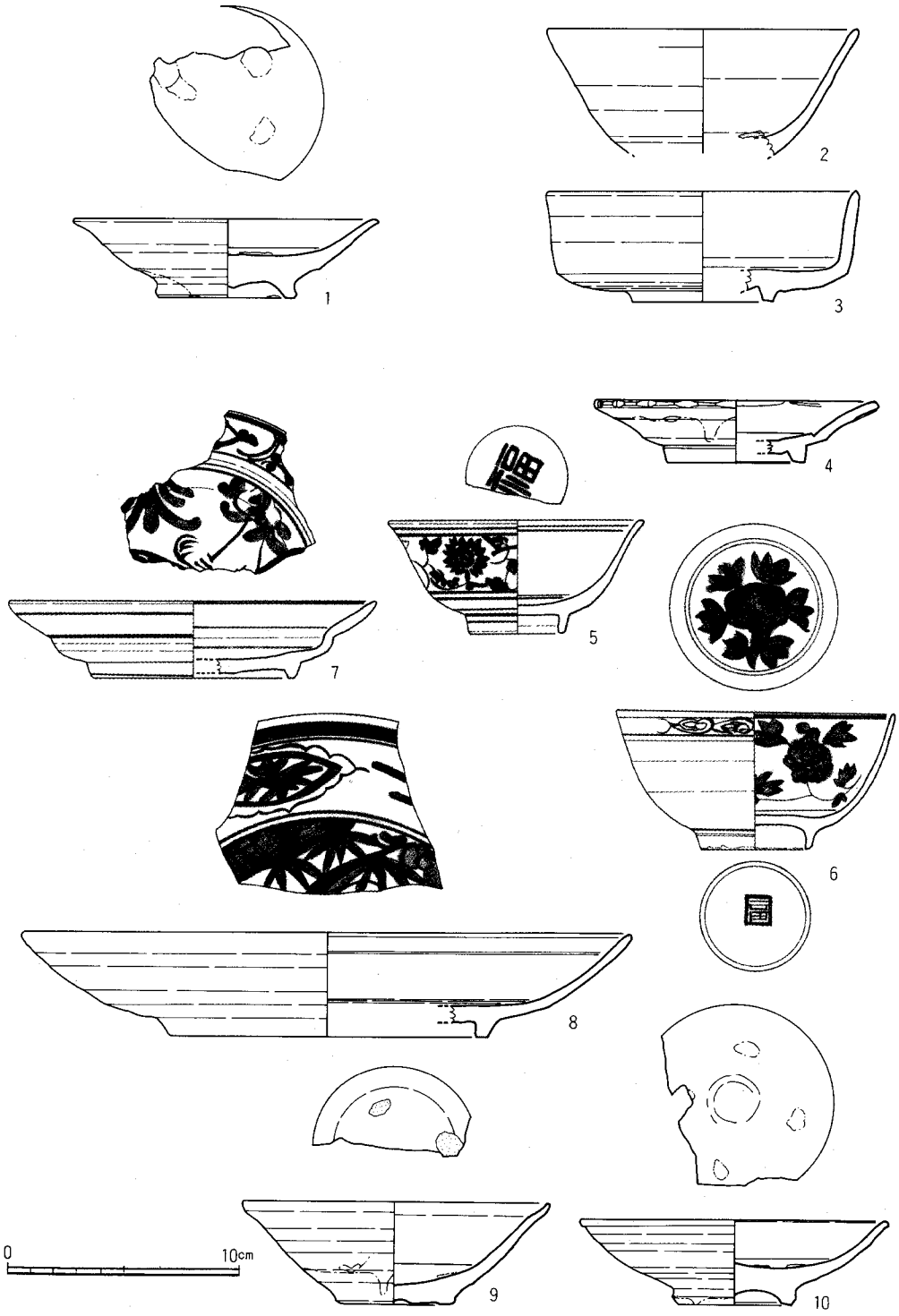


Fig.13　I面出土：1～12白磁　13～15染付　16～17天目茶碗　18～22朝鮮陶器



I面出土：1～3朝鮮陶磁器，表面採集：4青磁　5～8染付　9･10朝鮮陶磁器

である。他は粉青沙器系の陶器である。Fig.13－22には砂目がある。

Ⅰ面で見られる大きな変化は、青磁の減少と、李朝陶磁器の増加である。

青磁は例を直口菊弁文碗にとれば、小片ばかりで、数としてはあっても図にもとれず、迫力がなかった。それにひきかえ、李朝陶磁器が目立って割合を増している。李朝陶磁器については知識不足で、機械的に並べているだけだが、ここでも例により数量変化を「表六」に表す。

染付はその半数以上が15世紀後葉から16世紀前葉に納まるものであるが、中に17世紀にまで下るものも見られた。

表採の遺物 (Fig.14－4～10)

4は**青磁**稜花皿。見込露胎である。5 **染付**のB群の碗で、B群の粗質に分類されよう。これに近いものは山梨荒巻本村のものでB群の中でもやや新しく、15世紀後半のもの[15]とされる。6は**染付**E群の碗、16世紀後葉。7・8は粗質の**染付**皿で16世紀末～17世紀初。9・10は**李朝白釉陶器**と胎土目の**白磁**皿である。

図化したもの以外のでは染付が目立ったが、その大半は16世紀末から17世紀初めのものである。中には印版手や南蛮呉須手など粗質のものが多かった。

第三次調査によって、以上述べたように14～16世紀の輸入陶磁器をかなりまとめて見ることができた。これは、これまで報告されてきた博多における輸入陶磁器の姿を補完するのに大いに資するところがある。

人為的に設定した層位とはいえ、図化したものを並べてみると、少しきれいにいきすぎた観がある。図化するに際しては普遍的なものより量的には少なくても、珍らしいものに力点がいきがちである。そのような図が生みだす虚像を恐れて数表を付したが、破片数の機械的集計もまた実像とは違った印象があり、計数の難しさを感じた。真実は、図と数字の中間あたりにあるものであろう。しかしともかくも大きな流れが見えたようで、それなりの成果があったと思う。

ここでは、一つでも多くの資料を紹介することによって、これら新しい要素に対する認識を深め、今後の研究の資とすることができれば以って良しとしたい。

註

(1) 欧阳世彬・黄云鹏「介紹両座明景泰墓出土的青花・釉里紅瓷器」『文物』1981－2

(2) 本文では、以下の分類表による。

青磁龍泉Ⅳ類まで。白磁口ハゲまで

森本朝子「博多出土貿易陶磁分類表」『福岡市埋蔵文化財調査報告書105集』別冊　1984
白磁口ハゲ以後、森田勉「14～16世紀の白磁の形式分類と編年」『貿易陶磁研究No.2』1982
染付　小野正敏「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2　1982

青磁についてはこれまで14世紀の資料が十分でなかったため全体がなかなか見通せなかった。そのためか全国の研究者が統一的に用いることのできる分類が成立していない。

博多の「分類表」は　本来遺物を数量的に把握できる整理を目標とした、現場の分類作業の手引である。研究史的に明らかになっていた陶磁器の形式的発展を基礎に類を設定したものである。その点、あくまでも厳密な形式分類の基準をたて、それに従うという純粋科学的ともいえる森田・横田方式とは異なる。いわば便宜的な色彩が強いが、陶磁器全体の時代的な変化の把握には便利さがある。最近太宰府市では、青磁龍泉Ⅳ類を新しく設定し、Ⅰ類－7やⅡ類をⅣ類に移す改訂を行なった。この点では博多の「分類表」の方向が認められたものと理解している。新しい太宰府市のⅣ類の内容については註(1)の山本信夫の詳細な説明を参照されたい。

なお、山本氏の論文ではⅣ類とⅢ類以前の要素との区分に力点があり、それ以後のものとの分別は必ずしも明らかでない。これを為すにはもう少し資料が増加しなければならないだろう。さしあたって本稿ではⅣ類以降の分類には記号は用いないでおきたい。

(3) 新安沈船については文献が多いが、陶磁器に関しては　註(1)の「新安沈船と太宰府・博多の貿易陶磁器」がある。

(4) Tuban出土、インドネシア・ジャカルタ国立中央博物館蔵。1989年3月、国立歴史民俗博物館が、文部省の科学研究費補助金によって行った「東南アジアにおける貿易陶磁の研究」では、ジャカルタのNational Museum, City Museum, Research Center of Archaeologyの三カ所で、ツバン沈船の出土陶磁器を集中的に調査した。本文中に使用した図イ～ホはこの時に実測したものである。実測者はイ，ニが森田勉、ロ，ハ，ホは筆者である。なおツバン沈船については　Abu Ridho, Wayono M.「The Ceramics Found in Tuban, East Java」『貿易陶磁研究』No.3、1983がある。

(5) 註(3)参照

(6) 叶涵黎　夏跃南　胡承恩「歙县出土两批・　窖藏元瓷珍品」『文物』1988－5

(7) たとえば　金武正紀は「今帰仁城跡発掘調査報告１」　今帰仁村文化財調査報告書第9集　1983　の中で青磁を分類して精なるものをＡ窯系、粗なるものをＢ窯系と分類している。

(8) Jakarta市立博物館所蔵。底に「常存明」の墨書がある。

(9) 『文物』などに発表された元代末期の、埋甕などの一括遺物のうち、元染付を出すものは少なくない。中でも遺物の種類が多く参考になるものとしては　刘裕黑、熊琳　「江西高

安县发現元青花、釉里紅等瓷器窖藏」『文物』1982－4を挙げたい。

(10) 上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2、1982

(11) 小野正敏「山梨県東八代郡一宮町新巻本村出土の陶磁器」『貿易陶磁研究』No.1、1981

(12) 明初の染付については、南京博物院「南京明故宮出土洪武時期瓷器」『文物』1978－8、注(1)の論文などがある。また　『景徳鎮民間青花磁器』中国陶瓷全集19　上海人民美術出版社＋美乃美　1983　では豊富な遺物写真をみることができる。

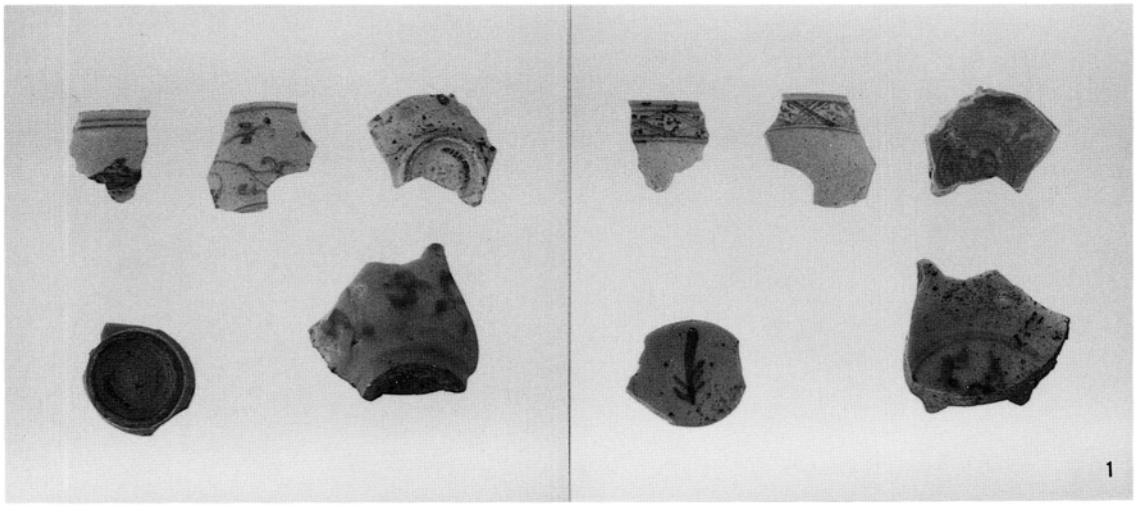
(13) 染付Ｂ群については『貿易陶磁研究』No.1・2で検討されている。遺跡についても、それらを参照した。

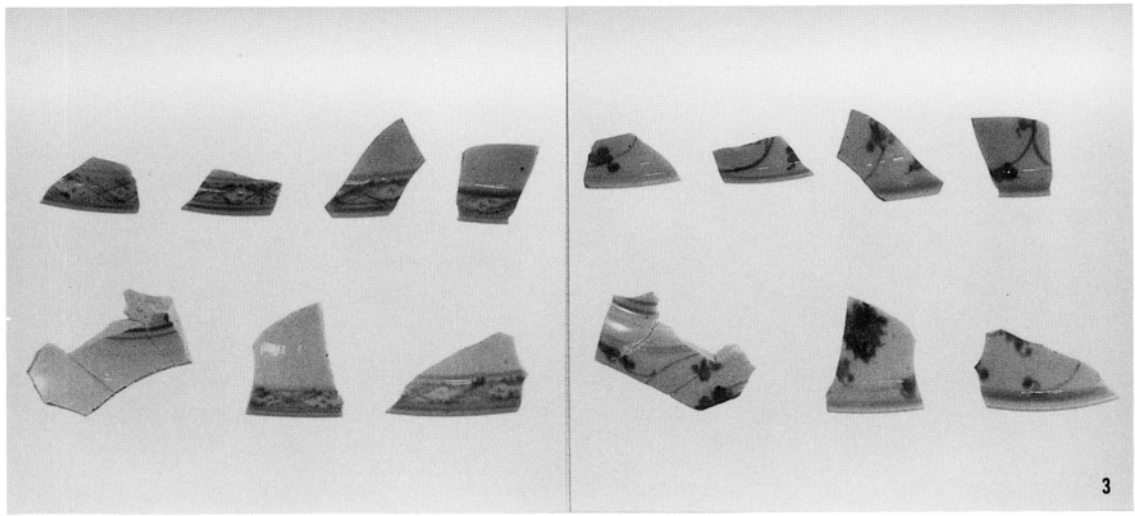
(14) 上田秀夫「根来寺出土の染付について」『貿易陶磁研究』No.2、1982

(15) 大橋康二「15・16世紀における日本出土の青花碗に関する編年試案(1)」『白水』No.8 1981では、染付Ｂ群碗を下絵付の丁寧なものと、粗雑なものに分けている。

図　　版

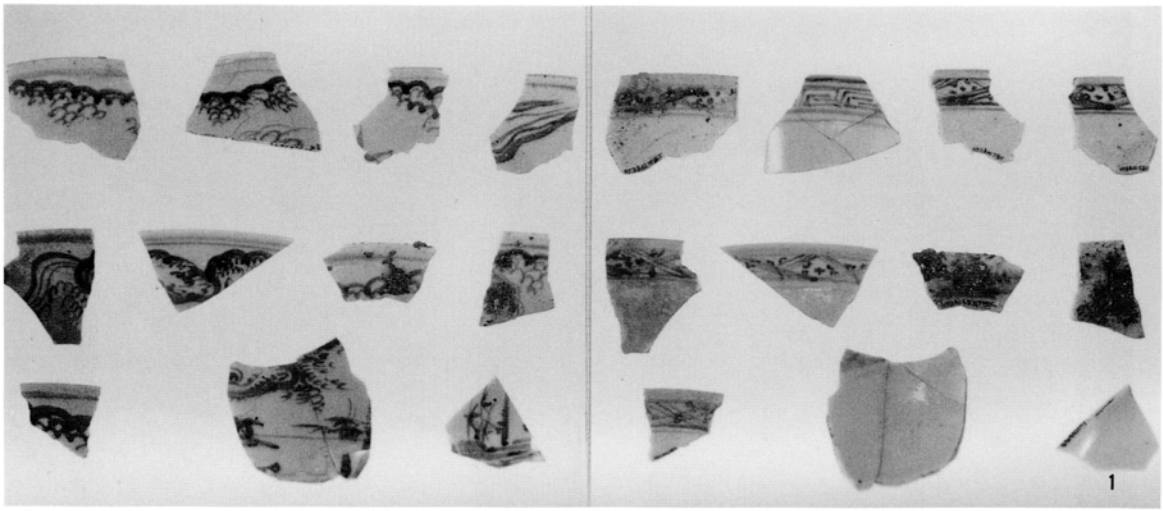
PLATES

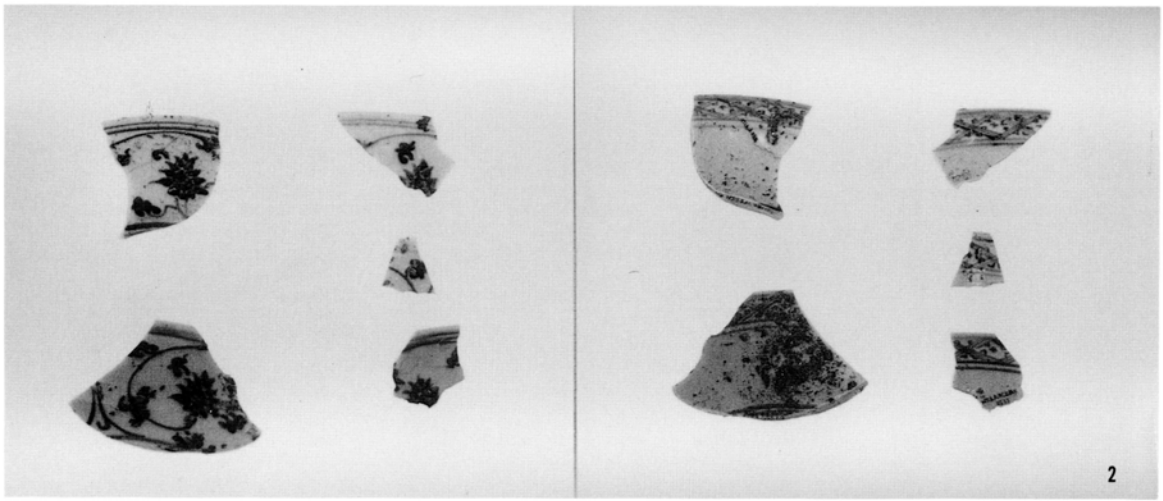


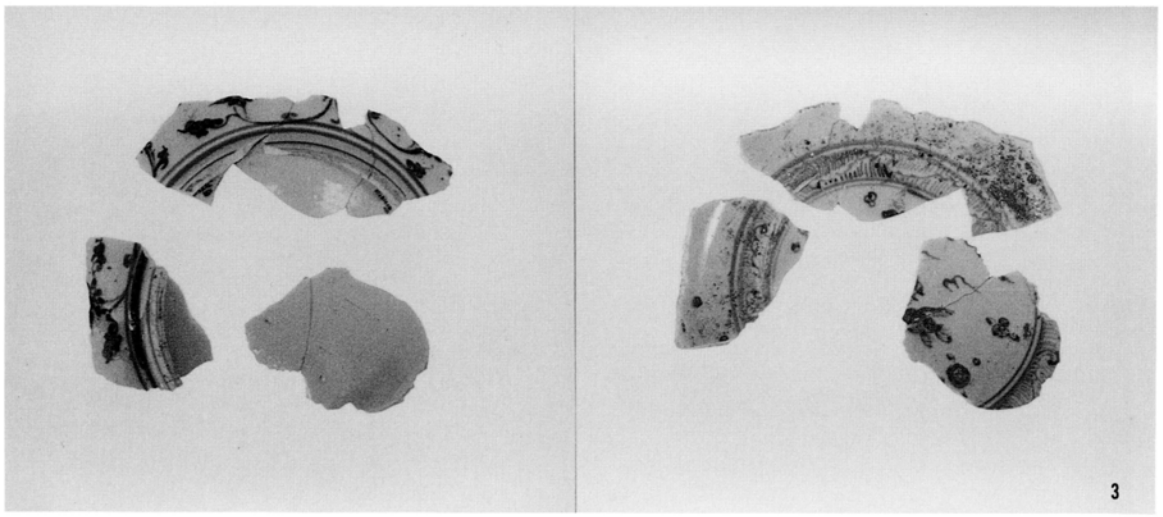


1～3……3次調査Ⅱ面包含層

図版2

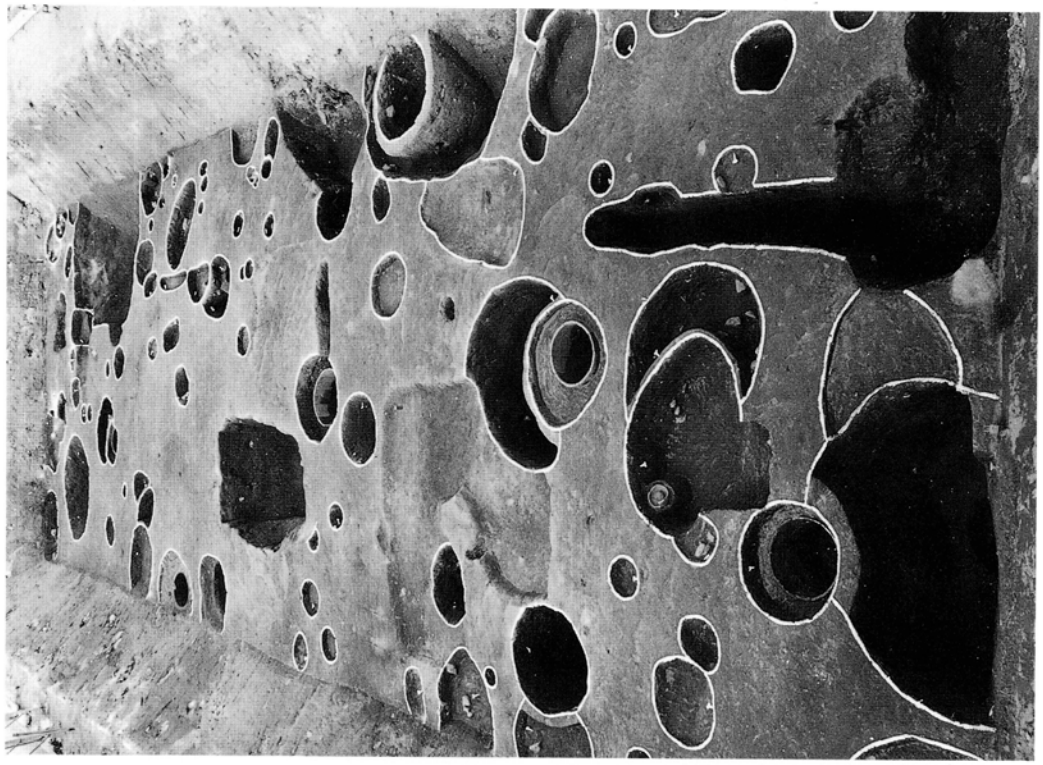






1～3……3次調査Ⅱ面包含層

(1) I 面全景



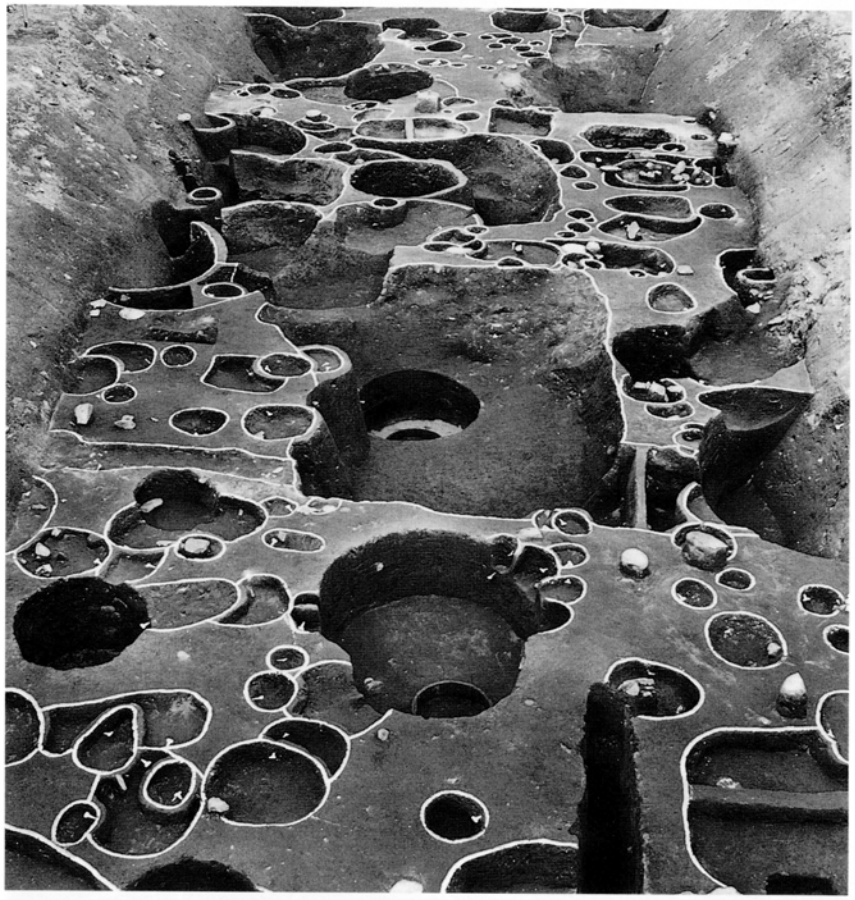
(2)西壁土層

(1)1123号土壙（西より）

(2)1123B号土壙（西より）

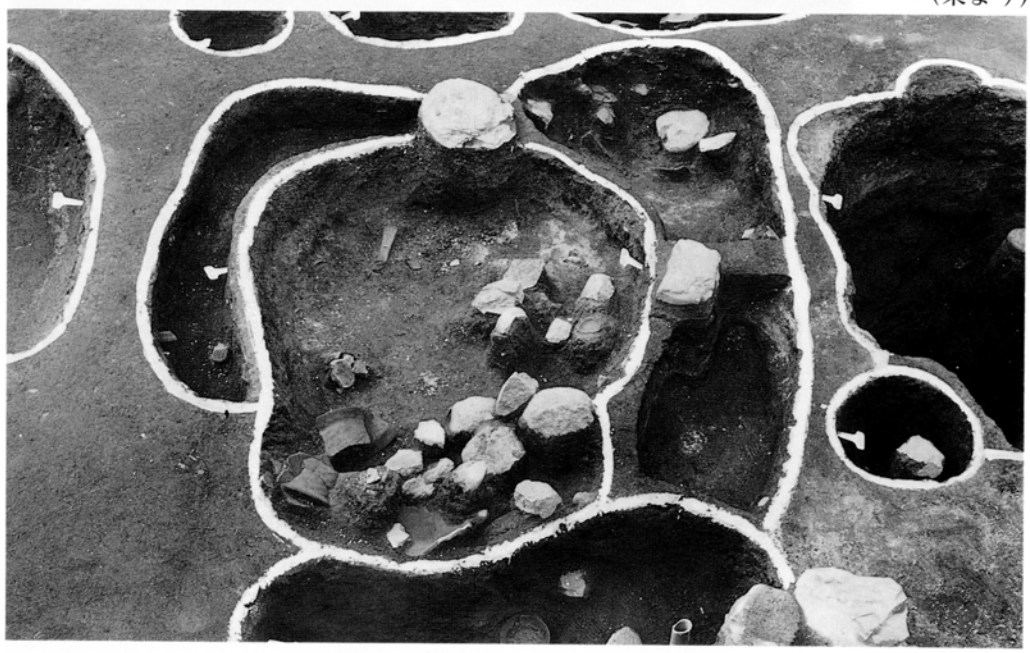
(1)1137号土壙（南より）

(2)1138号土壙（東より）

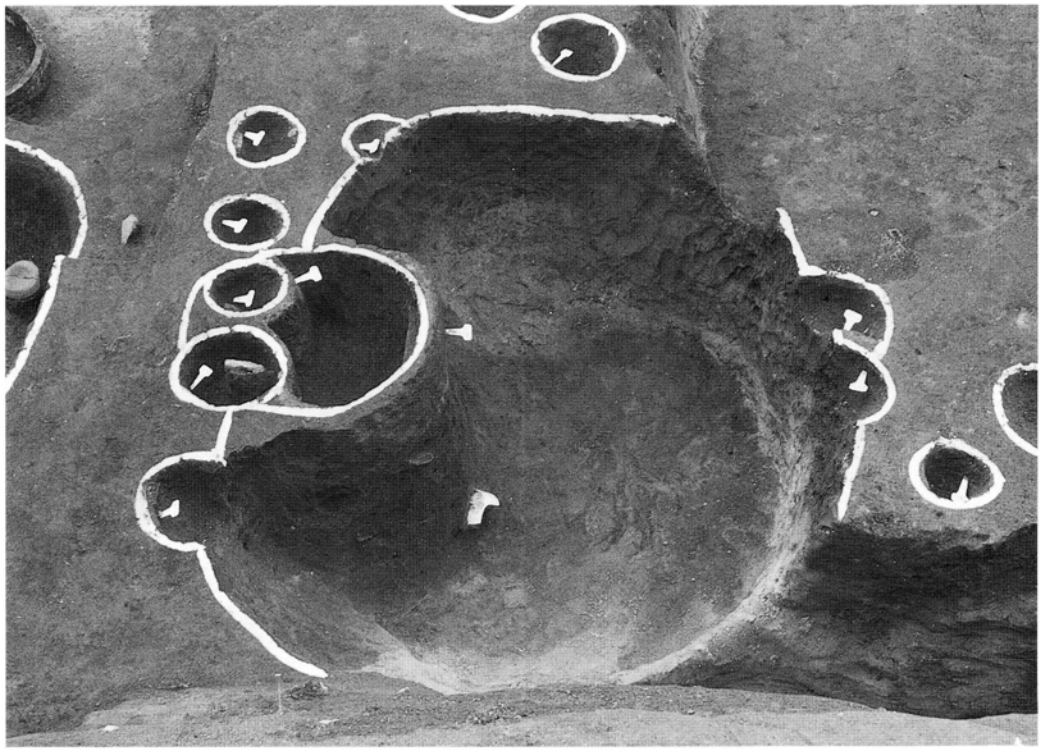


(1)
II面全景

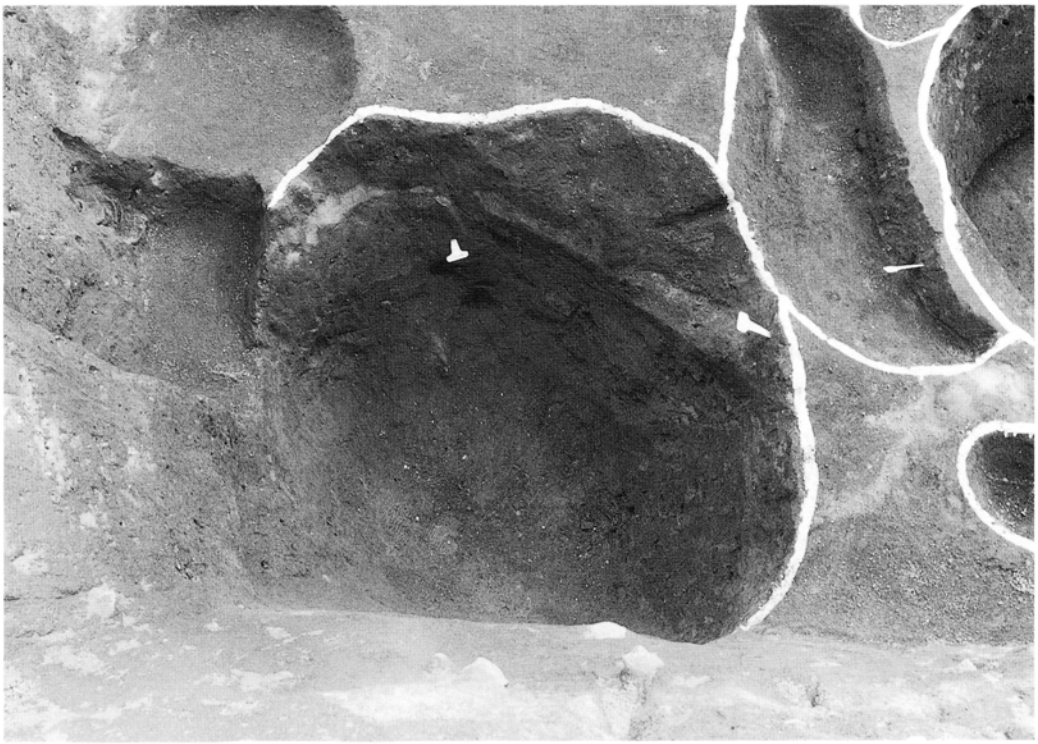
(2)1153号土壙
(東より)



(1)1156号土壙（東より）

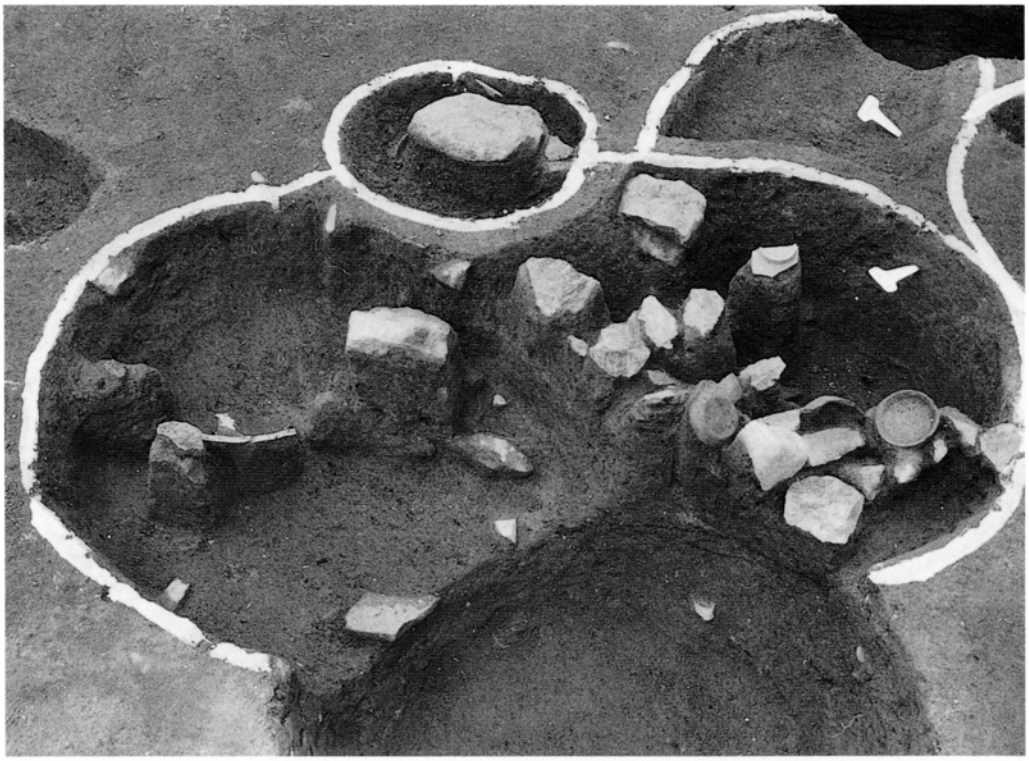


(2)1162号土壙（東より）



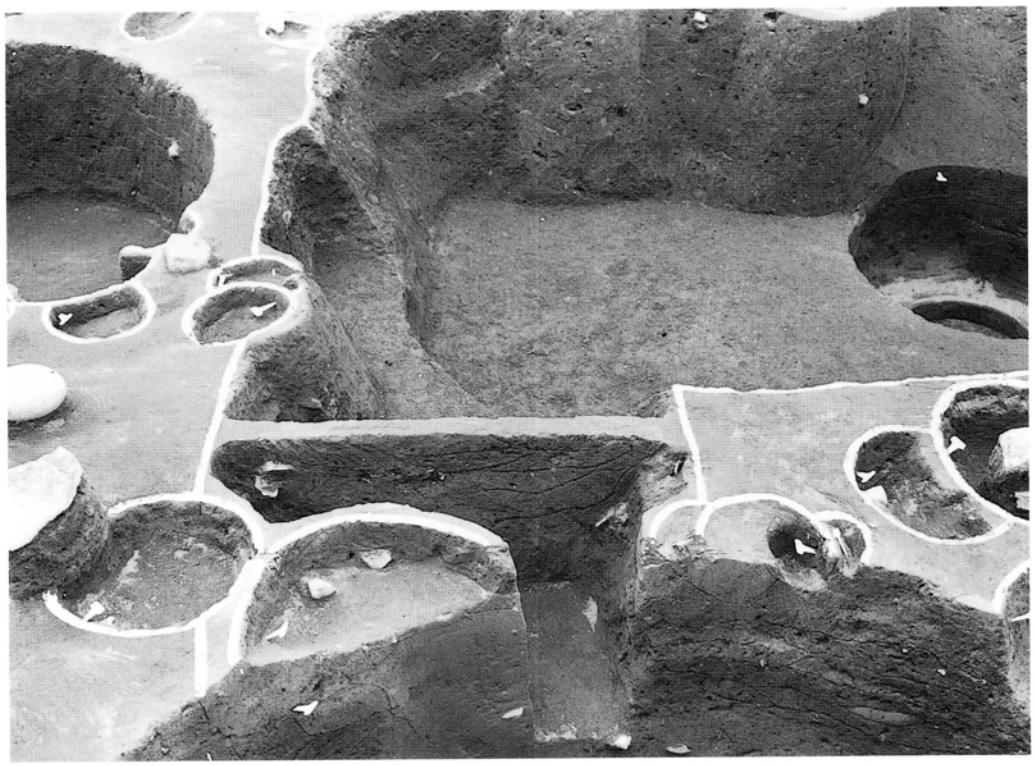
PL.6

(1)1163号土壙（北より）



(2)1169号土壙（南より）

(1)1175号土壙（北より）



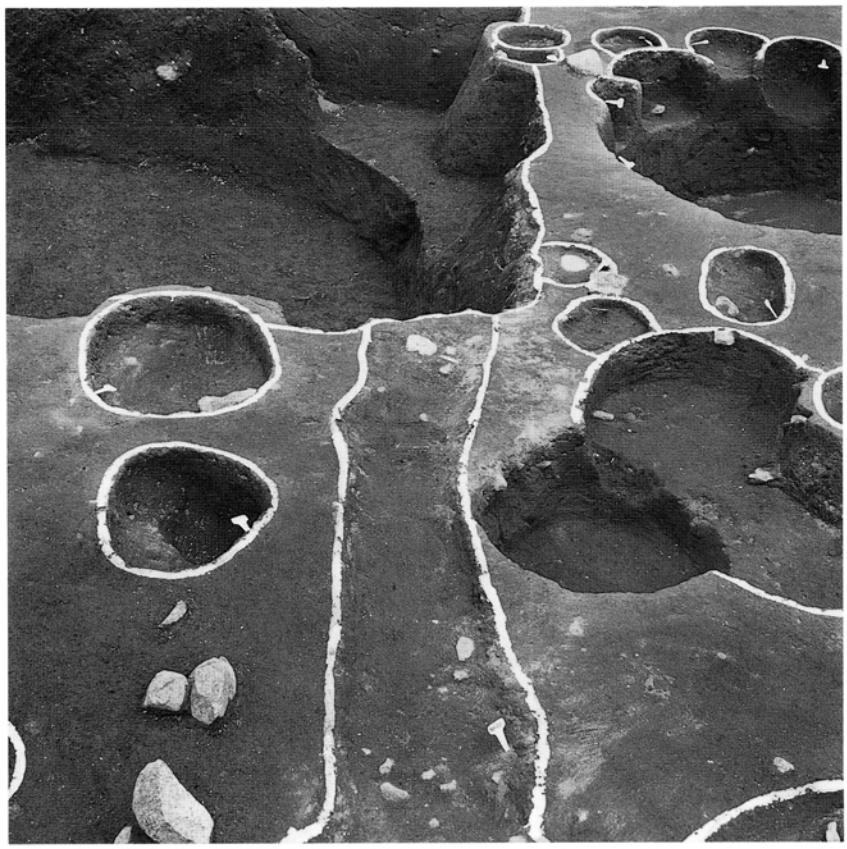
(2)1182号土壙（南より）

PL.8

(1)1182号土壙（西より）

(2)169号井戸

(1)20号溝（西より）



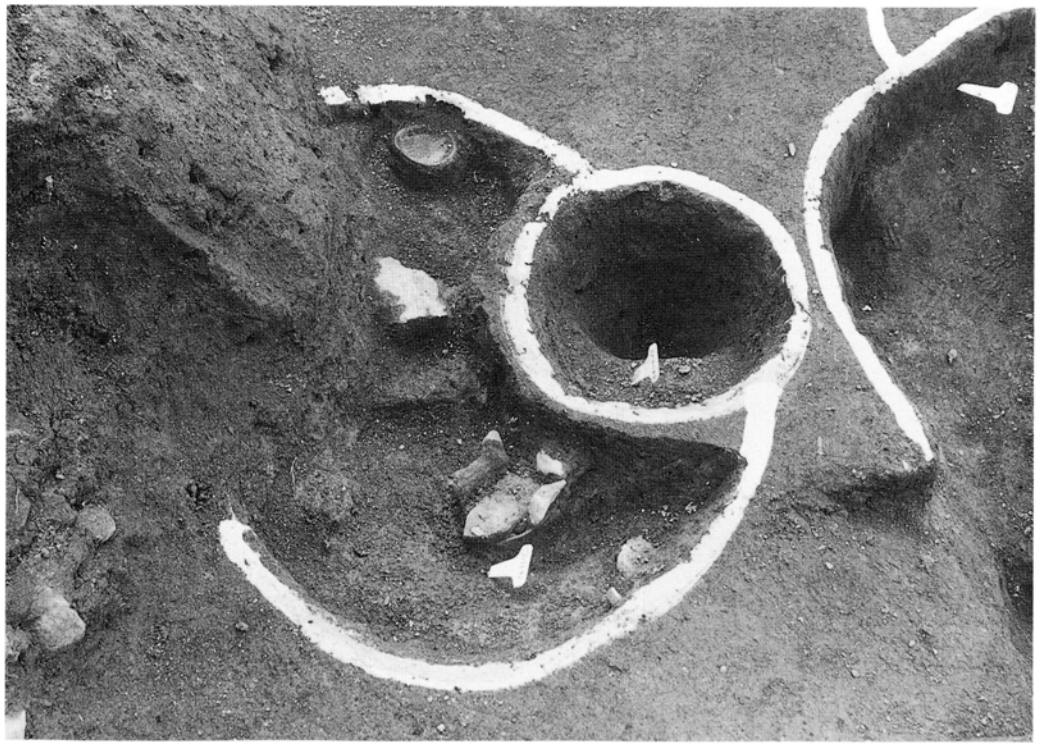
(2)175号井戸（南より）

(1)
Ⅲ面全景

(2)1184号土壙

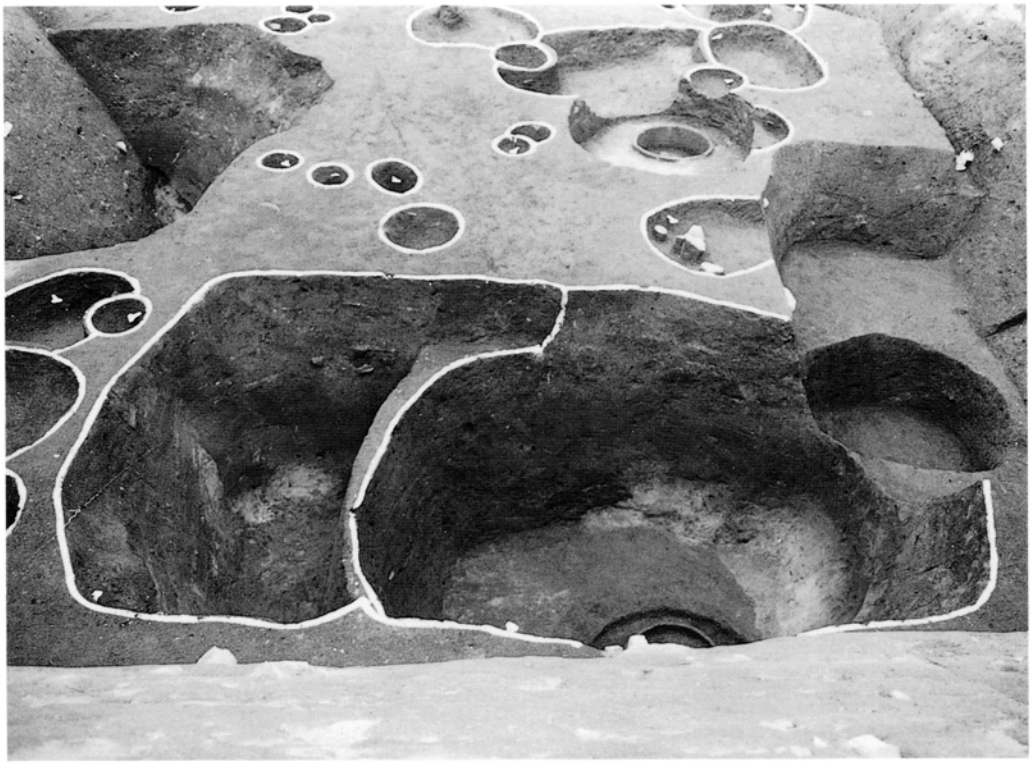
(1)1186号土壙

(2)1192号土壙（東より）



(1)1191号土壙・4051・4052号ピット

(2)左－177号井戸・右－178号井戸（北より）

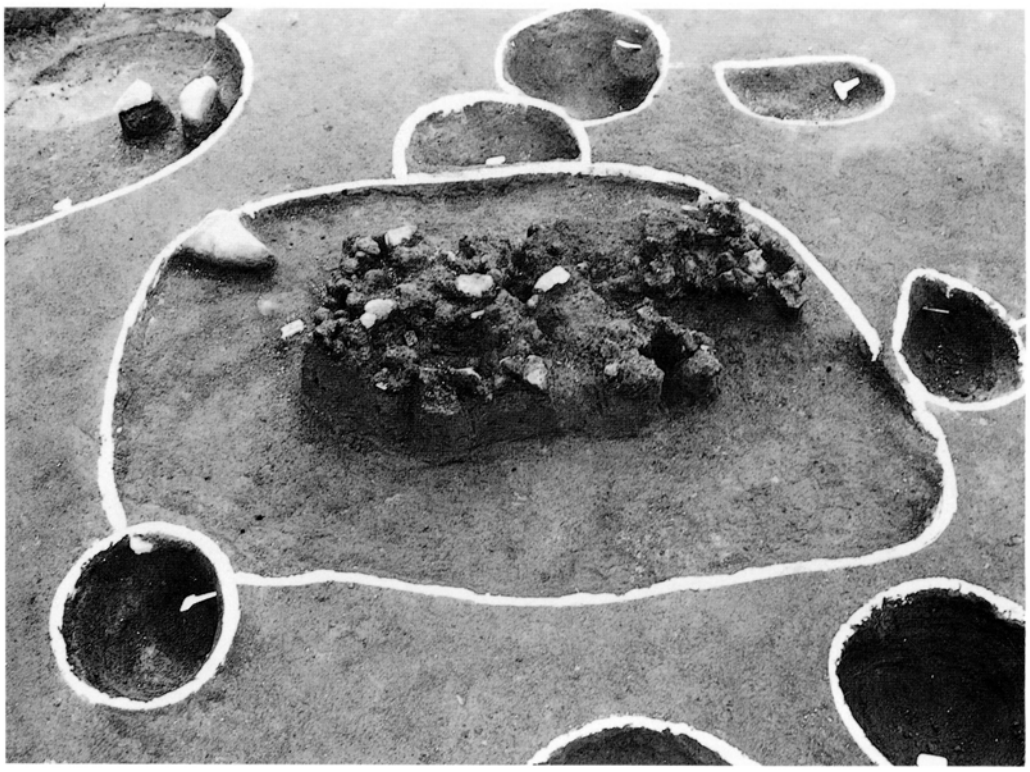


(1)Ⅳ面全景

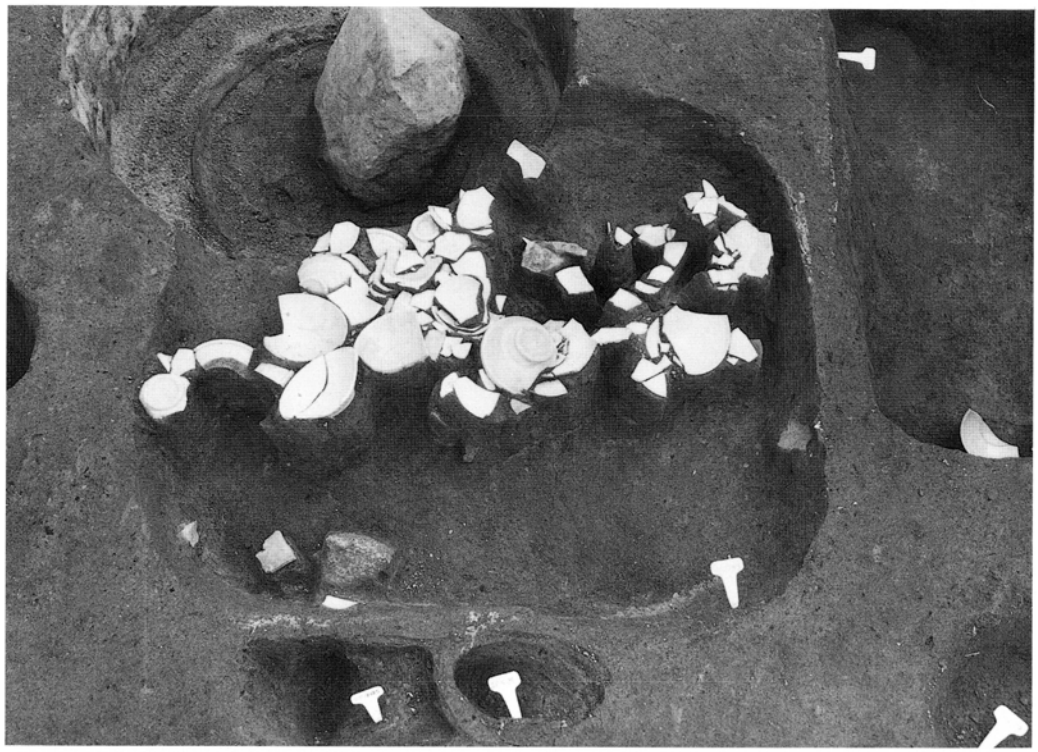
(2)1121号土壙（東より）

(1)1227号土壙（北より）

(2)1229号土壙



(1)1243号土壙（北より）

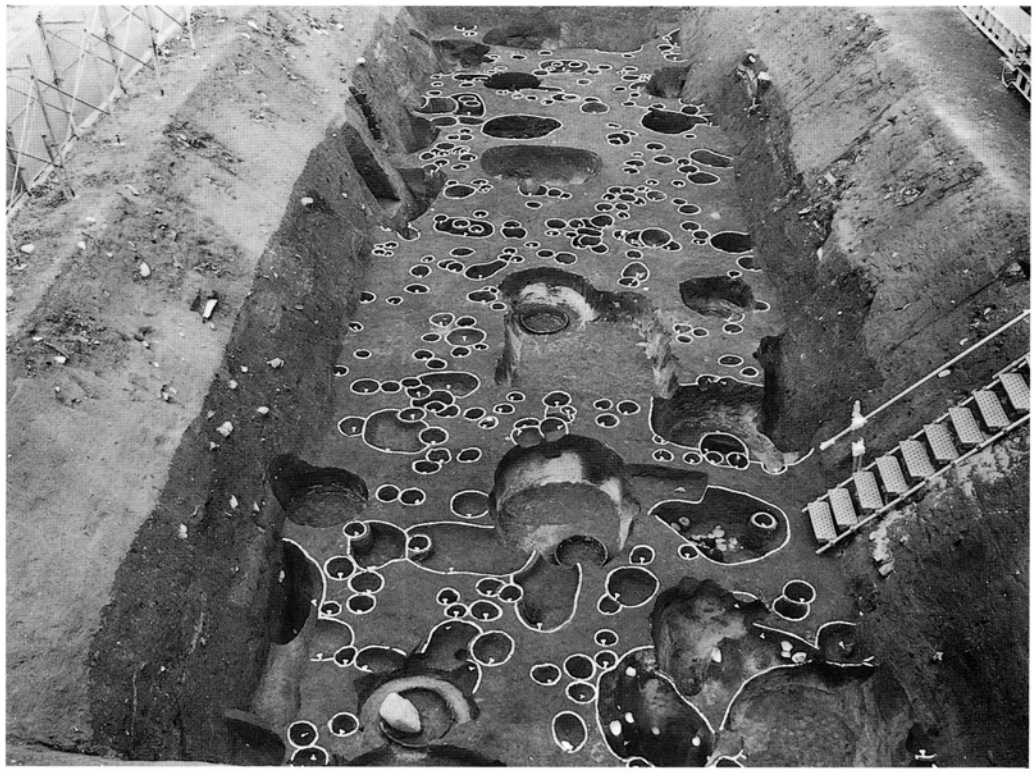


(2)1243号土壙遺物出土状況

(1)1220号土壙遺物出土状況(南より)

(2)4047号ピット（北より）

(1)Ⅴ面全景

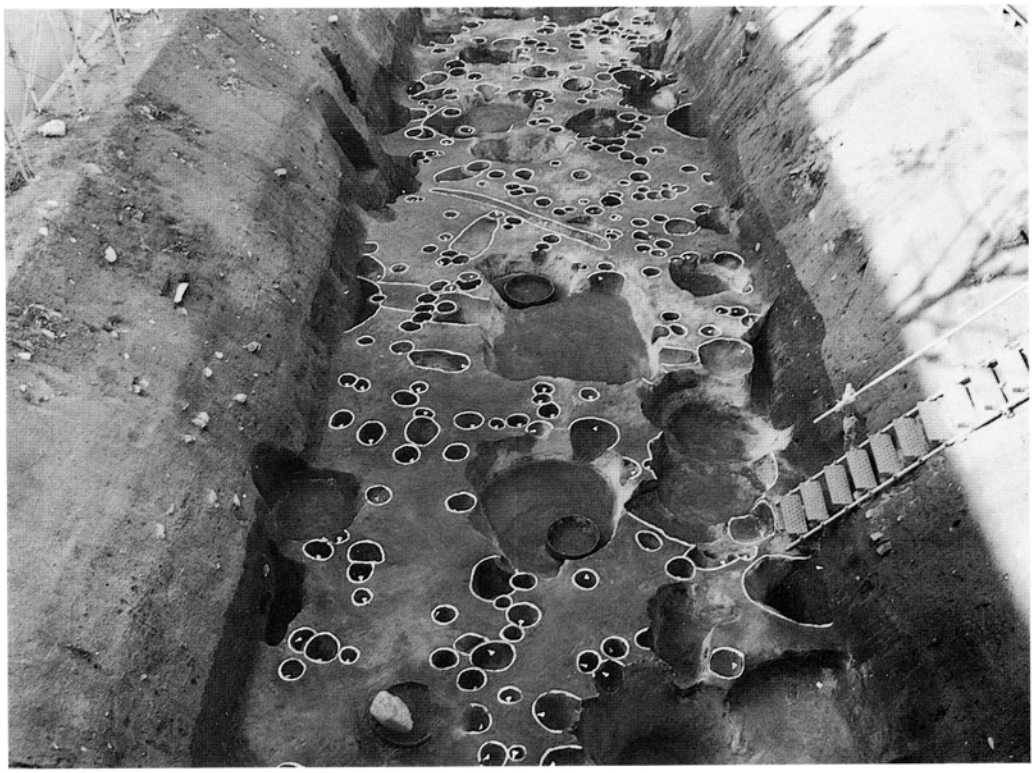


(2)1262号土壙（南より）

(1)1259号土壙（東より）

(2)1259号土壙土器出土状況

(1)VI面全景（南より）



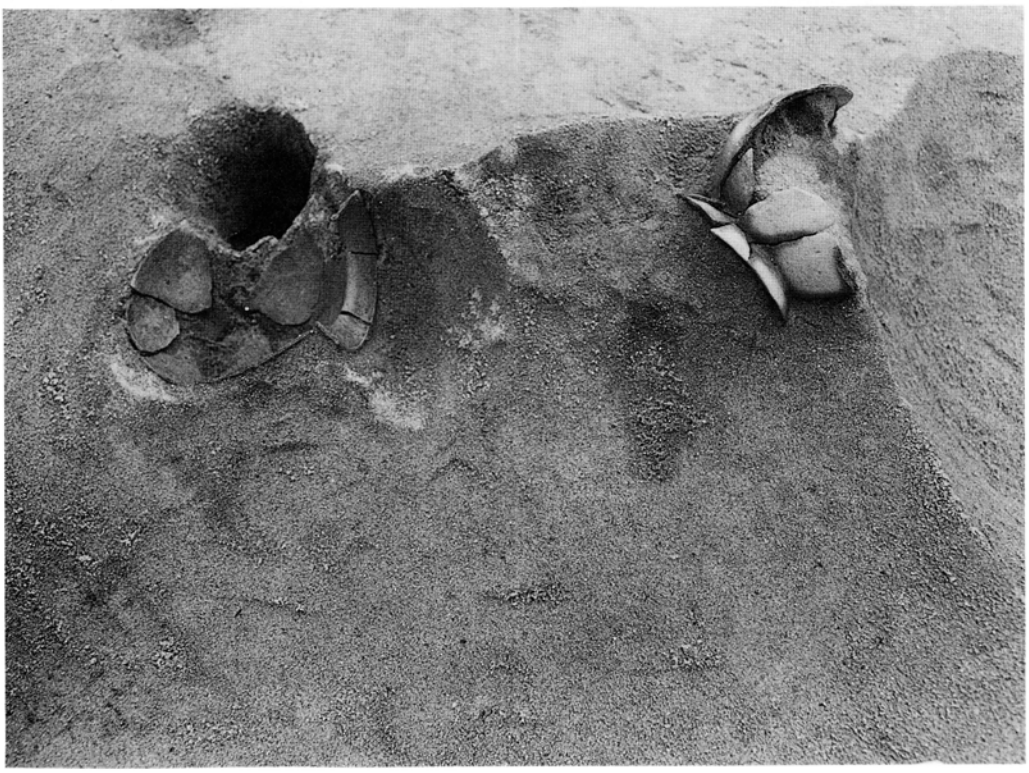
(2)1288号土壙（北より）

(1)184号井戸（西より）

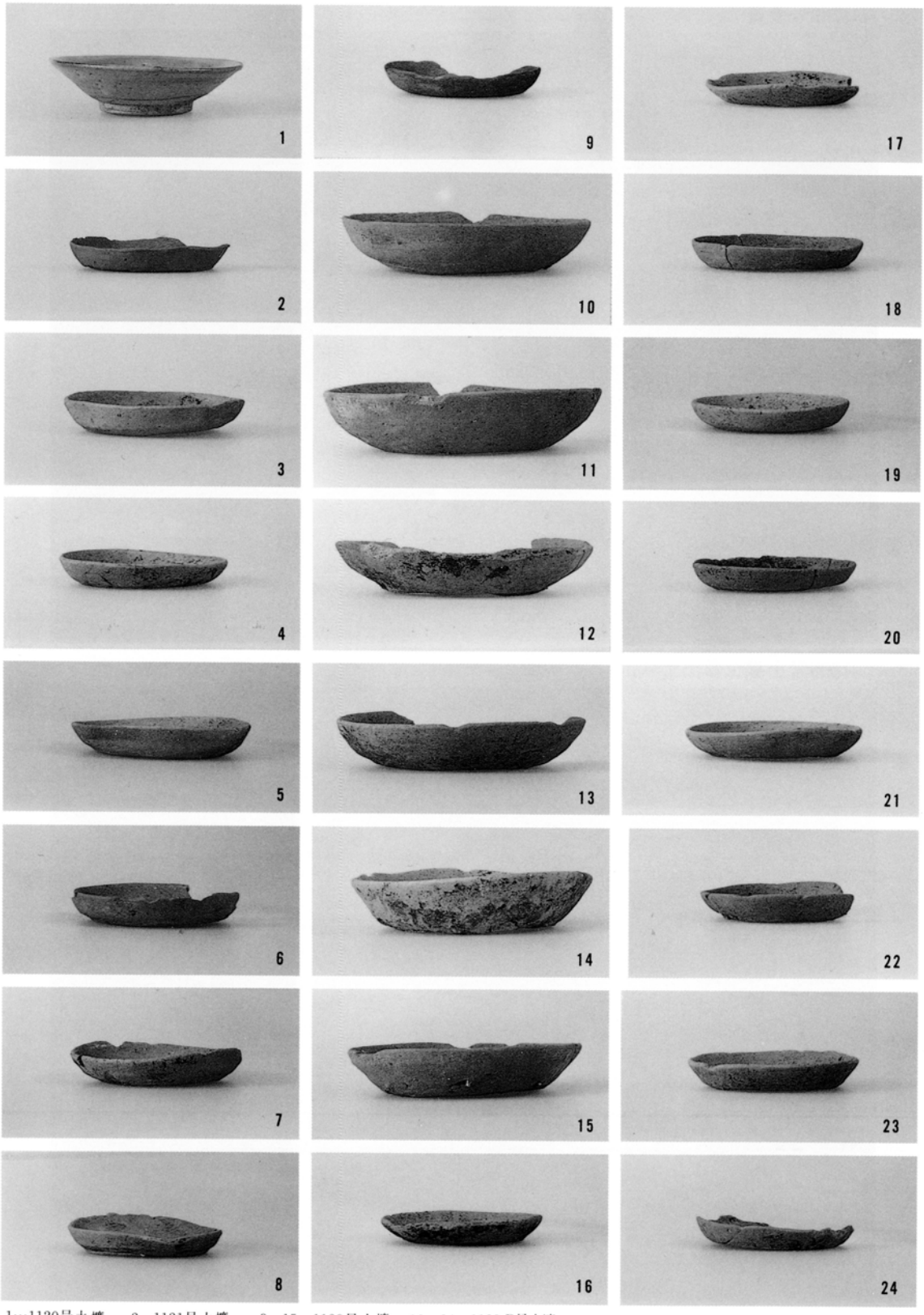
(2)185号井戸（東より）

(1)1299号土壙

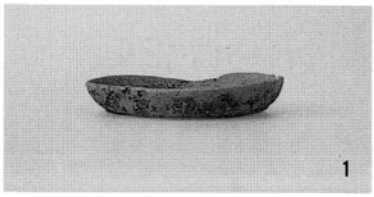
(2)1299号土壙土器出土状況

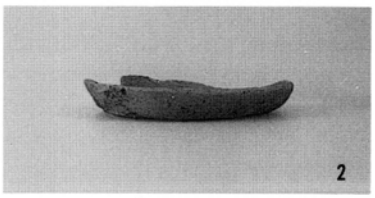


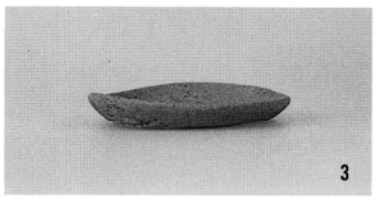
PL.22

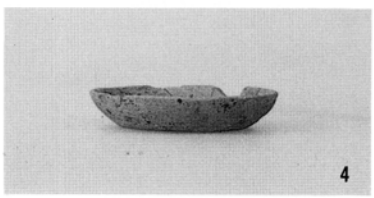


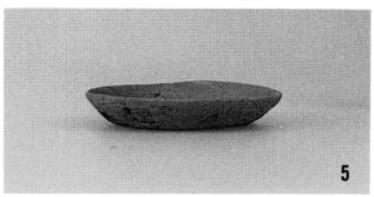
1…1120号土壙　2…1121号土壙　3～15…1123号土壙　16～24…1123 B号土壙

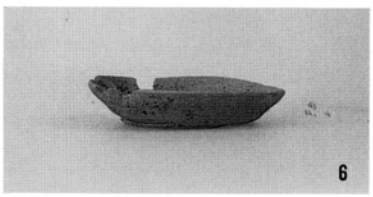

1


2


3

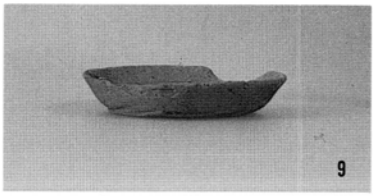

4

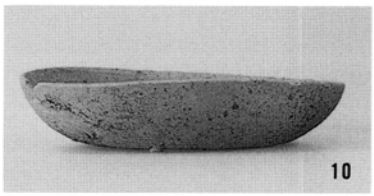

5


6

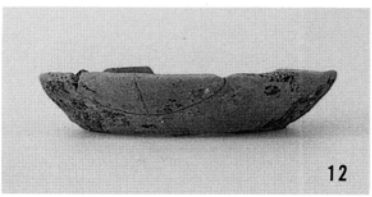
7

8

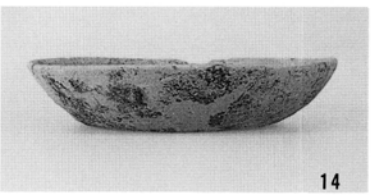

9

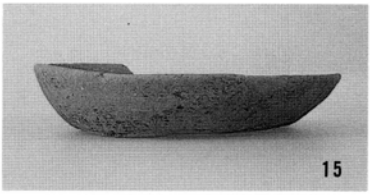

10

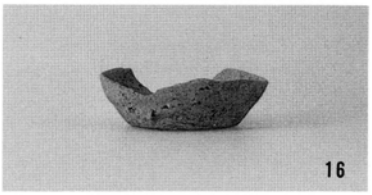
11

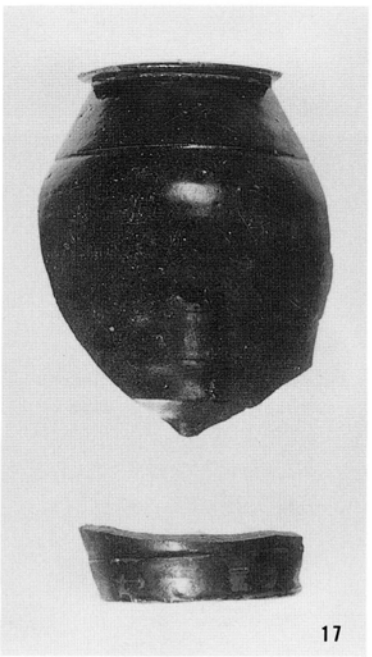

12

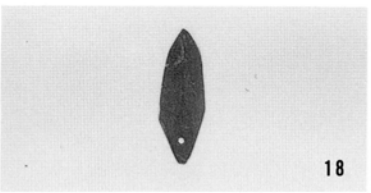
13


14


15

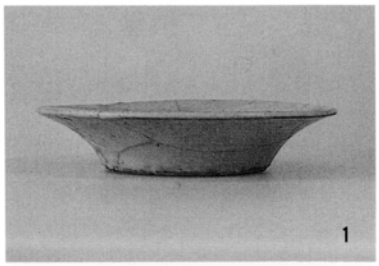

16

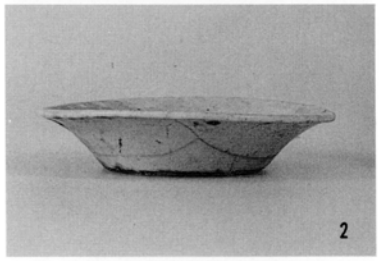

17

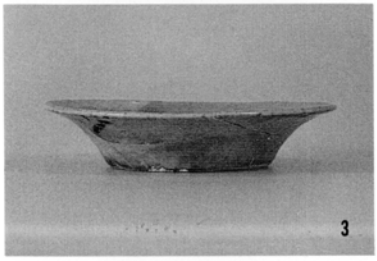

18

19

1～15・17…1123B号土壙　16…1130号土壙　18…1134号土壙　19…1137号土壙

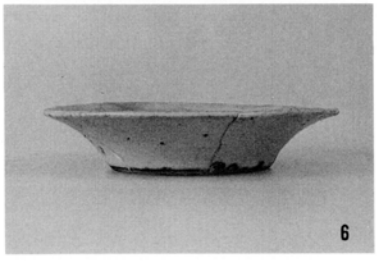

1

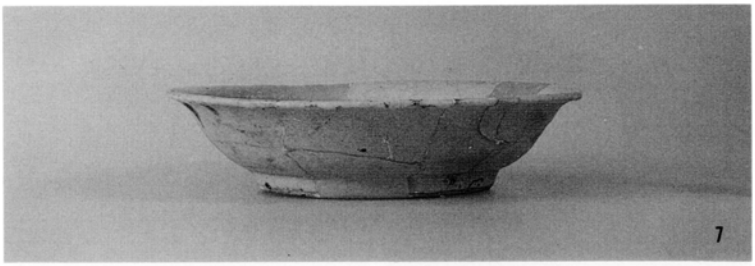

2


3

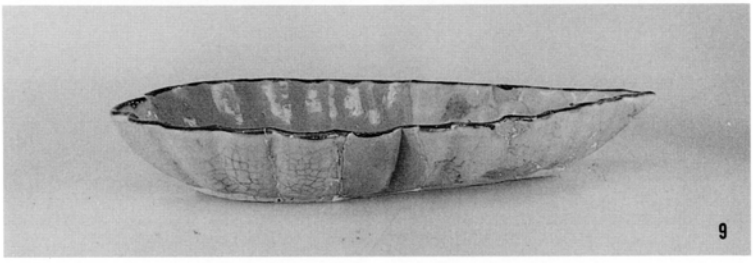
4

5


6

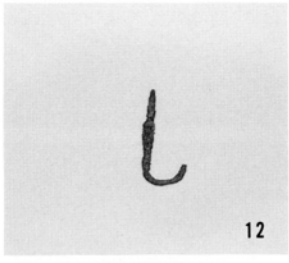

7

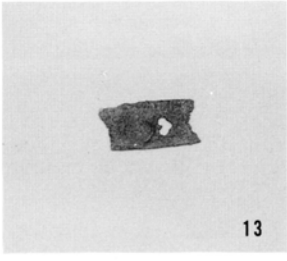
8


9

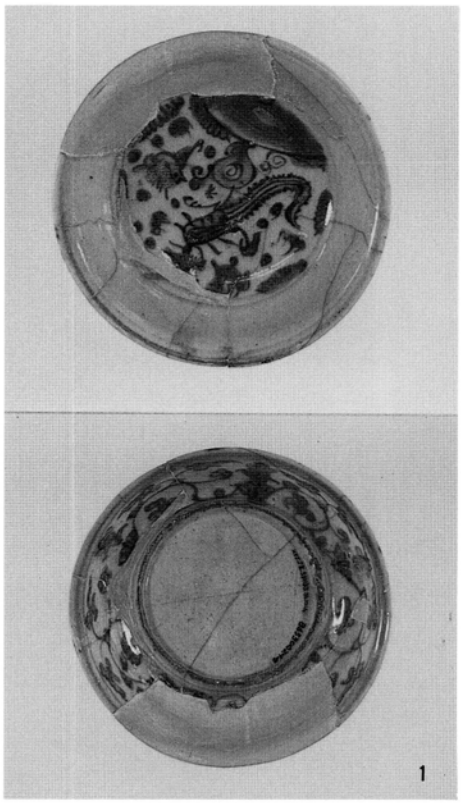
10

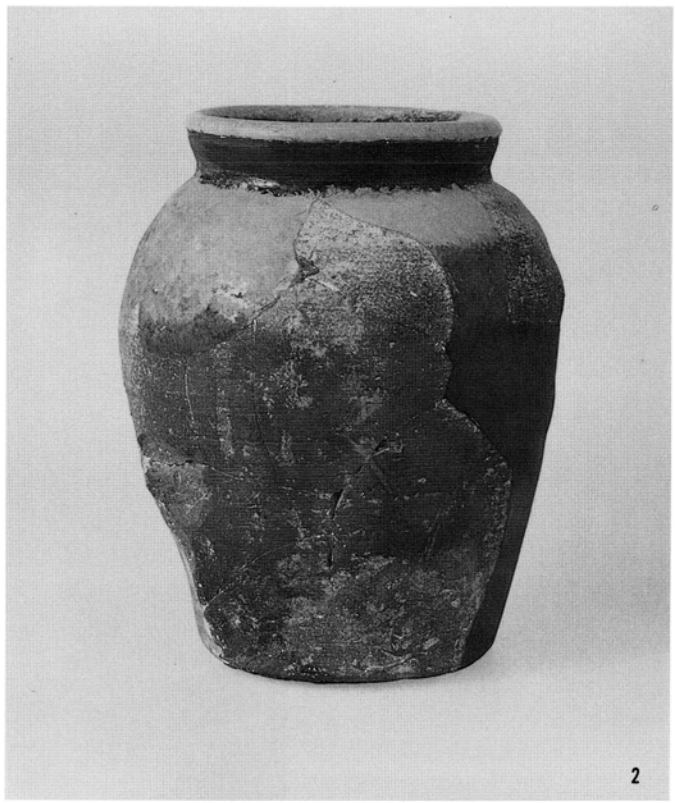
11

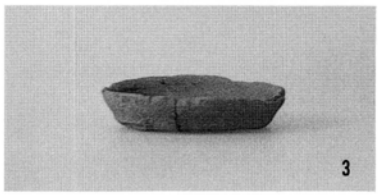

12

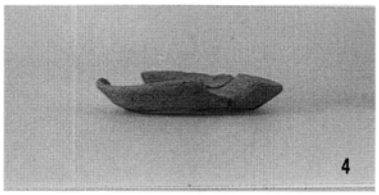

13

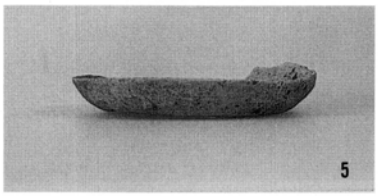
1～13…1137号土壙


1

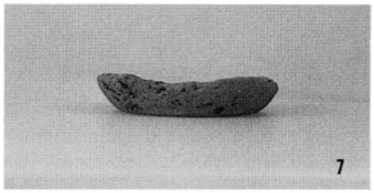

2

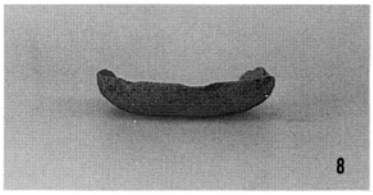

3

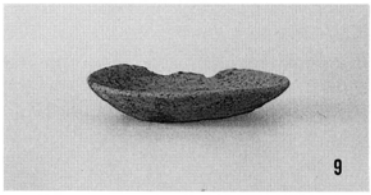

4

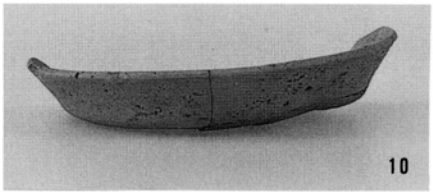

5

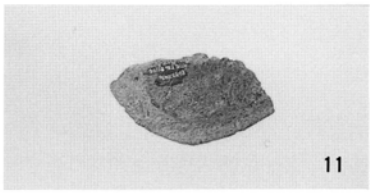
6

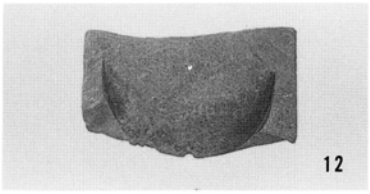

7

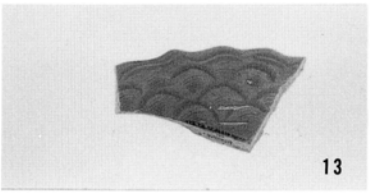

8

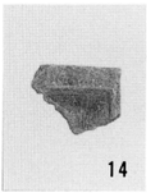

9


10


11


12

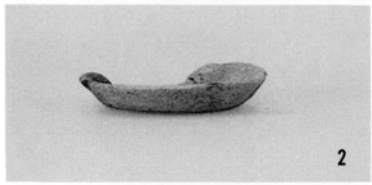

13


14

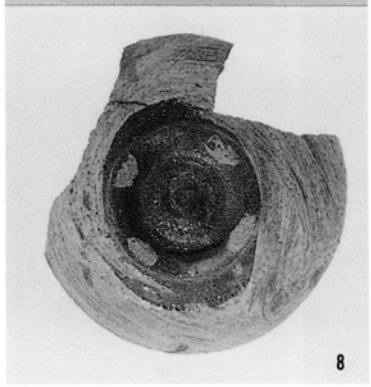
15

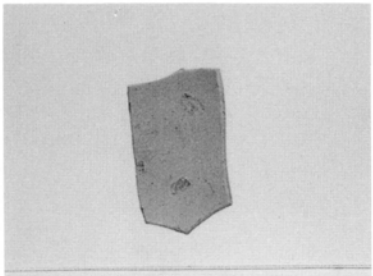
1・2…1137号土壙　3・4…1139号土壙　5～7…1140号土壙　8～11…154号井戸　12・15…160号井戸　13…156号井戸
14…161号井戸

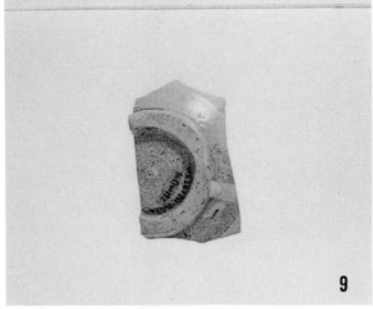
1

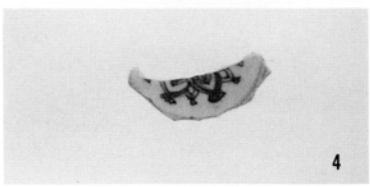

2

3

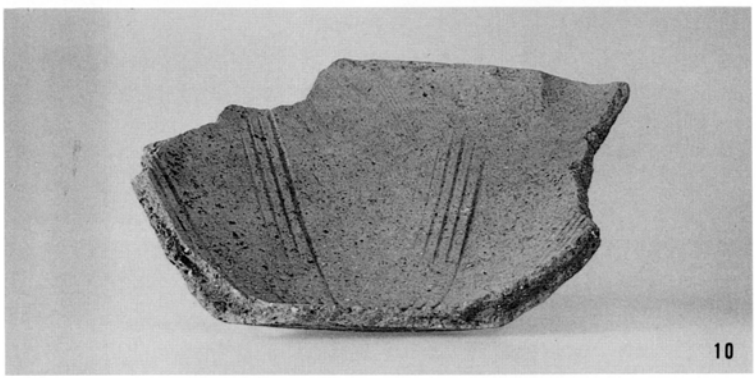

8

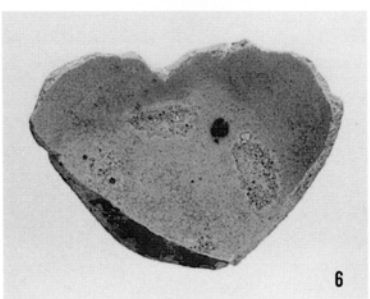


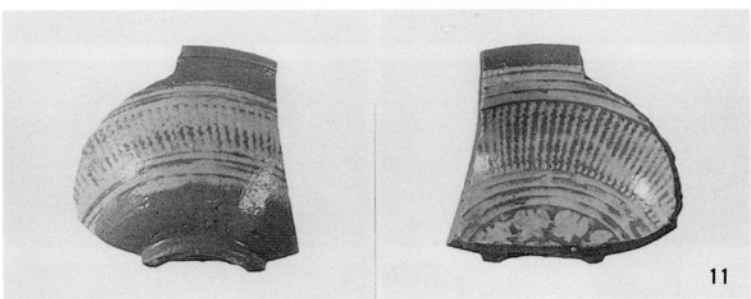

9

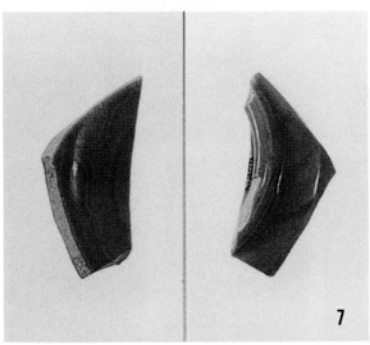

4

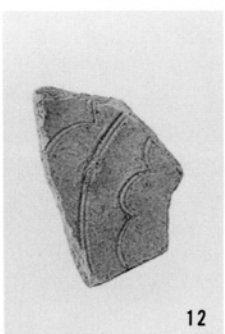
5

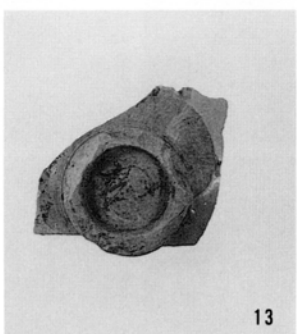

10

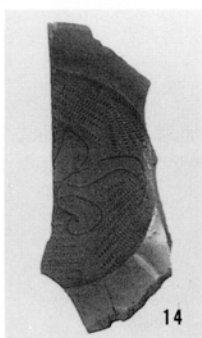

6


11

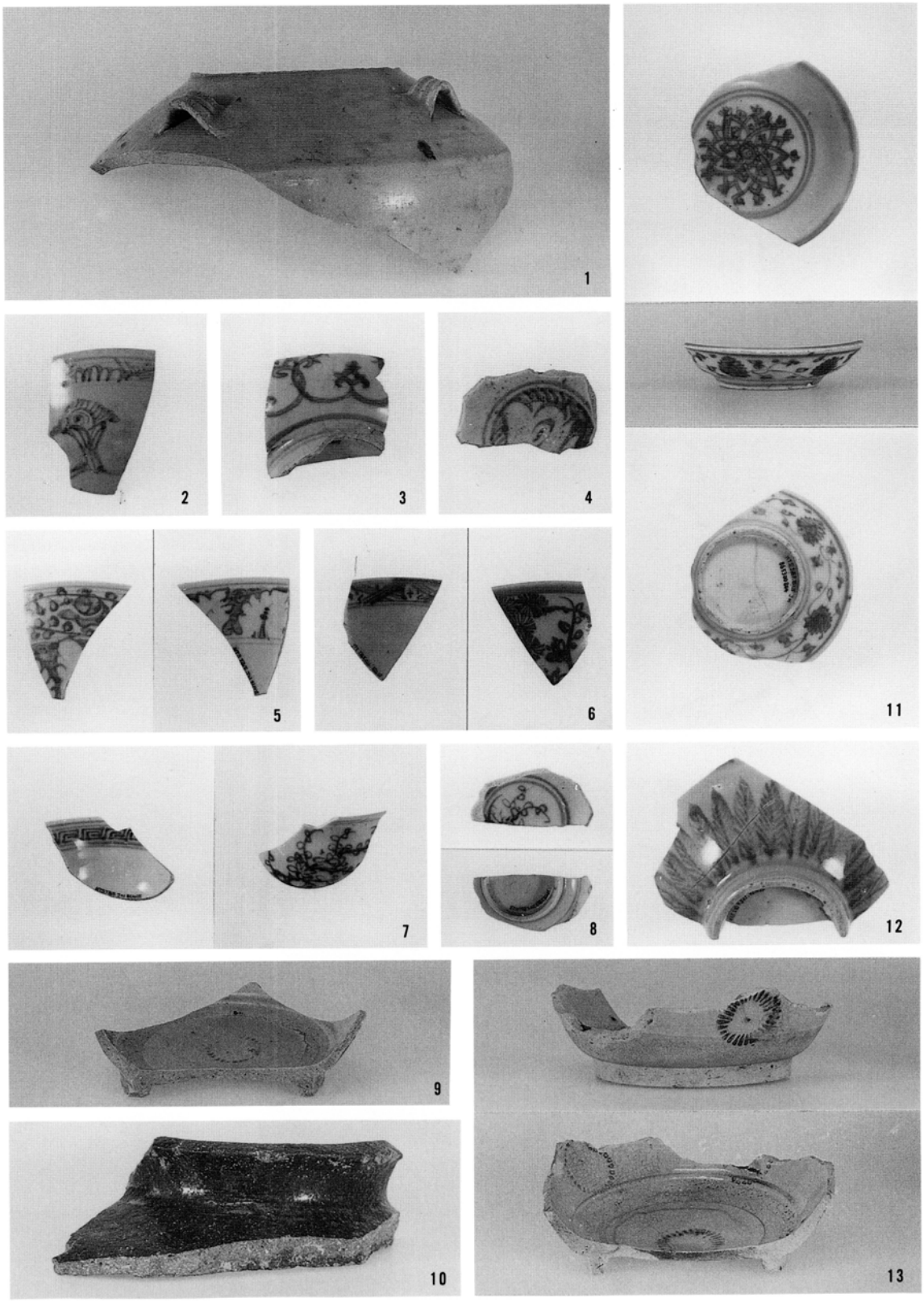

7


12

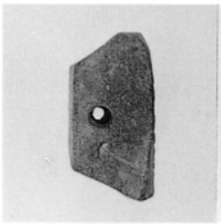

13

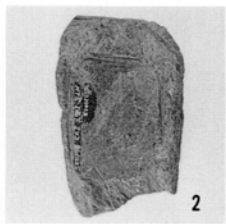

14

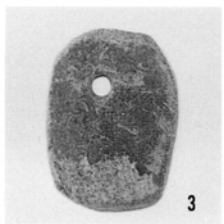
1…163号井戸　2～4・8…166号井戸　5…167号井戸　6…168号井戸　7…3762号ピット　10…3779号ピット
9・11～14…Ⅰ面包含層

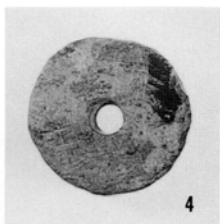


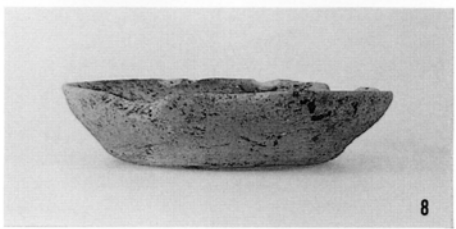
1～13… I 面包含層

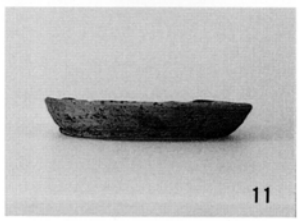


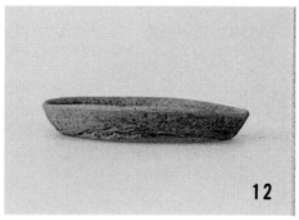


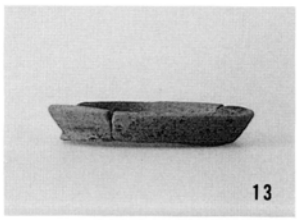


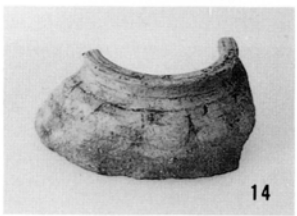


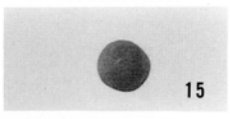




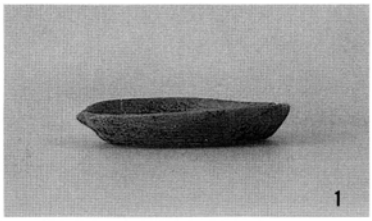


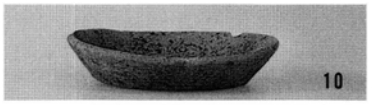


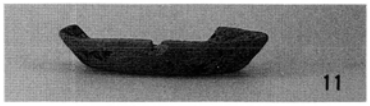


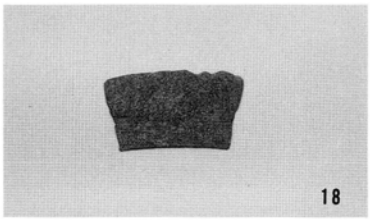


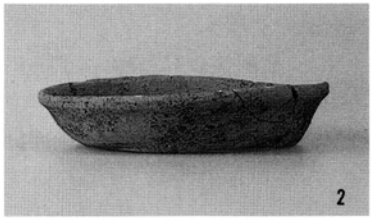
1～4・6・15…Ⅰ面包含層　5…1144号土壙　7・8・11～14…1151号土壙　9・10…1153号土壙　16…1154号土壙


1

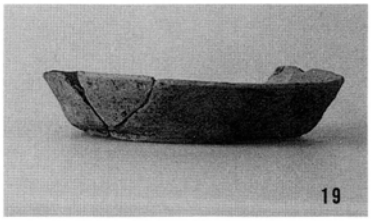

10


11


18


2

12

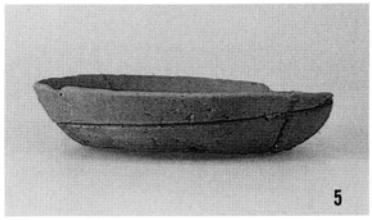

19

3

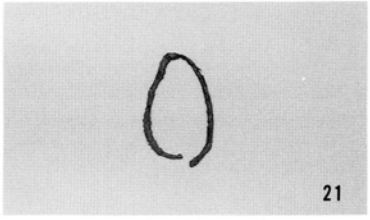
4

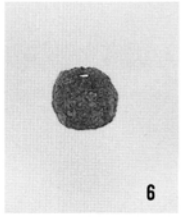
13

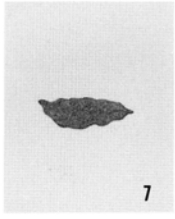
20

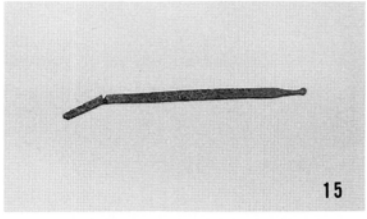

5

14

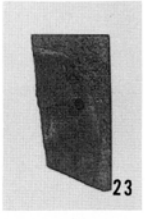

21

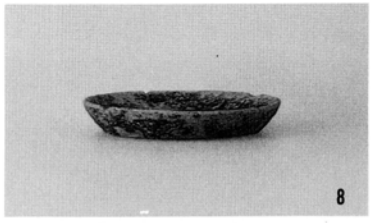

6

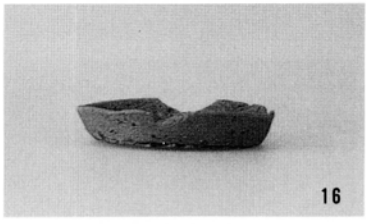

7

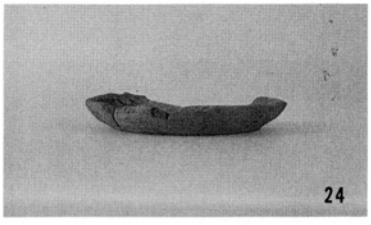

15

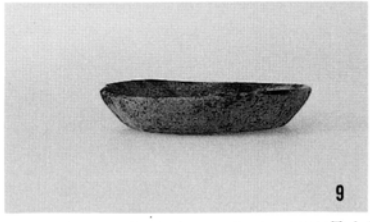
22


23


8


16


24

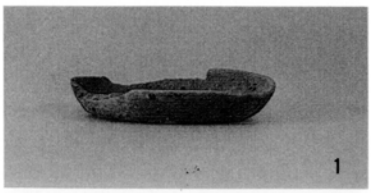

9

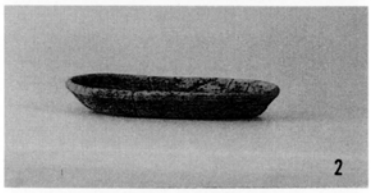
17

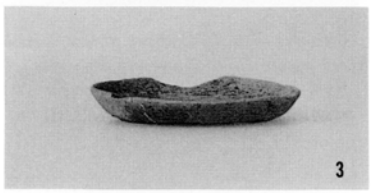
25

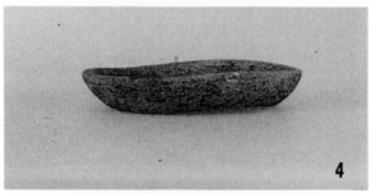
1～3・6…1158号土壙　5・7…1160号土壙　8…1162号土壙　9・10…1163号土壙
12・23…1169号土壙　11・13～15…1170号土壙　16・17…1173号土壙　18…1175号土壙
19…1177号土壙　20…1178号土壙　4・21・22…1179号土壙　24・25…1182号土壙

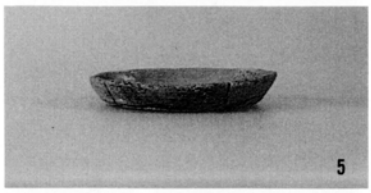
PL.30


1

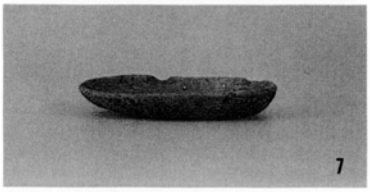

2

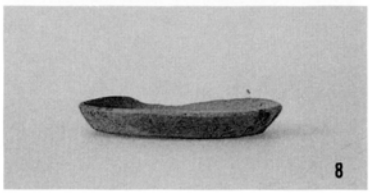

3

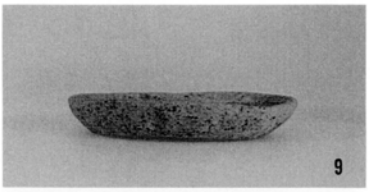

4

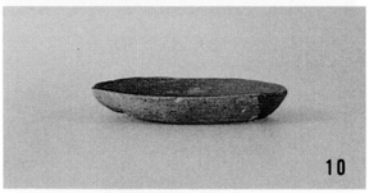

5

6

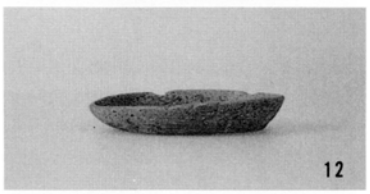

7

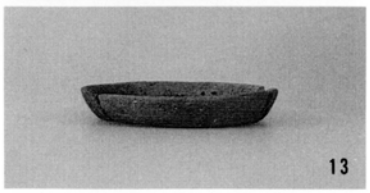

8

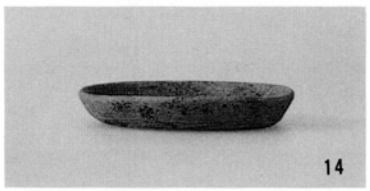

9

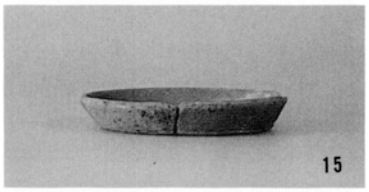

10

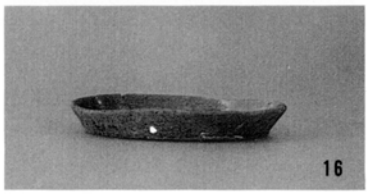
11

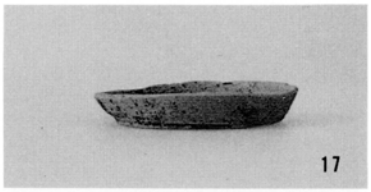

12

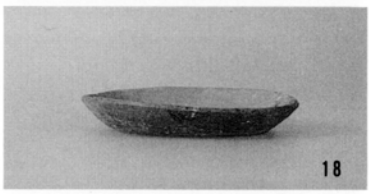

13


14


15

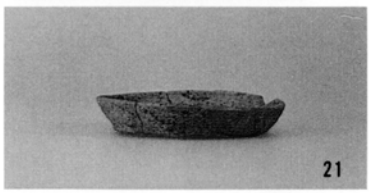

16


17


18

19

20

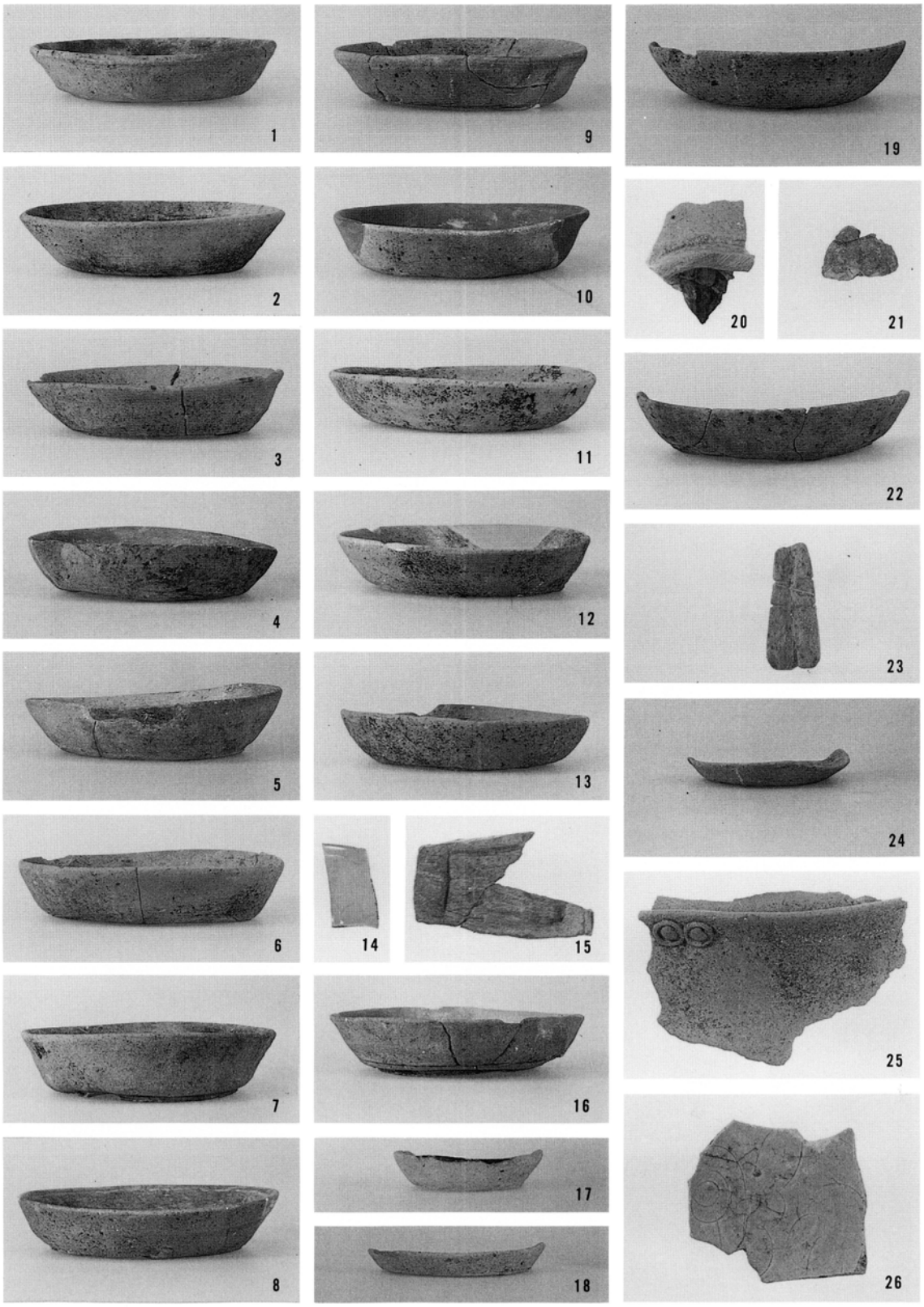

21

22

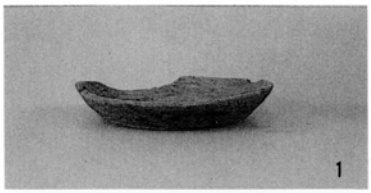
23

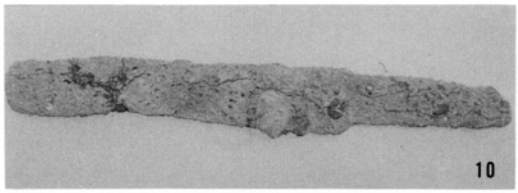
24

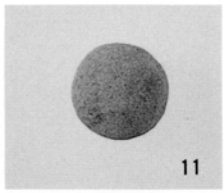
1～24…1182号土壙

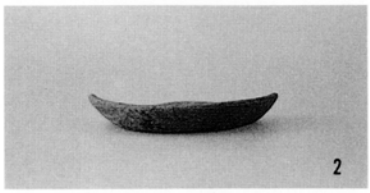


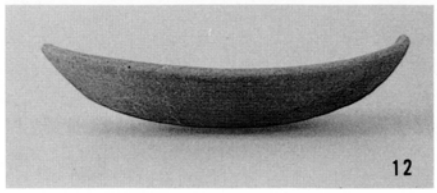
1～16…1182号土壙　17～20・25…169号井戸　21～23…171号井戸　24…175号井戸　26…172号井戸

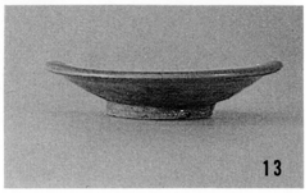

1

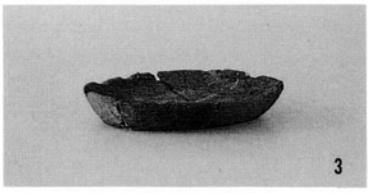

10


11

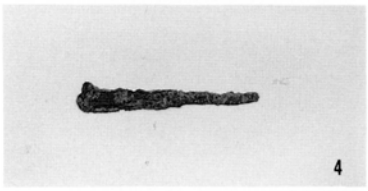

2

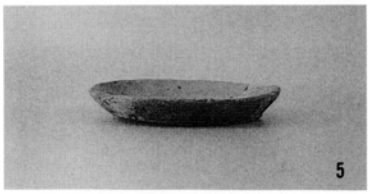

12


13

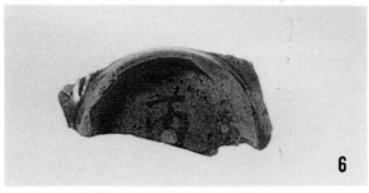

3

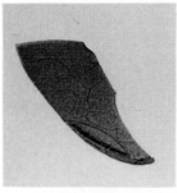
14

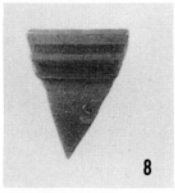

4

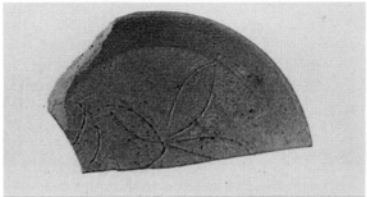

5

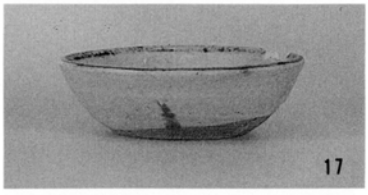
15

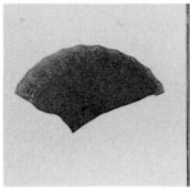

6

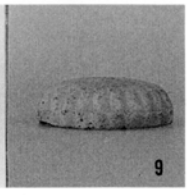


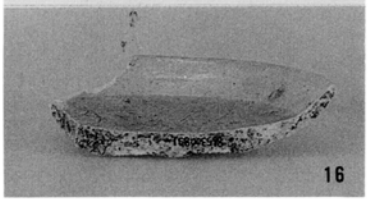

8




17

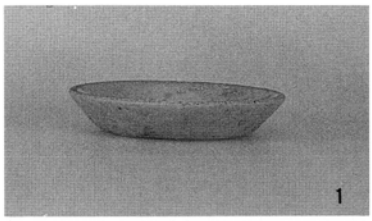


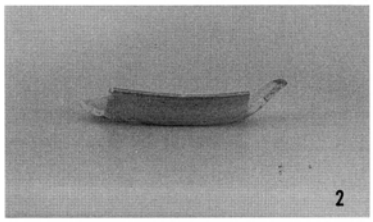

9

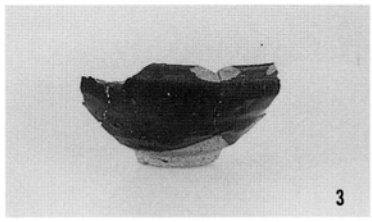

16

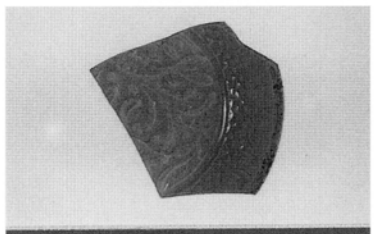
18

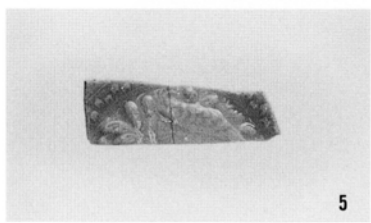
1～7・9～12・14…175号井戸　　8…3797号ピット　　13…3905号ピット　　15～18…II面包含層

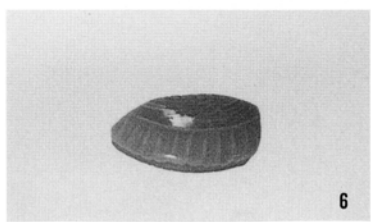

1

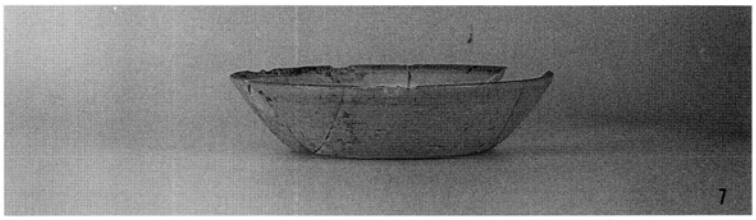

2


3


4

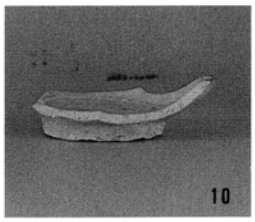

5

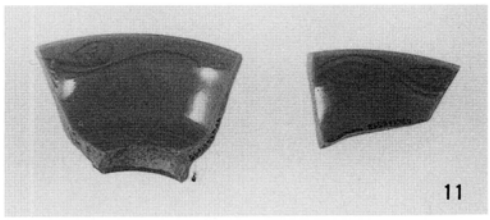

6

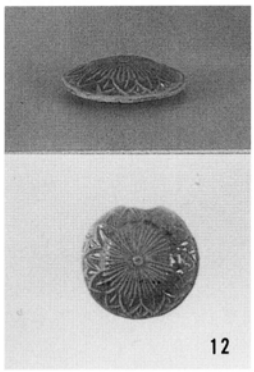

7

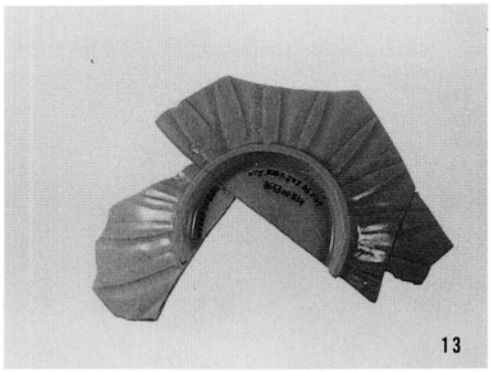
8

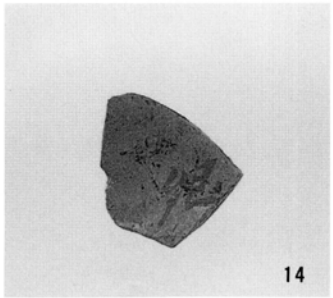
9

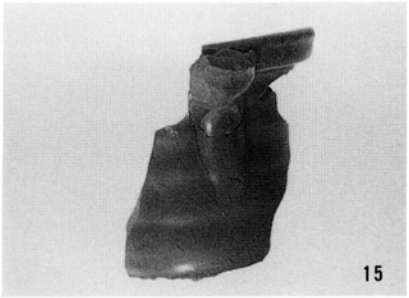

10


11

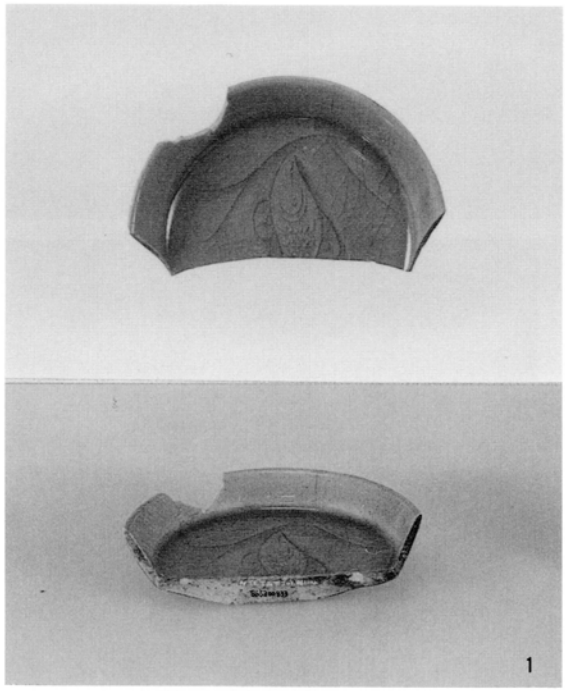

12

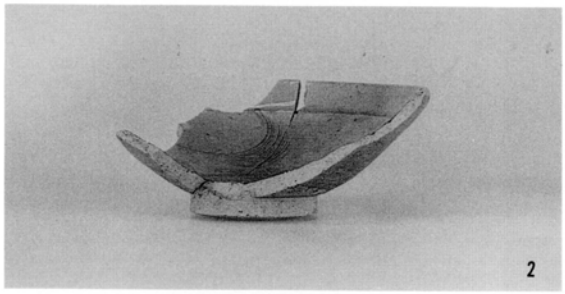

13

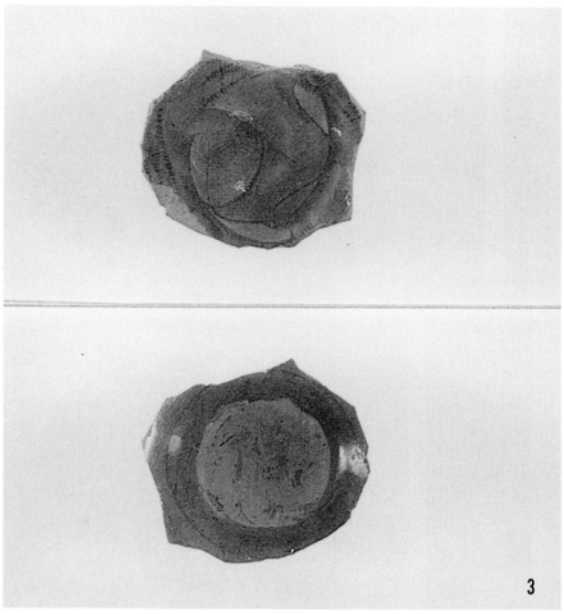

14

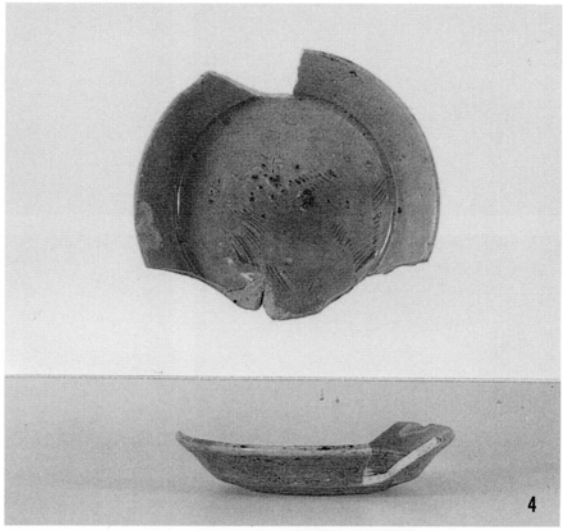

15

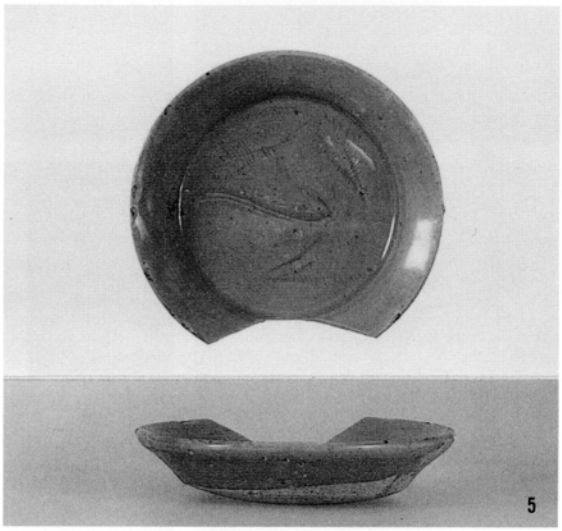
1～15…II面包含層


1


2

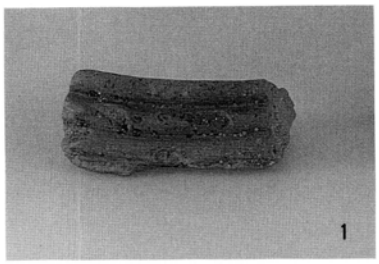

3

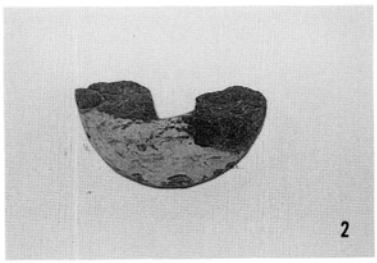

4

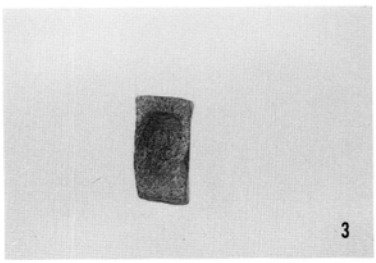

5

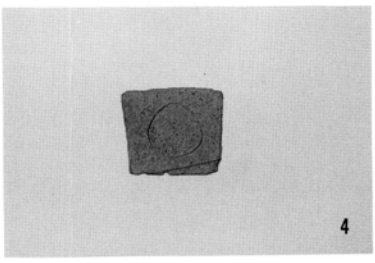
6

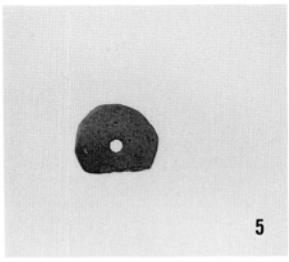
1～6…II面包含層

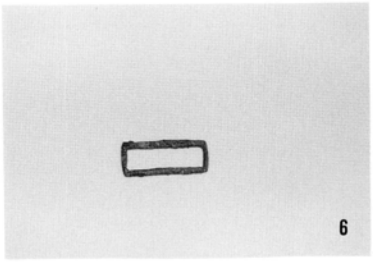

1


2


3

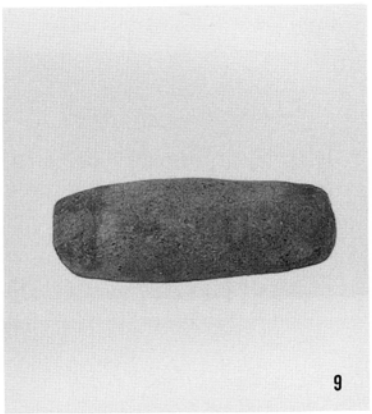

4

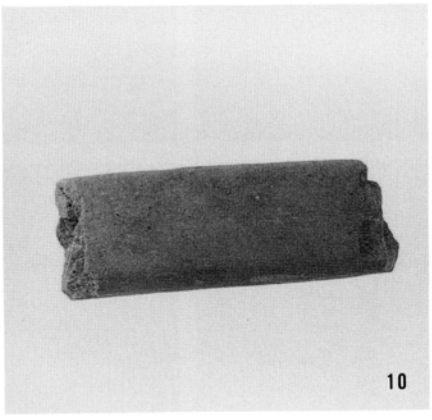

5


6

7

8


9


10

11

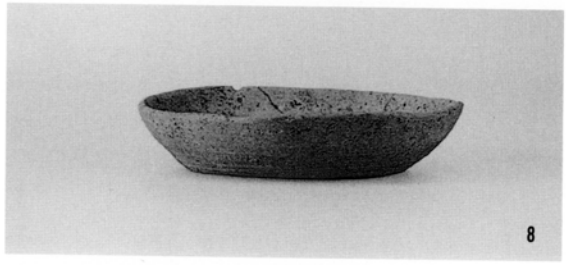
1～11…II面包含層

PL.36

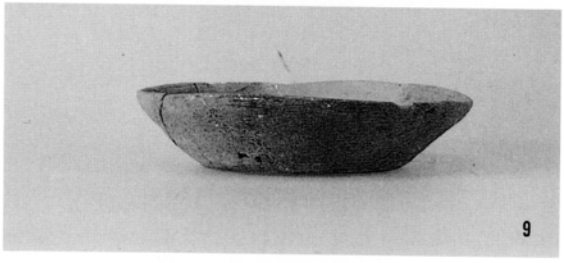
1

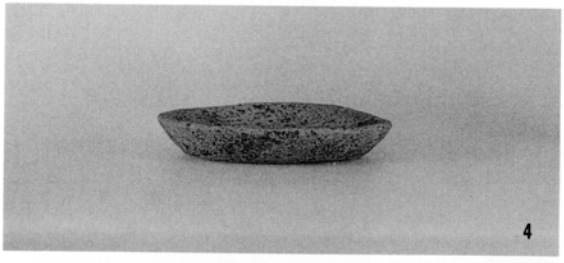
7

2


8

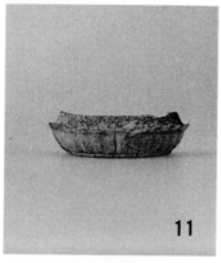
3

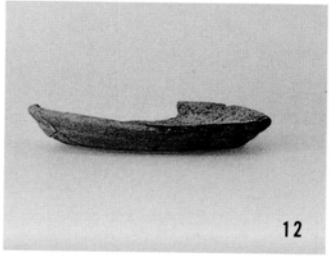

9

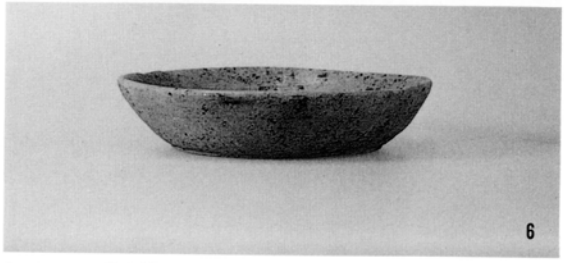

4

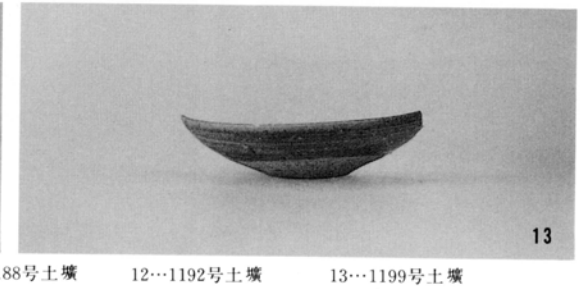
10

5

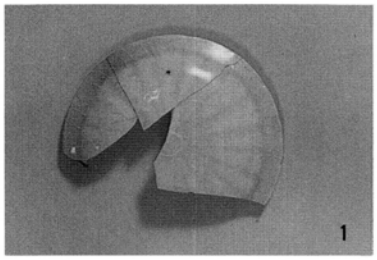

11

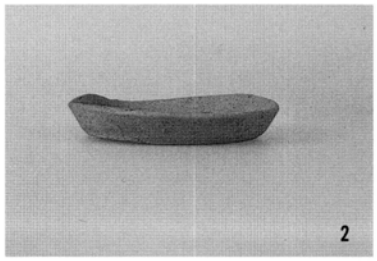

12

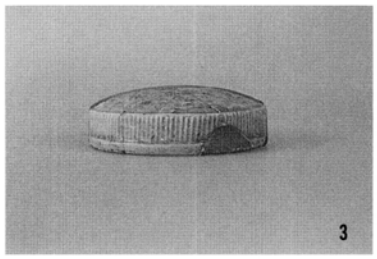

6

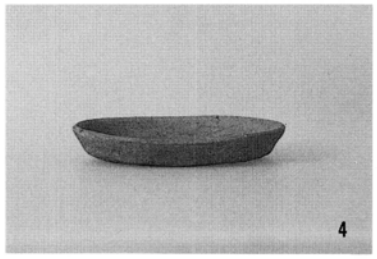

13

1～3…1184号土壙　4～9…1186号土壙　10・11…1188号土壙　12…1192号土壙　13…1199号土壙

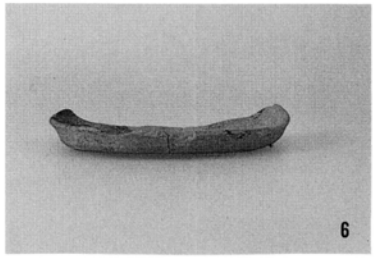

1

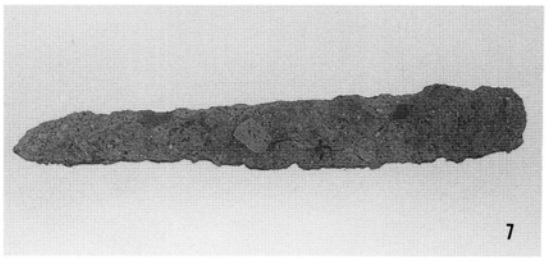

2


3

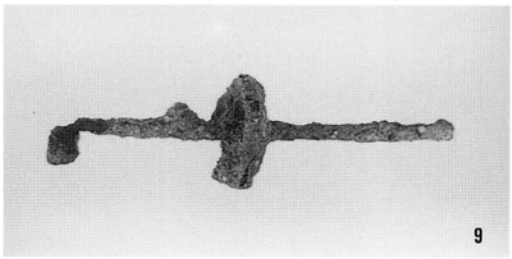

4

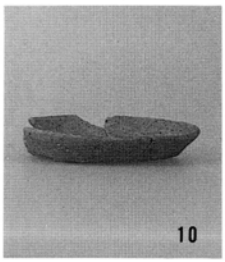
5

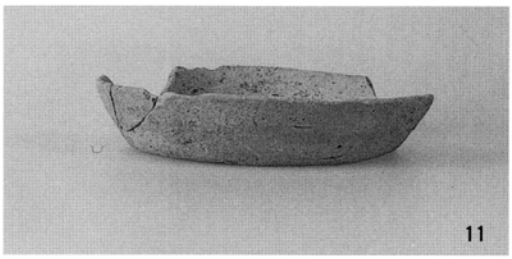

6

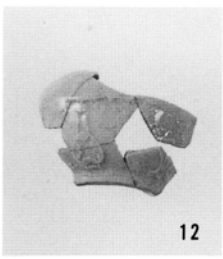

7

8

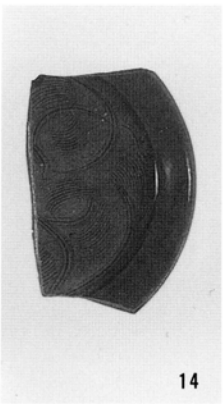

9


10

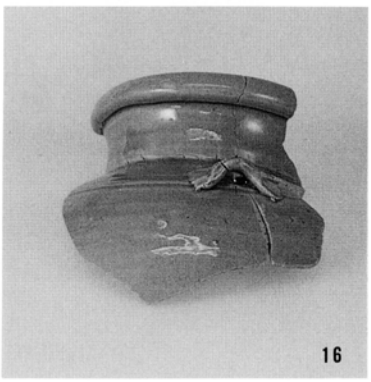

11


12

13

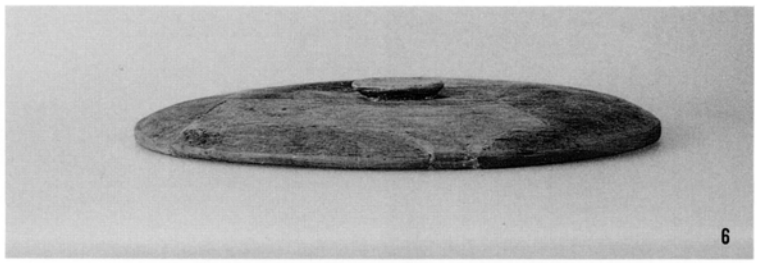

14

15

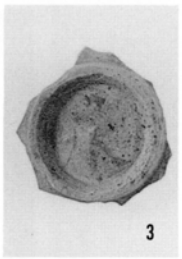

16

1…1194号土壙　2…1208号土壙　3…1209号土壙　4・5・10・11…1215号土壙　6・13・16…1220号土壙
7…1201号土壙　8…1214号土壙　9…1203号土壙　12・14…1216号土壙　15…1198号土壙

1

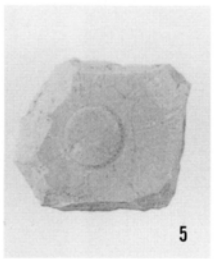

6

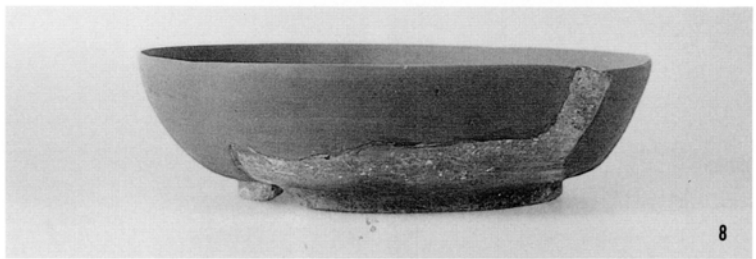
2

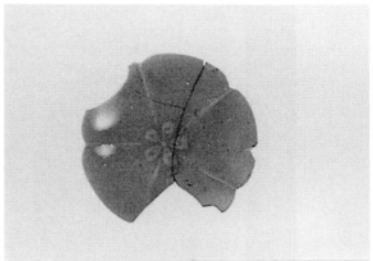

3

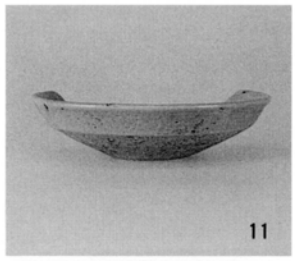
7

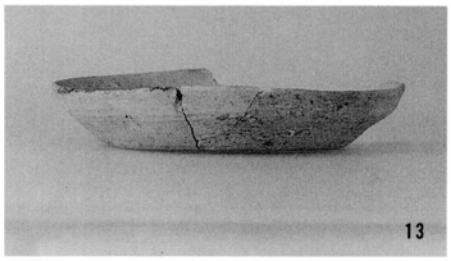
4

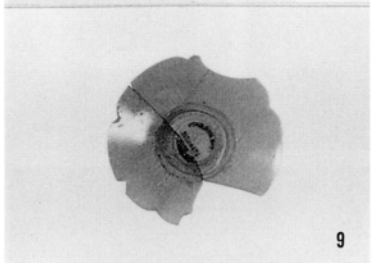

5

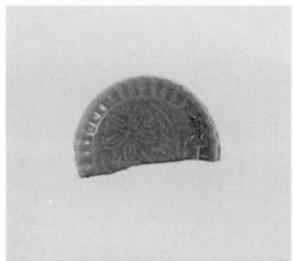

8

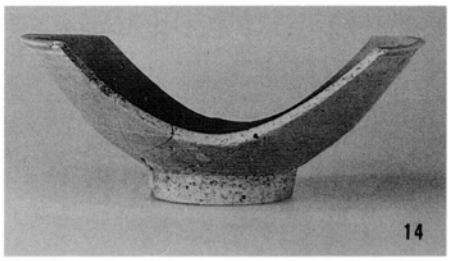



11

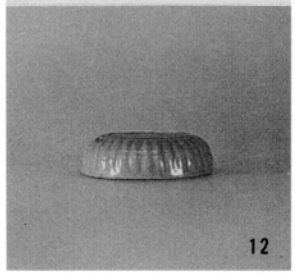

13


9



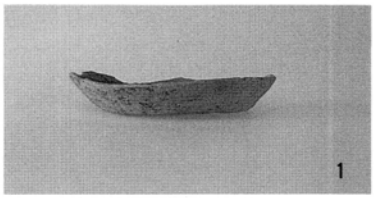

14

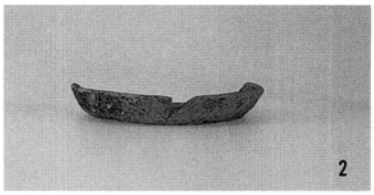
10


12

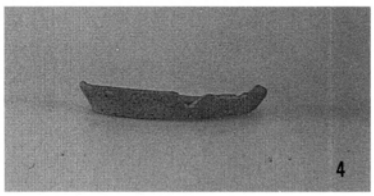
15

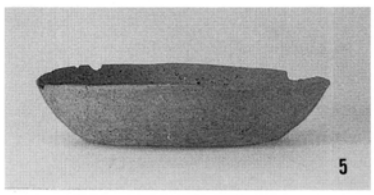
1～4・6～8…177号井戸　5…178号井戸　9…3986号ピット　10…4038号ピット　11・12…4050号ピット
13…4025号ピット　14…4046号ピット　15…4051号ピット

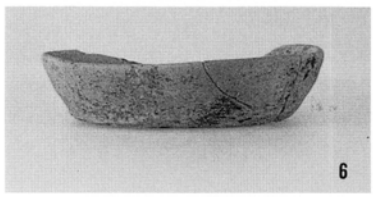

1

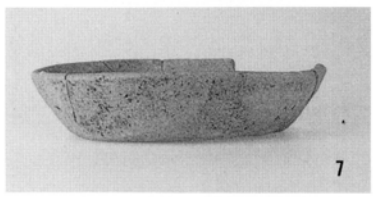

2

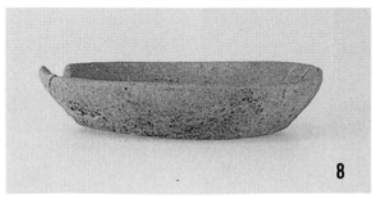
3

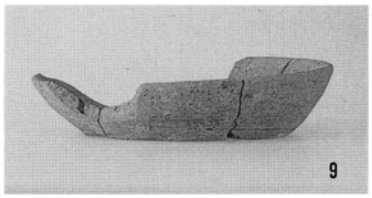

4

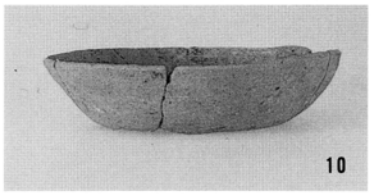

5

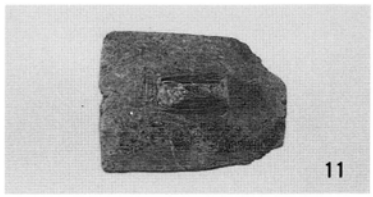

6

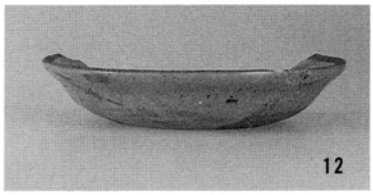

7

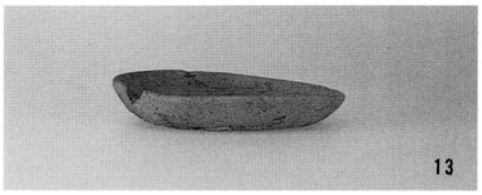

8


9

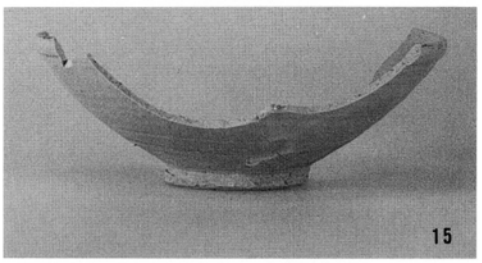

10

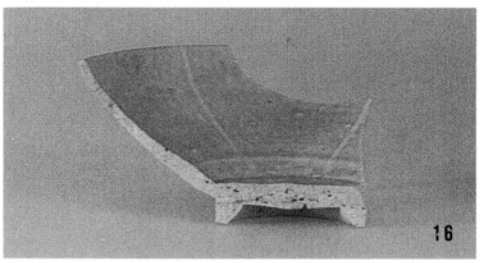

11

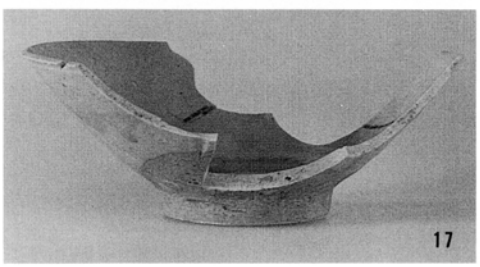

12

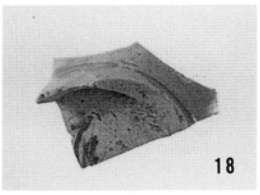

13

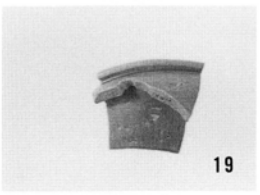
14

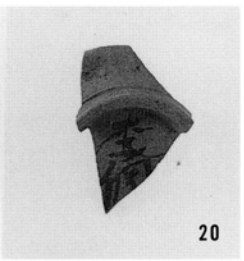

15

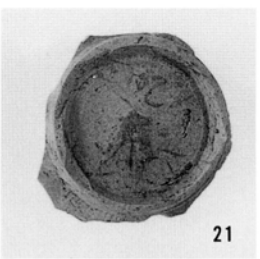

16

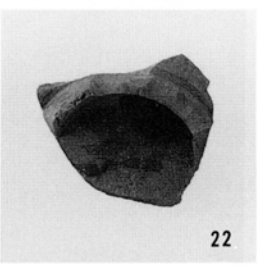

17


18


19

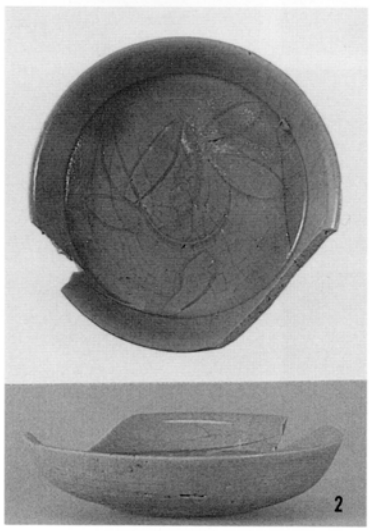

20


21

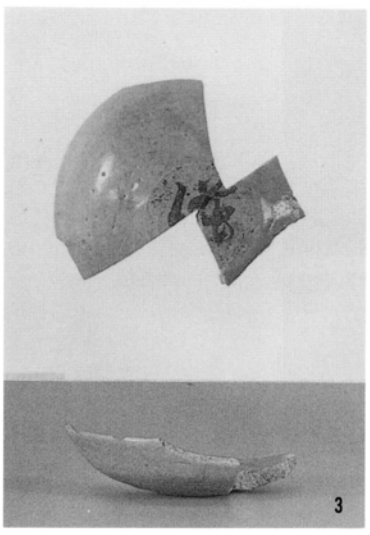

22

1～10…4055号ピット　11…4064号ピット　12・14～22…Ⅲ面包含層　13…4056号ピット

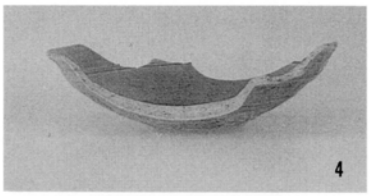
1

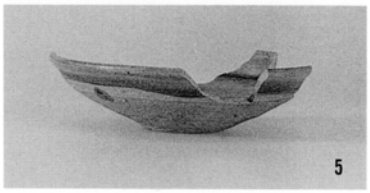


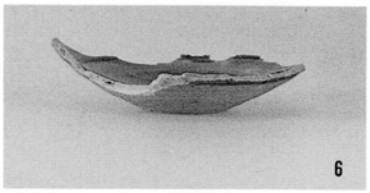
2



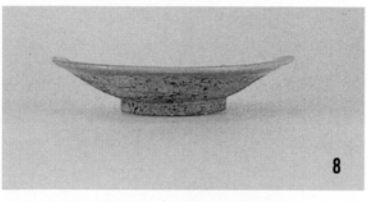
3

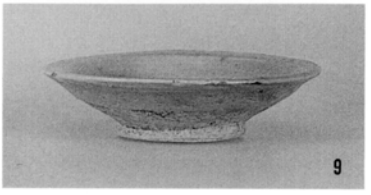

4

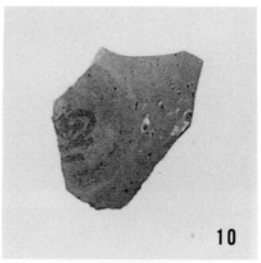

5

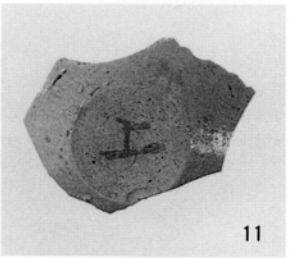

6

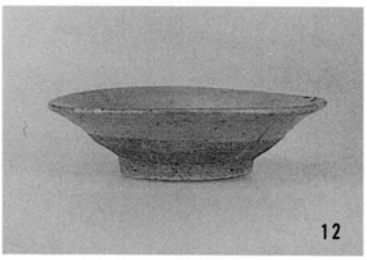
7


8


9


10

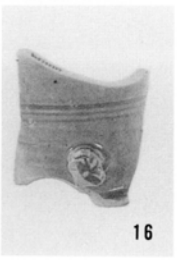

11


12

13

14

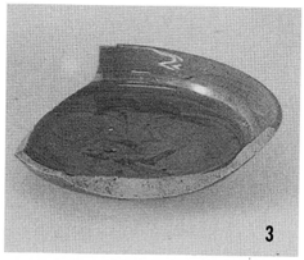
15


16

1～16…Ⅲ面包含層

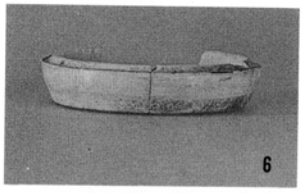
1

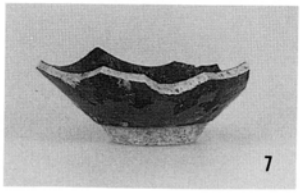
2

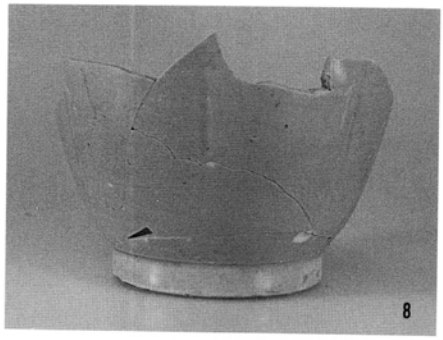

3

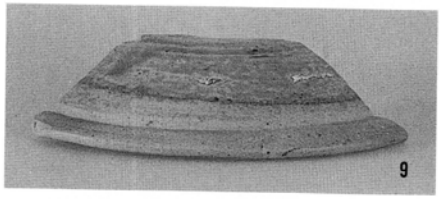
4

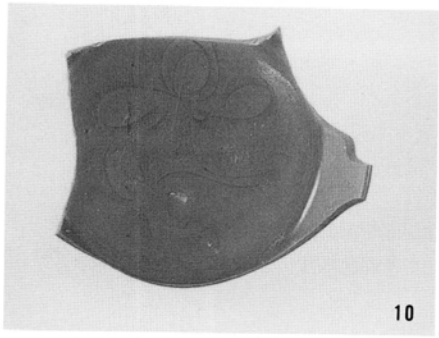
5

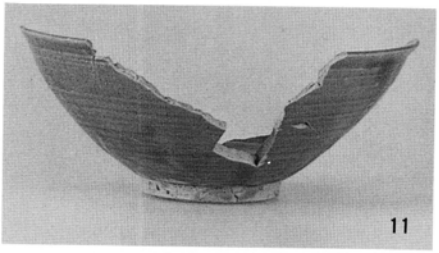

6

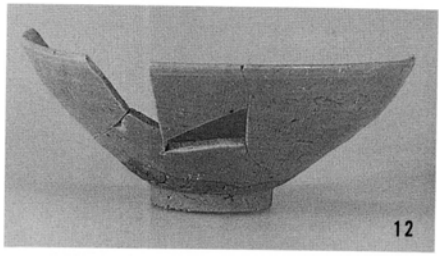

7

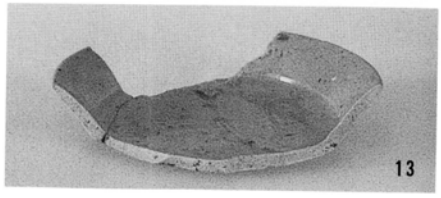

8

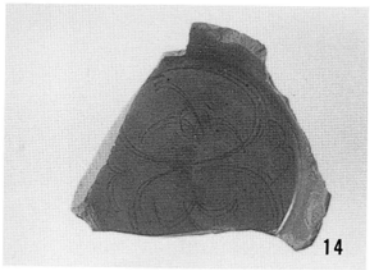

9


10


11

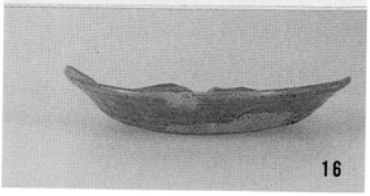

12

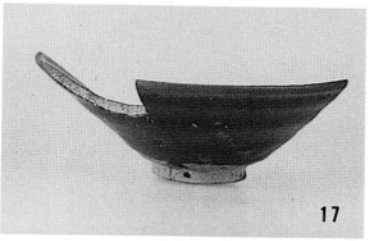

13

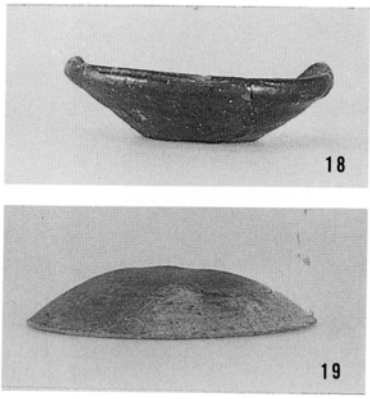

14

15

16

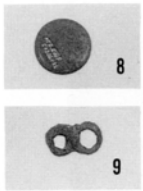

17


18

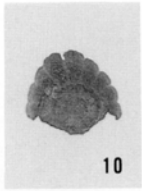

19

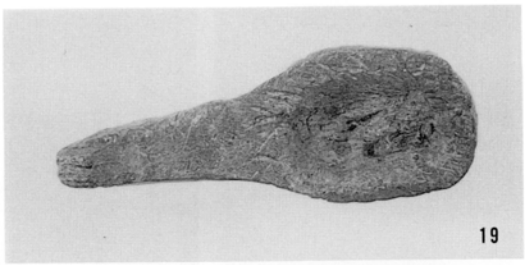
1～19…III面包含層

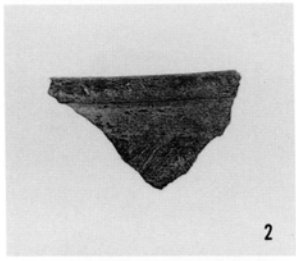
1

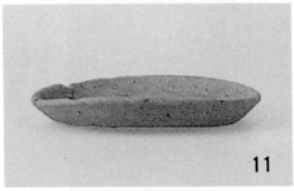

8

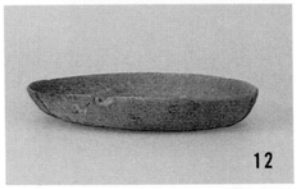
9


10

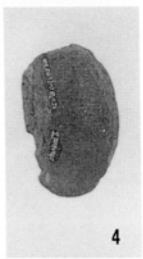

19

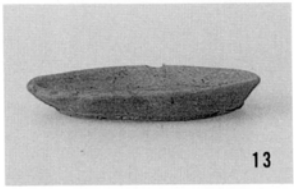

2

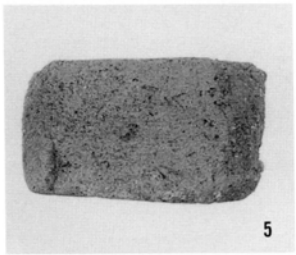

11

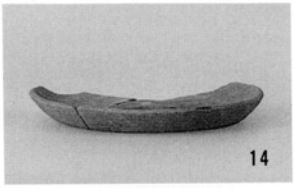

12

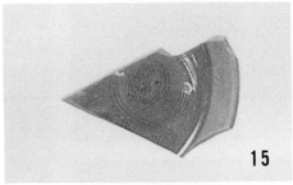
3

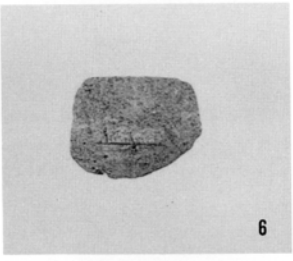

4

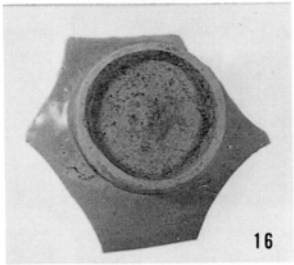

13

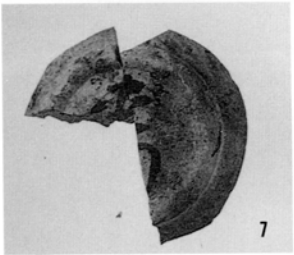

5


14

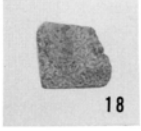

15


6


16

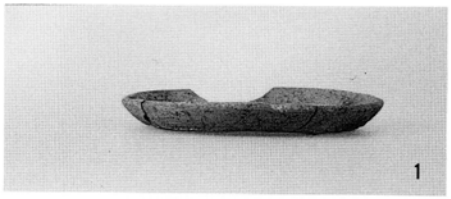

7

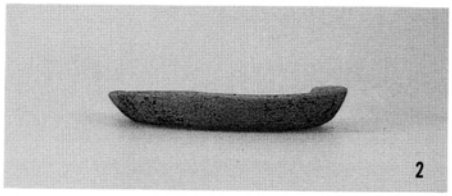
17

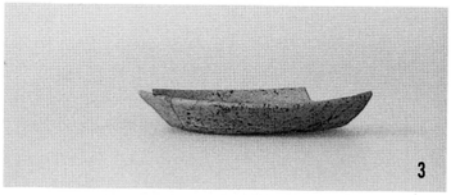

18

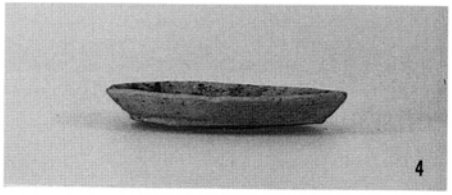
20

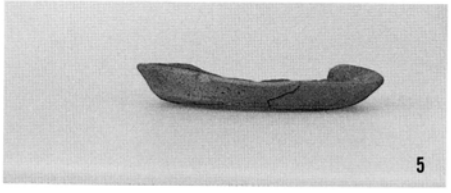
1～6・8～10・19…Ⅲ面包含層　7・16・18…1223号土壙　11～15・17・20…1221号土壙

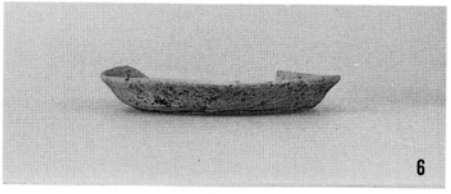

1


2

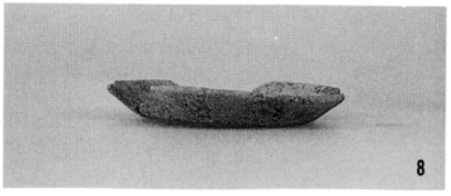

3

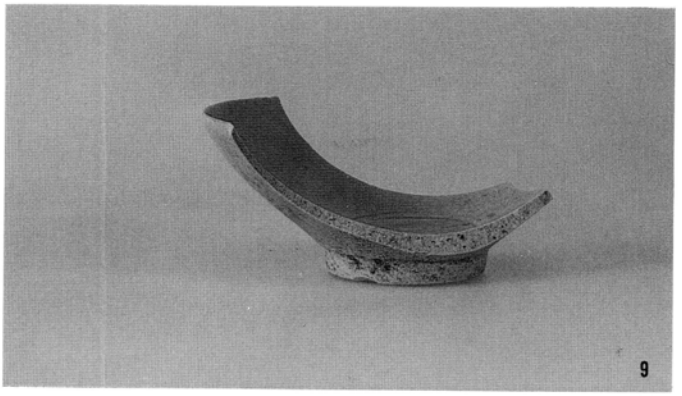

4

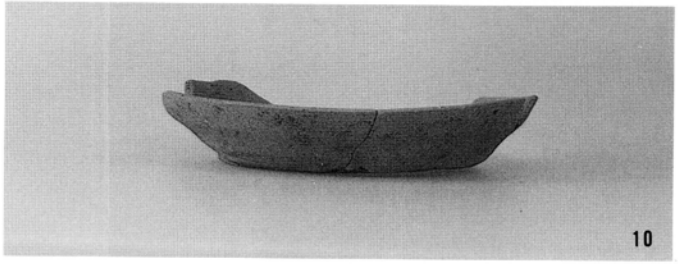

5

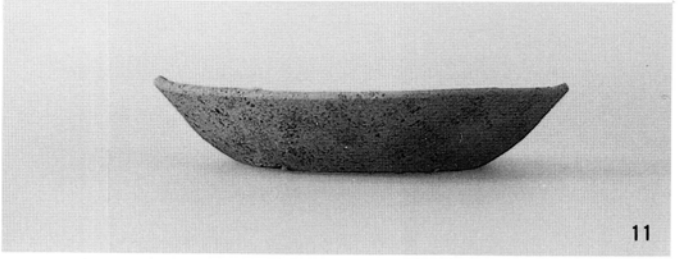

6

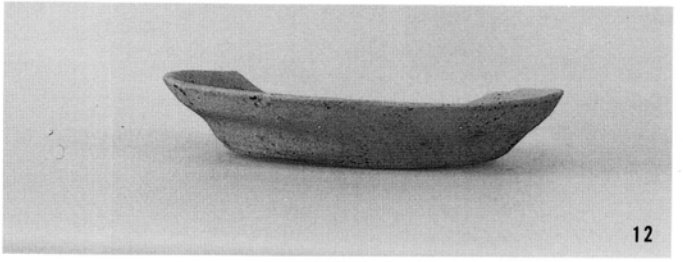
7

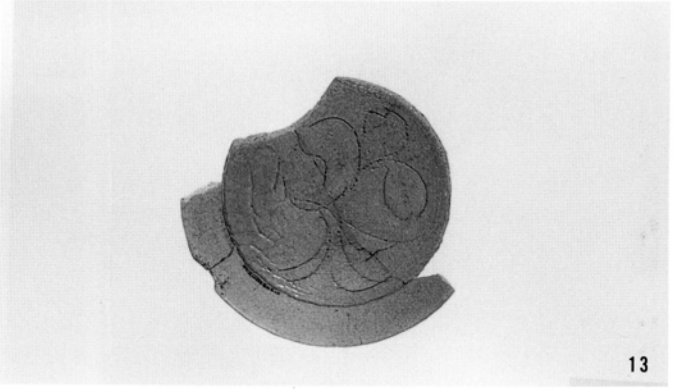

8


9

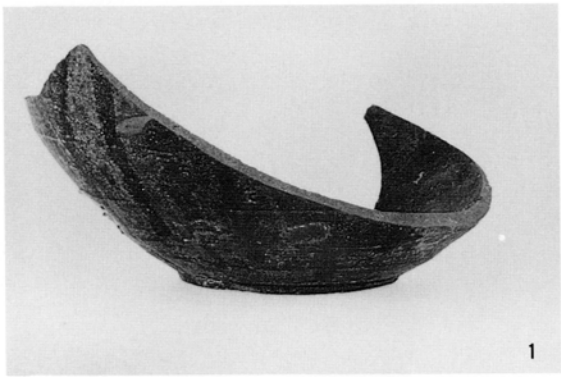

10

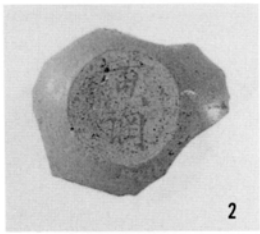

11


12


13

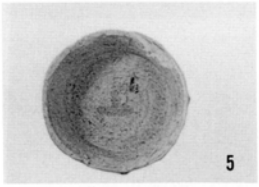
1～8・10～13…1227号土壙　　9…1224号土壙

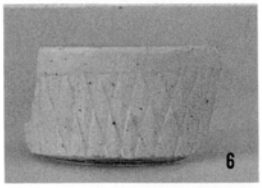

1

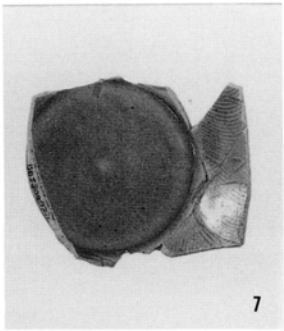

2

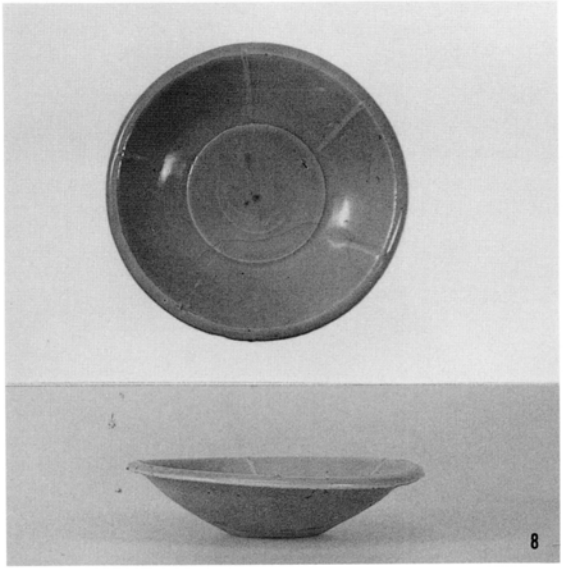
3

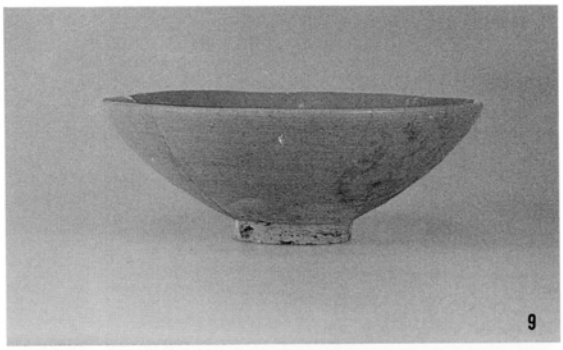
4

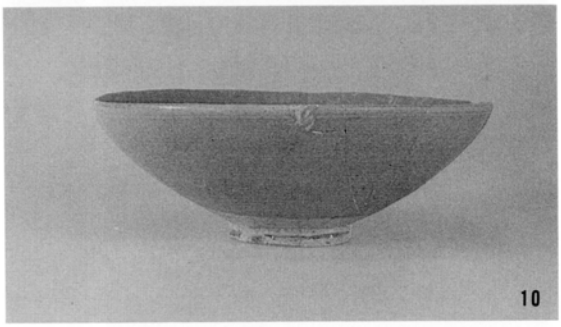

5

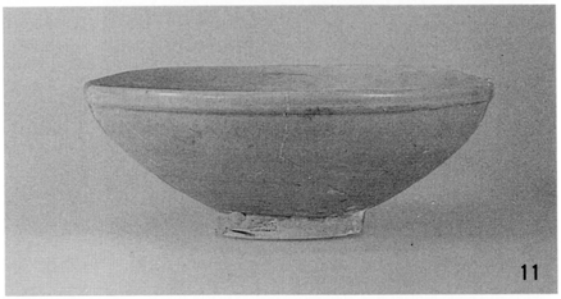

6

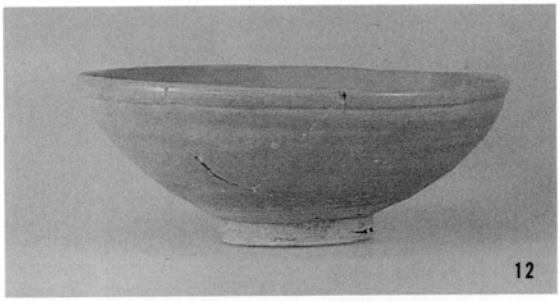

7

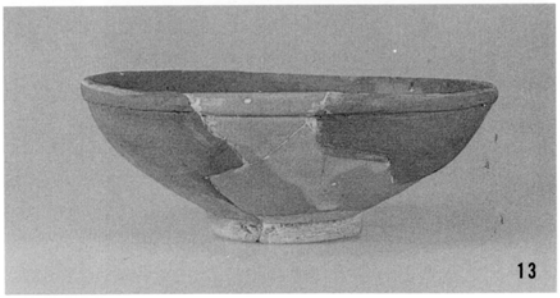

8


9

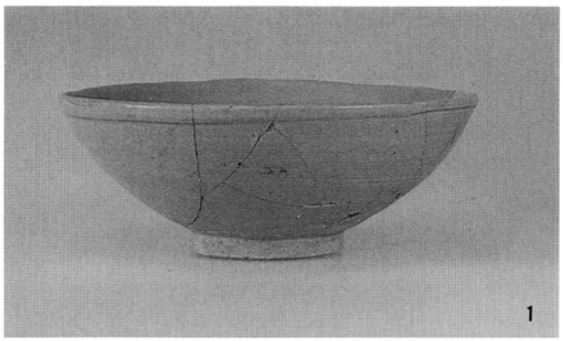

10


11


12


13

1…1227号土壙　2・3…1229号土壙　4・5…1234号土壙　6…1242号土壙　7…1236号土壙　8…1240号土壙
9～13…1243号土壙


1

6

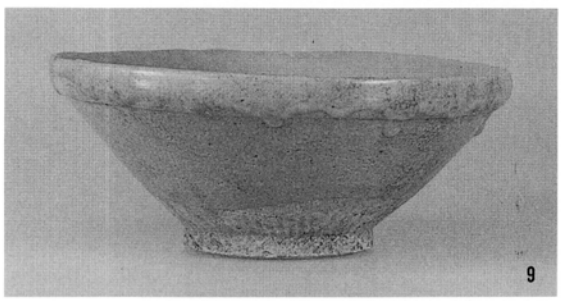
2

7

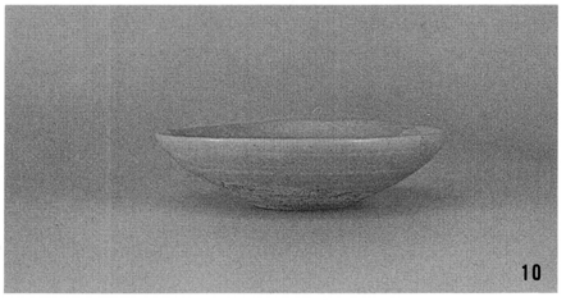
3

8

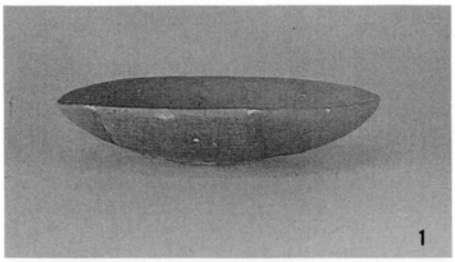
4

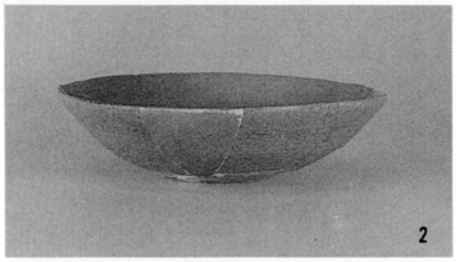

9

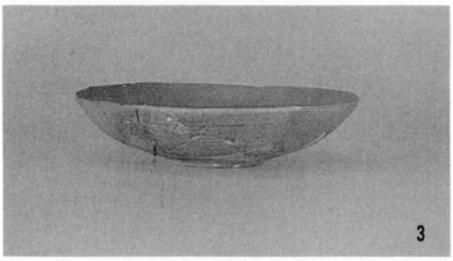
5

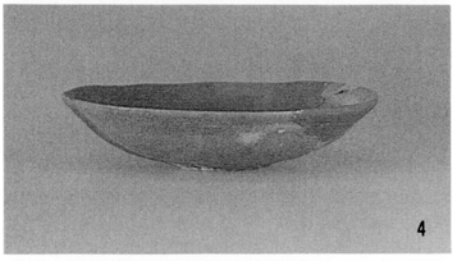

10

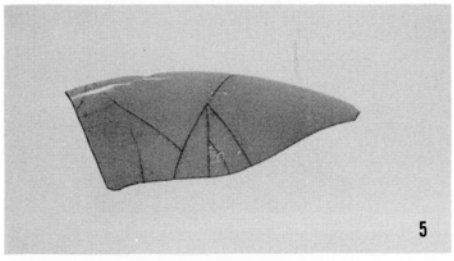
1～10…1243号土壙

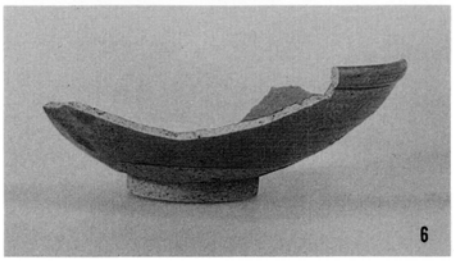

1


2

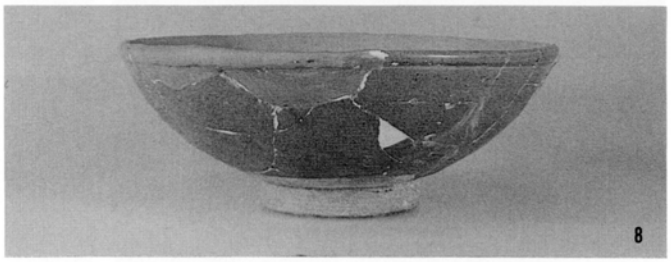

3


4


5


6

7

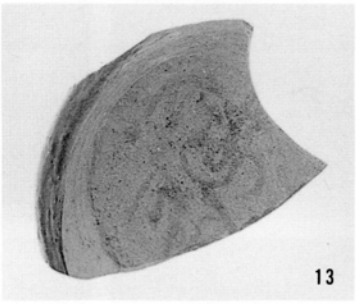

8

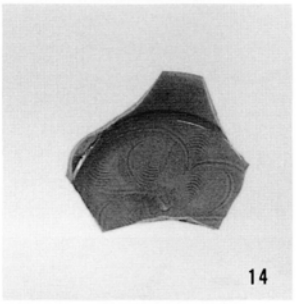
9

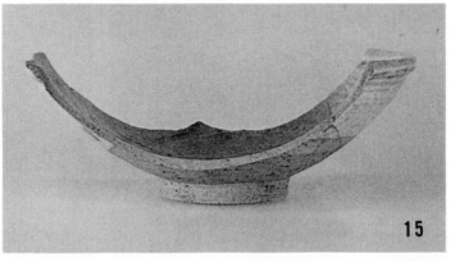
10

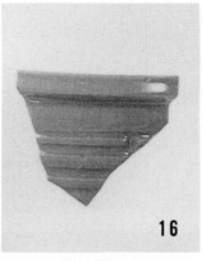
11

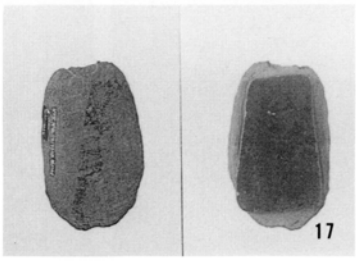
12


13


14

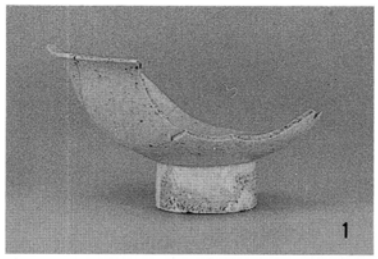

15

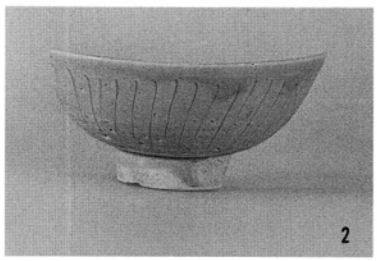

16

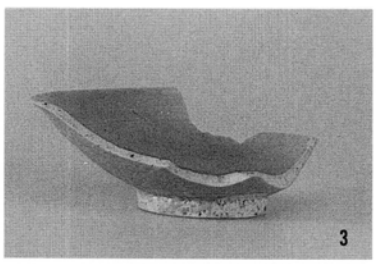

17

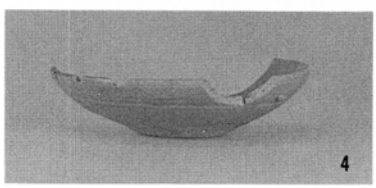
18

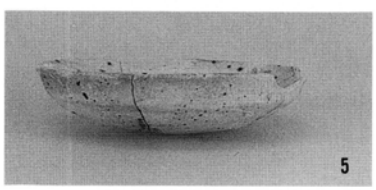
1～5・7・8…1143号土壙　6・9…1148号土壙　10～13・17…179号井戸　14…4158号ピット　15・16…4191号ピット
18…4259号ピット

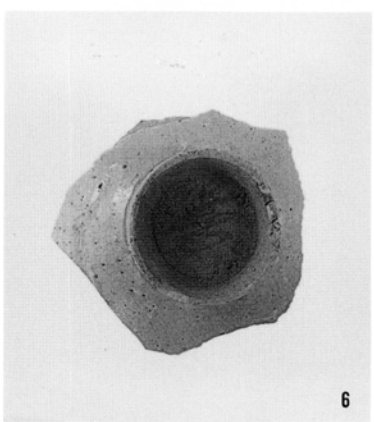

1

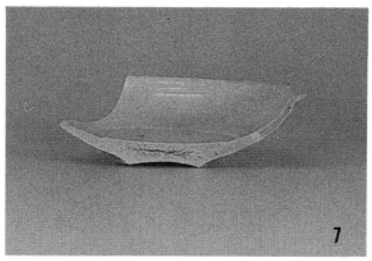

2

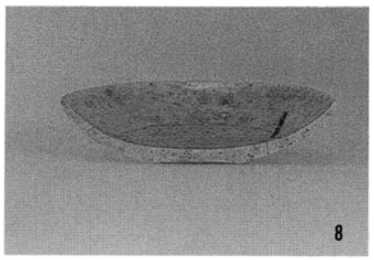

3

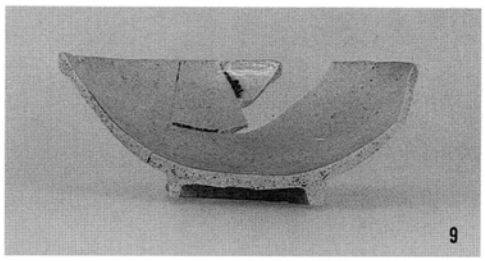

4

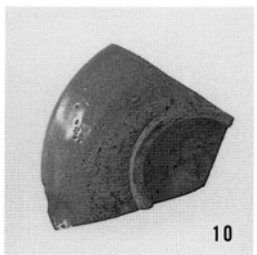

5

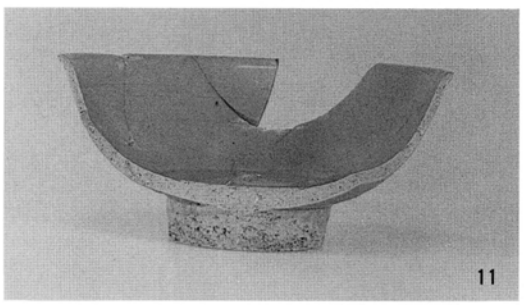

6

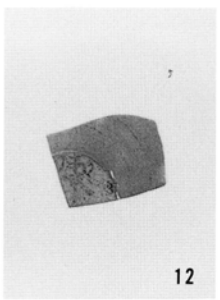

7


8

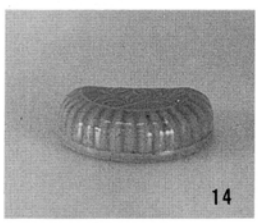

9

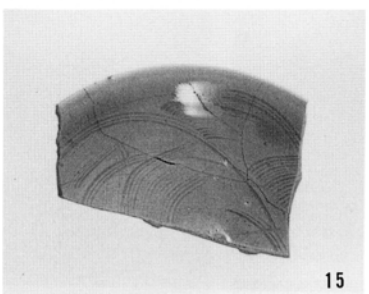

10


11

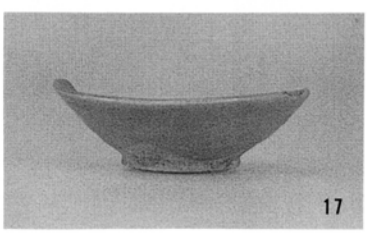

12

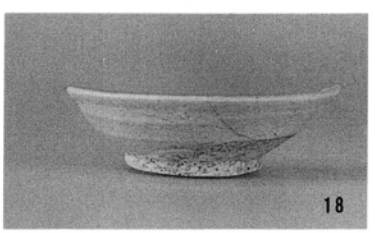
13


14


15

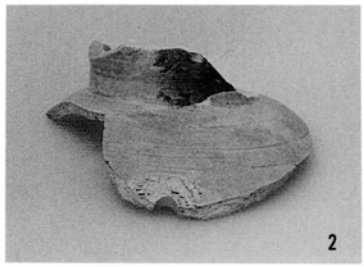
16

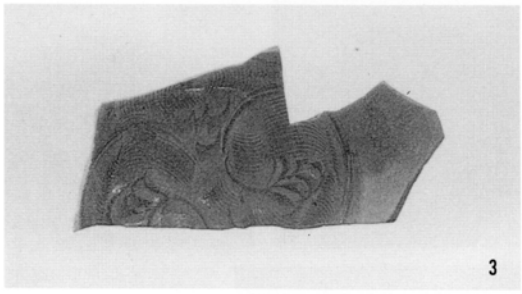

17

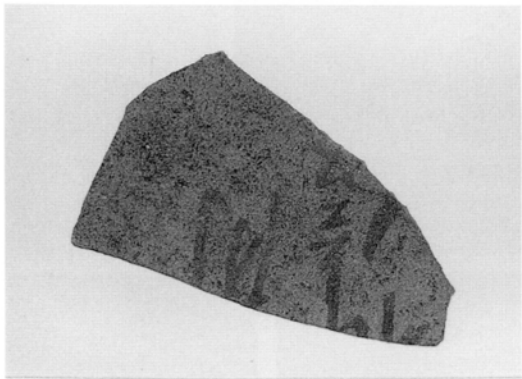

18

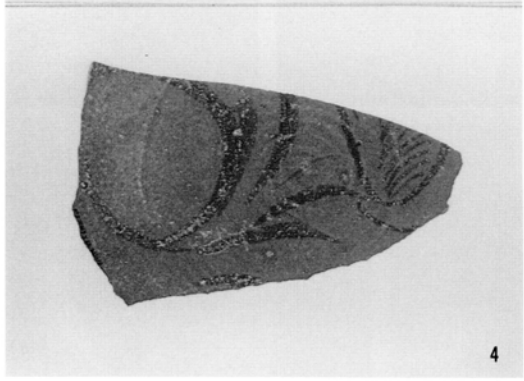
1～18…Ⅳ面包含層

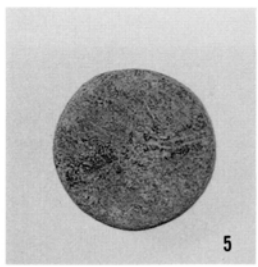
1

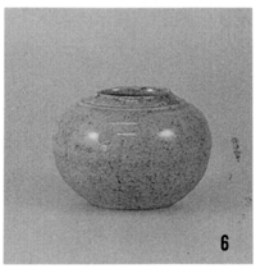

2

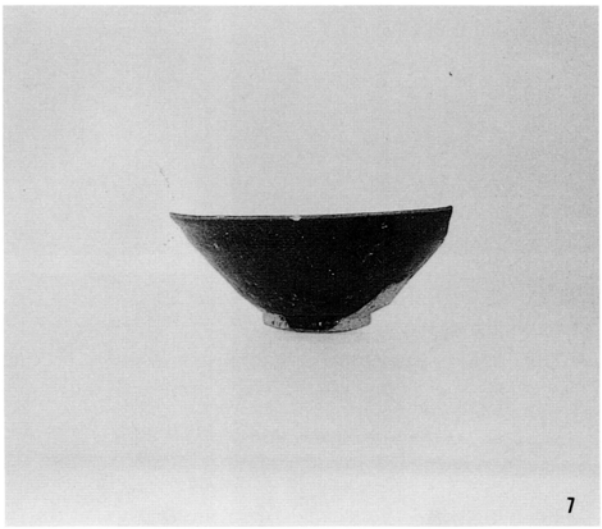

3


4


5

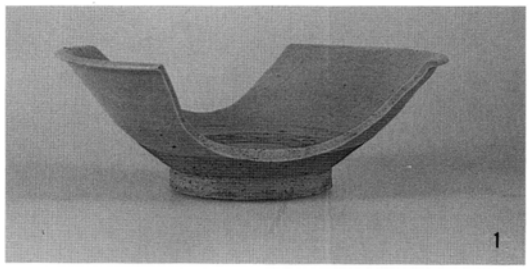

6

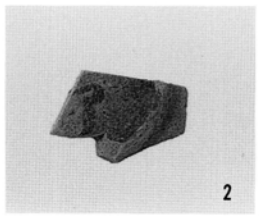

7

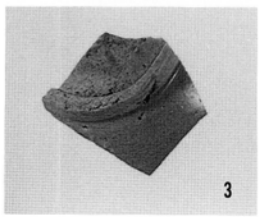

8

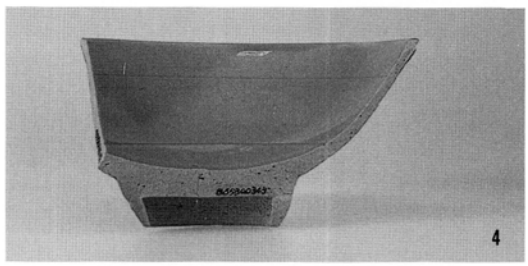
9

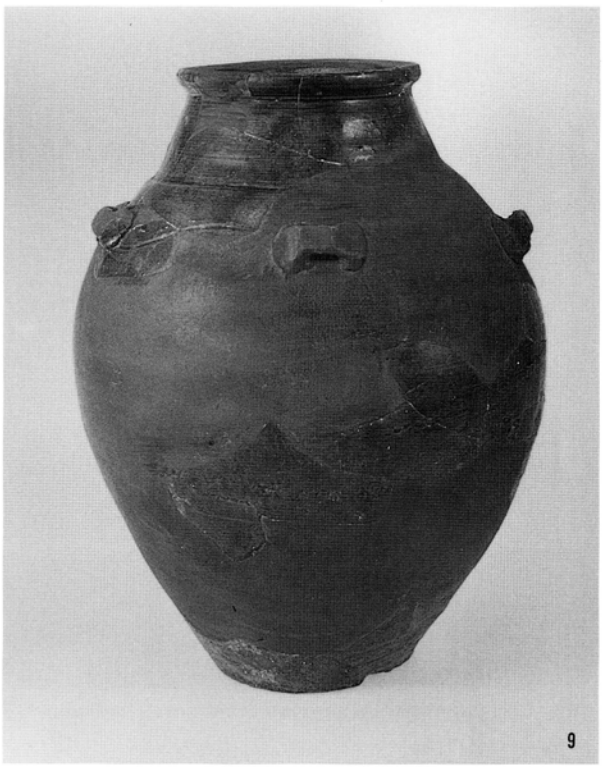
1～5・7Ⅳ面包含層　　6…1251号土壙　　8…1255号土壙　　9…1256号土壙

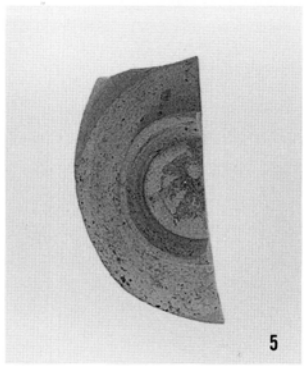

1

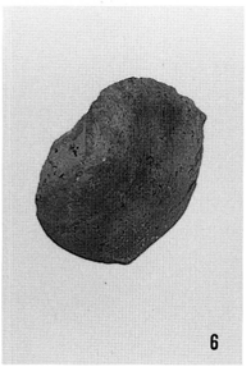

2

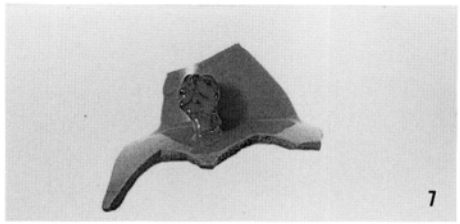

3

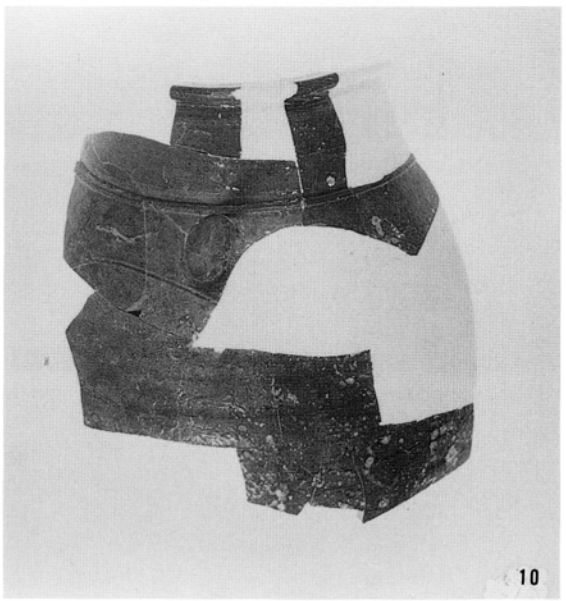

4


9

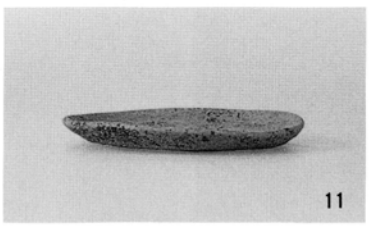

5

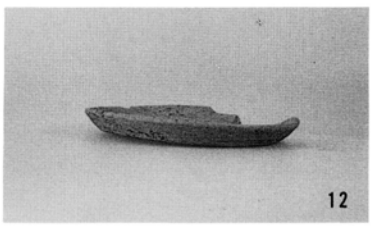

6


7


10

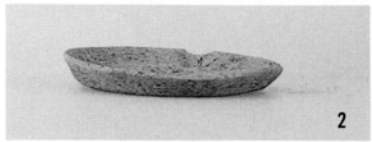
8

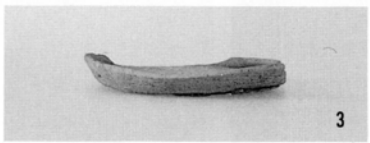

11


12

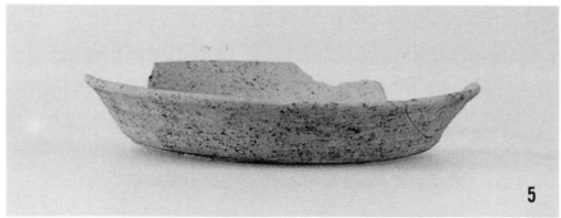
1～10…1256号土壙　　11・12…1259号土壙

1

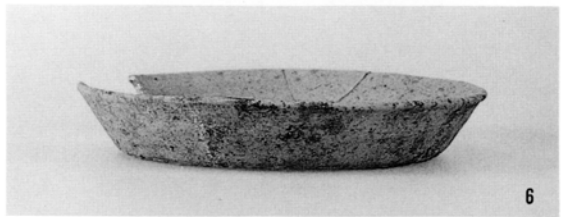

2


3

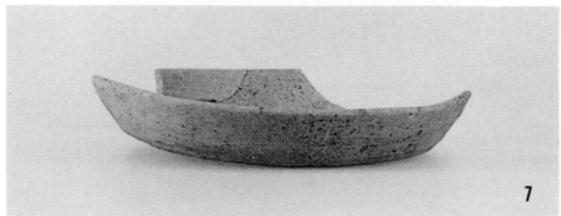
4


5

9


6

10


7

11

8

12

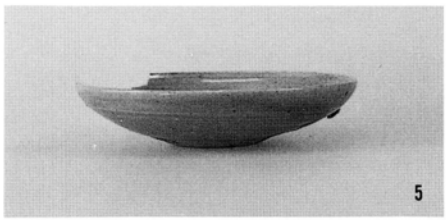
1…1256号土壙　　2～12…1259号土壙

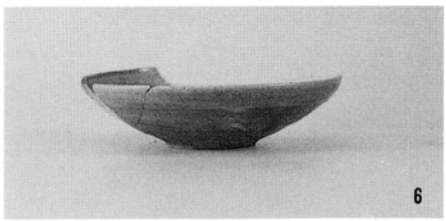
1

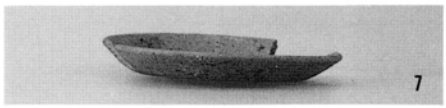
2

3

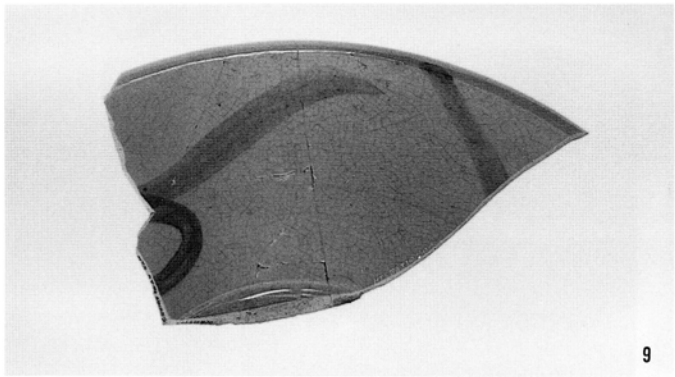
4


5

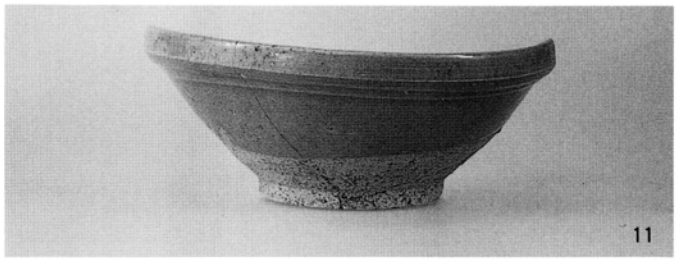

6

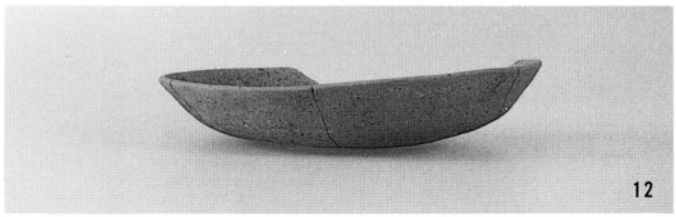

7

8


9

10


11


12

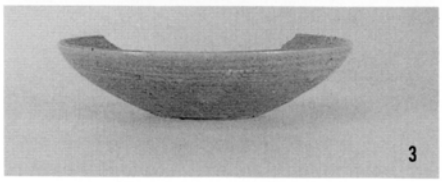
13

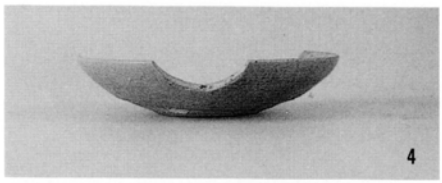
14

1・9…1259号土壙　　2～6・10・11…1261号土壙　　7・8・12～14…1262号土壙

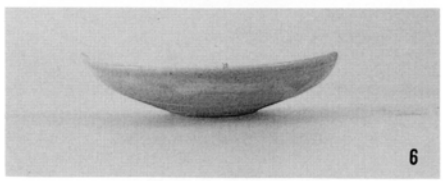
1

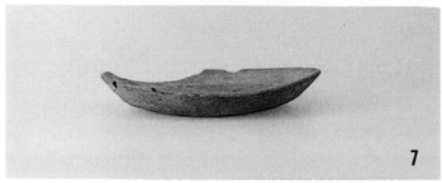
2

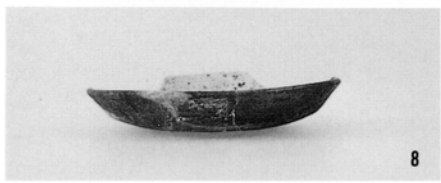

3


4

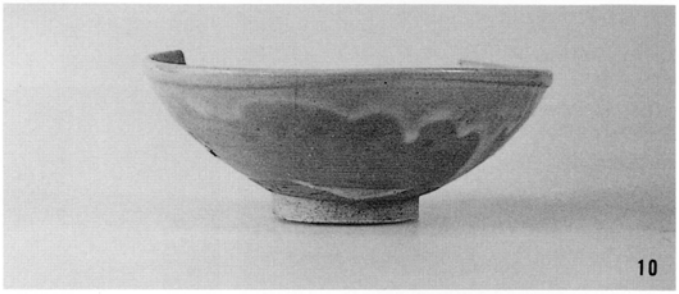
5


6

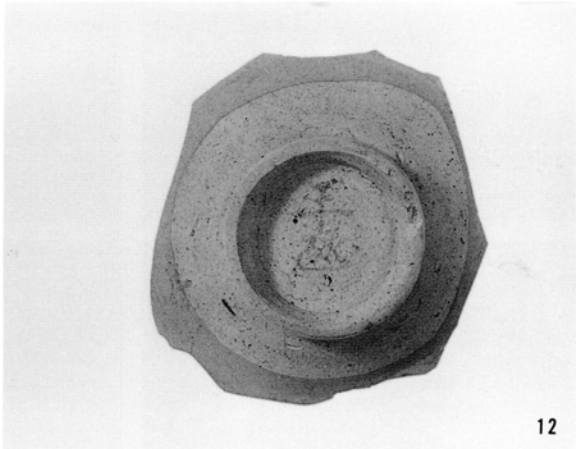

7


8

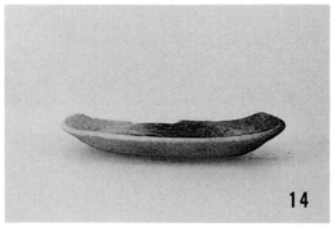
9


10

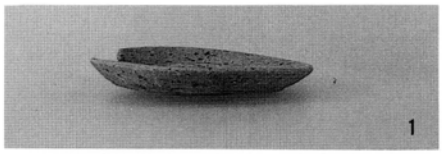
11


12

13

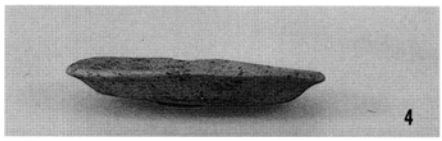

14

1～5・9～11…1262号土壙　　6…1264号土壙　　7・8・12…1265号土壙　　13・14…1301号土壙

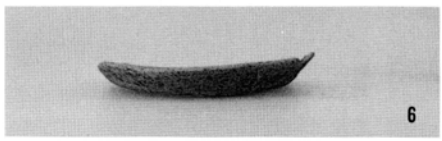

1

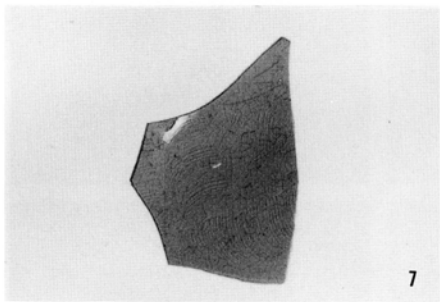
2

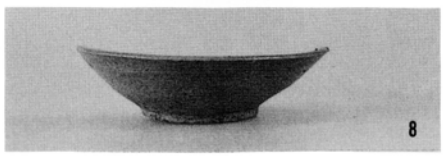
3


4

5


6


7

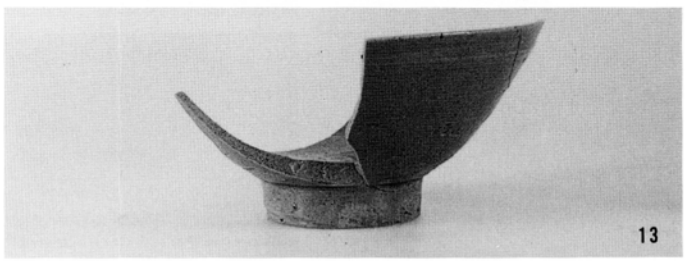

8

9

10

11

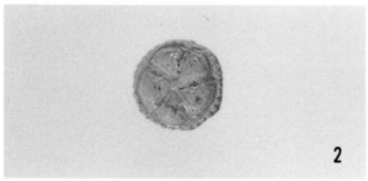
12

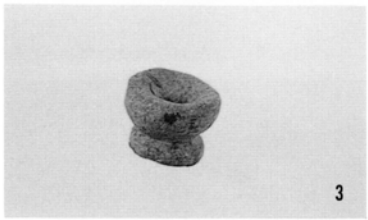

13

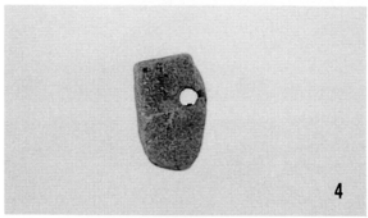
14

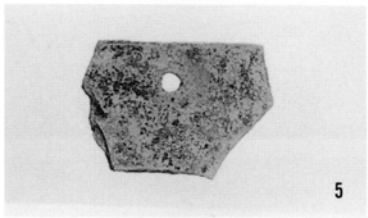
1～3・9…1301号土壙　　4～8・10～14…180号井戸

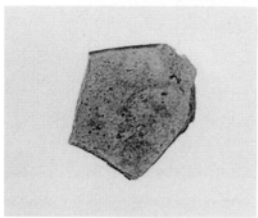
1

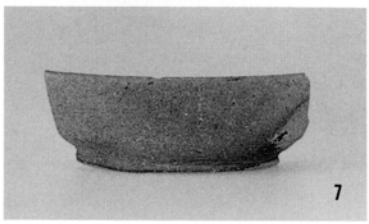

2

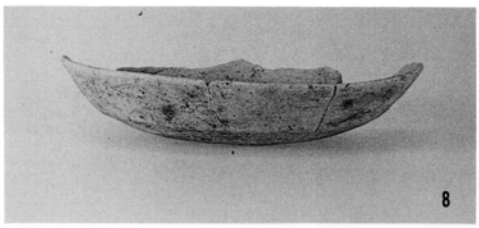

3

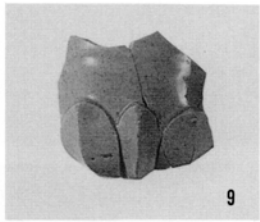

4


5

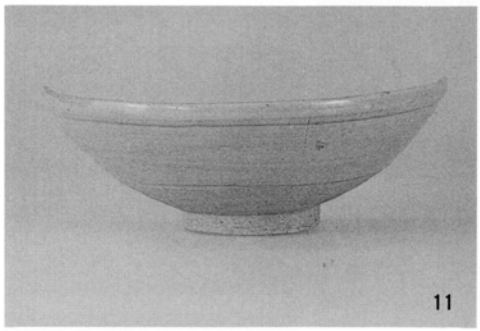

6

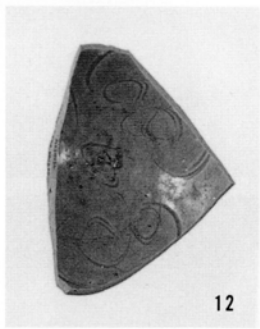

7


8

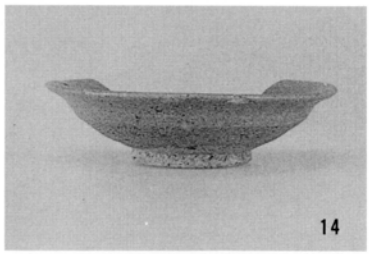

9

10

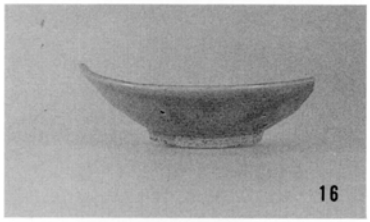

11

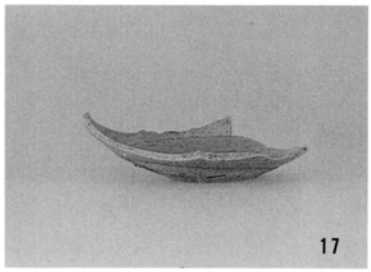

12

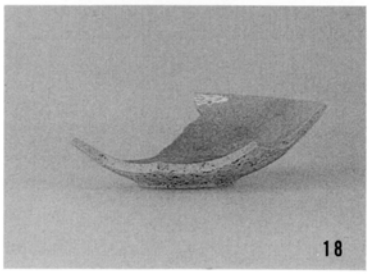
13


14

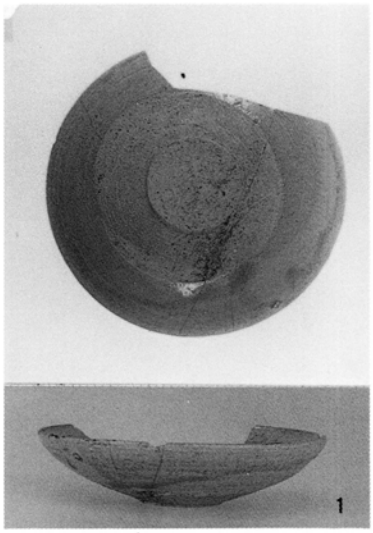
15

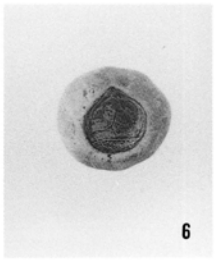

16

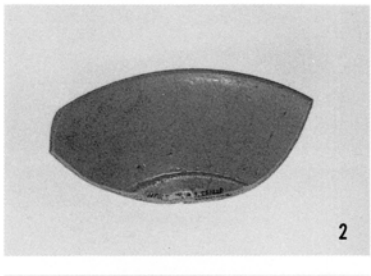
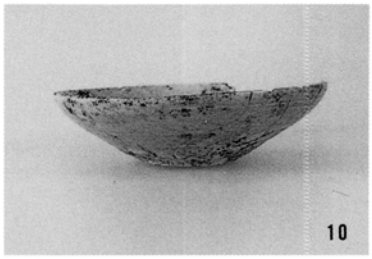

17

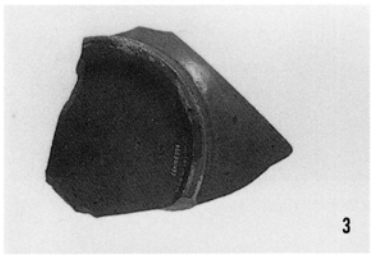
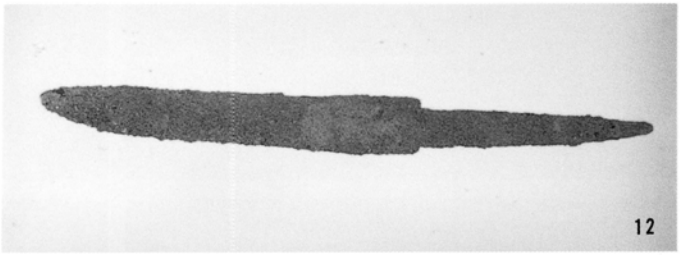

18

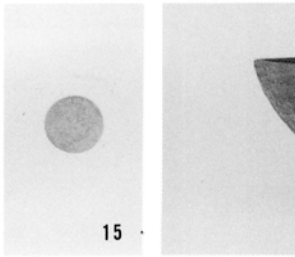
1…180号井戸　2～4…181号井戸　5…4297号ピット　6・7・9～18…Ⅴ面包含層　8…4390号ピット



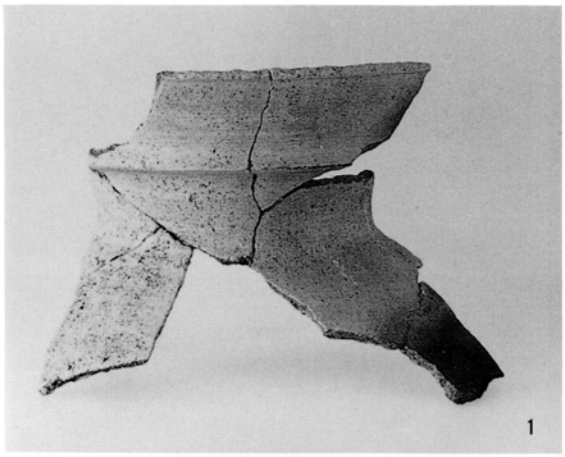


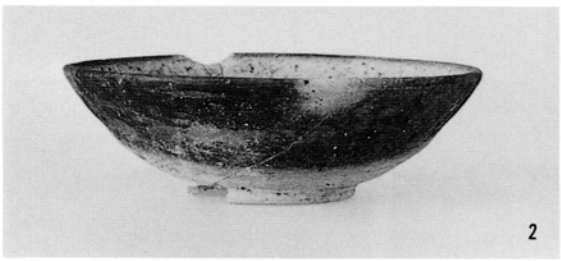





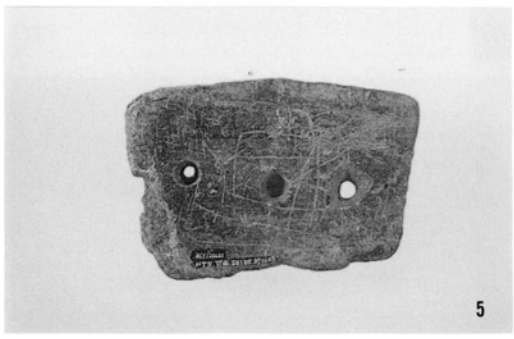
1～8…V面包含層　9…183号井戸　10…1285号土壙　11～15…184号井戸　16…185号井戸

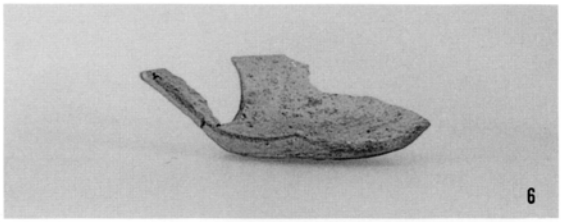

1

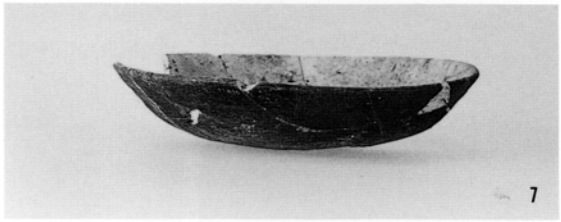

2

3

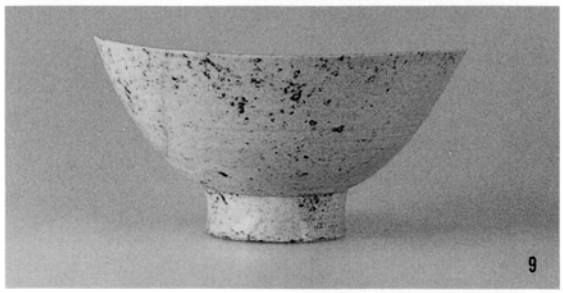
4

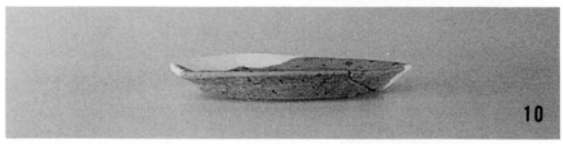

5

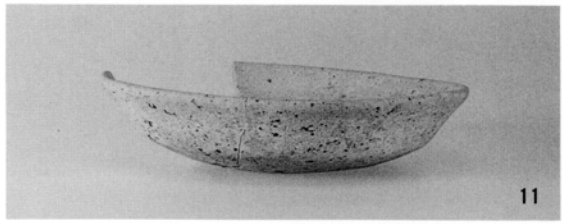

6


7

8

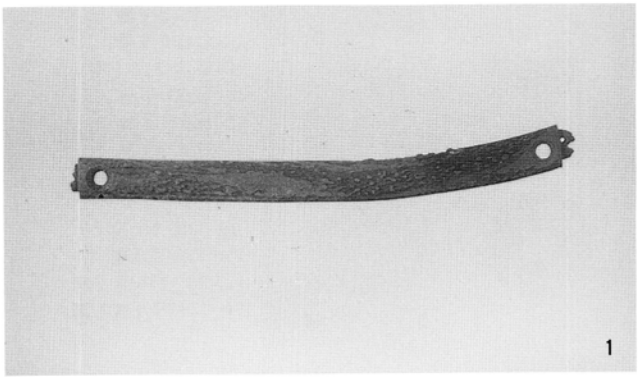

9


10

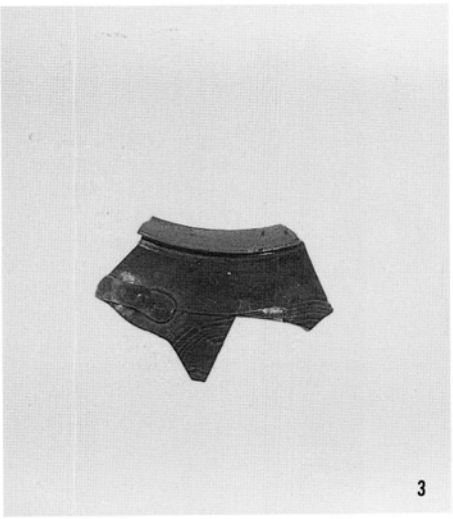

11

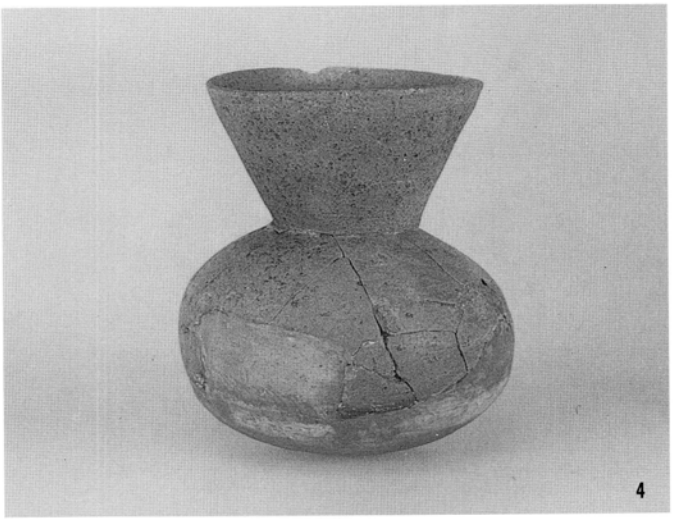
12

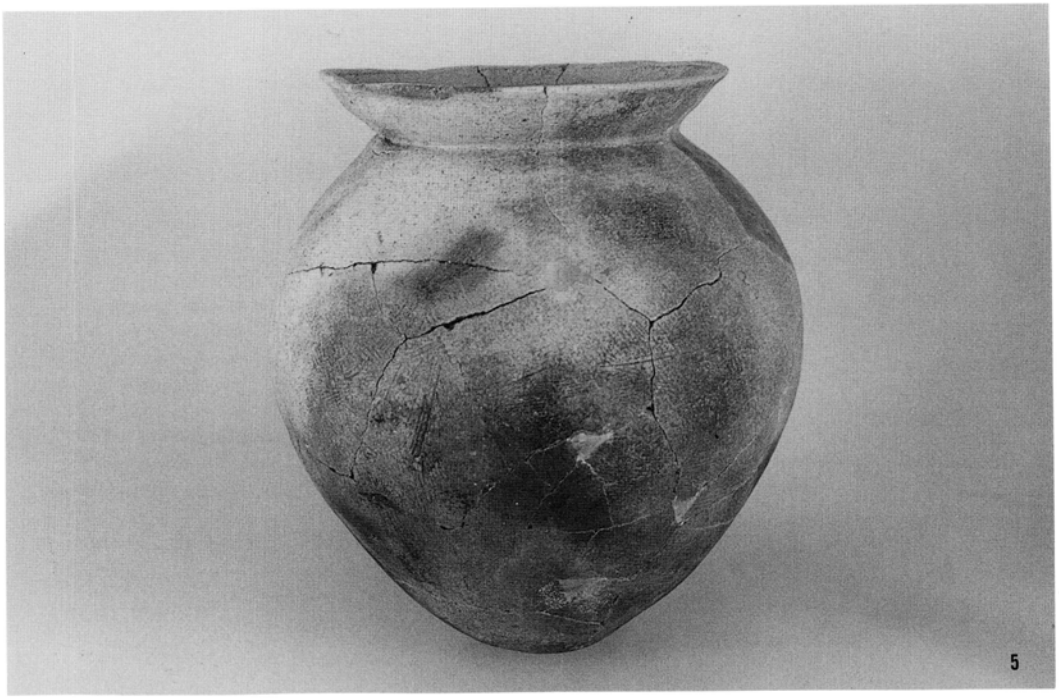
1～5…185号井戸　　6～9…186号井戸　　10・11…4549号ピット　　12…4729号ピット


1

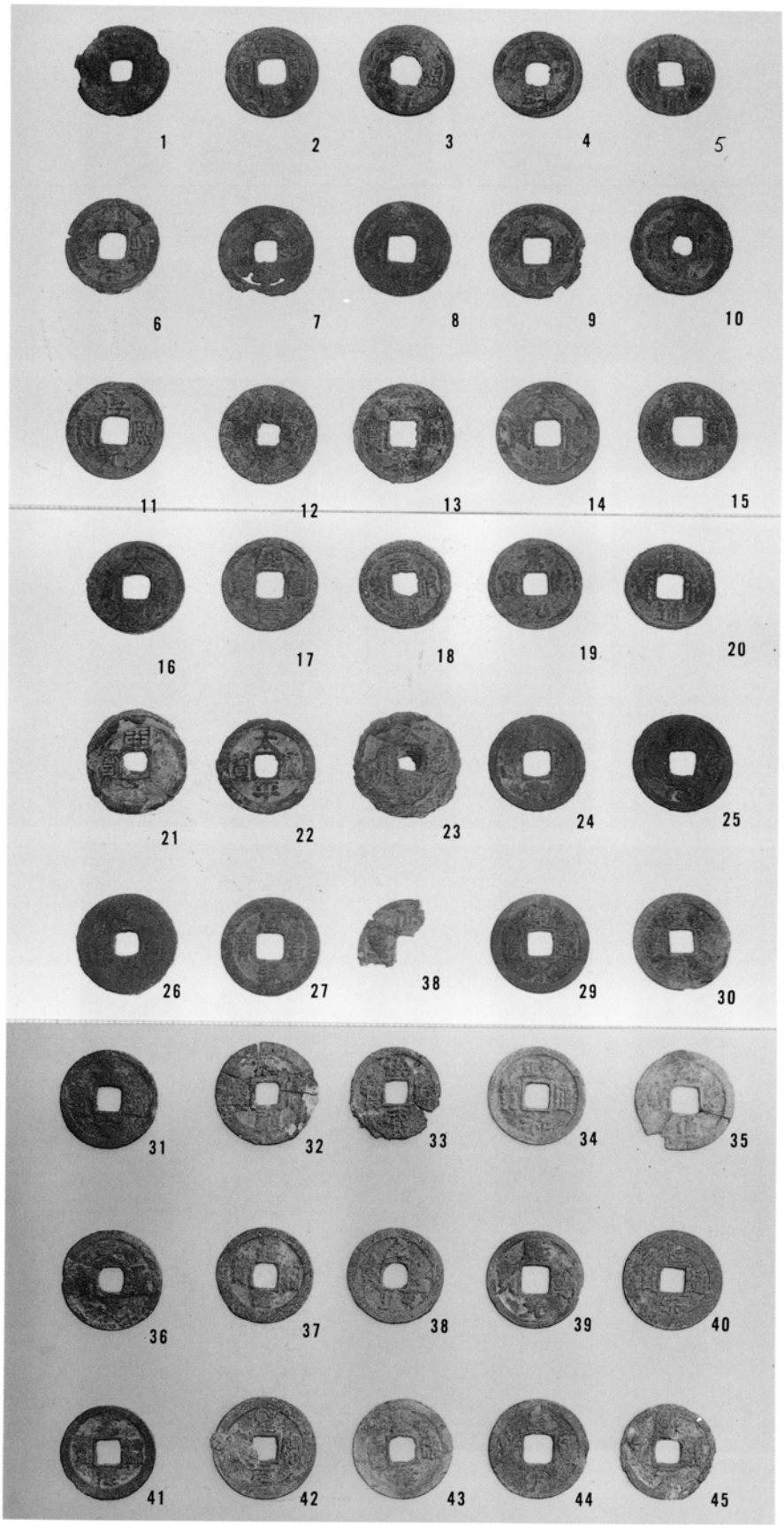
2


3


4


5

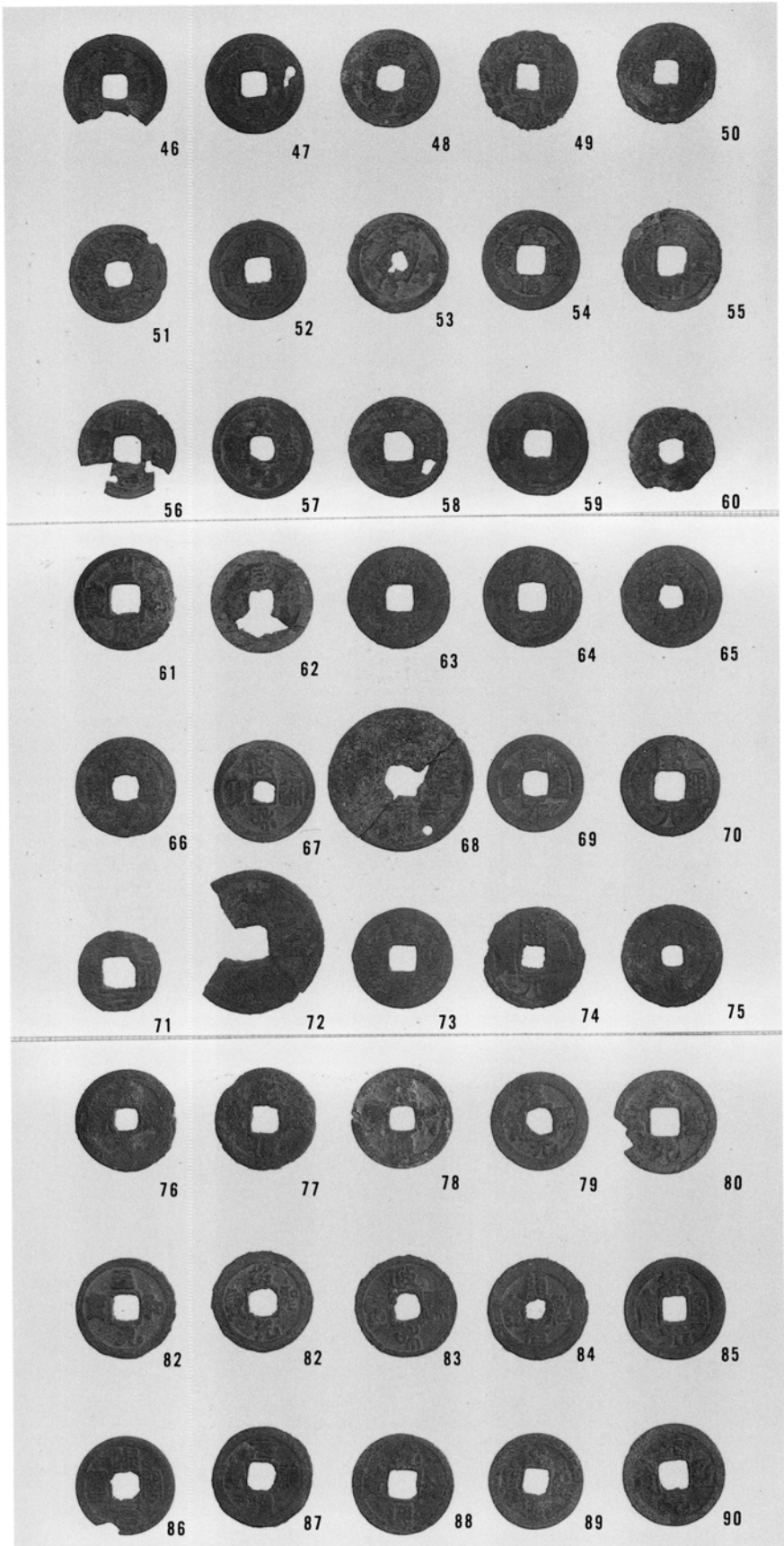
1…184号井戸　　2・3…4549号ピット　　4・5…1299号土壙



1…1119号土壙
2…1121号土壙
3・4…1123号土壙
5…1128号土壙
6…1130号土壙
7…1137号土壙
8…1158号土壙
9…1159号土壙
10…1163号土壙
11…1170号土壙
12・13…1178号土壙
14…1182号土壙北側

15～18…1182号土壙南側
19・20…1182号土壙東側
21～26…1184号土壙
27…1212号土壙
28…1229号土壙
29…153号井戸
30…163号井戸

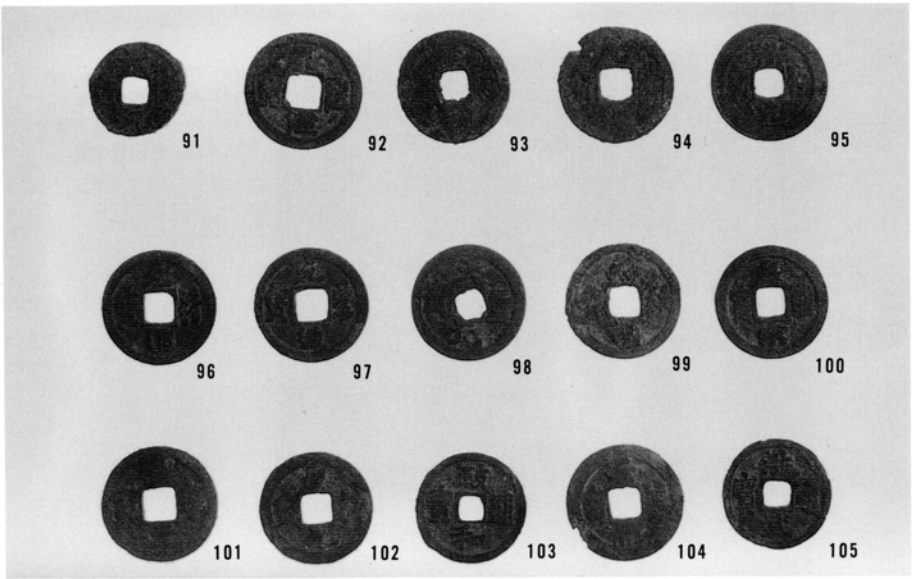
31…170号井戸
32…171号井戸西側
33…1137号土壙
34・35…174号井戸
36・37…175号井戸
38…20号溝
39…3881号ピット
40…3966号ピット
41…3981号ピット
42…4035号ピット
43～45…4055号ピット



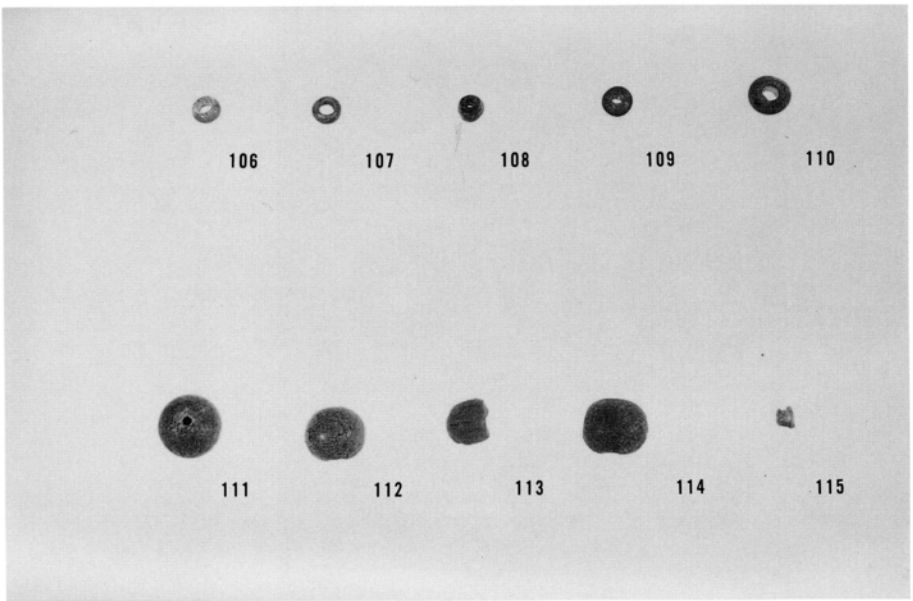
46…4058号ピット
47・48…Ⅰ面包含層
49～55…Ⅰ面下包含層
56～60…Ⅱ面包含層

61～90…Ⅱ面下包含層

PL.60

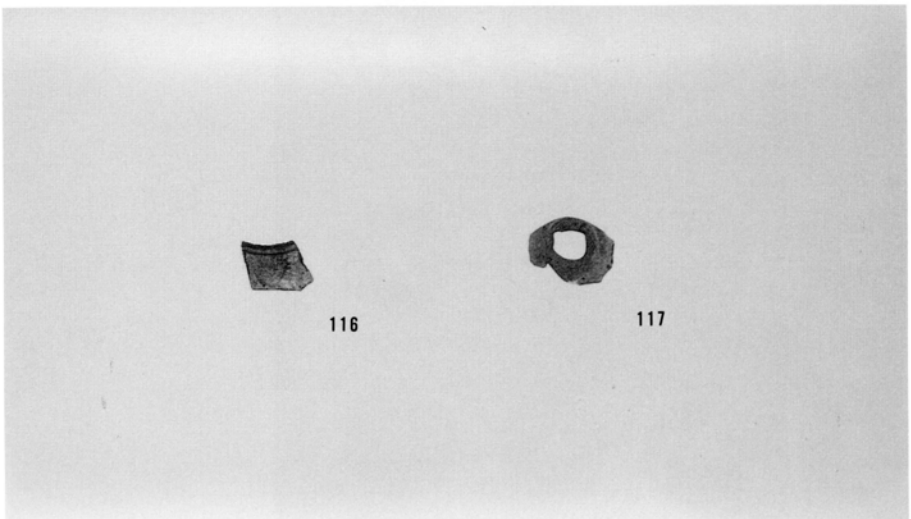


91～99…II面下包含層
100・101…III面包含層
102・103…III面下包含層
104…IV面包含層
105…IV面下北壁



106…II面包含層
107…V面下包含層
108…IV面包含層
109…IV面下包含層
110…III面下包含層

111…I面包含層
112…IV面下包含層
113…2387号ピット
114…1237号土壙
115…166号井戸



116…V面包含層
117…IV面包含層

都市計画道路博多駅築港線関係
埋蔵文化財調査報告V

博 多

1990

発行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8-1

印刷　株式会社 玉川印刷所
福岡市中央区清川3丁目18番11号